



Research Survey Reports in Information Studies, The University of Tokyo

No.36

2020

CONTENTS

The Problems of Long-term Refugees from the Nuclear Disaster after the Accident at TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: The Second Survey on the Condition of Residents of Futaba-Area in 2017	(TAMBA, Fuminori SATO, Keiichi SATO, Tatsuya SHIMIZU, Akinori SEKIYA, Naoya HIROI, U YOKEMOTO, Masafumi YASUMOTO, Shinya) 1
The Current Situation of Tsunami Countermeasures by Local Governments in Fishing Ports	(YASUMOTO, Shinya SEKIYA, Naoya TANAKA, Atsushi) 67
Social Responses to "Information Relating to the Nankai Trough Earthquake": A Questionnaire Survey for Former Residents of Shizuoka and Kouchi City	(YASUMOTO, Shinya ISHIHAMA, Ryo MORINO, Shu SEKIYA, Naoya) 107
What Causes Internet Gaming Addiction?: The Current Situation and How to Escape from Dependency	(HASHIMOTO, Yoshiaki OHNO, Shiroh AMANO, Mihoko) 155
Child Care and Smartphones	(HASHIMOTO, Yoshiaki KUBOSUMI, Aya OHNO, Shiroh) 197
Technology Use While Parenting and Parent Screen Distraction	(KUBOSUMI, Aya HASHIMOTO, Yoshiaki) 243
Information Behavior of the Over Forties	(HASHIMOTO, Yoshiaki KATAGIRI, Keiko KIMURA, Tadamasa KORENAGA, Ron TSUJI, Daisuke MORI, Yasutoshi OGASAHARA, Morihiko KITAMURA, Satoshi KWAI, Daisuke OHNO, Shiroh) 263
A Survey on Users' Privacy Related Awareness and Behavior toward Terms of Service and Privacy Policies of Smartphone Applications	(SHINODA, Shiori HASHIMOTO, Yoshiaki AMANO, Mihoko HORIKAWA, Yusuke MAGATA, Fumihiko FUJIMURA, Akiko) 321
Internet and Politics, Privacy and AI/Robots: The Survey Results of the 2018 World Internet Project in Japan	(OGASAHARA, Morihiko KIMURA, Tadamasa ISHII, Kenichi ENDO, Kaoru HASHIMOTO, Yoshiaki MIKAMI, Syunji) 375
A Survey on Information Behavior and Voting Behavior in the 2019 House of Councillors Election	(NAGAHAMA, Ken, OGASAHARA, Morihiko KAWAI, Daisuke HASHIMOTO, Yoshiaki) 435

Interfaculty Initiative in Information Studies
The University of Tokyo

7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku

Tokyo JAPAN

情報学研究 調査研究編

36

東京大学大学院情報学環

東京大学大学院情報学環

情報学研究 調査研究編

Research Survey Reports in
Information Studies

Interfaculty Initiative in Information Studies
The University of Tokyo

2020 No. **36**

東京大学大学院情報学環

東京大学大学院情報学環

情報学研究 調査研究編

Research Survey Reports in
Information Studies

Interfaculty Initiative in Information Studies
The University of Tokyo

2020 No. **36**

東京大学大学院情報学環

Research Survey Reports in Information Studies
The University of Tokyo

No.36 目 次 (Contents)

東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態
－ 2017 年第 2 回双葉郡住民実態調査－

（丹波 史紀、佐藤 慶一
サトウタツヤ、清水 晶紀
関谷 直也、廣井 悠
除本 理史、安本 真也）…………… 1

自治体による漁港を中心とした漁業地域における津波対策の現状

（安本 真也、関谷 直也）…………… 67
田中 淳

南海トラフ地震および「南海トラフ地震に関連する情報」への対応
－ 静岡市と高知市の住民アンケート調査より－

（安本 真也、石濱 陵）…………… 107
森野 周、関谷 直也

ネットゲーム依存者の実態と脱却要因

（橋元 良明、大野 志郎）…………… 155
天野美穂子

育児とスマートフォン

（橋元 良明、久保隅 綾）…………… 197
大野 志郎

育児と母親の情報機器画面閲覧による干渉・妨害

（久保 隅 綾、橋元 良明）…………… 243

中高年齢層の情報行動

（橋元 良明、片桐 恵子）
木村 忠正、是永 論
辻 大介、森 康俊 …………… 263
小笠原盛浩、北村 智
河井 大介、大野 志郎

スマートフォンアプリでの利用規約・プライバシーポリシー接触と
プライバシー意識・行動の調査

（篠田 詩織、橋元 良明）
天野美穂子、堀川 裕介 …………… 321
間形 文彦、藤村 明子

インターネットと政治、プライバシー、AI／ロボット

－2018年ワールド・インターネット・プロジェクト日本チーム（JWIP）調査結果から－

（小笠原盛浩、木村 忠正）
石井 健一、遠藤 薫 …………… 375
橋元 良明、三上 俊治

2019年参議院議員選挙における投票行動と情報行動

（長濱 憲、小笠原盛浩）
河井 大介、橋元 良明 …………… 435

東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態
—2017年第2回双葉郡住民実態調査—

The Problems of Long-term Refugees from the Nuclear Disaster after the
Accident at TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station
: The Second Survey on the Condition of Residents of Futaba-Area in 2017

丹波 史紀 Fuminori TAMBA	佐藤 慶一 Keiichi SATO
サトウ タツヤ Tatsuya SATO	清水 晶紀 Akinori SHIMIZU
関谷 直也 Noaya SEKIYA	廣井 悠 U HIROI
除本 理史 Masafumi YOKEMOTO	安本 真也 ShinyaYASUMOTO

目 次

- 0. はじめに
- 1. デモグラフィック要因
 - 1.1 自治体別の回答数
 - 1.2 性別
 - 1.3 年齢
- 2. 仕事
 - 2.1 職業上の地位
 - 2.2 業種
 - 2.3 同居していた人の人数
 - 2.4 同居していた人の現状
 - 2.5 現在の世帯の状況
- 3. 住居
 - 3.1 震災時の住まい
 - 3.2 震災時の住まいの避難区域
 - 3.3 震災時の住まいの線量
 - 3.4 現在の住まいの種類
 - 3.5 現在の住まい（震災時の場所か）
 - 3.6 震災時の住まいの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）
 - 3.7 震災時の住まいへの通いの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）
 - 3.8 現在の住まい（福島県内か県外か）

- 3.9 帰還意向
 - 3.10 住まいの修理や再建の状況（震災時の場所に住んでいる回答を対象）
 - 4. 健康
 - 4.1 健康状態
 - 4.2 精神的健康状態
 - 5. 賠償
 - 5.1 現在の生活のやりくり
 - 5.2 経済的不安
 - 5.3 医療費等の減免措置がなくなることへの不安
 - 5.4 賠償終了に対する不安
 - 5.5 賠償に関する困りごと
 - 6 .生活
 - 6.1 現在の生活で困っていること
 - 6.2 生活時間の変化
 - 6.3 心配事を聞いてくれた人の存在
 - 6.4 行政やメディアへの信頼度
 - 7 復興観
 - 7.1 復興に関する不安感
 - 7.2 今後の見通し
- 付属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：東京電力福島第一原子力発電所事故、原子力災害、放射線、長期避難、悉皆意向調査

執筆分担：

丹波 史紀（立命館大学 産業社会学部・東京大学 大学院情報学環）	0. ～2.2
佐藤 慶一（専修大学 ネットワーク情報学部）	3.4 ～4.
サトウ タツヤ（立命館大学総合心理学部）	
清水 晶紀（福島大学 行政政策学類）	0. ～2.2
関谷 直也（東京大学 大学院情報学環総合防災情報研究センター）	7.
廣井 悠（東京大学 大学院工学系研究科）	2.3 ～ 3.3
除本 理史（大阪市立大学 大学院経営学研究科）	5.
安本 真也（東京大学大学院学際情報学府 博士後期課程）	6.

0. はじめに

2011年東日本大震災において、東日本の地域は甚大な被害を受けた。とりわけ、福島県では、地震・津波に伴い発生した東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が大きく、広域の放射能汚染とそれに伴う広域・長期避難という、自然災害とは異なる原子力災害の特徴が浮き彫りになった。

すなわち、広域の放射能汚染は、都道府県をもまたぐ広域的な避難を生みだした。具体的には、原子力災害法制の下で避難指示が出された区域の市町村においては、市町村単位で避難先市町村を確保しているが、その場合にも、埼玉県加須市へと避難した双葉町のように、県外への集団的避難が発生している。加えて、個人単位では、各自の判断で全国各地へと避難している。さらには、避難指示が出されていない区域の市町村からも、放射能汚染への不安や避難指示基準への不信から、全国各地へ避難を決断する住民が続出した。

また、放射能汚染の長期化に伴い、様々な問題が顕在化した。第一に、長期避難の現実化による住宅や就労の問題、さらには、個人・家庭・地域の生活環境の変化である。避難期間の終期を見通せない避難者にとっては、避難生活中の住宅や就労先の確保は喫緊の課題であり、避難の長期化に伴い、個人の精神状態の悪化、家庭内の不和、地域コミュニティの消滅といった問題が発生している。第二に、放射能汚染に伴う健康や福祉の問題である。避難者の場合には、初期被ばくや避難生活に伴う心身不調の問題、避難指示が出されていない区域の居住者・帰還者の場合には、初期被ばくやその後の低線量被ばく、汚染地域での生活に伴う心身不調の問題が発生している。第三に、放射能汚染に伴う第一次産業の実害や風評被害の問題である。福島県ないし隣接県産品から放射性物質が検出され、その一部が出荷制限となったこともあり、市場に流通している福島県ないし隣接県産品に対しても、消費者の買い控え、価格下落が発生し、現在に至るまでその傾向は続いている。

以上のような原子力災害の実態を踏まえ、本稿の執筆メンバーは、東京電力福島第一原子力発電所の周辺の福島県双葉郡の住民を対象に、二回にわたる悉皆調査を実施し、原子力災害の住民生活への影響と住民の生活実態の変遷とを明らかにしようとしてきた。双葉郡は、原子力災害法制に基づく避難指示が全域に発出された地域であり、広野町・楢葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村の8町村から構成されている。その全域の住民に対して悉皆調査を実施した例は他になく、避難を余儀なくされた被災者の実態を把握する上で、二回の調査の資料的価値は非常に高いものと思われる。

今回、本稿においては、2017年2月に実施した第2回調査の結果を整理し、2011年9月に行った第1回調査¹との比較を念頭に、事故から6年後の被災者の実態を分析することに

¹ 福島大学災害復興研究所編：平成23年度 双葉8か町村災害復興実態調査基礎集計報告書（第2版）、2012年2月14日、を参照されたい

したい。第2回調査の時点では、一部地域の避難指示が解除され、川内村・葛尾村・楡葉町では住民の帰還が始まっている。そのため、調査結果の分析を通じて、避難指示の継続地域と解除地域が混在する中での被災者の実態を明らかにすることができよう。加えて、本稿執筆時点である2020年1月現在でも、一部地域での避難指示は継続している。その意味では、調査結果の分析を通じて、現在の被災者の置かれた状況に対しても、有意義な視点を提供できよう。

なお、第2回調査に際しては、いくつかの留意点がある。まず、調査方法について、郵送調査法により実施していることである。調査対象住民のプライバシー保護の観点から、調査メンバーは個別住民の個人情報に触れず、調査実施に際しては双葉郡の地方自治体の協力により各自治体から調査票を発送した。次に、第1回調査とは調査対象者・発送数・回答数に違いがあることである。第1回調査では8町村すべての住民を対象に悉皆調査を行ったが、第2回調査では広野町を除く7町村の住民が対象となっている（調査した7町村の住民については悉皆調査）。そのため、第1回調査では、発送数28,184数、回答数13,576数（回収率48.2%）であったが、第2回調査では、発送数26,582数、回答数10,013数（回収率37.7%）であった。最後に、（事故当時の）住民基本台帳上の世帯ベースではなく、避難実態にあわせた世帯ベースで調査を実施していることである。双葉郡の住民は福島県内外に広域避難しており、第1回調査では、三世代以上で生活していた家族の48.9%が家族離散しているという実態が明らかになった。各地方自治体は、避難先での世帯分離が進んでいる実態に合わせ、分離された世帯総てに広報誌を発送している。第2回調査も、より避難実態に沿った課題を把握することを目的として、行政実務に沿う形で実施したため、その発送数は住民基本台帳上の世帯数よりも多くなっている。

・調査主体

福島大学うつしまふくしま未来支援センター

調査チームメンバー

丹波 史紀（立命館大学産業社会学部）

関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報センター）

佐藤 慶一（専修大学ネットワーク情報学部）

除本 理史（大阪市立大学大学院経営学研究科）

清水 晶紀（福島大学行政政策学類）

廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科）

サトウ タツヤ（立命館大学総合心理学部）

・調査票配布期間

2017年2月1日（水）から3月末

・調査票配布世帯数

1) 調査票配布数 26,582 票

2) 町村別の配布数

浪江町	6,916 票	双葉町	2,764 票	大熊町	4,487 票	富岡町	7,013 票
檜葉町	3,568 票	葛尾村	651 票	川内村	1,183 票		

・調査票配布方法

郵送調査（各町村協力のもと、対象全世帯に個別発送）

・調査票回収方法

郵送

・経費

三井物産株式会社環境基金「三井物産環境基金 2014年度 研究助成」

表 0.1 第 1 回調査と第 2 回調査の比較

	第 1 回調査 (2011 年 9 月実施)	第 2 回調査 (2017 年 2 月実施)
発送数	28,184	26,582
回答数	13,576	10,013
回収率	48.2%	37.7%

※表は町村事の発送数

1. デモグラフィック要因

1.1 自治体別の回答数

本調査の回答数は、総数 10,013 件（回答率 37.7%）であった。各自治体の回答数は、檜葉町 1108 (31.1%)、富岡町 2440 (34.8%)、川内村 314 (26.5%)、大熊町 1702 (37.9%)、双葉町 1020 (36.9%)、浪江町 3029 (43.8%)、葛尾村 238 (36.6%) である。双葉郡内の広野町については、協力が得られなかった所以对象とはしていない。

元の居住地と一緒に生活していた家族が、原子力災害による避難の影響を受け、避難先で世帯分離が進んだ。このことから、震災後各自治体は避難する住民への情報提供として、住民基本台帳に基づく世帯ベースではなく、避難実態にあわせて離散する世帯総てに広報誌を発送した。第1回双葉郡調査では、三世代以上で生活する家族の48.9%が家族離散している実態を示した。2011年から数年が経過したことから、原子力災害に伴う避難に加え、通常の人口変動（進学・就職・結婚・死別など）も進行していることから、第1回目と第2回目の調査の母数も一致していない。

なお、回収した調査票において、性、年齢、元の居住地全てが無回答・無効回答であるものについては無効票とした。

表 1.1.1 町村別の回収率

	発送数	回答数	回収率(%)
檜葉町	3568	1108	31.1
富岡町	7013	2440	34.8
川内村	1183	314	26.5
大熊町	4487	1702	37.9
双葉町	2764	1020	36.9
浪江町	6916	3029	43.8
葛尾村	651	238	36.6
合計	26582	10013	37.7

1.2 性別

回答者の男女比は、全体で見ると、男性 67.2%、女性 27.2%であった（無回答 5.6%）。各自治体別も同様の傾向であり、60 台後半から 70 台前半の割合であった。各自治体別の男女比は下記の通りである。

表 1.2.1 調査対象者の性別

	調査数 (N)	男性 (%)	女性 (%)	無回答 (%)
檜葉町	1108	64.5	30.2	5.2
富岡町	2440	65.2	29.8	5.0
川内村	314	70.4	24.8	4.8
大熊町	1702	65.7	28.3	6.0
双葉町	1020	68.4	26.0	5.6
浪江町	3029	69.7	24.7	5.6
葛尾村	238	69.3	22.3	8.4
全 体	10013	67.2	27.2	5.6

1.3 年齢

回答者の年齢については、全体についてみると、10～20代 1.4%、30代 5.8%、40代 10.1%、50代 16.0%、60代 31.1%、70代 21.4%、80代 11.4%、90代以上 1.7%、無回答 1.2%であった。最も多い世代は、60代であり、70代、50代と続く。全体を見ると、回答者の8割以上が50代以上であった。自治体で見ると川内村は50代以上で回答者の9割を越えている。

なお、第1回目の双葉郡調査では、10～20代 4.2%、30代 10.7%、40代 13.6%、50代 23.4%、60代 24.7%、70代以上 22.8%であった。2011年から6年ほどが経過したために、年齢層が相対的に高年齢になる傾向が見られた。

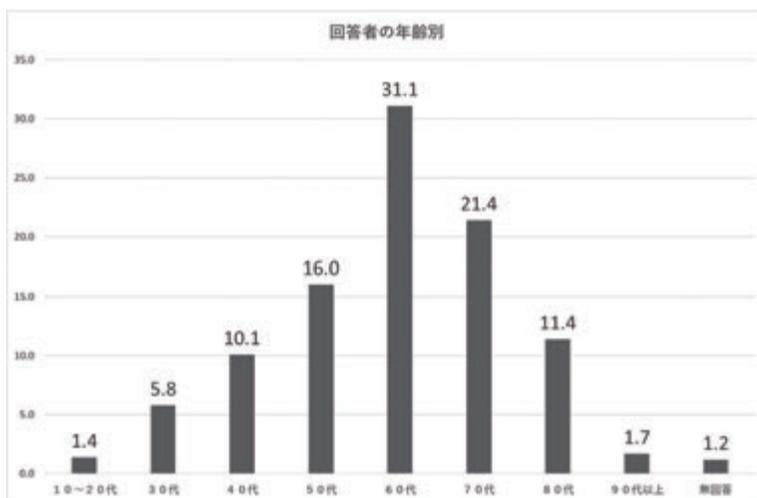


図 1.3.1 調査対象者の年代 (N=10013)

2. 仕事

2.1 職業上の地位

本調査では、震災前後の職業上の地位について聞いている。全体で見ると、「正規の職員・従業員」については震災前 36.5%、震災後 20.6%であった。「派遣社員」は震災前 1.0%、震災後 0.9%、「パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）」は震災前 8.2%、震災後 6.9%、「会社などの役員」は震災前 4.0%、震災後 3.2%、「自営業主（自由業を含む）」は震災前 14.3%、震災後 6.5%、「家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）」は震災前 4.8%、震災後 1.3%、「内職」は震災前 0.3%、震災後 0.7%、「無職（主婦・主夫を含む）」は震災前 28.3%、震災後 55.5%、「学生」は震災前 0.5%、震災後 0.2%、「無回答」は震災前 2.1%、震災後 4.1%であった。「正規の職員・従業員」は震災前後で 15.9 ポイント下がっていた。「自営業主（自由業を含む）」は 7.8 ポイント下がっていた。一方で「無職（主婦・主夫を含む）」については震災前後で 27.3 ポイントあがった。

表 2.1.1 震災前の職業上の地位

	調査数	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	会社などの役員	自営業主（自由業を含む）	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	内職	無職（主婦・主夫を含む）	学生	無回答
全体	10013	36.5%	1.0%	8.2%	4.0%	14.3%	4.8%	0.3%	28.3%	0.5%	2.1%
檜葉町	1108	35.6%	1.2%	10.5%	2.3%	11.7%	4.6%	0.4%	30.6%	1.2%	1.9%
富岡町	2440	41.2%	0.9%	7.5%	4.8%	11.6%	3.6%	0.3%	27.7%	1.0%	1.3%
川内村	314	27.1%	1.6%	5.7%	3.8%	17.5%	5.1%	0.6%	34.4%	0.3%	3.8%
大熊町	1702	41.8%	1.2%	9.6%	4.3%	10.7%	4.0%	0.4%	26.1%	0.4%	1.6%
双葉町	1020	36.5%	1.2%	7.4%	3.5%	14.8%	5.7%	0.4%	28.5%	-	2.1%
浪江町	3029	32.6%	0.9%	8.2%	4.1%	18.2%	5.3%	0.3%	28.1%	-	2.4%
葛尾村	238	23.9%	0.8%	4.6%	2.1%	21.8%	12.6%	-	28.6%	1.7%	3.8%

表 2.1.2 現在の職業上の地位

	調査数	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	会社などの役員	自営業主（自由業を含む）	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	内職	無職（主婦・主夫を含む）	学生	無回答
全体	10013	20.6%	0.9%	6.9%	3.2%	6.5%	1.3%	0.7%	55.5%	0.2%	4.1%
檜葉町	1108	21.8%	1.0%	8.3%	2.3%	7.4%	2.2%	0.5%	52.7%	0.5%	3.4%
富岡町	2440	23.5%	0.8%	7.5%	4.0%	5.5%	0.8%	0.7%	53.4%	0.3%	3.5%
川内村	314	15.6%	1.6%	9.2%	3.8%	12.7%	4.5%	0.3%	45.5%	0.3%	6.4%
大熊町	1702	24.1%	1.2%	6.4%	3.6%	4.8%	0.9%	0.6%	54.3%	0.2%	3.8%
双葉町	1020	19.5%	0.6%	5.9%	2.6%	5.1%	1.3%	0.9%	60.4%	-	3.7%
浪江町	3029	17.1%	0.8%	6.3%	3.1%	7.7%	1.1%	0.7%	58.7%	0.0%	4.5%
葛尾村	238	19.3%	2.1%	8.4%	1.3%	9.7%	3.4%	0.4%	50.8%	0.8%	3.8%

2.2 業種

次に、従事している仕事の業種である。これも震災前後で回答を求めている。

震災前の業種では、「農林漁業」12.0%、「建設業」20.7%、「製造業」9.0%、「電気・ガス・水道業」9.3%、「運輸・通信業」3.5%、「卸売・小売・飲食店」7.2%、「金融・保険

業」1.4%、「不動産業」0.6%、「サービス業」15.2%、「公務」8.3%、「その他」10.9%、「無回答」2.1%、であった。

震災後の業種では、「農林漁業」5.8%、「建設業」22.3%、「製造業」8.3%、「電気・ガス・水道業」10.8%、「運輸・通信業」3.5%、「卸売・小売・飲食店」5.9%、「金融・保険業」1.4%、「不動産業」1.3%、「サービス業」14.2%、「公務」10.6%、「その他」13.8%、「無回答」2.1%であった。

震災前後で比較すると、「農林漁業」が6.2ポイントさがった。避難することにより、居住地を離れ、第一次産業に従事できないことを反映している。

表 2.2.1 現在の仕事業種

	調査数	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸・通信業	卸売・小売・飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務	その他	無回答
全 体	6886	12.0%	20.7%	9.0%	9.3%	3.5%	7.2%	1.4%	0.6%	15.2%	8.3%	10.9%	2.1%
檜葉町	731	10.4%	15.9%	11.8%	8.6%	4.5%	7.0%	2.5%	0.1%	16.8%	9.3%	10.9%	2.2%
富岡町	1699	6.4%	22.0%	8.8%	10.4%	3.2%	8.2%	1.2%	0.8%	17.2%	9.2%	10.9%	1.9%
川内村	191	22.0%	23.0%	3.7%	2.1%	1.6%	7.9%	1.0%	0.5%	9.9%	11.0%	15.2%	2.1%
大熊町	1218	8.9%	21.9%	7.2%	15.2%	2.5%	5.5%	0.8%	0.7%	16.7%	8.9%	9.9%	1.8%
双葉町	704	13.6%	17.2%	6.4%	13.6%	4.0%	6.3%	0.9%	0.4%	13.9%	9.7%	11.8%	2.3%
浪江町	2098	15.4%	21.8%	10.9%	5.2%	4.0%	7.9%	1.5%	0.5%	13.8%	6.0%	10.7%	2.2%
葛尾村	157	37.6%	18.5%	6.4%	2.5%	3.2%	3.8%	2.5%	-	7.6%	7.0%	8.3%	2.5%

2.3 同居していた人の人数

被災前に同居していた人数（本人を含む）について、数字で尋ねた結果が、図 2.3.1 である。この設問では半数以上が3人以下であり、市町村による差異も、葛尾村の世帯人数が多い以外はそこまで大きくはない。なお、この人数の平均値は3.3人であった。

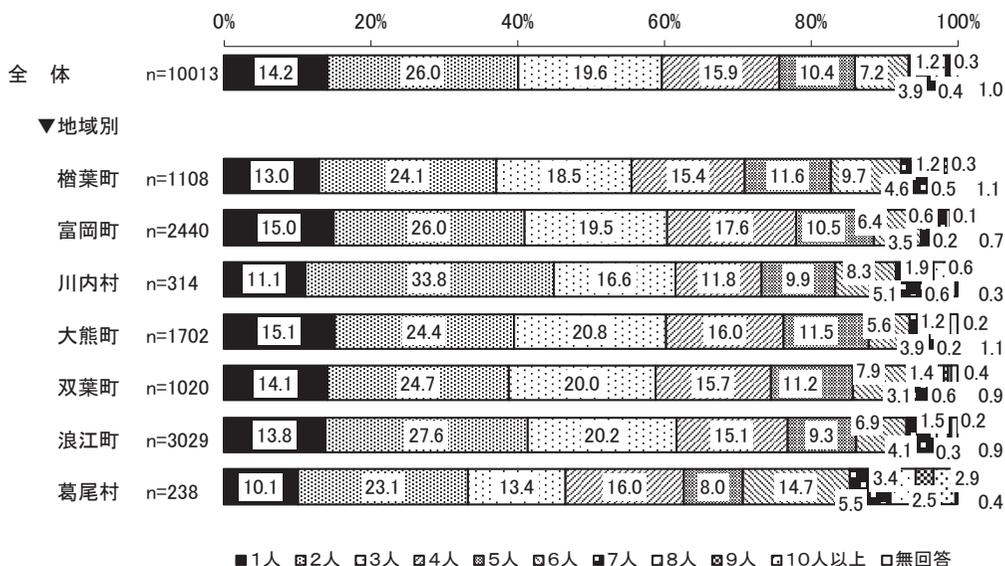


図 2.3.1 被災前に同居されていた方は、あなたを含めて何人でしたか

2.4 同居していた人の現状

他方で、被災前に同居していた人が現在どのような状況であったかを回答してもらった。ここでは、具体的に表形式で被災前に同居していた人の続柄、性別、年齢などを記入していただく形式を取ったが、図 2.4.1 はその表に回答者が何人記入したかをまとめたものである（0 レコードは無回答を意味する）。ここでの平均の記入人数は 2.98 人であり、前の設問とやや異なっているほか、無回答も 500 人ほどとなっており、本設問にそれなりの回答者負担があったことが示唆される。特に図 2.3.1 との比較から、この項目は世帯人数の多い回答者が十分に回答していただけなかった傾向が示唆される。なお、震災前住んでいた市町村別にみても前問と同じく、葛尾村以外は大きな差異はない。

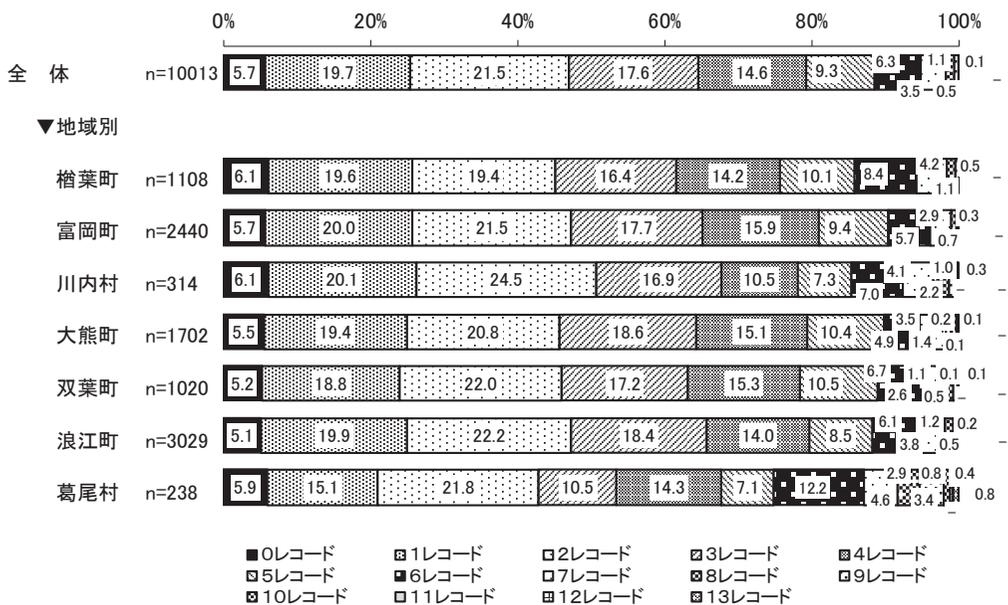


図 2.4.1 被災前に同居していた人の人数

ここでは、図 2.4.1 で回答いただいたサンプルに関して、現在の仕事や死亡もしくは別居した人が世帯内でどの程度いたかについて示す。なお算出上の都合から、ここでは同居人数が本人を含めて 7 人までの世帯を対象としてデータベースを作成した。この結果、記入していただいた総人数は全部で 30,457 人であった（本人を含む）。以降では、この 30,457 人を母集団とした分析結果を示したい。なおこのなかで、世帯主は 7,781 人であった。

はじめに、現在仕事を持っている人は全体の 37.2%であった（9,784 人）。また、世帯主のなかで仕事を持っている人の割合は 45.4%であった（3,536 人）。世帯主でも半数以上が仕事を持っていない。その年齢分布は図 2.4.2 のようになり、高齢者のみならず 60 歳以

下で仕事を持っていない回答者が多いことがわかった。なお、世帯主かどうかにかかわらず、仕事を持っている人と仕事を持たない人の年齢分布は図 2. 4. 3 および図 2. 4. 4 のような頻度分布となる。

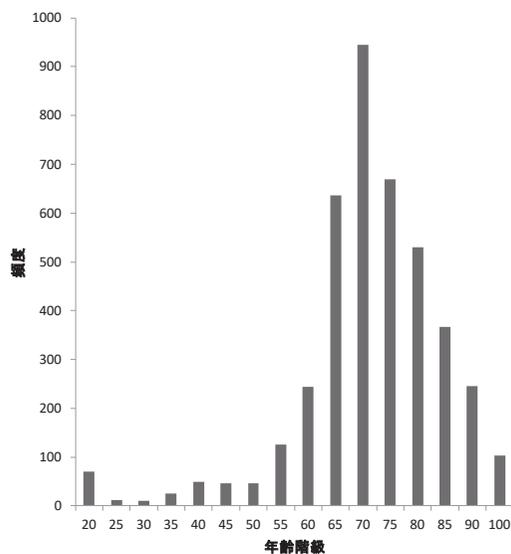


図 2. 4. 2 世帯主かつ仕事を持っていない人の年齢分布 (n=4131)

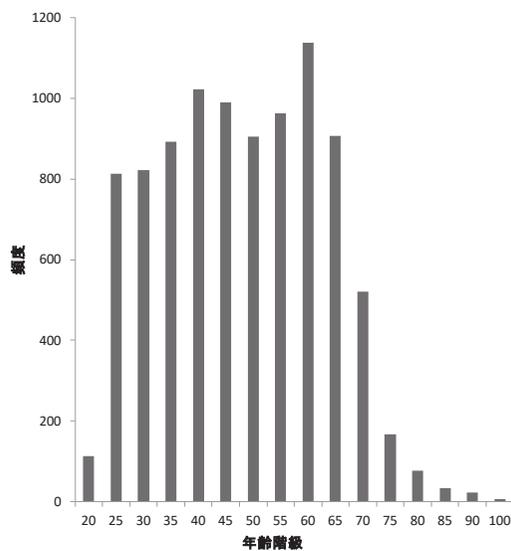


図 2. 4. 3 仕事を持っている人の年齢分布 (n=9395)

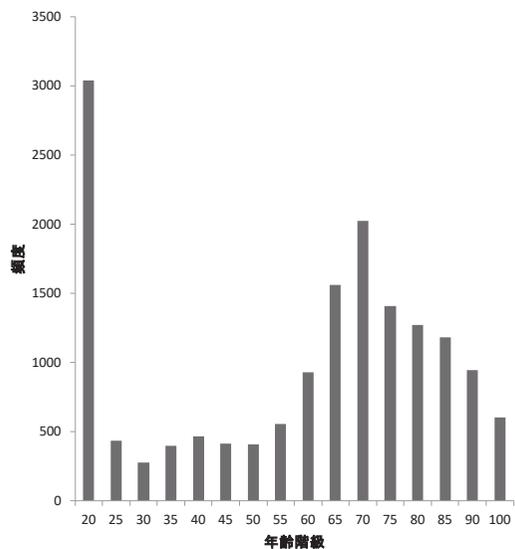


図 2.4.4 仕事を持っていない人の年齢分布 (n=15950)

次に、別居についてまとめる。回答いただいた全 30,457 人のうち、現在回答者と別居をしている人の数は 21.0% (6,383 人) であった。その年齢分布は図 2.4.5 のように示せ、進学や就職などで別居が考えられる若年層以外にも、別居をしている人が多いことが明らかになった。さらに、ここでは人数のみならず、震災前に同居していた人のうち、一人でも現在別居している人がいた世帯を抽出した。この結果、25.5%の世帯 (2,555 世帯) に別居者が一人でもいるということがわかった。

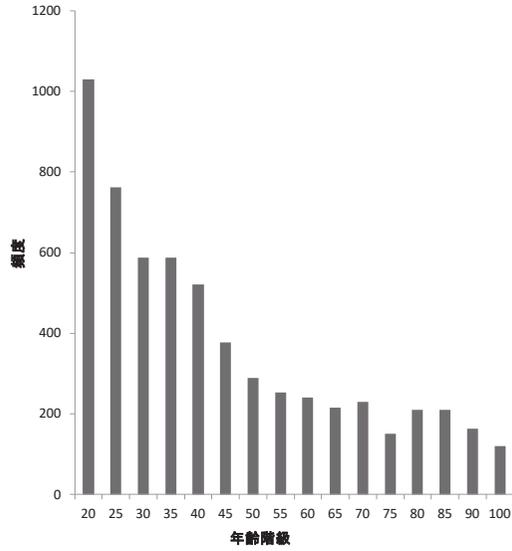


図 2.4.5 別居をしている人の年齢分布 (N=5953)

また、全 30,457 人で死亡していた人は 5.4%であった (1,658 人)。この年齢分布は、図 2.4.6 のように示せる。さらに、ここでは震災前に同居していた家族のうち、一人でも死亡した家族がいる世帯を抽出した。この結果、25.5%の世帯 (2,555 世帯) に死亡した家族が一人でもいるということがわかった。

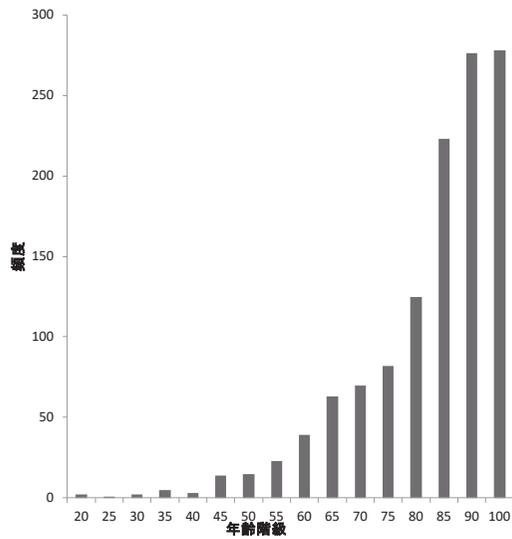


図 2.4.6 死亡した人の年齢分布 (N=1243)

2.5 現在の世帯の状況

最後に、現在の世帯の状況について示したものが図 2.5.1 から図 2.5.3 である。回答者のうち、65 歳以上の高齢者のみの世帯がいる世帯は全体の 32.4%であり、母子のみの世帯は 3.8%、単身世帯は 15.8%であった。ただし、本設問は無回答が多数を占める。無回答を除いてこれらの割合を算出した結果、65 歳以上の高齢者のみの世帯がいる世帯は全体の 41.4%であり、母子のみの世帯は 8.5%、単身世帯は 29.0%であった。地域差としては無回答を除くと、川内村が高齢世帯および母子世帯が多い。

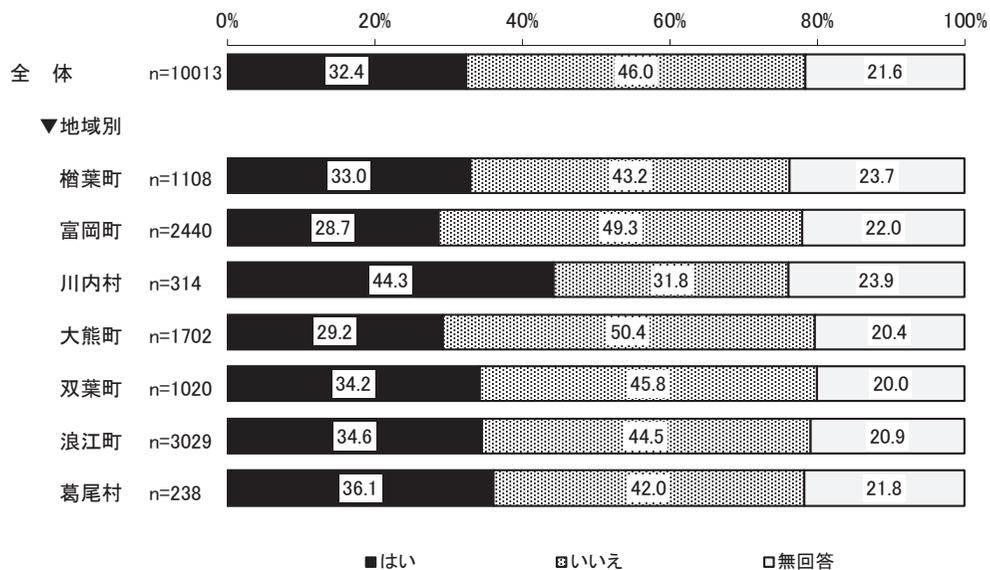


図 2.5.1 65 歳のみ世帯の割合

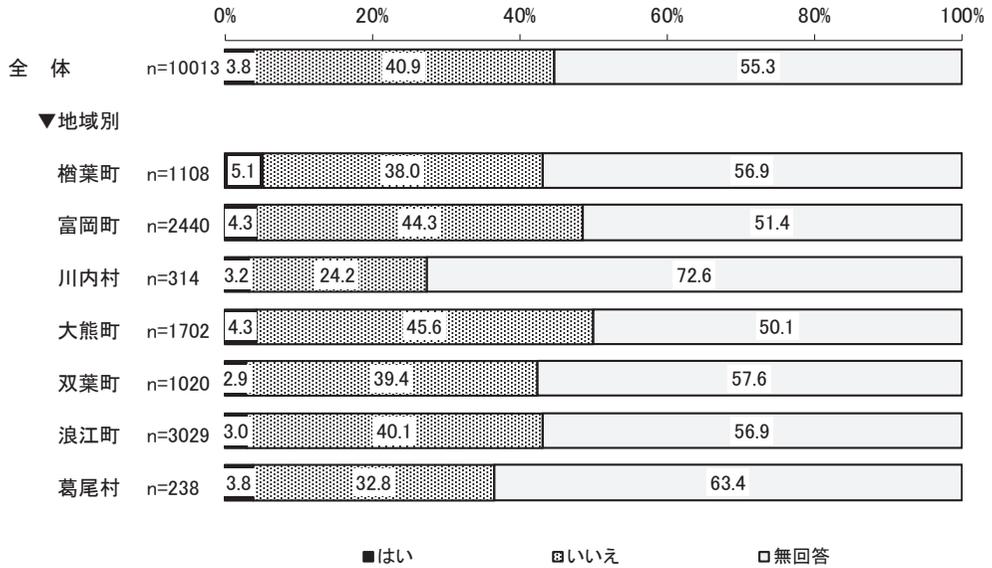


図 2.5.2 母子のみ世帯の割合

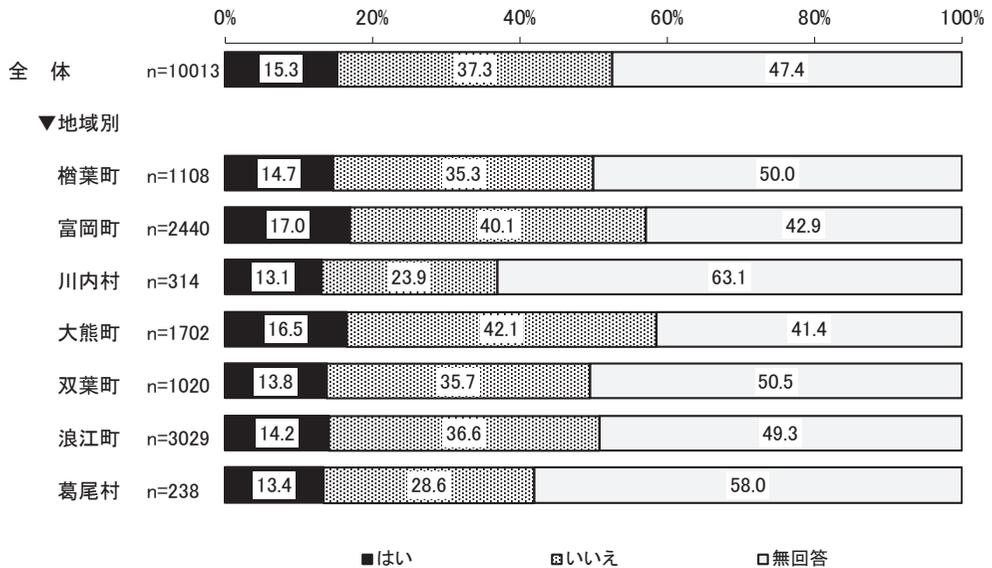


図 2.5.3 単身世帯の割合

なおこのうち、避難指示解除自治体についてこれらをクロス集計した結果、図 2.5.4 から図 2.5.6 のような傾向が見て取れた。これら世帯の状況は、震災時の場所に住んでいる回答者とそうでない回答者に違いがあることがわかった。

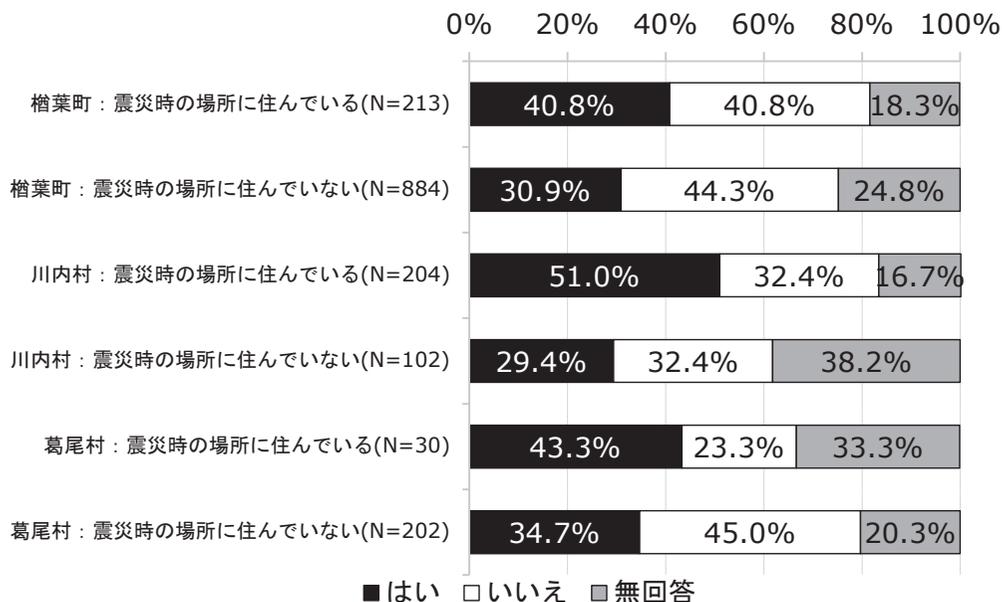


図 2.5.4 避難指示解除自治体の 65 歳のみ世帯の割合

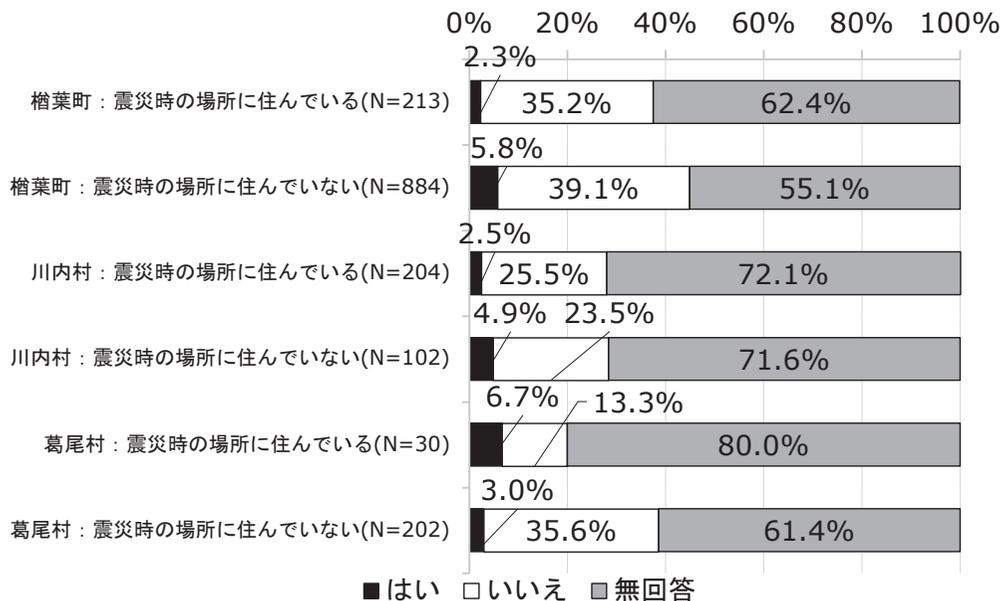


図 2.5.5 避難指示解除自治体の母子のみ世帯の割合

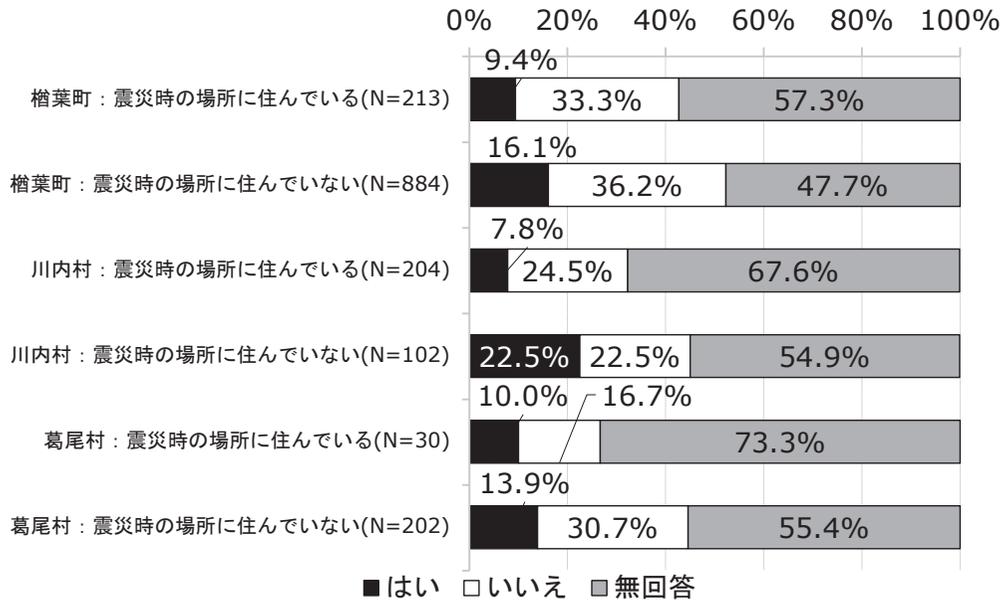


図 2.5.6 避難指示解除自治体の単身世帯の割合

3. 住居

3.1 震災時の住まい

震災時の住まいを示したものが図 3.1.1 である。ここでは震災時に双葉郡に住んでいなかった人はおらず、富岡町、大熊町、浪江町の回答者が多い。

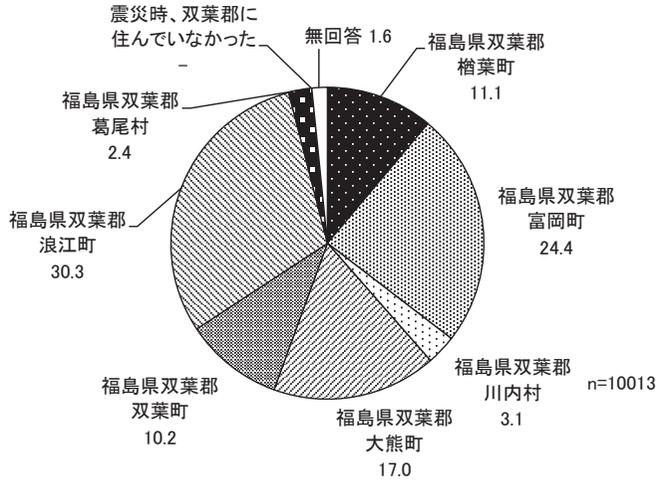


図 3.1.1 震災時のお住まいはどちらですか

3.2 震災時の住まいの避難区域

震災時の住まいを示したものが図 3.2.1 である。40.1%が帰還困難区域であり、居住制限区域が 23.8%、避難指示回準備区域が 25.4%である。

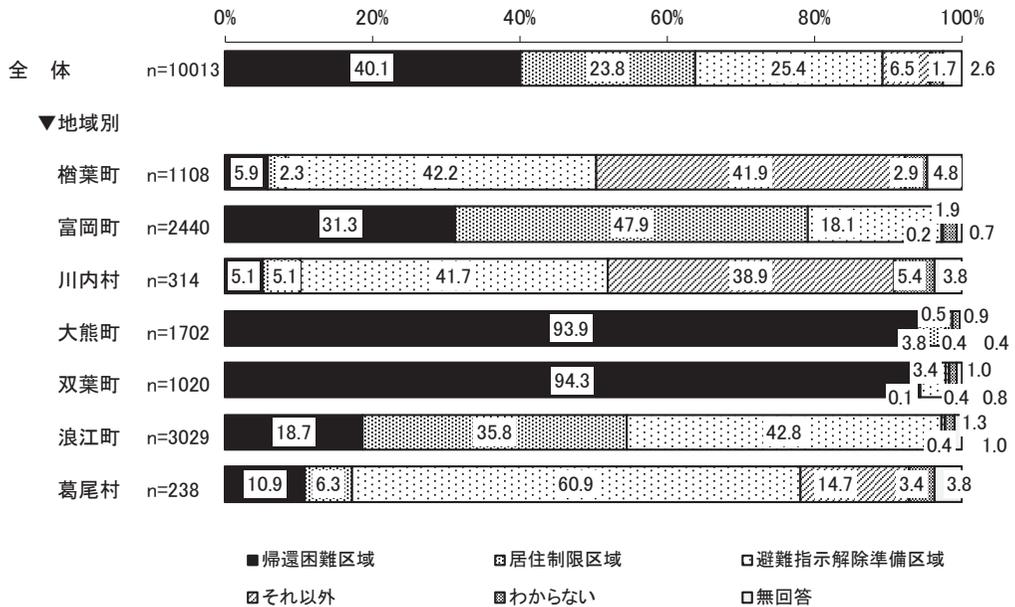


図 3.2.1 震災時の住まいの避難区域

■ 全体 □ 樺葉町 □ 高岡町 □ 川内村 □ 大館町 □ 双葉町 □ 浪江町 □ 葛尾村

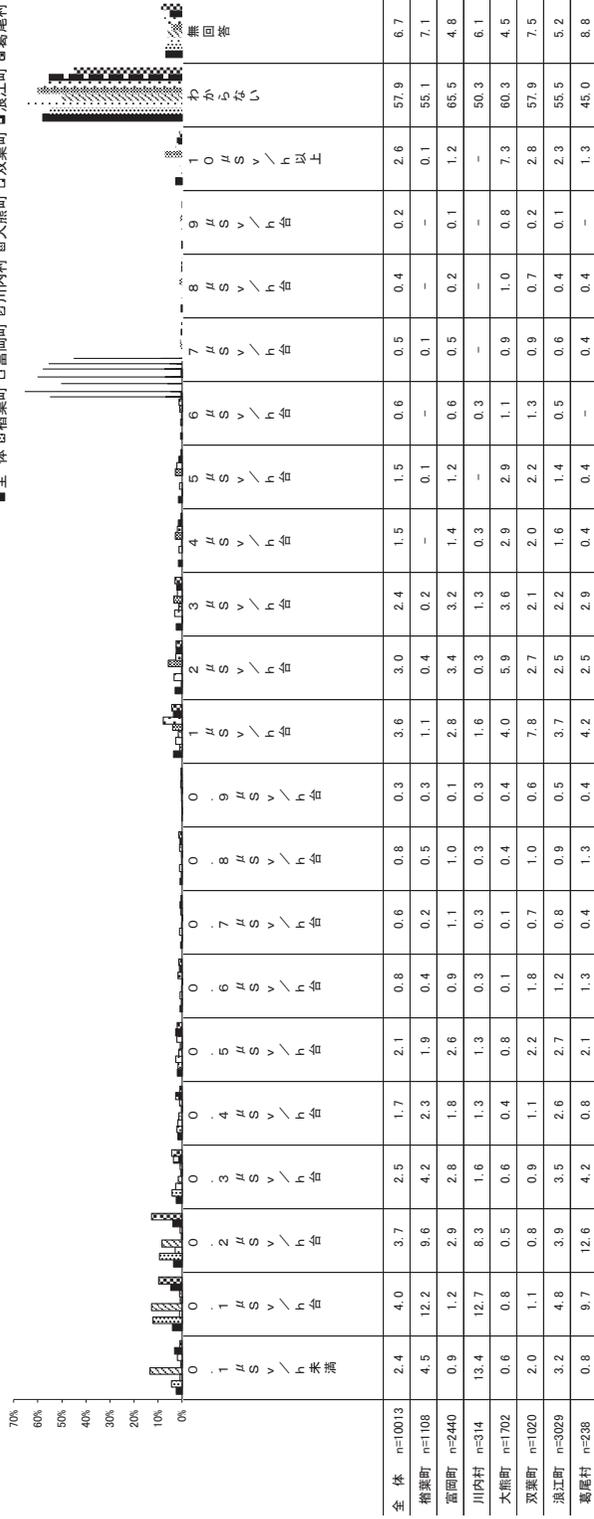


図 3.3.1 震災時の住まいの線量

3.3 震災時の住まいの線量

震災時の住まいの線量を示したものが、図 3.3.1 である。分からないという回答が 57.9%を占めるが、地域差としては大熊町に住んでいた人が大きい線量を記入している。

3.4 現在の住まいの種類

現在の住まいの種類を示したものが図 3.4.1 である。プレハブ仮設に居住している回答者は 7.7%であり、みなし仮設住宅は 16.8%であった。他方で、購入・再建した持ち家に住んでいる人が多く 45.0%、元々住んでいた持ち家に住んでいる回答者は 4.6%である。

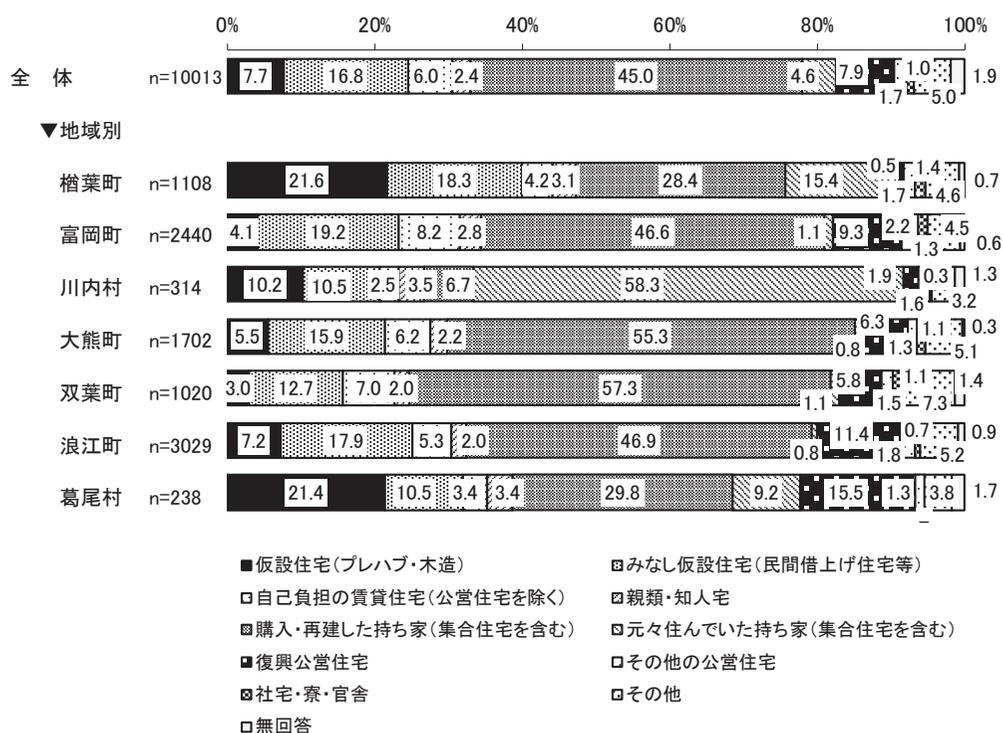


図 3.4.1 現在の住まいの種類

3.5 現在の住まい（震災時の場所か）

「現在、震災時の場所にお住まいですか」を問うた結果が、下記の図 3.5.1 である。全体として、「震災時の場所に住んでいない」が 94.2%と多く、「震災時の場所に住んでいる」は 4.5%と少ない。町村により「震災時の場所に住んでいる」の割合は大きく異なり、川内村では 65.0%、檜葉町では 19.2%、葛尾村では 12.6%となっている。富岡町、大熊町、双葉町、浪江町では、「震災時の場所に住んでいる」は 0%である。

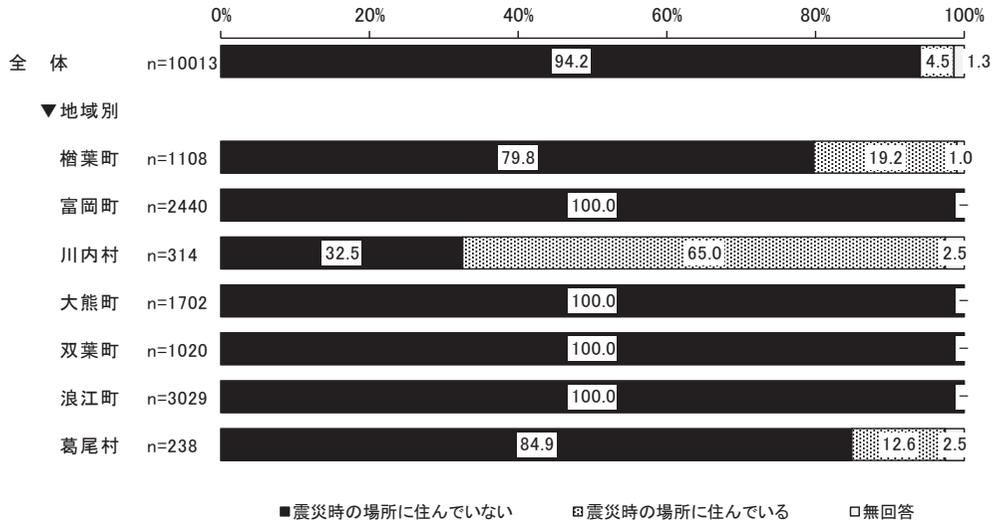


図 3.5.1 現在の住まい（震災時の場所か）

3.6 震災時の住まいの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）

問 3 (5) で震災時の場所に住んでいないと回答した人を対象に、「震災時の住まいの状況」について問うた結果が下記の図 3.6.1 である。「修理しないと住めない状態」が 31.1%、「建て替えないと住めない状態」が 22.3%、と全体で半数程度の人震災時の住まいが居住に問題がある状態であることが分かった。「取り壊した」が 13.4%であり、「問題なく居住することができる」は 12.1%であった。

町村別に見ると、帰還が住んでいる川内村、檜葉町、葛尾村で、「問題なく居住できる」という回答の比率が高い傾向が見られた。川内村で「問題なく居住できる」は 40.2%にのぼり、調査時点で震災時の場所に住んでいない人も、帰還に向けて住まいの修理等を進めている状況がうかがわれる。

3.7 震災時の住まいへの通いの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）

問 3 (5) で震災時の場所に住んでいないと回答した人を対象に、「震災時の住まいにどれくらいの頻度で通われていますか」と問うた結果が下記の図 3.7.1 である。全体として、月に 1 回程度以上通われているのが 26.3%、2~3 ヶ月に 1 回程度が 20.1%、半年に 1 回程度が 20.2%、年に 1 回程度が 24.9%という結果であった。

町村別に、月に 1 回程度以上通われている比率を見ると、帰還が進んでいる川内村で 56.8%、檜葉町で 49.8%、葛尾村で 62.4%と高い傾向であった。年に 1 回程度という比率を見ると、帰還が進んでいる川内村で 2.9%、檜葉町で 12.0%、葛尾村で 9.9%と低い傾向であった。

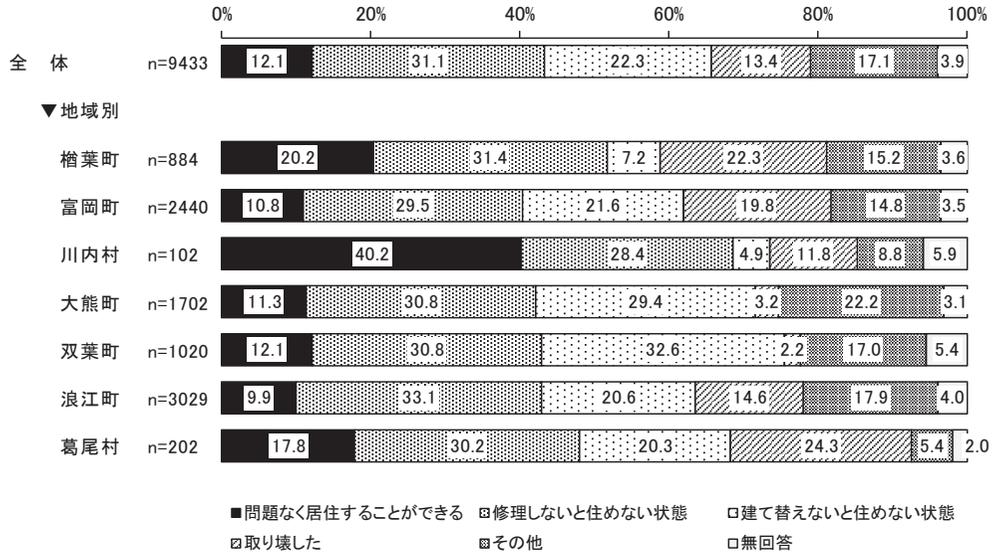


図 3.6.1 震災時の住まいの状況

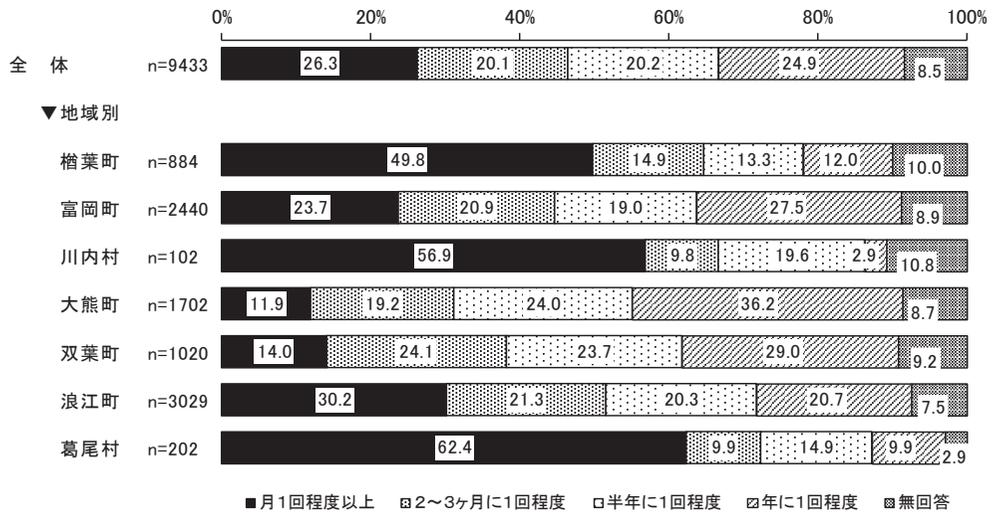


図 3.7.1 震災時の住まいへの通いの状況

3.8 現在の住まい（福島県内か県外か）

現在の住まいについて都道府県市区町村をたずねた問3(8)を福島県の中か外かという2値で集計した結果が下記の図3.8.1である。全体として、福島県内が73.1%、福島県外が24.1%という結果であった。町村により傾向に差が見られ、双葉町では福島県外が34.3%と多かった。双葉町では、事故後、役場の機能および多数の避難住民が埼玉県へ移

動していた経緯もあり、県外におられる方が多いものと考えられる。

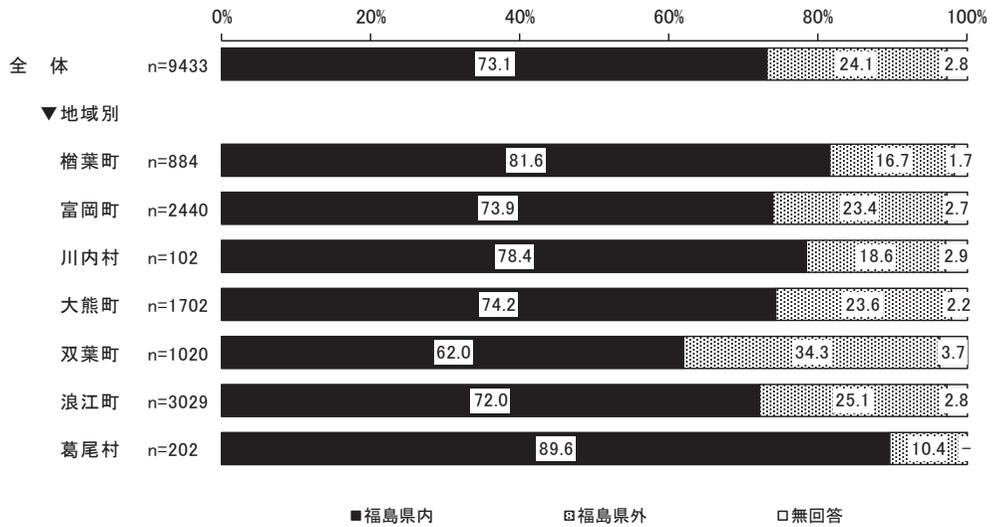


図 3.8.1 現在の住まい（福島県内か県外か）

3.9 帰還意向

「元の居住地に戻ろうとお考えですか」とたずねた結果が下記の図 3.9.1 である。全体として、「戻る気はない／戻れない」が 57.5%と最も多く、「まだ明確ではない／悩んでいる／わからない」が 19.7%、「将来戻りたい」が 10.4%、「近年中に戻りたい」が 6.8%と続く。

市町村別に見ると、「戻る気はない／戻れない」という回答は、大熊町で 69.4%、双葉町で 67.1%、富岡町で 60.2%と多い傾向が見られた。同回答は、川内村では 18.6%、檜葉町で 34.0%、葛尾村で 38.6%と少ない傾向であった。

「近年中に戻りたい」という回答は、川内村で 29.4%、檜葉町で 22.7%、葛尾村で 17.8%と多い傾向が見られ、「将来、戻りたい」という回答も、川内村で 16.7%、檜葉町で 16.2%、葛尾村で 17.8%と多い傾向が見られた。

「まだ明確ではない／悩んでいる／わからない」という回答は、2割程度であるが、大熊町と双葉町で 14%程度とやや少ない傾向が見られた。

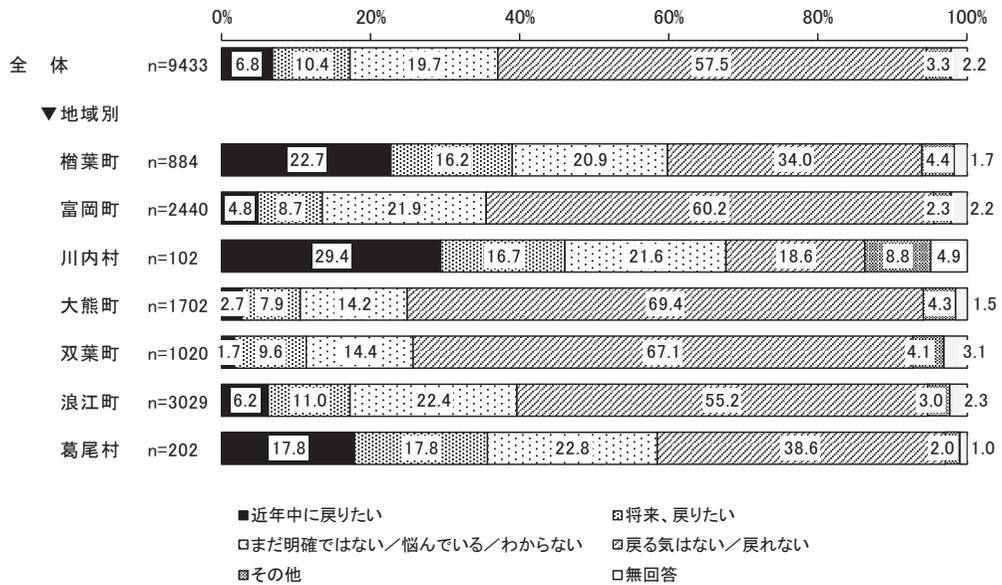


図 3.9.1 帰還意向

3.10 住まいの修理や再建の状況（震災時の場所に住んでいる回答を対象）

震災時の場所に住んでいる回答者を対象に、現在の住まいの修理や再建の状況について問うた結果が下記の図 3.10.1 である。

全体として、「震災後、修理をして住んでいる」が 67.4% ともっと多く、「震災時のまま、修理をしないで住んでいる」は 16.6%、「震災後、建て直して住んでいる」は 8.2% と少なかった。

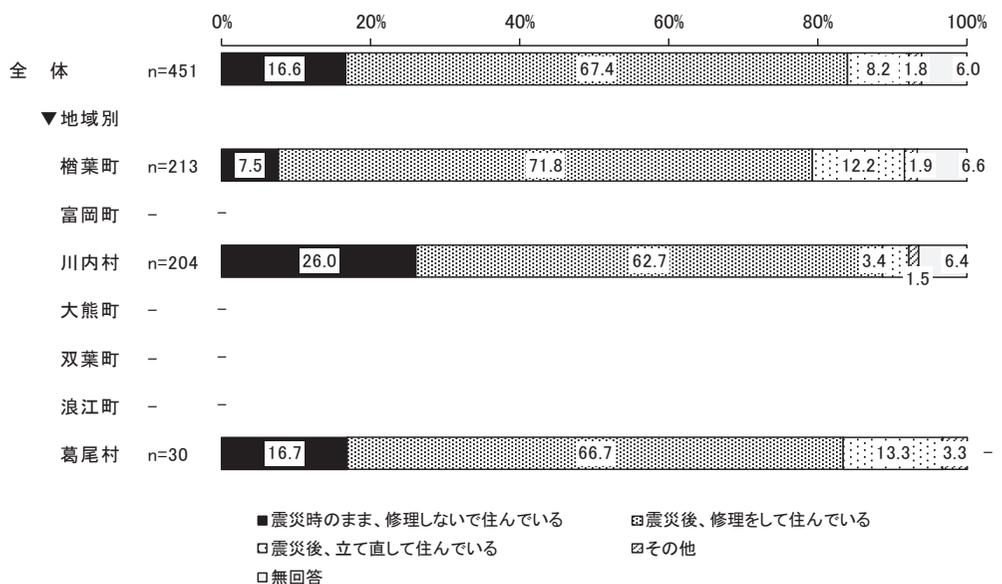


図 3.10.1 住まいの修理や再建の状況

4. 健康

4.1 健康状態

健康状態について5段階でたずねた結果が図4.1.1である。全体として、「ふつう」が46.1%と最も多く、「やや悪い」が27.9%、「悪い」が8.9%と続く。「良い」は8.3%、「やや良い」は5.4%と少なかった。

町村別に見ると、浪江町で「やや悪い」や「悪い」がやや多い傾向が見られた。葛尾村や川内村で「やや悪い」や「悪い」がやや少ない傾向が見られた

同様の設問が、国民生活基礎調査でも行われているが、平成28年の大規模調査結果によると、「よい」が20.7%、「まあよい」が17.8%、「ふつう」が47.0%となっており、「あまりよくない」が11.2%、「よくない」が1.8%と続く。

平成28年国民生活基礎調査で、6歳以上の者（入院者、熊本県を除く）の健康意識の構成割合をみると、「あまりよくない」と「よくない」あわせて13.0%であったのに対して、ほぼ同時期に行われた東日本大震災時に双葉地方に居住していた方を対象とした本調査結果では「やや悪い」と「悪い」をあわせて37.8%と3倍近い比率となった。

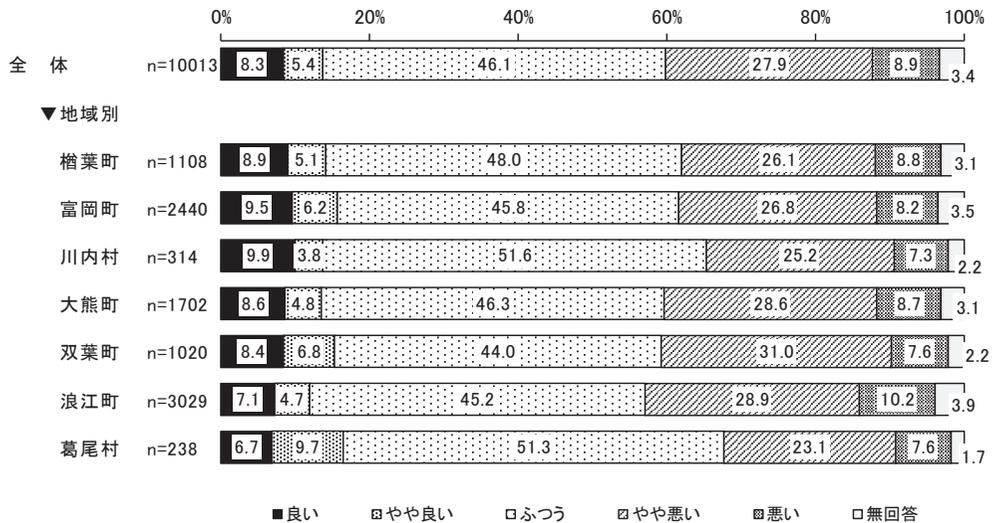


図 4.1.1 健康状態

4.2 精神的健康状態

WHO-5 精神的健康状態表の5つの回答の数字を合計した粗点を求めると²、事故直後の2011年12月に実施された第1回調査では、精神的健康状態が低いこと示し、うつ病のためのテストの適応となる13点未満が、7割を超え、粗点の平均は7.4であった。調査時点や調査対象が異なるが、他の調査では平均15～16となっており³、精神的健康状態が相当地に良くない状態であることが分かる。

2017年2月に実施された第2回調査では、13点未満が6割と依然多いが、粗点の平均は10.6であった。他の調査に比べると低い値であるが、第1回調査時点から3.2点ほど上昇した結果となった。

この精神的健康状態は、回答者年齢や避難先の住居種別などにより、状況が異なる。第2回調査結果について、回答者年齢で見ると、29歳以下では、平均14.2と高く、70歳代以上では9.6と低い。住居種別では、「社宅・寮・官舎」の方が平均13.0、「元々住んでいた持ち家」の方が12.7と高いことが特徴的であった。反対に、一般的な行政による住宅対策である「仮設住宅」では8.9、「復興公営住宅」でも9.2と低い。避難先が県内か県外であるかによるスコアの差は小さい結果であった。

第2回調査では、第1回調査に比べて精神的健康状態のスコアが上昇しているが、依然低い水準であり、メンタルケアなどソフト面の対策の重要性が窺われる。特に、「復興公営住宅」においても「仮設住宅」とほぼ同様の精神的健康状態のスコアであること、また、県外避難者も県内避難者と同様の精神的健康状態スコアであることに留意が必要と考えられる。

² 計算方法等は、WHO-5 精神的健康状態表（1998年版）を参照。

[http://www.med.oita-u.ac.jp/oita-lcde/WHO-5\[1\].pdf](http://www.med.oita-u.ac.jp/oita-lcde/WHO-5[1].pdf)（2020年1月25日最終閲覧日）

³ 参考にした文献は以下の通り。

S.AWATA et al:「Reliability and validity of the Japanese version of the World Health Organization-Five Well-Being Index in the context of detecting depression in diabetic patients」*Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 61, 112-119, 2007.

井藤佳恵他:「大都市在住高齢者の精神的健康度の分布と関連要因の検討」*日老医誌*: 49 (1), 82-89, 2012. 財団法人日本公衆衛生協会:「介護予防事業の推進に関する調査研究事業報告書」, 2012. 3.

表 4.2.1 WHO-5 精神的健康状態スコアおよび他調査との比較

		第1回調査(2011.9.)			第2回調査(2017.2.)		
		平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
全体		7.4	5.9	12,844	10.6	6.4	9,140
回答者年齢	29歳以下	10.4	6.3	561	14.2	6.3	149
	30歳代	8.5	5.9	1,442	13.0	6.0	578
	40歳代	7.4	5.6	1,831	11.5	6.1	987
	50歳代	6.9	5.6	3,096	10.5	6.2	1,547
	60歳代	6.9	5.9	3,214	10.6	6.4	2,961
	70歳代以上	7.3	6.1	2,655	9.6	6.4	2,918
	住居種別	避難所	7.0	6.1	489	-	-
仮設住宅		6.9	5.7	2,220	8.9	6.2	681
親戚・知人宅		9.1	6.4	1,197	10.5	6.5	219
自治体が借り上げている住宅		7.1	5.7	6,219	10.1	6.3	1,606
自己負担の賃貸住宅		8.0	6.1	1,264	10.9	6.4	577
購入・再建した持ち家(集合住宅を含む)		-	-	-	11.0	6.3	4,293
元々住んでいた持ち家(集合住宅を含む)		-	-	-	12.7	6.4	408
復興公営住宅		-	-	-	9.2	6.3	708
その他の公営住宅		-	-	-	9.7	6.6	165
社宅・寮・官舎		-	-	-	13.0	6.7	105
その他		7.6	6.1	1,370	9.9	6.6	273
県別	福島県内	7.3	5.9	8,795	10.3	6.3	6,800
	福島県外	7.6	6.0	3,976	10.8	6.5	2,136
別調査	S.Awata et al(2007)*	15.5	6.1	129			
	井藤他(2012)**	15.6	6.1	1,954			
	日本公衆衛生協会(2012)***	16.2	6.1	11,011			

* 回答者年齢は、平均53.6歳、最小値25歳、最大値73歳。 ** 東京都A区在住の65歳以上の全高齢者のうち、4月～9月生まれで、高齢者施設入所中の者を除いた人が対象。 *** 東京都板橋区在住で65歳から79歳までの人が対象。

5. 賠償

5.1 現在の生活のやりくり

「現在の生活設計は何でやりくりされていますか」を複数回答で問うた結果が、下記の図 5.1.1 である。全体として、「賠償金」が最も多く、回答者に高齢者が多いことから「年金・恩給」がそれに次いでいる。さらに、「勤労収入」「預貯金」などが続く。預貯金の取り崩しが3割近くにのぼっていることは注目してきたい。

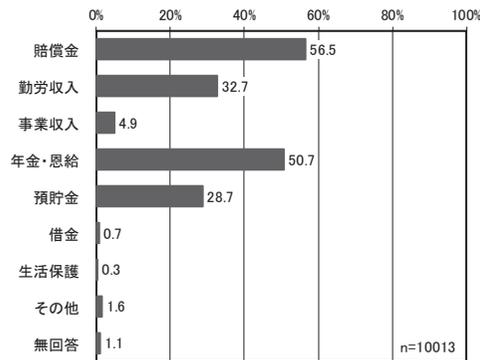


図 5.1.1 現在の生活のやりくり

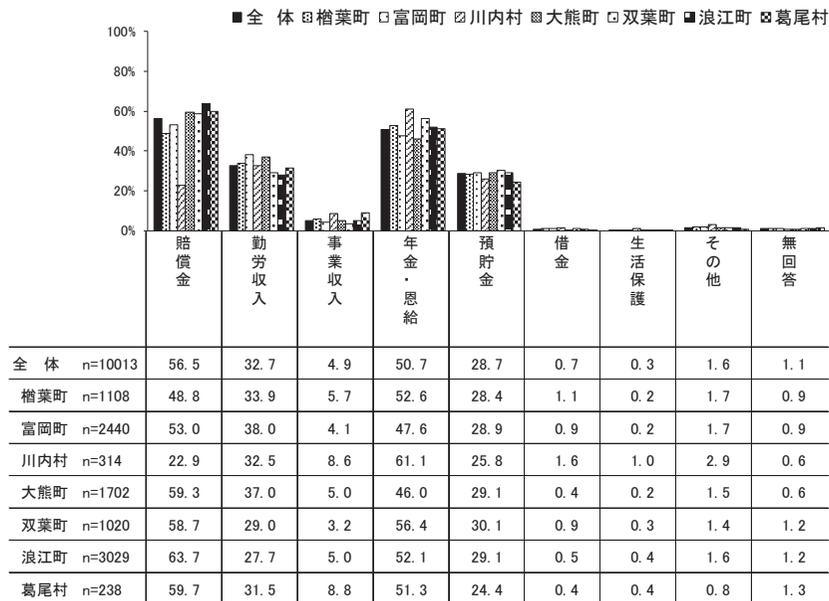


図 5.1.2 現在の生活のやりくり（町村別）

これを町村別にみたのが図 5.1.2 である。川内村では、「賠償金」という回答が 22.9%と非常に低くなっている。これは、川内村の多くが旧緊急時避難準備区域であり、他の避難

指示区域との間で賠償額に大きな格差があることを反映している。

5.2 経済的不安

「今後の生活について、あなたは経済的に不安を感じていますか」と問うた結果が下記の図 5.2.1 である。「とても不安を感じている」(33.9%)、「ある程度不安を感じている」(40.5%)を合わせて、全体で7割以上の方が「不安を感じている」と答えた。

町村ごとにみると若干の違いはあるが、7割以上が「不安を感じている」と答えていることは共通している。避難指示解除自治体について、居住地が避難元か避難先かで分けてみると、とくに檜葉町では「震災時の場所に住んでいる」人の不安感が低くなっている(表 5.2.1)。

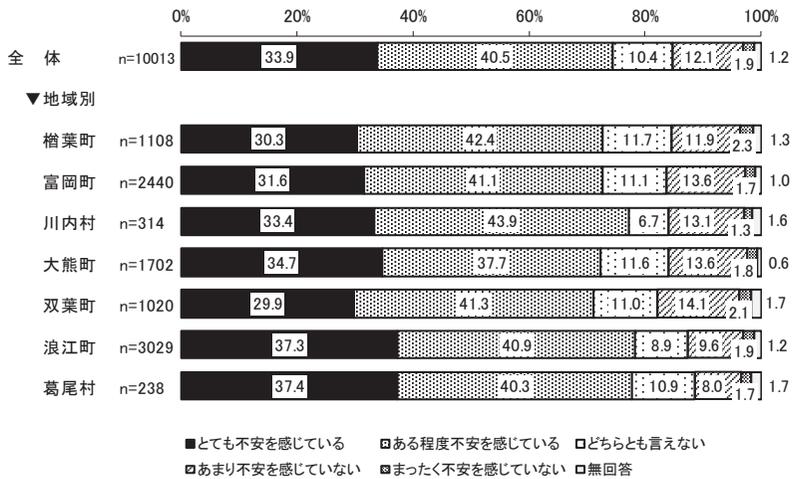


図 5.2.1 経済的不安

表 5.2.1 経済的不安 (避難指示解除自治体)

	調査数	とても不安を感じている (%)	ある程度不安を感じている (%)	どちらとも言えない (%)	あまり不安を感じていない (%)	まったく不安を感じていない (%)	無回答 (%)
檜葉町:震災時の場所に住んでいる	213	38	85	33	45	9	3
檜葉町:震災時の場所に住んでいない	884	292	382	96	87	16	11
川内村:震災時の場所に住んでいる	204	62	90	14	31	3	4
川内村:震災時の場所に住んでいない	102	40	44	7	9	1	1
葛尾村:震災時の場所に住んでいる	30	13	11	3	2	1	-
葛尾村:震災時の場所に住んでいない	202	74	84	22	16	2	4

5.3 医療費等の減免措置がなくなることへの不安

「あなたは将来、医療費や介護サービス利用料の減免がなくなることへの不安を感じていますか」と問うた結果が下記の図 5.3.1 である。「とても不安を感じている」(57.7%)、「ある程度不安を感じている」(28.1%)を合わせて、全体で8割以上の方が「不安を感じている」と答えた。「とても不安を感じている」という回答だけでも6割近い。

町村ごとにみると若干の違いはあるが、「とても不安を感じている」が最も多く、「ある程度不安を感じている」と合わせて、8割以上が「不安を感じている」と答えていることは共通している。とくに川内村、浪江町、葛尾村では「不安を感じている」人の割合が9割近くに達している。図表は省略するが、楢葉町では「震災時の場所に住んでいる」人の不安感が低くなっている(「とても不安を感じている」「ある程度不安を感じている」の合計が、「震災時の場所に住んでいる」人は77.0%、「震災時の場所に住んでいない」人は86.3%)

年齢別就業状況とのクロスでは、年齢が高く、就業していない場合に不安感が高くなる傾向がみとれる(表 5.3.1)。

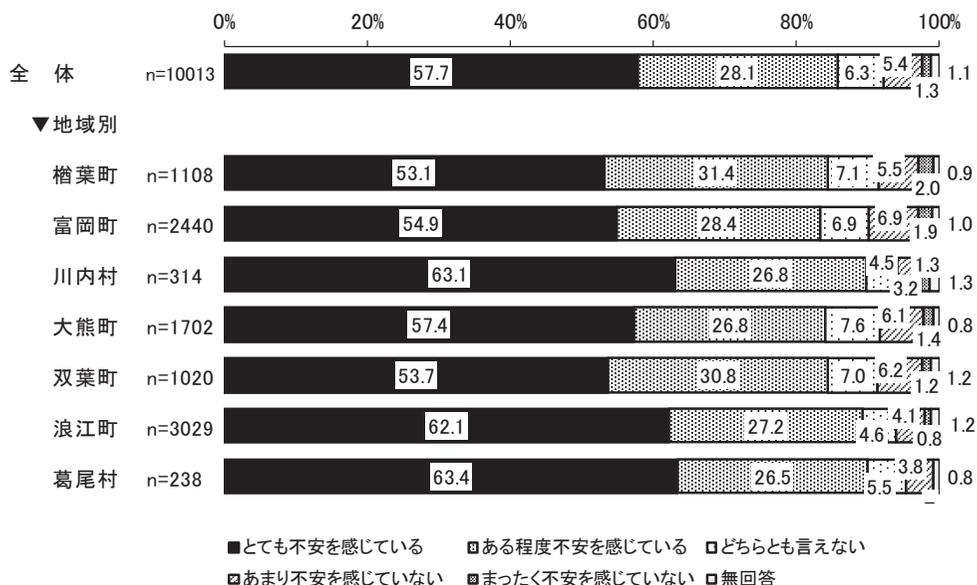


図 5.3.1 医療費等の減免措置がなくなることへの不安

表 5.3.1 医療費等の減免措置がなくなることへの不安（年代別就業状況とのクロス）

	調査数	とても不安を感じている	ある程度不安を感じている	どちらとも言えない	あまり不安を感じていない	まったく感じていない	無回答
64歳以下:就業者	3,088 100.0	1,487 48.2	899 29.1	296 9.6	287 9.3	89 2.9	30 1.0
64歳以下:非就業者	1,521 100.0	916 60.2	421 27.7	87 5.7	70 4.6	15 1.0	12 0.8
65歳以上:就業者	913 100.0	539 59.0	268 29.4	46 5.0	40 4.4	9 1.0	11 1.2
65歳以上:非就業者	4,024 100.0	2,539 63.1	1,123 27.9	179 4.4	126 3.1	17 0.4	40 1.0

5.4 賠償終了に対する不安

「政府や東京電力は、継続的な賠償金の支払いを、今後1～2年程度でおおむね終了していく方針を示しています。これについてあなたは不安を感じていますか」と問うた結果が下記の図 5.4.1 である。「とても不安を感じている」(54.4%)、「ある程度不安を感じている」(24.1%)を合わせて、全体で8割近い人が「不安を感じている」と答えた。「とても不安を感じている」という回答だけでも半数を超えている。

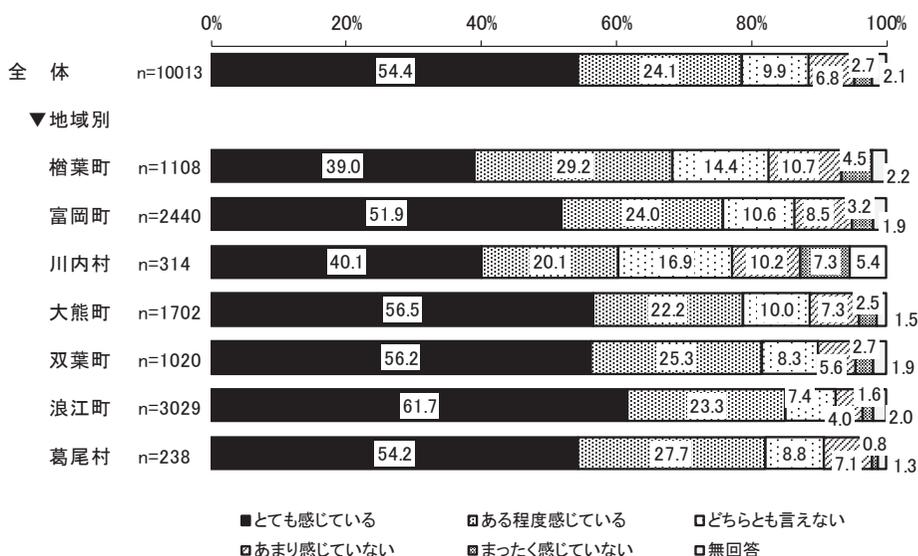


図 5.4.1 賠償終了に対する不安

町村別にみると、檜葉町と川内村では「不安を感じている」人の割合がやや低くなって

いる。これらの避難指示解除自治体では、「震災時の場所に住んでいる」人の不安感が低くなっている（表 5.4.1）

表 5.4.1 賠償終了に対する不安（避難指示解除自治体）

	調査数	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	ない	どちらとも言えない	あまり不安を感じていない	まったく不安を感じていない	無回答
楢葉町：震災時の場所に住んでいる	213	65	52	35	41	15	5	
	100.0	30.5	24.4	16.4	19.2	7.0	2.3	
楢葉町：震災時の場所に住んでいない	884	360	270	123	77	35	19	
	100.0	40.7	30.5	13.9	8.7	4.0	2.1	
川内村：震災時の場所に住んでいる	204	62	45	44	26	17	10	
	100.0	30.4	22.1	21.6	12.7	8.3	4.9	
川内村：震災時の場所に住んでいない	102	60	17	9	5	6	5	
	100.0	58.8	16.7	8.8	4.9	5.9	4.9	
葛尾村：震災時の場所に住んでいる	30	14	9	2	4	1	-	
	100.0	46.7	30.0	6.7	13.3	3.3	-	
葛尾村：震災時の場所に住んでいない	202	113	55	18	12	1	3	
	100.0	55.9	27.2	8.9	5.9	0.5	1.5	

5.5 賠償に関する困りごと

「賠償に関する困りごと」を複数回答で問うた結果が、下記の図 5.5.1 である。「請求書類や手続きが煩雑だ」が 48.9%、「賠償額が少ない」が 46.5%、「東京電力と国が賠償額を決めてしまう」が 45.2%、「地域によって賠償に差がある」が 42.0%などとなっている。

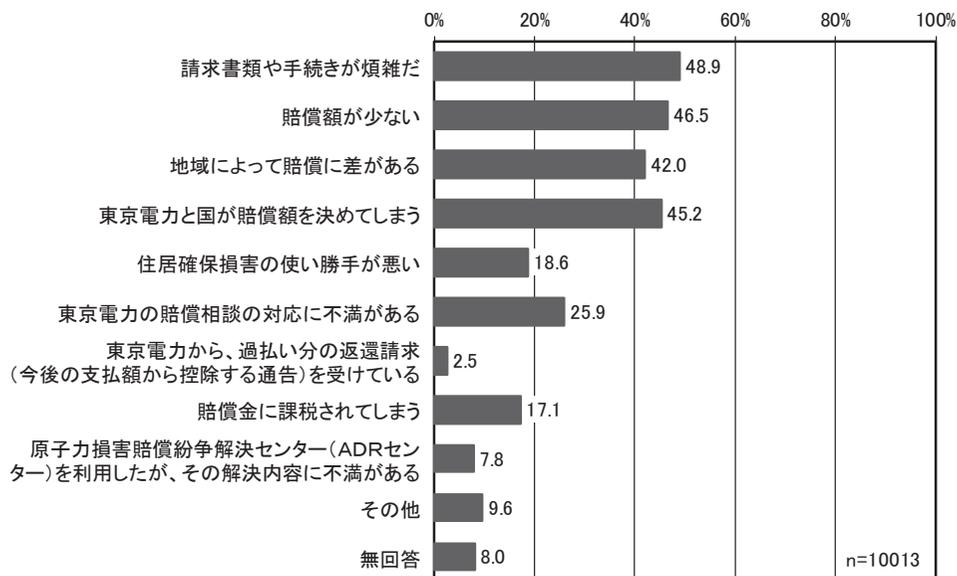


図 5.5.1 賠償に関する困りごと

これを町村別にみたのが図 5.5.2 である。川内村では「請求書類や手続きが煩雑だ」「賠償額が少ない」が全体よりも低く、「地域によって賠償に差がある」が全体よりきわめて高くなっている。これは、川内村の大半が旧緊急時避難準備区域であり、一部に旧避難指示区域も含まれていることから、村内で賠償額に大きな格差があることを反映していると考えられる。なお、檜葉町でも「賠償額が少ない」が全体よりも低い。

「地域によって賠償に差がある」と回答した人の割合は、川内村が最も多く 71.0%であり、浪江町 56.8%、富岡町 46.6%、檜葉町 41.6%、葛尾村 40.8%、大熊町 20.1%、双葉町 16.7%となっている。大熊町・双葉町は区域にかかわらず賠償の扱いが一律にされている場合が多いので、区域内の賠償格差が大きいほど、この点での不満も大きくなっていることがわかる。浪江町で全体に比べ不満がやや高くなっている理由ははっきりしないが、請戸のように津波で住居が被害を受けた場合はその程度に応じて賠償が減額されることや、多くの住民が集団 ADR 申し立てに参加していることなどの影響も推察される。

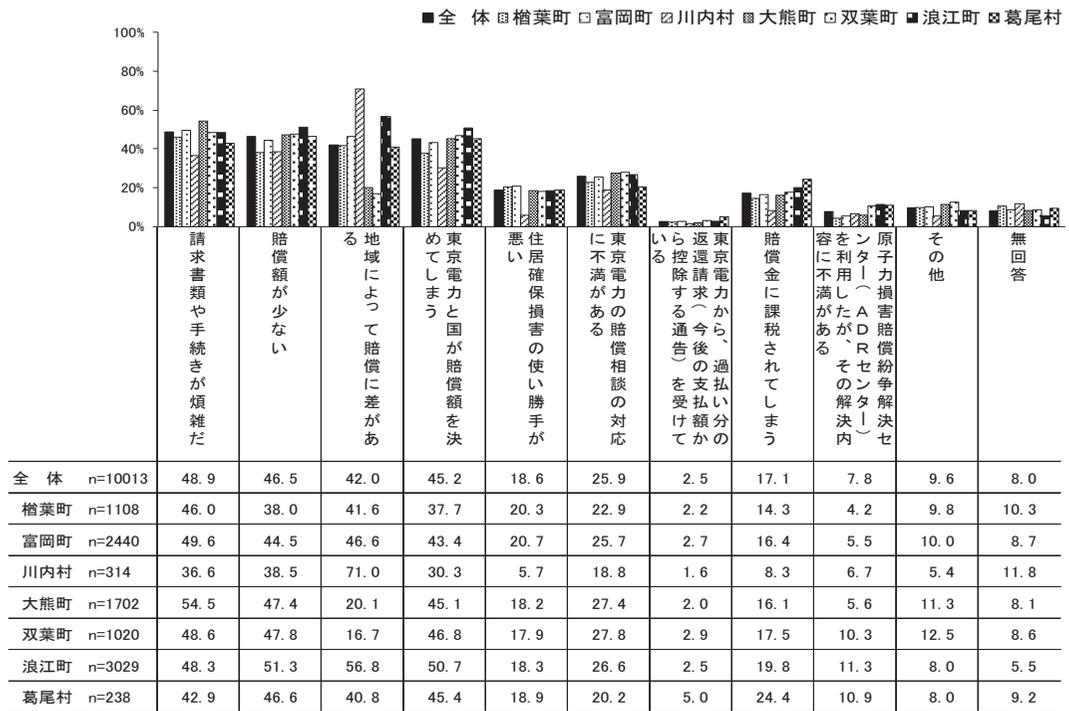


図 5.5.2 賠償に関する困りごと（町村別）

6 生活

本章では現在の生活や暮らしの状況について述べる。具体的には生活の困りごと、生活時間の変化、心配事を聞いてくれる人の存在、行政やメディアのなどへの信頼度に関する調査結果である。

6.1 現在の生活で困っていること

まず、「あなたは現在の生活においてお困りのことはありますか」を複数回答で問うた。その結果が図 6.1.1 である。

全体として、「健康や介護」が困っていることとして最もあげられている。この項目に関して、町村ごとに大きな違いがみられなかった。次いで困っていることとして多い回答の「生活費」は川内村が高い一方(42.0%、n=314)、双葉町や檜葉町は比較すると低い(30.2%、n=1020 と 31.2%、n=1108)。また、「放射線の影響」に関しては比較的、町村ごとに差がみられた。福島第一原子力発電所が立地していた大熊町と双葉町は低く(それぞれ 15.3%、n=1702 と 16.3%、n=1020)、一方で、距離的に離れている檜葉町、川内村、葛尾村の方が困っている人の割合が高かった(それぞれ 26.2%、n=1108 と 23.9%、n=314 と 26.1%、n=238)。これは、この3町村はすでに避難指示解除準備区域ならびに居住制限区域が解除され、実際に住んでいる人が存在することが影響していると考えられる。さらに、川内村は「周りの人との人間関係」で困っている人の割合が低かった。これも、他の町村と比較して、帰還して住んでいる人の割合が多いことが影響していると考えられる。

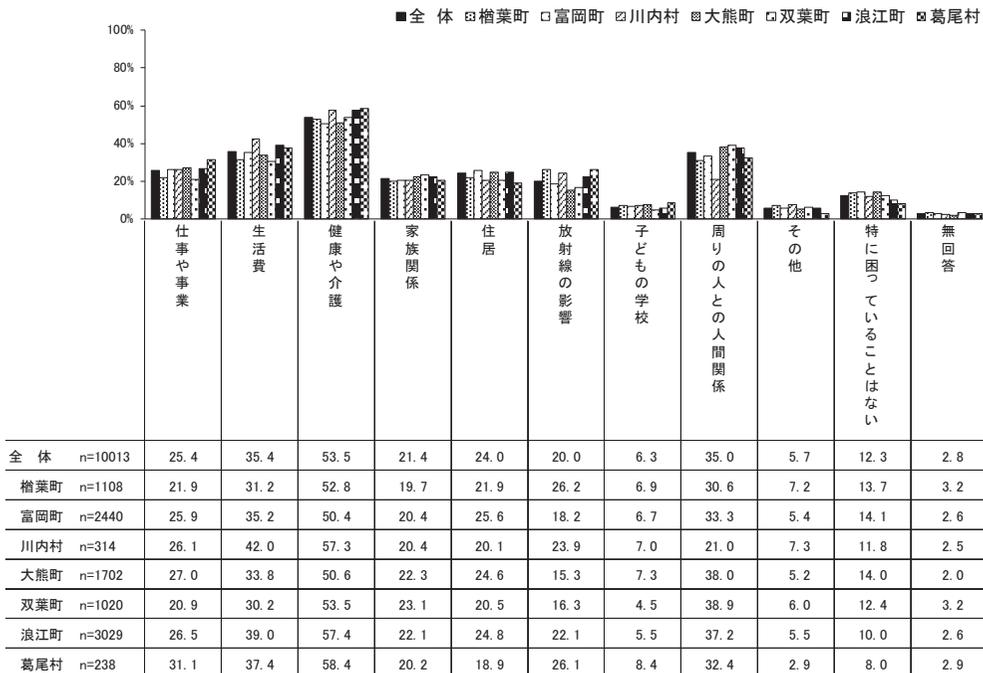


図 6.1.1 現在の生活で困っている事柄（町村別）

6.2 生活時間の变化

次に「以下の活動は、震災前と比べて増えましたか。それとも減りましたか」と問うた結果が図 6.2.1 である。

全体で震災前と比較して増えた、と答えた人が多かったのは「移動（通勤・通学を除く）」「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「受診・療養」である。一方で、減った、と答えた人が多かったのは「仕事」「趣味・娯楽」「交際・つきあい」である。

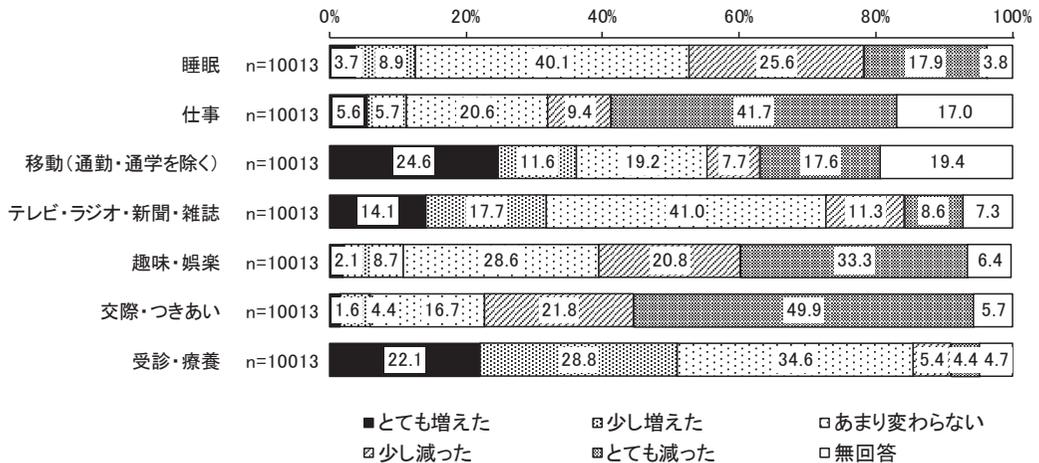


図 6.2.1 生活時間の増減（全体）

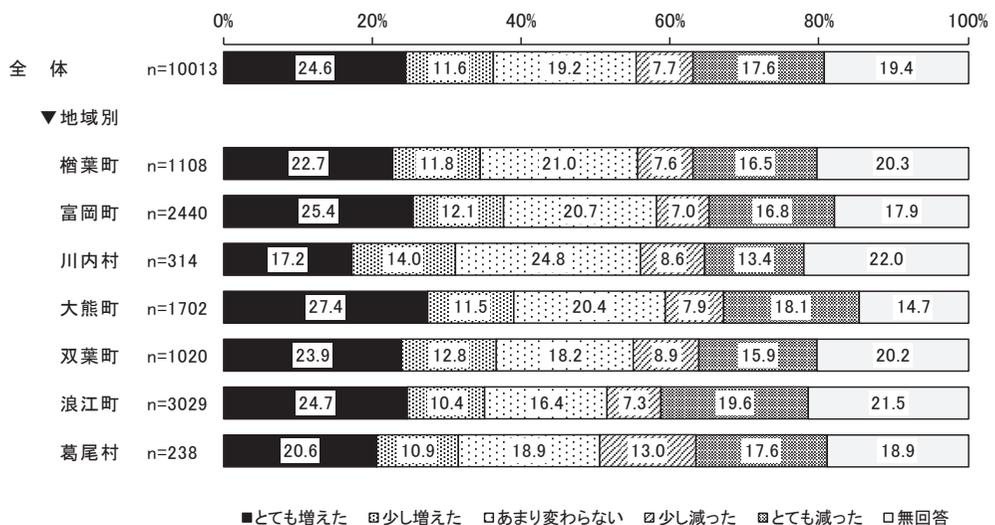


図 6.2.2 「移動（通勤・通学を除く）」時間の増減（町村別）

さらに、「移動（通勤・通学を除く）」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 6.2.2）。川内村は「とても増えた」割合が 17.2%と他の町村と比較して少なく、浪江町は「とても減った」割合が 19.6%と他の町村と比較して多い。

一方で、「交際・つきあい」の時間に関しては、避難指示解除準備区域ならびに居住制限区域が解除されていない、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町と帰還が始まった檜葉町、川内村、葛尾村で差が生じている。前者の 4 町では「とても減った」と答える割合が約半分であり、他者とのコミュニケーション機会が大幅に減っていることが明らかである。

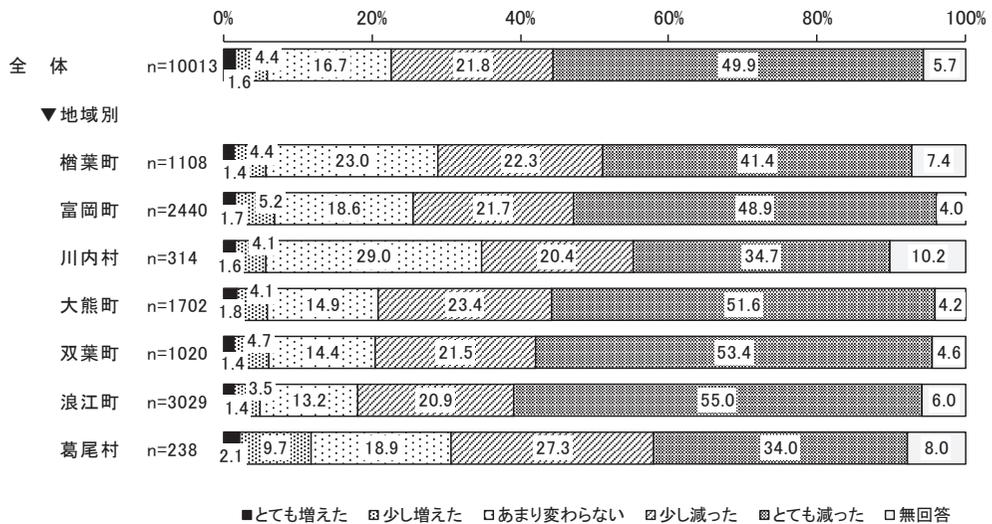


図 6.2.3 「交際・つきあい」時間の増減（町村別）

6.3 心配事を聞いてくれた人の存在

次に「過去 1 年間、必要な時に心配事を聞いてくれた人はいますか」を複数回答で問うた。その結果が図 6.3.1 である。「同居家族」が最も多く、半数以上であった。「専門職の人」や「ボランティアの人」は 1 割にも満たない程度であった。また、「聞いてくれる人はいなかった」が 1 割程度存在している。

町村別にみると、川内村と葛尾村は「近所の人」がそれぞれ 22.3%と 16.8%と、他の町村と比較して非常に高い。ただし、これらの 2 つの町村と同じく、帰還が始まった檜葉町は 9.9%であった。それ以外の項目に関しては、町村ごとに差はみられなかった。

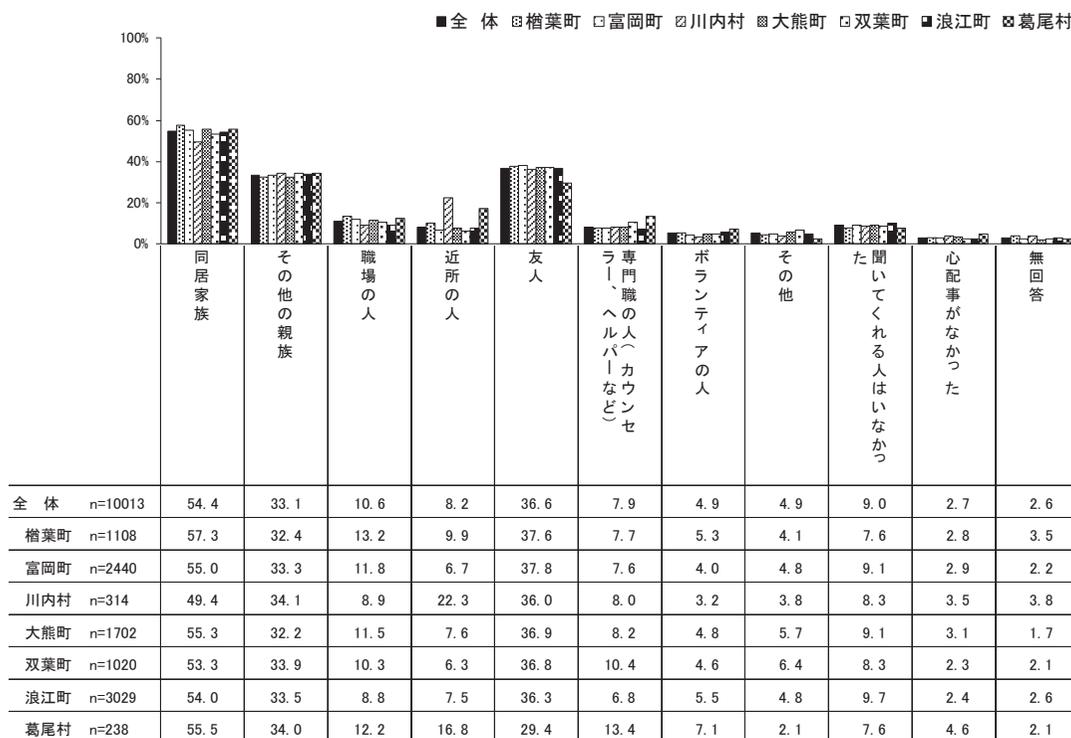


図 6.3.1 心配事を聞いてくれた人の存在（町村別）

6.4 行政やメディアへの信頼度

次に「次にあげるものについて、あなたはどれくらい信頼していますか」と問うた結果が下記の図 6.4.1 である。

全体をみると、政府よりも都道府県、都道府県よりも市町村を信頼している人の割合が高い。また、「学者・研究者」への信頼度に関して、「信頼している」「やや信頼している」を合わせた（37.6%）よりも「あまり信頼していない」「信頼していない」を合わせた方が多い（50.1%）。内閣府が実施する「科学技術と社会に関する世論調査」では、「科学者や技術者の話は信頼できると思うか」という問いに対して、「信頼できる」「どちらかという信頼できる」を合わせた割合が 78.6%で、「あまり信頼できない」「信頼できない」を合わせた割合（15.0%）よりも大きく上回っていることを踏まえても⁴、聞き方などが異なるとはいえ、これら調査対象地域の特徴といえよう。

また、町村別にみると、浪江町は特に、政府と東京電力を「信頼していない」と答える

⁴ 内閣府ホームページ：科学技術と社会に関する世論調査の概要，<https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-kagaku/gairiyaku.pdf>，2017，2020年1月9日アクセス

割合が他の市町と比較しても高い（図 6.4.2 ならびに図 6.4.3）。この背景には、浪江町が内閣総理大臣からの東京電力福島第一原子力発電所から半径 3km～10km 圏内の住民に屋内退避指示がなされたことを確認できず、報道から知ったこと⁵、浪江町の町民 15,000 人以上の集団での裁判外紛争解決手続（ADR）が繰り返し拒否されたこと（最終的に 2018 年 4 月に和解仲介手続きの打ち切りが、原子力損害賠償紛争解決センターより通知）などの特殊な事情を抱えたことが影響していると考えられる。

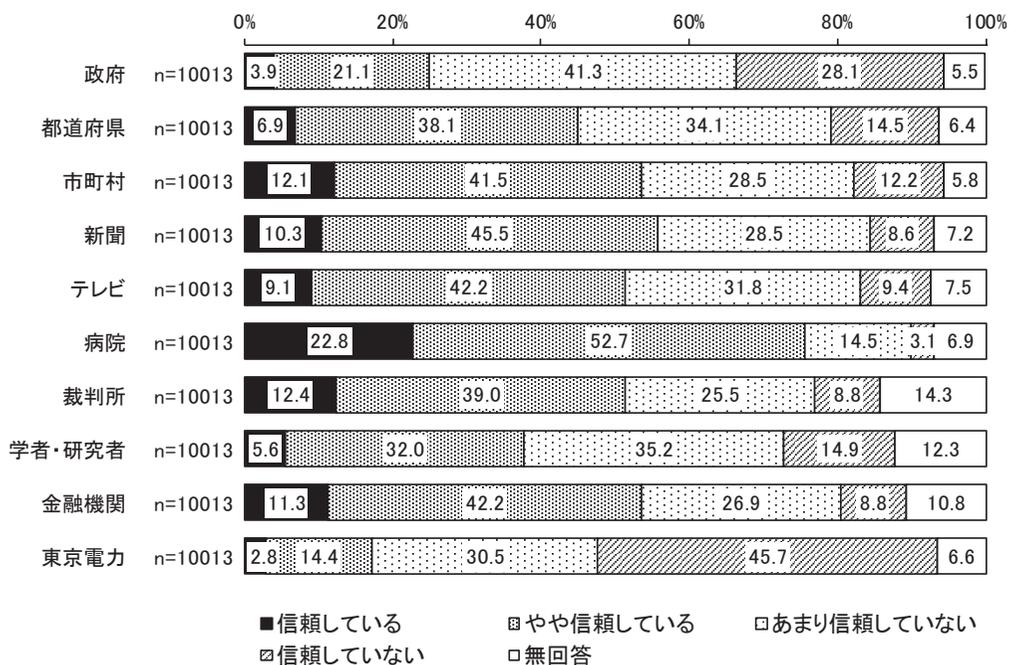


図 6.4.1 政府やメディアへの信頼度

⁵ 福島県双葉郡浪江町役場：浪江町震災記録誌，2017.

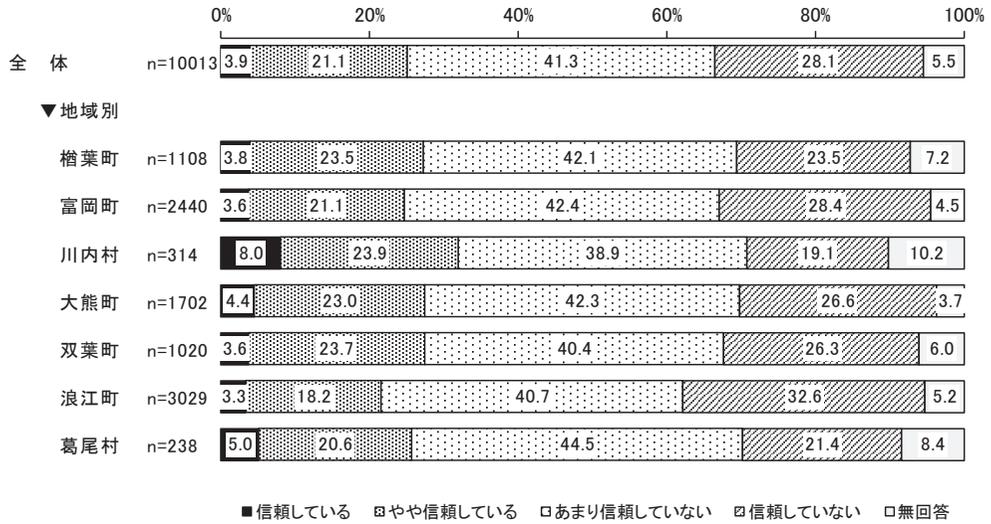


図 6.4.2 政府への信頼感（町村別）

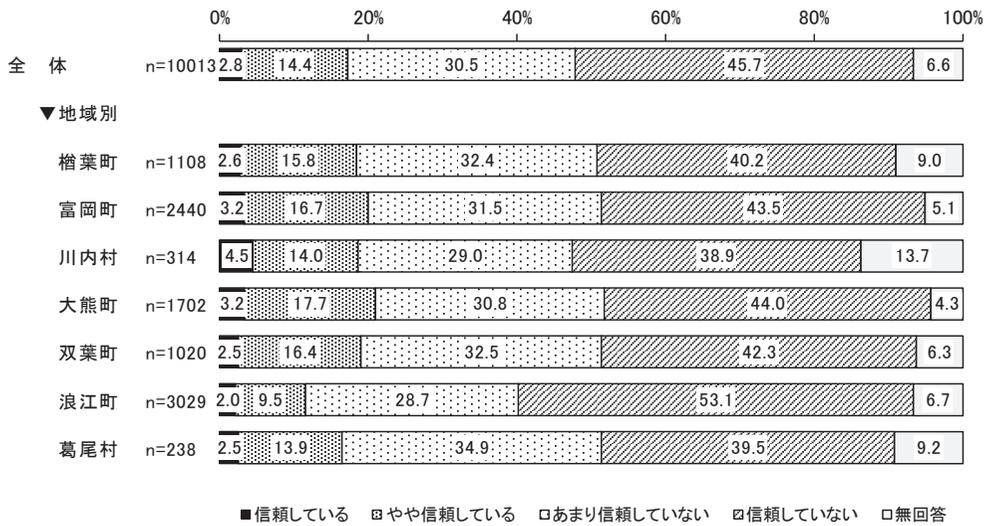


図 6.4.3 東京電力への信頼感（町村別）

7 復興観

7.1 復興に関する不安感

本調査において、復興に関連する不安に関する項目を21項目聞き、因子分析を行った（最尤法、プロマックス回転）。その結果、4因子「『ふるさと』の喪失による辛苦」「放射線被ばくの不安」「つながりの喪失」「廃炉の不安」を抽出した（表7.1.1）。以降、それぞれごとに特徴を記述する。

表 7.1.1 復興に関連する不安に関する因子分析（最尤法、プロマックス回転）

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1：「ふるさと」の喪失による辛苦				
問9-1 愛着ある町、村に帰れないので、つらい	.948	-.056	-.022	-.108
問9-4 本当に帰ることができるのか不安だ	.890	-.003	-.145	.026
問9-3 町、村が荒れ放題になってしまって、つらい	.816	-.110	-.027	.068
問8-8 愛着ある家に帰れず、つらい	.812	-.021	.108	-.122
問8-10 家や庭、田畑が荒れ放題になってしまって、つらい	.705	-.027	.096	-.036
問9-5 将来的に（長期的に）多くの人が帰還するかどうか不安だ	.681	-.051	-.099	.189
問9-2 仕事（生業）や畑仕事を失ってしまって、つらい	.608	.069	.061	-.021
問9-6 公営住宅など知らないところに移ることが不安だ	.521	.130	-.046	-.001
問8-11 震災前の趣味ができなくなってしまって、つらい	.485	.012	.276	-.037
問9-7 これからの前向きに考えることができず不安だ	.455	.090	.126	.107
問8-9 家族の離別などにより家族の団らんや会話が失われて、つらい	.382	.165	.266	-.081
因子2：放射線被ばくの不安				
問8-2 被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ	-.012	.924	-.025	-.067
問8-3 自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ	-.033	.914	.022	-.093
問8-4 低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ	-.034	.718	.024	.170
問8-1 被ばくによる自分の将来の健康が不安だ	.052	.625	-.053	.052
因子3：つながりの喪失				
問8-6 長年の友人・知人などのつながり、交流が薄くなった	-.071	-.030	.918	.033
問8-5 家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった	.003	.056	.748	.010
問8-7 地域のつながり、交流が薄くなった	.107	-.086	.702	.061
因子4：廃炉の不安				
問9-9 原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ	-.041	-.014	.051	.917
問9-10 中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ	-.017	.002	.034	.913
問9-8 土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ	.393	.183	-.073	.407
固有値	9.193	2.288	1.498	1.057
累積固有値 (%)	43.8	10.9	7.1	5.0
因子抽出法: 最尤法				

(1) 『ふるさと』の喪失による辛苦

まず、抽出されたのが「『ふるさと』の喪失による辛苦」である。「愛着ある町、村に帰れないので、つらい」「本当に帰ることができるのか不安だ」「町、村が荒れ放題になってしまって、つらい」「愛着ある家に帰れず、つらい」「家や庭、田畑が荒れ放題になってしまって、つらい」「将来的に（長期的に）多くの人が帰還するかどうか不安だ」との回答につよくあてはまる、ややあてはまるとの回答が半数以上であった（図7.1.1）。

なお、それぞれの項目について、因子得点を性別、年齢別、市町村別、避難指示解除後に帰還したか否か、就業者か否か（65歳以上/以下か）で分類し、特徴を見出した。年齢が高いほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、非就業者ほど、これらの辛苦が強いことがわかった（図 7.1.2）。

（2）放射線被ばくへの不安

次に放射線被ばくへの不安である。「被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ」「自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ」「低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ」「被ばくによる自分の将来の健康が不安だ」などであるが、「自分の将来の健康」についてはあまり不安に思わないものの、子ども、孫などの健康、またそれによる差別などについての不安に「強くあてはまる」「ややあてはまる」と回答している人が半数以上おり、これらの不安は根強いことがわかった。また、低線量放射線被ばくへの不安についても「強くあてはまる」「ややあてはまる」と回答している人が半数以上おり、不安は完全には払しょくされていないことがわかった（図 7.1.3）。

なお、因子得点から属性ごとの特徴を見出すと、女性ほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、やや不安感強い傾向にあったが、全体としてみて、属性のよる違いというのは大きな特徴はみられなかった（図 7.1.4）。

（3）つながりの喪失

次に「つながりの喪失」である。「長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった」「家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった」「地域のつながり、交流が薄くなった」などであるが、多くの方が「強くあてはまる」「ややあてはまる」と同意していた。特に、友人・知人、地域のつながりについてあてはまるところを多く答えている人が多かった（図 7.1.5）。

なお、因子得点から属性ごとの特徴を見出すと、年齢が高いほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、これらの喪失感が強いことがわかった（図 7.1.6）。

（4）廃炉の不安

次に「廃炉の不安」である。「原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ」「中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ」「土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ」などであるが、特に、廃炉に伴う事故や中間貯蔵・廃棄物処理施設への安全性についての不安に「強くあてはまる」「ややあてはまる」と回答している人が半数以上おり、不安は根強いことが分かった（図 7.1.7）。

なお、因子得点から属性ごとの特徴を見出すと、年齢が高いほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、これらの不安感がやや強いことがわかった。全体としては、属性のよる違いというのは大きな特徴はみられなかった（図 7.1.8）。

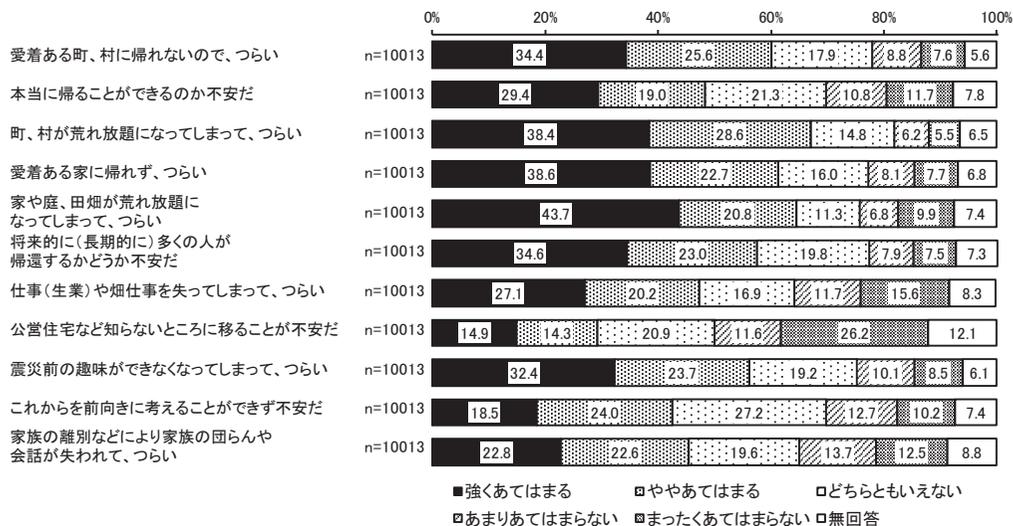


図 7.1.1 『ふるさと』の喪失による辛苦

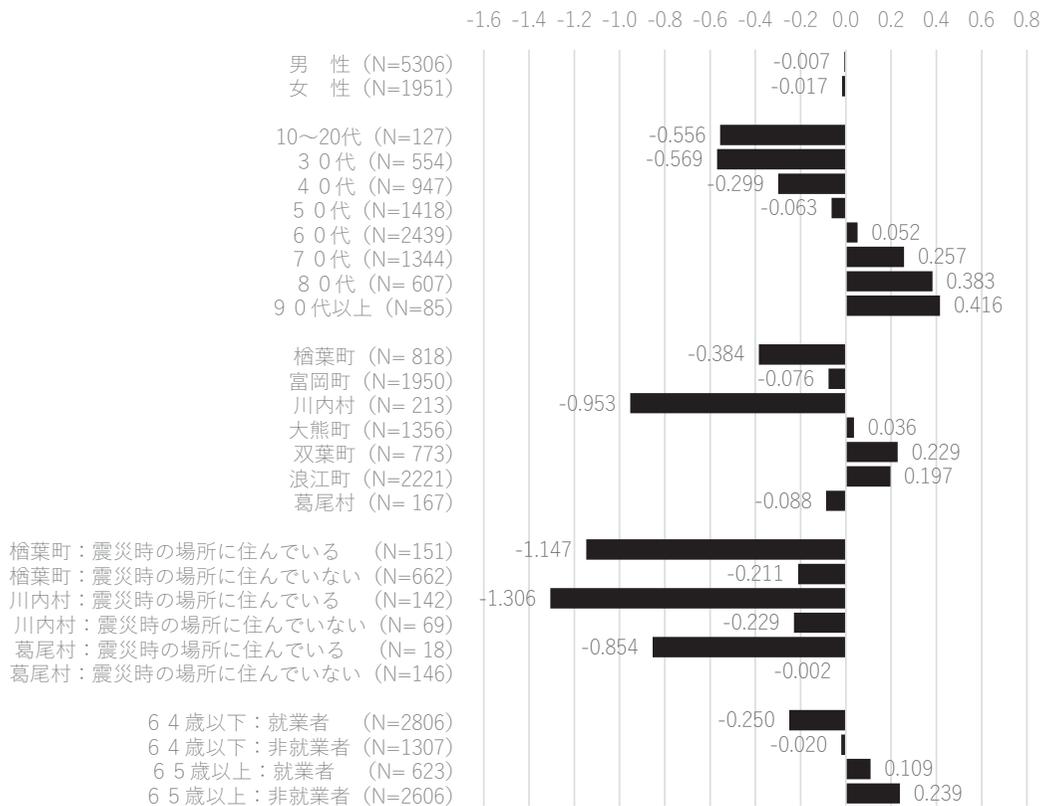


図 7.1.2 因子1：「ふるさと」の喪失による辛苦（属性別因子得点）

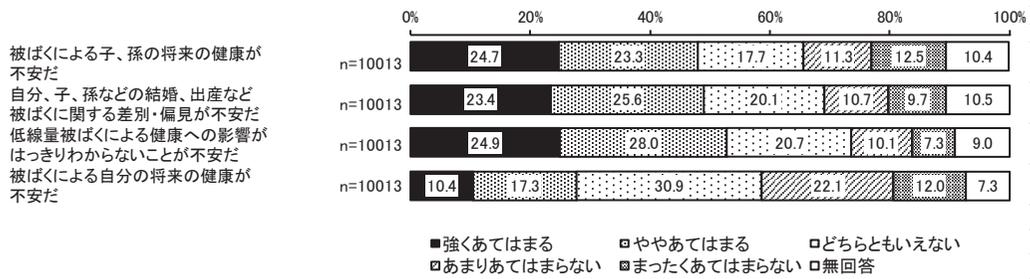


図 7.1.3 放射線被ばくの不安

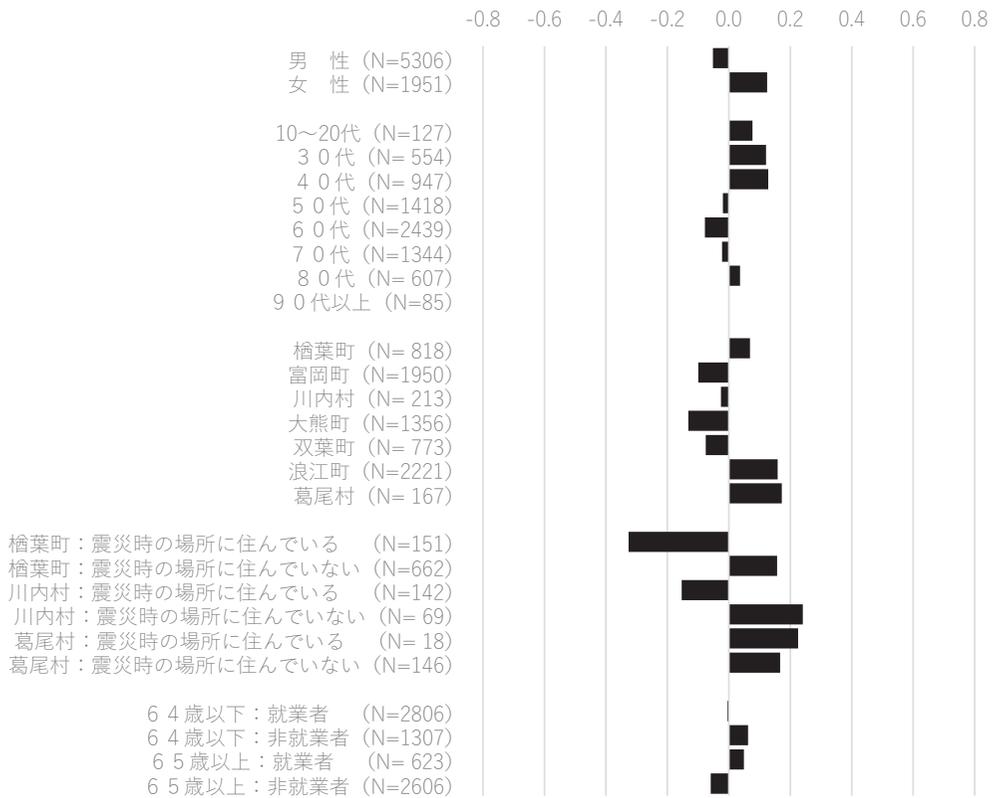


図 7.1.4 因子 2：放射線被ばくの不安（属性別因子得点）

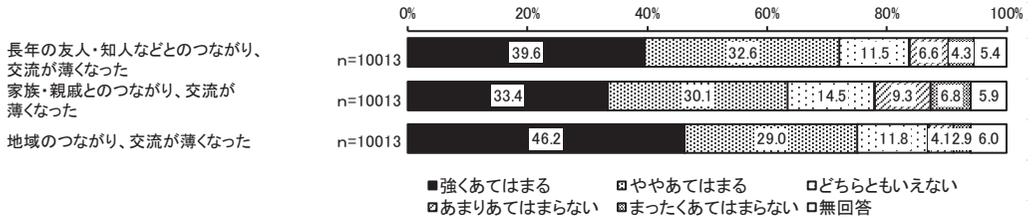


図 7.1.5 つながりの喪失

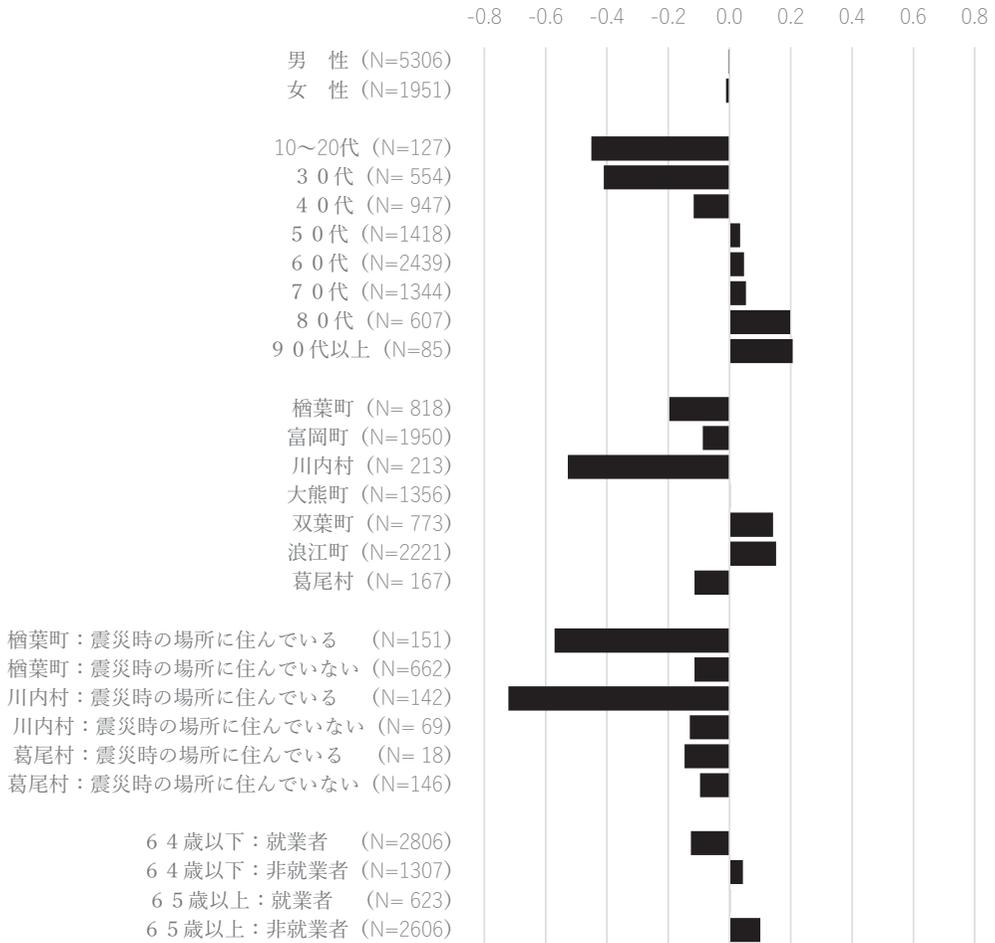


図 7.1.6 因子3：つながりの喪失（属性別因子得点）

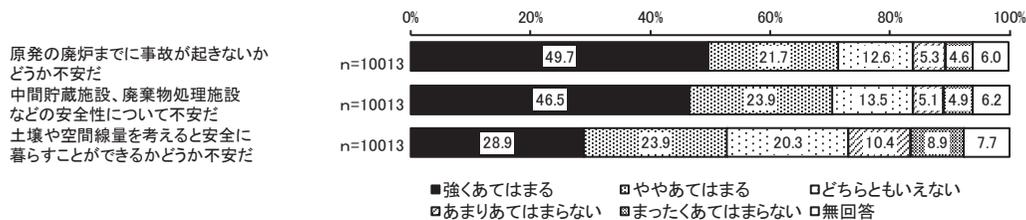


図 7.1.7 廃炉の不安

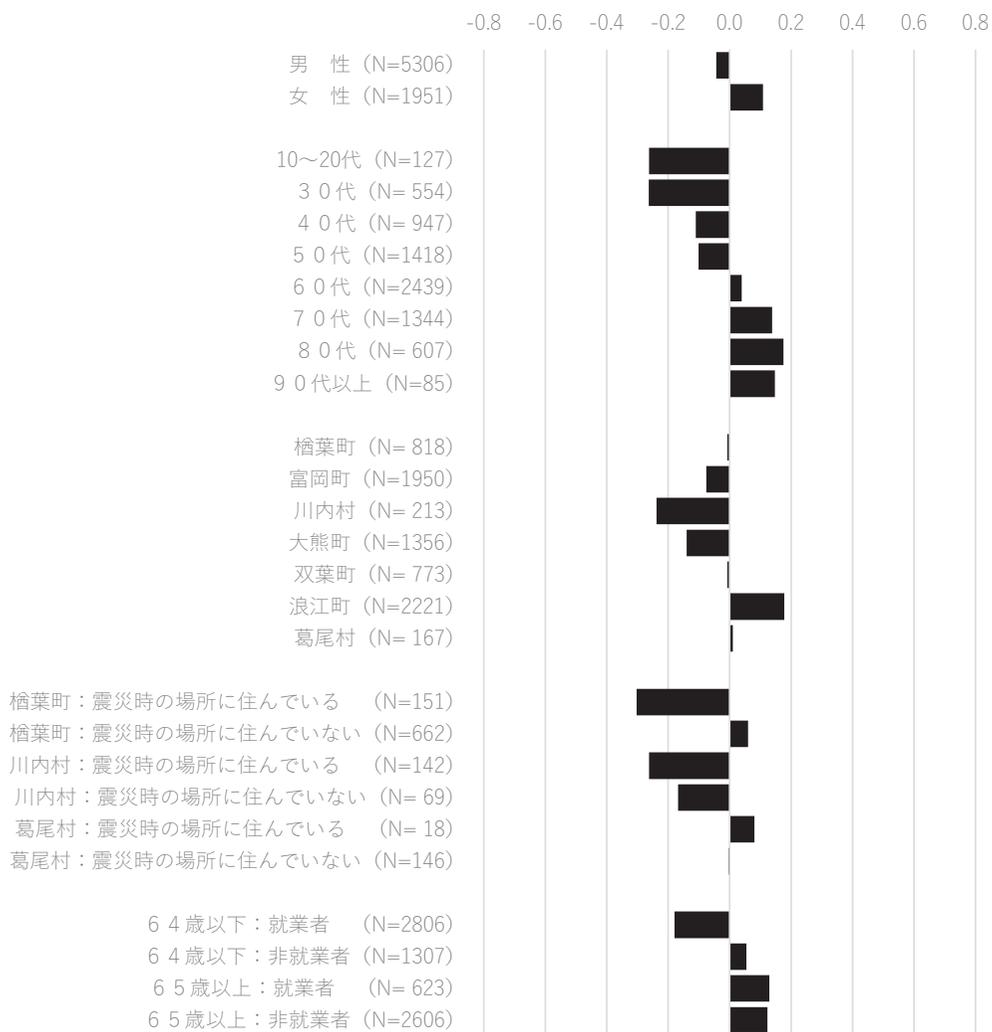


図 7.1.8 因子 4：廃炉の不安（属性別因子得点）

7.2 今後の見通し

「将来の自分の仕事や生活に希望があるあるか」と聞いたところ、特徴的なのは、若いほど、

就労者ほど、希望があると答えていた。市町村毎などでも他に大きな差はなかった（図 7.2.1）。必ずしも、災害の経験によるものではないが、年齢が、将来の生活再建への意欲と大きくかかわることは改めて考えておくべきことであろう。

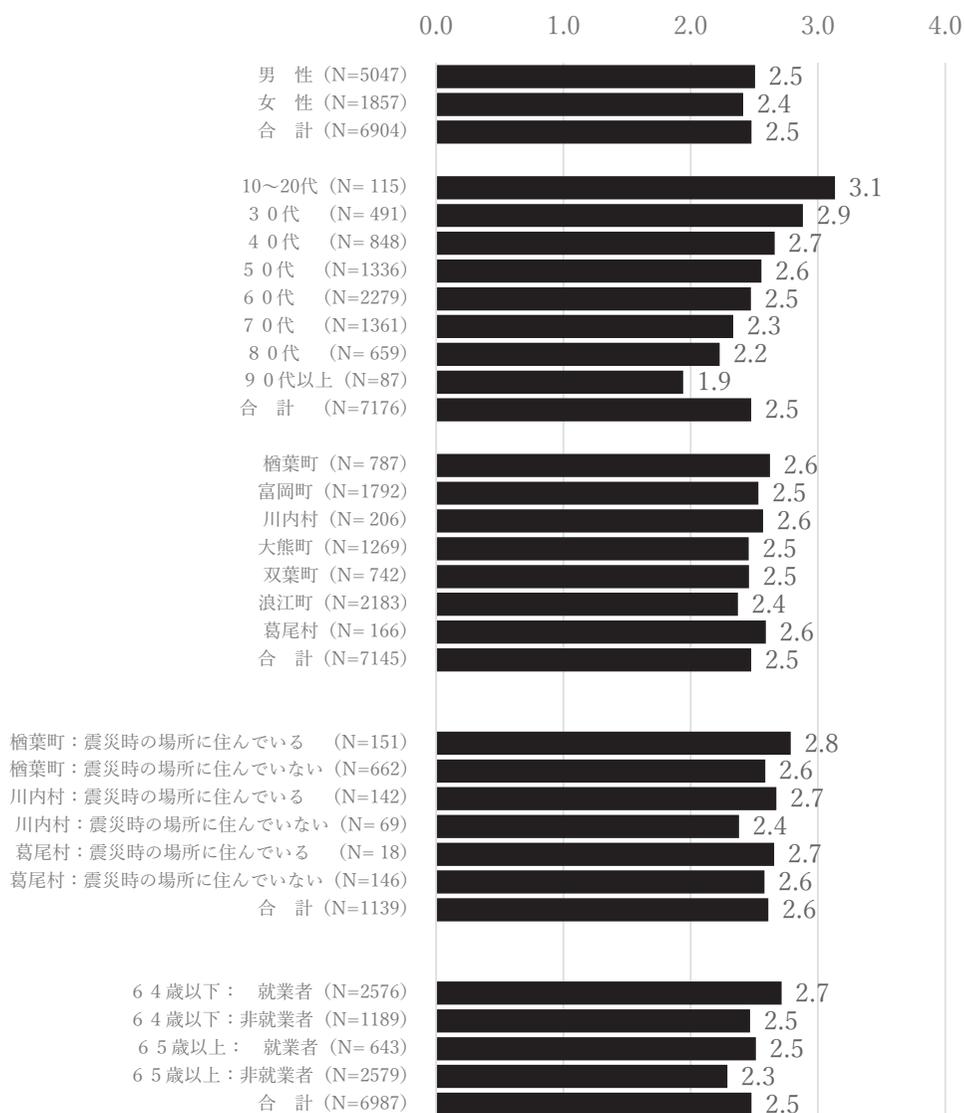


図 7.2.1 あなたは、将来の自分の仕事や生活に希望がありますか

「震災直後と比べると落ち着いてきた」「将来の自分自身の生活を考えなければと思うようになった」との質問についても、若干、若いほど、帰還した人ほど、そのように答えていた（図 7.2.2、図 7.2.3）。

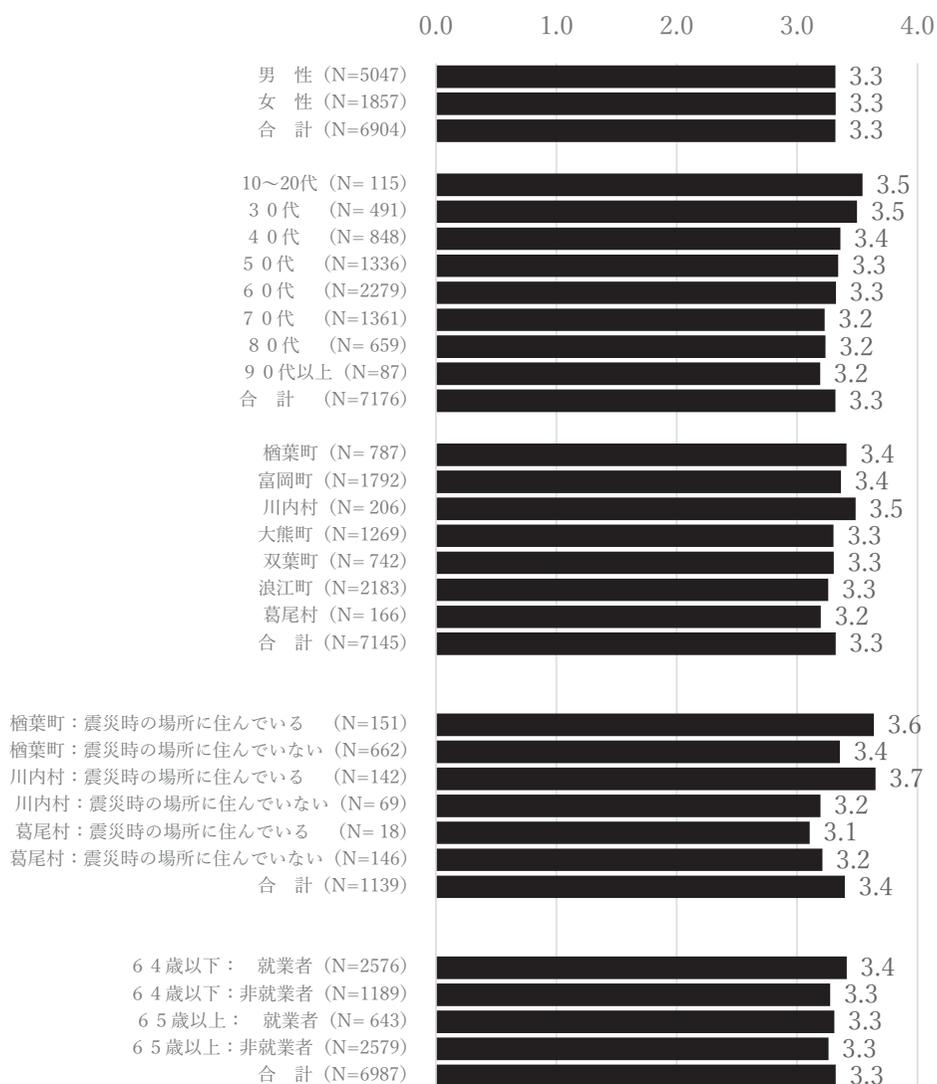


図 7.2.2 震災直後と比べると、落ち着いてきた

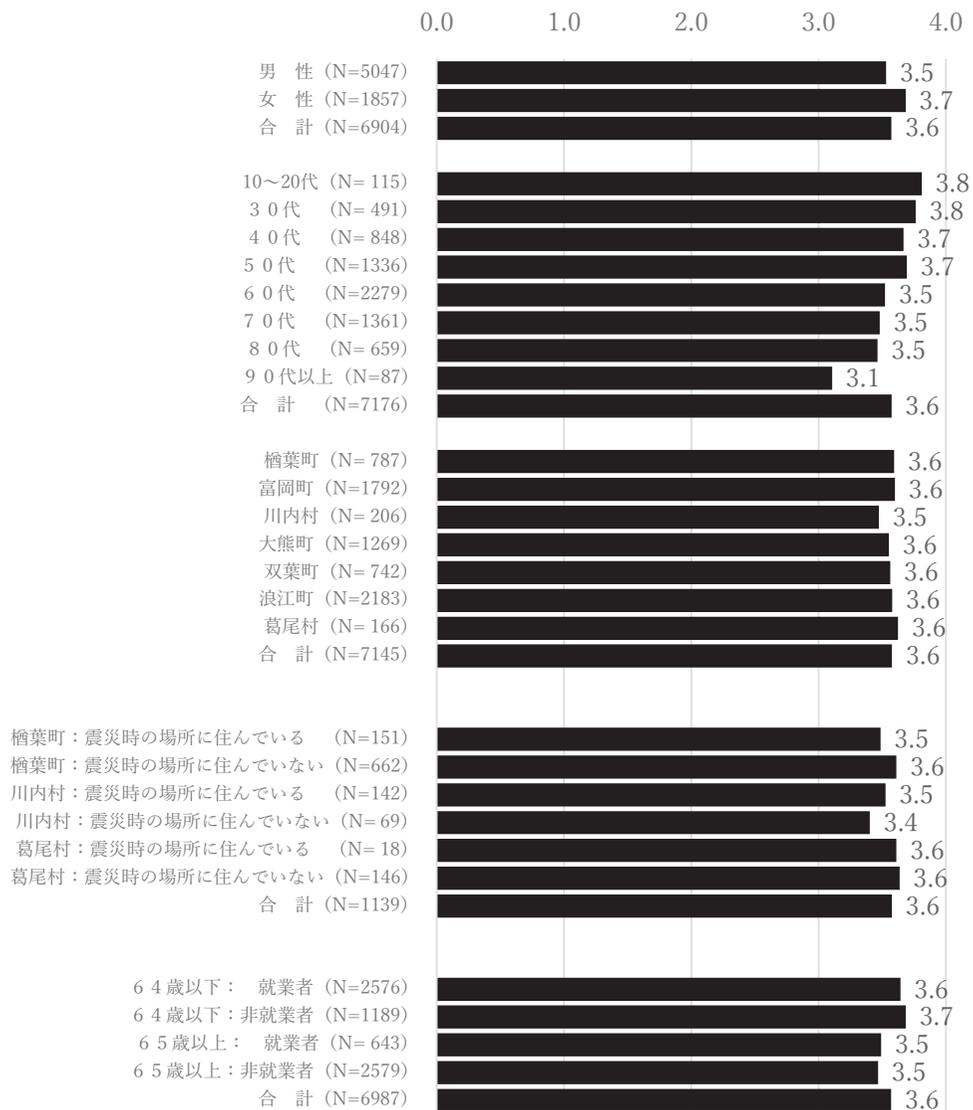


図 7.2.3 将来の、自分自身の生活を考えなければと思うようになった

「将来の町・村の未来を考えなければと思うようになった」との質問には、帰還している市町村ほど、帰還した人ほど、そのように答えていた。また、年齢層が高いほどそのように答えていた（図 7.2.4）。長く住んでいた人ほど、愛着があり、その行く末を考えている、逆の見方からすれば、不安視しているのである。

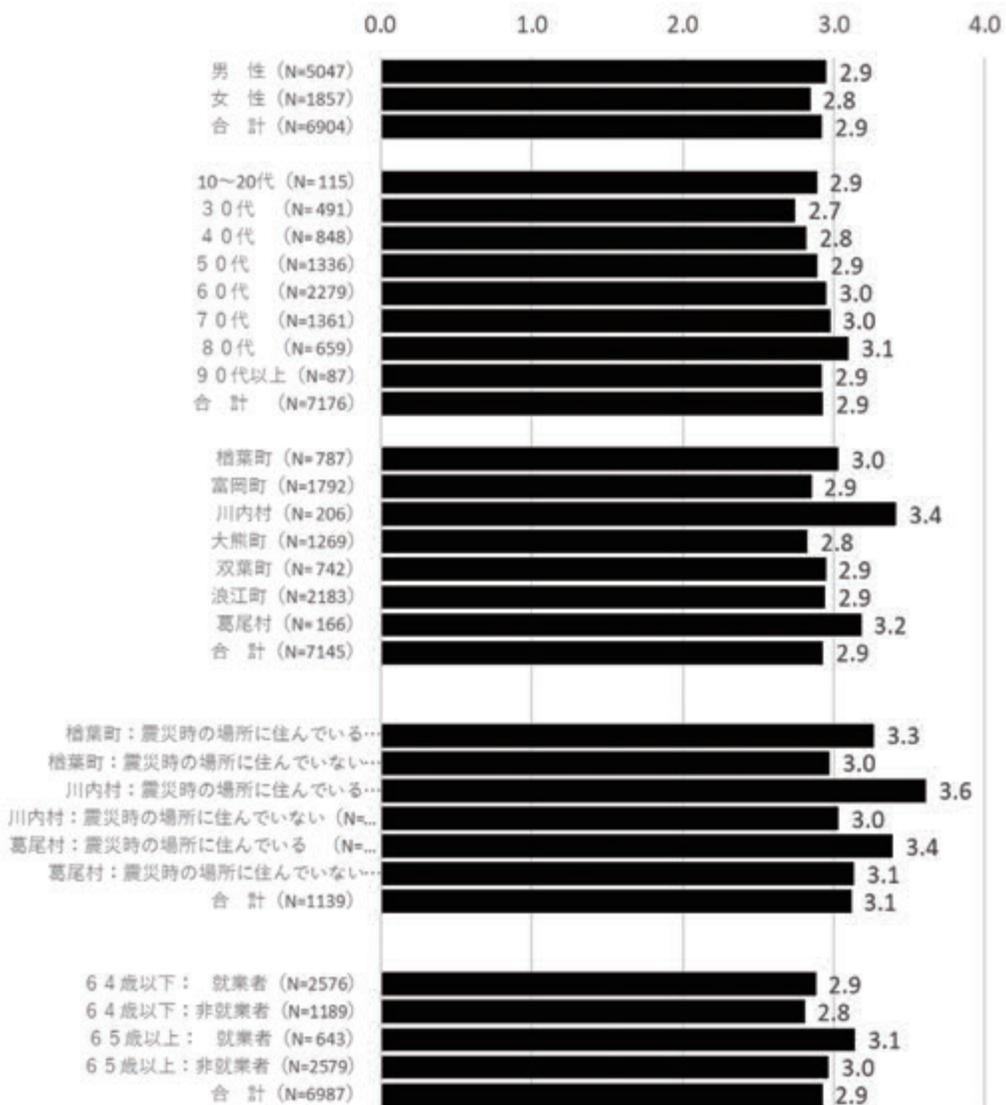


図 7.2.4 将来の、町・村の未来を考えなければと思うようになった

付属資料（アンケート調査の単純集計）

なお、下記は特段の記載がない限り、N=10013 である。

1) 世帯の状況

問1 あなたご自身についておたずねします。性別と年齢、生年月をお答えください。

(1) 性別 (男性 67.2%・女性 27.2%) 無回答 5.6%

(2) 年齢 満_____歳 (平均 63.6 歳) 無回答 1.2%
生年月 (西暦・大正・昭和・平成) _____年_____月

(3) あなたの職業についておたずねします。震災前のお仕事はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 正規の職員・従業員	36.5%
2 派遣社員	1.0%
3 パート・アルバイト (契約社員、嘱託を含む)	8.2%
4 会社などの役員	4.0%
5 自営業主 (自由業を含む)	14.3%
6 家族従業者 (農家や商店など自営業主の家族)	4.8%
7 内職	0.3%
8 無職 (主婦・主夫を含む)	28.3%
9 学生	0.5%
無回答	2.1%

【(3) で「1～6」とお答えの方に】

(4) 震災前のお仕事の業種をお答えください。(〇は1つ) n=6886

1 農林漁業	12.0%
2 建設業	20.7%
3 製造業	9.0%
4 電気・ガス・水道業	9.3%
5 運輸・通信業	3.5%
6 卸売・小売・飲食店	7.2%
7 金融・保険業	1.4%
8 不動産業	0.6%
9 サービス業	15.2%
10 公務	8.3%
11 その他 (具体的に: _____)	10.9%
無回答	2.1%

【全員の方におたずねします】

(5) 現在のお仕事はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1	正規の職員・従業員	20.6%
2	派遣社員	0.9%
3	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	6.9%
4	会社などの役員	3.2%
5	自営業主（自由業を含む）	6.5%
6	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	1.3%
7	内職	0.7%
8	無職（主婦・主夫を含む）	55.5%
9	学生	0.2%
	無回答	4.1%

【(5)で「1～6」とお答えの方に】

(6) 現在のお仕事の業種をお答えください。(〇は1つ) n=3954

1	農林漁業	5.8%
2	建設業	22.3%
3	製造業	8.3%
4	電気・ガス・水道業	10.8%
5	運輸・通信業	3.5%
6	卸売・小売・飲食店	5.9%
7	金融・保険業	1.4%
8	不動産業	1.3%
9	サービス業	14.2%
10	公務	10.6%
11	その他（具体的に：_____）	13.8%
	無回答	2.1%

【全員の方におたずねします】

問2 あなたのご家族についておたずねします。

(1) 被災前に同居されていた方は、あなたを含めて何人でしたか。

() 人 (平均 3.3人) 無回答 0.9%

(2) 被災前に同居されていた方について、以下の項目の現在の状況を教えてください。また、**世帯主の方1人**に○をつけてください。震災後、別々に暮らしているご家族や亡くなった方がいる場合には、右端の欄に○をつけてください。

	世帯主	続柄	性別	年齢	在学中	仕事の有無	震災後、 別居や死去
例	○	あなたの 妻の父	男・女	64 歳	はい・いいえ	あり・なし	
1		あなたご自身	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	
2		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
3		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
4		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
5		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
6		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
7		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
8		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
9		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去

※10人以上いらっしゃる場合は下の余白に続きをご記入ください。

(3) 現在、あなたは次の状況にあてはまりますか。現在の同居の状況についてそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

・ 65歳以上の高齢者のみの世帯	はい (32.4%)	いいえ (46.0%)	無回答 (21.6%)
・ 母子のみの世帯*	はい (3.8%)	いいえ (40.9%)	無回答 (55.3%)
*子どもは、18才以下のお子さんを指します(18歳に達する年度の3月末まで)			
・ 単身世帯	はい (15.3%)	いいえ (37.3%)	無回答 (47.4%)

2) 住まい

問3 あなたのお住まいについておたずねします。

(1) 震災時のお住まいはどちらですか。町村、^{あざ}字までご記入ください。

(当時、双葉郡に住んでいなかった方は×印に○をつけてください)

福島県双葉郡 _____ 町
村 (大字) _____ (小字) _____

震災時、双葉郡に住んでいなかった

福島県双葉郡檜葉町	11.1%
福島県双葉郡富岡町	24.4%
福島県双葉郡川内村	3.1%
福島県双葉郡大熊町	17.0%
福島県双葉郡双葉町	10.2%
福島県双葉郡浪江町	30.3%
福島県双葉郡葛尾村	2.4%
震災時、双葉郡に住んでいなかった	-
無回答	1.6%

(大字以降は省略)

【(2)～(3)は震災時、双葉郡に住んでいた方に】

(2) 震災時のお住まいは、現在の避難区域ではどれに指定されていますか。該当するもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

1 帰還困難区域	40.1%
2 居住制限区域	23.8%
3 避難指示解除準備区域	25.4%
4 それ以外	6.5%
5 わからない	1.7%
無回答	2.6%

(3) 震災時のお住まいは、現在、どれくらいの線量ですか。小数第1位までご記入ください。

(わからない場合は×印に○をつけてください)

() $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/時間) (平均 3.6 $\mu\text{Sv/h}$)

X わからない (57.9%) 無回答 6.7%

0. 1 $\mu\text{Sv/h}$ 未満	2.4%	2 $\mu\text{Sv/h}$ 台	3.0%
0. 1 $\mu\text{Sv/h}$ 台	4.0%	3 $\mu\text{Sv/h}$ 台	2.4%
0. 2 $\mu\text{Sv/h}$ 台	3.7%	4 $\mu\text{Sv/h}$ 台	1.5%
0. 3 $\mu\text{Sv/h}$ 台	2.5%	5 $\mu\text{Sv/h}$ 台	1.5%
0. 4 $\mu\text{Sv/h}$ 台	1.7%	6 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.6%
0. 5 $\mu\text{Sv/h}$ 台	2.1%	7 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.5%
0. 6 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.8%	8 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.4%
0. 7 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.6%	9 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.2%
0. 8 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.8%	10 $\mu\text{Sv/h}$ 以上	2.6%
0. 9 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.3%	わからない	57.9%
1 $\mu\text{Sv/h}$ 台	3.6%	無回答	6.7%

【全員の方におたずねします】

(4) 次に、現在のお住まいについておたずねします。現在の住まいの種類として、最も近いもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

1 仮設住宅 (プレハブ・木造)	7.7%
2 みなし仮設住宅 (民間借上げ住宅等)	16.8%
3 自己負担の賃貸住宅 (公営住宅を除く)	6.0%
4 親戚・知人宅	2.4%
5 購入・再建した持ち家 (集合住宅を含む)	45.0%
6 元々住んでいた持ち家 (集合住宅を含む)	4.6%
7 復興公営住宅	7.9%
8 その他の公営住宅	1.7%
9 社宅・寮・官舎	1.0%
10 その他 (具体的に: _____)	5.0%
無回答	1.9%

【全員の方におたずねします】

3) 健康・福祉

問4 ここからは、心身の健康についてお伺いします。

(1) あなたの健康状態は、いかがですか。(〇は1つ)

1	良い	8.3%
2	やや良い	5.4%
3	ふつう	46.1%
4	やや悪い	27.9%
5	悪い	8.9%
	無回答	3.4%

(2) 以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近い番号を

「1」から「6」の中から選んでそれぞれ1つ〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	最近2週間、 私は・・・	いつも	ほとんど いつも	半分以上 の期間を	半分以下 の期間を	ほんの ために	まったく ない	無回答
1	明るく、楽しい気分 で過ごした	4.6%	14.4%	23.6%	17.5%	24.8%	10.1%	5.0%
2	落ち着いた、リラ ックスした気分 で過ごした	4.6%	15.4%	24.4%	18.4%	21.7%	10.4%	5.2%
3	意欲的で、活動的 に過ごした	4.0%	12.1%	21.1%	16.6%	22.9%	17.2%	6.1%
4	ぐっすりと休め、 気持ちよくめざめ た	4.6%	15.1%	20.6%	18.8%	22.0%	13.5%	5.4%
5	日常生活の中に、 興味のあることが たくさんあった	4.1%	9.9%	18.6%	14.6%	29.8%	17.5%	5.4%

4) 賠償を含む経済的な問題

問5 賠償を含む経済的な問題についておたずねします。

(1) 現在の生活設計は何でやりくりされていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 賠償金	56.5%
2 勤労収入	32.7%
3 事業収入	4.9%
4 年金・恩給	50.7%
5 預貯金	28.7%
6 借金	0.7%
7 生活保護	0.3%
8 その他(具体的に: _____)	1.6%
無回答	1.1%

(2) 今後の生活について、あなたは経済的に不安を感じていますか。(○は1つ)

1 とても不安を感じている	33.9%
2 ある程度不安を感じている	40.5%
3 どちらとも言えない	10.4%
4 あまり不安を感じていない	12.1%
5 まったく不安を感じていない	1.9%
無回答	1.2%

(3) あなたは将来、医療費や介護サービス利用料の減免がなくなることに不安を感じていますか。(○は1つ)

1 とても不安を感じている	57.7%
2 ある程度不安を感じている	28.1%
3 どちらとも言えない	6.3%
4 あまり不安を感じていない	5.4%
5 まったく不安を感じていない	1.3%
無回答	1.1%

(4) あなたは、次のような賠償を東京電力から受けていますか。次の精神的損害賠償、生命・身体損害、営業損害および就労損害についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）

(ア) 精神的損害賠償

1	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	67.3%
2	現在受け取っている	23.0%
3	全く受け取っていない	5.7%
	無回答	3.9%

(イ) 生命・身体損害賠償

1	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	29.7%
2	現在受け取っている	9.2%
3	全く受け取っていない	52.6%
	無回答	8.6%

(ウ) 営業損害賠償および就労損害賠償

1	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	41.7%
2	現在受け取っている	7.3%
3	全く受け取っていない	41.0%
	無回答	10.0%

(5) 住居に関する賠償（財物、住居確保損害）は受け取りましたか。あてはまるものの1つに○をつけてください。（○は1つ）

1	すでに受け取っており、今後請求する予定はない	39.3%
2	一部受け取っており、今後追加請求する	33.3%
3	今後請求するつもりだが、まだまったく請求していない	6.6%
4	請求するつもりはない	1.7%
5	適用対象外のため請求できない	7.1%
6	請求書類が東京電力から届いていない	1.7%
7	その他（具体的に：_____）	5.5%
	無回答	4.8%

(6) 政府や東京電力は、慰謝料や営業損害などの継続的な賠償金の支払いを、今後1～2年程度でおおむね終了していく方針を示しています。これについてあなたは不安を感じていますか。すでに賠償が打ち切られている方もお答えください。(○は1つ)

1	とても感じている	54.4%
2	ある程度感じている	24.1%
3	どちらとも言えない	9.9%
4	あまり感じていない	6.8%
5	まったく感じていない	2.7%
	無回答	2.1%

(7) 賠償に関する困りごとについてお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	請求書類や手続きが煩雑だ	48.9%
2	賠償額が少ない	46.5%
3	地域によって賠償に差がある	42.0%
4	東京電力と国が賠償額を決めてしまう	45.2%
5	住居確保損害の使い勝手が悪い	18.6%
6	東京電力の賠償相談の対応に不満がある	25.9%
7	東京電力から、過払い分の返還請求(今後の支払額から控除する通告)を受けている	2.5%
8	賠償金に課税されてしまう	17.1%
9	原子力損害賠償紛争解決センター(ADRセンター)を利用したが、その解決内容に不満がある	7.8%
10	その他(具体的に: _____)	9.6%
	無回答	8.0%

5) 生活

問6 現在の暮らしについてお伺いします。

(1) あなたは現在の生活においてお困りのことはありますか。 **あてはまるものすべて**に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	仕事や事業	25.4%
2	生活費	35.4%
3	健康や介護	53.5%
4	家族関係	21.4%
5	住居	24.0%
6	放射線の影響	20.0%
7	子どもの学校	6.3%
8	周りの人との人間関係	35.0%
9	その他(具体的に: _____)	5.7%
10	特に困っていることはない	12.3%
	無回答	2.8%

(2) あなたの生活時間についておたずねします。以下の活動は、震災前と比べて増えましたか、それとも減りましたか。「1」から「5」までの番号にそれぞれ**1つずつ**○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	とても増えた	少し増えた	あまり変わらない	少し減った	とても減った	無回答
1 睡眠	3.7%	8.9%	40.1%	25.6%	17.9%	3.8%
2 仕事	5.6%	5.7%	20.6%	9.4%	41.7%	17.0%
3 移動(通勤・通学を除く)	24.6%	11.6%	19.2%	7.7%	17.6%	19.4%
4 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	14.1%	17.7%	41.0%	11.3%	8.6%	7.3%
5 趣味・娯楽	2.1%	8.7%	28.6%	20.8%	33.3%	6.4%
6 交際・つきあい	1.6%	4.4%	16.7%	21.8%	49.9%	5.7%
7 受診・療養	22.1%	28.8%	34.6%	5.4%	4.4%	4.7%

(3) 過去1年間、必要な時に心配事を聞いてくれた人はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	同居家族	54.4%
2	その他の親族	33.1%
3	職場の人	10.6%
4	近所の人	8.2%
5	友人	36.6%
6	専門職の人(カウンセラー、ヘルパーなど)	7.9%
7	ボランティアの人	4.9%
8	その他(具体的に: _____)	4.9%
9	聞いてくれる人はいなかった	9.0%
10	心配事がなかった	2.7%
	無回答	2.6%

(4) あなたのご家族には、長期にわたる心身の病気・障がいや高齢のためにケアが必要な方はいますか。あなたと別々に暮らしている方も含めてお答えください。

(○は1つ)

1	家族にいて、自分が主にケアしている	18.1%
2	家族にいて、自分は主にケアしていない	18.9%
3	家族の中にいない	54.9%
	無回答	8.0%

(5) 次にあげるものについて、あなたはどれくらい信頼していますか。「1」から「4」までの番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	信頼している	やや 信頼している	あまり 信頼していない	信頼していない	無回答
1 政府	3.9%	21.1%	41.3%	28.1%	5.5%
2 都道府県	6.9%	38.1%	34.1%	14.5%	6.4%
3 市町村	12.1%	41.5%	28.5%	12.2%	5.8%
4 新聞	10.3%	45.5%	28.5%	8.6%	7.2%
5 テレビ	9.1%	42.2%	31.8%	9.4%	7.5%
6 病院	22.8%	52.7%	14.5%	3.1%	6.9%
7 裁判所	12.4%	39.0%	25.5%	8.8%	14.3%
8 学者・研究	5.6%	32.0%	35.2%	14.9%	12.3%
9 金融機関	11.3%	42.2%	26.9%	8.8%	10.8%
10 東京電力	2.8%	14.4%	30.5%	45.7%	6.6%

問7 次の8つの項目について、あてはまる時期があれば、それぞれ例にならって矢印で下記にご記入ください。なお、それぞれそのような時期がなかった場合には書かなくてかまいません。(※省略)

	2011年	2012年			2013年			2014年			2015年			2016年			2017年
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	現在
例 避難所にいた期間	←→																
1 体調がよくなかった／よくない																	
2 精神的に不安定だった／不安定だ																	
3 被ばくへの不安が強かった／強い																	
4 人間関係がギクシャクしていた／している																	
5 家、生活、思い出など失った過去への喪失感が強かった／強い																	
6 ふるさとを失った喪失感が強かった／強い																	
7 将来の生活への不安が強かった／強い																	
8 廃炉や地域の復興への不安が強かった／強い																	

問8 現在のあなたのお考えについて、「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない あまり	あてはまらない まったく	無回答
1 被ばくによる自分の将来の健康が不安だ	10.4%	17.3%	30.9%	22.1%	12.0%	7.3%
2 被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ	24.7%	23.3%	17.7%	11.3%	12.5%	10.4%
3 自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ	23.4%	25.6%	20.1%	10.7%	9.7%	10.5%
4 低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ	24.9%	28.0%	20.7%	10.1%	7.3%	9.0%
5 家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった	33.4%	30.1%	14.5%	9.3%	6.8%	5.9%
6 長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった	39.6%	32.6%	11.5%	6.6%	4.3%	5.4%
7 地域のつながり、交流が薄くなった	46.2%	29.0%	11.8%	4.1%	2.9%	6.0%
8 愛着ある家に帰れず、つらい	38.6%	22.7%	16.0%	8.1%	7.7%	6.8%
9 家族の離別などにより家族の団らんや会話が失われて、つらい	22.8%	22.6%	19.6%	13.7%	12.5%	8.8%
10 家や庭、田畑が荒れ放題になってしまって、つらい	43.7%	20.8%	11.3%	6.8%	9.9%	7.4%
11 震災前の趣味ができなくなってしまって、つらい	32.4%	23.7%	19.2%	10.1%	8.5%	6.1%

問9 現在のあなたのお考えについて、「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ**1つずつ**○をつけてください。(○はそれぞれ**1つずつ**)

	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
1 愛着ある町、村に帰れないので、つらい	34.4%	25.6%	17.9%	8.8%	7.6%	5.6%
2 仕事(生業)や畑仕事を失ってしまって、つらい	27.1%	20.2%	16.9%	11.7%	15.6%	8.3%
3 町、村が荒れ放題になってしまって、つらい	38.4%	28.6%	14.8%	6.2%	5.5%	6.5%
4 本当に帰ることができるのか不安だ	29.4%	19.0%	21.3%	10.8%	11.7%	7.8%
5 将来的に(長期的に)多くの人が帰還するかどうか不安だ	34.6%	23.0%	19.8%	7.9%	7.5%	7.3%
6 公営住宅など知らないところに移ることが不安だ	14.9%	14.3%	20.9%	11.6%	26.2%	12.1%
7 これからを前向きに考えることができず不安だ	18.5%	24.0%	27.2%	12.7%	10.2%	7.4%
8 土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ	28.9%	23.9%	20.3%	10.4%	8.9%	7.7%
9 原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ	49.7%	21.7%	12.6%	5.3%	4.6%	6.0%
10 中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ	46.5%	23.9%	13.5%	5.1%	4.9%	6.2%

問10 現在のあなたのお考えについてお伺いします。

(1) あなたは、将来の自分の仕事や生活に希望がありますか。(○は**1つ**)

1 大いに希望がある	2.7%
2 希望がある	13.3%
3 どちらともいえない	29.8%
4 あまり希望がない	31.4%
5 まったく希望がない	19.1%
無回答	3.6%

(2) 以下の3つの項目について、「1」から「5」までのあてはまる番号に**1つずつ**○をつけてください。(○はそれぞれ**1つずつ**)

(3) 前問(2)で「1」「2」とお答えの方におうかがいします。それはいつ頃からですか。

「1」～「5」の番号に 1つずつ ○をつけてください。	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あてはまらないあまり	あてはまらないまったく	無回答
1 震災直後と比べると、落ち着いてきた	6.6%	27.0%	29.5%	7.0%	4.8%	25.2%
2 将来の、自分自身の生活を考えなければと思うようになった	16.1%	21.8%	26.9%	5.7%	3.1%	26.4%
3 将来の、町・村の未来を考えなければと思うようになった	5.5%	10.6%	36.9%	11.9%	7.5%	27.6%

【前問でそれぞれ「1」「2」とお答えの方に】

それはいつ頃からですか。

(年は西暦でご記入ください)

年 月頃
から

年 月頃
から

年 月頃
から

※省略

問 11 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故からの約6年間を振り返って、あなたの思い／意見／提案などがあれば、ぜひお書きください。

省略

自治体による漁港を中心とした漁業地域における津波対策の現状

The Current Situation of Tsunami Countermeasures by Logal Governments in Fishing Ports

安本 真也 Shinya YASUMOTO

関谷 直也 Naoya SEKIYA

田中 淳 Atsushi TANAKA

目 次

1. はじめに
2. 災害に強い漁業地域づくりガイドラインの概要
3. 問題意識
4. アンケート調査の概要
5. 漁港や漁業施設における津波対策
 - 5.1 漁港の被災経験と対策の現状
 - 5.2 説明会などの津波対策の実施状況
 - 5.3 漁業地域防災協議会の設置状況
 - 5.4 漁業地域における津波のハード対策
 - 5.5 漁業地域における津波対策の明文化の状況
 - 5.6 その他の漁業地域における津波対策の状況
 - 5.7 漂流物への対応
 - 5.8 外来者への対応
6. 漁港や漁港施設における津波対策の課題
 - 6.1 津波対策の課題
 - 6.2 自治体で津波対策としての考え方
7. 各自治体の災害全般の現状
 - 7.1 ハザードマップ
 - 7.2 情報伝達手段
 - 7.3 自主防災組織の組織率
 - 7.4 地域防災計画、津波防災計画

7.5 津波シミュレーション、被害想定

7.6 ハザードマップ

8. 自治体の概要

9. まとめ

引用・参考文献

付属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：津波、漁港、アンケート調査、自治体、防災

執筆分担：

安本 真也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	1～5、8
関谷 直也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	6、7
田中 淳	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	

本研究で用いた調査は日本海地震・津波調査プロジェクトの一環として行われた。

1. はじめに

2011年の東北地方太平洋沖地震により発生した津波は住家のみならず、数多くの漁業施設や観光施設などに被害をもたらした。東日本大震災時には、岩手県内の111の漁港のうち108が、宮城県と福島県は全ての漁港が津波による被害を受け、その3県の漁港背後集落（418集落）では、84%の集落で家屋が浸水し、62%の集落で死者・行方不明者が発生した（水産庁，2012a）。

また、図1.1は全国の海面漁業種類別漁獲量における、被災3県のそれぞれの割合である。この図から、2011年に大きく下がっていることがわかる。さらに、2017年になっても、漁獲量の割合は震災前より低い水準にあることがわかる。これらの理由としては、津波による漁船そのものの被害、陸揚げ岸壁や漁港施設（たとえば岸壁や防波堤、泊地や道路など）、加工流通施設の被害などが考えられる。さらに、漁港背後集落で生活するような漁師の犠牲、震災を契機として漁業を廃業するなども考えられるであろう。このように、一度、漁獲量のシェアが減ると、元に戻るまでに時間がかかり、水産業に大きな打撃をもたらす。

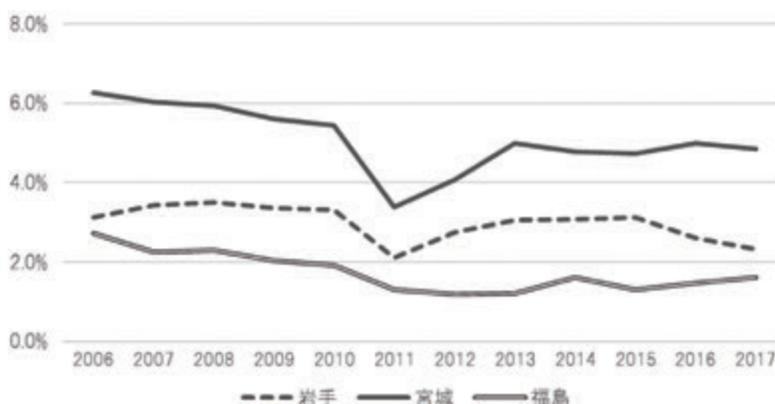


図 1.1 全国における被災3県の海面漁業種類別漁獲量の割合
（農林水産省「海面漁業生産統計調査」より筆者作成）

このように、漁港は海に面しているため、漁港や漁業関連施設は必ず被害を受けている。東日本大震災以前にも、1983年の日本海中部地震では、北海道から島根県にかけて、2,612隻の漁船が被害を受けた。さらに、倒壊した家屋や自動車といった漂流物が港を埋め、長期間、港の機能が停止し、水産業に打撃を与えた（山本ほか，1985）。

2. 災害に強い漁業地域づくりガイドラインの概要

前章で述べたように、津波によって水産業が大きな被害を受けたことから、水産業およびその中核である漁港を所管する水産庁は、災害に強い漁業地域づくりガイドライン（以下、「ガイドライン」と記す。）を策定した。この「ガイドライン」は、漁港やその背後にある漁村、さらには周辺海域まで含めた漁業地域が「水産物供給の場、産業・交流の場、生活の場としての役割・機能を有しており、地震・津波による災害からこれらの役割（機能）を守ることが必要」（水産庁，2012b：p.64）として、被害を最小化するための対応や対策の参考として位置づけられている。そして、この「ガイドライン」は、「漁業者、地域住民及び関係行政機関の立場からみた」ものとして（水産庁，2012b：p.6）、この三者が共通して持つべき行動指針とされる。2006年3月に初版が策定、東日本大震災後の2012年3月に改訂された。

この「ガイドライン」は、市町村や都道府県の防災部局と海岸・漁港管理の担当部局を中心として、漁協や加工・流通関係者、地域住民、消防・警察などで、漁業地域防災協議会を構築すること、そしてこの漁業地域防災協議会が、①漁業地域における地域住民や就労者、来訪者の安全を確保すること、②水産物の生産・流通機能を確保すること、③漁港・漁村の総合的な防災対策を行う、という3つの観点を踏まえて対策を行うべきとしている。

このような、沿岸地域の中核エリアである漁港周辺の地域における、水産業とその関連事業者や住民を守るための津波対策の方策をつくるということは極めて重要である。だが、実際にはこうした漁業地域における津波対策は進んでいるとは言い難い。

3. 問題意識

これまで、漁港を中心とした漁業地域における津波対策の政策の現状について述べてきた。それを踏まえた上で、本研究の問題意識を述べる。

2011年の東日本大震災後に、社会資本整備審議会・交通政策審議会交通体系分科会計画部会から「津波防災まちづくりの考え方」という緊急提言がなされた（国土交通省オンライン，2011）。この考えに沿って、津波防災地域づくりのための一般的な制度として、2011年に「津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）」が定められた（翌年施行）。これは津波浸水区域や浸水深の設定や、土地利用などに関する新たな法制度である。

その中心として、「津波浸水想定の設定」がある。これは、国土交通大臣が、津波防災地域づくりの推進に関する基本的な指針（基本指針）を定め、この指針や基礎調査の結果を元に、都道府県知事が浸水の区域および水深（津波浸水想定）を設定する規定である。ここでは、「津波浸水想定に際しては、現在の科学的知見を十分に踏まえ、あらゆる可能性を考慮して、最大クラスの想定地震規模で津波高がより大きくなる地震などによって発生す

る、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波を対象にするものとする」とされている。(国土交通省オンライン, 2019 : p. 19) この最大クラスの津波の設定は、国の中央防災会議によって公表された断層モデルを参考として行われることとなっている。ただし、都道府県が独自に作成した断層モデルを用いて設定する場合もある。また、それとは別に、内閣府防災会議でも津波の高さの想定が行われている。

当然、その想定された高さは場所によって異なる。たとえば、高知県黒潮町は南海トラフ巨大地震時に津波の高さが 34.4m になるとの想定がなされた(内閣府オンライン, 2012)。一方で、瀬戸内海の自治体などは比較して低い。こうした、想定された津波の高低が、自治体の津波対策に対して影響を及ぼしているのではないか。その結果として、地域によって津波対策は大きく異なっていると考えられる。

こうした問題意識を踏まえ、防災の中心たる自治体へのアンケート調査を通して、漁港を中心とした漁業地域における津波対策の現状を明らかにすることとした。

4. アンケート調査の概要

本章では、実施したアンケート調査の概要について述べる。

ここでは、漁港を中心とした漁業地域における津波対策の実態を把握することを目的として、「漁港における津波対策に関する調査」を実施した(以下、「漁港防災調査」と記す)。調査の概要は表 4.1 の通りである。

表 4.1 「漁港防災調査」概要

調査対象	沿岸部の都道府県ならびに市町村の漁港防災または防災担当者
調査主体	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
調査方法	郵送調査
配布数	679 通
有効回答	433 標本 (回収率 63.8%)
(内 訳)	管理漁港を有しない自治体 : 41 標本 管理漁港を有する自治体 : 392 標本
調査期間	2019 年 1 月 29 日～3 月 8 日

日本には 2018 年 4 月 1 日現在、2,823 の漁港がある(漁港漁村ポケットブック編集委員, 2018)。これらの漁港は漁船数や陸揚量、施設などによって第 1 種漁港、第 2 種漁港、第 3 種漁港、特定第 3 種漁港、第 4 種漁港に区分されている。その管理者は、第 1 種漁港は原則として市町村、それ以外の漁港は都道府県と定められているが、あくまで原則であり、統一的な基準はない。しかし、いずれにしろ、漁港を管理する自治体の多くが、津波

などの防災対策を所管している。ただし、漁港の管理を都道府県が行っていても、防災対策は市町村が行っていることも考えられる。そのため、「漁港防災調査」では、沿岸部にあ
る都道府県ならびに市町村の全てを調査対象とした。

また、漁港を中心とした漁業地域における津波対策を、防災部局や漁港管理を行う水産
関係の部局のどちらが主体的に行うかも自治体によって異なる。そのため、調査対象（宛
先）は「漁港防災ご担当者様」と「防災ご担当者様」とし、並列した上で送付した。

その結果、433 標本の有効回答が得られた。本研究ではこれらの全体結果ならびに、管
理漁港を有する 392 の自治体で、「貴自治体の想定では、津波の最大浸水想定高は何メー
トルですか」に回答があった 366 の自治体を分析する。そこでは、気象庁が発表する津波の
高さ（数値で発表される場合）を目安として、3m 以下、5m 以下、10m 以下、それ以上、と
分類した。その結果、標本数は順に、n=49（13.4%）、n=98（26.8%）、n=108（29.5%）、n=111
（30.3%）となった。

なお、本研究は沿岸部に位置する自治体に対して、漁業地域における津波対策に関する
悉皆調査を行ったものである。そのため、統計処理を行わず、上記の分類によるクロス表
を示し、記述することとする。なお、主要部分に関しては、日本海側と太平洋側の比較と
いう観点から、安本ほか（2019）にて報告済みである。

5. 漁港や漁業施設における津波対策

5.1 漁港の被災経験と対策の現状

まず、「貴自治体の漁港では、昭和以降で津波による被災経験はありますか」と問うた（N
=433）。ここでの被災経験とは、犠牲者または物的被害が生じたことを指す。その結果、
全体の 28.6%の自治体が「被災経験がある」と答えている。

一方、津波の最大浸水想定高別でみると、5m を超える自治体では、約半数が「被災経験
がある」と答えており、津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど被災経験がある（図 5.1.1）。

さらに、「貴自治体では、漁港に特化した津波を想定した対策を行っていますか」と問う
た（N=433）。ここでは、具体的な対策ではなく、大まかな認識を問うた。その結果、「漁
港に特化した対策を行っている」自治体は全体では 7.9%と非常に少ない。また、津波の最
大浸水想定高が高い自治体ほど津波への「（漁港に特化したか否か問わず）対策を行って
いる」割合は高い（図 5.1.2）。

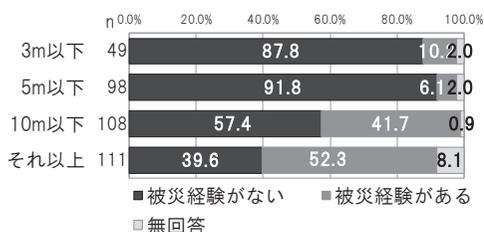


図 5.1.1 被災経験の有無
(津波の最大浸水想定高別)

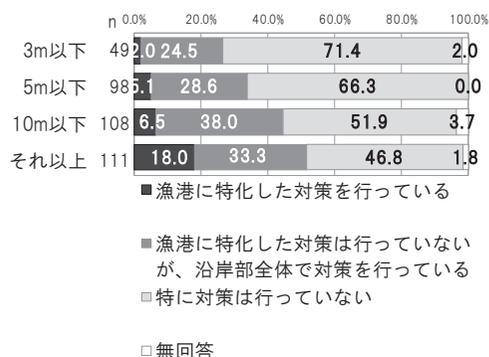


図 5.1.2 各自治体の津波への対策
(津波の最大浸水想定高別)

5.2 説明会などの津波対策の実施状況

次に、それぞれの自治体における、説明会などの、津波に関連した防災対策の実施状況である。第一に「貴自治体では、住民向けの津波に関する最新のハザードマップについて説明会を行っていますか」と複数回答で問うた (N=433)。「住民を対象とした説明会を実施している」と答えた割合は全体の 18.2%であった。実施している自治体に対して、説明会の頻度を問うたところ、年 1 回が 33 の自治体、年 2 回が 8 の自治体、年 3 回が 5 の自治体、年 5 回が 2 の自治体、それ以上の頻度で行っている自治体が 12 あった。

津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど説明会を実施している割合が高かったが(図 5.2.1)、頻度に関しては関係性がみられなかった。

また「漁港や漁業の関係者だけを対象とした説明会を実施している」自治体はなかった。なお、「その他」は、防災に関する出前講座の中で説明している、とする意見が多かった。

第二に、「貴自治体では、津波避難に関するワークショップ(図上訓練や研修など)を実施していますか」と複数回答で問うた (N=433)。その結果、「住民を対象とした説明会を実施している」と答えた割合は全体の 18.7%であった。先ほどと同様に実施している自治体に対して、ワークショップの開催頻度を問うたところ、年 1 回が 44 の自治体、年 2 回が 6 の自治体、年 3 回が 4 の自治体、年 4 回が 4 の自治体、年 5 回が 3 の自治体、それ以上の頻度で行っている自治体が 8 あった。

また、こちらも同様に「漁港や漁業の関係者だけを対象とした説明会を実施している」自治体はなかった。

こちらも基本的に、津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど説明会を実施している割合が高かったが(図 5.2.2)、頻度に関しては関係性がみられなかった。

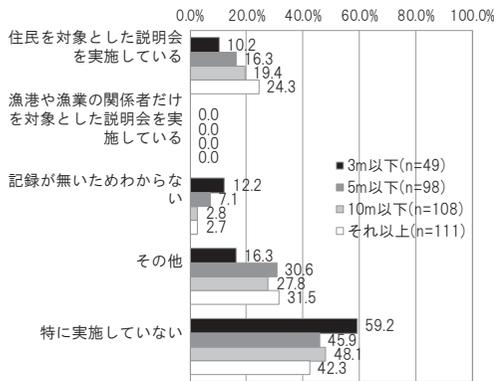


図 5.2.1 ハザードマップに関する説明会の開催状況（津波の最大浸水想定高別）

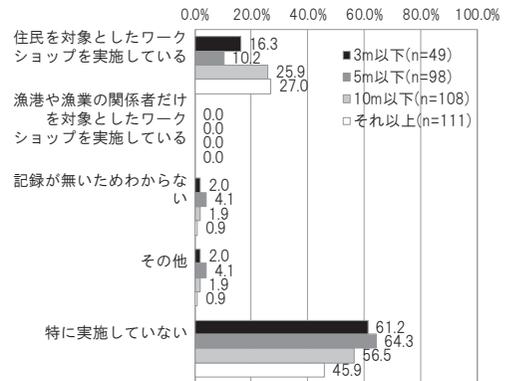


図 5.2.2 津波に関するワークショップの開催状況（津波の最大浸水想定高別）

5.3 漁業地域防災協議会の設置状況

次に、漁業地域防災協議会の設置状況である。この漁業地域防災協議会は、市町村や都道府県の防災部局と、漁港や海岸管理の担当部局を中心として、漁協や加工・流通業者、地域住民、消防・警察などが連携し、構築されることが望ましい、とされる。この協議会が中心となって、地域での避難行動に関する基本的なルールの方策定、防災力向上のための対策を行うことが求められている（図 5.3.1）。つまり、都道府県や市町村の防災部局単独で、漁協が単独で、津波の防災対策を行うのではなく、様々な関係者と共に地域一体となった漁業地域の防災を推進すべきとされている。

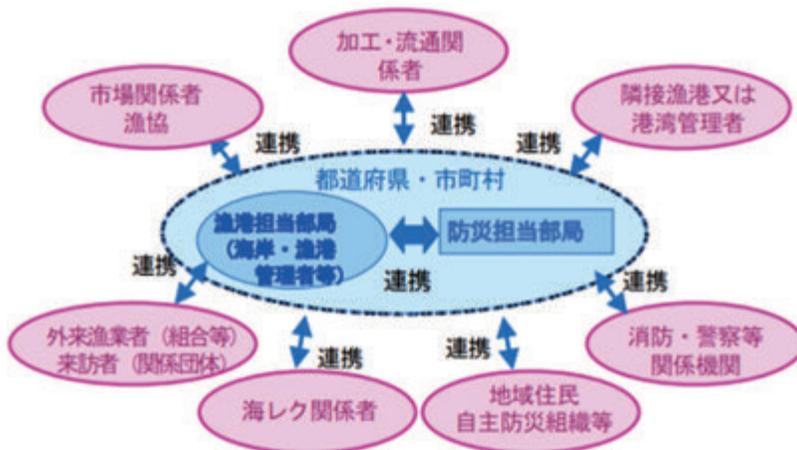


図 5.3.1 漁業地域防災協議会の概要（出典：水産庁，2012b：p.6）

では、実際、漁業地域防災協議会はどの程度、設置されているのか。第一に「貴自治体の漁港では、自治体や漁協、地域住民、水産関係者などによる漁業地域防災協議会を設置していますか」と問うた（N=433）。その結果、すべての漁港、もしくは一部の漁港で「漁業地域防災協議会を設置している」と答えた自治体は2.6%（11の自治体）のみであった。「漁業地域防災協議会」という形式ではないが「関係者間で漁港・漁村の防災について話し合う機会を設けている」と答えた自治体も存在するが、71.6%の自治体が「すべての漁港で、話し合う機会がない」と答えており、地域一体となった漁業地域の防災は、いずれの自治体でも進んでいるとは言い難い現状が明らかになった。

津波の最大浸水想定高別の状況は図 5.3.2 である。若干、津波の浸水想定が高い方が防災について話し合っている自治体が多い。

第二に、「漁業地域防災協議会を設置している」もしくは「関係者間で漁港・漁村の防災について話し合う機会を設けている」と答えた 66 の自治体の開催状況も問うた。「定期的実施している」自治体は 36.4%であり、平均して、年に 1.9 回程度開催されている。「定期的ではないが、実施している」自治体が 59.1%であった。

最後に、「漁業地域防災協議会または話し合いに集まる関係者はどのような人たちですか」と問うた結果が図 5.3.3 である。漁協が 84.8%と最も多く、次いで市町村が 75.8%であった。水産業における生産の中心を担う、漁協が話し合いには多く参加している一方で、流通業者や加工業者といった水産関連業者が 22.7%と低い。

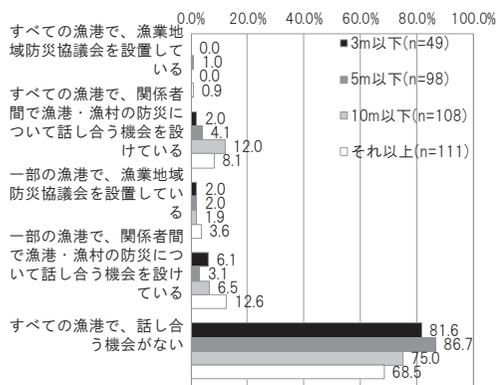


図 5.3.2 漁業地域防災協議会の設置状況
(津波の最大浸水想定高別)

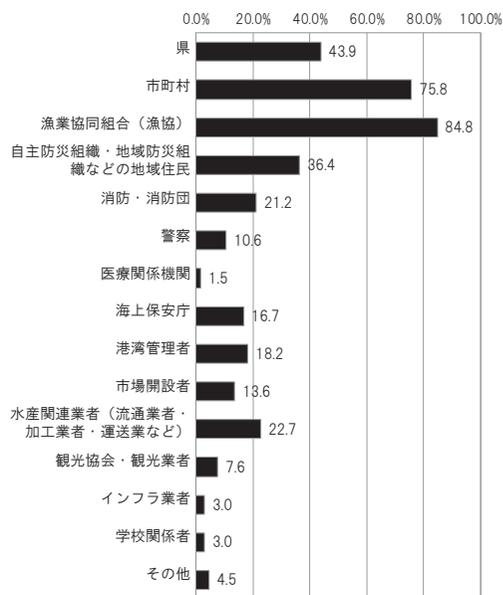


図 5.3.3 漁業地域防災協議会の構成員
(n=66)

5.4 漁業地域における津波のハード対策

次に、漁業地域に関連した、津波のハード施設の整備状況を問うた。「ガイドライン」では、漁業集落環境施設として避難場所の整備や避難路の経路、避難ルートを示した標識、屋外拡声装置などを「災害に強い漁業地域づくりに資する施設整備」として挙げている（水産庁，2012b）。それ以外にも、海岸保全施設、海岸環境施設としての防波堤や荷捌き施設などの耐震化、水門の遠隔操作化や漁港内等の安全確認のために必要な監視カメラなどの整備があげられている。こうしたハード施設の整備状況について、「下記（「漁港周辺の避難場所の整備」、「漁港周辺の避難路の整備」、「漁港周辺の標識（海拔・標高、避難ルートなど）の設置」、「漁港周辺の防災行政無線の設置」、「管理漁港における防波堤の耐震化」、「水門の遠隔操作化」、「漁港周辺の監視カメラの設置」「水産関連施設（荷捌き施設など）の耐震化」ほか）の津波への対策について、貴自治体ではどのような対応をしていますか」と問うた（N=433）。

その結果、「漁港周辺の防災行政無線の設置」について、「すべての地域で整備が完了した」割合が全体の 53.1%と最も高い割合であった。また、避難に関して「漁港周辺の避難場所の整備」は 19.2%の自治体が「すべての地域で整備が完了した」、18.0%の自治体が「すべてまたは一部の地域で現在、整備を行っている」と、「漁港周辺の避難路の整備」も、15.2%の自治体が「すべての地域で整備が完了した」、24.0%の自治体が「すべてまたは一部の地域で現在、整備を行っている」と答えていた。また、「漁港周辺の標識（海拔・標高、避難ルートなど）の設置」も 31.3%の自治体が「すべての地域で整備が完了した」、27.5%の自治体が「すべてまたは一部の地域で現在、整備を行っている」と答えていた。

その一方で、「管理漁港における防波堤の耐震化」は 70.7%の自治体が、「水門の遠隔操作化」は 80.8%の自治体が、「漁港周辺の監視カメラの設置」は 72.1%の自治体が、「水産関連施設（荷捌き施設など）の耐震化」は 76.2%の自治体が「整備は行っていない」と答えており、これらのハード施設の整備が進んでいない現状が明らかになった。

なお、これらの結果は、ほぼすべての項目において、津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど整備を行っている割合が高いことがわかった（順に、図 5.4.1 から図 5.4.8）。例えば、「漁港周辺の避難路の整備」は、津波の最大浸水想定高が 3m 以下の自治体では「整備は行っていない」が 75.5%であるが、5m 以下の自治体では 65.3%、10m 以下の自治体では 50.9%、それ以上の自治体では 33.3%と津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど「整備は行っていない」と答える割合が減少している。

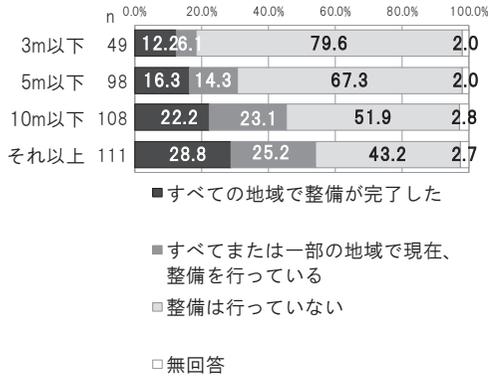


図 5.4.1 漁港周辺の避難場所の整備状況
(津波の最大浸水想定高別)

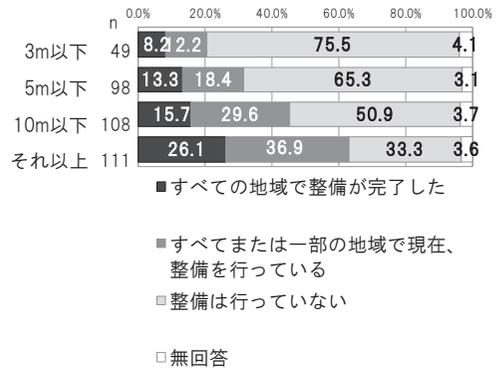


図 5.4.2 漁港周辺の避難路の整備状況
(津波の最大浸水想定高別)

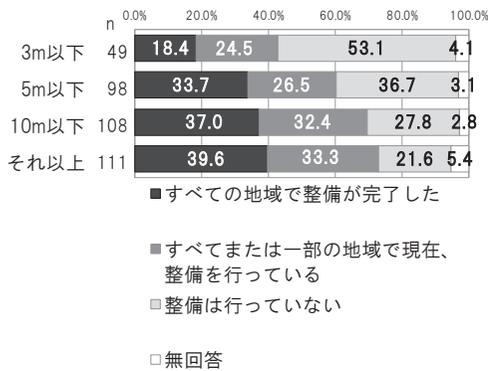


図 5.4.3 漁港周辺の標識の設置状況
(津波の最大浸水想定高別)

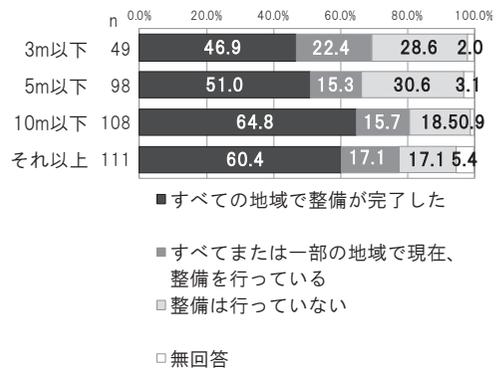


図 5.4.4 漁港周辺の防災行政無線の設置状況
(津波の最大浸水想定高別)

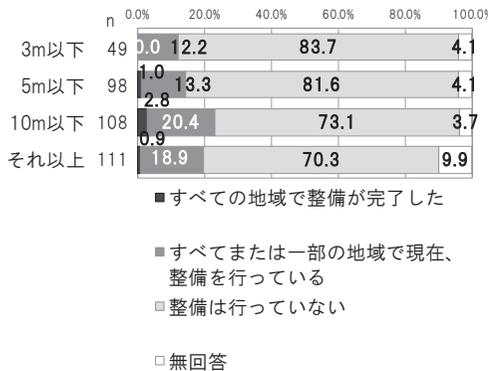


図 5.4.5 管理漁港における防波堤の耐震化状況
(津波の最大浸水想定高別)

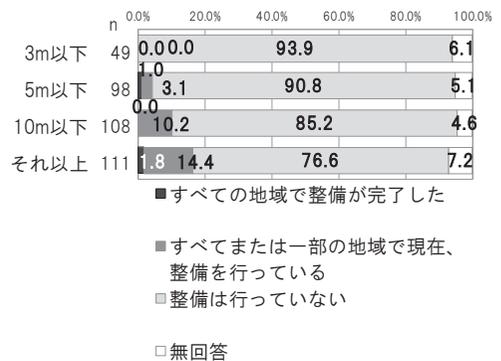


図 5.4.6 水門の遠隔操作化状況
(津波の最大浸水想定高別)

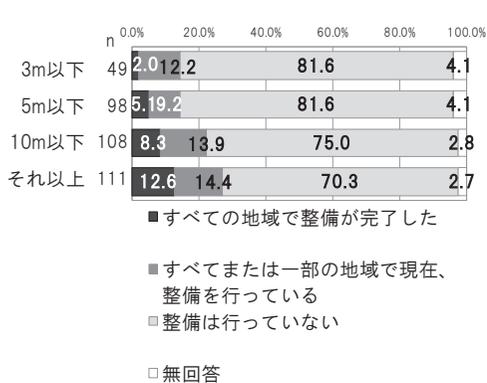


図 5. 4. 7 漁港周辺の監視カメラの設置状況（津波の最大浸水想定高別）

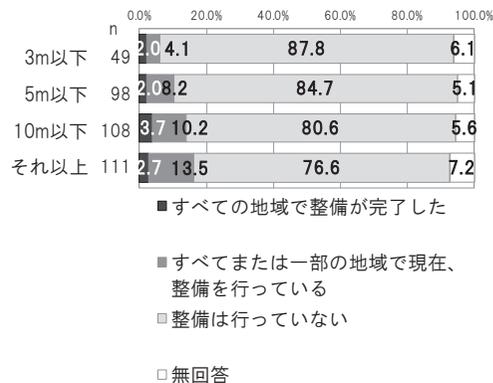


図 5. 4. 8 水産関連施設の耐震化状況（津波の最大浸水想定高別）

5. 5 漁業地域における津波対策の明文化の状況

次に、各自治体における漁業地域の津波対策の計画やルール作りの策定状況を問うた。水産庁は、「ガイドライン」の考え方に沿った、「漁業地域の減災計画策定マニュアル」と「水産物産地市場の減災計画策定マニュアル」を作成しており、「個々の漁業地域において、市町村等の地方公共団体や漁業関係者、さらに地域住民など関係者の方々が、被害の最小化のために取るべき行動計画(減災計画)をできるだけ容易に策定するための手引き」（水産庁，2012b： p. 204）として、漁業地域の関係者が減災計画をとりまとめることを推奨している。

そこで、「貴自治体では、津波防災として漁港・漁村などにおける減災計画（水産庁の「災害に強い漁業地域づくりガイドライン」に沿ったもの）を策定していますか」と問うた（N＝433）。その結果、災害に強い漁業地域づくりガイドラインに沿った減災計画を「策定した」と答えた自治体は2.8%に過ぎず、多くの自治体が策定していない現状が明らかになった。

若干、津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど「策定していない」割合が低い、それでもほとんど差はない（図 5. 5. 1）。

また、それ以外にも「ガイドライン」では「短時間で津波の到達が予想される近地津波の場合は（中略）避難のルール化を図る」（水産庁，2012b： p. 69）とされており、漁船などの海上避難の基本ルール作りや避難海域の設定などが津波対策として挙げられている。こうした計画やルール作りの策定状況についても同様に、「貴自治体では、津波防災として下記（「停泊中の漁船の沖だしルール」、「操船中の漁船の避難ルール」、「避難海域の設定」）を策定していますか」と問うた（N＝433）。その結果、「停泊中の漁船の沖だしルール」を「策定した」と答えた自治体は3.9%、「操船中の漁船の避難ルール」を「策定した」と答え

た自治体は 5.1%であった。また、「避難海域の設定」を「策定した」と答えた自治体は 3.7%であった。これらは、漁協が主体となって策定している場合もあるため、一概に「全く策定されていない」ということは言えないが、自治体が策定していることはほとんどない、という現状が明らかになった。

なお、こちらも若干、津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど「策定していない」割合が低い、それでもほとんど差はない（図 5.5.2 から図 5.5.4）。

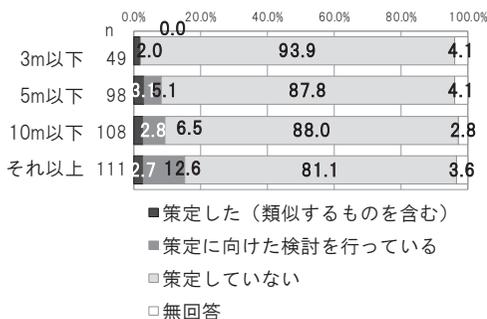


図 5.5.1 漁港・漁村の減災計画の策定状況
(津波の最大浸水想定高別)

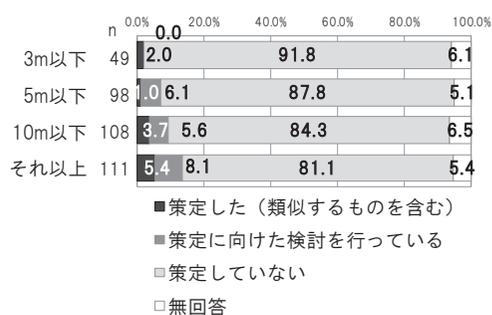


図 5.5.2 停泊中の漁船の沖だしルールの策定状況
(津波の最大浸水想定高別)

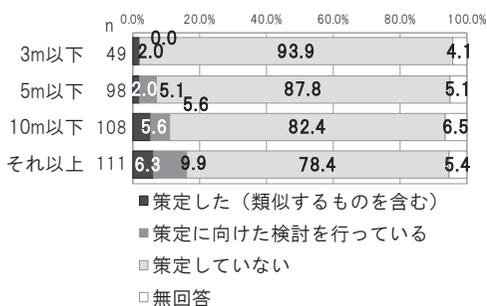


図 5.5.3 操船中の漁船の避難ルールの策定状況
(津波の最大浸水想定高別)

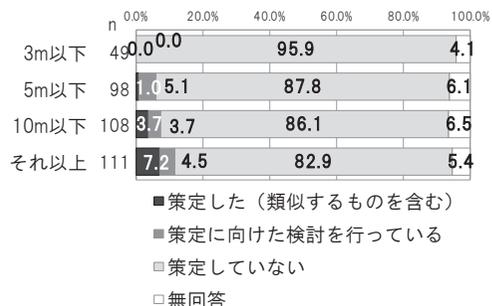


図 5.5.4 避難海域の設定状況
(津波の最大浸水想定高別)

5.6 その他の漁業地域における津波対策の状況

前節では、「ガイドライン」に沿った漁業地域における津波対策を自治体が行っていない現状が明らかになった。では、各自治体はどのような津波対策に関する項目を検討しているのか。避難、漂流物、火災などの、津波が襲来した際に大きな被害が生じると考えられる項目を中心として、「貴自治体の漁港では、次（「漁港にいる人の避難に十分な時間がとれない」、「避難する道路が狭く、避難の支障となる」、「燃料などが流出し、津波火災が拡大する」、「漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらす」）について対策を検討していますか」と問うた（N=433）。その結果、「漁港にいる人の避難に十分な時間がとれない」ことを検

討している割合が 18.9%、「避難する道路が狭く、避難の支障となる」ことを検討している割合は 14.8%であった。これらは、土地の性質によるところが大きいと考えられる。一方で、避難以外では「燃料などが流出し、津波火災が拡大する」ことを検討している割合は 6.0%、「漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらす」ことを検討している割合は 6.7%と低い。「漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらす」ことについては「課題であると認識しているが、検討していない」が 37.4%の自治体であり、対策が遅れているといえよう。

また、津波の最大浸水想定高別の結果が図 5.6.1 から図 5.6.4 である。特に津波の最大浸水想定高が 5m から 10m の自治体では 49.1%の自治体が「漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらす」ことを「課題であると認識しているが、検討していない」と答えている。

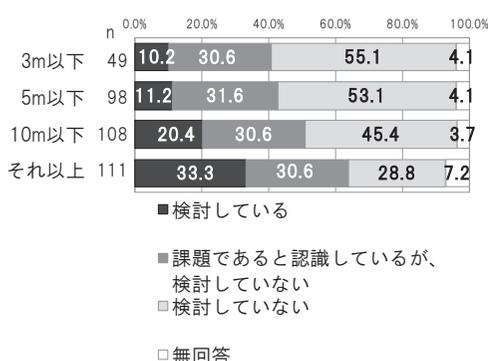


図 5.6.1 漁港にいる人の避難に十分な時間がとれないことへの対策
(津波の最大浸水想定高別)

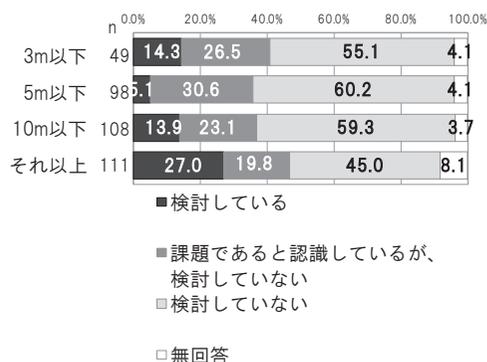


図 5.6.2 避難する道路が狭く、避難の支障となることへの対策
(津波の最大浸水想定高別)

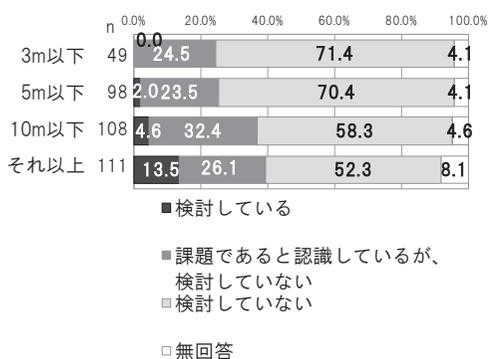


図 5.6.3 燃料などが流出し、津波火災が拡大することへの対策
(津波の最大浸水想定高別)

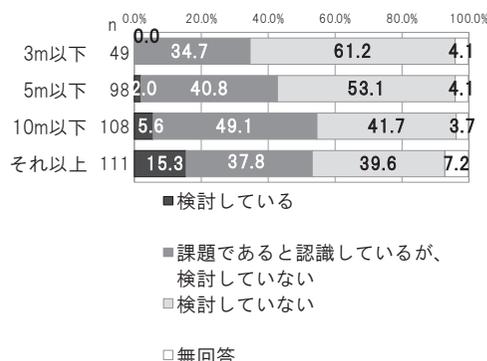


図 5.6.4 漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらすことへの対策
(津波の最大浸水想定高別)

5.7 漂流物への対応

そこで、さらに詳細に「漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらす」ことへの対応を問うた。これは、東日本大震災の際に、多くの漁港で、漁船や自動車、養殖施設などが津波によって漂流物となり、それによる被害拡大、石油貯蔵タンクからの燃料漏洩に伴う火災の被害が生じたからである。そのため、「ガイドライン」では漂流物による被害の拡大防止のため、事前に、漁船やプレジャーボート、養殖イケス等の係留ロープを太くするなど、係留方法の強化や放置艇への対策などをあげている。また、それ以外にも、燃料タンクから漏洩した油（燃料）への対策も重要と考えられる。そこで、「津波来襲時に漂流物となる可能性のあること（「水産庁が対策としてあげる、係留ロープを太くするなど漁船の係留方法の強化」、「水産庁が対策としてあげる、係留ロープを太くするなど養殖いけすの係留方法の強化」、「津波に強い漁業用燃料タンクへの変更や使われていないタンクの撤去などの油（燃料）対策」、「放置艇や沈没船の撤去）」について、貴自治体ではどのような対応をしていますか」と問うた（N=433）。その結果、「水産庁が対策としてあげる、係留ロープを太くするなど漁船の係留方法の強化」について自治体が「対策をしている」と答えたのは6.7%、「水産庁が対策としてあげる、係留ロープを太くするなど養殖いけすの係留方法の強化」については4.8%、「津波に強い漁業用燃料タンクへの変更や使われていないタンクの撤去などの油（燃料）対策」は5.7%と、ほとんどの地域で自治体が「対策はしていない」と答えている。ただし、「放置艇や沈没線の撤去」に関しては32.1%の自治体が「対策をしている」と答えていた。

なお、そこに津波の最大浸水想定高の高さとの関係はみられなかった（図5.7.1から図5.7.4）。

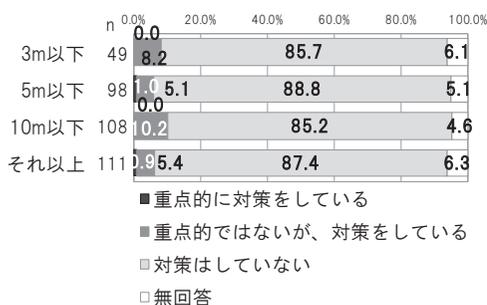


図 5.7.1 係留ロープを太くするなど漁船の係留方法の強化
(津波の最大浸水想定高別)

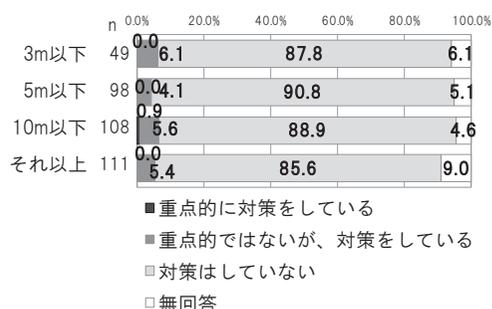


図 5.7.2 係留ロープを太くするなど養殖いけすの係留方法の強化
(津波の最大浸水想定高別)

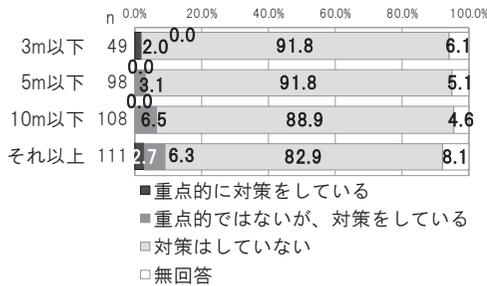


図 5.7.3 油（燃料）対策
（津波の最大浸水想定高別）

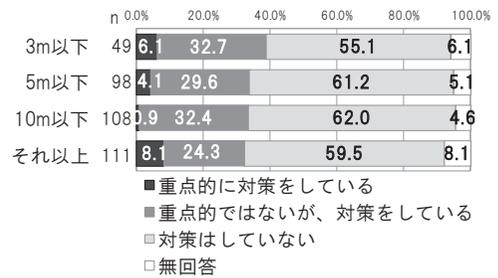


図 5.7.4 放置艇や沈没船の撤去
（津波の最大浸水想定高別）

5.8 外来者への対応

また、漁港には外部からの就労者や観光客などが来る場合もある。そこで、「貴自治体の漁港では、「観光客などの外来者の避難誘導が難しい」ことについて対策を検討していますか」と問うた（N=433）。その結果、全体の15.2%が「検討している」と答えている。「課題であると認識しているが、検討していない」と併せると43.3%であり、地理感覚に乏しい外来者への避難対策が課題であることがわかる。

また、こちらも津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど「検討していない」割合が低い（図 5.8.1）。

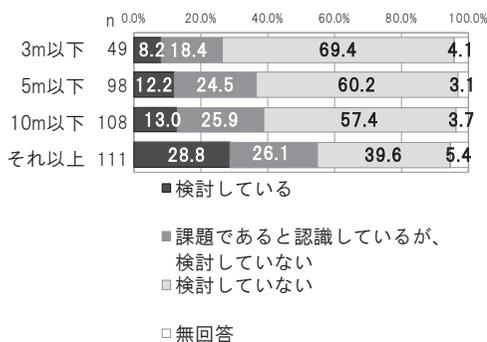


図 5.8.1 外来者の避難誘導が難しいことへの対策（津波の最大浸水想定高別）

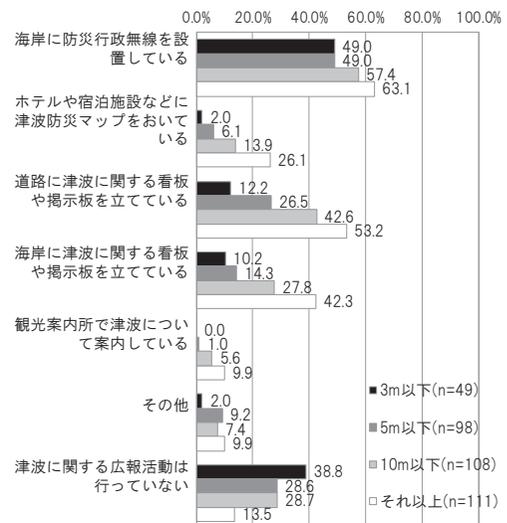


図 5.8.2 外来者への広報活動の状況（津波の最大浸水想定高別）

そこで、さらに現状の外来者への対応を明らかにするため、「貴自治体の漁港において、日頃から観光客などの外来者への津波に関する広報活動は、どのように行っていますか」と問うた（N=433）。「海岸に防災行政無線を設置している」が最も多く、全体の 52.9%、次いで「道路に津波に関する看板や掲示板を立てている」が 24.0%であった。「津波に関する広報活動は行っていない」は 23.8%であった。

また、津波の最大浸水想定が高い自治体ほど、漁港における外来者への津波に関するなんらかの広報活動を行っていることがわかった（図 5.8.2）。

6. 漁港や漁港施設における津波対策の課題

6.1 津波対策の課題

つづいて、自治体で津波対策全般として困っていることを問うた（N=433）。

第一に、「防災に携わる行政の職員が不足しており、苦慮している（54.5%）」「地域における防災の担い手が不足しており、苦慮している（38.3%）」という人手不足、第二に「予算が足りず、苦慮している（44.3%）」という予算不足があげられる。これらは、津波の最大浸水想定高が高い地域を抱える自治体ほど、この傾向が顕著であった（図 6.1.1）。第三に、「津波よりも地震や台風、高潮などの他の災害対策の方が優先度が高い（42.3%）」と、津波対策の優先順位が低いことがあげられる。これは、津波の最大浸水想定高が高い地域を抱えていない自治体ほど、この傾向が顕著であった（図 6.1.1）。

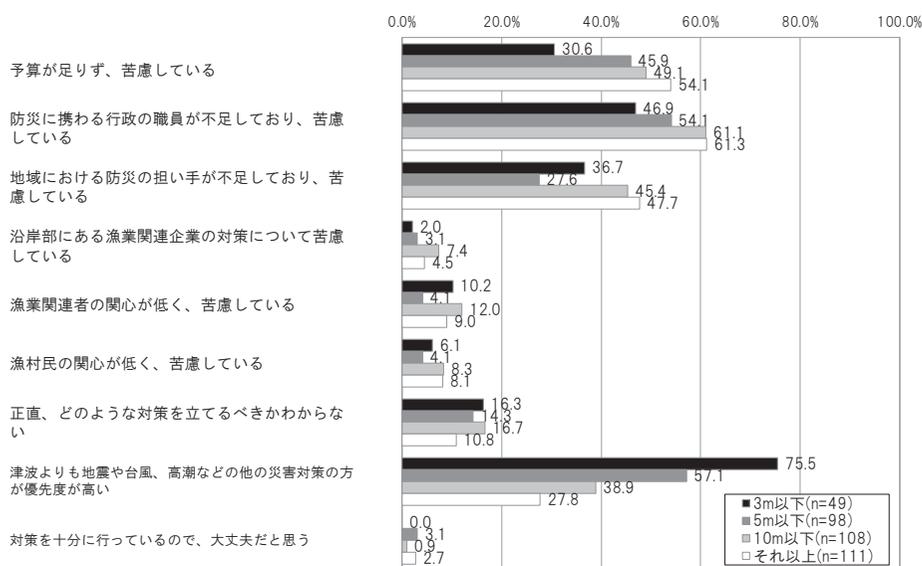


図 6.1.1 自治体の津波対策の課題（津波の最大浸水想定高別）

第四に「沿岸部にある漁業関連企業の対策について苦慮している（4.2%）」「正直、どのような対策を立てるべきかわからない（13.9%）」「漁業関連者の関心が低く、苦慮している（8.8%）」「漁村民の関心が低く、苦慮している（6.5%）」など、割合としては多くないものの、そもそも、関係者の関心度が低いこと、どのような対策をとるべきかわからないという課題があげられる。

次に、自治体で津波想定として困っていることについて問うた（N=433）。

最も課題として挙げられたものは「最大規模の想定に対して、どこまで対応すれば良いか、苦慮している（55.9%）」である。東日本大震災後にだされるようになった巨大想定をどう扱えばよいかに苦慮していた。なお、津波の最大浸水想定高が高い地域を抱える自治体ほど、この傾向が強かった（図 6.1.2）。

次に課題としてあげられたのは、「確率が高くないものにも対応しなければいけないことに苦慮している（24.0%）」というものである。低い確率のものに対処する難しさについて苦慮している。これは、津波の最大浸水想定高が高い地域を抱えていない自治体ほど、この傾向が強かった（図 6.1.2）。また、「津波の想定が頻繁に変わるので、対応に苦慮している（6.7%）」というものについては、回答は多くなかったが一定程度の回答があった。

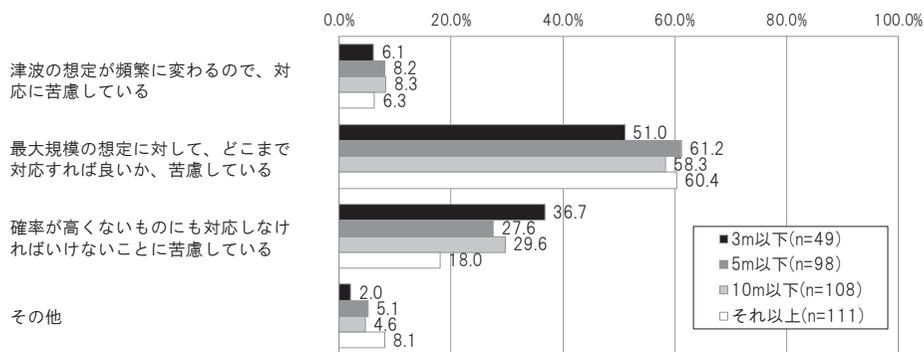


図 6.1.2 津波想定 of 課題（津波の最大浸水想定高別）

次に、特に避難として困っていることについて問うた（N=433）。第一に「避難ビルに指定する建物がない（27.7%）」、「避難する高台が近くにない（22.6%）」と避難先の問題があげられた。「避難路の整備が進まない（11.3%）」や「避難場所の整備が進まない（7.6%）」もこれらと比べると多くはないが、上げられている。

第二には、外来者の問題である。「観光客など外来者の避難対策について困っている（21.7%）」と外来者の問題があげられた。

他にも、「自動車避難（14.8%）」「冬季の避難方法、避難場所（8.1%）」「防災行政無線が

聞こえない漁港がある（8.8%）」など、数は多くはないもののあげられており、津波の最大浸水想定高というより（図 6.1.3）、むしろそれぞれの地域固有の課題としてあげられていた。

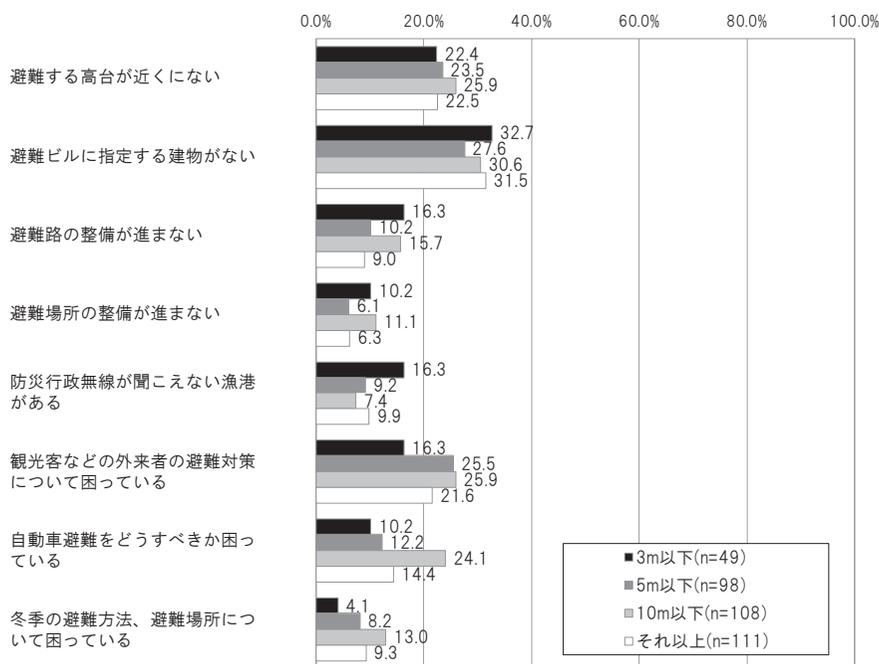


図 6.1.3 津波避難の課題（津波の最大浸水想定高別）

6.2 自治体で津波対策としての考え方

次に、沿岸自治体の津波対策の考え方についてまとめる（図 6.2.1）。

第一に、「他自治体における先進事例を知りたい（76.4%）」「他自治体の状況を知りたい（75.5%）」「漁業者向けの津波防災に関する行政職員向けの研修の機会を設けてほしい（52.7%）」と、情報共有ができていない状況が課題としてあげられる。

第二に、「隣接する都道府県または市町村との連携が必要である（68.8%）」「漁港には関係者が多く、津波防災に関しての連携が難しい（36.0%）」など内外の連携が課題として挙げられた。

第三に、「津波被災時に漁船の位置を把握するシステムが欲しい（40.9%）」、「漁港に特化した津波対策が必要である（39.3%）」と、漁船・漁港ならではの対策は一般的な防災対策の延長線上では考えにくいということが指摘された。

なお、各項目共通して、全般的な傾向として、津波の最大浸水想定高が高い地域ほどより積極的な津波対策が必要であると答えている傾向にある（例として図 6.2.2）。

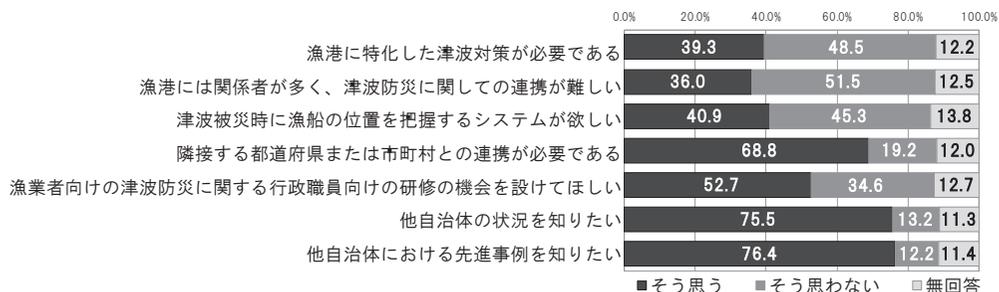


図 6.2.1 漁港の津波対策についての課題（N=433）

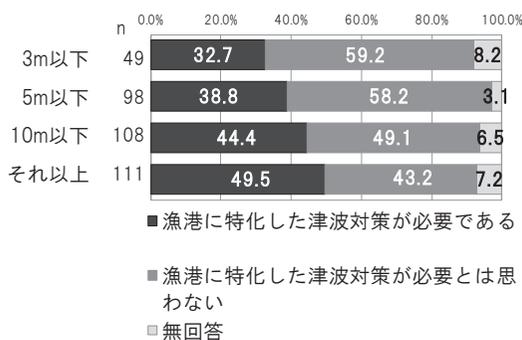


図 6.2.2 漁港に特化した津波対策が必要かどうか（津波の最大浸水想定高別）

7. 各自治体の災害全般の現状

7.1 ハザードマップ

ハザードマップの作成状況としては、図 7.1.1 の通りである。沿岸部なので、必ずしもこれが国内の自治体すべての傾向とは言えないことには留意が必要である。

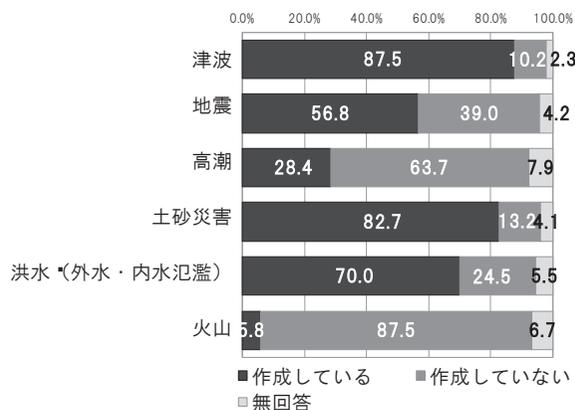


図 7.1.1 ハザードマップの作成率（N=433）

ただ、基本的には太平洋側か、日本海側かで津波のリスクは異なり、南西か北東か、また湾等の地形によって高潮のリスクは異なる。だが、津波ハザードマップの作成率は高くとも、必ずしも高潮ハザードマップの作成率は高くはないことは特徴的である(図 7.1.2)。

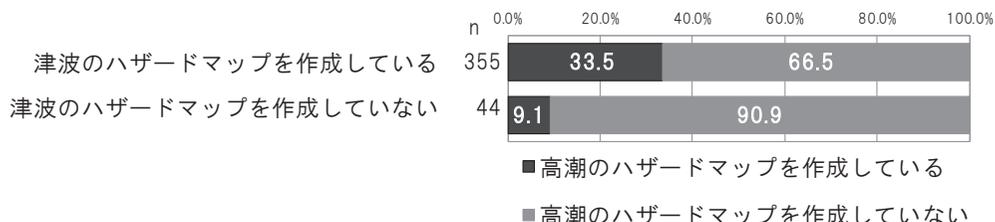


図 7.1.2 津波と高潮のハザードマップの作成状況に関するクロス図

7.2 情報伝達手段

次に情報伝達手段について述べる。「自治体から住民に向けての災害に関する情報を、どのような手段を使って伝えています」と問うたところ、次のものがあげられた(N=433)。

第一に、ネット系の情報伝達手段である。「エリアメール・緊急速報メール(82.5%)」「WEBページ(58.0%)」「自治体独自の登録方式の防災メール(住民への一斉送信)(53.1%)」「ソーシャルメディア(Twitter や Facebook など)(40.6%)」「アプリ(10.7%)」があげられ、もっとも主要な手段となっていることがわかる。

第二に、同報系の情報伝達手段である。複数回答で問うたし、また、町村合併などによって、併存して使っているところもあることに留意が必要である。「デジタル方式の同報(防災)無線(スピーカー)(64.8%)」「同報(防災)無線(戸別受信機)(62.7%)」「アナログ方式の同報(防災)無線(スピーカー)(31.7%)」「サイレン(モーターサイレンなど)(19.6%)」があげられる。

第三に、それ以外の放送系システムである。「CATV(29.8%)」「コミュニティFM(22.1%)」などである。

第四に、自治体独自の地域情報システムである。「IP告知端末(戸別受信機)(13.3%)」「電話による一斉通報システム(3.7%)」「オフトーク通信・有線放送(1.2%)」などである。ただし、割合としては高くない。

なお、浸水区域別でも、特段の傾向はみられない(図 7.2.2)。

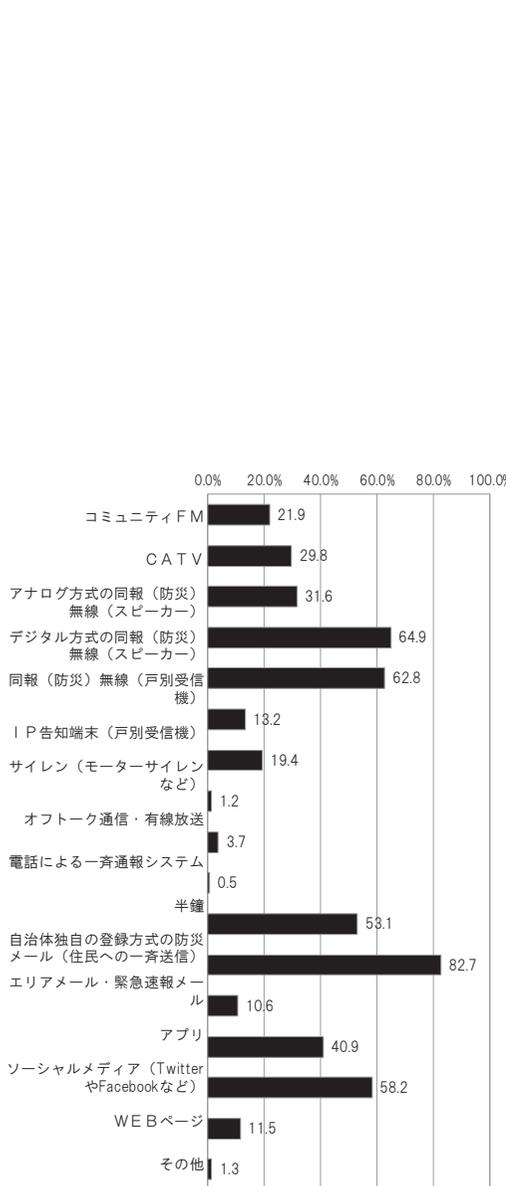


図 7.2.1 住民向けの災害情報伝達の手段 (N=433)

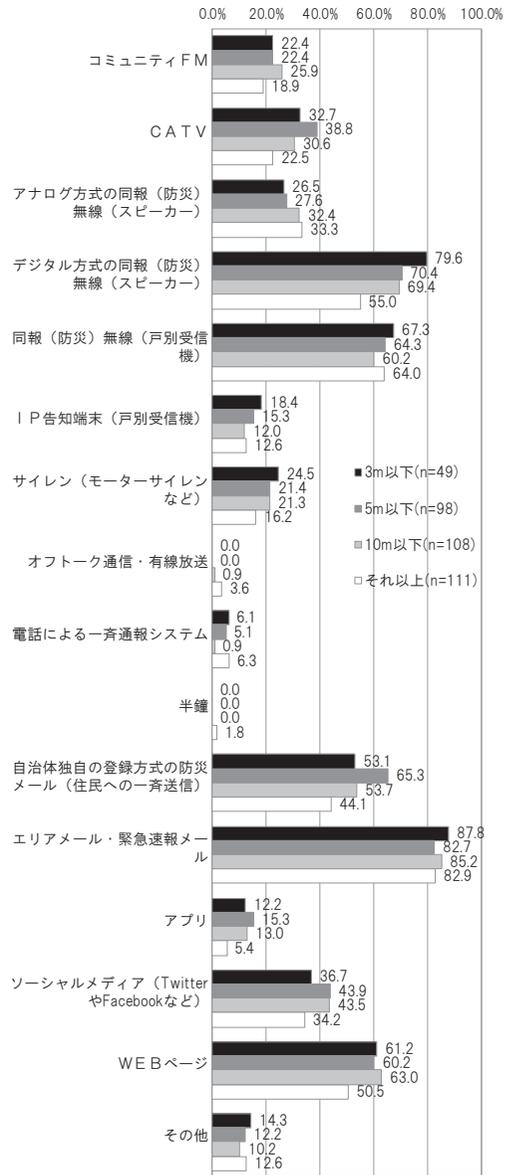


図 7.2.2 住民向けの災害情報伝達の手段 (津波の最大浸水想定高別)

7.3 自主防災組織の組織率

沿岸部自治体の自主防災組織の組織率の平均は 74.9%である (N=433)。なお、津波の最大浸水想定高でみても、津波の最大浸水想定高と組織率の間には関係性がみられなかった (表 7.3.1)。

表 7.3.1 自主防災組織の組織率（津波の最大浸水想定高別）

	10%未満	10%以上 30%未満	30%以上 50%未満	50%以上 70%未満	70%以上 90%未満	90%以上	無回答	合計
3m以下(n=49)	2.0%	2.0%	8.2%	12.2%	16.3%	53.1%	6.1%	100.0%
5m以下(n=98)	2.0%	4.1%	7.1%	10.2%	23.5%	45.9%	7.1%	100.0%
10m以下(n=108)	5.6%	6.5%	10.2%	16.7%	16.7%	40.7%	3.7%	100.0%
それ以上(n=111)	8.1%	6.3%	5.4%	11.7%	14.4%	46.8%	7.2%	100.0%

7.4 地域防災計画、津波防災計画

次に、「貴自治体では、津波防災について以下のようなものはありますか」と津波防災の明文化の状況について複数回答で問うた（N＝433）。「地域防災計画に津波防災対策編がある（66.5%）」「地域防災計画に津波防災対策を扱った章がある（49.2%）」「地域防災計画とは別に津波防災専用の計画（津波防災計画、津波防災対策要覧など）がある（18.5%）」「津波防災マニュアル（一般的な防災マニュアルではなく、特に津波について定めたもの）がある（6.9%）」「上記以外で津波防災対策について明文化している（5.1%）」「津波防災対策について明文化したものはない（3.0%）」。なお、「津波防災協議会の津波防災計画がある」との回答はなかった。

なお、津波の最大浸水想定高別では、想定高が高い自治体ほど、津波防災の明文化が行われている（図 7.4.1）。

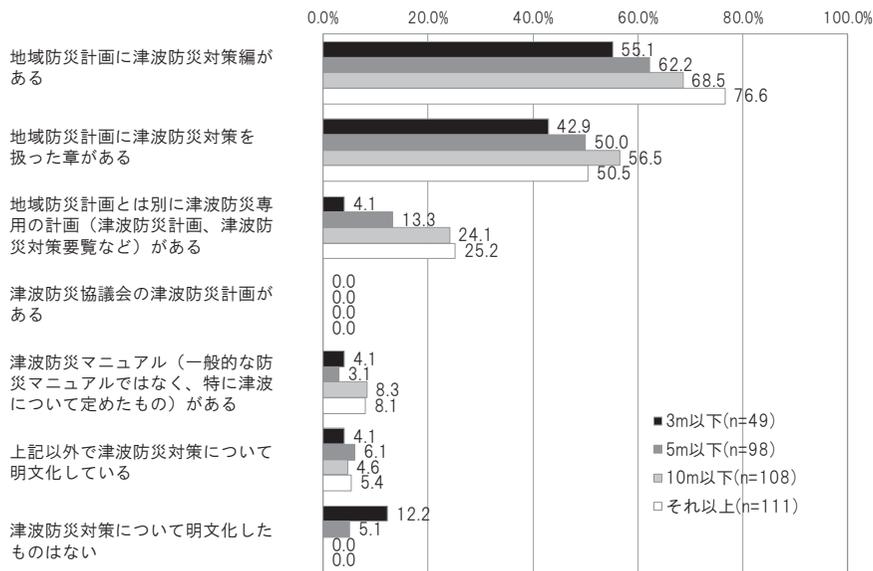


図 7.4.1 津波防災の計画について（津波の最大浸水想定高別）

7.5 津波シミュレーション、被害想定

シミュレーションや被害想定の結果の公表について問うた。独自の津波のシミュレーションについては、「行い、ホームページ上などで公表している（18.7%）」「行ったが、住民に公表していない（3.2%）」であった（N=433）。

津波の最大浸水想定高別では、想定高が高い自治体ほど、津波のシミュレーションが行われている（図 7.5.1）。

独自の津波の被害想定を公表については、「行い、ホームページ上などで公表している（17.3%）」「行ったが、住民に公表していない（1.2%）」であった（N=433）。津波の最大浸水想定高別では、想定高が高い自治体ほど、被害想定が公表されている（図 7.5.2）。

独自の住民の津波避難のシミュレーションについては、「行い、ホームページ上などで公表している（8.8%）」「行ったが、住民に公表していない（3.7%）」であった。

こちらも津波の最大浸水想定高別では、想定高が高い自治体ほど、住民避難のシミュレーションが行われている（図 7.5.3）。

独自の地震・津波による沿岸部の液状化の想定については、「行い、ホームページ上などで公表している（12.2%）」「行ったが、住民に公表していない（1.6%）」であった（N=433）。

こちらは、津波の最大浸水想定高との関係性がみられなかった（図 7.5.4）。

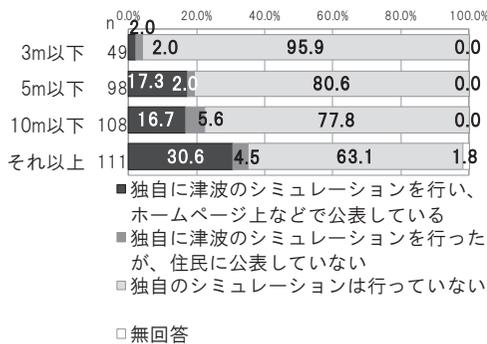


図 7.5.1 津波シミュレーションの公表
(津波の最大浸水想定高別)

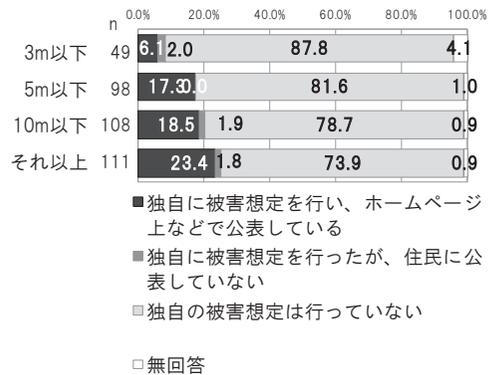


図 7.5.2 被害想定公表
(津波の最大浸水想定高別)

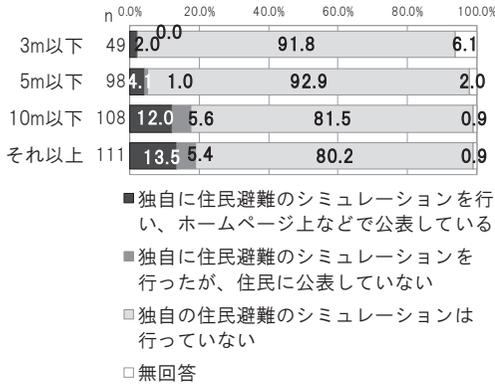


図 7.5.3 住民避難のシミュレーションの公表（津波の最大浸水想定高別）

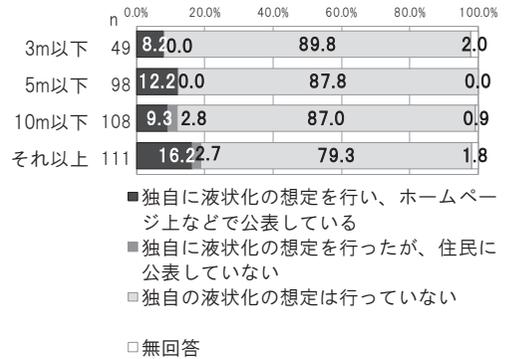


図 7.5.4 液状化の想定公表（津波の最大浸水想定高別）

7.6 ハザードマップ

次にハザードマップについて問うた（N=433）。「住民向けの津波に関する最新のハザードマップをどのように公表していますか」との問いに、「作成して、全世帯に配布した（67.9%）」「作成して、一部世帯に配布した（7.6%）」「作成して、ホームページ上に掲載した（64.7%）」「作成したが、公表は行っていない（0.2%）」と回答があった。また、「作成していない（8.5%）」という自治体もあった。

こちらは、津波の最大浸水想定高が高い自治体ほど、作成、配布が進んでいる（図 7.6.1）。

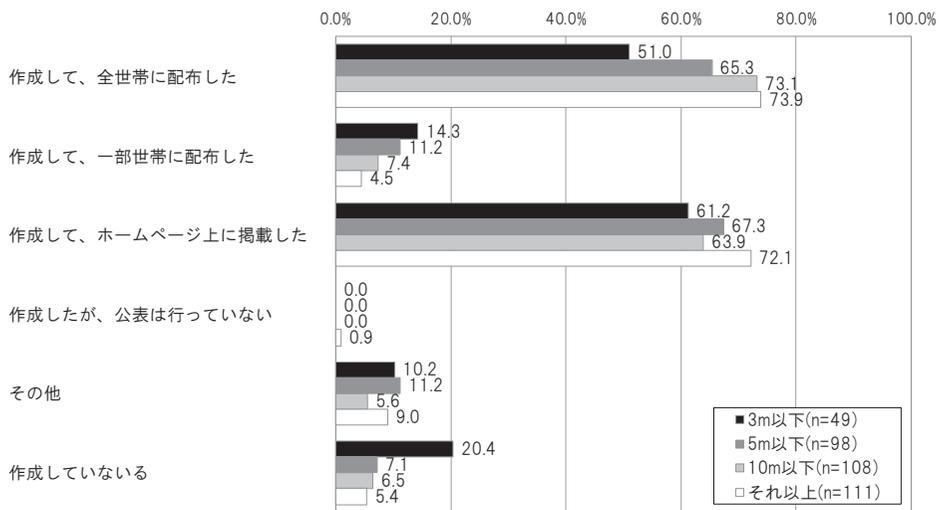


図 7.6.1 ハザードマップの公表（津波の最大浸水想定高別）

次に、津波の浸水想定エリアの特徴について問うた。

もっとも、危惧されている想定が「漁港」の浸水想定である。「工業地帯」「コンビナート」の浸水想定はそれに比して、多くはない。また、「住居」「市街地」という住居に関する特徴、「河口」「河川」の浸水という地理的特徴も見出された（図 7.6.2）。

また、基本的には、津波の最大浸水想定高が高いほど、それぞれの項目についての割合が高いことがわかる（図 7.6.3）。

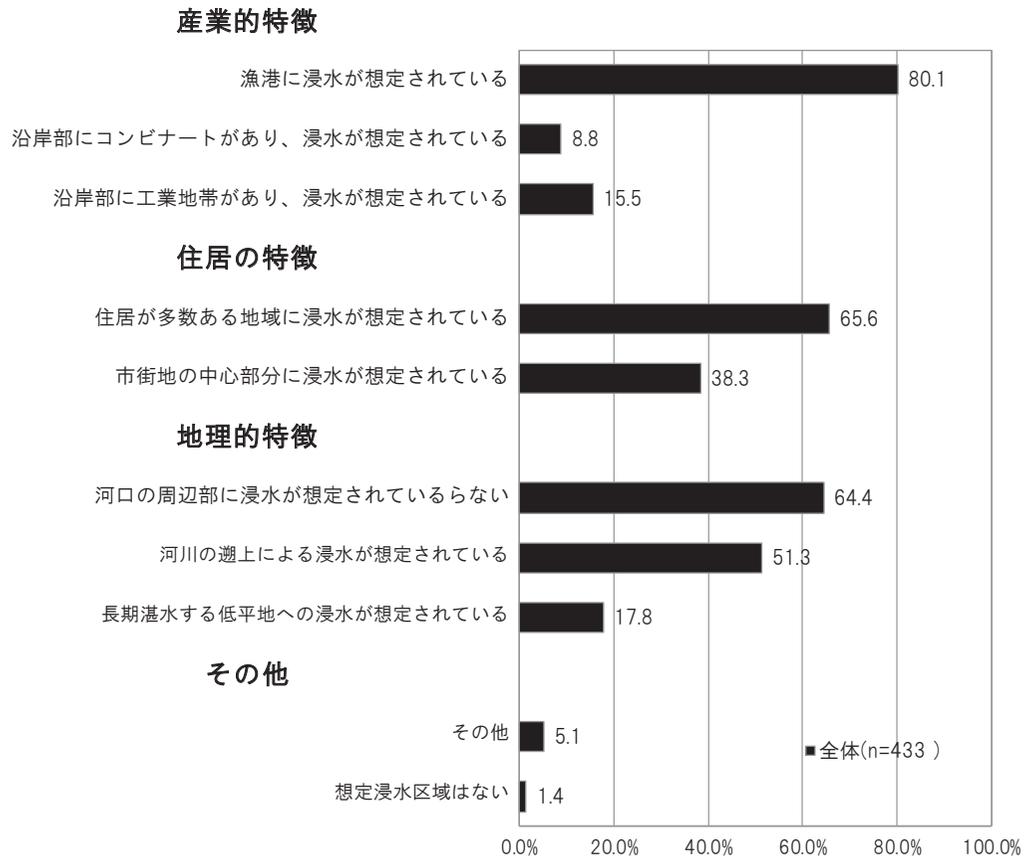


図 7.6.2 津波浸水想定の詳細

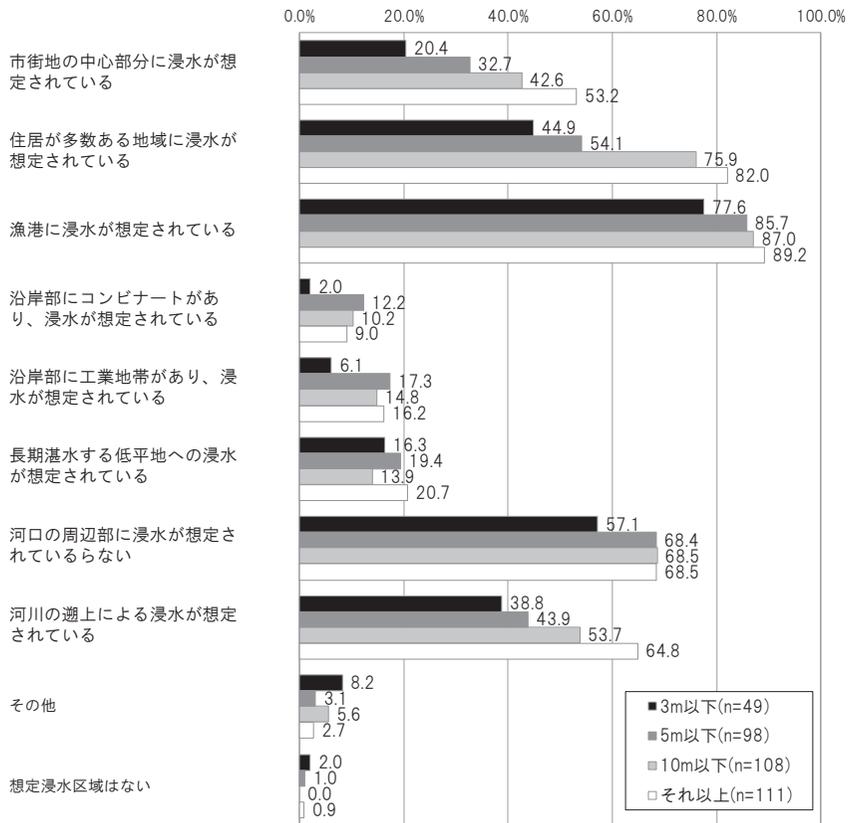


図 7.6.3 津波想定の詳細（津波の最大浸水想定高別）

なお「津波への注意に関する情報をどのような形で広報していますか」として、広報手段を問うたところ、「津波ハザードマップ（72.7%）」「自治体のホームページ（61.9%）」「講演会や学習会、出前講座（54.5%）」「自治体の広報誌（42.3%）」「津波に限らない防災に関するパンフレット（34.4%）」「津波防災パンフレット（12.5%）」「ソーシャルメディア（Twitter や Facebook など）（8.1%）」であった（N=433）。

こうした広報も、津波の最大浸水想定高が高いほど、それぞれの項目についての割合が高いことがわかる（図 7.6.4）。

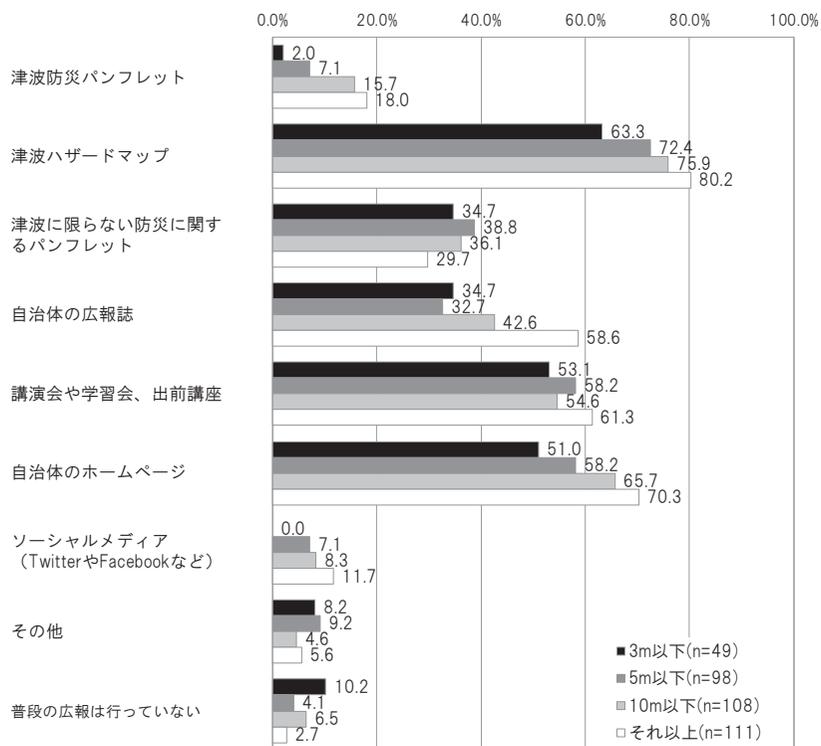


図 7.6.4 津波情報の広報手段（津波の最大浸水想定高別）

8. 自治体の概要

最後に自治体の概要を述べる。

第一に、漁港の津波防災の担当部署を「貴自治体では、漁港の津波防災はどの部署を行っていますか」と複数回答で問うた（N=433）。その結果、最も多かった担当部署は「防災関係の部局」で62.8%、次いで「水産関係の部局」で48.5%あった。「その他」では「県」や建築関係（土木系）の部局などがあげられていた。

なお、津波の最大浸水想定高別による差は見られない（図 8.1）。

第二に、漁港の防災の担当者について「貴自治体では、漁港の防災を担当する方はいらっしゃいますか」と複数回答で問うた。その結果、「専任の漁港の防災担当者がある」と答えたのは全体の 3.7%であった。また、「漁港防災を担当する人はいない」と答えた自治体も多く、全体の 44.1%であった。

こちらも、いずれも津波の最大浸水想定高とは関係がみられなかった（図 8.2）。

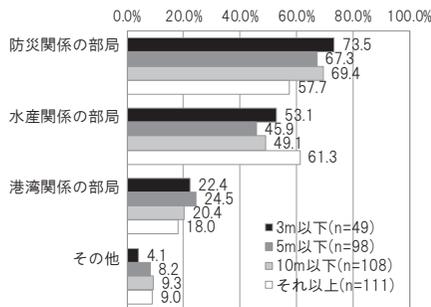


図 8.1 漁港の津波防災を担当する部署

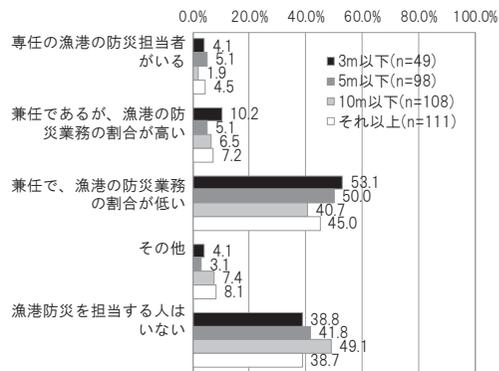


図 8.2 漁港の防災を担当する人

9. まとめ

以上のように、水産庁の「ガイドライン」に記載のあるような漁業地域防災協議会は設置されておらず、そのため、自治体が「ガイドライン」に記述があるような漁港を中心とした漁業地域の津波対策が行われていない現状が明らかになった。また、津波の最大浸水想定高の高い自治体ほど整備や対策が進んでいることが明らかになった。

引用・参考文献

漁港漁村ポケットブック編集委員，2018， 2018 漁港漁場漁村ポケットブック

国土交通省オンライン，2011，津波防災まちづくりの考え方，

<https://www.mlit.go.jp/common/000149628.pdf>，2020年1月14日アクセス。

内閣府オンライン，2012，南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高について（第一次報告）巻末資料，

http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/model/pdf/kanmatsu_shiryou.pdf，2020年1月14日アクセス）

水産庁，2012a，水産白書 平成 23 年度版，農林統計協会

水産庁，2012b，災害に強い漁業地域づくりガイドライン 平成 24 年 3 月，全国漁港漁場協会

山本正昭・中山哲巖・坂井淳・三橋宏次，1985，日本海中部地震津波による漁港内の漁船被害，海岸工学講演会論文集，32 巻，pp.460-464

安本真也・田中淳・関谷直也，2019，漁港における津波対策の現状と課題—沿岸部自治体の悉皆調査結果より—，日本自然災害学会 vol.38，特別号，pp.109-122.

付属資料（アンケート調査の単純集計）

※なお、ここでは回答いただいたすべての自治体（N=433）の集計結果を記している。

A. 漁港や漁港施設における津波対策についておうかがいします

漁港や漁港施設（漁港漁場整備法によって定められているもの） に関しておうかがいします。

問1 貴自治体の漁港では、昭和以降で津波による被災経験はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 犠牲者がでたことがある	9.5%
2. 物的被害がでたことがある	24.5%
3. 経験していない	63.5%
無回答	7.9%

問2 貴自治体では、漁港に特化した津波を想定した対策を行っていますか。あてはまるもの一つだけ○をつけてください。

1. 漁港に特化した対策を行っている	7.9%
2. 漁港に特化した対策は行っていないが、沿岸部全体で対策を行っている	31.4%
3. 特に対策は行っていない	54.7%
無回答	6.0%

問3 貴自治体では、住民向けの津波に関する最新のハザードマップについて説明会を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 住民を対象とした説明会を実施している ⇒（頻度：年に___回程度）	18.2% (平均 6.8回)
2. 漁港や漁業の関係者だけを対象とした説明会を実施している ⇒（頻度：年に___回程度）	0.2% (1回)
3. 記録が無いためわからない	4.6%
4. その他（具体的に：_____）	26.8%
5. 特に実施していない	46.7%
無回答	4.8%

問4 貴自治体では、津波に関する防災訓練を実施していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 住民を対象とした説明会を実施している ⇒（頻度：年に___回程度）	46.7% (平均 2.0回)
2. 漁港や漁業の関係者だけを対象とした説明会を実施している ⇒（頻度：年に___回程度）	0.5% (平均 1.0回)
3. 記録が無いためわからない	0.9%
4. その他（具体的に：_____）	27.0%
5. 特に実施していない	22.4%
無回答	5.1%

問5 貴自治体では、津波避難に関するワークショップ（図上訓練や研修など）を実施していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 住民を対象としたワークショップを実施している ⇒（頻度：年に___回程度）	18.7% (平均 3.9 回)
2. 漁港や漁業の関係者だけを対象としたワークショップを実施している ⇒（頻度：年に___回程度）	0.0% -
3. 記録が無いためわからない	1.8%
4. その他（具体的に： ）	19.2%
5. 特に実施していない	56.4%
無回答	4.6%

問6 次あげる（A）～（N）の津波への対策について、貴自治体ではどのような対応をしていますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつ○をつけてください。

	すべての地域で整備が完了した	すべてまたは一部の地域で現在、整備を行っている	整備は行っていない	無回答
(A) 管理漁港における堤防の整備	13.4%	21.2%	53.8%	11.5%
(B) 管理漁港における防波堤のかさ上げ	4.6%	19.9%	64.4%	11.1%
(C) 管理漁港における防波堤の耐震化	1.6%	16.2%	70.7%	11.5%
(D) 管理漁港における岸壁の耐震化	1.6%	18.9%	67.4%	12.0%
(E) 水産関連施設（荷捌き施設など）の耐震化	2.5%	9.5%	76.2%	11.8%
(F) 人工地盤や津波避難デッキの整備	0.9%	3.9%	85.5%	9.7%
(G) 津波避難タワー・避難ビルの整備	6.7%	13.6%	72.1%	7.6%
(H) 水門の遠隔操作化	0.9%	7.4%	80.8%	10.9%
(I) 漁港周辺の避難場所の整備	19.2%	18.0%	54.3%	8.5%
(J) 漁港周辺の避難路の整備	15.2%	24.0%	51.0%	9.7%
(K) 漁港周辺の標識（海拔・標高、避難ルートなど）の設置	31.2%	27.5%	31.6%	9.7%
(L) 漁港周辺のヘリポートの整備	4.8%	5.3%	80.8%	9.0%
(M) 漁港周辺の監視カメラの設置	7.4%	11.1%	72.1%	9.5%
(N) 漁港周辺の防災行政無線の設置	53.1%	15.7%	22.6%	8.5%

問7 貴自治体では、津波防災として次あげる（A）～（I）を策定していますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつ○をつけてください。

	策定した（類似するものを含む）	策定に向けた検討を行っている	策定していない	無回答
（A） 停泊中の漁船の沖だしルール	3.9%	4.8%	81.1%	10.2%
（B） 操船中の漁船の避難ルール	5.1%	5.1%	79.9%	9.9%
（C） 避難海域の設定	3.7%	3.5%	82.7%	10.2%
（D） 水門・陸閘（りっこう）などの操作・退避ルール	22.2%	9.2%	58.7%	9.9%
（E） 漁港・漁村などにおける津波対策基本方針	11.5%	5.5%	73.7%	9.2%
（F） 漁港・漁村などにおける津波防災マニュアル	12.9%	6.0%	71.8%	9.2%
（G） 漁港・漁村などにおける減災計画（水産庁の「災害に強い漁業地域づくりガイドライン」に沿ったもの）	2.8%	6.5%	82.7%	8.1%
（H） 漁港における事業継続計画（BCP）	3.9%	11.5%	75.3%	9.2%
（I） 漁業に関する事前復興計画	2.3%	3.7%	85.2%	8.8%

問8 貴自治体の漁港では、津波発生時に以下の可能性がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 漁港が液状化する	42.5%
2. 水産物の陸揚げが長期にわたってできない	62.6%
3. 水産物の流通が長期にわたって停止する	52.2%
4. 水産物の加工が長期にわたってできない	39.0%
5. 沖にいる漁船に津波の情報が伝わらない	34.6%
6. 沖にいる漁船の把握ができない	37.0%
無回答	18.5%

問9 貴自治体の漁港では、次あげる（A）～（G）について対策を検討していますか。それぞれについてあてはまるもの一つだけ○をつけてください。

	検討している	課題であると認識しているが、検討していない	検討していない	無回答
（A） 漁港にいる人の避難に十分な時間がとれない	18.9%	28.9%	41.3%	10.9%
（B） 避難する道路が狭く、避難の支障となる	14.8%	22.4%	52.0%	10.9%
（C） 観光客などの外来者の避難誘導が難しい	15.2%	23.1%	52.0%	9.7%
（D） 孤立する漁港が発生する	8.3%	17.8%	62.4%	11.5%
（E） 燃料などが流出し、津波火災が拡大する	6.0%	24.2%	58.4%	11.3%
（F） 漂流物が漁港施設に甚大な被害をもたらす	6.7%	37.4%	45.0%	10.9%
（G） 冬場、避難するためには、定期的に除雪をしておかなければならない	6.5%	8.3%	74.4%	10.9%

問 10 貴自治体の漁港において、日頃から観光客などの外来者への津波に関する広報活動は、どのように行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 海岸に防災行政無線を設置している	52.9%
2. ホテルや宿泊施設などに津波防災マップをおいている	13.2%
3. 道路に津波に関する看板や掲示板を立てている	35.6%
4. 海岸に津波に関する看板や掲示板を立てている	24.0%
5. 観光案内所で津波について案内している	4.6%
6. その他（具体的に)	7.6%
7. 津波に関する広報活動は行っていない	23.8%
無回答	9.5%

B. 漁業に関する津波対策についておうかがいします

問 11 津波来襲時に漂流物となる可能性のある（A）～（E）のについて、貴自治体ではどのような対応をしていますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつ○をつけてください。

	重点的に 対策を している	重点的では ないが、対策 をしている	対策は していない	無回答
(A) 水産庁が対策としてあげる、係留ロープを太くするなど漁船の係留方法の強化	0.5%	6.2%	82.4%	10.9%
(B) 水産庁が対策としてあげる、係留ロープを太くするなど養殖いけすの係留方法の強化	0.2%	4.6%	83.4%	11.8%
(C) 漁具の高地保管	0.7%	5.1%	83.1%	11.1%
(D) 津波に強い漁業用燃料タンクへの変更や使われていないタンクの撤去などの油（燃料）対策	0.9%	4.8%	82.7%	11.5%
(E) 放置艇や沈没船の撤去	4.4%	27.7%	56.6%	11.3%

問 12 貴自治体の漁港では、自治体や漁協、地域住民、水産関係者などによる漁業地域防災協議会を設置していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. すべての漁港で、漁業地域防災協議会を設置している	0.5%
2. すべての漁港で、関係者間で漁港・漁村の防災について話し合う機会を設けている	7.2%
3. 一部の漁港で、漁業地域防災協議会を設置している	2.1%
4. 一部の漁港で、関係者間で漁港・漁村の防災について話し合う機会を設けている	6.7%
5. すべての漁港で、話し合う機会がない ⇒ 問 13 へ	71.6%
無回答	13.2%

【問 12 で 1～4 を回答した方のみ】

以下は、貴自治体内で最も積極的に行われている漁業地域防災協議会、または話し合いについてお答えください。

問 12-1 その漁業地域防災協議会または話し合いはどの程度行われていますか。あてはまるもの一つだけ○をつけてください。(n=66)

1. 定期的実施している ⇒（頻度：年に__回程度）	36.4%
2. 定期的ではないが、実施している	59.1%
3. 設置したが、実施したことが無い	3.0%
無回答	1.5%

問 12-2 その漁業地域防災協議会または話し合いに集まる関係者はどのような人たちですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。(n=66)

1. 県	43.9%
2. 市町村	75.8%
3. 漁業協同組合（漁協）	84.8%
4. 自主防災組織・地域防災組織などの地域住民	36.4%
5. 消防・消防団	21.2%
6. 警察	10.6%
7. 医療関係機関	1.5%
8. 海上保安庁	16.7%
9. 港湾管理者	18.2%
10. 市場開設者	13.6%
11. 水産関連業者（流通業者・加工業者・運送業など）	22.7%
12. 観光協会・観光業者	7.6%
13. インフラ業者	3.0%
14. 学校関係者	3.0%
15. その他（ ）	4.5%
無回答	3.0%

C. 漁港や漁港施設における津波対策の課題についておうかがいします

【全員におうかがいします】

問 13 貴自治体では津波に関する防災対策として、困っていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 予算が足りず、苦慮している	44.3%
2. 防災に携わる行政の職員が不足しており、苦慮している	54.5%
3. 地域における防災の担い手が不足しており、苦慮している	38.3%
4. 沿岸部にある漁業関連企業の対策について苦慮している	4.2%
5. 漁業関連者の関心が低く、苦慮している	8.8%
6. 漁村民の関心が低く、苦慮している	6.5%
7. 正直、どのような対策を立てるべきかわからない	13.9%
8. 津波よりも地震や台風、高潮などの他の災害対策の方が優先度が高い	42.3%
9. 対策を十分に行っているので、大丈夫だと思う	1.6%
無回答	8.8%

問 14 貴自治体では津波の想定に関して、困っていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 津波の想定が頻繁に変わるので、対応に苦慮している	6.7%
2. 最大規模の想定に対して、どこまで対応すれば良いか、苦慮している	55.9%
3. 確率が高くないものにも対応しなければいけないことに苦慮している	24.0%
4. その他（ 具体的に： ）	5.1%
無回答	28.2%

問 15 貴自治体で、観光客が多く、津波対策で困っている地域はありますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。また、困っている地域がある場合は、具体的な地域名をお答えください。

1. ある（ 具体的な地域名： ）	12.5%
2. ない	79.4%
無回答	8.1%

問 16 漁港の津波避難について、貴自治体では困っていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 避難する高台が近くにない	22.6%
2. 避難ビルに指定する建物がない	27.7%
3. 避難路の整備が進まない	11.3%
4. 避難場所の整備が進まない	7.6%
5. 防災行政無線が聞こえない漁港がある	8.8%
6. 観光客などの外来者の避難対策について困っている	21.7%
7. 自動車避難をどうすべきか困っている	14.8%
8. 冬季の避難方法、避難場所について困っている	8.1%
無回答	38.6%

問 17 貴自治体では漁港の津波対策についてどのようにお考えですか。(A)～(H)までそれぞれについて、あてはまるもの一つずつ○をつけてください。

	そう思う	そう思わない	無回答
(A) 漁港に特化した津波対策が必要である	39.3%	48.5%	12.2%
(B) 漁港には関係者が多く、津波防災に関する連携が難しい	36.0%	51.5%	12.5%
(C) 津波被災時に漁船の位置を把握するシステムが欲しい	40.9%	45.3%	13.9%
(D) 隣接する都道府県または市町村との連携が必要である	68.8%	19.2%	12.0%
(E) 漁業者向けの津波防災に関する行政職員向けの研修の機会を設けてほしい	52.7%	34.6%	12.7%
(F) 他自治体の状況を知りたい	75.5%	13.2%	11.3%
(G) 他自治体における先進事例を知りたい	76.4%	12.2%	11.3%

D. 災害全般についておうかがいします

問 18 次にあげる(A)～(F)の災害について、貴自治体ではハザードマップを作成していますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつ○をつけてください。

	作成している	作成していない	無回答
(A) 地震	56.8%	39.0%	4.2%
(B) 津波	87.5%	10.2%	2.3%
(C) 高潮	28.4%	63.7%	7.9%
(D) 土砂災害	82.7%	13.2%	4.2%
(E) 洪水(外水・内水氾濫)	70.0%	24.5%	5.5%
(F) 火山	5.8%	87.5%	6.7%

問 19 貴自治体では、現在自治体から住民に向けての災害に関する情報を、どのような手段を使って伝えていきますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. コミュニティFM	21.9%
2. CATV	29.8%
3. アナログ方式の同報（防災）無線（スピーカー）	31.6%
4. デジタル方式の同報（防災）無線（スピーカー）	64.9%
5. 同報（防災）無線（戸別受信機）	62.8%
6. IP告知端末（戸別受信機）	13.2%
7. サイレン（モーターサイレンなど）	19.4%
8. オフトーク通信・有線放送	1.2%
9. 電話による一斉通報システム	3.7%
10. 半鐘	0.5%
11. 自治体独自の登録方式の防災メール（住民への一斉送信）	53.1%
12. エリアメール・緊急速報メール	82.7%
13. アプリ	10.6%
14. ソーシャルメディア	40.9%
15. WEBページ	58.2%
16. その他（具体的に： ）	11.5%
無回答	1.4%

問 20 貴自治体での自主防災組織の組織率はどれくらいですか。おおまかな割合で結構ですので、数字でお答えください。

(平均 74.9) %

問 21 貴自治体では、津波防災について以下のようなものはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 地域防災計画に津波防災対策編がある	66.5%
2. 地域防災計画に津波防災対策を扱った章がある	49.2%
3. 地域防災計画とは別に津波防災専用の計画（津波防災計画、津波防災対策要覧など）がある	18.5%
4. 津波防災協議会の津波防災計画がある	-
5. 津波防災マニュアル（一般的な防災マニュアルではなく、特に津波について定めたもの）がある	6.9%
6. 上記以外で津波防災対策について明文化している（具体的に： ）	5.1%
7. 津波防災対策について明文化したものはない	3.0%
無回答	1.6%

問 22 貴自治体では、独自の津波のシミュレーション結果を公表していますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

1. 独自に津波のシミュレーションを行い、ホームページ上などで公表している	18.7%
2. 独自に津波のシミュレーションを行ったが、住民に公表していない	3.2%
3. 独自のシミュレーションは行っていない	76.4%
無回答	1.6%

問 23 貴自治体では、独自の津波の被害想定を公表していますか。あてはまるものの一つだけ○をつけてください。

1. 独自に被害想定を行い、ホームページ上などで公表している	17.3%
2. 独自に被害想定を行ったが、住民に公表していない	1.2%
3. 独自の被害想定は行っていない	79.4%
無回答	2.1%

問 24 貴自治体では、独自の住民の津波避難のシミュレーションを公表していますか。あてはまるもの一つだけ○をつけてください。

1. 独自に住民避難のシミュレーションを行い、ホームページ上などで公表している	8.8%
2. 独自に住民避難のシミュレーションを行ったが、住民に公表していない	3.7%
3. 独自の住民避難のシミュレーションは行っていない	84.8%
無回答	2.8%

問 25 貴自治体では、独自の地震・津波による沿岸部の液状化の想定を公表していますか。あてはまるもの一つだけ○をつけてください。

1. 独自に液状化の想定を行い、ホームページ上などで公表している	12.2%
2. 独自に液状化の想定を行ったが、住民に公表していない	1.6%
3. 独自の液状化の想定は行っていない	84.1%
無回答	2.1%

問 26 貴自治体では、住民向けの津波に関する最新のハザードマップをどのように公表していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 作成して、全世帯に配布した	67.9%
2. 作成して、一部世帯に配布した	7.6%
3. 作成して、ホームページ上に掲載した	64.7%
4. 作成したが、公表は行っていない	0.2%
5. その他（具体的に： ）	8.8%
6. 作成していない	8.5%
無回答	1.8%

問 27 貴自治体での津波の浸水想定エリアはどのような場所ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 市街地の中心部分に浸水が想定されている	38.3%
2. 住居が多数ある地域に浸水が想定されている	65.6%
3. 漁港に浸水が想定されている	80.1%
4. 沿岸部にコンビナートがあり、浸水が想定されている	8.8%
5. 沿岸部に工業地帯があり、浸水が想定されている	15.5%
6. 長期湛水する低平地への浸水が想定されている	17.8%
7. 河口の周辺部に浸水が想定されている	64.4%
8. 河川の遡上による浸水が想定されている	51.3%
9. その他（具体的に： ）	5.1%
10. 想定浸水区域はない	1.4%
無回答	2.3%

問 28 貴自治体で住民に対して、日ごろから津波への注意に関する情報をどのような形で広報していますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 津波防災パンフレット	12.5%
2. 津波ハザードマップ	72.7%
3. 津波に限らない防災に関するパンフレット	34.4%
4. 自治体の広報誌	42.3%
5. 講演会や学習会、出前講座	54.5%
6. 自治体のホームページ	61.9%
7. ソーシャルメディア（Twitter や Facebook など）	8.1%
8. その他（ 具体的に： ）	6.0%
9. 普段の広報は行っていない	5.8%
無回答	1.6%

E. 貴自治体についておうかがいします

F 1 貴自治体では、漁港の津波防災はどの部署が行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 防災関係の部局	62.8%
2. 水産関係の部局	48.5%
3. 港湾関係の部局	20.1%
4. その他（ 具体的に： ）	8.8%
無回答	6.2%

F 2 貴自治体では、漁港の防災を担当する方はいらっしゃいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。 専従者がいらっしゃる場合は、人数もご記入ください。

1. 専任の漁港の防災担当者がある ⇒（ ）名	3.7% (平均 1.3 名)
2. 兼任であるが、漁港の防災業務の割合が高い ⇒（ ）名	6.5% (平均 2.2 名)
3. 兼任で、漁港の防災業務の割合が低い ⇒（ ）名	42.5% (平均 2.3 名)
4. その他（ 具体的に： ）	6.2%
5. 漁港防災を担当する人はいない	44.1%
無回答	3.9%

F 3 貴自治体の想定では、津波の最大浸水想定高は何メートルですか。具体的な数字でお答えください。

(平均 9.0)
m

F 4 貴自治体では、漁港数はいくつありますか。それぞれについて具体的な数字でお答えください。

	第1種漁港	第2種漁港	第3種漁港	第4種漁港	第5種漁港
都道府県管理	(平均 0.9)	(平均 1.0)	(平均 0.3)	(平均 0.3)	(平均 0.0)
市町村管理	(平均 4.8)	(平均 0.6)	(平均 0.0)	(平均 0.0)	(平均 0.0)

F 5 貴自治体の一般会計の予算はいくらですか。大体で結構ですので、具体的な金額をお答えください。

(平均 976.0)

億円

F 6 貴自治体の防災関連の予算はいくらですか。大体で結構ですので、具体的な金額をお答えください。

(平均 11.7)

億円

F 7 貴自治体の漁業関連の予算はいくらですか。大体で結構ですので、具体的な金額をお答えください。

(平均 5.7)

億円

F 8 貴自治体での漁港における津波防災で、現在の課題や困っている点、更に改善すべきと思うポイントがありますか。何でも結構ですので、ご自由にお書きください。

省略

南海トラフ地震および「南海トラフ地震に関連する情報」への対応
：静岡市と高知市の住民アンケート調査より
Social Responses to “Information Relating to the Nankai Trough Earthquake”
：A Questionnaire Survey for Former Residents of Shizuoka and Kouchi City

安本 真也 Shinya YASUMOTO 石濱 陵 Ryo ISHIHAMA
森野 周 Shu MORINO 関谷 直也 Naoya SEKIYA

目 次

1. はじめに
2. 南海トラフ地震に関連する情報
3. アンケート調査の概要
4. アンケート調査結果
 - 4.1 東海地震や南海トラフ地震に関連する情報についての認知率
 - 4.2 ケース1を想定した場合の住民の意識
 - 4.3 ケース2を想定した場合の住民の意識
 - 4.3.1 ケース2を想定した場合に重視する状況
 - 4.3.2 ケース2を想定した場合の住民の意識
 - 4.3.3 避難生活の継続について
 - 4.4 消費行動
 - 4.4.1 物資・備蓄の関係
 - 4.4.2 ガソリン不足
 - 4.4.3 追加的な防災行動
 - 4.5 南海トラフ臨時情報についての意見

引用・参考文献

付属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：南海トラフ地震、アンケート調査、避難、備蓄

安本 真也 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 1～4.3
石濱 陵 NHK報道局社会番組部
森野 周 NHK報道局社会部
関谷 直也 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 4.4～4.5

1. はじめに

2017年11月1日から運用が始まった「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ地震が発生する可能性の高まりを評価し、発表されるものである。この情報には定例と臨時の2種類があり、前者は原則として、毎月開催される「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合の調査結果を発表される際に、後者は南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始、または継続している場合に気象庁より発せられる。

その後、2019年5月より「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」と「南海トラフに関連する情報（臨時）」はそれぞれ、「南海トラフ地震関連解説情報」と「南海トラフ地震臨時情報」に名称が変更となった。だが、実質的な内容はほぼ変化がなく、本稿で用いる調査は、前者の名称の段階で行ったものである。そのため、以下では2017年11月1日から運用が始まった「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」と「南海トラフに関連する情報（臨時）」の名称で論ずることとする。

この「南海トラフ地震に関連する情報」が運用開始されたことに伴い、東海地震のみに着目した「東海地震に関連する情報」の発表は行われなかったこととなった。この発表は、内閣総理大臣の「警戒宣言」を発するきっかけであり、それによって国ならびに地震防災対策強化地域の各自治体が地震災害警戒本部を設置するなど、自治体や事業者、住民それぞれ対策が始まることが大規模地震対策特別措置法において定められていた（図1.1）。つまり、情報が発表されることをトリガーに、社会が災害対応モードに切り替わることが事前に定められていたのである。

東海地震に関連する情報（2011年～）

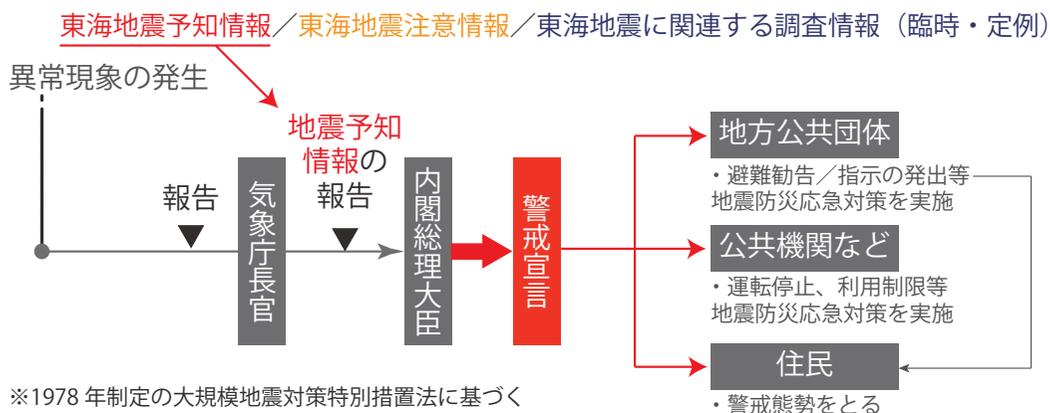


図 1.1 東海地震に関連する情報

それに対し、「南海トラフ地震に関連する情報」に関しては、運用が開始した直後、こうした防災対策との連動が定められておらず、内閣府は国民に対して「今後の備えについて呼びかけを行う」としている程度であった（図 1.2）（内閣府ホームページ，2017a）。そのため、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」を自治体、住民、事業者それぞれがどのように活用すれば良いのか分からなかった。

南海トラフ地震に関連する情報（2017年～）

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）／南海トラフ地震に関連する情報（定例）

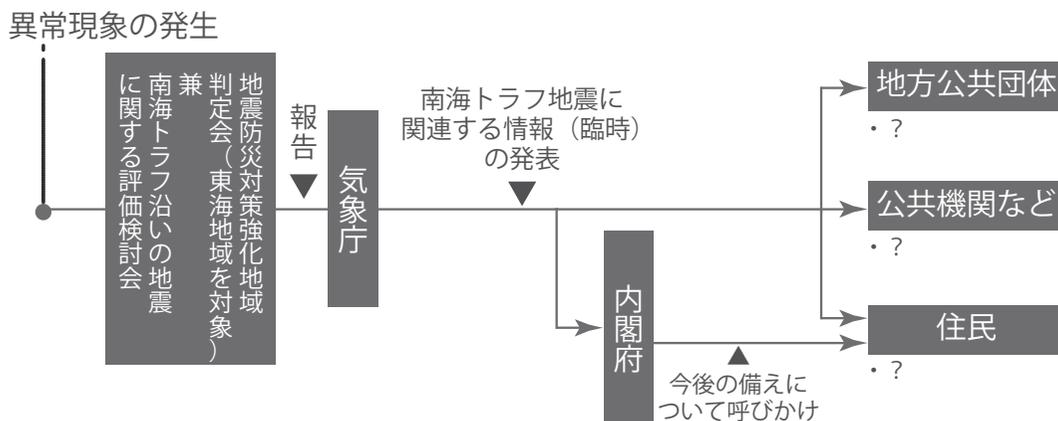


図 1.2 南海トラフ地震に関連する情報

なお、2019年3月には内閣府から「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン」が定められ、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された場合、政府から、日頃からの地震への備えを再確認するなどの呼びかけが行われること、また避難対象地域を事前に選定し、1週間を基本として全住民を避難させる場合があることなどが明記された（内閣府ホームページ，2019）。状況は変化したが、後述する調査は、政府からこうした対応が定められていない時点で行われた。本稿は、この「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」という情報だけが発表された場合に、回答者に社会的な状況を想定してもらい、そのうえでどのような対応行動をとるのか、という点に絞った研究である。

2. 南海トラフ地震に関連する情報

この「南海トラフ地震に関連する情報」で重要なのは、南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始、または継続している場合に気象庁より発せられる「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」である。南海トラフ沿いで

観測される可能性のある異常な現象のうち、観測される可能性が高く、大規模地震につながる可能性がある典型的な4つのケースが「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」によって整理された(図2.1)(内閣府ホームページ, 2017b)。本稿では、ケース1(南海トラフの東側だけで大規模地震が発生(その後、西側の領域でも連動して大規模地震が発生する可能性が高くなる))ならびにケース2(南海トラフでM7クラスの地震が発生)に焦点をあてる。これらのケースは歴史的な事例からも大規模地震が発生する可能性が高いと考えられているため、これらのケースが発生した場合、「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発せられると考えられる。ただし、この情報が発せられたとしても巨大地震が「必ず発生する」というわけではないことに留意する必要がある。

では住民はこうした自身に関する情報が発表された時に、防災対策との連動が定められていない状況では、どのように対応をするのか。住民に対して実施したアンケート調査を通して、明らかにすることとする。

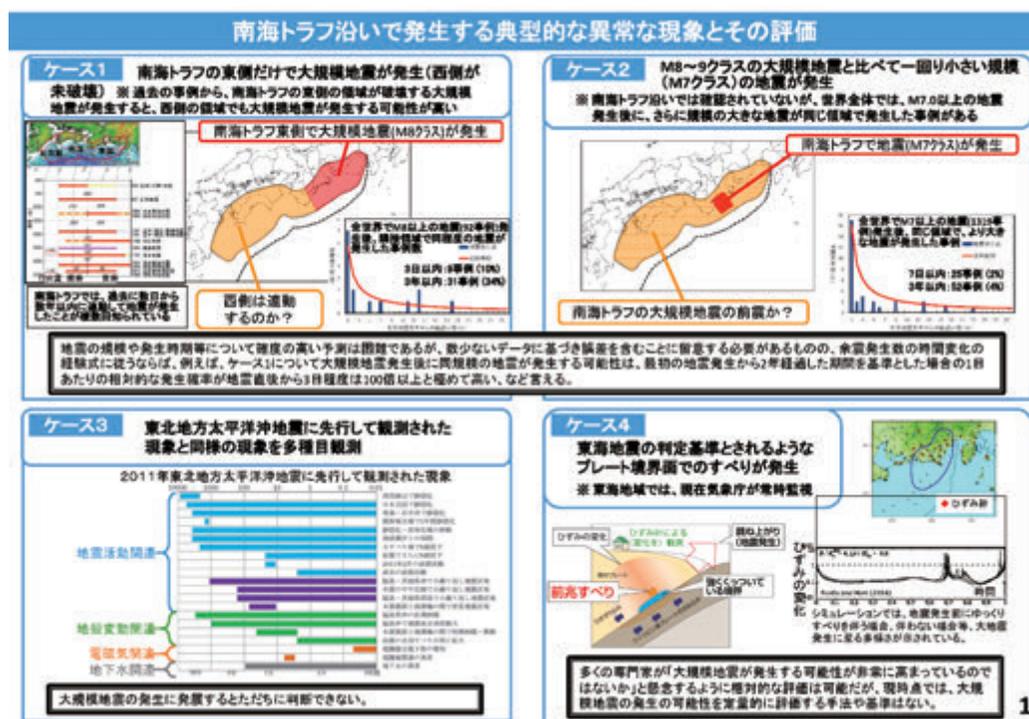


図 2.1 南海トラフ沿いで発生する典型的な異常な現象の4つのケース
(出典: 内閣府ホームページ, 2017b)

3. アンケート調査の概要

調査の概要は表 3.1 の通りである。高知県の沿岸部である高知市、静岡県の沿岸部である静岡市清水区（いずれも浸水深が 5m 以上とされる地点）、ならびに津波のおそれほとんどない内陸部である静岡市葵区の住民を対象として実施した。本稿では、これらの調査結果を、地区別を主として述べることとする。

なお、本稿はアンケート調査結果の結果を、地区ごとのクロス分析を中心に論ずることとする。なお、主要部分に関しては、安本ほか(2020)、安本ほか(2018a)、安本ほか(2018b)、関谷ほか(2018a)、関谷ほか(2018b)にて報告済みである。

表 3.1 調査概要

調査対象	高知市、静岡市清水区、静岡市葵区
調査主体	日本放送協会（NHK）、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
調査方法	郵送調査（世帯配布）
有効回答	537 標本（回収率 17.9%）
（内 訳）	高 知 市：175 標本（回収率 17.5%） 静岡市清水区：134 標本（回収率 13.4%） 静岡市 葵区：228 標本（回収率 22.8%）
調査期間	2018 年 6 月 29 日～8 月 7 日

4. アンケート調査結果

4.1 東海地震や南海トラフ地震に関連する情報についての認知率

本節では東海地震や南海トラフ地震に関連する情報の認知率について述べる。

第一に、「昨年、平成 29 年 11 月 1 日から、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に、『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』が発表されることになりました。あなたは、このことをご存じでしたか」と問うた結果、認知率は全体では 56.6%であり、地区ごとの差はほとんどみられなかった（図 4.1.1）。

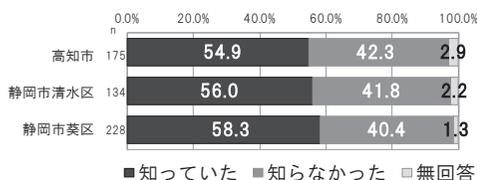


図 4.1.1 南海トラフ地震に関連する情報の認知率 ($\chi^2(2)=0.298$ 、有意差なし)

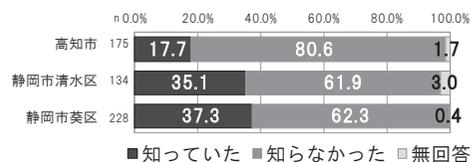


図 4.1.2 東海地震に関連する情報が発表されなかったことの認知率 ($\chi^2(2)=19.620$ 、 $p<.001$)

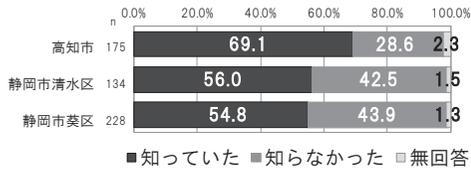


図 4.1.3 過去に南海トラフ沿いで発生した地震の認知率 ($\chi^2(2)=10.592$, $p<.01$)

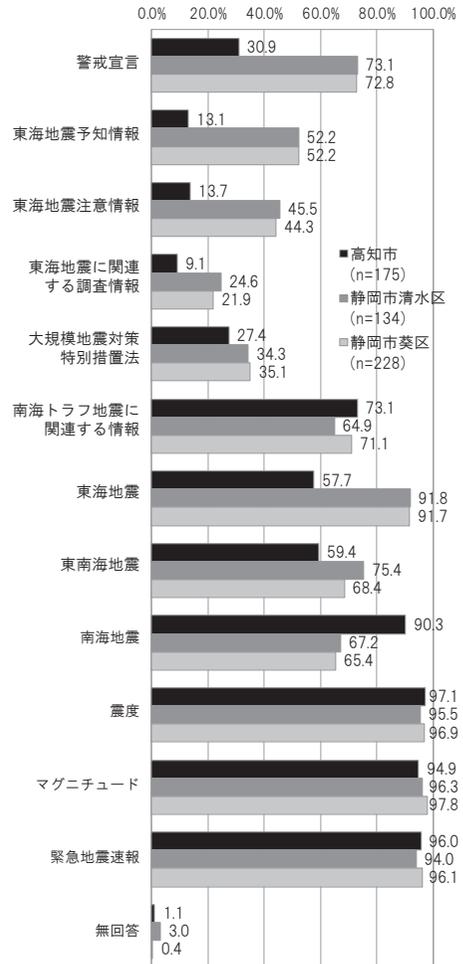


図 4.1.4 地震に関連した用語の認知率

第二に、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」の発表に伴い、東海地震予知情報、東海地震注意情報、東海地震調査情報など、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行わないことになりました。あなたは、このことをご存じでしたか」と問うた結果、全体の 30.4%が「知っていた」と答えた。東海地震と関係が薄い高知市では「知っていた」割合が 17.7%と、3 割以上が「知っていた」と答えた静岡市と比較すると低かった（図 4.1.2）。

第三に、「南海トラフ沿いで過去に発生した地震（東海地震、東南海地震、南海地震）は、数日から数年の時間差で、連続して、あるいは同時に発生しています。あなたは、このことをご存じでしたか」と問うた結果、全体の 59.8%が「知っていた」と答えた。こちらは、

高知市では 69.1%が「知っていた」と答えていた一方で、静岡市では 6 割以下と、比較して低かった（図 4.1.3）。

第四に「あなたは次の言葉を知っていますか」と、地震に関連する用語の認知率を複数回答で問うた結果が図 4.1.4 である。「警戒宣言」などの東海地震に関連する用語は静岡市で高い一方で、南海地震に関連する用語は高知市が高い。

全体として、静岡県は東海地震に、高知県は東南海もしくは南海地震への知識があるといえよう。

4.2 ケース 1 を想定した場合の住民の意識

本節では実際の避難に関する意思を問うた。

まず、回答者に、実際に大規模地震につながる可能性がある典型的な 4 つのケースのうち、ケース 1 の場合を想定してもらった。ケース 1 の説明について、図 4.2.1 を提示した上で、「あなたの居住地域ではない地域側（静岡市の方は南海地震のエリア、高知市の方は東海地震のエリア）で大地震が発生し、震源に近い地域では、揺れや津波により、多くの死者・行方不明者・家屋被害が発生しています。自衛隊や警察、消防が人命救出活動を行っています。鉄道や高速道路なども損壊したため、運休や通行止めになっています。そして、それらがテレビを通じて刻々と報じられています。しかし、あなたの居住地では、被害は発生しておらず、電気、水道などは問題なく使えています」と状況を説明した。

その上で、第一に、「あなたの居住地域に大津波警報が出された場合、あなたは、居住地域に被害がない場合でも、自宅を離れて避難すると思いますか」と問うた。「避難すると思う」と答えたのは全体の 51.8%であった。津波の危険性が考えにくい静岡市葵区でも 36.0%の人が「避難すると思う」と答えている（図 4.2.2）。

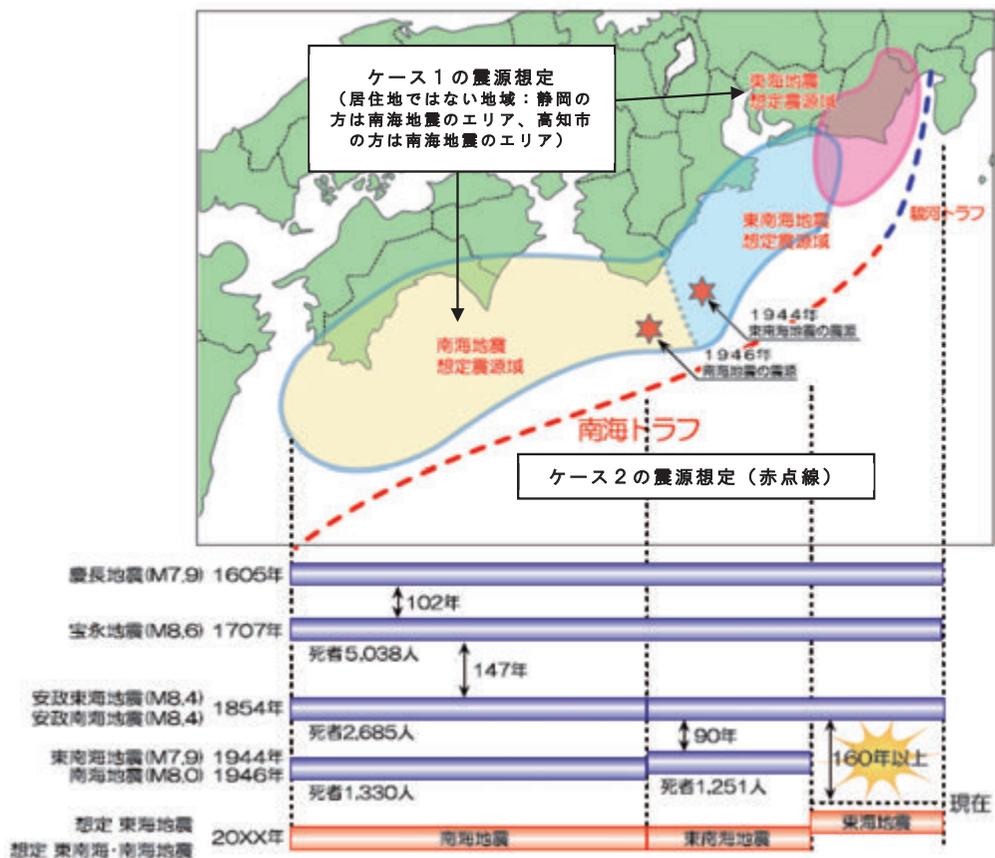


図 4.2.1 質問紙で用いた南海トラフ地震の説明図
(気象庁ホームページ, 2018 に一部加筆)

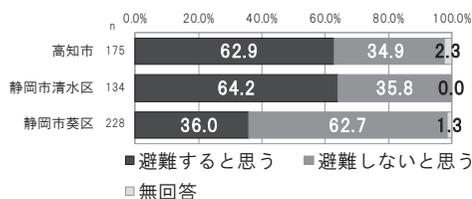


図 4.2.2 大津波警報が出された場合の避難への意思 ($\chi^2(2)=40.176, p<.001$)

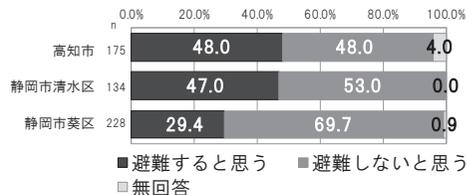


図 4.2.3 ケース 1 の状況下での避難への意思 ($\chi^2(2)= 19.696, p<.001$)

第二に、「南海トラフの東側（もしくは西側）のみで地震が発生した場合、被害を受けていない地域においても、地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして、『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』が発表されることとなります。居住地域に被害

がない場合でも、あなたは、自宅を離れて避難すると思いますか」と問うた。つまり、ケース1の状況における避難への意思を問うた。その結果、「避難すると思う」と答えた人は全体の39.9%であった。地区を比較すると、有意な差がみられた($\chi^2(2) = 19.696, p < .001$)。高知市と静岡市清水区に比べて、静岡市葵区では「避難すると思う」と答える割合が約2割低かった(図4.2.3)。

では「避難すると思う」「避難しないと思う」それぞれの理由はなにか。それぞれの理由に関して、複数回答で問うた結果を地区別で示した結果がそれぞれ、図4.2.4と図4.2.5である。

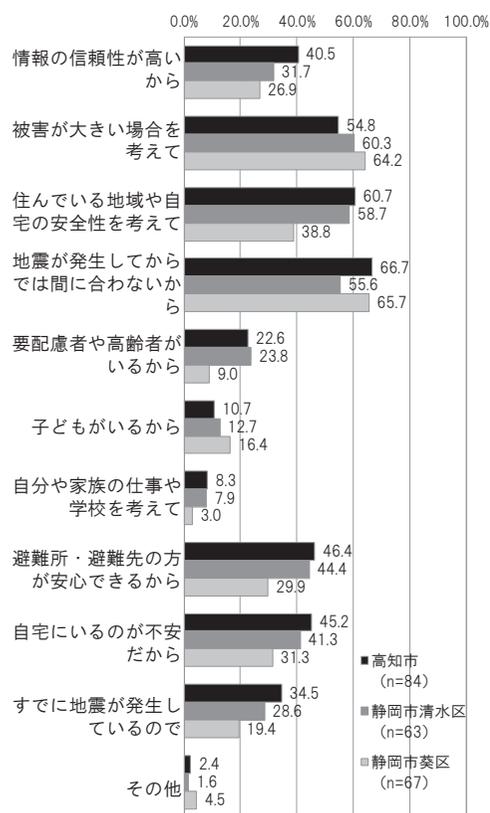


図 4.2.4 ケース1の状況下で避難する理由

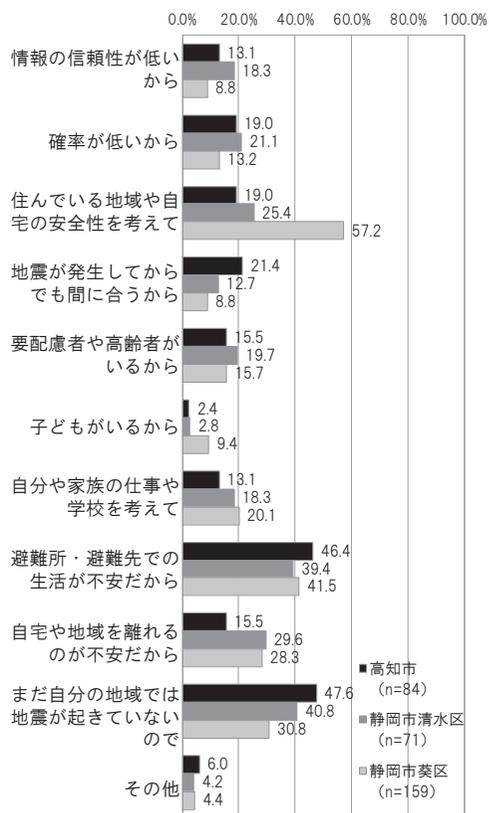


図 4.2.5 ケース1の状況下で避難しない理由

「避難すると思う」と答えた人の理由として最も多かったのは「地震が発生してからでは間に合わないから」であった(全体では63.1%)。つづいて「被害が大きい場合を考えて」(全体では59.3%)、「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」(全体では53.3%)であった。「地震が発生してからでは間に合わないから」と「被害が大きい場合を考えて」は全ての地区で高かった一方で、「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」のみ、津波のおそれ

がほとんどない内陸部である静岡市葵区では他の2地区と比べて2割程度低かった。

一方で、「避難しないと思う」と答えた人の理由として最も多かったのは「避難所・避難先での生活が不安だから」（全体では42.4%）であった。つづいて「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」（全体では39.8%）、「まだ自分の地域では地震が起きていないので」（全体では37.6%）であった。ただし、「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」に関して、静岡市葵区では他の2地区と比べて3割程度高かった。

つまり、津波のおそれがほとんどない内陸部である静岡市葵区の住民は住んでいる地域や自宅が安全と考えている割合が高い。ここから、南海トラフ地震に関連する情報（臨時）が発表された場合、住民は避難するか否かのひとつの判断基準として、津波のおそれがあるか否かが大きいということが明らかとなった。

第三に「もし仮に、自分の居住地に地震が起きる前に、長期に避難をすることになった場合、あなたはどこに避難しますか」と問うた結果が図4.2.6である。最も多かったのは「指定された避難所」で、全体の43.0%であった。家族である、「祖父母、父母、子どもなどの家」も19.6%であるが、「わからない」と答える人も21.6%であった。実際に情報が発せられなければわからない人も存在する。なお、この設問に関して、大きな地区ごとの差はみられなかった。さらに、具体的に、避難先の住所を問うているが、高知県の住民は65.7%が高知県内へ、静岡県民は清水区で56.0%、葵区で50.0%の住民が静岡県内へ避難する、と答えていた。

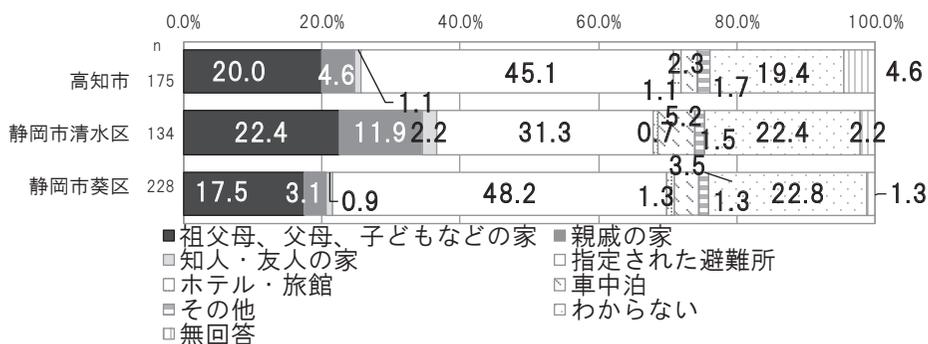


図 4.2.6 ケース 1 の場合の避難先 ($\chi^2(14)=22.897$ 、有意差なし)

4.3 ケース 2 を想定した場合の住民の意識

続いて、実際に大規模地震につながる可能性がある典型的な4つのケースのうち、ケース2の場合を想定してもらった。ケース2の説明について、「南海トラフ沿い（2ページの図¹をご参照ください）でマグニチュード7程度の地震が発生した時（ただし、とくに大き

¹ 図 4.2.1 のこと

な被害は出ていないとします)、その後さらに巨大な地震が南海トラフ全域で発生する可能性があります。そのため、巨大地震が発生する可能性は平常時と比べて相対的に高まったとして、『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』が発表されることとなります」と状況を説明した。

4.3.1 ケース2を想定した場合に重視する状況

ケース2の場合、ケース1と異なり、大規模な津波が発生する可能性が低く、社会機能が維持していると考えられる。そのため、避難に対する意思を問う前に、第一にこの情報が発表されたときに避難するかどうかの判断基準として考えられる社会の状況について、「あなたにとって、『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』が発表されたときに避難するかどうかの判断基準として、下記のことは重要ですか」と重要度を4点尺度で問うた。その結果が図4.3.1から図4.3.7である。

最も「重要である」と答えた割合が高かったのは「避難場所の状況（どんな所へ避難するか）」という項目であった（図4.3.7）。これらのほとんどの項目において地区ごとの有意差はみられなかったが、「周囲の人の避難の状況」に関しては有意差（ $\chi^2(6)=15.227$ 、 $p<.05$ ）がみられ、高知市が静岡市の2地区と比較して高い結果であった（図4.3.1）。

これらの結果から、避難にあたって「周囲の人の避難の状況」「食料の供給の状況」「銀行、ガソリンの供給の状況」といった社会的な状況や「避難場所の状況」が重要であることがわかる。

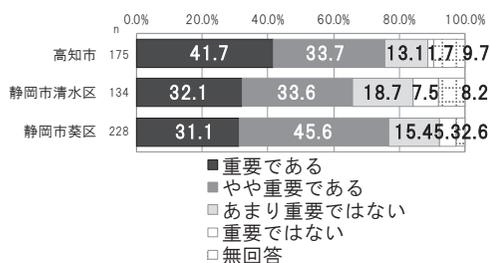


図 4.3.1 周囲の人の避難の状況の重要性
($\chi^2(6)=15.227$ 、 $p<.05$)

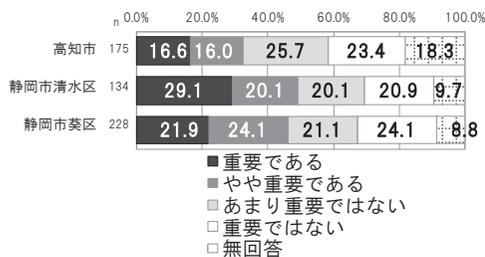


図 4.3.2 仕事の状況の重要性
($\chi^2(6)=9.396$ 、有意差なし)

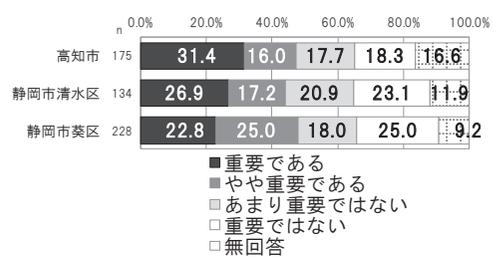


図 4.3.3 家族の学校などの状況の重要性
($\chi^2(6)=9.507$ 、有意差なし)

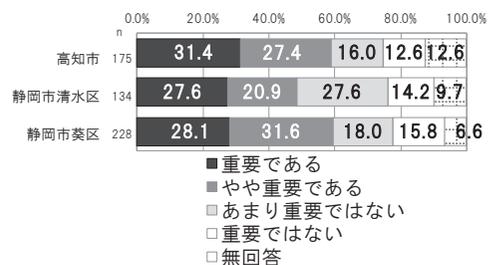


図 4.3.4 病院などの状況の重要性
($\chi^2(6)=10.173$ 、有意差なし)

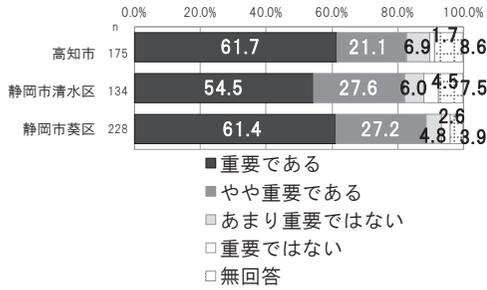


図 4.3.5 食料供給の状況の重要性

($\chi^2(6)=5.290$ 、有意差なし)

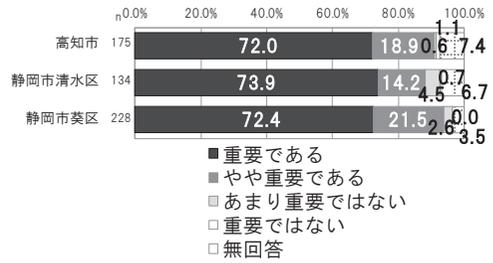


図 4.3.7 避難場所の状況の重要性

($\chi^2(6)=9.611$ 、有意差なし)

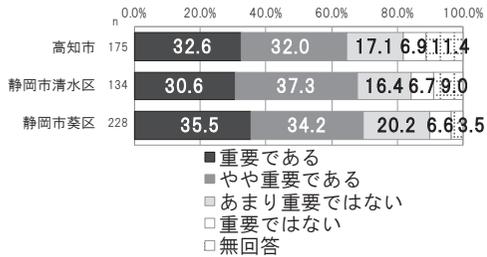


図 4.3.6 銀行、ガソリンの供給の状況の重要性

($\chi^2(6)=1.413$ 、有意差なし)

図 4.3.7

第二に、「あなたにとって、『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』が発表されたときに、避難するかどうかを考える上で、何を重視しますか」と、心理面を問うた。その結果が図 4.3.8 から図 4.3.14 である。

最も「重視する」と答えた割合が高かったのは「災害などで命を落とさないこと」で全体として 93.7%であった。一方で、「重視しない」割合が最も高かったのは「車などの家財道具を守れるかどうか」であった。「重視しない」と「あまり重視しない」を合わせると、全体として 41.9%であった（図 4.3.13）。こちらでも同様に、ほとんどの項目で有意差はみられなかった。

避難を判断する上で、「災害などで命を落とさないこと」は多くの人が重視するが、それ以外でも「自宅や地域から離れないで済むかどうか」「避難生活のストレスや辛さ」といった、避難後の生活が判断において重視されていることが明らかである。

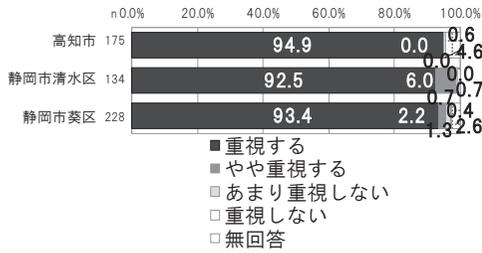


図 4.3.8 災害などで命を落とさないこと
($\chi^2(6)=14.153$, $p<.05$)

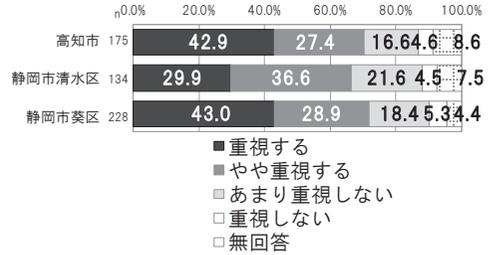


図 4.3.12 自宅や地域から離れないで済むかどうか
($\chi^2(6)=7.752$, 有意差なし)

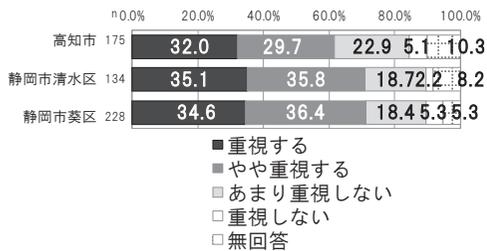


図 4.3.9 仕事、経済面など日々の生活
($\chi^2(6)=4.622$, 有意差なし)

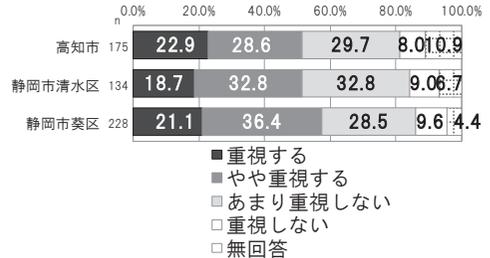


図 4.3.13 車などの家財道具を守るかどうか
($\chi^2(6)=2.888$, 有意差なし)

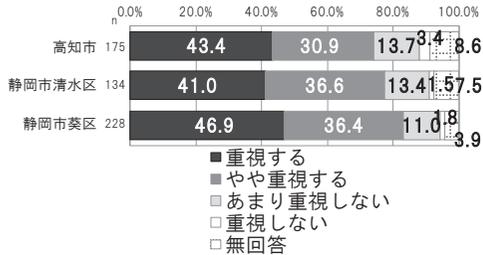


図 4.3.10 避難生活のストレスや辛さ
($\chi^2(6)=3.973$, 有意差なし)

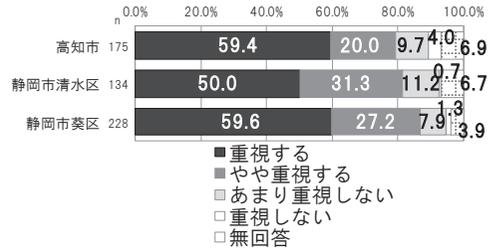


図 4.3.14 どれほどの確率で地震が起きるのか
($\chi^2(6)=11.627$, 有意差なし)

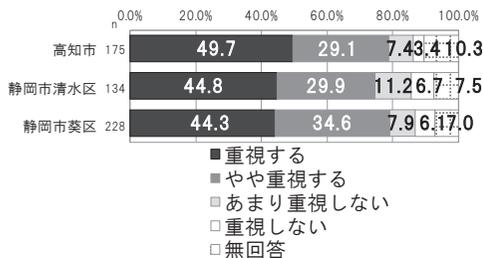


図 4.3.11 子供や高齢者など要援護者の生活
($\chi^2(6)=5.123$, 有意差なし)

第三に、ケース2の状況で「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表され、かつ①「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけるが、市が『自主避難の呼びかけ』や、『避難勧告』を出したりしない場合」、②「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけ、市が、『自主避難』の呼びかけをおこなう場合」、③「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけ、市が、『避難勧告』を出す場合」をそれぞれ想定してもらい、「あなたは、自宅を離れて避難すると思いますか」と問うた結果がそれぞれ、図4.3.15から図4.3.17である。

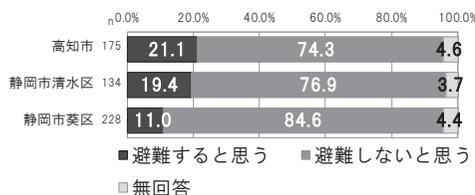


図 4.3.15 気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけるのみ
($\chi^2(2)=8.730$ 、 $p<.05$)

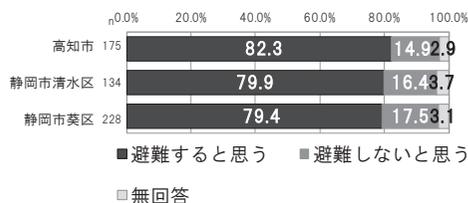


図 4.3.17 市が、「避難勧告」を出す場合
($\chi^2(2)=0.540$ 、有意差なし)

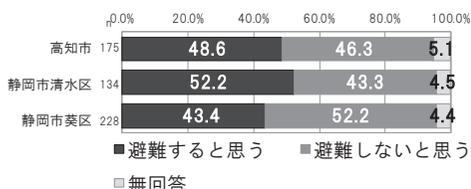


図 4.3.16 市が、「自主避難」の呼びかけをおこなう場合
($\chi^2(2)=3.025$ 、有意差なし)

①「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけるが、市が『自主避難の呼びかけ』や、『避難勧告』を出したりしない場合」、「避難すると思う」と答えたのは全体の16.4%であるが、②「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけ、市が、『自主避難』の呼びかけをおこなう場合」、「避難すると思う」と答えた人は全体の47.3%に、さらに③「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけ、市が、『避難勧告』を出す場合」、「避難すると思う」と答えた人は全体の80.4%にまで上昇する。つまり、市（地方自治体）が避難に関して言及しない場合よりも市（地方自治体）が「自主避難」の呼びかけを行う場合、さらに市（地方自治体）が「避難勧告」を発する場合に「避難すると思う」と答える人の割合が高くなる

さらに、地区ごとの差をみた場合、①「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高

くなったと呼びかけるが、市が『自主避難の呼びかけ』や、『避難勧告』を出したりしない場合」には有意な地区ごとの差が生じるが ($\chi^2(2)=8.730, p<.05$)、②「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけ、市が、『自主避難』の呼びかけをおこなう場合」、と③「気象庁が大地震の起こる可能性が平常時より高くなったと呼びかけ、市が、『避難勧告』を出す場合」のように、市（地方自治体）が避難に関して言及すると、有意な地区ごとの差がなくなる。

これらの点から、市（地方自治体）の発する避難に関する情報は重要であることがいえる。実際に避難するか否かは当然、その時の状況によって変化するであろうが、市（地方自治体）の発する避難に関する情報によって、住民の避難への意思は大きく変化することが明らかになった。

4.3.2 ケース2を想定した場合の住民の意識

以上を踏まえた上で、第一に、改めて、「様々な場合を考えて、南海トラフ沿いでマグニチュード7程度の地震が発生し（ただし大きな被害はまだ出ていない）、さらに大きな地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』が発表された場合、居住地域に被害がない場合でも、あなたは自宅を離れて避難すると思いますか」と問うた。その結果、「避難すると思う」と答えたのは全体で46.4%であった（図4.3.18）。さらに地区を比較すると、有意な差がみられた ($\chi^2(2)=24.315, p<.001$)。いずれの地区でもケース1と比較して「避難すると思う」と答える割合が多くなった。ケース1と同様に、高知市と静岡市清水区に比べて、静岡市葵区では「避難すると思う」と答える割合が低かった。

では4章2節と同様に、「避難すると思う」「避難しないと思う」それぞれの理由はなにか。それぞれの理由に関して、複数回答で問うた結果を地区別で示した結果がそれぞれ、図4.3.19と図4.3.20である。

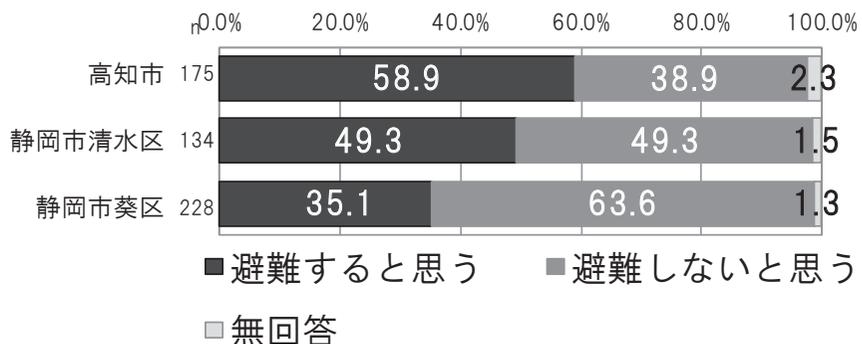


図 4.3.18 ケース2の状況下での避難への意思 ($\chi^2(2)=24.315, p<.001$)

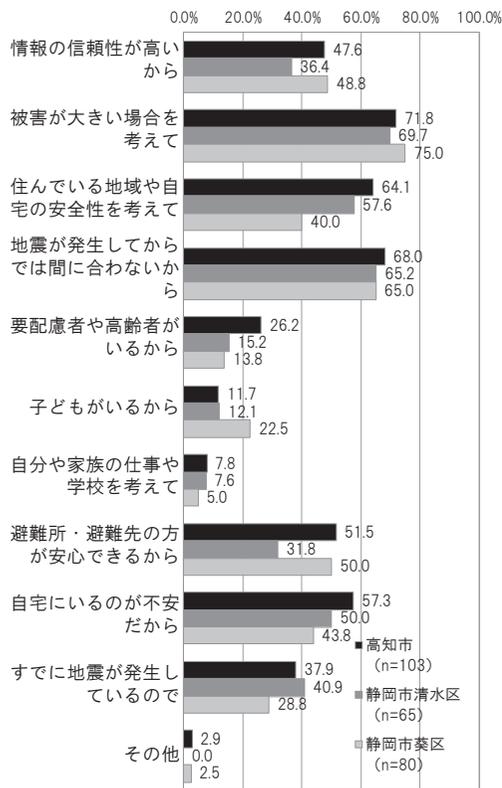


図 4.3.19 ケース 2 の状況下で避難する理由

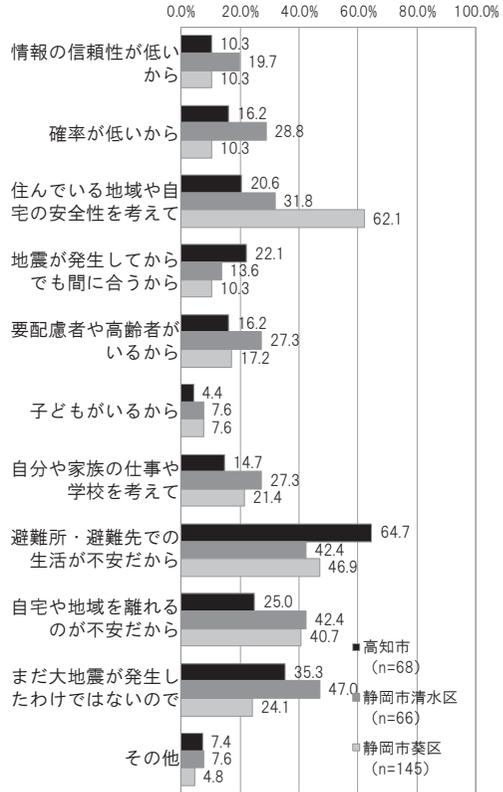


図 4.3.20 ケース 2 の状況下で避難しない理由

「避難すると思う」と答えた人の理由として最も多かったのはケース 1 と異なり (図 4.2.4)、「被害が大きい場合を考えて」(全体では 72.3%)であった。つづいて「地震が発生してからでは間に合わないから」(全体では 66.3%)、「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」(全体では 54.6%)であった。「被害が大きい場合を考えて」「地震が発生してからでは間に合わないから」は全ての地域で高かった一方で、「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」のみ、ケース 1 と同様に、内陸部である静岡市葵区では他の 2 地区と比べて 2 割程度低かった。

一方で「避難しないと思う」と答えた人の理由として最も多かったのは「避難所・避難先での生活が不安だから」(全体では 50.2%)であった。つづいて「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」(全体では 44.8%)、「自宅や地域を離れるのが不安だから」(全体では

37.2%)、「まだ大地震が発生したわけではないので」(全体では 32.3%)であった。「避難所・避難先での生活が不安だから」は高知市が他の 2 地区と比較して、2 割程度高かった。また、「住んでいる地域や自宅の安全性を考えて」は、静岡市葵区では他の 2 地区と比べて非常に高かった。

第二に、ケース 1 と同様に「南海トラフ沿いでマグニチュード 7 程度の地震が発生し(ただし大きな被害はまだ出ていない)、さらに大きな地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして『南海トラフ地震に関連する情報(臨時)』が発表された場合、もし仮に、避難するとしたら、あなたはどこに避難しますか」と問うた結果が、図 4.3.21 である。最も多かったのは「指定された避難所」で、全体の 60.0%であった。ケース 1 の時と比較して、この項目が 14.7%上昇している(図 4.2.6 参照)。なお、この設問に関して、地区ごとの差はみられなかった。さらに、具体的に、避難先の住所を問うているが、高知県の住民は 78.9%が高知県内へ、静岡県民は清水区で 61.9%、葵区で 58.3%の住民が静岡県内へ避難する、と答えていた。

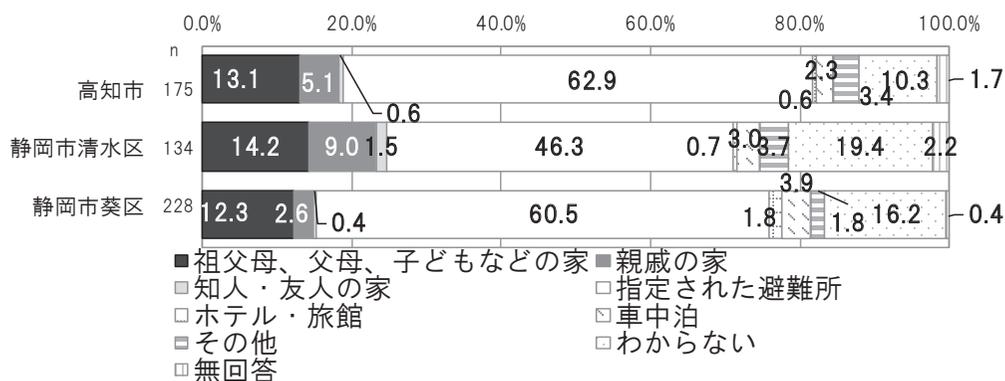


図 4.3.21 ケース 2 の場合の避難先
($\chi^2(14) = 20.937$ 、有意差なし)

第三に、避難先までの避難の手段を問うた。その結果が図 4.3.22 である。

最も多かったのは「自転車・徒歩」で、全体の 55.3%であった。つづいて「自家用車・タクシー」で全体の 33.1%であった。多くの人が自動車を使って避難をすることから、避難にあたっては渋滞が考えられる。地区ごとにみると、「自転車・徒歩」が静岡市葵区では他の 2 地区と比較して約 1 割程度高く、「自家用車・タクシー」は逆に、他の 2 地区と比較して 15%程度低かった。

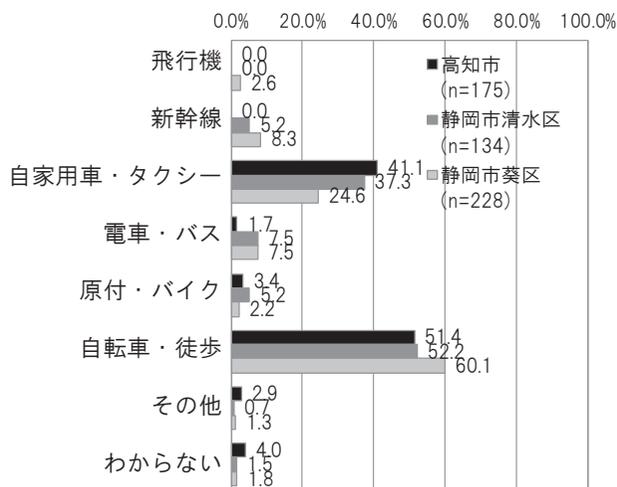


図 4.3.22 避難先への避難手段

4.3.3 避難生活の継続について

「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」は下記のいずれかに該当する場合に発表する、とされている(気象庁ホームページ)。

1. 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合。
2. 観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合。
3. 南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合。

ただし、この情報が発せられたとしても、どの程度の期間、防災対応が必要かはわからない(なお、2018年12月には発表された南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループの「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応のあり方について(報告)」の報告書においては、1週間をめどとして、警戒レベルをあげた防災対応をとることが基本とされた(内閣府ホームページ, 2018)。ただし、このアンケートを実施した時点でこれらの議論はまとまっていなかった)。そのため、例え避難したとしても、避難生活をいつまで継続するのか判断が難しい。

そこで、ケース2の状況で「南海トラフ沿いでマグニチュード7程度の地震が発生し(ただし大きな被害はまだ出ていない)、さらに大きな地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発表された場合、もし仮に、避難するとしたら、あなたはどの程度の期間なら避難を続けられると思います

か」と問うた。その結果が表 4.3.1 の通りである。6 割以上の人が 1 週間以内と答えており、「分からない」と答える人も全体では 17.5%いた。

表 4.3.1 避難が可能な期間

	n	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
高知市	175	5.1%	6.9%	26.3%	1.7%	6.3%	1.1%	19.4%	-	-
静岡市清水区	134	3.0%	6.0%	22.4%	1.5%	8.2%	0.7%	17.9%	-	-
静岡県葵区	228	2.6%	4.8%	23.2%	2.2%	4.4%	0.9%	21.9%	-	-
	n	10日	2週間程度	3週間程度	1か月程度	2か月程度	3か月程度	その他	わからない	無回答
高知市	175	3.4%	3.4%	-	1.1%	-	0.6%	1.7%	20.6%	2.3%
静岡市清水区	134	4.5%	10.4%	-	6.0%	0.7%	1.5%	1.5%	13.4%	2.2%
静岡県葵区	228	7.0%	5.3%	0.9%	5.3%	0.4%	0.9%	0.9%	17.5%	1.8%

次に、発表される、南海トラフ地震の発生確率によって、避難を継続するか否かの割合がどの程度変化するかをみるために、「南海トラフ地震の発生確率が『10%程度』と言われたら、避難を続けますか」と「南海トラフ地震の発生確率が『2%程度』と言われたら、避難を続けますか」と問うた。その結果が図 4.3.23 ならびに図 4.3.24 である。

「南海トラフ地震の発生確率が『10%程度』と言われた」場合に「避難を続けると思う」と答えた人は全体の 11.7%であった。特に津波の恐れが低い、清水市葵区が 7.9%と低かった。また、「南海トラフ地震の発生確率が『2%程度』と言われた」場合に「避難を続けると思う」と答えた人は全体の 3.7%である。このことから、避難継続への意思は確率表現によって変化するといえよう。

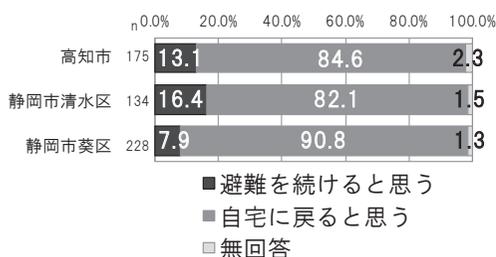


図 4.3.23 南海トラフ地震の発生確率が「10%程度」と言われた場合
($\chi^2(2)=6.502$ 、 $p<.05$)

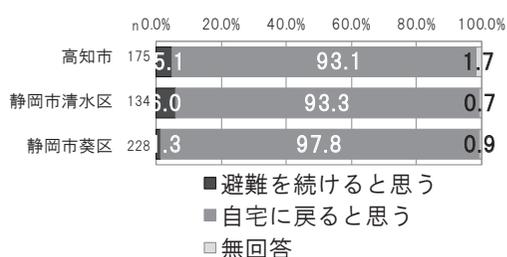


図 4.3.24 南海トラフ地震の発生確率が「2%程度」と言われた場合
($\chi^2(2)=6.584$ 、 $p<.05$)

次に、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合の、社会の様々な状況を想定し、アンケートを行った。ただし、今度は「避難する（継続する）」か「避難しない（継続しない）」の二択で問うた。その結果が図 4.3.25 から図 4.3.30 である。「周囲の多くの人が避難している場合」に「避難する（避難を継続する）」と答える人が全

体の79.9%と多かった。また、状況によって「避難する（避難を継続する）」と思う」と答える人に差がみられた。

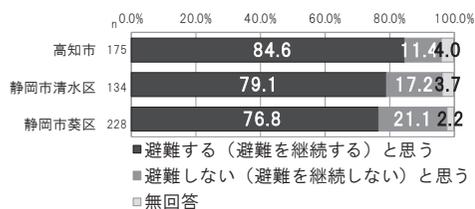


図 4.3.25 周囲の多くの人が避難している場合
($\chi^2(2)=6.155$ 、 $p<.05$)

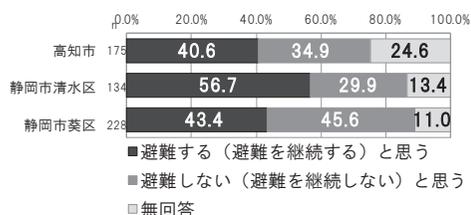


図 4.3.26 自分や家族の通う学校や周囲の学校が休みになった場合
($\chi^2(2)=2.818$ 、有意差なし)

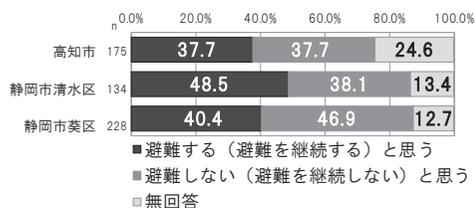


図 4.3.27 自分や家族の仕事が休みになった場合
($\chi^2(2)=8.395$ 、 $p<.05$)

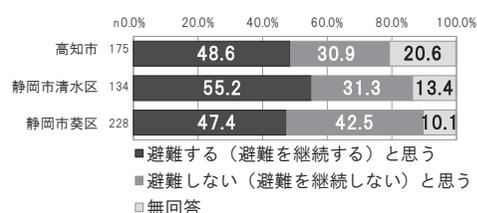


図 4.3.28 近くの病院・デイケア施設などが閉鎖することになった場合
($\chi^2(2)=4.545$ 、有意差なし)

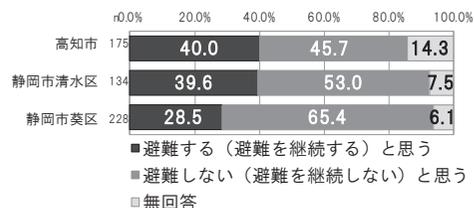


図 4.3.29 食料の確保などに関して不安がない場合
($\chi^2(2)=11.133$ 、 $p<.01$)

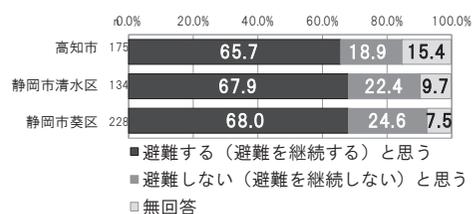


図 4.3.30 銀行・商店が営業をやめたり、ガソリンの入手が難しくなったりして、生活が難しくなるような場合
($\chi^2(2)=0.840$ 、有意差なし)

さらに、逆に「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表されても、世の中の反応が大したことがない場合を想定してもらい、「避難する（継続する）」か「避難しない（継続しない）」の二択でアンケートを実施した。その結果が下記の図 4.3.31 から図 4.3.36 である。こちらも「周囲の多くの人が避難していない場合」に「避難しない（避難を継続し

ない」と思う人が全体の85.8%と多かった。また、「避難する（避難を継続する）」時と比べて、いずれの項目においても「避難しない（避難を継続しない）」と思う」と答える人が7割以上と非常に多い。

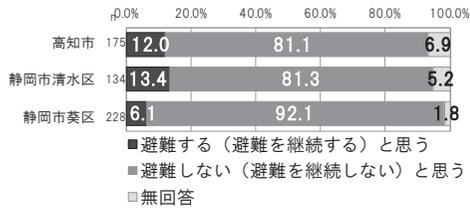


図 4.3.31 周囲の多くの人が避難していない場合
($\chi^2(2)=7.209$, $p<.05$)

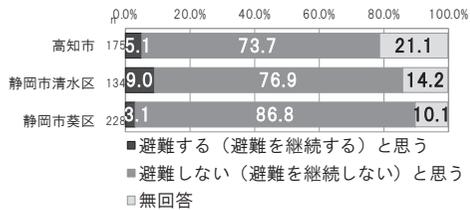


図 4.3.32 自分や家族の仕事が休みではない場合
($\chi^2(2)=6.383$, $p<.05$)

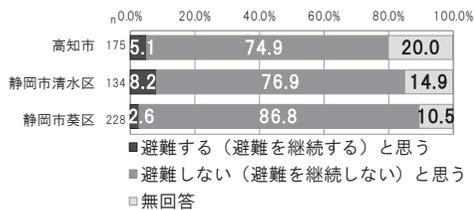


図 4.3.33 自分や家族の通う学校や周囲の学校が休みではない場合
($\chi^2(2)=6.358$, $p<.05$)

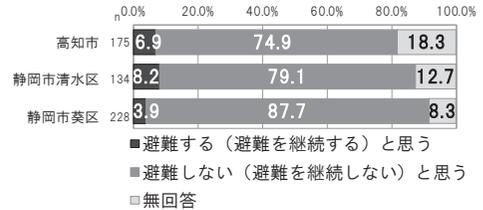


図 4.3.34 近くの病院・デイケア施設などが閉鎖していない場合
($\chi^2(2)=3.860$, 有意差なし)

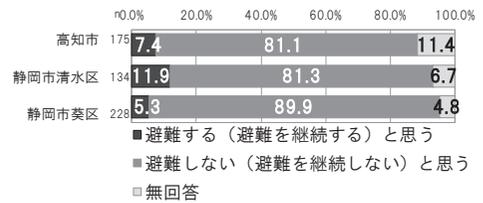


図 4.3.35 食料などが十分手に入る場合
($\chi^2(2)=5.544$, 有意差なし)

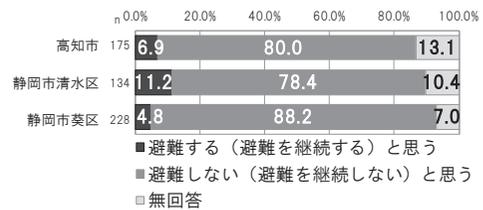


図 4.3.36 銀行・商店の営業、ガソリンの供給など、生活面に問題がない場合
($\chi^2(2)=5.662$, 有意差なし)

これらを比較すれば分かるように、世の中の反応が「あまり大したことがない」ように感じられた場合には、「避難しない（避難を継続しない）」と思う」とする人が圧倒的に多くなる。避難判断として「避難場所の状況（どんな所へ避難するか）」という項目が重要であった一方で、避難を継続するかは周囲の状況に依存していることが明らかになった。

4.4 消費行動

4.4.1 物資・備蓄の関係

(1) 地震後の関心事

南海トラフが発生し、被災後に困ることとして挙げてもらったところ、「水道」「水・食料の不足」「停電」などが上位にあがり、地震で被災すること一火災、けが・負傷—などよりも、そのあとの避難生活に目が向いていた（表 4.4.1）。そのため、まず行われることは物資購入である。

表 4.4.1 南海トラフ地震で被災した場合、不安に思うこと

	全体 (N=537)	高知市 (N=175)	静岡市清水区 (N=134)	静岡市葵区 (N=228)
水道が使えない	86.2 %	81.1 %	82.1 %	92.5 %
水・食料の不足	79.1 %	83.4 %	70.1 %	81.1 %
停電	78.2 %	73.7 %	72.4 %	85.1 %
地震で被災すること	68.2 %	68.0 %	59.0 %	73.7 %
ガスが使えない	56.1 %	44.0 %	56.0 %	65.4 %
津波で被災すること	53.1 %	81.7 %	83.6 %	13.2 %
医療	52.9 %	48.6 %	52.2 %	56.6 %
救援物資が届かない	49.2 %	49.7 %	47.0 %	50.0 %
火災	47.3 %	29.1 %	40.3 %	65.4 %
お金がかかる	39.5 %	40.6 %	44.0 %	36.0 %
帰宅困難	37.1 %	38.3 %	41.0 %	33.8 %
液状化	36.7 %	26.3 %	42.5 %	41.2 %
長期間、自宅が浸水すること	29.8 %	38.9 %	50.0 %	11.0 %
行政サービスのストップ	27.0 %	24.0 %	27.6 %	28.9 %
インターネットが使えない	25.1 %	16.0 %	23.1 %	33.3 %
介護	16.8 %	16.9 %	14.9 %	17.8 %
土砂崩れ	12.1 %	30.2 %	4.5 %	2.7 %
鉄道が動かない	8.0 %	1.1 %	13.4 %	10.1 %

「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、多くの人が水や食料を追加購入すると答えている（図 4.4.1）。しかも、平均 6 日分程度の追加の水や食料を購入すると答えている（高知県では 5.8 日、静岡市清水区では 5.5 日、静岡市葵区では 6.3 日分）。食料品の供給は平時の日々の分しか供給されていないのだから、多くの人が平時より、少し多く追加的に購入しようとするれば、「パニック」的な行動をとらなかったとしても、モノ不足に陥ることは明白である。

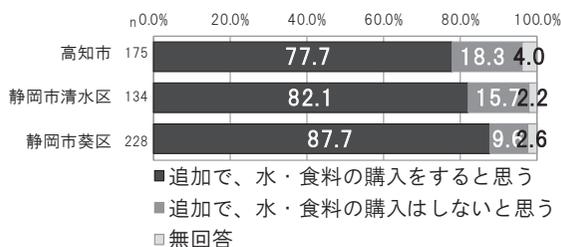


図 4.4.1 もし、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、追加で水や食料の購入を行うと思うか

(2) 南海トラフ臨時情報と食料、消費財の購入

基本的に、多くの人々が食料を一定程度、家においてあり、また非常食などの備蓄も所持している（表 4.4.2、表 4.4.3）。だが、それも限られている。ゆえに、多くの人々が、情報の発表後、追加で物資を購入すると言っている（表 4.4.4、表 4.4.5）。

もちろん実際に購入できるかどうか不明であるし、少なくともそれらの行動自体が混乱を生むことは間違いないだろう。

表 4.4.2 備蓄の有無

	高知市 (n=175)	静岡市清水区 (n=134)	静岡市葵区 (n=228)
(1) 米やパンなどの主食	78.3%	85.1%	86.4%
(2) 肉・魚・野菜など生鮮食品	72.6%	70.9%	71.5%
(3) インスタント食品・冷凍食品	79.4%	82.1%	84.6%
(4) 非常食	40.6%	60.4%	63.2%
(5) ティッシュやトイレトペーパーなどの日用品	84.0%	93.3%	94.3%
(6) 飲料水	70.3%	80.6%	84.2%

表 4.4.3 何日分の備蓄があるか

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
(1) 米やパンなどの主食	14.2日	10.9日	9.6日
(2) 肉・魚・野菜など生鮮食品	3.8日	2.8日	3.6日
(3) インスタント食品・冷凍食品	5.1日	4.1日	4.4日
(4) 非常食	4.5日	3.7日	3.9日
(5) ティッシュやトイレトペーパーなどの日用品	17.4日	14.9日	14.6日
(6) 飲料水	5.2日	5.7日	6.0日

表 4.4.4 「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、

下記のことを新たに又は追加で購入すると思うか

	高知市 (n=175)	静岡市清水区 (n=134)	静岡市葵区 (n=228)
(1) 米やパンなどの主食	50.9%	68.7%	67.1%
(2) 肉・魚・野菜など生鮮食品	45.1%	54.5%	52.6%
(3) インスタント食品・冷凍食品	77.7%	78.4%	80.7%
(4) 非常食	66.9%	72.4%	79.4%
(5) ティッシュやトイレトペーパーなどの日用品	45.1%	57.5%	53.9%
(6) 飲料水	75.4%	79.1%	85.1%

表 4.4.5 何日分くらいを追加購入するか（それぞれ追加購入するという人のみ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
(1) 米やパンなどの主食	9.2日	7.1日	8.6日
(2) 肉・魚・野菜など生鮮食品	5.4日	4.4日	4.7日
(3) インスタント食品・冷凍食品	8.3日	7.6日	7.7日
(4) 非常食	7.6日	7.4日	7.8日
(5) ティッシュやトイレトペーパーなどの日用品	13.4日	10.1日	10.9日
(6) 飲料水	9.0日	7.8日	8.7日

(3) 南海トラフ臨時情報と防災用品（耐久財）の購入

防災用品（耐久財）について、①現在、「自宅にあるもの」と、②「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、新たに又は追加で購入するものがあるかどうか聞いた。結果、多くの家において、「懐中電灯」「ラジオ」「救急医療品（ばんそうこう、包帯など）」「カセットコンロなど調理器具」「使い捨てカイロなど防寒用品」「充電器」「その他防災グッズ」は多くすでに購入されているものの、追加的な購入が行われることが分かった。（図 4.4.2）。

南海トラフ地震に関連する情報が出された後になると、多くの人が災害について警戒し、予防的行動をとろうとするため、多くの場合、物資が購入できないと考えられる。これについてあらかじめ周知しておくことが必要であろう。

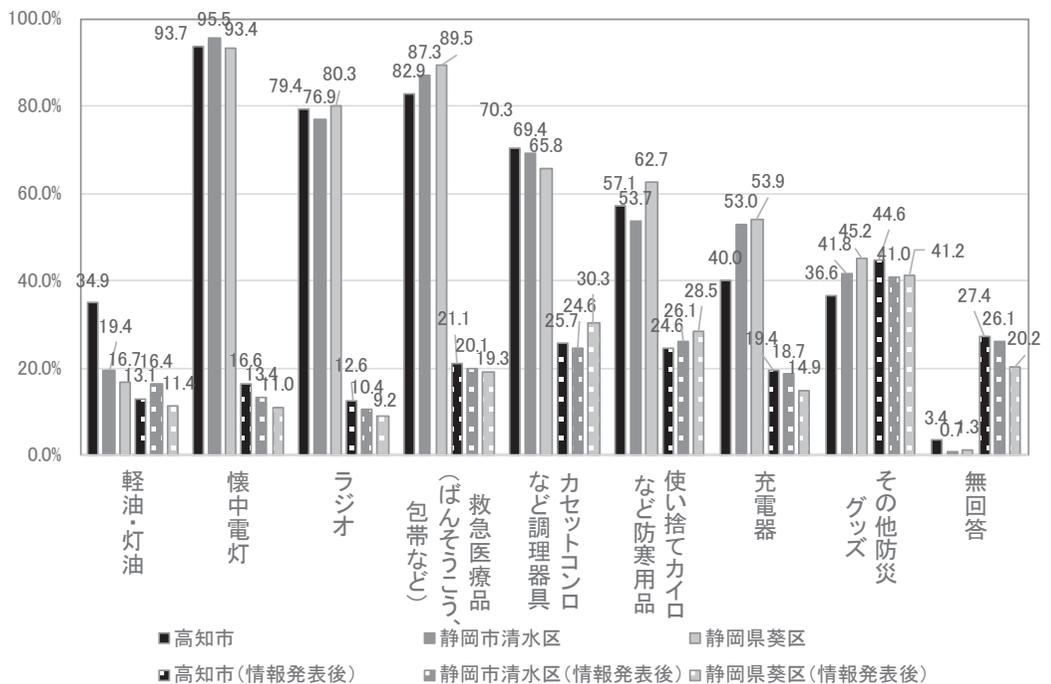


図 4.4.2 現在、「自宅にあるもの」、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、新たに又は追加で購入するもの

4.4.2 ガソリン不足

東日本大震災でも長期間、東北地方ではガソリン不足に陥ったが、南海トラフ関連情報によって、これはどうなるであろうか。

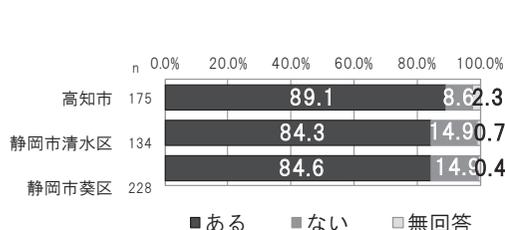


図 4.4.3 車所有の有無
($\chi^2(2)=3.978$ 、有意差なし)

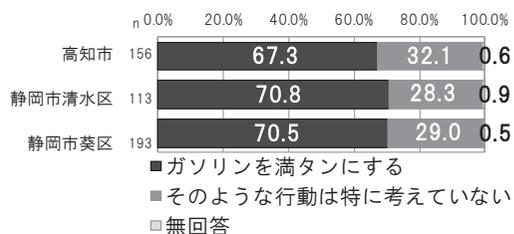


図 4.4.4 図 3.5.25 ガソリンの追加購入について
($\chi^2(2)=0.547$ 、有意差なし)

全体の 86.0%が平均 1.74 台の車を所有している (図 4.4.3)。そして多くの人が避難などに用いるため、またいざというときの避難に備えてガソリンの購入も行われる。約 7 割の人が「南海トラフ地震に関連する情報 (臨時)」が発表された場合、避難などに備えてガソリンを満タンにすると答えている (図 4.4.4)。実際に、これらの結果、ガソリンは不足すると考えられる。

4.4.3 追加的な防災行動

南海トラフ巨大地震の情報提供によって、具体的な行動として、防災面でプラスの側面にはどのようなものがあるだろうか。

(1) 家具固定

現状でも家具固定が不十分な家庭は多いが (図 4.4.5)、これについて情報を受けて、若干の追加的な家具固定が行われる (図 4.4.6)。

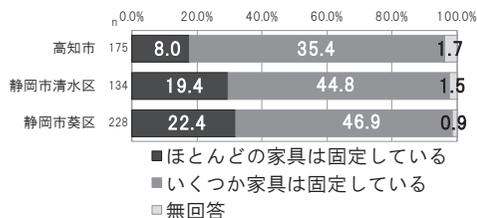


図 4.4.5 家具の固定状況について
($\chi^2(4)=32.909$ 、 $p<.001$)

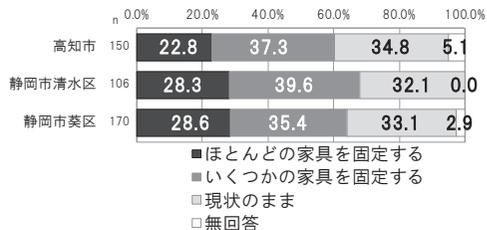


図 4.4.6 情報発表後の家具の固定への意識
($\chi^2(4)=1.547$ 、有意差なし)

(2) 避難場所や避難経路の確認

現状でも避難場所や避難経路の確認は行われているが、南海トラフ地震に関連する情報を受けて、若干の追加的な避難場所や避難経路の確認が行われる（図 4.4.7）。これは、明白なプラスの側面とってよいであろう。



図 4.4.7 情報発表後の避難場所や避難経路の確認

4.5 南海トラフ臨時情報についての意見

この南海トラフ臨時情報については、人々にとっては「欲しい情報」であると同時に、まだ「どう活用すればよいかかわわからない情報」でもある。

『空振り』しても構わないので、南海トラフ地震に関連する情報は適宜、公表してほしい（68.3%）」「命にかかわる情報なので、どんな情報も提供してほしい（55.7%）」など、より積極的に活用して行こうという考えに同意する人は多い。

だが、一方、『地震が発生する可能性がある』とはいっても、その発生確率が分からないと判断しにくい（49.0%）」「地域の中で生活が営めなくなるのではないかと思う（32.4%）」「どうせ被害をうけるから、積極的な対策はとらない（17.5%）」「『避難するかしないかは自己責任で考えろ』というのは間違っていると思う（15.6%）」「確率が低い情報は出さないでほしい（15.5%）」と、混乱をもたらしている情報であることも事実である（表 4.5.1）。

これから、この南海トラフ臨時情報をより多くの人命を救うための情報としていくのに、これらの意見を踏まえて考えていく必要がある。

表 4.5.1 南海トラフ臨時情報についての意見

	全体 (N=537)	高知市 (N=175)	静岡市清水区 (N=134)	静岡県葵区 (N=228)
「空振り」しても構わないので、南海トラフ地震に関連する情報は適宜、公表してほしい	68.3 %	66.9 %	70.1 %	68.4 %
命にかかわる情報なので、どんな情報も提供してほしい	55.7 %	54.3 %	56.0 %	56.6 %
「地震が発生する可能性がある」とはいつでも、その発生確率が分からないと判断しにくい	49.0 %	40.6 %	48.5 %	55.7 %
地域の中で生活が営めなくなるのではないかと思う	32.4 %	40.6 %	38.8 %	22.4 %
どうせ被害をうけるから、積極的な対策はとらない	17.5 %	26.3 %	14.9 %	12.3 %
「避難するかしないかは自己責任で考える」というのは間違っていると思う	15.6 %	20.6 %	13.4 %	13.2 %
確率が低い情報は出さないでほしい	15.5 %	15.4 %	15.7 %	15.4 %
長期的に今いる地域を離れることを検討する	12.8 %	10.3 %	17.9 %	11.8 %
その他	2.0 %	1.1 %	3.0 %	2.2 %

引用・参考文献

気象庁ホームページ, 2018,

http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tokai/tokai_eq2.html (現在参照不可)

気象庁ホームページ, 南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件, (参照年月日: 2018年8月5日),

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html

内閣府ホームページ, 2017a, 「南海トラフ地震に関連する情報」が発表された際の政府の対応について, (参照年月日: 2018年8月5日),

http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankai_taiou.pdf

内閣府ホームページ, 2017b, 「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の検討状況について, (参照年月日: 2018年8月5日),

http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai_wg/pdf/h290721houkoku_sanko_shiryo02.pdf

内閣府ホームページ, 2018, 南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応のあり方について(報告), (参照年月日: 2020年1月7日),

http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301225honbun.pdf

内閣府ホームページ, 2019, 南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン【第1版】(令和元年5月一部改訂), (参照年月日: 2019年6月29日),

http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/honbun_guideline.pdf

関谷直也・安本真也・石濱陵・森野周, 2018a, 「南海トラフ地震に関連する情報」における避難意図と状況依存, 日本災害情報学会第20回学会大会(日本災害情報学会20周年記念大会・日本災害復興学会10周年記念大会合同大会), 東京大学本郷キャンパス, 2018年10月28日.

関谷直也・安本真也・石濱陵・森野周, 2018b, 「南海トラフ地震に関連する情報」の社会的影響, 日本災害情報学会第20回学会大会(日本災害情報学会20周年記念大会・日本災害復興学会10周年記念大会合同大会), 東京大学本郷キャンパス, 2018年10月27日.

安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也, 2018a, 「南海トラフ地震に関連する情報」に対する住民の対応一避難に対する意識に着目して一, 日本災害情報学会第20回学会大会(日本災害情報学会20周年記念大会・日本災害復興学会10周年記念大会合同大会), 東京大学本郷キャンパス, 2018年10月28日.

安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也, 2018b, 「南海トラフ地震に関連する情報」に対する住民の対応一静岡市と高知市の地区比較より一, 日本災害情報学会第20回学会大会(日本災害情報学会20周年記念大会・日本災害復興学会10周年記念大会合同大会), 東京大学本郷キャンパス, 2018年10月27日.

安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也，2020，「南海トラフ地震に関連する情報」に対する
住民の反応，災害情報 No. 18，（印刷中）.

付属資料（アンケート調査の単純集計）

※なお、ここでの回答は、注釈がない限りは高知市の住民（n=175）、静岡市清水区の住民（n=134）、静岡市清水区の住民（n=228）の集計結果を記している。

南海トラフ地震および南海トラフに関連する情報に関する調査

A. まず、東海地震や南海トラフ地震に関連する情報についてお伺いします。

問1 昨年、平成29年11月1日から、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表されることになりました。あなたは、このことをご存じでしたか。（○は1つ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 知っていた	54.9%	56.0%	58.3%
2. 知らなかった	42.3%	41.8%	40.4%
無回答	2.9%	2.2%	1.3%

問2 「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」の発表に伴い、東海地震予知情報、東海地震注意情報、東海地震調査情報など、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行わないことになりました。あなたは、このことをご存じでしたか。（○は1つ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 知っていた	17.7%	35.1%	37.3%
2. 知らなかった	80.6%	61.9%	62.3%
無回答	1.7%	3.0%	0.4%

問3 南海トラフ沿いで過去に発生した地震（東海地震、東南海地震、南海地震）は、数日から数年の時間差で、連続して、あるいは同時に発生しています。あなたは、このことをご存じでしたか。（○は1つ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 知っていた	69.1%	56.0%	54.8%
2. 知らなかった	28.6%	42.5%	43.9%
無回答	2.3%	1.5%	1.3%

問4 あなたは次の言葉を知っていますか。（○はいくつでも）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 警戒宣言	30.9%	73.1%	72.8%
2. 東海地震予知情報	13.1%	52.2%	52.2%
3. 東海地震注意情報	13.7%	45.5%	44.3%
4. 東海地震に関連する調査情報	9.1%	24.6%	21.9%
5. 大規模地震対策特別措置法	27.4%	34.3%	35.1%
6. 南海トラフ地震に関連する情報	73.1%	64.9%	71.1%
7. 東海地震	57.7%	91.8%	91.7%
8. 東南海地震	59.4%	75.4%	68.4%
9. 南海地震	90.3%	67.2%	65.4%
10. 震度	97.1%	95.5%	96.9%
11. マグニチュード	94.9%	96.3%	97.8%
12. 緊急地震速報	96.0%	94.0%	96.1%
無回答	1.1%	1.5%	0.4%

B. 居住地域ではない地域側（静岡市の方は南海地震のエリア、高知市の方は東海地震のエリア）で大地震が発生した場合（ケース1）についてお伺いします。

ここに南海トラフ地震の説明図を提示（本文図 4.2.1 参照のこと）

■ケース1（問5～問8-1は、下記の状況になったと仮定してご回答ください。）

あなたの居住地域ではない地域側（静岡市の方は南海地震のエリア、高知市の方は東海地震のエリア）で大地震が発生し、震源に近い地域では、揺れや津波により、多くの死者・行方不明者・家屋被害が発生しています。自衛隊や警察、消防が人命救出活動を行っています。鉄道や高速道路なども損壊したため、運休や通行止めになっています。そして、それらがテレビを通じて刻々と報じられています。しかし、あなたの居住地では、被害は発生しておらず、電気、水道などは問題なく使えています。

問5 あなたの居住地域に大津波警報が出された場合、あなたは、居住地域に被害がない場合でも、自宅を離れて避難すると思いますか。（〇は1つ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 避難すると思う	62.9%	64.2%	36.0%
2. 避難しないと思う	34.9%	35.8%	62.7%
無回答	2.3%	-	1.3%

問6 もし、地震が発生し、緊急地震速報、大津波警報など地震や津波に関する情報を得て、すぐに避難をすることになった場合、あなたはどこに避難しますか。（〇は1つ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 緊急避難場所や高台	65.7%	64.9%	38.2%
2. 祖父母、父母、子どもなどの家	1.7%	0.7%	1.3%
3. 親戚の家	-	0.7%	-
4. 知人・友人の家	-	-	-
5. 指定された避難所	19.4%	25.4%	50.4%
6. ホテル・旅館	-	1.5%	-
7. 車中泊	0.6%	0.7%	1.8%
8. その他	3.4%	3.0%	2.6%
9. わからない	2.3%	1.5%	3.1%
無回答	6.9%	1.5%	2.6%

問7 南海トラフの東側（もしくは西側）のみで地震が発生した場合、被害を受けていない地域においても、地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表されることとなります。居住地域に被害がない場合でも、あなたは、自宅を離れて避難すると思いますか。（〇は1つ）

1. 避難すると思う		2. 避難しないと思う		無回答	
高知市	48.0%	高知市	48.0%	高知市	4.0%
静岡市清水区	47.0%	静岡市清水区	53.0%	静岡市清水区	-
静岡市葵区	29.4%	静岡市葵区	69.7%	静岡市葵区	0.9%

【問7で回答した選択肢の矢印に沿って、
回答選択肢を選んでください】

問7-1 その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

※「1. 避難すると思う」

	高知市 (n=84)	静岡市清水区 (n=63)	静岡市葵区 (n=67)
1. 情報の信頼性が高いから	40.5%	31.7%	26.9%
2. 被害が大きい場合を考えて	54.8%	60.3%	64.2%
3. 住んでいる地域や自宅の安全性を考えて	60.7%	58.7%	38.8%
4. 地震が発生してからでは間に合わないから	66.7%	55.6%	65.7%
5. 要配慮者や高齢者がいるから	22.6%	23.8%	9.0%
6. 子どもがいるから	10.7%	12.7%	16.4%
7. 自分や家族の仕事や学校を考えて	8.3%	7.9%	3.0%
8. 避難所・避難先の方が安心できるから	46.4%	44.4%	29.9%
9. 自宅にいるのが不安だから	45.2%	41.3%	31.3%
10. すでに地震が発生しているのだから	34.5%	28.6%	19.4%
11. その他()	2.4%	1.6%	4.5%
無回答	-	1.6%	7.5%

※「2. 避難しないと思う」

	高知市 (n=84)	静岡市清水区 (n=71)	静岡市葵区 (n=159)
1. 情報の信頼性が低いから	13.1%	18.3%	8.8%
2. 確率が低いから	19.0%	21.1%	13.2%
3. 住んでいる地域や自宅の安全性を考えて	19.0%	25.4%	57.2%
4. 地震が発生してからでも間に合うから	21.4%	12.7%	8.8%
5. 要配慮者や高齢者がいるから	15.5%	19.7%	15.7%
6. 子どもがいるから	2.4%	2.8%	9.4%
7. 自分や家族の仕事や学校を考えて	13.1%	18.3%	20.1%
8. 避難所・避難先での生活が不安だから	46.4%	39.4%	41.5%
9. 自宅や地域を離れるのが不安だから	15.5%	29.6%	28.3%
10. まだ自分の地域では地震が起きていないので	47.6%	40.8%	30.8%
11. その他()	6.0%	4.2%	4.4%
無回答	2.4%	4.2%	0.6%

【全員にお伺いします】

問8 もし仮に、自分の居住地に地震が起きる前に、長期に避難をすることになった場合、あなたはどこに避難しますか。(〇は1つ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 祖父母、父母、子どもなどの家	20.0%	22.4%	17.5%
2. 親戚の家	4.6%	11.9%	3.1%
3. 知人・友人の家	1.1%	2.2%	0.9%
4. 指定された避難所	45.1%	31.3%	48.2%
5. ホテル・旅館	1.1%	0.7%	1.3%
6. 車中泊	2.3%	5.2%	3.5%
7. その他()	1.7%	1.5%	1.3%
8. わからない	19.4%	22.4%	22.8%
無回答	4.6%	2.2%	1.3%

【問8で1～7を回答した方のみ】

問8-1 それは具体的にどこですか。可能な限りで構いませんので、ご記入ください。

	都・道・府・県		市・区・町・村		番地以降
--	---------	--	---------	--	------

※省略

C. 南海トラフ沿いでマグニチュード7程度の地震が発生した時（ケース2）についてお伺いします。

■ケース2（問9～問18は、下記の状況になったと仮定してご回答ください。）

南海トラフ沿い（2ページの図をご参照ください）でマグニチュード7程度の地震が発生した時（ただし、とくに大きな被害は出ていないとします）、その後さらに巨大な地震が南海トラフ全域で発生する可能性があります。そのため、巨大地震が発生する可能性は平常時と比べて相対的に高まったとして、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表されることとなります。

【全員にお伺いします】

問9 あなたにとって、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表されたときに避難するかどうかの判断基準として、下記のことは重要ですか。（○はそれぞれ1つ）

		1	2	3	4		
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	
(A)	政府からの情報の発信	高知県	64.0%	16.6%	9.1%	1.7%	8.6%
		静岡市清水区	77.6%	12.7%	3.7%	0.7%	5.2%
		静岡市葵区	72.4%	17.5%	4.8%	2.6%	2.6%
(B)	気象庁からの情報の発信	高知県	82.9%	12.0%	0.6%	-	4.6%
		静岡市清水区	81.3%	12.7%	1.5%	-	4.5%
		静岡市葵区	84.6%	12.3%	-	0.4%	2.6%
(C)	市町村からの情報の発信	高知県	80.6%	13.1%	2.3%	0.6%	3.4%
		静岡市清水区	77.6%	14.2%	4.5%	0.7%	3.0%
		静岡市葵区	78.9%	16.2%	1.8%	0.9%	2.2%
(D)	周囲の人の避難の状況	高知県	41.7%	33.7%	13.1%	1.7%	9.7%
		静岡市清水区	32.1%	33.6%	18.7%	7.5%	8.2%
		静岡市葵区	31.1%	45.6%	15.4%	5.3%	2.6%
(E)	仕事の状況（職場が休みになるかどうか、取り引き先の状況など）	高知県	16.6%	16.0%	25.7%	23.4%	18.3%
		静岡市清水区	29.1%	20.1%	20.1%	20.9%	9.7%
		静岡市葵区	21.9%	24.1%	21.1%	24.1%	8.8%
(F)	家族の学校や保育園・幼稚園などの状況	高知県	31.4%	16.0%	17.7%	18.3%	16.6%
		静岡市清水区	26.9%	17.2%	20.9%	23.1%	11.9%
		静岡市葵区	22.8%	25.0%	18.0%	25.0%	9.2%
(G)	病院・デイケア施設などの状況	高知県	31.4%	27.4%	16.0%	12.6%	12.6%
		静岡市清水区	27.6%	20.9%	27.6%	14.2%	9.7%
		静岡市葵区	28.1%	31.6%	18.0%	15.8%	6.6%
(H)	食料の供給の状況	高知県	61.7%	21.1%	6.9%	1.7%	8.6%
		静岡市清水区	54.5%	27.6%	6.0%	4.5%	7.5%
		静岡市葵区	61.4%	27.2%	4.8%	2.6%	3.9%
(I)	銀行、ガソリンの供給の状況	高知県	32.6%	32.0%	17.1%	6.9%	11.4%
		静岡市清水区	30.6%	37.3%	16.4%	6.7%	9.0%
		静岡市葵区	35.5%	34.2%	20.2%	6.6%	3.5%
(J)	避難場所の状況（どんな所へ避難するか）	高知県	72.0%	18.9%	0.6%	1.1%	7.4%
		静岡市清水区	73.9%	14.2%	4.5%	0.7%	6.7%
		静岡市葵区	72.4%	21.5%	2.6%	-	3.5%

問 10 あなたにとって、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表されたときに、避難するかどうかを考える上で、何を重視しますか。（○はそれぞれ1つ）

		1 重視する	2 やや重視する	3 あまり 重視しない	4 重視しない	無回答
(A)	高知県	94.9%	-	-	0.6%	4.6%
	静岡市清水区	92.5%	6.0%	0.7%	-	0.7%
	静岡市葵区	93.4%	2.2%	1.3%	0.4%	2.6%
(B)	高知県	32.0%	29.7%	22.9%	5.1%	10.3%
	静岡市清水区	35.1%	35.8%	18.7%	2.2%	8.2%
	静岡市葵区	34.6%	36.4%	18.4%	5.3%	5.3%
(C)	高知県	43.4%	30.9%	13.7%	3.4%	8.6%
	静岡市清水区	41.0%	36.6%	13.4%	1.5%	7.5%
	静岡市葵区	46.9%	36.4%	11.0%	1.8%	3.9%
(D)	高知県	49.7%	29.1%	7.4%	3.4%	10.3%
	静岡市清水区	44.8%	29.9%	11.2%	6.7%	7.5%
	静岡市葵区	44.3%	34.6%	7.9%	6.1%	7.0%
(E)	高知県	42.9%	27.4%	16.6%	4.6%	8.6%
	静岡市清水区	29.9%	36.6%	21.6%	4.5%	7.5%
	静岡市葵区	43.0%	28.9%	18.4%	5.3%	4.4%
(F)	高知県	22.9%	28.6%	29.7%	8.0%	10.9%
	静岡市清水区	18.7%	32.8%	32.8%	9.0%	6.7%
	静岡市葵区	21.1%	36.4%	28.5%	9.6%	4.4%
(G)	高知県	59.4%	20.0%	9.7%	4.0%	6.9%
	静岡市清水区	50.0%	31.3%	11.2%	0.7%	6.7%
	静岡市葵区	59.6%	27.2%	7.9%	1.3%	3.9%

問 11 「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、あなたは、自宅を離れて避難すると思いますか。下記のケースごとに、お答えください。（○はそれぞれ1つ）

		1 避難する と思う	2 避難しない と思う	無回答
(A)	高知県	21.1%	74.3%	4.6%
	静岡市清水区	19.4%	76.9%	3.7%
	静岡市葵区	11.0%	84.6%	4.4%
(B)	高知県	48.6%	46.3%	5.1%
	静岡市清水区	52.2%	43.3%	4.5%
	静岡市葵区	43.4%	52.2%	4.4%
(C)	高知県	82.3%	14.9%	2.9%
	静岡市清水区	79.9%	16.4%	3.7%
	静岡市葵区	79.4%	17.5%	3.1%

問 12 では、様々な場合を考えて、南海トラフ沿いでマグニチュード7程度の地震が発生し（ただし大きな被害はまだ出ていない）、さらに大きな地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、居住地域に被害がない場合でも、あなたは自宅を離れて避難すると思いますか（○は1つ）

1. 避難すると思う		2. 避難しないと思う		無回答	
高知市	58.9%	高知市	38.9%	高知市	2.3%
静岡市清水区	49.3%	静岡市清水区	49.3%	静岡市清水区	1.5%
静岡市葵区	35.1%	静岡市葵区	63.6%	静岡市葵区	1.3%

【問 12 で回答した選択肢の矢印に沿って、
回答選択肢を選んでください】

問 12-1 その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

※「1. 避難すると思う」

	高知市 (n=103)	静岡市清水区 (n=66)	静岡市葵区 (n=80)
1. 情報の信頼性が高いから	47.6%	36.4%	48.8%
2. 被害が大きい場合を考えて	71.8%	69.7%	75.0%
3. 住んでいる地域や自宅の安全性を考えて	64.1%	57.6%	40.0%
4. 地震が発生してからでは間に合わないから	68.0%	65.2%	65.0%
5. 要配慮者や高齢者がいるから	26.2%	15.2%	13.8%
6. 子どもがいるから	11.7%	12.1%	22.5%
7. 自分や家族の仕事や学校を考えて	7.8%	7.6%	5.0%
8. 避難所・避難先の方が安心できるから	51.5%	31.8%	50.0%
9. 自宅にいるのが不安だから	57.3%	50.0%	43.8%
10. すでに地震が発生しているのだから	37.9%	40.9%	28.8%
11. その他 ()	2.9%	-	2.5%
無回答	-	1.5%	-

※「2. 避難しないと思う」

	高知市 (n=68)	静岡市清水区 (n=66)	静岡市葵区 (n=145)
1. 情報の信頼性が低いから	10.3%	19.7%	10.3%
2. 確率が低いから	16.2%	28.8%	10.3%
3. 住んでいる地域や自宅の安全性を考えて	20.6%	31.8%	62.1%
4. 地震が発生してからでも間に合うから	22.1%	13.6%	10.3%
5. 要配慮者や高齢者がいるから	16.2%	27.3%	17.2%
6. 子どもがいるから	4.4%	7.6%	7.6%
7. 自分や家族の仕事や学校を考えて	14.7%	27.3%	21.4%
8. 避難所・避難先での生活が不安だから	64.7%	42.4%	46.9%
9. 自宅や地域を離れるのが不安だから	25.0%	42.4%	40.7%
10. まだ自分の地域では地震が起きていないので	35.3%	47.0%	24.1%
11. その他 ()	7.4%	7.6%	4.8%
無回答	-	1.5%	1.4%

【全員にお伺いします】

問 13 南海トラフ沿いでマグニチュード7程度の地震が発生し(ただし大きな被害はまだ出ていない)、さらに大きな地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発表された場合、もし仮に、避難するとしたら、あなたはどこに避難しますか。(〇は1つ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 祖父母、父母、子どもなどの家	13.1%	14.2%	12.3%
2. 親戚の家	5.1%	9.0%	2.6%
3. 知人・友人の家	0.6%	1.5%	0.4%
4. 指定された避難所	62.9%	46.3%	60.5%
5. ホテル・旅館	0.6%	0.7%	1.8%
6. 車中泊	2.3%	3.0%	3.9%
7. その他 ()	3.4%	3.7%	1.8%
8. わからない	10.3%	19.4%	16.2%
無回答	1.7%	2.2%	0.4%

【問 13 で 1～7 を回答した方のみ】

問 13-1 それは具体的にどこですか。可能な限りで構いませんので、ご記入ください。

	都・道・府・県		市・区・町・村	番地以降
--	---------	--	---------	------

※省略

問 13-2 そこまでの避難の手段は何ですか。(○はいくつでも)

	高知市 (n=154)	静岡市清水区 (n=105)	静岡市葵区 (n=190)
1. 飛行機	-	-	3.2%
2. 新幹線	-	6.7%	10.0%
3. 自家用車・タクシー	46.8%	47.6%	29.5%
4. 電車・バス	1.9%	9.5%	8.9%
5. 原付・バイク	3.9%	6.7%	2.6%
6. 自転車・徒歩	58.4%	66.7%	72.1%
7. その他 ()	3.2%	1.0%	1.6%
8. わからない	4.5%	1.9%	2.1%
無回答	3.9%	1.9%	1.1%

【全員にお伺いします】

問 14 南海トラフ沿いでマグニチュード7程度の地震が発生し(ただし大きな被害はまだ出ていない)、さらに大きな地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったとして「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発表された場合、もし仮に、避難するとしたら、あなたはどの程度の期間なら避難を続けられると思いますか。(○は1つ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区		高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 1日	5.1%	3.0%	2.6%	11. 2週間程度	3.4%	10.4%	5.3%
2. 2日	6.9%	6.0%	4.8%	12. 3週間程度	-	-	0.9%
3. 3日	26.3%	22.4%	23.2%	13. 1か月程度	1.1%	6.0%	5.3%
4. 4日	1.7%	1.5%	2.2%	14. 2か月程度	-	0.7%	0.4%
5. 5日	6.3%	8.2%	4.4%	15. 3か月程度	0.6%	1.5%	0.9%
6. 6日	1.1%	0.7%	0.9%	16. その他 ()	1.7%	1.5%	0.9%
7. 7日	19.4%	17.9%	21.9%	17. わからない	20.6%	13.4%	17.5%
8. 8日	-	-	-	無回答	2.3%	2.2%	1.8%
9. 9日	-	-	-				
10. 10日	3.4%	4.5%	7.0%				

問 15 では、南海トラフ地震の発生確率が「10%程度」と言われたら、避難を続けますか。(○は1つ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 避難を続けると思う	13.1%	16.4%	7.9%
2. 自宅に戻ると思う	84.6%	82.1%	90.8%
無回答	2.3%	1.5%	1.3%

問 16 では、南海トラフ地震の発生確率が「2%程度」と言われたら、避難を続けますか。(○は1つ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 避難を続けると思う	5.1%	6.0%	1.3%
2. 自宅に戻ると思う	93.1%	93.3%	97.8%
無回答	1.7%	0.7%	0.9%

問 17 「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、様々なことが発生すると思います。

問 17-1 もし仮に、次のような状況の場合、あなたは避難する（避難を継続する）と思いますか。

（○はそれぞれ1つ）

			1 避難する (避難を継続する) と思う	2 避難しない (避難を継続しない) と思う	無回答
(A)	周囲の多くの人が避難している場合	高知県	84.6%	11.4%	4.0%
		静岡市清水区	79.1%	17.2%	3.7%
		静岡市葵区	76.8%	21.1%	2.2%
(B)	自分や家族の仕事が休みになった場合	高知県	40.6%	34.9%	24.6%
		静岡市清水区	56.7%	29.9%	13.4%
		静岡市葵区	43.4%	45.6%	11.0%
(C)	自分や家族の通う学校や周囲の学校が休みになった場合	高知県	37.7%	37.7%	24.6%
		静岡市清水区	48.5%	38.1%	13.4%
		静岡市葵区	40.4%	46.9%	12.7%
(D)	近くの病院・デイケア施設などが閉鎖することになった場合	高知県	48.6%	30.9%	20.6%
		静岡市清水区	55.2%	31.3%	13.4%
		静岡市葵区	47.4%	42.5%	10.1%
(E)	食料の確保などに関して不安がない場合	高知県	40.0%	45.7%	14.3%
		静岡市清水区	39.6%	53.0%	7.5%
		静岡市葵区	28.5%	65.4%	6.1%
(F)	銀行・商店が営業をやめたり、ガソリンの入手が難しくなったりして、生活が難しくなるような場合	高知県	65.7%	18.9%	15.4%
		静岡市清水区	67.9%	22.4%	9.7%
		静岡市葵区	68.0%	24.6%	7.5%

問 17-2 では、もし仮に、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」に対する世の中の反応が、以下のようにあまり大したことがない場合は避難する（避難を継続する）と思いますか。（○はそれぞれ1つ）

			1 避難する (避難を継続する) と思う	2 避難しない (避難を継続しない) と思う	無回答
(A)	周囲の多くの人が避難していない場合	高知県	12.0%	81.1%	6.9%
		静岡市清水区	13.4%	81.3%	5.2%
		静岡市葵区	6.1%	92.1%	1.8%
(B)	自分や家族の仕事が休みではない場合	高知県	5.1%	73.7%	21.1%
		静岡市清水区	9.0%	76.9%	14.2%
		静岡市葵区	3.1%	86.8%	10.1%
(C)	自分や家族の通う学校や周囲の学校が休みではない場合	高知県	5.1%	74.9%	20.0%
		静岡市清水区	8.2%	76.9%	14.9%
		静岡市葵区	2.6%	86.8%	10.5%
(D)	近くの病院・デイケア施設などが閉鎖していない場合	高知県	6.9%	74.9%	18.3%
		静岡市清水区	8.2%	79.1%	12.7%
		静岡市葵区	3.9%	87.7%	8.3%
(E)	食料などが十分手に入る場合	高知県	7.4%	81.1%	11.4%
		静岡市清水区	11.9%	81.3%	6.7%
		静岡市葵区	5.3%	89.9%	4.8%
(F)	銀行・商店の営業、ガソリンの供給など、生活面に問題がない場合	高知県	6.9%	80.0%	13.1%
		静岡市清水区	11.2%	78.4%	10.4%
		静岡市葵区	4.8%	88.2%	7.0%

問 18 仮に避難をして、その後地震が発生しないまま、ある程度時間がたった場合、あなたが避難をやるかどうかを判断する基準として、下記のことは重要ですか。(○はそれぞれ1つ)

		1 重要である	2 やや 重要である	3 あまり 重要ではない	4 重要 ではない	無回答	
(A)	政府からの情報の発信	高知県	61.7%	17.1%	9.1%	3.4%	8.6%
		静岡市清水区	73.1%	13.4%	5.2%	1.5%	6.7%
		静岡市葵区	66.2%	23.7%	3.5%	2.6%	3.9%
(B)	気象庁からの情報の発信	高知県	76.6%	12.6%	2.3%	2.3%	6.3%
		静岡市清水区	75.4%	14.9%	3.0%	0.7%	6.0%
		静岡市葵区	78.5%	15.4%	1.3%	1.3%	3.5%
(C)	市町村からの情報の発信	高知県	73.1%	15.4%	3.4%	1.7%	6.3%
		静岡市清水区	70.9%	17.2%	4.5%	0.7%	6.7%
		静岡市葵区	75.0%	17.1%	2.2%	1.8%	3.9%
(D)	周囲の人の避難の状況	高知県	34.9%	33.1%	18.3%	5.1%	8.6%
		静岡市清水区	25.4%	38.8%	21.6%	6.7%	7.5%
		静岡市葵区	29.4%	37.3%	25.0%	4.8%	3.5%
(E)	仕事の状況(職場が休みになるかどうか、取り引き先の状況など)	高知県	17.1%	24.6%	23.4%	17.1%	17.7%
		静岡市清水区	24.6%	26.9%	25.4%	9.7%	13.4%
		静岡市葵区	20.6%	26.3%	30.3%	12.7%	10.1%
(F)	学校や保育園・幼稚園などの状況	高知県	19.4%	21.7%	22.3%	18.3%	18.3%
		静岡市清水区	14.2%	26.9%	32.1%	14.9%	11.9%
		静岡市葵区	15.4%	24.1%	29.4%	20.6%	10.5%
(G)	病院・デイケア施設などの状況	高知県	21.7%	28.0%	21.1%	14.3%	14.9%
		静岡市清水区	23.9%	28.4%	28.4%	10.4%	9.0%
		静岡市葵区	24.1%	32.0%	25.4%	11.8%	6.6%
(H)	食料の状況	高知県	56.0%	26.9%	6.3%	2.9%	8.0%
		静岡市清水区	49.3%	31.3%	6.0%	5.2%	8.2%
		静岡市葵区	57.5%	32.9%	5.3%	0.9%	3.5%
(I)	銀行・商店の営業、ガソリンなど物資の供給状況	高知県	40.6%	32.0%	11.4%	5.7%	10.3%
		静岡市清水区	38.8%	38.1%	11.9%	3.0%	8.2%
		静岡市葵区	43.9%	36.0%	13.6%	2.6%	3.9%

D.地震が発生した後についてお伺いします。

問 19 もし、地震が発生して被害に遭われて、家に住めなくなり、長期的に避難せざるを得なくなった場合、まず避難するとしたらあなたはどこに避難しますか。(○はひとつ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 祖父母、父母、子どもなどの家	18.9%	17.9%	22.4%
2. 親戚の家	9.7%	13.4%	5.3%
3. 知人・友人の家	1.1%	0.7%	0.9%
4. 指定された避難所	41.7%	41.8%	47.8%
5. ホテル・旅館	1.7%	1.5%	1.3%
6. 車中泊	4.0%	1.5%	2.6%
7. その他 ()	3.4%	3.0%	3.1%
8. わからない	15.4%	18.7%	14.9%
無回答	4.0%	1.5%	1.8%

では、より詳細にお伺いします。

問 22 現在、下記のものは何日分くらい家にありますか。(○はそれぞれ1つ)

また、**1を選んだ方は**、その備蓄は、何日分くらいあると思いますか。(具体的な数字)

(1) 米やパンなどの主食

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. () 日分くらいある	78.3% (平均：14.2 日)	85.1% (平均：10.9 日)	86.4% (平均：9.6 日)
2. ない	10.3%	13.4%	11.0%
無回答	11.4%	1.5%	2.6%

(2) 肉・魚・野菜など生鮮食品

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. () 日分くらいある	72.6% (平均：3.8 日)	70.9% (平均：2.8 日)	71.5% (平均：3.6 日)
2. ない	18.9%	25.4%	25.9%
無回答	8.6%	3.7%	2.6%

(3) インスタント食品・冷凍食品

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. () 日分くらいある	79.4% (平均：5.1 日)	82.1% (平均：4.1 日)	84.6% (平均：4.4 日)
2. ない	12.0%	14.9%	13.2%
無回答	8.6%	3.0%	2.2%

(4) 非常食

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. () 日分くらいある	40.6% (平均：4.5 日)	60.4% (平均：3.7 日)	63.2% (平均：3.9 日)
2. ない	47.4%	35.8%	32.9%
無回答	12.0%	3.7%	3.9%

(5) ティッシュやトイレットペーパーなどの日用品

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. () 日分くらいある	84.0% (平均：17.4 日)	93.3% (平均：14.9 日)	94.3% (平均：14.6 日)
2. ない	6.3%	5.2%	3.1%
無回答	9.7%	1.5%	2.6%

(6) 飲料水

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. () 日分くらいある	70.3% (平均：5.2 日)	80.6% (平均：5.7 日)	84.2% (平均：6.0 日)
2. ない	19.4%	17.9%	12.7%
無回答	10.3%	1.5%	3.1%

問 23 もし、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、下記のことを、新たに又は追加で購入すると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

また、**1を選んだ方は**、何日分くらい購入すると思いますか。(具体的な数字)

(1) 米やパンなどの主食

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 追加で購入をする () 日分程度	50.9% (平均：9.2 日)	68.7% (平均：7.1 日)	67.1% (平均：8.6 日)
2. 追加で購入しない	40.6%	25.4%	28.1%
無回答	8.6%	6.0%	4.8%

(2) 肉・魚・野菜など生鮮食品

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 追加で購入をする（ ）日分程度	45.1% (平均：5.4日)	54.5% (平均：4.4日)	52.6% (平均：4.7日)
2. 追加で購入しない	44.6%	39.6%	42.5%
無回答	10.3%	6.0%	4.8%

(3) インスタント食品・冷凍食品

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 追加で購入をする（ ）日分程度	77.7% (平均：8.3日)	78.4% (平均：7.6日)	80.7% (平均：7.7日)
2. 追加で購入しない	13.7%	17.2%	14.5%
無回答	8.6%	4.5%	4.8%

(4) 非常食

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 追加で購入をする（ ）日分程度	66.9% (平均：7.6日)	72.4% (平均：7.4日)	79.4% (平均：7.8日)
2. 追加で購入しない	23.4%	20.9%	16.2%
無回答	9.7%	6.7%	4.4%

(5) ティッシュやトイレットペーパーなどの日用品

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 追加で購入をする（ ）日分程度	45.1% (平均：13.4日)	57.5% (平均：10.1日)	53.9% (平均：10.9日)
2. 追加で購入しない	45.7%	37.3%	40.8%
無回答	9.1%	5.2%	5.3%

(6) 水

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 追加で購入をする（ ）日分程度	75.4% (平均：9.0日)	79.1% (平均：7.8日)	85.1% (平均：8.7日)
2. 追加で購入しない	17.1%	16.4%	11.0%
無回答	7.4%	4.5%	3.9%

問 24 現在、下記のものをご自宅にありますか。(○はいくつでも)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 軽油・灯油	34.9%	19.4%	16.7%
2. 懐中電灯	93.7%	95.5%	93.4%
3. ラジオ	79.4%	76.9%	80.3%
4. 救急医療品（ばんそうこう、包帯など）	82.9%	87.3%	89.5%
5. カセットコンロなど調理器具	70.3%	69.4%	65.8%
6. 使い捨てカイロなど防寒用品	57.1%	53.7%	62.7%
7. 充電器	40.0%	53.0%	53.9%
8. その他防災グッズ	36.6%	41.8%	45.2%
無回答	3.4%	0.7%	1.3%

問 25 もし、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、下記のものを、新たに又は追加で購入しますか。（○はいくつでも）

※なお、すでに自宅にあったとしても、追加で購入する場合は、購入するとお答えください。

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 軽油・灯油	13.1%	16.4%	11.4%
2. 懐中電灯	16.6%	13.4%	11.0%
3. ラジオ	12.6%	10.4%	9.2%
4. 救急医療品（ばんそうこう、包帯など）	21.1%	20.1%	19.3%
カセットコンロなど調理器具	25.7%	24.6%	30.3%
6. 使い捨てカイロなど防寒用品	24.6%	26.1%	28.5%
7. 充電器	19.4%	18.7%	14.9%
8. その他防災グッズ	44.6%	41.0%	41.2%
無回答	27.4%	26.1%	20.2%

問 26（1）ご自宅に、車はありますか。（○は1つ）

また、**1を選んだ方は**、何台かお答えください。（具体的な数字）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. ある ⇒（ 台）	89.1%	84.3%	84.6%
	（平均：2.0台）	（平均：1.7台）	（平均：1.5台）
2. ない	8.6%	14.9%	14.9%
無回答	2.3%	0.7%	0.4%

【問 26（1）で「1. ある」を回答した方のみ】

（2）もし、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、避難などに備えてガソリンを満タンにすると思いますか。（○はひとつ）

	高知市 (n=156)	静岡市清水区 (n=113)	静岡市葵区 (n=193)
1. ガソリンを満タンにする	67.3%	70.8%	70.5%
2. そのような行動は特に考えていない	32.1%	28.3%	29.0%
無回答	0.6%	0.9%	0.5%

【全員にお伺いします】

問 27 家具の固定についてお伺いします。

（1）ご自宅では、主要な家具を固定していますか。（○はひとつ）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. ほとんどの家具は固定している	8.0%	19.4%	22.4%
2. いくつか家具は固定している	35.4%	44.8%	46.9%
3. 固定していない	54.9%	34.3%	29.8%
無回答	1.7%	1.5%	0.9%

【問 27（1）で「2. いくつか家具は固定している」又は「3. 固定していない」を回答した方のみ】

（2）もし、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された場合、主要な家具を固定しますか。

（○はひとつ）

	高知市 (n=158)	静岡市清水区 (n=106)	静岡市葵区 (n=175)
1. ほとんどの家具を固定する	22.8%	28.3%	28.6%
2. いくつかの家具を固定する	37.3%	39.6%	35.4%
3. 現状のまま	34.8%	32.1%	33.1%
無回答	5.1%	-	2.9%

【全員にお伺いします】

問 28 避難場所と避難経路についておうかがいします。

(1) あなたのお宅では避難場所や避難経路の確認をしていますか。(○はひとつ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 避難場所や避難経路の確認をしている	85.7%	82.8%	70.2%
2. 避難場所や避難経路の確認はしていない	12.0%	16.4%	28.5%
無回答	2.3%	0.7%	1.3%

【問 28 (1) で「2. 避難場所や避難経路の確認はしていない」を回答した方のみ】

(2) もし、「南海トラフ地震に関連する情報 (臨時)」が発表された場合には、避難場所や避難経路を確認しますか。(○はひとつ)

	高知市 (n=21)	静岡市清水区 (n=22)	静岡市葵区 (n=65)
1. 避難場所や避難経路の確認をすと思う	81.0%	90.9%	84.6%
2. 避難場所や避難経路の確認はしないと思う	19.0%	9.1%	15.4%
無回答	-	-	-

F. 南海トラフ地震に関連する、あなたのお考えについてお伺いします。

【全員にお伺いします】

問 29 「南海トラフ地震に関連する情報 (臨時)」について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 長期的に今いる地域を離れることを検討する	10.3%	17.9%	11.8%
2. どうせ被害をうけるから、積極的な対策はとらない	26.3%	14.9%	12.3%
3. 地域の中で生活が営めなくなるのではないかと思う	40.6%	38.8%	22.4%
4. 「地震が発生する可能性がある」とはいつても、その発生確率が分からないと判断しにくい	40.6%	48.5%	55.7%
5. 「避難するかしないかは自己責任で考えろ」というのは間違っていると思う	20.6%	13.4%	13.2%
6. 確率が低い情報は出さないでほしい	15.4%	15.7%	15.4%
7. 命にかかわる情報なので、どんな情報も提供してほしい	54.3%	56.0%	56.6%
8. 「空振り」しても構わないので、南海トラフ地震に関連する情報は適宜、公表してほしい	66.9%	70.1%	68.4%
9. その他 ()	1.1%	3.0%	2.2%
無回答	3.4%	4.5%	2.6%

問 30 ご自宅の状況についてお伺いします。

避難を考える上で、下記のことについて、どう思いますか。(○はそれぞれひとつ)

(1) 自宅の耐震性に対する問題

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 問題がある	37.1%	22.4%	14.0%
2. やや問題がある	31.4%	30.6%	24.1%
3. あまり問題はない	20.6%	29.1%	44.3%
4. 問題はない	8.0%	14.2%	15.8%
無回答	2.9%	3.7%	1.8%

(2) 自宅またはその周辺の津波に対する危険

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 問題がある	72.0%	78.4%	0.9%
2. やや問題がある	16.6%	11.2%	5.7%
3. あまり問題はない	5.7%	7.5%	44.3%
4. 問題はない	1.7%	-	46.9%
無回答	4.0%	3.0%	2.2%

(3) 自宅周辺の延焼火災に対する不安

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 問題がある	30.9%	32.1%	23.7%
2. やや問題がある	33.7%	40.3%	49.1%
3. あまり問題はない	24.0%	20.9%	21.5%
4. 問題はない	8.0%	2.2%	3.9%
無回答	3.4%	4.5%	1.8%

(4) 自宅またはその周辺の土砂崩れ・がけ崩れに対する危険

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 問題がある	26.3%	1.5%	0.9%
2. やや問題がある	25.1%	4.5%	1.8%
3. あまり問題はない	26.9%	26.9%	27.6%
4. 問題はない	18.3%	61.9%	67.5%
無回答	3.4%	5.2%	2.2%

問 31 南海トラフ地震で被災した場合、不安に思うことはありますか。(○はいくつでも)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 水・食料の不足	83.4%	70.1%	81.1%
2. 地震で被災すること	68.0%	59.0%	73.7%
3. 津波で被災すること	81.7%	83.6%	13.2%
4. 長期間、自宅が浸水すること	38.9%	50.0%	11.0%
5. 土砂崩れ	30.3%	4.5%	2.6%
6. 火災	29.1%	40.3%	65.4%
7. 液状化	26.3%	42.5%	41.2%
8. 停電	73.7%	72.4%	85.1%
9. ガスが使えない	44.0%	56.0%	65.4%
10. 水道が使えない	81.1%	82.1%	92.5%
11. インターネットが使えない	16.0%	23.1%	33.3%
12. 医療	48.6%	52.2%	56.6%
13. 介護	17.7%	14.9%	17.5%
14. 鉄道が動かない	1.1%	13.4%	10.1%
15. 救援物資が届かない	49.7%	47.0%	50.0%
16. お金がかかる	40.6%	44.0%	36.0%
17. 行政サービスのストップ	24.0%	27.6%	28.9%
18. 帰宅困難	38.3%	41.0%	33.8%
無回答	2.9%	3.7%	1.3%

F. あなたご自身についてお伺いします。

【全員にお伺いします】

F 1 あなたの性別を教えてください。

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 男性	54.3%	54.5%	49.1%
2. 女性	42.9%	41.8%	49.1%
無回答	2.9%	3.7%	1.8%

F 2 あなたの年齢を教えてください。

満 _____ 歳 (平均：高知市 63.5 歳 静岡市清水区 60.2 歳 静岡市葵区 58.5 歳)

F 3 あなたの職業を教えてください。(○はひとつ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 正規の職員・従業員	20.6%	29.1%	33.3%
2. 派遣社員	-	1.5%	0.9%
3. パート・アルバイト(契約社員・嘱託を含む)	12.6%	14.2%	11.4%
4. 会社などの役員無回答	6.9%	7.5%	3.5%
5. 自営業主(自由業を含む)	6.3%	8.2%	7.0%
6. 農林水産漁業者	6.3%	-	0.9%
7. 無職(主婦・主夫を含む)	41.1%	31.3%	39.0%
8. 学生	0.6%	0.7%	-
9. その他()	2.3%	1.5%	1.8%
無回答	3.4%	6.0%	2.2%

F4 現在、あなた又はあなたのご家族は、次の状況に当てはまりますか。(○はいくつでも)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 要支援者がいる	13.7%	9.0%	8.8%
2. 65歳以上の高齢者がいる	50.9%	43.3%	36.8%
3. 12歳以下の子どもがいる	9.1%	13.4%	16.2%
4. 65歳以上の高齢者のみの世帯である	24.0%	20.1%	19.3%
5. 単身世帯である	12.6%	18.7%	16.2%
6. 当てはまる者はいない無回答	14.3%	16.4%	18.0%
無回答	4.0%	4.5%	3.1%

F5 ご自宅の郵便番号を教えてください。

	—	
--	---	--

※省略

F6 あなたのお住まいの住宅は、耐震性がありますか。(○はひとつ)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 耐震基準を満たしている (1981年7月以降に建設された建物、または耐震補強済みの建物に住んでいる)	35.4%	51.5%	65.4%
2. 耐震基準を満たしていない	44.0%	25.4%	18.4%
3. わからない	16.6%	17.9%	13.6%
無回答	4.0%	5.2%	2.6%

F7 あなたのご自宅のある場所には、地震発生後、津波は早い場合どのくらいの時間で到達すると思いますか。(○はひとつ)

1を選んだ方は、想定される時間について、お答えください。(具体的な数字)

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. ()分程度	80.0%	80.6%	2.6%
	(平均: 16.9分)	(平均: 8.4分)	(平均: 29.2分)
2. 自宅の場所に津波はやってこない	4.6%	3.7%	71.5%
3. わからない	11.4%	11.9%	23.2%
無回答	4.0%	3.7%	2.6%

F8 現在、南海トラフ地震などの地震や津波に備えて実施している防災対策はありますか（〇はいくつでも）

	高知市	静岡市清水区	静岡市葵区
1. 水・食料の備蓄	36.0%	56.7%	63.2%
2. 寝室に大きな家具を置かないようにしている	43.4%	50.0%	58.3%
3. ガラス飛散防止をしている	8.0%	14.2%	14.5%
4. 棚の上に重いものを置かないようにしている	30.9%	30.6%	39.0%
5. 火気器具のまわりを整理するようにしている	14.9%	20.1%	23.2%
6. 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	26.9%	33.6%	19.7%
7. 普段から風呂に水をためるようにしている	20.0%	17.9%	16.7%
8. 消火器を用意している	33.7%	32.1%	37.3%
9. 割れたガラスから保護するためにスリッパ・運動靴などを用意している	31.4%	32.8%	36.4%
10. 災害時の家族の行動や役割を話しあっている	14.3%	17.9%	11.4%
11. 地震の時に避難する場所を決めている	59.4%	61.9%	46.1%
12. 家族が離ればなれになった時に落ち合う場所を決めている	13.1%	21.6%	25.4%
13. 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めている	4.0%	5.2%	8.3%
14. 感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している	7.4%	10.4%	11.8%
15. 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	8.6%	15.7%	11.4%
16. ブロック塀などの安全性を点検している	9.1%	3.7%	14.5%
17. その他（ ）	4.6%	2.2%	3.1%
18. 特に何もしていない	11.4%	7.5%	7.5%
無回答	6.3%	4.5%	4.4%

■ 最後に、政府や自治体の南海トラフ地震の対策、南海トラフ地震の関連する情報について、あなたのご意見・ご要望など、ご自由にご記載ください。

ネットゲーム依存者の実態と脱却要因

What Causes Internet Gaming Addiction?: The Current Situation and How to Escape from Dependency

橋元良明 HASHIMOTO, Yoshiaki 大野志郎 OHNO, Shiroh 天野美穂子 AMANO, Mihoko

目次

- 0. 調査の概要 大野 志郎
 - 0.1 調査の目的
 - 0.2 調査方法
 - 0.3 ネットゲーム依存傾向者について
 - 0.4 依存傾向者の分布
 - 0.5 心理変数について
- 1. ネットゲーム現在熱中者の利用状況 大野 志郎
 - 1.1 ネットゲームおよびその他のサービスの利用時間
 - 1.2 ネットゲームの利用目的と継続する理由
 - 1.3 ネットゲーム利用のリテラシー
 - 1.4 利用するネットゲームのジャンル・要素
 - 1.5 本章のまとめ：ネットゲーム依存傾向者の現状
- 2. ネットゲーム現在熱中者の利用による影響 天野 美穂子
 - 2.1 ネットゲームへの熱中による経験
 - 2.2 ネットゲーム内における行動
 - 2.3 日常生活における行動
 - 2.4 心理傾向
 - 2.5 本章のまとめ：ネットゲーム依存傾向者の特徴
- 3. 依存脱却者のプロフィール 橋元 良明
 - 3.0 「依存脱却者」の定義
 - 3.1 当時のネットゲーム利用動機

- 3.2 ゲームに熱中し続けた理由
- 3.3 依存状況時の経験
- 3.4 依存状況時に受けた教育やレクチャーとそれらが役立った比率
- 3.5 依存状況時に依存脱却のために行なった行動とそれらが役立った比率
- 3.6 依存状況時に依存脱却のために行なった努力とそれらが役立った比率
- 3.7 依存状況時に依存脱却のために家族が行なったこととそれらが役立った比率
- 3.8 依存状況時にネットゲームへの熱中の度合いが減った背景
- 3.9 依存状況時に熱中していたネットゲームの種類や特徴
- 3.10 脱却者の心理傾向

単純集計

橋元良明 東京大学大学院情報学環
大野志郎 東京大学大学院情報学環
天野美穂子 東京家政大学家政学部児童教育学科／東京大学大学院情報学環客員研究員

本研究は、JST /RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」領域「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築」(ATA-net、代表：石塚伸一)の一環として、東京大学 橋元良明，東京大学 大野志郎，東京家政大学 天野美穂子により実施された。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

アメリカ精神医学会による DSM-5 へのインターネットゲーミング障害の診断基準の記載、WHO による ICD-11 における精神障害としての分類などの背景から、ゲームの依存的使用が世界的に問題視されている。本研究では、青少年におけるゲーム障害の現状と脱却に寄与する因子を探るため、ネットゲームへの熱中者、過去熱中者（脱却者）に対するオンラインアンケート調査を行った。設問の内容は、ネットゲーム利用時間、ネットゲームの利用動機、ネットゲームをやめられない理由、ネットゲーム依存尺度、ネットゲーム利用による影響、ネットゲーム依存に関する学習歴、ネットゲーム利用の軽減手段、ネットゲーム利用軽減時期の状況、利用しているネットゲームタイトル、ジャンル、要素・機能、各種心理傾向である。

0.2 調査方法

(1)調査方法：オンラインアンケート調査。事前調査を実施して対象者を抽出し、本調査の対象とした。

(2)本調査回収数 1,649 票

(3)調査対象者：日本全国の株式会社マクロミルおよび提携会社の登録モニタのうち、現在、あるいは過去3年以内にネットゲームに熱中していた経験のある、高校生・大学生の男女。本調査対象者の選別にあたり、事前調査（配布数約 20,000 票）において、次の a、b を主な条件とした。

a) 現在、高校生または大学生であること

b) ネットゲーム（ゲームアプリを含む）に**現在熱中している**、または**過去に熱中していた**（現在は熱中していない）こと¹

また、一定の期間・時間のネットゲーム利用を行っていたこと、熱中していた時期が記憶に残っている程度最近であることとする c、d、e を付加的な条件とした。

c) 過去熱中者の場合、**熱中していた時期が最近から3年程前までの間である**こと

d) ネットゲームに**熱中していた期間が3か月以上である**こと

e) **熱中していた時期のネットゲーム利用時間が平日1日1時間以上である**こと

b の条件において「**現在熱中している**」と回答した者（以下、**現在熱中者**）と「**過去に熱中していたが、現在は熱中していない**」と回答した者（以下、**過去熱中者**）の区分

¹ 当初は依存尺度に基づき、ネットゲーム依存傾向者のみを調査対象とする計画であったが、調査会社への高校生・大学生の登録モニタ数が不足し十分なサンプル数を確保することができなかったため、条件を緩和し、熱中者を対象とした。

それぞれに対し、高校生・大学生の各学年で男性 60 票、女性 60 票の回収を目安とした²。最終的な内訳は、現在熱中者 874 票、過去熱中者 775 票であった。詳細を表 0.2.1 に示す。

(4)調査期間： 事前調査 2019年8月5日～2019年8月14日

本調査 2019年8月14日～2018年8月27日

表 0.2.1 本調査対象者の分布

	高校 1年生	高校 2年生	高校 3年生	大学 1年生	大学 2年生	大学 3年生	大学 4年生	計
男性・現在熱中者	55	64	63	64	56	60	64	426
男性・過去熱中者	25	45	49	48	59	57	61	344
女性・現在熱中者	64	64	64	64	64	64	64	448
女性・過去熱中者	47	64	64	64	64	64	64	431
計	191	237	240	240	243	245	253	1649

0.3 ネットゲーム依存傾向者について

Lemmens, Valkenburg and Gentile (2015)³ により作成された、9項目版のインターネットゲーミング依存尺度⁴をもとに和訳した9項目の尺度を用いた(表 0.3.1)。

表 0.3.1 ネットゲーム依存尺度

1. ネットゲームのことばかり考えている時間がある／あった
2. もっとネットゲームをしないと気がすまないと感じていることがある／あった
3. ネットゲームをしないと気分が落ち込むことがある／あった
4. 他の人からネットゲームを少し控えるように言われても、やめられないことがある／あった
5. わずらわしいことを考えるのが嫌で、ネットゲームをすることがある／あった
6. ネットゲームばかりすることの影響について、人と言い争いをしたことがある／あった
7. ネットゲームをしている時間を、人に知られないようにごまかしたことがある／あった
8. ネットゲームで満足しているため、ほかの趣味や活動への興味を失ったことがある／あった
9. ネットゲームをしすぎることで、家族や友人、パートナーと、深刻ないさかいを起こしたことがある／あった

2 調査の実施にあたり、特に脱却者の出現率が低かったことから、本調査対象者の年代比・男女比を均等に調整することが困難であったため、必ずしも学年、性別で均等になっていない。男女比は、熱中者と脱却者のそれぞれで、各学年で 1.5 倍を超えないよう調整して回収した。ただし、脱却者の高校 1 年生男性においては対象者が極端に少なかったため、この比率を超え、女性の割合が高くなっている)。

3 B.J.S. Lemmens, P.M. Valkenburg, D.A. Gentile.(2015) The Internet Gaming Disorder Scale., Psychological Assessment, 27(2):567-582.

4 DSM-5 に記載されているインターネットゲーミング障害の診断基準をもとに作成された最初期の 9 項目ゲーミング障害スケールであり、オランダの 2,444 人の青年および成人(13~40 歳)を対象とした量的調査により、確証的因子分析による良好な適合度と、高い内的整合性 ($\alpha = .83$)、良好な基準関連妥当性および、同時に作成された 27 項目の診断基準との高い相関 ($r = .93$)が示されていること、6 件法と 2 件法の回答方法について検証されていること、多くの関連研究において引用、使用されていることから、基準となるゲーミング障害の尺度として用いた。

回答方法は「1. あてはまる」「2. あてはまらない」の2択とし、現在熱中者のうち、1に5項目以上該当する場合に「**現在依存傾向者**」、それ以外の場合に「**現在非依存傾向者**」、過去熱中者のうち、1に5項目以上該当する場合に「**過去依存傾向者**」、それ以外の場合に「**過去非依存傾向者**」として分類した⁵。

0.4 依存傾向者の分布

現在熱中者および過去熱中者のうち、依存傾向者の分布を、図 0.4.1 に示す。現在熱中者のうち、現在依存傾向者は 21.1%、現在非依存傾向者は 78.9%であった。過去熱中者のうち、過去依存傾向者は 19.7%、過去非依存傾向者は 80.3%であった。

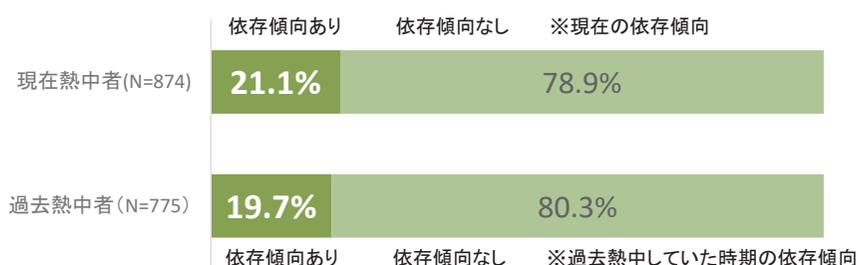


図 0.4.1 依存傾向者の割合

0.5 心理変数について

本調査では、心理傾向として、対人生活満足度、抑うつ、孤独感、社交性、ソーシャルサポート、攻撃性、共感性、セルフコントロール、自己肯定感を用いた。各項目および出典、内的整合性を示すクロンバックの α 係数 (N=1,649) を表 0.5.1 に示す。いずれも「とてもあてはまる」を4ポイント、「ややあてはまる」を3ポイント、「あまりあてはまらない」を2ポイント、「まったくあてはまらない」を1ポイントとする4件法で質問し、その後、逆転項目については得点を逆転させた。対人生活満足に関しては、各項目を単独で分析し、その他については、4項目のポイントを合算した変数を作成し、分析に用いた。

⁵ カットオフポイントは先行研究に習い、5項目への該当とした。

表 0.5.1 各心理傾向の質問項目

	質問項目	出典
対人生活 満足 ($\alpha = .85$)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人関係に満足している ・家族との関係に満足している ・日常生活に満足している ・学校生活に満足している 	LiSat-9(Fugl-Meyer et al., 1991) ⁶ を参考に作成
抑うつ ($\alpha = .69$)	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が沈んでゆううつになることがよくある ・泣いたり、泣きたくなったりすることがよくある ・落ち着かず、じっとしてられないことがよくある ・自分の人生は充実している (逆転項目) 	Zung (1965)による SDS の邦訳版 (福田・小林, 1973) ⁷ を修正・抜粋
孤独感 ($\alpha = .74$)	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、まわりの人たちとうまくいっている (逆転項目) ・私をよく知っている人はだれもない ・私には知人がいるが、気心の知れた人はいない ・私には、頼りにできる人がだれもない 	工藤・西川 (1983) ⁸ より抜粋
社交性 ($\alpha = .82$)	<ul style="list-style-type: none"> ・人と一緒にいるのが好きだ ・人づきあいの機会があれば、喜んで参加する ・私にとって何よりも刺激的なのは、人とのつきあいである ・広く人づきあいができなくなったら、不幸になると思う 	Buss (1986=1991) ⁹ より抜粋
ソーシャル サポート ($\alpha = .90$)	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたが落ちこんでいると、元気づけてくれる人がいる ・日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる人がいる ・あなたが人間関係に悩んでいると知ったら、いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる人がいる ・あなたが不満をぶちまけたいときは、聞いてくれる人がいる 	久田・千田・箕口 (1989) ¹⁰ より抜粋
攻撃性 ($\alpha = .76$)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人を叩きたいと思うことがある ・大した理由がなくても、かっとなる ・叩かれたら、叩きかえそうと思う 	松崎・渡辺・佐藤 (2004) ¹¹ より抜粋
共感性 ($\alpha = .78$)	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの人の気持ちの変化に敏感だと思う ・そばにうれしそうにしている人がいると、自分もうれしくなる ・悲しんでいる人と一緒にいると、自分も同じように悲しくなる ・相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしている 	村上・西村・櫻井 (2014) ¹² より抜粋
セルフコン トロール ($\alpha = .75$)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとってよくないことでも、楽しければやってしまう ・いつも誘惑に負けてしまう¹⁴ ・集中力がない ・他にどのような方法があるか、よく考えずに行動してしまう 	尾崎・後藤・小林・杏澤 (2016) ¹³ より抜粋
自己肯定感 ($\alpha = .75$)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことが好きになれない (逆転項目) ・後悔ばかりしている (逆転項目) ・自分のことを大切だと感じる ・何をやっても、うまくできない (逆転項目) 	田中 (2005) ¹⁵ より抜粋

⁶ Fugl-Meyer AR, Brañholm I-B, Fugl-Meyer KS (1991). Happiness and domainspecific life satisfaction in adult northern Swedes. Clin Rehabil 5:25-33.

⁷ 福田一彦・小林重雄(1983)『日本版自己評価式抑うつ性尺度(SDS)使用手引き』三京書房.

⁸ 工藤力・西川正之(1983)「孤独感に関する研究(I)―孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討―」,『実験社会心理学研究』, 22(2),99-108.

⁹ Buss,A.H.(1986) Social Behavior and Personality, Lawrence Erlbaum Assoc Inc. (A.H.バス著・大淵憲一監訳『対人行動とパーソナリティ』,北大路書房,1991)

¹⁰ 久田満・千田茂博・箕口雅博(1989)「学生用ソーシャルサポート尺度作成の試み(1)」,『日本社会心理学会第30回大会発表論文集』,143-144.

¹¹ 松崎展也・渡辺広人・佐藤公代(2004)「テレビゲームの攻撃性に関する教育心理学的研究」『愛媛大学教育学部紀要』51(1),45-51.

¹² 村上達也・西村多久磨・櫻井茂男(2014)「小中学生における共感性と向社会行動および攻撃行動の関連:こども楊認知・感情共感性尺度の信頼性・妥当性の検討」『発達心理学研究』25(4),399-411.

¹³ 尾崎由佳・後藤崇志・小林麻衣・杏澤岳(2016)「セルフコントロール尺度短縮版の邦訳および信頼性・妥当性の検討」『心理学研究』87(2), 144-154.

¹⁴ 引用元の「誘惑に負けない」から文言を修正した。

¹⁵ 田中道弘(2005)「自己肯定感尺度の作成と項目の検討」『人間科学論』13, 15-27.

1. ネットゲーム現在熱中者の利用状況

本章においては、ネットゲームの現在熱中者（N=874）のネットゲームの利用状況について分析を行う。分析には SPSS Version22 を用いた。分析に際し、平均値の差の検定は t 検定を使用し、名義尺度間の差の検定はカイ二乗検定を使用した。本章のすべての表において、赤太字の数値は 5%水準で有意差が見られることを示している。なお、本章においては、現在ネットゲームに熱中して、かつ依存傾向を示している「現在依存傾向者」を「依存傾向者」と呼び、現在ネットゲームに熱中しているが、依存傾向は示していない「現在非依存傾向者」を「非依存者」と呼ぶ。

1.1 ネットゲームおよびその他のサービスの利用時間

平日 1 日の、ネットゲームの端末別利用時間（利用者平均）を表 1.1.1 に示す。熱中者のネットゲーム平均利用時間は、家庭用据え置きゲーム機が 118.14 分、家庭用携帯ゲーム機が 78.18 分、パソコンが 122.65 分、スマートフォンが 193.12 分、その他の機器が 127.25 分であった。パソコンによるネットゲームの利用時間は女性より男性が有意に長く、141.24 分であった。スマートフォンによるネットゲームの利用時間は、大学生より高校生が、非依存者より依存傾向者が有意に長く、それぞれ 212.98 分、231.09 分であった。参考までに、非利用者を 0 分に換算した全体平均を表 1.1.2 に示す。

表 1.1.1 端末別のネットゲーム利用時間（利用者平均、分）

	家庭用据え置きゲーム機 (Nintendo Switch、PlayStation 4 など) でネットゲームをする時間		家庭用携帯ゲーム機 (ニンテンドー3DS、PlayStation Vita など) でネットゲームをする時間		パソコンでネットゲームをする時間		スマートフォンでネットゲームをする時間		その他の機器でネットゲームをする時間	
	n		n		n		n		n	
全体	326	118.14	236	78.18	236	122.65	843	193.12	64	127.25
男性	189	125.60	118	75.54	148	141.24	407	185.48	39	114.59
女性	137	107.85	118	80.81	88	91.39	436	200.25	25	147.00
高校生	138	115.12	111	82.20	86	122.72	362	212.98	27	181.85
大学生	188	120.36	125	74.61	150	122.61	481	178.18	37	87.41
非依存	244	112.23	161	72.82	164	112.78	665	182.96	36	107.19
依存	82	135.74	75	89.68	72	145.14	178	231.09	28	153.04

※赤太字の数値は 5%水準で有意差が見られることを示す (t 検定)

ネットゲーム熱中者の、その他のウェブサービスの利用時間について、平日 1 日のネット動画、SNS、ウェブサイトの利用時間（利用者平均）を表 1.1.3 に示す。ネット動画の平均利用時間は 154.10 分、SNS の利用時間は 120.98 分、ウェブサイトの利用時間は 67.17 分であった。SNS は男性より女性が、非依存者よりも依存傾向者が、それぞれ有意に長く、148.75 分、140.26 分であった。

表 1.1.2 端末別のネットゲーム利用時間（全体平均、分）

	n	家庭用据え置きゲーム機(Nintendo Switch、PlayStation 4など)でネットゲームをする時間	家庭用携帯ゲーム機(ニンテンドー3DS、PlayStation Vitaなど)でネットゲームをする時間	パソコンでネットゲームをする時間	スマートフォンでネットゲームをする時間	その他の機器でネットゲームをする時間
全体	874	44.07	21.11	33.12	186.27	9.32
男性	426	55.72	20.92	49.07	177.21	10.49
女性	448	32.98	21.29	17.95	194.89	8.20
高校生	374	42.48	24.40	28.22	206.15	13.13
大学生	500	45.25	18.65	36.78	171.41	6.47
非依存	690	39.69	16.99	26.81	176.33	5.59
依存	184	60.49	36.55	56.79	223.55	23.29

※赤太字の数値は5%水準で有意差が見られることを示す（t検定）

表 1.1.3 その他のウェブ利用時間（利用者平均、分）

	ネット動画を見る (YouTube、Netflix、Amazon prime、dTV、Hulu、TVerなど)		SNSを利用する (LINE、Twitter、Facebook、Instagramなど)		ウェブサイトを見る (ニュースサイト、ブログ、まとめサイト、ショッピングサイト、電子コミックなど)	
	n		n		n	
全体	828	154.10	853	120.98	723	67.17
男性	408	158.16	409	90.84	354	60.06
女性	420	150.16	444	148.75	369	73.98
高校生	354	159.90	365	123.91	300	62.64
大学生	474	149.77	488	118.79	423	70.38
非依存	651	151.94	673	115.82	569	64.67
依存	177	162.05	180	140.26	154	76.40

※赤太字の数値は5%水準で有意差が見られることを示す（t検定）

1.2 ネットゲームの利用目的と継続する理由

ネットゲームの利用目的として、表 1.2.1 に示すそれぞれの項目について、「あてはまる」「あてはまらない」の2択により回答を得た。グラフの数値は、あてはまるに該当した率を示す。

ひまつぶし、気分転換の該当率が最も高く、91.6%、88.2%であった。「ネットゲーム上の仲間とのコミュニケーションのため」「新たな友達や知り合いをつくるため」「ほかのプレイヤーから尊敬されるため」のようなオンラインコミュニケーションに関する目的は女性より男性が有意に高く、「日々の悩みや不安を忘れるため」「ストレスや苦痛から逃れるため」のような現実逃避的な目的は男性より女性が有意に高かった。また、「ひまつぶしのため」を除くすべての項目で非依存者よりも依存傾向者が高く、特に前述の現実逃避的な目的と、「うまく操作して他のプレイヤーから尊敬されるため」「他のプレイヤーから得ている良い評価を維持するため」といった優越感を求める目的において、その傾向が顕著で

あった。このことは、現実からの逃避欲求と、ゲーム上での居心地の良い場所という条件が重なることと、依存傾向との結びつきを示唆している。

表 1.2.1 ネットゲームの利用目的

	n	ネットゲーム上の仲間とのコミュニケーションのため	現実の友人とネットゲーム上で遊ぶため	新たな友達や知り合いをつくるため	うまく操作して他のプレイヤーから尊敬されるため	他のプレイヤーから得ている良い評価を維持するため	ネットゲームで相手を打ち負かすことが楽しいから	
全体	874	31.2%	45.3%	23.3%	24.7%	18.9%	46.2%	
男性	426	39.9%	54.7%	29.8%	34.5%	27.5%	58.0%	
女性	448	23.0%	36.4%	17.2%	15.4%	10.7%	35.0%	
高校生	374	36.6%	46.8%	26.7%	27.5%	20.3%	50.5%	
大学生	500	27.2%	44.2%	20.8%	22.6%	17.8%	43.0%	
非依存	690	25.9%	42.6%	18.1%	20.1%	13.6%	41.2%	
依存	184	51.1%	55.4%	42.9%	41.8%	38.6%	65.2%	
		ネットゲーム内の絵や映像・音楽が好きだから	ネットゲーム内の課題を達成することがうれしいから	さみしい気持ちをやわらげるため	日々の悩みや不安を忘れるため	ストレスや苦痛から逃れるため	気分転換のため	ひまつぶしのため
全体	874	77.2%	74.5%	33.3%	55.4%	60.3%	88.2%	91.6%
男性	426	73.7%	70.2%	31.0%	51.4%	55.2%	85.2%	88.3%
女性	448	80.6%	78.6%	35.5%	59.2%	65.2%	91.1%	94.9%
高校生	374	77.8%	75.7%	36.4%	58.6%	62.0%	87.4%	90.4%
大学生	500	76.8%	73.6%	31.0%	53.0%	59.0%	88.8%	92.6%
非依存	690	75.7%	71.6%	27.1%	48.6%	53.6%	86.8%	91.4%
依存	184	83.2%	85.3%	56.5%	81.0%	85.3%	93.5%	92.4%

※赤太字の数値は5%水準で有意差が見られることを示す (χ^2 検定)

ネットゲームに熱中し続ける（やめられない）理由・原因として、表 1.5 に示すそれぞれの項目について、「あてはまる」「あてはまらない」の2択により回答を得た。グラフの数値は、あてはまるに該当した率を示す。

「世界観やストーリーが魅力的なため」「現実とは違う世界を楽しむことができるため」「定期的にイベントが開催されるため」の該当率が最も高く、それぞれ 79.3%、76.0%、75.6%であった。男性は女性よりも、「チームで行動するため、抜けにくい」「やめてしまうと、友人との共通の話題を失うため」への該当率がそれぞれ 23.2%、24.2%と有意に高く、友人との付き合いのためにゲームを継続する傾向が見られた。大学生は高校生よりも課金の影響を受けており、「すでに高額のお金を使っているため」への該当率が 19.0%と有意に高かった。また高校生は大学生よりも、「ネットゲーム以外に楽しみがないため」への該当率が有意に高く、32.9%であった。依存傾向者はすべての項目において非依存者よ

りも有意に高い該当率であった。特に、依存傾向者は「すでに膨大な時間を費やしているため」「すでに高額のお金を使っているため」のような、ゲームへの投資によりゲームから離れられなくなる傾向、「ネットゲーム以外に楽しみがないため」「現実生活で、解決できない問題に直面しているため」のように現実生活側の問題が継続理由になる傾向が示された（表 1.2.2）。

表 1.2.2 ネットゲームの継続理由

	n	現実とは違う世界を楽しむことができるため	世界観やストーリーが魅力的なため	チームで行動するため、抜けにくい	すでに膨大な時間を費やしているため	すでに高額のお金を使っているため	ほしいアイテムやキャラクターが、なかなか入手できないため	
全体	874	76.0%	79.3%	18.0%	45.7%	15.9%	37.8%	
男性	426	73.7%	76.1%	23.2%	47.4%	19.7%	35.4%	
女性	448	78.1%	82.4%	12.9%	44.0%	12.3%	40.0%	
高校生	374	77.0%	81.0%	19.0%	46.0%	11.8%	38.8%	
大学生	500	75.2%	78.0%	17.2%	45.4%	19.0%	37.0%	
非依存	690	72.8%	78.4%	13.8%	38.7%	11.3%	31.0%	
依存	184	88.0%	82.6%	33.7%	71.7%	33.2%	63.0%	
	n	ポイントやステータスがどんどん上がるため	コンテンツがどんどん追加され、終わりがないため	連続ログインによるポイントやアイテムがもらえるため	定期的イベントが開催されるため	やめてしまうと、友人との共通の話題を失うため	ネットゲーム以外に楽しみがないため	現実生活で、解決できない問題に直面しているため
全体	874	60.4%	61.6%	66.8%	75.6%	18.6%	27.5%	18.2%
男性	426	57.3%	59.4%	63.4%	72.8%	24.2%	27.9%	19.0%
女性	448	63.4%	63.6%	70.1%	78.3%	13.4%	27.0%	17.4%
高校生	374	59.6%	59.9%	69.0%	77.3%	20.1%	32.9%	20.6%
大学生	500	61.0%	62.8%	65.2%	74.4%	17.6%	23.4%	16.4%
非依存	690	56.7%	58.0%	62.3%	72.2%	12.5%	20.1%	11.6%
依存	184	74.5%	75.0%	83.7%	88.6%	41.8%	54.9%	42.9%

※赤太字の数値は5%水準で有意差が見られることを示す（ χ^2 検定）

1.3 ネットゲーム利用のリテラシー

ネットゲームの過度の使用に関する教育やレクチャーの受講経験の分布を表 1.3.1 に示す。グラフの数値は、各項目の教育やレクチャーを「受けて役立った」と回答した率であり、その他の割合は「受けたが役立たなかった」と回答した率となる¹⁶。

「過度の使用への注意」は874人中337人が受けており、38.9%が役立ったと回答した。「日頃のストレスに対する、ゲーム以外の対処方法のレクチャー」は229人が受けており、

¹⁶ 教育やレクチャーを「受けたことがない」の回答は欠損値として処理した。

そのうち 40.6%が役立ったと回答した。「過度の利用により生じている具体的な問題の提示」は 212 人が受けており、そのうち 41.7%が役立ったと回答した。「相談窓口の紹介」は 138 人が受けており、31.2%が役立ったと回答した。性別、高校/大学別、依存傾向別には基本的に有意な差は見られなかったが、「日頃のストレスに対する、ゲーム以外の対処方法のレクチャー」については、高校生より大学生が有意に高い割合（48.1%）であった。

表 1.3.1 ネットゲーム利用に関するレクチャー経験

（経験がある回答者のうち、役立った率）

	過度の使用への注意		日頃のストレスに対する、ゲーム以外の対処方法のレクチャー		過度の利用により生じている具体的な問題の提示		相談窓口の紹介	
	n	%	n	%	n	%	n	%
全体	337	38.9%	229	40.6%	216	41.7%	138	31.2%
男性	167	39.5%	123	43.9%	121	43.8%	78	32.1%
女性	170	38.2%	106	36.8%	95	38.9%	60	30.0%
高校生	147	36.7%	98	30.6%	90	40.0%	52	34.6%
大学生	190	40.5%	131	48.1%	126	42.9%	86	29.1%
非依存	222	40.1%	146	41.8%	137	39.4%	84	29.8%
依存	115	36.5%	83	38.6%	79	45.6%	54	33.3%

※赤太字の数値は 5%水準で有意差が見られることを示す（ χ^2 検定）

1.4 利用するネットゲームのジャンル・要素

最近熱中しているネットゲームのジャンルについて、該当率を表 1.4.1 に示す¹⁷。

全体の該当率は、「ロールプレイング/MORPG/MMORPG」が 42.4%、「リズム/音ゲー」が 42.3%と高く、次いで「パズル」が 33.6%、「アクション」が 28.9%、「シミュレーション」が 27.5%、「バトルロイヤル」が 23.2%であった。男女別では、「アクション」「シューティング/FPS/TPS」「トレーディングカード」「スポーツ/レース/MOBA」「バトルロイヤル」は女性よりも男性が有意に高い該当率であり、それぞれ 36.6%、28.2%、13.8%、24.9%、27.7%であった。「シミュレーション」「パズル」「リズム/音ゲー」は男性よりも女性が有意に高い該当率であり、それぞれ 32.8%、42.0%、48.7%であった。高校/大学別では、特に「リズム/音ゲー」「バトルロイヤル」は大学生よりも高校生の該当率が高く、それぞれ 50.3%、29.9%であった。依存傾向別では、「ロールプレイング/MORPG/MMORPG」「パズル」以外のすべてのジャンルにおいて、依存傾向者が有意に高い該当率となった。

¹⁷ 複数回答可（MA）。複合ジャンルや、ジャンルが複数存在する場合には、あてはまるすべてのジャンルを選択するものとしている。

表 1.4.1 熱中しているネットゲームのジャンル

	n	ロールプレイング/MORPG/MMORPG	アクション	シューティング/FPS/TPS	シミュレーション	アドベンチャー/ノベル
全体	874	42.4%	28.9%	19.8%	27.5%	11.1%
男性	426	43.4%	36.6%	28.2%	21.8%	11.7%
女性	448	41.5%	21.7%	11.8%	32.8%	10.5%
高校生	374	40.9%	32.6%	21.7%	29.7%	11.5%
大学生	500	43.6%	26.2%	18.4%	25.8%	10.8%
非依存	690	42.6%	26.2%	18.0%	25.5%	9.3%
依存	184	41.8%	39.1%	26.6%	34.8%	17.9%
	n	パズル	トレーディングカード	リズム/音ゲー	スポーツ/レース/MOBA	バトルロイヤル
全体	874	33.6%	9.6%	42.3%	14.3%	23.2%
男性	426	24.9%	13.8%	35.7%	24.9%	27.7%
女性	448	42.0%	5.6%	48.7%	4.2%	19.0%
高校生	374	35.8%	7.8%	50.3%	12.6%	29.9%
大学生	500	32.0%	11.0%	36.4%	15.6%	18.2%
非依存	690	33.2%	7.7%	40.1%	12.9%	20.7%
依存	184	35.3%	16.8%	50.5%	19.6%	32.6%

※赤太字の数値は5%水準で有意差が見られることを示す (χ^2 検定)

最近ネットゲームをする際に、楽しんでいる要素について、該当率¹⁸を表 1.4.2 に示す。全体の該当率は、「シングルプレイ要素」が 71.3%、「高度なストーリー要素」が 48.5%とゲーム自体のエンターテインメント性が高く該当し、次いで「マルチプレイ要素」「育成・アバター要素」「カード・キャラクター要素」がそれぞれ 39.2%、38.0%と高かった。男女別では、「マルチプレイ要素」「位置情報要素」「ギャンブル要素」「セクシャルな要素」を楽しむ率について、女性より男性が有意に高く、それぞれ 50.7%、8.2%、8.5%、11.0%であった。一方、「シングルプレイ要素」「恋愛要素」「育成・アバター要素」「カード・キャラクター要素」は男性より女性が有意に高く、それぞれ 75.4%、14.1%、43.8%、44.9%であった。高校/大学別では、「マルチプレイ要素」「コミュニケーション要素」「ランキング要素」「育成・アバター要素」といったオンラインコミュニティに関連する要素は大学生より高校生が有意に高く、それぞれ 47.9%、19.5%、25.7%、44.4%であった。依存傾向別には、「シングルプレイ要素」「位置情報要素」「育成・アバター要素」「カード・キャラクター要素」を以外のすべての要素において、依存傾向者が有意に高い該当率であった。課金やコミュニケーションだけでなく、「恋愛要素」「バイオレンス要素」「セクシャルな要素」においていずれも依存傾向者の該当率が 19.0%、11.4%、15.8%と高く、確実に欲求を満たすことができるゲームシステムと依存傾向との結びつきを示唆している。また該当

¹⁸ 複数回答可 (MA)。楽しんでいる要素が複数存在する場合には、あてはまるすべての要素を選択するものとしている。

率は低いものの、「VR 要素」においても依存傾向者の該当率が 7.6%と非依存者に対して有意に高く、長時間使用に向かないと思われる VR ゲームの使用も、依存傾向に結びつく可能性がある。

表 1.4.2 楽しんでいるネットゲームの要素

	n	高度なストーリー要素	シングルプレイ(一人で遊べる)要素	マルチプレイ(協力・対戦など同時参加)要素	課金要素(ガチャ)	コミュニケーション要素(チャット、メッセージなど)	ランキング要素(スコアランキングなど)	VR(ヴァーチャル・リアリティ)要素
全体	874	48.5%	71.3%	39.1%	16.1%	14.5%	20.8%	4.3%
男性	426	46.0%	66.9%	50.7%	17.8%	16.9%	23.0%	5.2%
女性	448	50.9%	75.4%	28.1%	14.5%	12.3%	18.8%	3.6%
高校生	374	51.9%	73.0%	47.9%	15.0%	19.5%	25.7%	5.3%
大学生	500	46.0%	70.0%	32.6%	17.0%	10.8%	17.2%	3.6%
非依存	690	45.8%	72.2%	36.4%	13.5%	11.6%	19.3%	3.5%
依存	184	58.7%	67.9%	49.5%	26.1%	25.5%	26.6%	7.6%
	n	位置情報要素(ポケモンGOなど)	ギャンブル要素(麻雀ゲームなど)	恋愛要素	バイオレンス要素	セクシャルな要素	育成・アバター要素	カード・キャラクター要素
全体	874	6.2%	5.9%	11.7%	7.7%	7.9%	39.2%	38.0%
男性	426	8.2%	8.5%	9.2%	8.7%	11.0%	34.5%	30.8%
女性	448	4.2%	3.6%	14.1%	6.7%	4.9%	43.8%	44.9%
高校生	374	6.1%	7.2%	13.6%	7.5%	7.5%	44.4%	40.4%
大学生	500	6.2%	5.0%	10.2%	7.8%	8.2%	35.4%	36.2%
非依存	690	5.4%	3.6%	9.7%	6.7%	5.8%	39.0%	37.2%
依存	184	9.2%	14.7%	19.0%	11.4%	15.8%	40.2%	40.8%

※赤太字の数値は5%水準で有意差が見られることを示す(χ²検定)

1.5 本章のまとめ：ネットゲーム依存傾向者の現状

本節ではあらためて、ネットゲームの現在熱中者のうち、依存傾向者と非依存者との比較を行いながら、本章のまとめを行う。

端末別のネットゲーム利用時間(利用者平均)について、スマートフォンにおいては依存傾向者が非依存者よりも50分ほど長く、平均およそ1日3時間50分のネットゲーム利用を行っていた。一方で、他の端末では非依存者と有意な差は見られず、ゲームへのアクセス容易性と依存傾向とが結びつく可能性が示唆された(表1.1.1)。

また、依存傾向者はSNSの利用時間が有意に長く、ネットゲームとSNSとの連携、あるいはネットを通じたコミュニケーション全般と、ネットゲームへの依存傾向とが関連しているものと思われる(表1.1.3)。

ネットゲームの利用目的について、依存傾向者は新たな知り合いを作る目的、他のプレイヤーに対する優越感を求める目的、現実逃避的な目的への該当率が特に高く、現実から居心地の良いゲーム上のコミュニティへの逃避といった目的(あるいは欲求)が、依存傾向に結びつく現状が示された(表1.2.1)。また、ネットゲームを継続する理由として、非依存者は、現実生活における困難やつまらなさ、また、現在までのゲームへの投資が莫大

であることへの該当率が特に高く、次いで定期イベントやログインポイント、コンテンツの追加などのゲームシステム上の理由も関連していた。一方で「世界観やストーリーが魅力的」といったゲームコンテンツそのものの魅力は依存傾向とは関連しない可能性が示された（表 1.2.2）。

ネットゲームのジャンルにおいてはロールプレイングとパズルを除くすべてのジャンルにおいて依存傾向者は有意に高い該当率となった（表 1.4.1）、ネットゲームの要素においては、課金やコミュニケーション、マルチプレイに関する要素を楽しむ割合が、非依存者は特に高かった。また非依存者は、恋愛、バイオレンス、セクシャルな要素といった、ゲームによって代替的にある種の欲求を満たすことができる要素に対して高い該当率を示した（表 1.4.2）。

本研究により、同じようにネットゲームに熱中していても、単に熱中しているプレイヤーと、依存傾向にあるプレイヤーとのゲーム利用状況に、大きな違いがあることを確認した。

2. ネットゲーム現在熱中者の利用による影響

本章では、ネットゲームの現在熱中者 (N=874) のネットゲーム利用による生活等への影響を中心に分析を行なう。分析には SPSS Version25 を使用し、平均値の差の検定は t 検定、名義尺度間の差の検定はカイ二乗検定をそれぞれ行った。なお、本章においては、現在ネットゲームに熱中し、なおかつ依存傾向を示している「現在依存傾向者」を「依存傾向者」、現在ネットゲームに熱中しているものの、依存傾向は示していない「現在非依存傾向者」を「非依存者」と呼ぶ。

2.1 ネットゲームへの熱中による経験

表 2.1.1 ネットゲームへの熱中によるネガティブな経験

	n	学校の成績が下がった	学校の成績について、家族や教員に注意された	試験に失敗した	勉強時間が減った	約束事に遅刻したりすっぽかしたりした	親しい友人との交流が減った
全体	874	32.0%	19.7%	18.6%	55.6%	11.9%	10.5%
男性	426	36.2% *	26.8% ***	21.8% *	56.1% n.s	14.8% *	13.6% **
女性	448	28.1%	12.9%	15.6%	55.1%	9.2%	7.6%
高校生	374	40.6% ***	26.5% ***	16.3% n.s	61.8% **	11.2% n.s	11.2% n.s
大学生	500	25.6%	14.6%	20.4%	51.0%	12.4%	10.0%
非依存	690	24.3% ***	13.3% ***	12.9% ***	51.2% ***	7.2% ***	6.2% ***
依存	184	60.9%	43.5%	40.2%	72.3%	29.3%	26.6%
	n	家族との交流が減った	大切な人間関係に問題が生じた	月に1万円以上の課金をした	外出しなくなった	睡眠時間が減った	食事を抜くことが多くなった
全体	874	21.4%	7.6%	15.1%	34.2%	55.7%	11.7%
男性	426	25.8% **	10.8% ***	17.6% *	35.9% n.s	56.8% n.s	14.1% *
女性	448	17.2%	4.5%	12.7%	32.6%	54.7%	9.4%
高校生	374	27.8% ***	7.0% n.s	10.7% **	36.6% n.s	60.2% *	9.6% n.s
大学生	500	16.6%	8.0%	18.4%	32.4%	52.4%	13.2%
非依存	690	15.1% ***	3.5% ***	11.6% ***	29.6% ***	50.1% ***	7.4% ***
依存	184	45.1%	22.8%	28.3%	51.6%	76.6%	27.7%
	n	他の趣味が減った	何日か学校に行かなかった	何度か遅刻をした	身体的健康を損ねて通院・入院した	精神的健康を損ねて通院・入院した	
全体	874	22.7%	9.3%	14.3%	4.1%	3.8%	
男性	426	26.3% *	10.8% n.s	16.4% n.s	6.3% **	4.5% n.s	
女性	448	19.2%	7.8%	12.3%	2.0%	3.1%	
高校生	374	25.4% n.s	10.2% n.s	13.9% n.s	2.9% n.s	2.7% n.s	
大学生	500	20.6%	8.6%	14.6%	5.0%	4.6%	
非依存	690	15.1% ***	5.1% ***	9.1% ***	1.9% ***	2.2% ***	
依存	184	51.1%	25.0%	33.7%	12.5%	9.8%	

※カイ二乗検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n.s 有意差なし

※残差分析 (5%水準) の結果、有意に高いものを黒太字、有意に低いものを赤太字で表示。

表 2.1.1 は、ネットゲームへの熱中によるネガティブな経験を尋ねる設問に関して、「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」の該当率を示したものである¹⁹。全体では、「睡眠時間が減った」の該当率が最も高く（55.7%）、次に「勉強時間が減った」（55.6%）と続いた。性別では、有意差の出たすべての項目で男性の方が女性よりも該当率が高く、特に「学校の成績について家族や教員に注意された」においては男性 26.5%、女性 12.9%と、その差が顕著であった。高校生／大学生別では、「月に 1 万円以上の課金をした」では大学生の方が該当率が高かったものの、他の項目に関しては概ね高校生の方が該当率が高かった。依存傾向別では、全ての項目において依存傾向の方が非依存者よりも統計的に有意に該当率が高く、深刻な内容の「身体的健康を損ねて通院・入院した」では依存傾向者 12.5%、非依存者 1.9%、「精神的健康を損ねて通院・入院した」では依存傾向者 9.8%、非依存者 2.2%と、依存傾向者はそれぞれ約 1 割存在した。

表 2.1.2 ネットゲームへの熱中によるポジティブな経験

	n	毎日の生活が楽しくなった		現実生活での友だちが増えた		家族と過ごす時間が増えた		記憶力が上がった		集中力が上がった		デジタル機器の操作スキルが向上した	
全体	874	82.2%		38.4%		20.6%		23.3%		36.6%		60.5%	
男性	426	79.6%	n. s	45.1%	***	21.1%	n. s	26.1%	n. s	40.4%	*	64.6%	*
女性	448	84.6%		32.1%		20.1%		20.8%		33.0%		56.7%	
高校生	374	82.1%	n. s	42.2%	*	19.5%	n. s	24.6%	n. s	39.8%	n. s	66.3%	**
大学生	500	82.2%		35.6%		21.4%		22.4%		34.2%		56.2%	
非依存	690	80.1%	**	34.5%	***	18.3%	**	20.7%	***	34.5%	*	55.9%	***
依存	184	89.7%		53.3%		29.3%		33.2%		44.6%		77.7%	
	n	表現力や創造性が増した		コミュニケーション能力が向上した		反射神経が向上した		協調性が増した		忍耐力が増した			
全体	874	47.0%		29.4%		41.3%		31.0%		43.0%			
男性	426	45.1%	n. s	33.6%	**	47.2%	**	36.4%	**	49.5%	***		
女性	448	48.9%		25.4%		35.7%		25.9%		36.8%			
高校生	374	52.9%	**	33.7%	*	44.9%	n. s	33.7%	n. s	43.9%	n. s		
大学生	500	42.6%		26.2%		38.6%		29.0%		42.4%			
非依存	690	45.1%	*	25.4%	***	38.7%	**	26.4%	***	40.1%	**		
依存	184	54.3%		44.6%		51.1%		48.4%		53.8%			

※カイ二乗検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n. s 有意差なし

※残差分析（5%水準）の結果、有意に高いものを黒太字、有意に低いものを赤太字で表示。

次に、ネットゲームに熱中していることによるポジティブな経験を尋ねる設問に関して、

¹⁹ 4 件法で回答を得たが、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を 1 点、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を 0 点とする変数に変換して分析を行った。

「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」の該当率を示したのが表 2.1.2 である²⁰。全体では、「毎日の生活が楽しくなった」が 82.2%と最も該当率が高く、次に「デジタル機器の操作スキルが向上した」の該当率が 60.5%と高かった。性別では、概ね男性の方が女性よりも該当率が高く、ネガティブな経験とあわせて、男性の方がネットゲームへの熱中により様々な影響を受けていると考えられる。高校生／大学生別では、有意差の出たすべての項目で高校生の方が大学生よりも該当率が高く、特に「デジタル機器の操作スキル」、「表現力や創造性」「コミュニケーション能力」といった能力に関する面で向上を感じている様子がかがえた。依存傾向別では、全ての項目において依存傾向の方が非依存者よりも有意に該当率が高く、特に「デジタル機器の操作スキルが向上した」では依存傾向者 77.7%、非依存者 55.9%と、差が顕著であった。

2.2 ネットゲーム内における行動

表 2.2.1 は、ネットゲーム内での行動に関して、対象者が「ほぼ毎日」行なっている比率を示したものである²¹。

表 2.2.1 ネットゲーム内における行動

	n	チャット機能で顔見知りと話す		チャット機能で、会ったことのない相手と話す		ボイスチャット機能で顔見知りと話す		ボイスチャット機能で、会ったことのない相手と話す		ゲーム上で知り合いと待ち合わせする		ヘッドマウントディスプレイでゲームする	
		7.3%	*	7.6%	*	5.8%	n.s	4.0%	n.s	4.0%	n.s	2.6%	
全体	874	7.3%	*	7.6%	*	5.8%	n.s	4.0%	n.s	4.0%	n.s	2.6%	
男性	426	9.2%	*	9.6%	*	7.0%	n.s	4.7%	n.s	4.7%	n.s	3.8%	*
女性	448	5.6%		5.6%		4.7%		3.3%		3.3%		1.6%	
高校生	374	8.8%	n.s	10.2%	*	6.1%	n.s	4.8%	n.s	5.1%	n.s	3.7%	n.s
大学生	500	6.2%		5.6%		5.6%		3.4%		3.2%		1.8%	
非依存	690	5.1%	***	5.7%	***	3.9%	***	2.2%	***	2.0%	***	1.7%	**
依存	184	15.8%		14.7%		13.0%		10.9%		11.4%		6.0%	

※カイ二乗検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n.s 有意差なし

※残差分析（5%水準）の結果、有意に高いものを黒太字、有意に低いものを赤太字で表示。

全体で最も該当率が高いのは「チャット機能で、会ったことのない相手と話す」（7.6%）であったが、これを含め、全ての項目で該当率は1割にも満たなかった。性別では、有意差の出たすべての項目で男性の方が該当率が高かった。高校生／大学生別では「チャット

²⁰ 4件法で回答を得たが、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を1点、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を0点とする変数に変換して分析を行った。

²¹ 「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回以上」、「まったくしない」で回答を得たが、「ほぼ毎日」を1点、それ以外を0点とする変数に変換して分析を行った。

機能で、会ったことのない相手と話す」のみ有意差が見られ、高校生が 10.2%、大学生が 5.6%と、高校生の方が該当率が高かった。依存傾向別では、全ての項目において依存傾向者の方が非依存者よりも有意に該当率が高く、特に「チャット機能で顔見知りと話す」、「チャット機能で、会ったことのない相手を話す」といったチャット機能を使用した行動の該当率が高いことが示された。また、全ての項目において、依存傾向者の該当率は全体の該当率の 2 倍以上であった。

2.3 日常生活における行動

ネットゲームとは関係のない、日常生活における行動について、「あてはまる」の該当率を示したのが表 2.3.1 である²²。全体で最も該当率が高いのが「テレビをよく見る」(57.0%)、次いで「部活やサークルなどのグループ活動を行っている」(51.5%)の該当率が高かった。性別では「部活やサークルなどのグループ活動を行っている」、「塾に通っている」において男性の方が女性よりも有意に該当率が高かった。高校生／大学生別では、「塾に通っている」は高校生が、「アルバイトをしている」、「恋人(カレシ・カノジョ)とよく会う」は大学生が有意に該当率が高かった。依存傾向別では、有意差がみられたのは「塾に通っている」、「ボランティア活動をしている」2 項目のみで、それぞれ依存傾向者の方が有意に該当率が高いことが示された。

表 2.3.1 日常生活における行動

	n	部活やサークルなどのグループ活動を行っている	塾に通っている	恋人(カレシ・カノジョ)とよく会う	ボランティア活動をしている	テレビをよく見る	読書をよくする	アルバイトをしている					
全体	874	51.5%	11.9%	18.2%	14.2%	57.0%	39.1%	48.2%					
男性	426	55.4% *	16.0% ***	18.3%	n.s	56.8%	n.s	38.0%	n.s				
女性	448	47.8%	8.0%	18.1%	13.6%	57.1%	40.2%	49.6%					
高校生	374	54.8%	n.s	19.3% ***	10.4% ***	12.0%	n.s	56.7%	n.s	40.9%	n.s	23.8% ***	
大学生	500	49.0%	6.4%	24.0%	15.8%	57.2%	37.8%	66.4%					
非依存	690	50.4%	n.s	9.1% ***	17.7%	n.s	12.8% *	55.5%	n.s	40.0%	n.s	47.7%	n.s
依存	184	55.4%	22.3%	20.1%	19.6%	62.5%	35.9%	50.0%					

※カイ二乗検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n.s 有意差なし

※残差分析(5%水準)の結果、有意に高いものを黒太字、有意に低いものを赤太字で表示。

2.4 心理傾向

対人関係や生活における満足度について、「あてはまる」、「ややあてはまる」に該当し

²² 「あてはまる」、「あてはまらない」の 2 件法で、複数回答可で回答を求めている。

た比率を示したのが表 2.4.1 である²³。全体では、家族関係の満足度が 79.4%と最も該当率が高く、また、友人関係及び日常生活の満足度においてもそれぞれ 7 割を超えていた。性別では、全ての項目で有意差は見られなかった。高校生／大学生別では、友人関係、日常生活、学校生活それぞれの満足度において大学生の方が有意に該当率が高かった。依存傾向別では、友人関係、家族関係、日常生活、学校生活のいずれの満足度においても非依存者の方が依存傾向者よりも該当率が高かった。すなわち、依存傾向者は、対人関係や生活において満たされていないと感じている割合が高いといえる。

表 2.4.1 対人生活満足度

	n	友人関係に満足している		家族との関係に満足している		日常生活に満足している		学校生活に満足している	
全体	874	78.4%		79.4%		70.3%		64.8%	
男性	426	78.6%	n. s	78.4%	n. s	73.0%	n. s	66.7%	n. s
女性	448	78.1%		80.4%		67.6%		62.9%	
高校生	374	74.1%	**	77.0%	n. s	65.0%	**	59.9%	**
大学生	500	81.6%		81.2%		74.2%		68.4%	
非依存	690	80.6%	**	82.0%	***	73.3%	***	68.6%	***
依存	184	70.1%		69.6%		58.7%		50.5%	

※カイ二乗検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n. s 有意差なし

※残差分析（5%水準）の結果、有意に高いものを黒太字、有意に低いものを赤太字で表示。

表 2.4.2 は、各種心理尺度について、属性別に示したものである。なお、心理尺度の質問項目、算出方法等の詳細は「0.6 心理変数について」を参照されたい²⁴。表に示した通り、男性は女性よりも社交性、攻撃性、自己肯定感が高く、女性は男性よりも抑うつ、ソーシャルサポート、共感性が高かった。高校生は大学生よりも抑うつ、攻撃性、セルフコントロールが高く、大学生は高校生よりも自己肯定感が高かった。依存傾向者は非依存者よりも抑うつ、孤独感、攻撃性、セルフコントロールが高く、自己肯定感が低かった。また、これらの依存傾向者のポイントは、全体平均と比べても顕著に高い（自己肯定感のみ顕著に低い）傾向がみられた。

²³ 4 件法で回答を得たが、「あてはまる」「ややあてはまる」を 1 点、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を 0 点とする変数に変換して分析を行った。

²⁴ 「抑うつ」、「孤独感」、「自己肯定感」については、 α 係数のより高い、反転項目を除いた合成変数を使用した。

表 2.4.2 心理傾向

	n	抑うつ		孤独感		社交性		ソーシャルサポート
全体	874	2.462		2.135		2.419		2.758
男性	426	2.277 ***		2.108 n. s		2.585 ***		2.671 **
女性	448	2.638		2.161		2.262		2.842
高校生	374	2.574 **		2.143 n. s		2.413 n. s		2.711 n. s
大学生	500	2.378		2.129		2.424		2.794
非依存	690	2.350 ***		2.032 ***		2.404 n. s		2.761 n. s
依存	184	2.880		2.520		2.477		2.747
	n	攻撃性		共感性		セルフコントロール		自己肯定感
全体	874	1.905		2.774		2.430		2.333
男性	426	1.968 *		2.684 ***		2.425 n. s		2.461 ***
女性	448	1.845		2.859		2.434		2.211
高校生	374	1.976 *		2.781 n. s		2.514 **		2.213 ***
大学生	500	1.852		2.768		2.367		2.423
非依存	690	1.783 ***		2.758 n. s		2.311 ***		2.431 ***
依存	184	2.364		2.833		2.874		1.964

※t 検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n. s 有意差なし

2.5 本章のまとめ：ネットゲーム依存傾向者の特徴

ここでは、ネットゲームの熱中者（非依存者）と依存傾向者を改めて比較しながら、依存傾向者の特徴をまとめたい。

ネットゲームへの熱中による経験として、まず、ネガティブな経験については全ての項目において依存傾向者は有意に該当率が高く、「身体的健康を損ねて通院・入院した」、「精神的健康を損ねて通院・入院した」といった深刻な内容に関しても約1割が経験していた（表 2.1.1）。また、ポジティブな経験についても、全ての項目において依存傾向者は有意に該当率が高かった（表 2.1.2）。依存傾向者はネットゲームの使用により、ネガティブな影響だけではなく、ポジティブな影響も受けていることが示された。

ネットゲーム内で「ほぼ毎日」する行動に関して、依存傾向者は全ての項目において該当率が高く、全体の該当率の2倍以上であった。特にチャット機能を使用した会話を行っている比率が高いことが示された（表 2.2.1）。

日常行動における行動としては、依存傾向者は「塾に通っている」、「ボランティア活動をしている」の該当率が高かった（表 2.3.1）。特に「塾に通っている」に関しては、依存傾向者が日常生活、学校生活の満足度が低かったこととの関連が考えられ（表 2.4.1）、満たされない気持ちがネットゲームへの依存に関係したとも推測できる。また、依存傾向者は友人関係や家族関係においても満足度が低かった（表 2.4.2）。

心理傾向については、依存傾向者は抑うつ、孤独感、攻撃性、セルフコントロールが高く、自己肯定感が低い特徴がみられた。

3. 依存脱却者のプロフィール

3.0 「依存脱却者」の定義

この章では、今回の調査で「依存脱却者」と判断された 127 名に関する分析結果を報告する。今回の調査における「依存脱却者」の条件は下記の通りである。

「過去(3 年程度前から最近まで)に」ネットゲームに熱中し、かつその当時、Lemmens, Valkenburg and Gentile (2015) により作成された 9 項目版のインターネットゲーミング依存尺度(0.3 参照)により「ゲーム依存傾向者」と判断される調査対象者 153 名のうち、現在は依存状況を脱した（現在の依存尺度で依存傾向者でない人）127 名

今回の調査の「依存脱却者」の人口統計学的属性は次の通りである。

- ・高校生 36.2%、大学生 63.8%
- ・男性 44.1%、女性 55.9%
- ・世帯年収(回答した 95 名中の内訳)
 - 200 万未満 14.5%、200～400 万未満 9.5%、400～600 万未満 9.5%、
 - 600～1000 万未満 5.3%、1000 万超 6.3%、わからない 54.7%

3.1 当時のネットゲーム利用動機

表 3.1.1 依存状況時のネットゲーム利用動機(回答比率を降順に整序)

気分転換のため	87.4%
ひまつぶしのため	85.0%
ネットゲーム内の課題を達成することがうれしいから	74.0%
ネットゲーム内の絵や映像・音楽が好きだから	68.5%
ストレスや苦痛から逃れるため	61.4%
日々の悩みや不安を忘れるため	56.7%
ネットゲームで相手を打ち負かすことが楽しいから	46.5%
さみしい気持ちをやわらげるため	37.0%
現実の友人とネットゲーム上で遊ぶため	33.9%
ネットゲーム上の仲間とのコミュニケーションのため	27.6%
うまく操作して他のプレイヤーから尊敬されるため	16.5%
新たな友達や知り合いをつくるため	16.5%
他のプレイヤーから得ている良い評価を維持するため	12.6%

依存脱却者が最もネットゲームに熱中していた時期のゲーム利用動機は表 3.1.1 の通りである。「気分転換」「ひまつぶし」といった消極的理由が最も比率が高く、「ストレスから

の逃れるため」「日々の悩みや不安を忘れるため」といった逃避的利用も比率が高い。

「尊敬されるため」や「他のプレイヤーからのよい評価を維持するため」といった承認欲求的利用は、その回答比率はさほど高くない。

3.2 ゲームに熱中し続けた理由

依存脱却者が最もネットゲームに熱中していた時期に、熱中した理由を尋ねた結果が表 3.2.1 である。

表 3.2.1 依存状況時にネットゲームに熱中し続けた理由（回答比率を降順に整序）

世界観やストーリーが魅力的なため	68.5%
現実とは違う世界を楽しむことができるため	64.6%
定期的にイベントが開催されるため	63.0%
ポイントやステータスがどんどん上がるため	60.6%
連続ログインによるポイントやアイテムがもらえるため	60.6%
コンテンツがどんどん追加され、終わりが無いため	52.8%
すでに膨大な時間を費やしているため	50.4%
ほしいアイテムやキャラクターが、なかなか入手できないため	40.9%
ネットゲーム以外に楽しみがないため	32.3%
現実生活で、解決できない問題に直面しているため	20.5%
やめてしまうと、友人との共通の話題を失うため	19.7%
チームで行動するため、抜けにくい	16.5%
すでに高額のお金を使っているため	15.7%

回答比率が高かったのは、「世界観やストーリーが魅力的なため」「現実とは違う世界を楽しむことができるため」というゲーム的世界を享受する理由であった。他に「イベント開催」や「ポイントやステータスが上がるため」「アイテムがもらえる」等の外在的理由・報奨的理由も高比率を示している。

これまでよく理由として挙げられてきた「チームで行動するため、抜けにくい」はさほど比率が高くなかった。

3.3 依存状況時の経験

(1) ネガティブな経験

依存脱却者が最もネットゲームに熱中していた時期のネガティブな経験を尋ねた結果が表 3.3.1 である。

表 3.3.1 依存状況時のネガティブな経験（回答比率を降順に整序）

勉強時間が減った	74.0%
睡眠時間が減った	64.6%
学校の成績が下がった	43.3%
外出しなくなった	40.9%
他の趣味が減った	39.4%
家族との交流が減った	29.1%
学校の成績について、家族や教員に注意された	26.8%
試験に失敗した	22.0%
約束事に遅刻したりすっぽかしたりした	17.3%
何日か学校に行かなかった	16.5%
何度か遅刻をした	16.5%
親しい友人との交流が減った	12.6%
月に1万円以上の課金をした	12.6%
食事を抜くことが多くなった	11.8%
大切な人間関係に問題が生じた	10.2%
精神的健康を損ねて通院・入院した	6.3%
身体的健康を損ねて通院・入院した	4.7%

回答で最も多かったのは勉強時間や睡眠の減少である。また、成績低下や「外出しなくなった」「家族との交流が減った」も回答比率が高い。

かなり深刻なものとして、「学校に行かなかった」や「遅刻」は16%程度と比較的少なく、「精神的健康を損ねて通院・入院」は6.3%にとどまる。

(2) ポジティブな経験

依存脱却者が最もネットゲームに熱中していた時期のポジティブな経験を尋ねた結果が表 3.3.2 である。

ネットゲーム熱中時のポジティブな経験として「毎日の生活が楽になった」と答えた人が72.4%いる。その他「デジタル機器の操作スキルの向上」「反射神経の向上」なども比率が高い。

表 3.3.2 依存状況時のポジティブな経験（回答比率を降順に整序）

毎日の生活が楽しくなった	72.4%
デジタル機器の操作スキルが向上した	54.3%
反射神経が向上した	41.7%
表現力や創造性が増した	32.3%
忍耐力が増した	31.5%
集中力が上がった	30.7%
現実生活での友だちが増えた	24.4%
協調性が増した	23.6%
コミュニケーション能力が向上した	16.5%
記憶力が上がった	15.0%
家族と過ごす時間が増えた	13.4%

3.4 依存状況時に受けた教育やレクチャーとそれらが役立った比率

表 3.4.1 依存状況時に受けた教育やレクチャーと役立ち度（「役立った率」で降順に整序）

	受けた人の比率	N	受けた人中で役立った人の比率
過度の利用により生じている具体的な問題の提示	34.6%	44	45.5%
日頃のストレスに対する、ゲーム以外の対処方法のレクチャー	35.4%	45	37.8%
過度の使用への注意	53.5%	68	36.8%
相談窓口の紹介	18.9%	24	16.7%

依存状況時にどのような教育やレクチャーを受けたのか、それらは役に立ったのかを示したのが表 3.4.1 である。

受けた人の率(母数は依存脱却者の 127 人)は「過度の使用への注意」が 53.5%と最も高い。しかし、教育・レクチャーを受けた人を母数として、「役に立った人」の比率を示すと、「過度の利用により生じている具体的な問題の提示」「日頃のストレスに対するゲーム以外の対処方法のレクチャー」の方が比率が高く、「過度の使用への注意」を受けた人で役に立ったと答えた人は 36.8%に過ぎなかった。

3.5 依存状況時に依存脱却のために行なった行動とそれらが役立った比率

表 3.5.1 依存状況時に依存脱却のために行なった行動と役立ち度（「役立った率」で降順に整序）

	行なった人の比率	N	行なった人の中で役立った人の比率
コンサート、演劇、芸能の観覧へ行く	28.3%	36	66.7%
友人や家族と対面で話す	43.3%	55	63.6%
屋外で運動をする（散歩、スポーツなど）	34.6%	44	63.6%
歌う（カラオケ、鼻歌など）	42.5%	54	63.0%
屋内で体操をする（ストレッチ、ヨガなど）	27.6%	35	60.0%
アウトドアのレジャー活動をする	23.6%	30	60.0%
ネット動画を見る	56.7%	72	59.7%
音楽やラジオを聞く	56.7%	72	59.7%
旅行する	33.9%	43	58.1%
飲食する（アルコールを除く）	41.7%	53	56.6%
テレビやビデオ、DVDなどを見る	48.0%	61	55.7%
映画館に出かける	37.8%	48	54.2%
スポーツを観に行く	18.9%	24	54.2%
外食する	41.7%	53	52.8%
読書する（小説、文学、マンガ、雑誌など）	43.3%	55	52.7%
ショッピングに出かける	44.9%	57	52.6%
ネットで情報収集する（ニュース、SNS、ブログ、まとめサイトなど）	39.4%	50	52.0%
友人や家族とネットで会話する	25.2%	32	50.0%
オフラインゲームをする	33.1%	42	50.0%
SNSやブログに投稿する	34.6%	44	43.2%

依存脱却者が脱却のために行なった行動を尋ねた結果が表 3.5.1 である。

行なった比率としては「ネット動画を見る」「音楽やラジオを聞く」「テレビやビデオ、DVD などを見る」などが多く 50%前後に達している。しかし、実際に行なった人を母数として役立った比率を見れば、「コンサート、演劇、芸能の観覧へ行く」「友人や家族と対面で話す」「屋外で運動をする（散歩、スポーツなど）」などの比率が高い。やはり、受動的に他の娯楽に時間を振り分けようとするより、積極的な行動の方が脱却には役に立つようである。

3.6 依存状況時に依存脱却のために行なった努力とそれらが役立った比率

表 3.6.1 依存状況時に依存脱却のために行なった努力と役立ち度（「役立った率」で降順に整序）

	行なった人の比率	N	行なった人の中で役立った人の比率
一人で行う、ほかの趣味をはじめた	37.0%	47	74.5%
グループで行う、ほかの趣味をはじめた	16.5%	21	71.4%
新たな生活環境に身を置いた	27.6%	35	65.7%
新たな生活目標を探した	28.3%	36	63.9%
運動した	30.7%	39	61.5%
新しい友人関係を作った	22.0%	28	60.7%
利用料金に制限をもうけた	19.7%	25	60.0%
積極的に外出した	29.1%	37	56.8%
ネットゲームの過度な利用の悪影響について学んだ	26.8%	34	52.9%
夜は利用しないなど、時間帯に制限をもうけた	41.7%	53	50.9%
利用時間に制限をもうけた	40.9%	52	48.1%
家族や友人に協力を求めた	18.9%	24	45.8%
寝室で利用しないなど、利用場所に制限をもうけた	26.0%	33	45.5%
専門家(医師やカウンセラー)に相談した	12.6%	16	43.8%
家族や友人と約束した	33.1%	42	42.9%
ネットゲームの利用時間を記録した	18.9%	24	33.3%

依存脱却者が脱却のために行なった、さらに一步踏み込んだ努力を尋ねた結果が表 3.6.1 である。

実際に行なった努力としては、「夜は利用しないなど、時間帯に制限をもうけた」「利用時間に制限をもうけた」が 40%を超えている。しかし、実際に行なって役に立った努力としては、「一人で行う、ほかの趣味をはじめた」「グループで行う、ほかの趣味をはじめた」など、他の趣味を始めることが効果的であり、また「新たな生活目標を探した」も有効であるようだ。

3.7 依存状況時に依存脱却のために家族が行なったこととそれらが役立った比率

依存脱却者に、脱却のため家族が行ったこととその役立ち度を示したのが表 3.7.1 である。

表に示されるとおり、実際に家族が行ったこととしては「家族に注意を受けた」「家族が

あなたの利用時間に制限をもうけた」が比較的高い比率を示した。一方で、実際に役立ったこととしては「家族があなたの利用料金に制限をもうけた」が最も比率が高く、ついで「家族があなたの生活環境を変えた」の比率が高かった。

表 3.7.1 依存状況時に依存脱却のために家族が行なったことと役立ち度（「役立った率」で降順に整序）

	あった人の比率	N	あった人の中で役立った人の比率
家族があなたの利用料金に制限をもうけた	16.5%	21	66.7%
家族があなたの生活環境を変えた	15.7%	20	60.0%
家族があなたを医療機関に連れて行った	13.4%	17	47.1%
家族に注意を受けた	43.3%	55	43.6%
家族にネットゲームの環境を取り上げられた	22.0%	28	39.3%
家族があなたの利用時間に制限をもうけた	36.2%	46	34.8%
他の人の経験談を聞かされた	18.9%	24	33.3%

3.8 依存状況時にネットゲームへの熱中の度合いが減った背景

表 3.8.1 依存状況時にネットゲームへの熱中の度合いが減った背景（回答比率を降順に整序）

学業の環境が変わった(進学など)	52.0%
一人で過ごす時間が大きく増えた(自分の部屋ができた、一人暮らしなど)	38.6%
一人で過ごす時間が大きく減った(グループ活動、集団生活など)	26.0%
人間関係がとても良くなった	22.8%
家庭の環境が変わった(引っ越しなど)	20.5%
規則正しい生活をするようになった	19.7%
深刻な問題や大きなストレスが解消した	16.5%
金銭的な状況が大きく好転した	11.8%
ネット上で大きなストレスが生じた	11.0%
ペットの世話をするようになった	10.2%
金銭的な状況が大きく悪化した	9.4%
家族がゲームのことをよく理解するようになった	9.4%
ネット上の人間関係がとても悪くなった	8.7%

依存脱却者に、依存状況時にネットゲームへの熱中度が減少した背景を質問した結果が表 3.8.1 である。

表に示されるとおり「学業の環境が変わった（進学など）」が最も高比率であり、ついで「一人で過ごす時間が大きく増えた（自分の部屋ができた、一人暮らしなど）」が続く。「一人で過ごす時間」が増えることが、熱中度の低減につながりうる一方で、それが減少することも熱中度の低減と関係するのは興味深い現象である。

3.9 依存状況時に熱中していたネットゲームの種類や特徴

表 3.9.1 依存状況時に熱中していたネットゲームの種類（回答比率を降順に整序）

パズル(ディズニーツムツムなど)	35.4%
ロールプレイング/MORPG/MMORPG(PSO2、FF14、Fate/Grand Orderなど)	26.8%
リズム/音ゲー(太鼓の達人プラスなど)	22.8%
シューティング/FPS/TPS(CoD、オーバーウォッチなど)	21.3%
アクション(ストリートファイター、モンスターハンターなど)	17.3%
シミュレーション(艦隊これくしょんなど)	15.0%
バトルロイヤル(PUBG、フォートナイトなど)	14.2%
上記にあてはまるものはない・わからない	13.4%
スポーツ/レース/MOBA(ウイニングイレブン、リッジレーサー、League of Legendsなど)	8.7%
アドベンチャー/ノベル(逆転裁判など)	6.3%
トレーディングカード(遊戯王デュエルリンクス、シャドウバースなど)	3.9%

依存脱却者に、依存状況時に熱中していたネットゲームの種類を尋ねた結果を示したのが表 3.9.1 である。最も比率が高かったのが「パズル」、以下「ロールプレイング」「リズム/音ゲー」「シューティング」が続く。

ちなみに調査では、依存状況時にもっとも熱中していたゲームの名称も質問した。回答は多岐にわたったが、比較的多くの回答を集めたのが「ツムツム(14人)」「パズドラ(13)」「荒野行動(7)」「とびだせどうぶつの森(6)」などであった。

また、依存状況時に楽しんでいたゲーム要素について質問した結果を示したのが表 3.9.2 である。

「シングルプレイ要素」が最も高比率であったが、「ストーリー要素」「マルチプレイ要素」「カード・キャラクター要素」も比較的高い回答比率を示した。一方、バイオレンス要素やセクシュアル要素の回答比率は低かった。

表 3.9.2 依存状況時に楽しんでいたゲームの要素(回答比率を降順に整序)

シングルプレイ(一人で遊べる)要素	55.1%
高度なストーリー要素	29.1%
マルチプレイ(協力・対戦など同時参加)要素	29.1%
カード・キャラクター要素	29.1%
育成・アバター要素	26.0%
ランキング要素(スコアランキングなど)	21.3%
上記にあてはまるものはない・わからない	12.6%
コミュニケーション要素(チャット、メッセージなど)	10.2%
課金要素(ガチャ)	7.9%
VR(ヴァーチャル・リアリティ)要素	4.7%
恋愛要素	3.9%
ギャンブル要素(麻雀ゲームなど)	3.1%
位置情報要素(ポケモンGOなど)	2.4%
バイオレンス要素	2.4%
セクシャルな要素	1.6%

さらに依存状況時に楽しんでいたゲーム内での行動の有無を尋ねた結果を示したのが表 3.9.3 である。

「チャット機能で、会ったことのない相手と話す」「チャット機能で顔見知りと話す」など、チャット機能を使った会話をを行ったことのある人(経験のある人)の比率が 20%から 30%存在した。

表 3.9.3 依存状況時に楽しんでいたゲーム内での行動 (回答比率を降順に整序)

チャット機能で、会ったことのない相手と話す	30.7%
チャット機能で顔見知りと話す	23.6%
ボイスチャット機能で顔見知りと話す	22.8%
ゲーム上で知り合いと待ち合わせする	21.3%
ボイスチャット機能で、会ったことのない相手と話す	15.0%
ヘッドマウントディスプレイでゲームする	7.9%

3.10 脱却者の心理傾向

脱却者(N=127)とそれ以外の調査対象者(N=1522)について各種心理傾向を比較したものが表 3.10.1 である(心理傾向および数値化に関しては 0.6 参照)。

表 3.10.1 脱却者とそれ以外の心理傾向の比較(t 検定結果)

	脱却者	それ以外	
対人生活満足	2.69	2.96	***
抑うつ	2.56	2.41	*
孤独感	2.29	2.12	**
社交性	2.47	2.45	ns
ソーシャルサポート	2.62	2.81	**
攻撃性	1.94	1.88	ns
共感性	2.72	2.80	ns
セルフコントロール	2.49	2.46	ns
自己肯定感	2.32	2.44	ns
N	127	1522	

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

表に見られるとおり、脱却者はそれ以外の調査対象者に比べ、「対人・生活満足度」が低く、「抑うつ性」や「孤独感」が高く、「ソーシャルサポート」が低かった。結局、脱却しても、通常の依存傾向者の心理傾向を引きずっていると言えよう。

単純集計(事前調査)

sq1	あなたの現在のご所属(学生の場合は学年)をお答えください。※ご自身が所属している主要なものについてお答えください。	
	単一回答	%
1	中学1年生	0.0
2	中学2年生	0.0
3	中学3年生	0.0
4	高校1年生	11.6
5	高校2年生	14.4
6	高校3年生	14.6
7	大学1年生	14.6
8	大学2年生	14.7
9	大学3年生	14.9
10	大学4年生	15.3
11	社会人	0.0
12	無職	0.0
13	その他	0.0
	全体(N)	1649

sq2	あなたは、ネットゲーム(ゲームアプリを含む)に熱中した(はまった)ことはありますか。あてはまるものを1つお選びください。	
	単一回答	%
1	熱中したことはない	0.0
2	過去に熱中していたが、現在は熱中していない	47.0
3	現在熱中している	53.0
	全体(N)	1649

sq3	あなたは、いつ頃までネットゲーム(ゲームアプリを含む)に熱中していましたか。もっとも近い時期について、あてはまるものを1つお選びください。	
	単一回答	%
1	最近まで	16.1
2	半年くらい前まで	25.7
3	1年くらい前まで	23.0
4	2年くらい前まで	21.7
5	3年くらい前まで	13.5
6	4～5年くらい前まで	0.0
7	5年以上前	0.0
	全体(N)	775

sq4	あなたが、ネットゲーム(ゲームアプリを含む)に熱中していた期間はどのくらいですか。現在、熱中している方は、現在までの期間をお答えください。過去に熱中していた方は、前問でお答え頂いた時期について、熱中していた期間をお答えください。	
	単一回答	%
1	3ヶ月間未満	0.0
2	3ヶ月間から半年間未満	19.7
3	半年間から1年間未満	18.8
4	1年間から2年間未満	23.2
5	2年間から3年間未満	11.6
6	3年以上	26.7
	全体(N)	1649

SQ5	以下の項目について、あてはまるものをお答えください。※ご自身が利用した時間についてお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6	7	8
			平日は利用しない	1分以上～30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上～4時間未満	4時間以上～5時間未満	5時間以上
1	最近のあなたの、ご自宅での平日1日の平均的な、ネットゲーム(ゲームアプリを含む)の利用時間について、あてはまるものを選択してください。(1つ選択)	874	0.0	0.0	0.0	35.1	27.1	16.5	7.1	14.2
2	ネットゲーム(ゲームアプリを含む)に熱中していた、【SQ3の選択内容】の時期のあなたの、ご自宅での平日1日の平均的な、ネットゲームの利用時間について、あてはまるものを選択してください。(1つ選択)	775	0.0	0.0	0.0	42.5	27.9	17.7	5.7	6.3

SQ6 省略

SQ7	ネットゲーム(ゲームアプリを含む)のプライベートな利用について、ネットゲームに熱中していた【SQ3の選択内容】の時期のあなたには、次のことがあてはまりましたか。それぞれ1つずつ選択してください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	ネットゲームのことばかり考えている時間があった	775	45.4	54.6
2	もっとネットゲームをしないと気がすまないと感じることがあった	775	41.7	58.3
3	ネットゲームをしないと気分が落ち込むことがあった	775	22.6	77.4
4	他の人からネットゲームを少し控えるように言われても、やめられないことがあった	775	32.4	67.6
5	わずらわしいことを考えるのが嫌で、ネットゲームをすることがあった	775	44.1	55.9
6	ネットゲームばかりすることの影響について、人と言いつい争いをすることがあった	775	10.6	89.4
7	ネットゲームをしている時間を、人に知られないようにごまかしたことがあった	775	28.0	72.0
8	ネットゲームで満足しているため、ほかの趣味や活動への興味を失ったことがあった	775	33.4	66.6
9	ネットゲームをしすぎることで、家族や友人、パートナーと、深刻ないさかいを起こしたことがあった	775	8.9	91.1

単純集計(本調査)

Q1	あなたの性別をお選びください。 単一回答	%
1	男性	46.7
2	女性	53.3
	全体(N)	1649

Q2	あなたの年齢をお答えください。	18.6歳
-----------	------------------------	-------

Q3	お住まいの都道府県をお選びください。 単一回答	%	%	%		
	北海道	3.1	石川県	0.8	岡山県	1.4
	青森県	0.7	福井県	0.5	広島県	2.7
	岩手県	0.7	山梨県	0.7	山口県	1.0
	宮城県	2.2	長野県	1.3	徳島県	0.2
	秋田県	0.6	岐阜県	1.3	香川県	0.4
	山形県	1.1	静岡県	1.8	愛媛県	0.9
	福島県	1.3	愛知県	6.7	高知県	0.7
	茨城県	1.9	三重県	1.3	福岡県	3.4
	栃木県	1.0	滋賀県	1.6	佐賀県	0.2
	群馬県	1.1	京都府	3.5	長崎県	0.7
	埼玉県	5.5	大阪府	8.1	熊本県	1.2
	千葉県	5.0	兵庫県	4.5	大分県	0.4
	東京都	13.9	奈良県	1.2	宮崎県	0.7
	神奈川県	9.2	和歌山県	1.2	鹿児島県	0.6
	新潟県	1.7	鳥取県	0.4	沖縄県	0.5
	富山県	0.7	島根県	0.4	全体(N)	1649

Q4	あなたはふだん、次の端末でネットゲーム(ゲームアプリを含む)をどのくらい利用していますか。 ふだんの平日、一日の平均的な利用時間をお答えください。 利用していない場合は「0時間、0分」と記入してください。	N=874
1	家庭用据え置きゲーム機(Nintendo Switch、PlayStation 4など)でネットゲームをする時間	44.1分
2	家庭用携帯ゲーム機(ニンテンドー3DS、PlayStation Vitaなど)でネットゲームをする時間	21.1分
3	パソコンでネットゲームをする時間	33.1分
4	スマートフォンでネットゲームをする時間	186.3分
5	その他の機器でネットゲームをする時間	9.3分

Q5	あなたはふだん、次の端末でネットゲームをどのくらい利用していますか。 現在および、もっとも熱中していた【【SC3の選択内容】】の、ふだんの平日、一日の平均的な利用時間をお答えください。 利用していない場合は「0時間、0分」と記入してください。	N=775
現在		
1	家庭用据え置きゲーム機(Nintendo Switch、PlayStation 4など)でネットゲームをする時間	18.7分
2	家庭用携帯ゲーム機(ニンテンドー3DS、PlayStation Vitaなど)でネットゲームをする時間	10.0分
3	パソコンでネットゲームをする時間	10.5分
4	スマートフォンでネットゲームをする時間	68.7分
5	その他の機器でネットゲームをする時間	2.9分
最も熱中していた時期		
6	家庭用据え置きゲーム機(Nintendo Switch、PlayStation 4など)でネットゲームをする時間	68.1分
7	家庭用携帯ゲーム機(ニンテンドー3DS、PlayStation Vitaなど)でネットゲームをする時間	64.7分
8	パソコンでネットゲームをする時間	38.9分
9	スマートフォンでネットゲームをする時間	168.3分
10	その他の機器でネットゲームをする時間	5.8分

Q6	あなたはふだん、ネットを通じて次のサービスをどの程度利用しますか。ふだんの平日、一日の平均的な利用時間についてお答えください。利用していない場合は「0時間、0分」と記入してください。	N= 1649				
	1 ネット動画を見る(YouTube、Netflix、Amazon prime、dTV、Hulu、TVerなど)		137.4 分			
	2 SNSを利用する(LINE、Twitter、Facebook、Instagramなど)		117.9 分			
	3 ウェブサイトを見る(ニュースサイト、ブログ、まとめサイト、ショッピングサイト、電子コミックなど)		58.3 分			
Q7	あなたがネットゲームを利用する目的・動機は何ですか。それぞれについてお答えください。 単一回答	(N)	1	2		
			あてはまる	あてはまらない		
			1 ネットゲーム上の仲間とのコミュニケーションのため	874	31.2	68.8
			2 現実の友人とネットゲーム上で遊ぶため	874	45.3	54.7
			3 新たな友達や知り合いをつくるため	874	23.3	76.7
			4 うまく操作して他のプレイヤーから尊敬されるため	874	24.7	75.3
			5 他のプレイヤーから得ている良い評価を維持するため	874	18.9	81.1
			6 ネットゲームで相手を打ち負かすことが楽しいから	874	46.2	53.8
			7 ネットゲーム内の絵や映像・音楽が好きだから	874	77.2	22.8
			8 ネットゲーム内の課題を達成することがうれしいから	874	74.5	25.5
			9 さみしい気持ちをやわらげるため	874	33.3	66.7
			10 日々の悩みや不安を忘れるため	874	55.4	44.6
			11 ストレスや苦痛から逃れるため	874	60.3	39.7
12 気分転換のため	874	88.2	11.8			
13 ひまつぶしのため	874	91.6	8.4			
Q8	あなたがもっともネットゲームに熱中していた時期【【SC3の選択内容】】に、ネットゲームを利用する目的・動機は何でしたか。それぞれについてお答えください。 単一回答	(N)	1	2		
			あてはまる	あてはまらない		
			1 ネットゲーム上の仲間とのコミュニケーションのため	775	18.3	81.7
			2 現実の友人とネットゲーム上で遊ぶため	775	36.6	63.4
			3 新たな友達や知り合いをつくるため	775	9.5	90.5
			4 うまく操作して他のプレイヤーから尊敬されるため	775	14.7	85.3
			5 他のプレイヤーから得ている良い評価を維持するため	775	10.2	89.8
			6 ネットゲームで相手を打ち負かすことが楽しいから	775	38.5	61.5
			7 ネットゲーム内の絵や映像・音楽が好きだから	775	60.4	39.6
			8 ネットゲーム内の課題を達成することがうれしいから	775	70.6	29.4
			9 さみしい気持ちをやわらげるため	775	22.6	77.4
			10 日々の悩みや不安を忘れるため	775	42.6	57.4
			11 ストレスや苦痛から逃れるため	775	45.9	54.1
12 気分転換のため	775	84.5	15.5			
13 ひまつぶしのため	775	90.5	9.5			
Q9	あなたがネットゲームに熱中し続ける(やめられない)理由・原因は何ですか。それぞれについてお答えください。 単一回答	(N)	1	2		
			あてはまる	あてはまらない		
			1 現実とは違う世界を楽しむことができるため	874	76.0	24.0
			2 世界観やストーリーが魅力的なため	874	79.3	20.7
			3 チームで行動するため、抜けにくい	874	18.0	82.0
			4 すでに膨大な時間を費やしているため	874	45.7	54.3
			5 すでに高額のお金を使っているため	874	15.9	84.1
			6 ほしいアイテムやキャラクターが、なかなか入手できないため	874	37.8	62.2
			7 ポイントやステータスがどんどん上がるため	874	60.4	39.6
			8 コンテンツがどんどん追加され、終わりががないため	874	61.6	38.4
			9 連続ログインによるポイントやアイテムがもらえるため	874	66.8	33.2
			10 定期的にイベントが開催されるため	874	75.6	24.4
			11 やめてしまうと、友人との共通の話題を失うため	874	18.6	81.4
12 ネットゲーム以外に楽しみがないため	874	27.5	72.5			
13 現実生活で、解決できない問題に直面しているため	874	18.2	81.8			

Q10	あなたがもっともネットゲームに熱中していた時期【【SC3の選択内容】】に、ネットゲームに熱中し続けた(やめられなかった)理由・原因は何でしたか。それぞれについてお答えください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	現実とは違う世界を楽しむことができるため	775	55.0	45.0
2	世界観やストーリーが魅力的なため	775	61.9	38.1
3	チームで行動するため、抜けにくい	775	13.0	87.0
4	すでに膨大な時間を費やしているため	775	30.6	69.4
5	すでに高額のお金を使っているため	775	7.0	93.0
6	ほしいアイテムやキャラクターが、なかなか入手できないため	775	35.0	65.0
7	ポイントやステータスがどんどん上がるため	775	56.3	43.7
8	コンテンツがどんどん追加され、終わりがないため	775	45.3	54.7
9	連続ログインによるポイントやアイテムがもらえるため	775	57.0	43.0
10	定期的にイベントが開催されるため	775	60.9	39.1
11	やめてしまうと、友人との共通の話題を失うため	775	13.3	86.7
12	ネットゲーム以外に楽しみがないため	775	19.6	80.4
13	現実生活で、解決できない問題に直面しているため	775	12.6	87.4

Q11	あなたは、最近ネットゲームに熱中していることにより、次のような経験をしましたか。それぞれ1つずつお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	学校の成績が下がった	874	7.4	24.6	36.5	31.5
2	学校の成績について、家族や教員に注意された	874	5.3	14.4	32.4	47.9
3	試験に失敗した	874	4.6	14.1	30.7	50.7
4	勉強時間が減った	874	16.9	38.7	22.3	22.1
5	約束事に遅刻したりすっぽかしたりした	874	2.2	9.7	27.0	61.1
6	親しい友人との交流が減った	874	2.4	8.1	30.2	59.3
7	家族との交流が減った	874	3.3	18.1	30.4	48.2
8	大切な人間関係に問題が生じた	874	2.2	5.4	24.9	67.5
9	月に1万円以上の課金をした	874	6.5	8.6	13.2	71.7
10	外出しなくなった	874	9.4	24.8	26.3	39.5
11	睡眠時間が減った	874	14.5	41.2	19.9	24.4
12	食事を抜くことが多くなった	874	2.6	9.0	25.3	63.0
13	他の趣味が減った	874	5.5	17.2	27.3	50.0
14	何日か学校に行かなかった	874	4.0	5.3	14.0	76.8
15	何度か遅刻をした	874	3.0	11.3	17.6	68.1
16	身体的健康を損ねて通院・入院した	874	1.7	2.4	12.7	83.2
17	精神的健康を損ねて通院・入院した	874	1.3	2.5	13.0	83.2

Q12	あなたは、もっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、ネットゲームに熱中したことにより、次のような経験をしましたか。それぞれ1つずつお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	学校の成績が下がった	775	6.5	25.7	37.8	30.1
2	学校の成績について、家族や教員に注意された	775	4.1	14.3	32.9	48.6
3	試験に失敗した	775	3.7	12.5	31.4	52.4
4	勉強時間が減った	775	19.9	42.6	19.6	17.9
5	約束事に遅刻したりすっぽかしたりした	775	2.3	5.9	30.5	61.3
6	親しい友人との交流が減った	775	1.0	6.1	31.5	61.4
7	家族との交流が減った	775	3.1	17.5	31.4	48.0
8	大切な人間関係に問題が生じた	775	0.8	3.5	27.1	68.6
9	月に1万円以上の課金をした	775	1.9	4.0	11.0	83.1
10	外出しなくなった	775	7.4	19.7	23.4	49.5
11	睡眠時間が減った	775	16.5	44.5	17.5	21.4
12	食事を抜くことが多くなった	775	1.9	6.3	23.2	68.5
13	他の趣味が減った	775	4.3	17.9	28.6	49.2
14	何日か学校に行かなかった	775	2.3	3.7	12.8	81.2
15	何度か遅刻をした	775	1.9	7.6	16.3	74.2
16	身体的健康を損ねて通院・入院した	775	0.3	1.8	11.5	86.5
17	精神的健康を損ねて通院・入院した	775	0.1	2.2	11.2	86.5

Q13	あなたは、最近ネットゲームに熱中していることにより、次のような経験をしましたか。それぞれ1つずつお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	毎日の生活が楽しくなった	874	27.2	54.9	13.3	4.6
2	現実生活での友だちが増えた	874	11.1	27.3	35.9	25.6
3	家族と過ごす時間が増えた	874	6.3	14.3	50.7	28.7
4	記憶力が上がった	874	4.8	18.5	47.3	29.4
5	集中力が上がった	874	9.7	26.9	39.0	24.4
6	デジタル機器の操作スキルが向上した	874	19.0	41.5	23.5	16.0
7	表現力や創造性が増した	874	14.6	32.4	33.5	19.5
8	コミュニケーション能力が向上した	874	8.1	21.3	41.8	28.8
9	反射神経が向上した	874	11.7	29.6	36.5	22.2
10	協調性が増した	874	8.0	23.0	42.0	27.0
11	忍耐力が増した	874	10.5	32.5	35.5	21.5

Q14	あなたは、もっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、ネットゲームに熱中したことにより、次のような経験をしましたか。それぞれ1つずつお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	毎日の生活が楽しくなった	775	12.3	60.0	20.1	7.6
2	現実生活での友だちが増えた	775	5.0	19.1	42.8	33.0
3	家族と過ごす時間が増えた	775	1.4	9.9	52.0	36.6
4	記憶力が上がった	775	1.8	12.0	51.0	35.2
5	集中力が上がった	775	2.7	26.6	42.1	28.6
6	デジタル機器の操作スキルが向上した	775	10.5	40.6	29.2	19.7
7	表現力や創造性が増した	775	5.9	22.7	43.9	27.5
8	コミュニケーション能力が向上した	775	2.7	16.4	45.7	35.2
9	反射神経が向上した	775	6.1	27.5	37.9	28.5
10	協調性が増した	775	2.8	17.8	48.1	31.2
11	忍耐力が増した	775	5.7	23.1	43.7	27.5

Q15	あなたはこれまで、ネットゲームの過度の使用に関する、次のような教育やレクチャーを受けたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものを選択してください。 単一回答	(N)	1	2	3
			受けて役立った	受けたが役立たなかった	受けたことがない
1	過度の使用への注意	1649	16.9	23.3	59.8
2	日頃のストレスに対する、ゲーム以外の対処方法のレクチャー	1649	10.1	15.0	74.9
3	過度の利用により生じている具体的な問題の提示	1649	11.0	14.3	74.7
4	相談窓口の紹介	1649	4.2	10.2	85.6

Q16	あなたは、もっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、ネットゲームの利用を軽減させるために、次のことをよくしましたか。また、それは役立ちましたか。あてはまるものをそれぞれ選択してください。 単一回答	(N)	1	2	3
			して役立った	したが役立たなかった	しなかった
1	友人や家族と対面で話す	775	23.9	10.2	65.9
2	友人や家族とネットで会話する	775	11.2	8.4	80.4
3	屋内で体操をする(ストレッチ、ヨガなど)	775	11.5	7.1	81.4
4	屋外で運動をする(散歩、スポーツなど)	775	24.5	7.0	68.5
5	歌う(カラオケ、鼻歌など)	775	28.1	12.1	59.7
6	飲食する(アルコールを除く)	775	18.5	12.8	68.8
7	テレビやビデオ、DVDなどを見る	775	30.6	13.2	56.3
8	ネット動画を見る	775	36.6	14.5	48.9
9	音楽やラジオを聞く	775	40.5	14.1	45.4
10	オフラインゲームをする	775	17.2	10.6	72.3
11	SNSやブログに投稿する	775	12.5	10.1	77.4
12	ネットで情報収集する(ニュース、SNS、ブログ、まとめサイトなど)	775	18.7	11.2	70.1
13	読書する(小説、文学、マンガ、雑誌など)	775	26.3	9.5	64.1
14	外食する	775	21.5	12.1	66.3
15	ショッピングに出かける	775	29.7	12.5	57.8
16	映画館に出かける	775	23.5	8.6	67.9
17	コンサート、演劇、芸能の観覧へ行く	775	18.3	5.0	76.6
18	スポーツを観に行く	775	11.7	4.9	83.4
19	アウトドアのレジャー活動をする	775	12.5	5.4	82.1
20	旅行する	775	19.2	7.9	72.9

Q17	あなたは、もっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、ネットゲームの利用を抑えるために、次のような努力や行動をしましたか。また、それは役立ちましたか。あてはまるものをそれぞれ選択してください。 単一回答	(N)	1	2	3
			して役立った	したが役立 たなかつ た	しなかつ た
1	夜は利用しないなど、時間帯に制限をもうけた	775	15.4	13.0	71.6
2	利用時間に制限をもうけた	775	15.0	15.7	69.3
3	寝室で利用しないなど、利用場所に制限をもうけた	775	10.1	10.6	79.4
4	利用料金に制限をもうけた	775	13.3	5.7	81.0
5	家族や友人と約束した	775	9.8	9.7	80.5
6	家族や友人に協力を求めた	775	6.3	5.7	88.0
7	グループで行う、ほかの趣味をはじめた	775	7.4	4.0	88.6
8	一人でやる、ほかの趣味をはじめた	775	20.5	5.8	73.7
9	新たな生活環境に身を置いた	775	9.8	6.3	83.9
10	運動した	775	21.2	6.6	72.3
11	ネットゲームの利用時間を記録した	775	5.4	6.6	88.0
12	ネットゲームの過度な利用の悪影響について学んだ	775	9.5	7.1	83.4
13	積極的に外出した	775	14.2	6.1	79.7
14	専門家(医師やカウンセラー)に相談した	775	2.7	4.1	93.2
15	新たな生活目標を探した	775	10.5	6.2	83.4
16	新しい友人関係を作った	775	8.5	5.8	85.7

Q18	あなたには、もっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、ネットゲームの利用を抑えるために、次のようなことがありましたか。また、それは役立ちましたか。あてはまるものをそれぞれ選択してください。 単一回答	(N)	1	2	3
			あつて役立 った	あつた が役立 たな かつた	なかつ た
1	家族があなたの利用時間に制限をもうけた	775	9.7	12.0	78.3
2	家族があなたの利用料金に制限をもうけた	775	5.9	4.3	89.8
3	家族があなたを医療機関に連れて行った	775	3.0	3.5	93.5
4	家族があなたの生活環境を変えた	775	4.3	4.4	91.4
5	家族にネットゲームの環境を取り上げられた	775	5.4	7.4	87.2
6	家族に注意を受けた	775	13.4	17.3	69.3
7	他の人の経験談を聞かされた	775	4.4	5.5	90.1

Q19	あなたがもっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、あなたのネットゲームへの熱中の度合いが減った背景に、次のようなことがありましたか。それぞれお答えください。 単一回答	(N)	1	2
			あては まる	あては まらない
1	一人で過ごす時間が大きく増えた(自分の部屋ができた、一人暮らしなど)	775	30.3	69.7
2	一人で過ごす時間が大きく減った(グループ活動、集団生活など)	775	19.5	80.5
3	家庭の環境が変わった(引っ越しなど)	775	13.5	86.5
4	学業の環境が変わった(進学など)	775	40.1	59.9
5	人間関係がとても良くなった	775	19.4	80.6
6	ネット上の人間関係がとても悪くなった	775	4.5	95.5
7	金銭的な状況が大きく好転した	775	8.5	91.5
8	金銭的な状況が大きく悪化した	775	7.6	92.4
9	深刻な問題や大きなストレスが解消した	775	10.6	89.4
10	ネット上で大きなストレスが生じた	775	6.6	93.4
11	家族がゲームのことをよく理解するようになった	775	6.8	93.2
12	規則正しい生活をするようになった	775	20.6	79.4
13	ペットの世話をするようになった	775	9.4	90.6

Q20	あなたが現在もっとも熱中しているネットゲームのタイトルを最大3つまでご記入ください。 ※省略表記はできるだけ避けてください。	省略
Q21	あなたがもっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、もっとも熱中していたネットゲームのタイトルを最大3つまでご記入ください。 ※省略表記はできるだけ避けてください。	省略

Q22	あなたが最近、熱中しているネットゲームのジャンルについて、あてはまるものをすべてお答えください。なお、複合ジャンルや、好きなジャンルが複数存在する場合には、あてはまるすべてのジャンルを選択してください。 複数回答	%
1	ロールプレイング/MORPG/MMORPG(PSO2、FF14、Fate/Grand Orderなど)	42.4
2	アクション(ストリートファイター、モンスターハンターなど)	28.9
3	シューティング/FPS/TPS(CoD、オーバーウォッチなど)	19.8
4	シミュレーション(艦隊これくしょんなど)	27.5
5	アドベンチャー/ノベル(逆転裁判など)	11.1
6	パズル(ディズニーツムツムなど)	33.6
7	トレーディングカード(遊戯王デュエルリンクス、シャドウバースなど)	9.6
8	リズム/音ゲー(太鼓の達人プラスなど)	42.3
9	スポーツ/レース/MOBA(ウイニングイレブン、リッジレーサー、League of Legendsなど)	14.3
10	バトルロイヤル(PUBG、フォートナイトなど)	23.2
11	上記にあてはまるものはない・わからない	7.0
	全体(N)	874

Q23	過去、あなたがもっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、熱中していたネットゲームのジャンルについて、あてはまるものをすべてお答えください。なお、複合ジャンルや、好きなジャンルが複数存在する場合には、あてはまるすべてのジャンルを選択してください。 複数回答	%
1	ロールプレイング/MORPG/MMORPG(PSO2、FF14、Fate/Grand Orderなど)	25.3
2	アクション(ストリートファイター、モンスターハンターなど)	22.1
3	シューティング/FPS/TPS(CoD、オーバーウォッチなど)	15.0
4	シミュレーション(艦隊これくしょんなど)	12.8
5	アドベンチャー/ノベル(逆転裁判など)	4.5
6	パズル(ディズニーツムツムなど)	39.6
7	トレーディングカード(遊戯王デュエルリンクス、シャドウバースなど)	5.4
8	リズム/音ゲー(太鼓の達人プラスなど)	26.6
9	スポーツ/レース/MOBA(ウイニングイレブン、リッジレーサー、League of Legendsなど)	12.3
10	バトルロイヤル(PUBG、フォートナイトなど)	14.5
11	上記にあてはまるものはない・わからない	11.5
	全体(N)	775

Q24	最近、あなたがネットゲームをする際に、楽しんでいる要素はどのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。 複数回答	%
1	高度なストーリー要素	48.5
2	シングルプレイ(一人で遊べる)要素	71.3
3	マルチプレイ(協力・対戦など同時参加)要素	39.1
4	課金要素(ガチャ)	16.1
5	コミュニケーション要素(チャット、メッセージなど)	14.5
6	ランキング要素(スコアランキングなど)	20.8
7	VR(ヴァーチャル・リアリティ)要素	4.3
8	位置情報要素(ポケモンGOなど)	6.2
9	ギャンブル要素(麻雀ゲームなど)	5.9
10	恋愛要素	11.7
11	バイオレンス要素	7.7
12	セクシャルな要素	7.9
13	育成・アバター要素	39.2
14	カード・キャラクター要素	38.0
15	上記にあてはまるものはない・わからない	5.3
	全体(N)	874

Q25	あなたがもっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、楽しんでいた要素はどのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。	%
	複数回答	
1	高度なストーリー要素	28.1
2	シングルプレイ(一人で遊べる)要素	60.0
3	マルチプレイ(協力・対戦など同時参加)要素	31.7
4	課金要素(ガチャ)	7.5
5	コミュニケーション要素(チャット、メッセージなど)	8.8
6	ランキング要素(スコアランキングなど)	17.3
7	VR(ヴァーチャル・リアリティ)要素	2.3
8	位置情報要素(ポケモンGOなど)	3.7
9	ギャンブル要素(麻雀ゲームなど)	2.5
10	恋愛要素	5.3
11	バイオレンス要素	3.2
12	セクシャルな要素	1.4
13	育成・アバター要素	27.7
14	カード・キャラクター要素	23.1
15	上記にあてはまるものはない・わからない	9.3
	全体(N)	775

Q26	最近のあなたは、ネットゲーム内で、次のことをどのくらいしますか。あてはまるものをお答えください。	(N)	1	2	3	4
			ほぼ毎日	週に数回	月に数回以下	まったくしない
	単一回答					
1	チャット機能で顔見知りと話す	874	7.3	13.3	13.3	66.1
2	チャット機能で、会ったことのない相手と話す	874	7.6	14.0	16.4	62.1
3	ボイスチャット機能で顔見知りと話す	874	5.8	10.1	12.9	71.2
4	ボイスチャット機能で、会ったことのない相手と話す	874	4.0	7.3	10.2	78.5
5	ゲーム上で知り合いと待ち合わせする	874	4.0	8.2	14.2	73.6
6	ヘッドマウントディスプレイでゲームする	874	2.6	5.8	4.9	86.6

Q27	あなたがもっともネットゲームに熱中していた【【SC3の選択内容】】の時期に、ネットゲーム内で、次のことをどのくらいしましたか。あてはまるものをお答えください。	(N)	1	2	3	4
			ほぼ毎日	週に数回	月に数回以下	まったくしない
	単一回答					
1	チャット機能で顔見知りと話す	775	4.4	9.4	9.8	76.4
2	チャット機能で、会ったことのない相手と話す	775	4.9	8.5	10.8	75.7
3	ボイスチャット機能で顔見知りと話す	775	2.8	7.6	8.8	80.8
4	ボイスチャット機能で、会ったことのない相手と話す	775	1.5	4.6	5.4	88.4
5	ゲーム上で知り合いと待ち合わせする	775	2.2	7.2	7.7	82.8
6	ヘッドマウントディスプレイでゲームする	775	1.0	1.8	2.8	94.3

Q28	【【SC3の選択内容】】の時期まで】のあなたには、次のことがあてはまっていましたか。それぞれ1つずつ選択してください。	(N)	1	2
			【【SC3の選択内容】】の時期に、あてはまっていた	【【SC3の選択内容】】の時期に、あてはまっていなかった
	単一回答			
1	部活やサークルなどのグループ活動を行っていた	775	60.0	40.0
2	塾に通っていた	775	26.2	73.8
3	恋人(カレシ・カノジョ)とよく会っていた	775	19.7	80.3
4	ボランティア活動をしていた	775	8.8	91.2
5	テレビをよく見ている	775	56.4	43.6
6	読書をよくしていた	775	28.4	71.6
7	アルバイトをしていた	775	36.0	64.0

Q29	最近のあなたには、次のことがあてはまりますか。それぞれ1つずつ選択してください。	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
	単一回答			
1	部活やサークルなどのグループ活動を行っている	1649	51.6	48.4
2	塾に通っている	1649	13.0	87.0
3	恋人(カレシ・カノジョ)とよく会う	1649	19.9	80.1
4	ボランティア活動をしている	1649	12.7	87.3
5	テレビをよく見る	1649	54.5	45.5
6	読書をよくする	1649	35.7	64.3
7	アルバイトをしている	1649	49.8	50.2

Q30	現在のあなたには、ネットゲームのプライベートな利用について、次のことがあてはまりますか。それぞれ1つずつ選択してください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	ネットゲームのことばかり考えている時間がある	1649	28.4	71.6
2	もっとネットゲームをしないと気がすまないと感じていることがある	1649	19.8	80.2
3	ネットゲームをしないと気分が落ち込むことがある	1649	16.8	83.2
4	他の人からネットゲームを少し控えるように言われても、やめられないことがある	1649	18.4	81.6
5	わずらわしいことを考えるのが嫌で、ネットゲームをすることがある	1649	32.0	68.0
6	ネットゲームばかりすることの影響について、人と言い争いをしたことがある	1649	10.5	89.5
7	ネットゲームをしている時間を、人に知られないようにごまかしたことがある	1649	21.0	79.0
8	ネットゲームで満足しているため、ほかの趣味や活動への興味を失ったことがある	1649	17.9	82.1
9	ネットゲームをしすぎることで、家族や友人、パートナーと、深刻ないさかいを起こしたことがある	1649	7.2	92.8

Q31	この一週間で、あなたのネットゲームへの熱中の程度に、変化はありましたか。 あてはまるものをお選びください。 単一回答	%
1	さらに熱中するようになった	7.0
2	変わらず熱中している	41.3
3	熱中しなくなった	4.7
4	熱中するようになった	4.7
5	変わらず熱中していない	42.3
	全体(N)	1649

Q32	最近のあなたには、次のことがあてはまりますか。それぞれについて、あなたの考えにもっとも近いものをお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	友人関係に満足している	1649	36.4	41.2	15.9	6.4
2	家族との関係に満足している	1649	35.2	42.0	15.8	6.9
3	日常生活に満足している	1649	27.4	43.1	21.5	8.1
4	学校生活に満足している	1649	22.9	41.1	23.0	13.0
5	気分が沈んでゆううつになることがよくある	1649	22.4	35.1	29.1	13.3
6	泣いたり、泣きたくなったりすることがよくある	1649	15.2	27.3	33.1	24.4
7	落ち着かず、じっとしていられないことがよくある	1649	11.9	28.4	37.1	22.7
8	自分の人生は充実している	1649	16.4	40.6	29.4	13.6
9	私は、まわりの人たちとうまくいっている	1649	17.3	48.8	24.9	9.0
10	私をよく知っている人はだれもない	1649	10.9	24.3	42.1	22.7
11	私には知人がいるが、気心の知れた人はいない	1649	8.4	20.4	43.2	28.0
12	私には、頼りにできる人がだれもない	1649	6.6	16.9	41.1	35.4
13	人と一緒にいるのが好きだ	1649	20.9	41.2	26.5	11.5
14	人づきあいの機会があれば、喜んで参加する	1649	15.2	36.1	32.7	15.9
15	私にとって何よりも刺激的なのは、人とのつきあいである	1649	10.2	30.7	39.1	20.0
16	広く人づきあいができなくなったら、不幸になると思う	1649	11.5	28.1	40.1	20.3
17	あなたが落ちこんでいると、元気づけてくれる人がいる	1649	24.5	43.6	23.2	8.7
18	日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる人がいる	1649	20.4	43.5	27.0	9.0
19	あなたが人間関係に悩んでいると知ったら、いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる人がいる	1649	19.9	42.7	26.9	10.6
20	あなたが不満をぶちまけたいときは、聞いてくれる人がいる	1649	27.2	41.6	21.5	9.7
21	衝動的な行動を取ることがよくある	1649	13.3	32.6	36.3	17.9
22	ときどき記憶力の低下を感じる	1649	17.2	35.5	31.4	15.9
23	ときどき集中力の低下を感じる	1649	18.0	38.4	29.1	14.5
24	日頃の生活でよく注意散漫になる	1649	12.7	32.1	36.3	19.0
25	本来するべき行動を中断してしまうことがよくある	1649	13.8	35.1	33.4	17.8
26	友人を叩きたいと思うことがある	1649	4.2	10.1	30.4	55.3
27	大した理由がなくても、かっとなる	1649	5.8	18.5	32.6	43.1
28	叩かれたら、叩きかえそう思う	1649	12.0	24.9	29.4	33.7
29	ほかの人の気持ちの変化に敏感だと思ふ	1649	17.0	37.8	31.3	13.8
30	そばにうれしそうにしている人がいると、自分もうれしくなる	1649	28.8	42.5	21.1	7.6
31	悲しんでいる人と一緒にいると、自分も同じように悲しくなる	1649	20.3	42.1	28.0	9.5
32	相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしている	1649	25.2	48.3	20.5	6.1
33	自分にとってよいことでも、楽しければやってしまう	1649	10.7	33.2	38.6	17.5
34	いつも誘惑に負けてしまう	1649	15.0	39.5	32.1	13.3
35	集中力がない	1649	16.3	36.8	32.9	14.0
36	他にどういった方法があるか、よく考えずに行動してしまう	1649	8.8	33.4	43.7	14.1
37	自分のことが好きになれない	1649	25.3	32.9	30.4	11.4
38	後悔ばかりしている	1649	20.7	35.7	31.3	12.2
39	自分のことを大切だと感じる	1649	15.6	39.7	33.2	11.6
40	何をやっても、うまくできない	1649	16.4	31.1	39.4	13.1

Q33	あなたのご家庭の世帯年収について、次の中から選択してください。	%
	単一回答	
1	200万円未満	10.7
2	200万円以上～400万円未満	7.0
3	400万円以上～600万円未満	6.3
4	600万円以上～800万円未満	7.6
5	800万円以上～1,000万円未満	6.2
6	1,000万円以上～1,200万円未満	4.5
7	1,200万円以上～1,400万円未満	2.2
8	1,400万円以上	1.9
9	わからない/答えたくない	53.5
	全体(N)	1649

育児とスマートフォン

Child Care and Smartphones

橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki

久保 隅 綾 KUBOSUMI, Aya

大野 志郎 OHNO, Shiroh

目次

0. 調査の概要	橋元良明・大野志郎
0.1 調査の目的	
0.2 調査方法	
0.3 回答者の分布	
1. 幼児(第一子)に利用させている情報機器、アプリ、コンテンツ	橋元良明
1.1 スマートフォンは何歳から使わせるべきか	
1.2 実際に、スマートフォンを何歳から使わせたか	
1.3 幼児に利用させている情報機器の利用状況	
1.4 幼児の利用するアプリ、コンテンツ利用	
2. スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化	橋元良明
3. 幼児のスマホ依存	橋元良明
4. 母親による子どものメディア利用に関する取り組みと介入	久保隅綾
4.1 親による子どものメディア利用への取組と介入：Parental Mediation	
4.2 Parental Mediation の属性別実施状況	
4.3 母親の Parent Mediation と子どもの情報機器利用時間およびスマホ依存度	
4.4 母親の Parental Mediation と子どものスマートフォン利用の効用認知	
4.5 母親の Parental Mediation と情報機器利用効用認知	
5. 育児ストレスと、スマホの効用・情報源・子供の共感性・問題行動	大野志郎
5.1 母親の育児ストレス	
5.2 育児情報源と育児ストレス	
5.3 スマホの効用・コスト感と育児ストレス	
5.4 子供の共感性・問題行動と育児ストレス	
5.5 本章のまとめ	

補足資料 単純集計

橋元良明 東京大学大学院情報学環
久保隅綾 GOB Incubation Partners 株式会社
大野志郎 東京大学大学院情報学環

本報告のベースとなる調査は、株式会社 KDDI 総合研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室の共同研究の一環として実施されたものであり、本報告は当該共同研究の成果の一部である。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

2017年から3年間、我々はKDDI総合研究所との共同研究として、乳幼児における情報機器利用や利用するネットアプリの実態、その影響、育児との関わり等について研究を進めてきた。その成果の一端は、この調査研究紀要に掲載された下記の論文である。

橋元良明・大野志郎・久保隅綾(2018)「乳幼児期における情報機器利用の実態」、『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』No.34, pp.213-244.

久保隅綾・橋元良明・大野志郎(2018)「乳幼児を持つ共働き夫婦の仕事と家庭の両立と情報機器利用実態」、『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』No.34, pp.245-284.

橋元良明・久保隅綾・大野志郎(2019)「育児とICT—乳幼児のスマホ依存、育児中のデジタル機器利用、育児ストレス」『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』No.35.

その後もスマートフォンの普及は進展し、育児に携わる母親の大半が利用しているほか、幼児の「利用」もさらに進んでいる。

そのような状況で我々はさらに次のことを明らかにすることを目的として、3歳から10歳の第一子をもつ母親にオンライン上でアンケート調査を試みた。

- (1) 幼児の情報機器利用の実態は現在どのようになっており、その影響を母親はどのように認識しているのか。とくにポジティブな影響について、どう評価しているのか。
- (2) いわゆる「スマートフォン依存」の低年齢化が懸念される中、幼児の依存傾向はどうなっているのか。
- (3) アメリカなどで盛んに議論されている「親によるこどものメディア利用への介入や取り組み(Parental Mediation)」の日本での実態はどのようなものか。
- (4) 母親は育児の中でスマートフォンとどのように関わっているのか。それによって育児に何らかの影響があるのか。
- (5) 新たな情報環境下で母親はどのような育児ストレスを抱えており、そこにスマートフォンはどのように関係しているのか。

0.2 調査方法

- (1) 調査対象者：株式会社マクロミルの全国のモニターのうち、3歳から10歳の第一子と同居している女性。子供の年齢1歳刻みで各155サンプルを均等に回収した。
- (2) 調査方法：オンラインアンケート調査。はじめに事前調査を実施して対象者を抽出し、本調査の対象とした。
- (3) 本調査有効回答数：1,240票（事前調査配布数約30,000票）

(4)調査期間：2019年8月6日～8月7日（事前調査と本調査は連続して実施）

0.3 回答者の分布

回答者の年齢、居住地、未既婚の分布は表 0.3 の通りである。

表 0.3 回答者の年齢、居住地、未既婚の分布

年齢	居住地	未既婚
20才～24才 1 %	北海道 3.5 %	未婚 6.6 %
25才～29才 7.2 %	東北地方 6.9 %	既婚 93.4 %
30才～34才 26.9 %	関東地方 26.3 %	
35才～39才 35.7 %	中部地方 21.3 %	
40才～44才 20.5 %	近畿地方 19.4 %	
45才～49才 7.7 %	中国地方 8 %	
50才～54才 0.8 %	四国地方 3.5 %	
55才～59才 0.1 %	九州地方 11 %	
60才以上 0.1 %		

1. 幼児(第一子)に利用させている情報機器、アプリ、コンテンツ

1.1 スマートフォンは何歳から使わせるべきか

Q2 では自分の子どもには何歳からスマートフォンを使わせるのが望ましいかを質問した。

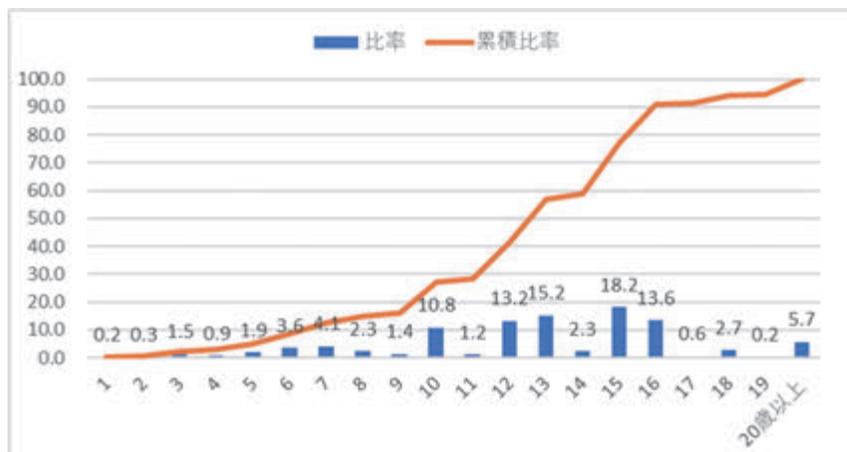


図 1.1.1 子どもには何歳からスマートフォンを使わせるべきか

その結果を回答年齢別に示したのが図 1.1.1 である。図に示されるとおり、高校入学後の 15 歳、16 歳、中学入学後の 12 歳、13 歳、そして数値の区切りがよいせいか 10 歳がそれぞれピークを形成している。累積では 13 歳で 50%を超える。

平均は 12.8 歳、開始許容平均年齢に、子どもの性別(t 検定)、学歴(F 検定)、世帯年収(同)による有意差はない。母親の職業に関しては一元分散分析で危険率 5%未満で有意差があり、フルタイムとその他(無職等)が低年齢(12.5 歳、12.6 歳)、パート・アルバイトが 13.2 歳でやや年齢が高い。

1.2 実際に、スマートフォンを何歳から使わせたか

Q3 では、子どもにスマートフォンを利用させ始めた年齢を質問した。子どもの実年齢ごとに開始年を示したのが表 1.2.1 である。

この質問では「利用させた」というワーディングを用いており、Q4 のように「見せたり、使わせたりしている」というワーディングとは異なる。

表に見られるように、3 歳から 10 歳までの全体でも利用率は 19.4%である。子どもの実年齢別に見れば、本来、年齢が上がるにつれ利用率が高まることが予想されるにも関わらず、3 歳時の利用率が 25%と、けっして他の年齢より低くない。このことは子どもの誕生が現在に近づくにつれ、スマートフォン利用に対する許容度が高くなっていることを示している。10 歳の子でも利用率は 24.5%で利用開始平均年齢が 8.0 歳である。

表 1.2.1 幼児にスマートフォンを利用させ始めた年齢（幼児の年齢ごと、単位：％）

幼児実年齢	使用開始年齢											不 使 用	利 用 率	利用者(N=238)の 利用開始平均年齢
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
3	1.3	2.0	13.2	8.6	—	—	—	—	—	—	—	75.0	25.0	2.2
4	0.0	1.3	7.8	13.6	2.6	—	—	—	—	—	—	74.7	25.3	2.7
5	0.0	0.0	1.3	7.9	10.5	2.6	—	—	—	—	—	77.6	22.4	3.6
6	0.0	0.0	2.6	5.9	2.0	4.0	3.3	—	—	—	—	82.2	17.8	4.0
7	0.0	0.7	0.7	3.9	2.0	2.6	0.7	2.0	—	—	—	87.6	12.4	4.2
8	0.0	1.3	1.3	2.6	0.7	3.2	1.3	3.9	2.6	—	—	83.2	16.8	5.1
9	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3	1.3	0.0	3.3	4.6	—	88.9	11.1	7.5
10	0.0	0.0	0.0	1.3	0.7	0.7	3.2	2.6	3.2	6.5	6.5	75.5	24.5	8.0
全体	0.2	0.7	3.3	5.6	2.3	1.8	1.2	1.1	1.1	1.4	0.8	80.6	19.4	4.4

1.3 幼児に利用させている情報機器の利用状況

Q4 では 3 歳から 6 歳までの幼児(第一子)の情報機器利用状況を尋ねた (図 1.3.1)。

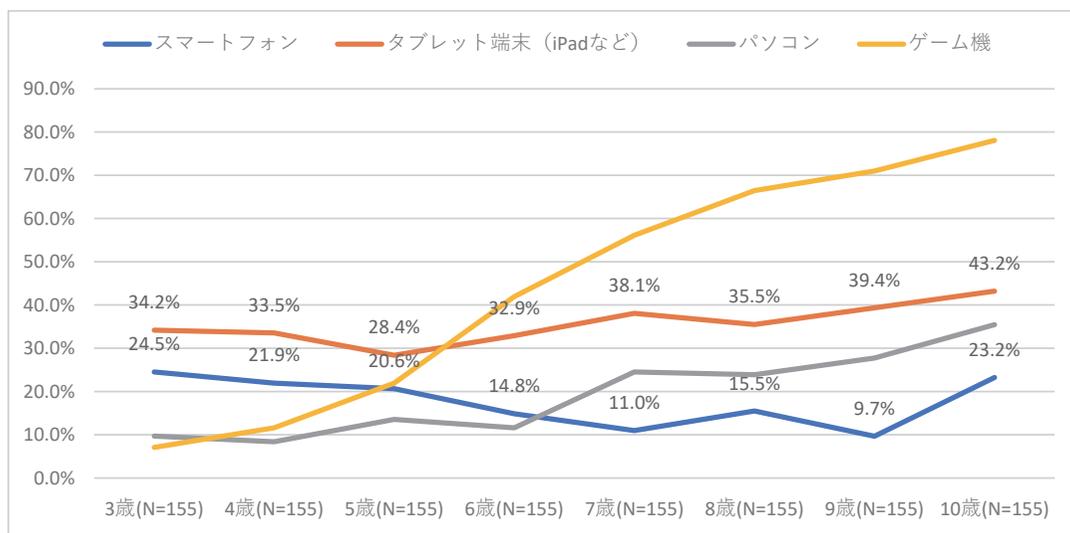


図 1.3.1 幼児の年齢別情報機器の状況

図にはスマートフォン以下、4つの情報機器の年齢別利用状況が示されている。前述したように、この質問では「お子さんに見せたり、使わせたりしている」というワーディングを用いている。また、質問では「子ども専用の機器」「親などと共用の機器」「利用させていない」の3つの選択肢をもうけているが、図では、前2者を合計した数値（ともかく使ったり、触れたりしている率）を示している。図中、タブレットとスマートフォンに数値(%)を記した。

この質問に対する回答比率ではスマートフォンの利用率は3歳児において最も高い数値(24.5%)となっている。以降、9歳までむしろ利用率は低下する傾向にある。これは社会全般でのスマートフォンの普及率の推移を反映していると見るべきであろう。

むしろタブレットの方の利用率が高く、3歳児で34.2%、それ以上の年齢ではいつとき微減するものの5歳以降は上昇に転じ、10歳では43.2%である。

表 1.3.1 幼児の情報機器の利用／非利用と各種デモグラフィック特性との関連の有意性 (χ^2 検定結果)

	幼児性別	母親職業	世帯年収	母親学歴
スマートフォン	ns	ns	ns	**
タブレット端末	ns	ns	ns	ns
パソコン	ns	**	***	***
ゲーム機	***	***	ns	**

ns : 有意差なし, *:p<0.05, **:p<0.01, *** : p<.001

表に示されるとおり、子どもの性別との関連ではゲーム機だけが有意差があり（男児＞女児）、母親の職業との関連では、パソコンに関してフルタイム＞パート＞その他の順、ゲーム機に関してパート＞その他＞フルタイムで利用率が高く、世帯年収との関連では、高収入なほどパソコンの利用率が高かった。

母親の学歴に関しては表 1.3.2 で詳細を記したように(有意差のあったもののみ抽出)、スマートフォンでは中高卒の子の利用率が高く、パソコンでは逆に学歴が高いほど利用率が高く、ゲーム機は学歴が低いほど利用率が高い。

表 1.3.2 母親の学歴別にみた幼児の主な情報機器の利用状況

	スマートフォン	パソコン	ゲーム機
中高卒	23.8	11.6	50.6
短大専門	14.1	21.6	44.8
大学以上	16.4	23.4	38.9
χ^2 値	13.10**	18.81***	10.74**

χ^2 値は幼児における各機器の利用の有無と母親の学歴のクロス集計(垂直列)における分析結果

ns : 有意差なし, *:p<0.05, **:p<0.01, *** : p<.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

1.4 幼児の利用するアプリ、コンテンツ利用

Q6 において、幼児に見せたり使わせたりしているスマートフォンやタブレット端末でよく利用しているサイトやアプリを質問した(複数回答)。ここではとくにデバイスの指定はない。なお、この分析の分析母数は調査対象者全体の N=1240、各年齢で N=155 である。

表 1.4.1 年齢別にみた幼児に利用させているサイトやアプリ

	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	全体
YouTube	67.7%	67.7%	58.1%	66.5%	64.5%	70.3%	63.2%	70.3%	66.0%
YouTube Kids	11.0%	12.9%	9.7%	5.8%	6.5%	7.7%	1.3%	2.6%	7.2%
YouTube以外の動画サイト・アプリ	1.9%	3.9%	2.6%	3.2%	1.9%	5.2%	1.3%	5.8%	3.2%
LINE	7.1%	5.8%	4.5%	5.8%	7.7%	11.0%	11.6%	13.5%	8.4%
LINE以外のSNS (Twitter、Facebook、Instagramなど)	2.6%	0.6%	1.3%	0.6%	3.2%	0.6%	1.3%	3.9%	1.8%
写真共有サイト・アプリ	7.7%	7.1%	6.5%	4.5%	5.2%	3.2%	3.9%	5.8%	5.5%
ゲーム	11.6%	21.9%	15.5%	27.7%	28.4%	39.4%	33.5%	37.4%	26.9%
マンガ	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	2.6%	1.9%	3.9%	1.5%
知育や学習用サイト・アプリ	14.8%	17.4%	16.8%	10.3%	20.6%	11.6%	16.1%	12.9%	15.1%
子育てサポートアプリ (鬼から電話、など)	5.8%	5.2%	4.5%	5.8%	2.6%	1.3%	0.6%	0.0%	3.2%
英語教育のための動画や音楽	4.5%	4.5%	4.5%	5.2%	5.2%	6.5%	3.9%	2.6%	4.6%
絵本や童話	10.3%	9.0%	6.5%	3.2%	2.6%	4.5%	5.8%	1.3%	5.4%
お絵かき	11.0%	11.6%	4.5%	4.5%	3.9%	6.5%	2.6%	1.9%	5.8%

表に示される通り、全体では YouTube の利用率が最も高く(66.0%)、ついでゲーム(26.9%)、知育や学習用サイト・アプリ(15.1%)と続いている。

表中、注目すべきなのは3歳における YouTube 利用率が 67.7%に達していることである。図 1.3.1 で示したとおり、3歳のスマートフォン利用率は 24.5%、タブレット 34.2%、PC9.7%であるので、それらの情報機器を利用している乳児のほとんどが YouTube を見ていることになる。知育アプリを利用させている率も3歳児からかなり高い。

表 1.4.2 年齢別にみた幼児が見ている動画

	3歳 (N=109)	4歳 (N=113)	5歳 (N=94)	6歳 (N=107)	7歳 (N=105)	8歳 (N=112)	9歳 (N=99)	10歳 (N=110)	全体 (N=849)
キャラクター・アニメ (アンパンマン、ドラえもん、など)	62.4%	57.5%	56.4%	51.4%	34.3%	32.1%	25.3%	21.8%	42.6%
こども向け番組 (いないいないばあっ!、など)	25.7%	29.2%	20.2%	10.3%	8.6%	8.9%	4.0%	3.6%	13.9%
ユーチューバー	37.6%	46.9%	44.7%	51.4%	59.0%	70.5%	69.7%	71.8%	56.5%
おもちゃの紹介	62.4%	59.3%	53.2%	53.3%	54.3%	36.6%	37.4%	28.2%	48.1%
ゲームの攻略法、実況中継	2.8%	3.5%	12.8%	20.6%	23.8%	36.6%	38.4%	49.1%	23.4%
音楽/歌手/ダンス	24.8%	30.1%	27.7%	18.7%	24.8%	29.5%	31.3%	31.8%	27.3%
乗り物	24.8%	21.2%	9.6%	6.5%	3.8%	2.7%	12.1%	3.6%	10.6%
動物	11.0%	7.1%	8.5%	1.9%	3.8%	3.6%	4.0%	7.3%	5.9%
教育・知育	11.0%	12.4%	12.8%	6.5%	8.6%	4.5%	5.1%	3.6%	8.0%
読書、絵本	10.1%	6.2%	6.4%	6.5%	2.9%	2.7%	4.0%	2.7%	5.2%
手遊び動画	19.3%	13.3%	6.4%	1.9%	4.8%	1.8%	2.0%	1.8%	6.5%

表 1.4.2 では年齢別に幼児が見ている動画の種類を尋ねた。この質問の分析母数は前問 Q6 で子どもが「YouTube」「YouTube Kids」「YouTube 以外の動画サイト・アプリ」を見ていると答えた人 (N=849) であり、年齢ごとに分析母数が異なる。

全体では「ユーチューバー」が最も多く、「キャラクター・アニメ」「おもちゃの紹介」がそれに続く。3歳児では「キャラクター・アニメ」と「おもちゃの紹介」への接触率がとくに高い。

2. スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化

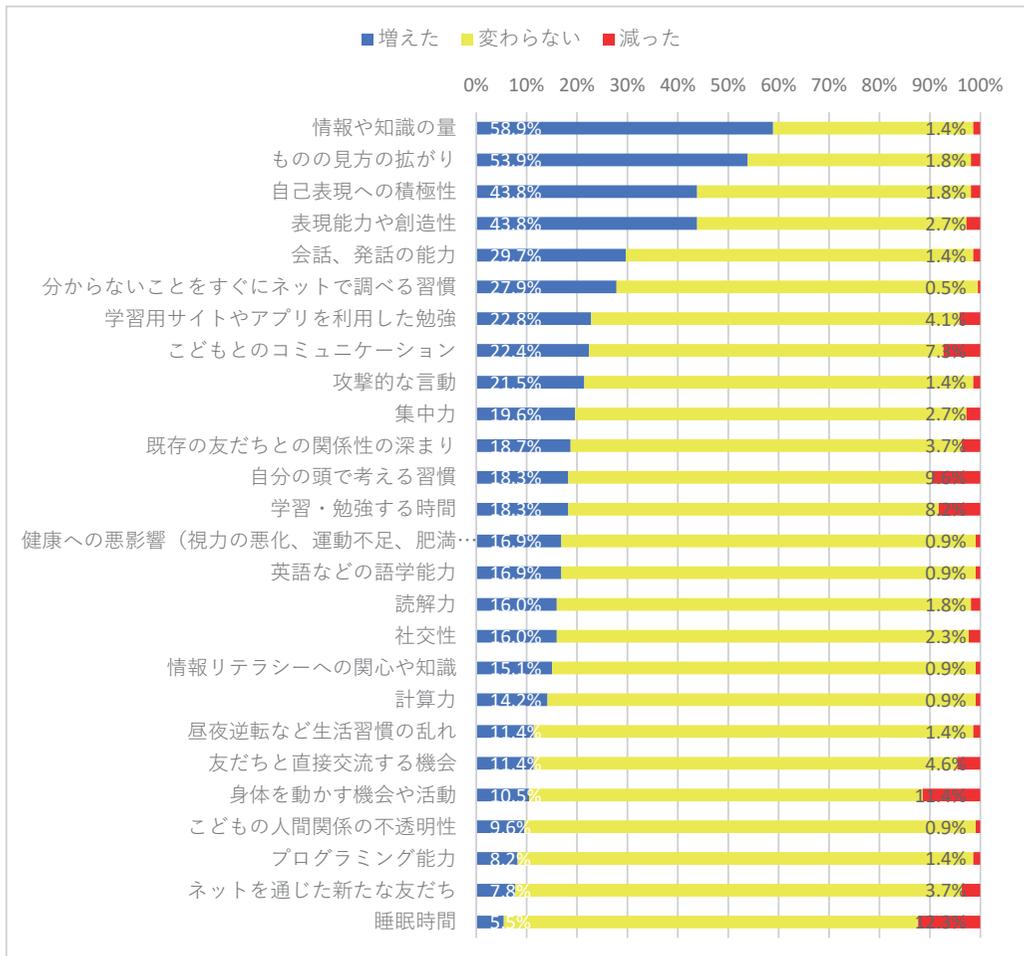


図 2.1 スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化 (N=219、「増えた」の比率に従って降順に整序した)

Q8 ではスマートフォンを使うようになってからの子どもの変化を質問した。調査では「1.増えた」「2.やや増えた」「3.変わらない」「4.やや減った」「5.減った」の5択であったが、ここでは1.2.を合算し「増えた」比率とし、4.5.を合算して「減った」比率とした。また、図では「増えた」の比率に従って降順に整序した。

図に示されるとおり、プラスの影響についてはいずれの項目も「増えた」が「減った」を上回っている。

とくに「増えた」が多かったのが、「情報や知識の量(58.9%)」「ものの見方の広がり(53.9%)」「自己表現への積極性(43.8%)」「表現能力や創造性(43.8%)」である。

否定的な影響の「攻撃的な言動」「健康への悪影響（視力の悪化、運動不足、肥満など）」が「増えた」と答えた人はそれぞれ21.5%、16.9%にすぎなかった。

3. 幼児のスマホ依存

Q9ではヤングの8項目基準を元に、我々が幼児向けに一部修正を加えた「スマートフォン依存（以降「スマホ依存」）の判定項目」に該当するか否かを質問した。この質問に答えたのはQ4で「スマートフォンを利用している」と答えた219名である。幼児に直接尋ねることは困難であるので、あくまで母親が自分の幼児に関して判断した結果である。

表 3.1 幼児向けスマホ依存判定項目ごとの該当率

すぐにスマートフォンを使いたがる(没入)	69.4%
やめようね、と言ってもスマートフォンをやめない(制御不能)	47.0%
スマートフォンを取り上げると機嫌が悪くなる(禁断症状)	40.6%
決めた時間以上にスマートフォンをいじっていてやめられない(時間延長)	37.0%
スマートフォンに夢中で約束をやぶったり、食事をとらなかつたりすることがある(生活上のトラブル)	22.8%
時間つぶしのためにスマートフォンをいじっている(現実逃避)	53.4%
スマートフォンをしていたのに、していなかったフリをすることがある(隠蔽)	18.7%
必要もないのに、いつまでもだらだらスマートフォンをいじっている(耐性・麻痺)	30.1%

※括弧内は質問の趣旨で、アンケート上には表されない。

ちなみにヤング8項目基準の一般向けの質問文は下記の通りである(日本語は総務省情報通信政策研究所と橋元研究室の共同研究バージョンで毎年実施している「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」で使用しているもの)。

- (1) ネットを利用していない時も、ネットのことを考えている(没入)
- (2) より多くの時間、ネットをしないと満足できない(耐性・麻痺)
- (3) ネットの利用時間をコントロールしようとしても、うまくいかない(制御不能)
- (4) ネット利用を控えようとすると、落ち着かなくなったり、いらいらしたりする(禁断症状)
- (5) もともと予定していたよりも長時間ネットを利用してしまう(時間延長)
- (6) ネットのせいで、家族・友人との関係が損なわれたり、仕事や勉強などがおろそかになりそうになっている(生活上のトラブル)
- (7) ネットを利用している時間や熱中している度合いについて、家族や友人に嘘をついたことがある(隠蔽)
- (8) 現実から逃避したり、落ち込んだ気分を盛り上げるためにネットを利用している(現実逃避)

通常のヤング8項目基準の原則に従い、表3.1.1のうち、5項目以上に「あてはまる」と答えた場合に「スマホ依存傾向が疑われる幼児(以降、「依存傾向者」)。該当者の比率を「依存傾向者率」と呼ぶ」とした。

この質問の回答対象は既述の通りスマートフォン利用幼児であるが、一般に「依存率」という場合、分母は分析母数全体(たとえば中学生対象調査であれば、分析した中学生全体に対する依存者の割合)であることが多いため、ここでも、分析の分母を調査対象者全体(N=1240)、分子を「依存傾向者の数」として計算した。

表 3.2 年齢別・男女別幼児の依存傾向者率(参考：利用者中の依存傾向者率)

	全体中 (N=1240)	利用者中 (N=219)
3歳	2.6%	10.5%
4歳	9.0%	41.2%
5歳	4.5%	21.9%
6歳	1.9%	13.0%
7歳	3.2%	29.4%
8歳	5.8%	37.5%
9歳	4.5%	46.7%
10歳	9.7%	41.7%
男児	5.4%	32.1%
女児	4.9%	26.5%
全体	5.2%	29.2%

表 3.2 には、年齢別・男女別の幼児の依存傾向者率を示した。また、参考として分析母数をスマートフォン利用者限定した依存傾向者率の比率も示した。

表に示される通り、依存傾向者率は3～10歳全体では5.2%であるが、10歳で9.7%という数値を示していることは注目すべきであろう。さらにスマートフォン利用者を分析母数として依存傾向者率を見た場合、3歳で10.5%、4歳で41.2%の高率を示し、9歳10歳で40%を超えていることを見れば、やがて年齢が増してスマートフォン利用率がほぼ100%に達する時期になったとき、全体を母数とした場合の依存傾向者率もかなりの高率となることが容易に予想される。

ちなみに総務省情報通信政策研究所と橋元研究室の共同研究による全国調査「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」の2018年度結果(総務省サイト上のほか『情報通信白書』にも記載)によれば、ヤング基準を用いたネット依存率は10代19.9%、20代9.1%である。

なお、今回の調査における依存傾向者率と母親の学歴、母親職業、世帯年収との関係を χ^2 検定で分析したところ(「依存/非依存」とそれぞれのカテゴリーとのクロス集計)、いずれの属性とも依存傾向者率とは有意な関係を持たなかった。

また、依存傾向率とは別に、8項目中、いくつ該当項目があったかを「依存傾向度」として計算しているが、この依存傾向度に関し、母親の依存傾向度と子の依存傾向度との相関をとったところ(対象は子どもがスマートフォン利用者の219)、相関係数0.328で危険率0.1%未満の水準で有意な関係が見られた。

4. 母親による子どものメディア利用に関する取り組みと介入

スマートフォンやタブレット端末などの情報機器が日常に溢れ、子どものメディア利用が低年齢化しつつある状況において、アメリカ小児学会や世界保健機関（以下 WHO）では乳幼児のメディア利用に関し、心身の発達や健康への悪影響を懸念し、その利用を制限する提言を行っている。例えばアメリカ小児学会はその提言内において、1歳以下の乳児のメディア利用は避け、また、2歳から5歳の子どもは一日に1時間以内、高品質のプログラムのみを視聴することといった指針を提示している（American Academy of Pediatrics, 2016）。同様に、WHOでは、スクリーンタイムが直接的な要因というよりも、座位で頭も体を動かさない活動時間が多いことは子どもの肥満や発達に悪影響があるとし、1歳以下の乳幼児の座位でのスクリーンタイムは全くないほうが望ましく、2歳から4歳までの幼児は座位でのスクリーンタイムを一日1時間以内に制限することを親や保護者、教育者に対し推奨している（World Health Organization, 2019）。子どもにとってもスマートフォンが身近な存在になりつつある昨今、スマートフォンなどの情報機器とどのように付き合えばよいか、親にとっても悩ましい問題である。

子どものメディア利用時間を制限するといった親による子どものメディア利用への介入や取り組みは”Parental Mediation（以下 PM）”と呼ばれ、もともとは子どものテレビ視聴を管理したり、制限したりするといった親の積極的な役割を指していたが、近年ではゲーム、インターネットなど多様なメディア利用に対して援用されている（Clark, 2011）。

日本でも子どものインターネット利用に対する親の管理方法や介入実態に関連した調査がなされている。例えば、子どもがインターネットを利用していると回答した0歳から9歳までの低年齢層の子どもの保護者1,294人に、家庭でインターネットの使い方について何かルールを決めているか尋ねた結果、「ルールを決めている」という回答は80.8%であった（内閣府, 2019）。しかしながら、一般社団法人日本教育情報化振興会(2018)が実施した乳幼児のIT機器利用に関する調査によれば、PMの一つの方法である、スマートフォンのペアレンタルコントロールについて、「利用している」という回答は若干5.2%に留まり、66.2%もの親が「ペアレンタルコントロールが何なのかわからない」と回答している。PMに関して、家庭内で子どものインターネット利用のルールは決めているものの、ルールや管理に関して親が認知する情報や知識、手段については乏しく、発展状況といえよう。

海外におけるPMの先行研究では、親による子どものメディア利用への取り組みや介入は子どものメディア利用やスキルに大きな影響を及ぼしており（Nikken & Schols, 2015）、インターネット利用のネガティブおよびポジティブな影響を予測している親ほど、子どものメディア利用に対する何らかの措置や取り組みを行っているという（Nikken & Jansz, 2014）。親が子どものインターネットや情報利用に関して関心を持ち、積極的なPMを講ず

ることは子どものインターネットや情報機器とのリスクを低減するだけでなく、より安全で、豊かな IT 利用をもたらすのではないだろうか。

そこで、本章では母親がどのような PM を行っているのか、その実態を概観するとともに、PM の積極度により母親の子どものスマートフォン利用時間、スマートフォン依存度、そして子どものスマートフォン利用に対する効用や、母親自身の情報機器利用の効用の認知がどのように異なるのかを検討する。

4.1 親による子どものメディア利用への取組と介入 : Parental Mediation

日本における先行研究では、PM の実態把握に関して、メディア利用のネガティブな影響を想定し、フィルタリングやペアレントコントロールの実施といった子どものメディア利用を制限するような取り組みや介入が中心に検討されている。しかしながら、親が子どもと積極的にメディアを共に利用するといったポジティブな介入方法もあるだろう。そこで、親による子どものメディア利用への介入や取り組みを包括的に把握するため、EU25 カ国の 9 歳から 16 歳までの子どもに対する PM を調査した Dürager & Livingstone(2012)から Technical Mediation (技術的メディア利用介入) 3 項目、Monitoring (監視) 3 項目、Restrictive Mediation (メディア利用の制限) 2 項目、Active Mediation of Internet Safety (安全なインターネット利用のための積極的メディア利用介入) 3 項目、Active mediation of Internet Use (インターネット利用の積極的メディア利用介入) 3 項目の合計 14 項目、Restrictive Mediation に関しては Sanders, Parent, Forehand & Breslend (2016) より 2 項目を追加し、3 歳から 10 歳の子どもを対象とした本調査と日本の状況や文脈に照らし合わせて和訳と文言修正を行い、設問を設定した。設問文は「お子さんのインターネットやスマートフォンの利用やルールについて、あなたは次のことをしていますか。あてはまるものをお選びください。」で、「1. 常にしている」、「2. ときどきしている」、「3. あまりしていない」、「4. まったくしていない」の 4 件法でその実施状況を尋ねた。尚、本章の分析はスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末のいずれかの機器を子どもに利用させていると回答した母親 (N=736) を対象とする。

4.2 Parental Mediation の属性別実施状況

表 4.1 に PM 全 14 項目につき、全体、子どもの性別および学齢別の実施状況を示す。最も実践されている親による子どものメディア利用に対する措置は Active mediation of Internet Use における「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」で、およそ半数強の 57.7% の母親が実施している。次いで、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする (49.2%)」、「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える (39.7%)」であった。最も実施されていない PM は Monitoring

表 4.1 全体／子どもの性別、学齢別 Parent Mediationの実施割合(単位：%)

Parental mediation		全体	男児	女児	χ^2 値	検定結果	未就学	就学	χ^2 値	検定結果
		N=736	365	371			263	473		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	22.3	23.6	21.0	0.68	n.s.	15.6	26.0	10.59	**
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	18.1	16.2	19.9	1.78	n.s.	11.0	22.0	13.72	***
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	22.0	21.6	22.4	0.06	n.s.	14.4	26.2	13.63	***
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	15.9	14.2	17.5	1.48	n.s.	9.5	19.5	12.50	***
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	17.3	15.1	19.4	2.43	n.s.	8.4	22.2	22.65	***
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	17.8	15.6	19.9	2.36	n.s.	11.8	21.1	10.11	**
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	25.5	24.7	26.4	0.30	n.s.	17.1	30.2	15.30	***
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	29.5	29.6	29.4	0.00	n.s.	18.3	35.7	24.84	***
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	28.3	27.4	29.1	0.27	n.s.	18.3	33.8	20.23	***
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	30.6	32.6	28.6	1.41	n.s.	20.9	35.9	17.99	***
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	22.3	20.3	24.3	1.69	n.s.	13.7	27.1	17.46	***
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	39.7	38.6	40.7	0.33	n.s.	22.8	49.0	48.61	***
Active mediation of Internet Use	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	30.2	31.0	29.4	0.22	n.s.	17.9	37.0	29.36	***
	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	32.6	30.4	34.8	1.59	n.s.	25.9	36.4	8.49	**
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	57.7	59.2	56.3	0.61	n.s.	54.8	59.4	1.50	n.s.
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話を	49.2	48.5	49.9	0.14	n.s.	37.3	55.8	23.27	***

※N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と子どもの年齢、性別のクロス集計の χ^2 検定結果。***: $p < .001$, **: $p < .01$, n.s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

(監視)の「子どもが SNS やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する (17.3%)」であるが、本調査対象の子どもの年齢を鑑みると、そもそも子どもが SNS に登録、利用していないため、この措置自体が必要ないことが考えられる。概してインターネット利用や安全性確保のための母親による直接的なメディア利用介入が実施され、それらと比較すると技術的な利用措置、監視といった間接的な介入に対しては比較的消極的である。取り組み自体に設定などの手間や時間がかかったり、ペアレンタルコントロールのように知識が必要とされるような PM の手段や方法は母親に敬遠されるのかもしれない。

子どもの性別においては、全ての項目で有意差はなかった。学齢では、未就学児と比較して就学児が「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」以外の全ての項目で有意に回答割合が高く、残差分析の結果でも、有意に就学児の回答割合が高かった。子どもの学齢が上がるとともに親が PM を講ずるようになるのであろう。特に、Restrictive Mediation (メディア利用の制限) は就学児ほど取り組みがなされており、このことから、就学児になるにつれ、SNS など友人などの他者と交流したり、コミュニケーションしたりするために情報機器を利用するようになることが示唆される。

つづいて、母親の属性別に PM の実施状況を概観する。母親の年代別 (表 4.2) の関連では、「子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している」、「子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている」、「子どもが SNS やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する」、「インターネットのコンテンツや内容を制限する」の項目において、母親の年代での有意差はみられなかった。「特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている」において、30 代の母親で回答割合が低く、40 代の母親で回答割合が高い傾向があり、それ以外の全ての項目では 30 代の母親で有意に回答割合が低く、40 代の母親で回答割合が高かった。母親の年代別の PM は、40 代以上ほど実施率が高く、次いで、20 代以下、総じて 30 代が最も実施率が低い傾向があるといえよう。学齢期の子どもを持つであろう 40 代の母親で実施率が高いと推察される。

次に母親の職業別の結果を表 4.3 に示す。フルタイム、パートタイム・アルバイト、専業主婦の順で総じて PM 実施率が高く、「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える」、「子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする」、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」の項目を除いた全ての項目で有意差もしくは有意な関連がみられた。残差分析の結果においても、「子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している」、「子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている」、「特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている」、「子どもが SNS

表 4.2 母親の年代別 Parent Mediation の実施割合 (単位 : %)

Parental mediation		母親年代 (N=736)				検定 χ^2 値	検定 結果
		全体	20代以下	30代	40代以上		
	N	736	58	443	235		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	22.3	20.7	21.7	23.8	0.51	n.s.
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	18.1	17.2	16.5	21.3	2.42	n.s.
	特定のウェブサイトをブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	22.0	22.4	19.2	27.2	5.80	†
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	15.9	20.7	13.8	18.7	3.90	n.s.
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	17.3	20.7	14.4	21.7	6.18	*
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	17.8	17.2	15.1	23.0	6.49	*
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	25.5	24.1	22.3	31.9	7.46	*
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	29.5	24.1	25.7	37.9	11.75	**
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	28.3	22.4	26.4	33.2	4.54	n.s.
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	30.6	24.1	27.1	38.7	11.02	**
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	22.3	20.7	19.4	28.1	6.76	*
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	39.7	29.3	37.9	45.5	6.54	*
	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	30.2	24.1	27.8	36.2	6.23	*
Active mediation of Internet Use	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	32.6	31.0	28.4	40.9	10.83	**
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	57.7	46.6	55.5	64.7	8.50	*
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	49.2	37.9	45.4	59.1	14.85	**

※N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の年代別のクロス集計の χ^2 検定結果。**: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$, n.s. : 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.3 母親の職業別 Parent Mediationの実施割合(単位：%)

Parental mediation	N	職業 (N=728)			χ ² 値	検定結果
		パートタイム フルタイム	パート タイム	専業主婦		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	29.9	25.2	16.9	12.27	**
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	28.0	18.6	13.0	16.85	***
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	28.7	25.2	16.9	10.75	**
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	25.0	18.6	9.8	20.86	***
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	25.0	20.4	11.8	15.22	***
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	24.4	17.7	15.1	6.49	*
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	33.5	26.5	21.3	8.79	*
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	36.0	32.7	24.9	7.88	*
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	34.1	30.1	24.9	5.04	†
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	37.2	31.4	27.2	5.22	†
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	29.3	23.5	18.6	7.31	*
Active mediation of Internet Use	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	31.7	35.8	31.1	1.50	n.s.
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	56.1	55.8	60.4	1.48	n.s.
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	47.6	52.2	48.2	1.12	n.s.

※N 数は母親の職業において無職および学生を除き、子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の職業別のクロス集計のχ²検定結果。***: p< .001, **: p< .01, *: p< .05, †: p< .10, n. s.: 有意差なし。

※残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する」、「子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する」、「写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している」、「子どもが子ども自身の SNS プロフィール、アカウントを持つことを制限している」、「子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする」、「良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する」の 9 項目において、有意にフルタイムの実施率が高く、専業主婦の実施率が低く、概してフルタイムほど PM の実施に積極的であり、専業主婦において消極的であるようすが伺える。Active mediation of Internet Use（インターネット利用の積極的メディア利用介入）は 3 項目全てにおいて職業間での有意差がなく、職業に関わらず実施されているといえよう。

続いて母親の学歴別に PM の実施状況を示す（表 4.4）。総じて高卒以下、短大・高専卒、大卒以上のグループ間における PM 実施率に有意差はなく、「インターネットにアクセスできる時間を制限する」のみ、有意差が認められた。全体的に短大・高専卒が他の層と比較して PM の実施割合が低い傾向がみられる。中でも、Monitoring（監視）内の「子どもが SNS やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する」は残差分析の結果、短大・高専卒の実施率が有意に低かった。それに対して、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」の 2 項目においては短大・高専卒の実施率が有意に高い。「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」については、高卒以下で有意に実施率が低い。高卒以下においては、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」において、実施率が他の層と比較して有意に低く、Monitoring（監視）の 3 項目においては、有意差はないものの他層より実施率がやや高いことが特徴的である。高卒以下の層では子どもと物理的場所を共にするような PM 手段よりも、自らが手間なく管理できるような PM が好まれているのかもしれない。大卒以上においては、「インターネットにアクセスできる時間を制限する」、「子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする」の 2 項目において、残差分析の結果、有意に実施率が高い結果となった。

最後に世帯年収別の関連みると、総じて年収が高いほど PM の実施率が上がり、特に世帯年収 800 万以上の層で PM の実施率が有意に高い傾向がみられる（表 4.5）。「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える」、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」の 2 項目のみ、有意差はなかったものの、「子どもが子ども自身の SNS プロフィール、アカウントを持つことを制限している」の項目で 10%水準の有意差がみられ、それ以外の全ての項目において 5%水準未満で有意差が認められた。残差分析の結果においても「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える」の項

表 4.4 母親の学歴別 Parent Mediation の実施割合 (単位 : %)

Parental mediation		母親学歴 (N=726)			χ ² 値	検定結果
		高卒以下	短大および 高専・専門 学校卒	大卒以上		
N		209	254	263		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	23.9	18.9	24.3	2.64	n.s.
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	16.7	14.6	22.4	5.74	†
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	26.3	18.1	22.4	4.53	n.s.
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	19.1	12.2	16.7	4.38	n.s.
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	19.6	15.4	17.5	1.46	n.s.
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	19.1	15.4	19.0	1.56	n.s.
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	28.2	22.4	26.2	2.15	n.s.
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	30.1	28.0	30.8	0.54	n.s.
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	29.7	26.8	29.3	0.59	n.s.
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	27.8	26.4	37.3	8.41	**
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	24.9	18.9	23.6	2.75	n.s.
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	38.8	42.1	38.0	1.01	n.s.
Active mediation of Internet Use	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	32.5	26.0	32.7	3.45	n.s.
	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	30.6	28.7	37.6	5.14	†
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	49.8	63.0	59.7	8.73	*
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	44.0	54.7	49.0	5.30	†

※N 数は学歴において「わからない/答えなくない」の回答を除き、子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の学歴別のクロス集計のχ²検定結果。**: p< .01, *: p< .05, †: p< .10, n. s. :有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.5 母親の世帯年収別 Parent Mediation の実施割合 (単位 : %)

Parental mediation		母親世帯年収 (N=596)				χ ² 値	検定結果
		400万未満	400万未満 -600万未満	600万以上 満	800万以上 -800万未満		
	N	140	201	135	120		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	12.9	18.9	25.2	31.7	15.45	**
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	14.3	15.9	18.5	28.3	10.17	*
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	17.1	19.9	20.7	33.3	11.49	**
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	12.1	12.9	17.0	23.3	7.93	*
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	11.4	11.9	18.5	30.0	21.37	***
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	11.4	16.9	16.3	26.7	10.77	*
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	19.3	19.4	24.4	35.8	13.32	**
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	23.6	26.9	31.1	38.3	7.72	†
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	22.9	26.4	28.9	38.3	8.34	*
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	23.6	31.3	28.1	40.0	8.69	*
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	14.3	21.4	22.2	30.8	10.41	*
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	34.3	38.3	39.3	46.7	4.29	n.s.
	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	20.7	31.3	24.4	42.5	16.92	***
Active mediation of Internet Use	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	25.7	29.4	33.3	46.7	14.74	**
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	50.7	60.2	53.3	67.5	9.09	*
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	42.9	48.8	49.6	57.5	5.58	n.s.

※N 数は世帯年収において「わからない/答えなくない」の回答を除き、子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の世帯年収別のクロス集計のχ²検定結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10, n.s.: 有意差なし。

※残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

目を除く全ての項目で世帯年収 800 万以上の層の実施率が有意に高かった。それに対し、「子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している」、「子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する」、「子どもが訪れたウェブサイトを確認する」、「インターネットにアクセスできる時間を制限する」、「子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする」、「良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する」、「子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする」、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」の 8 項目で残差分析の結果、世帯年収 400 万未満の層の実施率が有意に低いことが示された。

4.3 母親の Parent Mediation と子どもの情報機器利用時間およびスマホ依存度

PM は子どもの情報機器利用にどのような影響を及ぼすのだろうか。Lauricella, Wartella & Rideout (2015)によれば、3歳から17歳までの子どもを持つ615人の親に対して実施した質問紙調査をもとに、子どものスクリーンタイムと親の子どもへのメディア利用介入との関連について分析した結果、親の子どもへのメディア利用介入スタイルが子どものスクリーンタイムに対しポジティブな影響を及ぼしていたという。また、Sanders, Parent, Forehand & Breslend(2016)によれば、0歳から8歳の2300人の親に対し行った調査結果において、テレビ、パソコン、スマートフォンおよびタブレット端末の4つの機器の利用時間と親の情報機器に対する効用認知や態度がポジティブであるほど、子どもの情報機器利用時間が長くなる傾向があるという。そこで本節では、PM14項目を単純加算した平均を算出し、PMの実施度に応じ、低位群、中位群、高位群の3群に分かれるように閾値を定め(表4.6)、これら3群により、子どもの情報機器利用時間およびスマホ依存度に差異が見られるかを探索的に分析した。対象は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコンもしくはタブレット端末を利用させている母親736人である。

表 4.6 Parental Mediation 4 群の概要

	区間	N	構成比(%)	平均値	SD
低位群	$16 \leq x \leq 21$	250	34.0		
中位群	$22 \leq x \leq 33$	238	32.3	29.943	12.503
高位群	$33 \leq x \leq 64$	248	33.7		

子どものスマートフォン利用時間、スマートフォン・携帯電話・パソコン・タブレット機器の利用時間合計およびスマホ依存度を、子どもの性別、学齢別に t 検定および PM3 群別に一元配置分散分析を行った結果を表 4.7 に示す。スマートフォンの利用時間については、子どもの性別に差はないものの、学齢別では就学児が 69.8 分と未就学児の利用時間 48.2 分と比

べて有意にスマートフォン利用時間が長い。母親の PM 別では、低位群 41.3 分、中位群 63.5 分、高位群 73.3 分の順に子どものスマートフォン利用時間が長い傾向がみられ、母親が PM を実施しているほど、子どものスマートフォン時間が長いことが示唆される。

表 4.7 子どもの性別、年齢別および Parental Mediation 得点別
情報機器利用時間とスマホ依存

		スマートフォン		スマートフォン・ 携帯電話・PC・ タブレット端末利 用時間合計		スマホ依存		
		N	利用時間	N	用時間合計	N	スマホ依存	
全体		219	58.6	736	68.6	219	3.19	
性別	男児	106	62.2	365	73.4	106	3.36	
	女児	113	55.3	371	64.0	113	3.04	
	t値	0.57	n.s.	1.44	n.s.	0.98	n.s.	
学齢	未就学	113	48.2	263	69.4	113	2.87	
	就学	106	69.8	473	68.2	106	3.54	
	t値	-2.77	*	0.17	n.s.	-2.04	*	
Parent Mediation Style	低位群	83	41.3	a 250	55.4	a 83	2.82	a
	中位群	57	63.5	a 238	69.3	ab 57	2.72	a
	高位群	79	73.3	a 248	81.3	b 79	3.92	b
	F値	2.83	†	5.46	**	5.82	**	

※男女別および学齢別は t 検定結果、Parent Mediation 群別は一元配置分散分析結果。a, b の記号は Tukey の多重範囲検定により同符号間では危険率 5%未満の水準で有意差がないことを示す。*: p<.01, †: p<.10, n. s.: 有意差なし。

※スマートフォン利用時間およびスマホ依存の N 数は、子どもにスマートフォンを利用させていると回答した回答者数。スマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末の利用時間の N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末のいずれかの機器利用させている回答者数。

スマートフォンに加え、携帯電話、パソコン、タブレット端末 4 種の情報機器利用合計時間は子どもの性別、学齢別にみて有意差はないものの、母親の PM 別では、スマートフォン利用時間同様、低位群、中位群、高位群の順に子どもの情報機器利用時間が有意に長い傾向がある。母親の PM 実施度が高いほど、子どもの情報機器の利用時間が長くなるという結果は前述の Sanders et al. (2016) と一致する。

最後にスマホ依存尺度得点では、子どもの性別に差は見られないが、学齢別では学齢が上がるほど得点が高くなる傾向があり、未就学児と就学児との間に有意差がみられた。母親の PM 別では低位群、中位群、高位群の順に得点結果が高く、低位群、中位群と高位群の間にその得点に有意な差が認められた。

以上の結果から、母親の PM 得点が高いほど、子どものスマートフォン利用時間および

スマートフォン・携帯電話・パソコン・タブレット機器の利用時間合計が長く、スマホ依存尺度得点が高いことが示された。しかしながら、子どもの情報機器利用時間が長く、スマホ依存の傾向があるから母親がPMを実施するのか、その逆なのかは明らかではない。したがって、これらの因果関係についてはさらなる調査分析が待たれる。

4.4 母親の Parental Mediation と子どものスマートフォン利用の効用認知

母親の子どもへのメディア利用への介入と母親による子どものスマートフォン利用の効用に対する認知はどのような関係があるのだろうか。本節では母親の Parental Mediation³群と子どものスマートフォン利用の効用認知に関する Q8 について検討する。Q8 では子どものスマートフォン利用の結果、子どもの様々な能力やスキル、知識、身体、言動、生活時間や習慣、人間関係にどのような変化があったかについて 26 項目を設定し、「お子さんがスマートフォンを使うようになってから、お子さんに、次のような変化はありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選択してください。※変化を感じていない場合は「変わらない」を選択してください。」の設問文で、「増えた」「やや増えた」「変わらない」「やや減った」「減った」の選択肢で尋ねている。対象は子どもにスマートフォンを利用させていると回答した母親 (N=219) である。

図 4.1 に 26 項目に対し、「増えた」「やや増えた」の回答を合算し、「増えた」に、「やや減った」「減った」の回答を合算し、「減った」に、「変わらない」の 3 回答を「増えた」降順に並べ替えた結果を示す。「情報や知識の量」、「ものの見方の広がり」、「自己表現への積極性」、「表現能力や創造性」の項目で約半数前後の母親が増えたと回答した。子どものスマートフォンの利用について、知識や情報、視野の広がり、表現力や創造性の増加といった点で母親は概ねポジティブな評価をしているといえよう。「会話、発話能力」についても「増えた」の回答が 29.7%と、約 3 割の母親がポジティブな評価をしている。

翻って、スマートフォンのネガティブな効用に対しては、「攻撃的な言動」について 21.5%の母親が増えたと回答、また、「健康への悪影響（視力の悪化、運動不足、肥満など）」も 16.9%の母親が増えたと回答し、スマートフォン利用のネガティブな効用も少なからず母親に認知されていることが示された。しかしながら、減少したものに関する回答においては「睡眠時間(12.3%)」「身体を動かす機会や活動(11.4%)」、「自分の頭で考える習慣(9.6%)」、「学習・勉強する時間(8.2%)」、「子どもとのコミュニケーション(7.3%)」との回答結果となり、全体的に多くはないものの、WHO やアメリカ小児学会が注意喚起している心身の発達や生活時間への影響が懸念は少なからずあるといえよう。スマートフォンがもたらす幅広い情報や機会は子どもの能力や世界を拓いていくと同時に、健康面でのリスクや悪影響をもたらす可能性があるという二面性がある。しかしながら、ネガティブな効用やリスクを回避するだけでなく、ポジティブに活用されることによる効用やメリットが拡大する

ような使い方、使わせ方も併せて検討していくことに意義があるだろう。

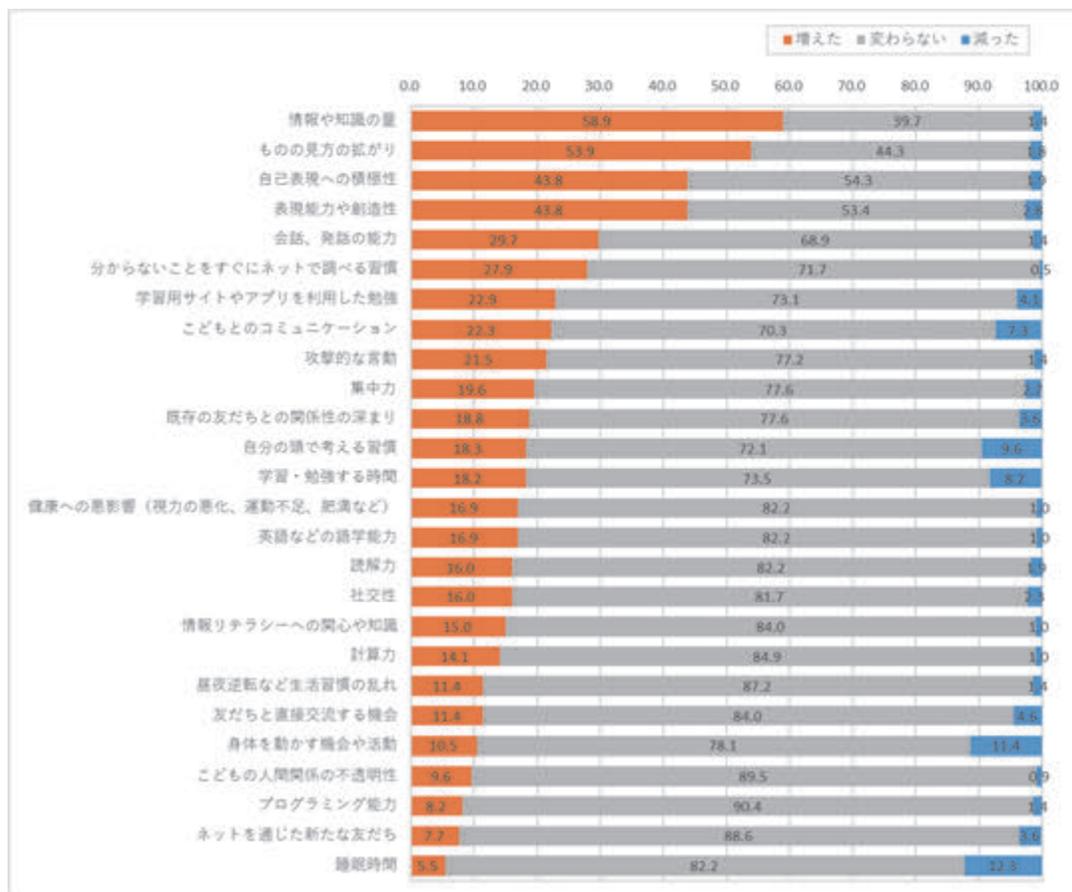


図 4.1 子どものスマホ利用効用認知回答結果 (%)

※N数は、子どもにスマートフォンを利用させていると回答した回答者数(N=219)。「増えた」「やや増えた」の回答を合算し、「増えた」に、「やや減った」「減った」の回答を合算し、「減った」に、「変わらない」の3回答を「増えた」降順に並べ替えた結果。

続いて、これら子どものスマートフォン利用の効用認知について母親のPM群別に比較した結果を表4.8に示す。増えたものについて、「表現能力や創造性」、「会話、発話の能力」、「こどもとのコミュニケーション」の3項目について有意差はないものの、「英語などの語学能力」、「計算力」の2項目においてPM3群間でやや有意傾向があり、それ以外の項目で3群の間に有意差がみられた。減ったものについては、「睡眠時間」および「身体を動かす機会や活動」ともに有意差はなかった。概ね、全ての項目において高位群の母親がスマートフォン利用のポジティブおよびネガティブな効用のいずれも回答率が高く、低位群ほど回答率が低い結果となり、PMを実施しているほど、スマホの効用についてポジティブ、

ネガティブなものともに認識しているといえよう。この結果は、母親の PM への積極度は少なからず子どものスマートフォン利用の効用認知に影響を与えていることを示唆しており、興味深い。親の子どもの情報機器利用へのかかわり方や介入の仕方が、子どもの情報機器利用をより豊かに、安全なものにするとすれば、子どものメディアリテラシー教育だけでなく、親へのメディアリテラシー教育や安全な利用への知識の提供などが求められよう。

表 4.8 母親の PM 群別 子どものスマートフォン利用の効用認知 (%)

N=219		Parent Mediation			χ ² 値	検定結果
		低位群	中位群	高位群		
		83	57	79		
増えた	分からないことをすぐにネットで調べる習慣	12.0	21.1	49.4	29.83	***
	自分の頭で考える習慣	10.8	12.3	30.4	12.20	**
	学習用サイトやアプリを利用した勉強	7.2	19.3	41.8	27.96	***
	学習・勉強する時間	6.0	14.0	34.2	22.41	***
	情報や知識の量	45.8	66.7	67.1	9.51	**
	ものの見方の広がり	42.2	57.9	63.3	7.77	*
	自己表現への積極性	33.7	43.9	54.4	7.04	*
	表現能力や創造性	37.3	49.1	46.8	2.35	n.s.
	英語などの語学能力	9.6	19.3	22.8	5.30	†
	プログラミング能力	3.6	1.8	17.7	14.95	***
	読解力	3.6	15.8	29.1	19.60	***
	会話、発話の能力	24.1	26.3	38.0	4.15	n.s.
	計算力	8.4	12.3	21.5	5.93	†
	情報リテラシーへの関心や知識	10.8	8.8	24.1	7.90	*
	ネットを通じた新たな友だち	1.2	3.5	17.7	17.37	***
	既存の友だちとの関係性の深まり	9.6	21.1	26.6	7.91	*
	こどもの人間関係の不透明性	3.6	5.3	19.0	12.70	**
	こどもとのコミュニケーション	20.5	17.5	27.8	2.30	n.s.
	友だちと直接交流する機会	4.8	3.5	24.1	19.57	***
	社交性	10.8	10.5	25.3	8.02	*
	昼夜逆転など生活習慣の乱れ	9.6	1.8	20.3	11.62	**
	健康への悪影響（視力の悪化、運動不足、肥満など）	7.2	15.8	27.8	12.32	**
	集中力	13.3	14.0	30.4	9.06	*
	攻撃的な言動	19.3	12.3	30.4	6.81	*
減った	睡眠時間	14.5	8.8	12.7	1.02	n.s.
	身体を動かす機会や活動	7.2	10.5	16.5	3.47	n.s.

※N 数は子どもにスマートフォンを利用させていると回答した回答者数。増加項目については「増えた」「やや増えた」と回答した割合、減少項目については「減った」「やや減った」と回答した割合と Parent Mediation 3 群のクロス集計の χ^2 検定結果。***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$, n. s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

4.5 母親の Parental Mediation と情報機器利用効用認知

最後に母親自身の情報機器利用の効用認知について、PM 群別に検討する。Q22 では母親の情報機器の効用認知について尋ねている。設問文は「仕事と家庭における情報機器利用の考え方などについて、あなたのお考えにあてはまるものをお選びください。※情報機器を所持していない方は「3. どちらとも言えない」をお選びください。」である。「まったくそう思う」「そう思う」と回答した割合と Parent Mediation³ 群のクロス集計結果を表 4.9 に示す。

「スマートフォンは私の生活のペースを加速させている」、「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」、「スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている」、「スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている」の 4 項目で 3 群間に有意差が認められ、4 項目全てにおいて高位群の回答率が高い。子どものスマートフォン利用の効用認知同様、母親の情報機器の利用効用認知についてもポジティブ、ネガティブ両方の効用が認知されており、PM を積極的にやっているほど、自身の情報機器利用の効用をより認知する傾向があるといえよう。

高位群においては、特に「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」というポジティブな評価に対して、中位群および低位群と比較して有意に回答割合が高く、情報機器が時間効率を高めていることに対する評価が高い。中位群においては、「スマートフォンは私から時間を奪っている」の回答率が有意に高く、逆にスマートフォンは時間を奪う存在であるという認識が他の層と比較して高いといえよう。低位群では、いずれの項目も他の層と比較して回答率が低い傾向があり、PM に消極的なほど、自身の情報機器利用の効用に対する関心がそもそも低いのかもしれない。

表 4.9 母親の PM 群別 母親の情報機器効用認知 (%)

	Parent Mediation			χ ² 値	検定結果
	低位群	中位群	高位群		
N=736	250	238	248		
スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	45.2	50.0	48.0	1.14	n.s.
スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	23.2	32.4	38.7	14.06	***
スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	45.2	51.3	50.0	2.02	n.s.
スマートフォンは私から時間を奪っている	43.6	52.9	46.0	4.58	n.s.
スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている	26.0	26.1	28.2	0.41	n.s.
スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	26.8	31.9	35.1	4.05	n.s.
スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	14.0	13.9	27.8	20.94	***
スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	25.2	45.8	46.0	29.73	***
スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	22.0	25.2	30.2	4.48	n.s.
スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている	6.8	12.2	14.9	8.49	*

※N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「まったくそう思う」「そう思う」と回答した割合と Parent Mediation³ 群のクロス集計の χ² 検定結果。***: p< .001, *: p< .05, n.s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

参考文献

- American Academy of Pediatrics [AAP] (2016). Media and young minds. *Pediatrics*, 138(5), e20162591. <https://doi.org/10.1542/peds.2016-2591>.
- Clark, L. S. (2011). Parental mediation theory for the digital age. *Communication theory*, 21(4), 323-343.
- Duerager, A., & Livingstone, S. (2012). How can parents support children's Internet safety? London: EU Kids Online Network.
- 橋元・久保隅・大野 (2019) 「育児と ICT—乳幼児のスマホ依存、育児中のデジタル機器利用、育児ストレス」, 『東京大学大学院情報 学環 情報学研究 調査研究編』No. 35, pp. 53-103.
- 一般社団法人日本教育情報化振興会 (2018) 「平成 29 年度公益財団法人 J K A 補助事業 教育現場の I C T 安全安心対策事業 0 歳児からの IT 機器利用と保護者の情報モラル 報告書」, <http://www2.japet.or.jp/file/ParentsMoral.pdf> (2020 年 1 月 5 日アクセス)
- Lauricella, A. R., Wartella, E., & Rideout, V. J. (2015). Young children's screen time: The complex role of parent and child factors. *Journal of Applied Developmental Psychology*, 36, 11-17.
- 内閣府 (2019) 「平成 30 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」 <https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h30/net-jittai/pdf-index.html> (2020 年 1 月 5 日アクセス)
- Nikken, P., & Schols, M. (2015). How and why parents guide the media use of young children. *Journal of child and family studies*, 24(11), 3423-3435.
- Nikken, P., & Jansz, J. (2014). Developing scales to measure parental mediation of young children's internet use. *Learning, Media and technology*, 39(2), 250-266.
- Sanders, W., Parent, J., Forehand, R., & Breslend, N. L. (2016). The roles of general and technology-related parenting in managing youth screen time. *Journal of Family Psychology*, 30(5), 641.
- World Health Organization. (2019). Guidelines on physical activity, sedentary behaviour and sleep for children under 5 years of age. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/311664/9789241550536-eng.pdf>. Accessed 13 November 2019.

5. 育児ストレスと、スマホの効用・情報源・子供の共感性・問題行動

本章では母親の育児ストレスを中心に、育児情報の信頼性、スマートフォン利用の効用・コスト感、子供の共感性および問題行動について分析を行う。

5.1 母親の育児ストレス

母親の育児ストレスの度合いについて、荒木、兼松、横沢、荒屋敷、相墨 & 藤島 (2005)による育児ストレスショートフォーム日本版より、「親自身に関するストレス」因子から「私は親であることを楽しんでいる」「私は子どもを産んでから、やりたいことがほとんどできないと感じている」「子どもを産んでから、私の周囲の人は、期待したほど援助やサポートをしてくれない¹⁾」「私は以前のように物事を楽しめない」「いつも、子どもが何か悪いことをすると、私のあやまちだと感じてしまう」の5項目を用い、点数化した。回答の選択肢は原典にならない、「まったく違う」「違う」「どちらともいえない」「そのとおり」「まったくそのとおり」の5件法を用い、順に1点～5点とした。5項目の点数を合算し、母親の育児ストレス得点とした。クロンバックの α 係数は0.70であった²⁾。

母親の育児ストレス得点について、子供（以降、第一子）の就学状況（就学児：小学生以上、未就学児：小学生未満）および子供の性別毎の平均値と標準偏差を表 5.1.1 に示す。育児ストレスの平均値は 14.00（最小値 5、最大値 25、標準偏差 3.63）であり、就学状況、子供の性別による有意な差は見られなかった。

表 5.1.1 母親の育児ストレス（就学状況・性別の平均値）

	母親の育児ストレス		
	n	M	SD
全体	1240	14.00	3.63
未就学児	526	14.10	3.52
就学児	714	13.87	3.71
男児	626	14.16	3.75
女児	614	13.77	3.50

※就学状況・性別のカテゴリ毎の t 検定の結果、有意差なし³⁾。就学児は小学生。

5.2 育児情報源と育児ストレス

5.2.1 育児情報源と信頼度

子供の育児についての情報源として用いるメディアやサービス、人、機関について、子供の就学状況、性別、世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態毎の該当率を表 5.2.1 に

1 「こどもを産んでから、私の夫は、期待したほど援助やサポートをしてくれない」から、配偶者が不在の場合に対応するために文言変更を行った。

2 削除することで α 係数が高まる項目はなし。

3 世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態毎の分析も行ったが、有意差は見られなかった。

示す。

表 5.2.1 育児の情報源

(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴・就業形態毎の該当率：%)

	N	書籍	雑誌	テレビ	新聞	ネット上の記事	
全体	1240	39.2%	25.9%	70.4%	16.5%	71.0%	
未就学児	526	39.5%	24.9%	74.1%	13.9%	71.3%	
就学児	714	38.9%	26.6%	67.6%	18.3%	70.7%	
男児	626	38.3%	24.9%	68.7%	17.4%	70.8%	
女児	614	40.1%	26.9%	72.1%	15.5%	71.2%	
400万円未満	242	32.2%	32.2%	70.2%	9.1%	68.2%	
600万円未満	337	35.9%	35.9%	71.8%	14.2%	78.3%	
800万円未満	228	45.2%	45.2%	71.9%	22.8%	76.3%	
800万円以上	186	47.8%	47.8%	72.0%	22.0%	69.4%	
中高卒	336	22.9%	22.9%	63.4%	9.2%	64.6%	
短大・高専卒	440	40.5%	40.5%	74.1%	13.9%	72.7%	
大学・大学院卒	445	50.6%	50.6%	72.8%	24.0%	75.1%	
フルタイム	261	46.4%	30.7%	70.9%	23.8%	69.3%	
パートタイム	382	33.0%	23.0%	68.1%	15.7%	70.4%	
専業主婦	577	40.9%	26.3%	72.1%	13.5%	73.0%	
			SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	ママ友などの友人・知人	配偶者やパートナー	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	行政や自治体の相談窓口
全体	1240	45.3%	43.3%	78.7%	74.0%	68.8%	15.4%
未就学児	526	45.2%	44.7%	75.5%	75.3%	73.4%	16.7%
就学児	714	45.4%	42.3%	81.1%	73.1%	65.4%	14.4%
男児	626	44.7%	40.9%	78.3%	72.5%	69.8%	18.4%
女児	614	45.9%	45.8%	79.2%	75.6%	67.8%	12.4%
400万円未満	242	43.4%	42.6%	74.8%	59.9%	68.6%	13.2%
600万円未満	337	50.7%	44.8%	82.5%	80.4%	72.4%	15.4%
800万円未満	228	52.6%	43.4%	86.0%	83.3%	72.4%	18.4%
800万円以上	186	41.9%	42.5%	75.3%	75.8%	62.9%	16.1%
中高卒	336	42.6%	45.5%	72.0%	67.9%	61.9%	12.8%
短大・高専卒	440	45.5%	44.1%	83.2%	76.1%	72.7%	14.5%
大学・大学院卒	445	48.3%	41.1%	80.0%	76.9%	71.2%	18.4%
フルタイム	261	43.3%	45.6%	73.6%	65.9%	70.5%	16.5%
パートタイム	382	43.2%	42.7%	79.3%	72.8%	66.8%	13.1%
専業主婦	577	47.7%	43.0%	80.8%	78.9%	69.0%	16.5%

※性別等のカテゴリ毎に χ^2 検定の結果有意であった割合について、残差分析で有意に大きい場合に青太字、有意に小さい場合に赤太字で示している（有意水準：5%）。世帯年収、最終学歴、就業形態は欠損値があるためNの総数が異なる。就学児は小学生。

全体として、もっとも該当率が高かったのは「ママ友などの友人・知人」で、78.7%であった。ついで、配偶者やパートナー(74.0%)、ネット上の記事(71.0%)、テレビ(70.4%)、育児の専門家(68.8%)と続き、その他は50%未満であった。

子供の就学状況別には、未就学児は就学児よりもテレビ(74.1%)、育児の専門家(73.4%)

を情報源とする率が有意に高く、就学児は就学児よりも新聞（18.3%）、ママ友などの友人・知人（81.1%）を情報源とする率が有意に高かった。

子供の性別では総じて差が見られなかったが、行政や自治体の相談窓口を情報源とする率は男児の場合に18.4%と有意に高かった。

子供の世帯年収別では、世帯収入が大きいほど書籍、雑誌、新聞を情報源にする率が有意に高かった。母親の最終学歴については、総じて中高卒であるほど、各情報源への該当率が有意に低い傾向にあった（ネット掲示板やQ&Aサイト、SNSのコミュニティやグループ、行政や自治体の相談窓口を除く）。

母親の就業形態では、フルタイム勤務者は書籍（46.4%）、新聞（23.8%）の該当率が有意に高く、配偶者やパートナー（65.9%）の該当率が有意に低かった。

続いて、各情報源をどの程度信頼しているかについて分析を行った。各情報源について、「とても信頼している」「やや信頼している」「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」の4段階で回答を得て、「とても信頼している」または「やや信頼している」に該当した場合に、信頼できる情報源に該当するものとした。子供の就学状況、性別、世帯年収、母親の最終学歴毎の該当率（信頼率）を表5.2.2に示す。

全体として、育児の専門家が88.1%ともっとも高く、次いでママ友などの友人・知人、配偶者やパートナーが79.1%であった。総じて、ネット関連（ネット上の記事、ネット掲示板やQ&Aサイト、SNSのコミュニティやグループ）が40%台であるのを除いて65%以上の該当率となっており、ネット情報の信頼度の低さが際立っている。

子供の就学状況別には、未就学児よりも就学児においてSNSのコミュニティやグループの信頼度が有意に低かった（43.7%）。

子供の性別では、男児の場合に女児の場合よりも、雑誌（60.5%）、テレビ（71.1%）、新聞（66.8%）、SNSのコミュニティやグループ（43.1%）、行政や自治体の相談窓口（63.4%）と有意に低い該当率であった。

世帯年収別には、400万円未満の場合に、書籍（68.2%）、雑誌（57.0%）、配偶者やパートナー（64.9%）の該当率が有意に低く、600万円以上800万円未満の場合、ママ友などの友人・知人（90.8%）、配偶者やパートナー（88.2%）、育児の専門家（94.7%）の該当率が有意に高かった。

母親の最終学歴別には、中高卒の場合にネット関連の情報を除いたすべての情報源において、有意に低い該当率であった。

母親の就業形態では、フルタイム勤務者は書籍（81.2%）の該当率が有意に高く、ママ友などの友人・知人（77.4%）、配偶者やパートナー（72.4%）の該当率が有意に低かった。

表 5.2.2 育児情報の信頼度

(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴・就業形態毎の信頼率：%)

	N	書籍	雑誌	テレビ	新聞	ネット上の記事			
全体	1240	74.4%	65.4%	74.3%	69.4%	49.2%			
未就学児	526	74.7%	66.9%	76.0%	68.6%	51.3%			
就学児	714	74.2%	64.3%	73.0%	69.9%	47.6%			
男児	626	72.2%	60.5%	71.1%	66.8%	46.8%			
女児	614	76.7%	70.4%	77.5%	72.0%	51.6%			
400万円未満	242	68.2%	57.0%	73.1%	64.9%	47.1%			
600万円未満	337	76.0%	70.3%	76.3%	71.5%	55.2%			
800万円未満	228	77.2%	69.7%	76.3%	74.6%	51.8%			
800万円以上	186	83.9%	69.4%	75.3%	72.6%	41.9%			
中高卒	336	57.4%	52.7%	67.0%	54.5%	47.0%			
短大・高専卒	440	78.4%	69.5%	78.6%	72.5%	52.7%			
大学・大学院卒	445	83.6%	71.5%	76.2%	77.8%	47.4%			
フルタイム	261	81.2%	69.7%	75.9%	75.1%	48.3%			
パートタイム	382	71.2%	63.4%	74.3%	67.5%	50.0%			
専業主婦	577	74.0%	65.3%	73.8%	68.5%	49.2%			
	N	ネット掲示板やQ&Aサイト	SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	ママ友などの友人・知人	配偶者やパートナー	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	行政や自治体の相談窓口		
全体	1240	43.2%	46.3%	82.6%	79.1%	88.1%	66.0%		
未就学児	526	44.7%	49.8%	83.1%	79.5%	89.2%	66.2%		
就学児	714	42.2%	43.7%	82.2%	78.9%	87.4%	66.0%		
男児	626	42.2%	43.1%	81.6%	77.3%	88.2%	63.4%		
女児	614	44.3%	49.5%	83.6%	80.9%	88.1%	68.7%		
400万円未満	242	40.9%	45.0%	83.5%	64.9%	87.6%	62.4%		
600万円未満	337	48.1%	49.9%	84.3%	86.1%	89.6%	70.6%		
800万円未満	228	46.9%	50.4%	90.8%	88.2%	94.7%	70.2%		
800万円以上	186	43.5%	47.3%	79.6%	82.3%	86.6%	65.1%		
中高卒	336	41.7%	44.3%	77.1%	72.9%	81.3%	53.0%		
短大・高専卒	440	45.2%	47.3%	86.6%	81.8%	92.0%	70.0%		
大学・大学院卒	445	42.0%	46.5%	83.1%	81.1%	90.3%	72.1%		
フルタイム	261	43.7%	50.6%	77.4%	72.4%	88.5%	68.6%		
パートタイム	382	42.9%	47.4%	84.0%	79.8%	88.2%	63.6%		
専業主婦	577	43.0%	43.5%	84.6%	82.1%	88.2%	66.7%		

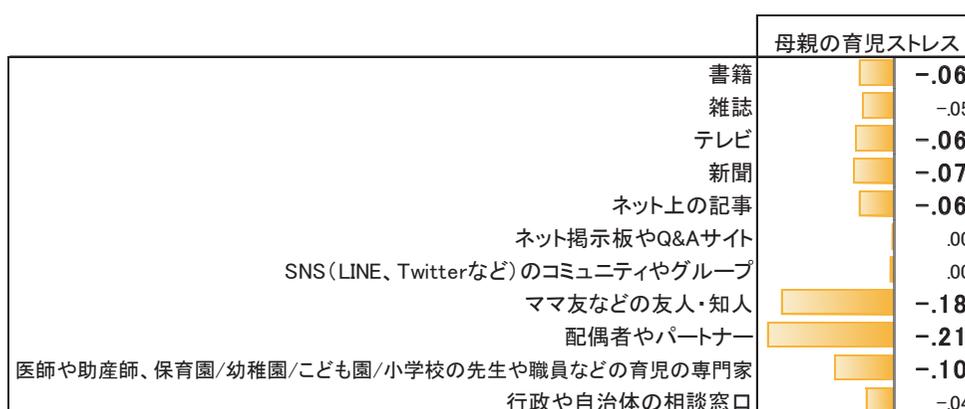
※性別等のカテゴリ毎に χ^2 検定の結果有意であった割合について、残差分析で有意に大きい場合に青太字、有意に小さい場合に赤太字で示している（有意水準：5%）。世帯年収、最終学歴、就業形態は欠損値があるためNの総数が異なる。就学児は小学生。

5.2.2 育児情報の信頼度と育児ストレス

各情報源への信頼度と、母親の育児ストレスとの関連を見るため、相関分析を行った。ここで各情報源への信頼度として、「とても信頼している」から「まったく信頼できない」までの4段階を、それぞれ4点から1点と点数換算した変数を用いた。分析の結果を表5.2.3に示す。

書籍 ($r=-0.06$)、テレビ ($r=-0.06$)、新聞 ($r=-0.07$)、ネット上の記事 ($r=-0.06$)、ママ友などの友人・知人 ($r=-0.18$)、配偶者やパートナー ($r=-0.21$)、育児の専門家 ($r=-0.10$) において有意な相関があり、いずれも信頼度が高いほど育児ストレスが低いという方向性であった。情報源を信頼できないことが育児ストレスに結びつく関係性と、育児ストレスが高い場合（育児で困難が生じる場合）には失敗体験が増え、情報源が信頼できなくなる関係性が共にあるものと思われる。特に、友人・知人、配偶者やパートナーの情報の信頼度と育児ストレスとの関連が大きく、周囲の人間関係からなるサポートを信頼して頼ることができる場合に育児ストレスが軽減される割合が大きいものと考えられる。

表 5.2.3 育児情報の信頼度と育児ストレスとの相関



※N=1240。数値は Pearson の積率相関係数。5%水準で有意な値を太字にしている。

5.3 スマホの効用・コスト感と育児ストレス

5.3.1 スマホの効用・コスト感

仕事と家庭におけるスマートフォン・パソコン使用の効用認知およびコスト感について、Chesley (2005) による ICT 利便性認知尺度を参考に、スマートフォン/パソコンの使用、家事育児の使用に対応するよう修正した 6 項目を作成した。また、コスト感の指標として「スマートフォンは私から時間を奪っている」「スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている」「スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている」「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」の 4 項目を作成した。「まったくそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の 5 件法で回答を得た⁴。ここでは「まったくそう思う」または「そう思う」を選択した場合に該当するものとした各項目への該当率を表 5.3.1 に示す。

⁴ 質問票では、情報機器を所持していない場合は「どちらとも言えない」を選ぶよう注記した。

表 5.3.1 スマホの効用・コスト感

(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴・就業形態毎の該当率：%)

	N	スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	スマートフォンは私から時間を奪っている	スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている
全体	1240	42.7%	29.0%	46.5%	45.4%	26.1%
未就学児	526	43.7%	29.1%	46.6%	46.4%	24.5%
就学児	714	41.9%	29.0%	46.4%	44.7%	27.3%
男児	626	42.7%	30.4%	47.6%	45.8%	26.8%
女児	614	42.7%	27.7%	45.3%	45.0%	25.4%
400万円未満	242	39.7%	18.6%	40.9%	41.3%	26.9%
600万円未満	337	47.8%	34.4%	53.4%	47.5%	24.9%
800万円未満	228	41.2%	31.1%	50.4%	51.8%	25.0%
800万円以上	186	48.9%	39.2%	49.5%	48.4%	29.0%
中高卒	336	38.4%	26.5%	40.8%	38.7%	24.1%
短大・高専卒	440	43.2%	26.6%	48.4%	45.2%	26.6%
大学・大学院卒	445	45.6%	33.5%	49.4%	51.5%	27.4%
フルタイム	261	42.1%	33.0%	46.0%	44.1%	29.1%
パートタイム	382	38.7%	30.1%	46.3%	42.4%	22.8%
専業主婦	577	45.6%	26.5%	46.4%	48.2%	27.0%
	N	スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている
全体	1240	29.8%	17.3%	36.2%	25.0%	11.9%
未就学児	526	31.9%	18.1%	35.4%	28.3%	13.7%
就学児	714	28.3%	16.7%	36.8%	22.5%	10.5%
男児	626	30.2%	17.4%	35.9%	27.5%	10.7%
女児	614	29.5%	17.1%	36.5%	22.5%	13.0%
400万円未満	242	34.7%	16.9%	32.6%	21.9%	10.3%
600万円未満	337	29.4%	18.7%	36.5%	28.5%	8.6%
800万円未満	228	32.0%	14.0%	40.8%	25.9%	14.0%
800万円以上	186	31.2%	25.3%	46.2%	32.3%	17.7%
中高卒	336	28.9%	16.1%	29.5%	22.9%	9.5%
短大・高専卒	440	29.1%	16.1%	34.5%	23.0%	9.1%
大学・大学院卒	445	31.5%	19.3%	43.4%	28.5%	15.7%
フルタイム	261	35.2%	20.3%	49.4%	34.1%	16.1%
パートタイム	382	29.3%	18.3%	34.8%	22.8%	12.8%
専業主婦	577	27.7%	15.4%	31.2%	22.7%	9.7%

※性別等のカテゴリ毎に χ^2 検定の結果有意であった割合について、残差分析で有意に大きい場合に青太字、有意に小さい場合に赤太字で示している（有意水準：5%）。世帯年収、最終学歴は欠損値があるため N の総数が異なる。就学児は小学生。

スマートフォンと家事育児との関連として、「スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている」の該当率は全体の 42.7%であり、子供の就学状況・性別、世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態による有意な差は見られなかった。

スマートフォンと日常生活との関連として、「スマートフォンは私の生活のペースを加速させている」の該当率は全体の 29.0%であり、世帯年収が高いほど（800 万円以上で 39.2%）、また母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に（33.5%）有意に高い該当率

であった。「スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる」への該当率は全体の 46.5% であり、世帯年収が 400 万円未満の場合に 40.9%、また母親の最終学歴が中高卒である場合に 40.8%と有意に低い該当率であった。

スマートフォンと自由時間との関連として、「スマートフォンは私から時間を奪っている」への該当率は全体の 45.4%であり、母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に 51.5%と有意に高い該当率であった。「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」への該当率は全体の 17.3%であり、世帯年収が 800 万円以上の場合に 25.3%と有意に高い該当率であった。

スマートフォンと金銭的コスト感との関連として、「スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている」への該当率は全体の 26.1%、「スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている」への該当率は全体の 29.8%であり、子供の就学状況・性別、世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態による有意な差は見られなかった。

情報機器と仕事との関連として、「スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている」への該当率は全体の 36.2%であり、世帯年収が高いほど（800 万円以上で 46.2%）、また母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に 43.4%、母親の就業形態がフルタイムである場合に 49.4%と有意に高い該当率であった。「スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい」への該当率は全体の 25.0%であり、未就学児である場合に 28.3%、男児である場合に 27.5%、母親の就業形態がフルタイムである場合に 34.1%と有意に高い該当率であった。「スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている」への該当率は全体の 11.9%であり、世帯年収が 800 万円以上である場合に 17.7%、母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に 15.7%、母親の就業形態がフルタイムである場合に 16.1%と有意に高い該当率であった。

5.3.2 スマホの効用・コスト感と育児ストレス

スマホの効用・コスト感に関する各項目と母親の育児ストレスとの関連を見るため、相関分析を行った。ここでは「まったくそう思う」から「まったくそう思わない」までの 4 段階を、それぞれ 5 点から 1 点と点数換算した変数を用いた。分析の結果を表 5.3.2 に示す。

「スマートフォンは私の生活のペースを加速させている」($r=0.09$)、「スマートフォンは私から時間を奪っている」($r=0.15$)、「スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている」($r=0.13$)、「スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい」($r=0.12$)、「スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている」($r=0.13$)において有意な相関があり、いずれも育児ストレスを高める方向性であった。金銭や時間を失うといったコスト感や、スマートフォンやパソコンにより自宅でも仕事せざるを得ない状況

などが、育児ストレスを高める（または、育児ストレスが高いほど、情報機器の使用についてネガティブに感じやすい）ことを示している。

表 5.3.2 スマホの効用・コスト感と育児ストレスとの相関

	母親の育児ストレス
スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	.03
スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	.09
スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	.05
スマートフォンは私から時間を奪っている	.15
スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている	.13
スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	.02
スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	.02
スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	-.02
スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	.12
スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている	.13

※N=1240。数値は Pearson の積率相関係数。5%水準で有意な値を太字にしている。

5.4 子供の共感性・問題行動と育児ストレス

5.4.1 子供の共感性と問題行動

子供の共感性について、森下(1990)による、他者評定による幼児の共感性尺度を参考に⁵、「ほかの人の気持ちの変化に敏感だと思う」「そばにうれしそうにしている人がいると、うれしそうにする」「悲しんでいる人と一緒にいると、同じように悲しそうにする」「相手の立場になって、その人の気持ちを考えることができる」の4項目を新たに作成した。「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で回答を得て、それぞれ4点～1点として合算した得点を、子供の共感性変数として用いた。クロンバックの α 係数は0.78であった⁶。

子供の問題行動について、金山・中台・磯部・岡村・佐藤・佐藤(2006)の幼児の問題行動尺度（外在化問題行動因子）より、「人や物に攻撃的である」「他の子どもがしている遊びや活動のじゃまをする」「そわそわしたり、落ち着きがない」「注意散漫である」「きまりや指示を守らない」の5項目を用いた。「よくある」「たまにある」「ほとんどない」「まったくない」の4件法で回答を得て、それぞれ4点～1点として合算した得点を、子供の問題行動変数として用いた。クロンバックの α 係数は0.86であった⁷。

⁵ 「誰とも遊べないでいる子を見るといっしょに遊んであげたりします。」「映画やテレビなどで動物が傷ついて苦しそうにしているのを見ると、同情します。」「元気がない子を見ると心配そうにしています。」「友だちやきょうだいが元気がないとき、慰めたりします。」の4項目をもとに作成した。

⁶ 削除することで係数が高まる項目は見られなかった。

⁷ 削除することで係数が高まる項目は見られなかった。

子供の共感性、問題行動について、子供の就学状況、子供の性別、世帯年収、母親の最終学歴毎の平均値と標準偏差を表 5.4.1 に示す。

子供の共感性については全体平均が 11.54 ポイントであり、就学状況では未就学児が 11.73 ポイント、性別では女兒が 11.74 ポイント、最終学歴では高最終学歴であること（大学・大学院卒で 11.73 ポイント）が、それぞれ有意に高かった。

子供の問題行動については全体平均が 10.39 ポイントであり、就学状況では未就学児が 10.65 ポイント、性別では男児が 11.02 ポイント、最終学歴では中高卒が 11.00 ポイントと有意に高く、世帯年収では 800 万円以上が 9.70 ポイントと有意に低かった。

表 5.4.1 子供の共感性・問題行動
(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴毎の平均値)

	子供の共感性			子供の問題行動		
	n	M	SD	n	M	SD
全体	1240	11.54	2.33	1240	10.39	3.57
未就学児	526	11.73	2.23	526	10.65	3.60
就学児	714	11.40	2.39	714	10.17	3.53
男児	626	11.35	2.29	626	11.02	3.55
女児	614	11.74	2.35	614	9.72	3.46
400万円未満	242	11.31	2.39	242	10.59	3.69
600万円未満	337	11.51	2.30	337	10.78	3.43
800万円未満	228	11.74	2.41	228	10.43	3.52
800万円以上	186	11.62	2.31	186	9.70	3.57
中高卒	336	11.29	2.42	336	11.00	3.53
短大・高専卒	440	11.56	2.20	440	10.13	3.45
大学・大学院卒	445	11.73	2.35	445	10.22	3.63

※就学状況・性別では t 検定、世帯年収・最終学歴では分散分析 (F 検定) の結果、5%水準で有意な差が見られたカテゴリの平均値を太字で示している。世帯年収、最終学歴は欠損値があるため N の総数が異なる。就学児は小学生。母親の就業形態では有意差は見られなかったため省略した。

5.4.2 子供の共感性・問題行動と育児ストレス

子供の共感性・問題行動と母親の育児ストレスとの関連を見るため、相関分析を行った。分析の結果を表 5.4.2 に示す。

子供の共感性は母親の育児ストレスと有意な負の相関 ($r=-0.10$) が、子供の問題行動は母親の育児ストレスと有意な正の相関 ($r=0.28$) が見られた。育児ストレスは子供

の共感性および問題行動に対してネガティブな影響がある可能性が示された。同時に、子供の共感性の低さや問題行動が、育児ストレス要因となる方向の影響も考えられる。

表 5.4.2 子供の共感性・問題行動と母親の育児ストレスとの相関

	母親の育児ストレス	
子供の共感性		-0.10
子供の問題行動		0.28

※N=1240。数値は Pearson の積率相関係数。いずれも 0.1%水準で有意。

5.5 本章のまとめ

子供では、母親の育児ストレスを中心に、情報源に対する信頼性、スマートフォン使用の効用とコスト感、子供の共感性と問題行動との関連性について検討を行った。その結果、周囲の人間関係からもたらされる情報の信頼度が高いこと、家庭での情報機器による仕事や、スマートフォンによる金銭的・時間的な負担感が高すぎないことが、それぞれ育児ストレスの緩和条件となる可能性が示された。また、育児ストレスが緩和することで、子供の共感性にポジティブな影響があり、子供の問題行動を抑制する可能性が示された⁸。

<参考文献>

- Chesley, N. (2005). Blurring boundaries? Linking technology use, spillover, individual distress and family satisfaction. *Journal of Marriage and the Family*, 67, 1237-1248.
- 荒木暁子, 兼松百合子, 横沢せい子, 荒屋敷亮子, 相墨生恵, & 藤島京子. (2005). 育児ストレスショートフォームの開発に関する研究. *小児保健研究*, 64(3), 408-416.
- 金山元春, 中台佐喜子, 磯部美良, 岡村寿代, 佐藤正二, & 佐藤容子. (2006). 幼児の問題行動の個人差を測定するための保育者評定尺度の開発. *パーソナリティ研究*, 14(2), 235-237.
- 森下正康. (1990). 幼児の共感性が援助行動のモデリングにおよぼす効果. *教育心理学研究*, 38(2), p.174-181.

⁸ いずれも、因果関係の特定にはさらなる調査研究が必要となる。

単純集計(事前調査)

SQ1	ご自宅で現在同居なさっている方の続柄にあてはまるものをすべてお選びください。 複数回答	%
1	配偶者	91.7
2	配偶者以外のパートナー	0.5
3	ご自身のこども	100.0
4	親	10.5
5	兄弟姉妹	2.3
6	祖父母	1.0
7	孫	0.0
8	その他の親族	0.3
9	友人・知人	0.0
10	その他	0.2
11	同居している家族はいない(一人暮らし)	0.0
	全体(N)	1240

SQ2	前問で「ご自身のこども」と同居していると回答された方にお伺いします。ご自宅で同居している第1子のお子さんの年齢(学齢)にあてはまるものをお選びください。 単一回答	%
1	【男児】0歳	0.0
2	【男児】1歳	0.0
3	【男児】2歳	0.0
4	【男児】3歳	6.4
5	【男児】4歳	6.2
6	【男児】5歳	6.9
7	【男児】6歳(小学生未満)	2.7
8	【男児】6歳(小学生)	4.1
9	【男児】7歳	6.0
10	【男児】8歳	5.5
11	【男児】9歳	6.5
12	【男児】10歳	6.2
13	【男児】11歳	0.0
14	【男児】12歳(小学生)	0.0
15	【男児】中学生	0.0
16	【男児】高校生・高専生	0.0
17	【男児】大学・大学院・短大・専門学校生	0.0
18	【男児】有職	0.0
19	【男児】無職	0.0
20	【女児】0歳	0.0
21	【女児】1歳	0.0
22	【女児】2歳	0.0
23	【女児】3歳	6.1
24	【女児】4歳	6.3
25	【女児】5歳	5.6
26	【女児】6歳(小学生未満)	2.3
27	【女児】6歳(小学生)	3.5
28	【女児】7歳	6.5
29	【女児】8歳	7.0
30	【女児】9歳	6.0
31	【女児】10歳	6.3
32	【女児】11歳	0.0
33	【女児】12歳(小学生)	0.0
34	【女児】中学生	0.0
35	【女児】高校生・高専生	0.0
36	【女児】大学・大学院・短大・専門学校生	0.0
37	【女児】有職	0.0
38	【女児】無職	0.0
39	第1子のこどもとは同居していない	0.0
	全体(N)	1240

単純集計(本調査)

Q1	お子さんの保育・教育状況について、普段、定期的にご利用しているものはどれですか。もっともあてはまるものを、ひとつお選びください。 単一回答	%
1	幼稚園	20.6
2	保育園	12.0
3	認定こども園	5.8
4	小学校	56.0
5	それ以外の施設(具体的にお答えください)【 】	1.2
6	利用していない	4.4
	全体(N)	1240

Q2	あなたのお子さんにスマートフォンを利用させるのは、何歳くらいからが望ましいと思いますか。 ※お子さんに所持させてよい年齢ではなく、利用させてよいとお考えの年齢をお答えください。 ※実際に利用させた年齢と異なっても構いません。 ※望ましい年齢が20歳以上の場合は「成人するまで利用させたくない」を選択してください。 単一回答	%
1	【 12.3 】歳くらいからが望ましい	94.4
2	成人するまで利用させたくない	5.6
	全体(N)	1240

Q3	実際に、お子さんにスマートフォンを利用させたのは、何歳からでしたか。 単一回答	%
1	実際には【 4.5 】歳から利用させた	20.3
2	利用させていない	79.7
	全体(N)	1240

Q4	現在、あなたがお子さんに見せたり、使わせたりしている情報機器についてお伺いします。それぞれの機器についてあてはまるものをお答えください。(それぞれいくつでも) 複数回答	(N)	1	2	3
			子ども専用の機器	親などと共用の機器	利用させていない
1	スマートフォン	1240	5.6	13.0	82.3
2	携帯電話(ガラケー、キッズケータイ)	1240	12.9	4.2	83.1
3	タブレット端末(iPadなど)	1240	6.9	29.4	64.4
4	パソコン	1240	1.0	18.6	80.6
5	テレビ	1240	4.7	88.4	9.0
6	ゲーム機(Nintendo Switch、ニンテンドー3DS、PlayStation 4など)	1240	22.0	25.1	55.7
					%

Q5	あなたが、お子さんに使わせている情報機器について、ふだんの平日、1日のおおよその利用時間をお答えください。利用していない場合は「0時間、0分」、1時間未満の場合は「0時間、30分」のようにお答えください。※子ども専用の機器と親の機器の両方を利用させている場合は合算のお時間をお答えください。 複数回答	(N)	
	スマートフォン	219	58.6 分
	携帯電話(ガラケー、キッズケータイ)	209	19.0 分
	タブレット端末(iPadなど)	442	62.7 分
	パソコン	240	25.0 分
	テレビ	1129	127.8 分
	ゲーム機(Nintendo Switch、ニンテンドー3DS、PlayStation 4など)	549	61.4 分

Q6	お子さんに見せたり、使わせたりするスマートフォンやタブレット端末などの情報機器で、よく利用しているサイトやアプリをすべてお選びください。(いくつでも)複数回答	%
1	YouTube	66.0
2	YouTube Kids	7.2
3	YouTube以外の動画サイト・アプリ	3.2
4	LINE	8.4
5	LINE以外のSNS (Twitter、Facebook、Instagramなど)	1.8
6	写真共有サイト・アプリ	5.5
7	ゲーム	26.9
8	マンガ	1.5
9	知育や学習用サイト・アプリ	15.1
10	子育てサポートアプリ(鬼から電話、など)	3.2
11	英語教育のための動画や音楽	4.6
12	絵本や童話	5.4
13	お絵かき	5.8
14	その他(具体的に)【 】	1.4
15	よく利用しているサイトやアプリはない	21.5
	全体(N)	1240

Q7	お子さんは、ふだんYouTubeなどの動画サイト・アプリで、どんな動画を見ていますか。次の中から、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)複数回答	%
1	キャラクター・アニメ(アンパンマン、ドラえもん、など)	42.6
2	こども向け番組(いないいないばあっ!、など)	13.9
3	ユーチューバー	56.5
4	おもちゃの紹介	48.1
5	ゲームの攻略法、実況中継	23.4
6	音楽/歌手/ダンス	27.3
7	乗り物	10.6
8	動物	5.9
9	教育・知育	8.0
10	読書、絵本	5.2
11	手遊び動画	6.5
12	あてはまるものはない	1.8
	全体(N)	849

Q8	お子さんがスマートフォンを使うようになってから、お子さんに、次のような変化はありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選択してください。※変化を感じていない場合は「変わらない」を選択してください。単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
1	分からないことをすぐにネットで調べる習慣	219	11.9	16.0	71.7	0.0	0.5
2	自分の頭で考える習慣	219	3.2	15.1	72.1	8.7	0.9
3	学習用サイトやアプリを利用した勉強	219	5.5	17.4	73.1	2.3	1.8
4	学習・勉強する時間	219	2.7	15.5	73.5	5.5	2.7
5	情報や知識の量	219	15.5	43.4	39.7	0.5	0.9
6	ものの見方の広がり	219	8.7	45.2	44.3	0.9	0.9
7	自己表現への積極性	219	8.2	35.6	54.3	0.5	1.4
8	表現能力や創造性	219	6.8	37.0	53.4	2.3	0.5
9	ネットを通じた新たな友だち	219	0.9	6.8	88.6	0.9	2.7
10	既存の友だちとの関係性の深まり	219	4.6	14.2	77.6	2.7	0.9
11	こどもの人間関係の不透明性	219	1.8	7.8	89.5	0.0	0.9
12	こどもとのコミュニケーション	219	2.7	19.6	70.3	5.9	1.4
13	昼夜逆転など生活習慣の乱れ	219	1.4	10.0	87.2	0.9	0.5
14	情報リテラシーへの関心や知識	219	1.8	13.2	84.0	0.5	0.5
15	健康への悪影響(視力の悪化、運動不足、肥満など)	219	2.3	14.6	82.2	0.5	0.5
16	睡眠時間	219	0.9	4.6	82.2	11.4	0.9
17	友だちと直接交流する機会	219	1.8	9.6	84.0	4.1	0.5
18	英語などの語学能力	219	3.7	13.2	82.2	0.5	0.5
19	プログラミング能力	219	1.4	6.8	90.4	0.5	0.9
20	読解力	219	2.3	13.7	82.2	1.4	0.5
21	会話、発話の能力	219	4.6	25.1	68.9	0.0	1.4
22	計算力	219	1.8	12.3	84.9	0.5	0.5
23	社交性	219	3.7	12.3	81.7	1.8	0.5
24	身体を動かす機会や活動	219	1.8	8.7	78.1	10.5	0.9
25	集中力	219	1.8	17.8	77.6	1.8	0.9
26	攻撃的な言動	219	4.1	17.4	77.2	0.9	0.5
							%

Q9	お子さんのスマートフォンの利用について、以下のようなことはあてはまりますか。 それぞれについて、お選びください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	すぐにスマートフォンを使いたがる	219	69.4	30.6
2	やめようね、と言ってもスマートフォンをやめない	219	47.0	53.0
3	スマートフォンを取り上げると機嫌が悪くなる	219	40.6	59.4
4	決めた時間以上にスマートフォンをいじっていてやめられない	219	37.0	63.0
5	スマートフォンに夢中で約束をやぶったり、食事をとらなかつたりすることがある	219	22.8	77.2
6	時間つぶしのためにスマートフォンをいじっている	219	53.4	46.6
7	スマートフォンをしていたのに、していなかったフリをすることがある	219	18.7	81.3
8	必要もないのに、いつまでもだらだらスマートフォンをいじっている	219	30.1	69.9
9	いやなことがあると、気晴らしにスマートフォンをさわろうとする	219	15.1	84.9
10	スマートフォンを使いすぎて、健康に悪影響が出ている	219	8.7	91.3
11	スマートフォンを使いすぎて、学習に悪影響が出ている	219	6.8	93.2
12	学習中にスマートフォンで遊んでしまう	219	11.0	89.0
			%	

Q10	あなたのお子さんには、次のようなことがどの程度あてはまりますか。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			よくある	たまにある	ほとんどない	まったくない
1	人や物に攻撃的である	1240	3.8	27.3	35.4	33.5
2	他の子どもがしている遊びや活動のじゃまをする	1240	2.2	17.4	40.2	40.2
3	そわそわしたり、落ち着きがない	1240	6.5	27.7	34.8	31.1
4	注意散漫である	1240	9.5	33.5	30.9	26.0
5	きまりや指示を守らない	1240	6.0	31.9	36.6	25.4
			%			

Q11	あなたのお子さんには、次のようなことがどの程度あてはまりますか。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	ほかの人の気持ちの変化に敏感だと思う	1240	16.2	48.2	29.8	5.7
2	そばにうれしそうにしている人がいると、うれしそうにする	1240	35.6	51.7	10.8	1.9
3	悲しんでいる人と一緒にいると、同じように悲しそうにする	1240	18.4	51.0	27.8	2.7
4	相手の立場になって、その人の気持ちを考えることができる	1240	13.8	49.5	32.5	4.2
			%			

Q12	あなたのお子さんには、次のようなことがどの程度あてはまりますか。 単一回答	(N)		
プライベート(個人)での利用時間				
	パソコン	1240	21.06	分
	スマートフォン	1240	150.1	分
	タブレット端末(iPadなど)	1240	6.78	分
仕事での利用時間				
	パソコン	1240	69.5	分
	スマートフォン	1240	9.57	分
	タブレット端末(iPadなど)	1240	2.66	分

Q13	あなたの、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などを利用したインターネット上のサービスのプライベートでの利用頻度についてお伺いします。 どの程度利用されているか、それぞれあてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6
			1日に10回以上	1日に数回程度	1日に1回程度	週に数回程度	週に1回以下	まったくくない
1	YouTube	1240	1.2	9.4	12.3	17.2	32.6	27.3
2	YouTube以外の動画サイト・アプリ	1240	0.5	4.8	5.0	6.5	15.1	68.1
3	LINE	1240	23.5	50.2	11.8	4.8	4.0	5.7
4	LINE以外のSNS (Twitter、Facebook、Instagramなど)	1240	8.7	26.6	10.7	5.8	7.3	40.8
5	ゲーム	1240	3.5	19.0	8.6	4.0	8.7	56.0
6	ブログ・まとめサイト	1240	1.9	14.0	16.0	13.3	14.5	40.2
7	ショッピングサイト・アプリ	1240	1.1	12.2	14.9	23.2	30.2	18.4
			%					

Q14	最近のあなたには、次のことがあてはまりますか。それぞれについて、お選びください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	もともと予定していたより長時間スマートフォンを利用してしまう	1240	68.5	31.5
2	スマートフォンを利用していない時も、スマートフォンのことを考えてしまう	1240	19.9	80.1
3	スマートフォンを利用していないと、落ち着かなくなったり、憂うつになったり、落ち込んだり、いらいらしたりする	1240	14.4	85.6
4	スマートフォンの利用時間を減らそうとしても、失敗してしまう	1240	31.2	68.8
5	ますます長時間スマートフォンを利用していないと満足できなくなっている	1240	14.7	85.3
6	落ち込んだり不安やストレスを感じたとき、逃避や気晴らしにスマートフォンを利用している	1240	48.6	51.4
7	スマートフォンの利用が原因で家族や友人との関係が悪化している	1240	6.0	94.0
8	スマートフォンを利用している時間や熱中している度合いについて、ごまかしたりウソをついたことがある	1240	10.8	89.2
9	いやな気分やストレスから逃げるために、スマートフォンを利用する	1240	34.8	65.2
10	スマートフォンを使いすぎて、身体的健康に悪影響が出ている	1240	13.5	86.5
11	スマートフォンを使いすぎて、精神的健康に悪影響が出ている	1240	6.0	94.0
12	スマートフォンを使いすぎて、育児をおろそかにすることがよくある	1240	22.3	77.7
				%

Q15	あなたはお子さんの育児について、次の情報源を利用していますか。あてはまるものをお答えください。 単一回答	(N)	1	2
			利用している	利用していない
1	書籍	1240	39.2	60.8
2	雑誌	1240	25.9	74.1
3	テレビ	1240	70.4	29.6
4	新聞	1240	16.5	83.5
5	ネット上の記事	1240	71.0	29.0
6	ネット掲示板やQ&Aサイト	1240	45.3	54.7
7	SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	1240	43.3	56.7
8	ママ友などの友人・知人	1240	78.7	21.3
9	配偶者やパートナー	1240	74.0	26.0
10	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	1240	68.8	31.2
11	行政や自治体の相談窓口	1240	15.4	84.6
				%

Q16	あなたはお子さんの育児について、次の情報源を、それぞれの程度信頼できると思いますか。あてはまるものをお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			とても信頼している	やや信頼している	あまり信頼できない	まったく信頼できない
1	書籍	1240	7.9	66.5	22.1	3.5
2	雑誌	1240	3.7	61.7	30.1	4.5
3	テレビ	1240	6.0	68.2	22.3	3.5
4	新聞	1240	6.3	63.1	25.6	5.1
5	ネット上の記事	1240	1.8	47.4	43.1	7.7
6	ネット掲示板やQ&Aサイト	1240	1.9	41.3	45.1	11.7
7	SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	1240	2.3	44.0	43.6	10.1
8	ママ友などの友人・知人	1240	18.2	64.4	13.5	3.9
9	配偶者やパートナー	1240	22.8	56.3	14.2	6.7
10	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	1240	30.6	57.6	9.2	2.7
11	行政や自治体の相談窓口	1240	10.6	55.5	27.3	6.6
						%

Q17	お子さんのインターネットやスマートフォンの利用やルールについて、あなたは次のことをしていますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			常にしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
1	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	1240	7.7	10.2	14.7	67.4
2	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	1240	6.3	8.6	16.5	68.6
3	特定のウェブサイトをブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	1240	8.9	8.2	15.5	67.4
4	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	1240	5.9	6.4	15.2	72.6
5	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	1240	5.9	8.1	14.2	71.9
6	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	1240	5.5	9.2	15.5	69.8
7	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	1240	12.3	7.3	12.3	68.1
8	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	1240	16.2	6.6	11.7	65.5
9	インターネットのコンテンツや内容を制限する	1240	13.6	9.0	12.0	65.3
10	インターネットにアクセスできる時間を制限する	1240	14.5	11.0	12.4	62.1
11	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	1240	7.4	10.6	15.2	66.8
12	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	1240	10.4	20.8	18.5	50.2
13	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	1240	8.0	16.0	17.6	58.4
14	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	1240	7.1	19.0	17.9	56.0
15	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	1240	22.8	25.0	17.2	35.0
16	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	1240	12.3	26.0	17.7	44.1
						%

Q18	あなたは育児の際、次のような時に、スマートフォンやタブレットをお子さんに見せたり使わせたりすることが、どの程度ありますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			かなりある	ややある	あまりない	まったくない
1	怒ったり不機嫌なお子さんをなだめたり、落ち着かせたりするため	557	6.5	33.6	27.6	32.3
2	家で静かに過ごさせるため	557	11.8	48.1	19.2	20.8
3	食事のとき	557	1.8	7.4	17.8	73.1
4	電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき	557	6.6	33.0	26.9	33.4
5	自分が家事をするときの子守代わり	557	10.1	37.5	21.9	30.5
6	寝かしつけのとき	557	1.3	7.0	13.1	78.6
7	勉強やテストなどのごほうびとして	557	5.2	25.0	15.8	54.0
						%

Q19	あなたはふだん、あなたのお子さんとの会話や活動中に、次の情報機器に気がそれてしまうことがどの程度ありますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6
			1日に10回以上	1日に数回程度	1日に1回程度	週に数回程度	週に1回以下	まったくない
1	スマートフォン	1240	4.8	32.2	19.6	11.2	9.5	22.7
2	タブレット端末 (iPadなど)	1240	0.3	3.4	4.4	3.4	4.5	84.0
3	パソコン	1240	0.5	4.0	4.0	4.2	5.0	82.3
4	テレビ	1240	2.3	27.7	18.7	11.7	9.8	29.8
								%

Q20	日常生活場面での情報機器の利用状況についてお伺いします。あなたは、次のことについて、それぞれどの程度あてはまりますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6
			1日に10回以上	1日に数回程度	1日に1回程度	週に数回程度	週に1回以下	まったくない
1	子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう	1240	1.5	16.1	17.4	15.7	13.9	35.4
2	子どもとの顔を合わせて話しているときに、メールやメッセージを送ってしまう	1240	0.6	14.4	14.1	16.8	14.0	40.2
3	子どもと話しているときに、スマートフォンが鳴ると、取り出して確認してしまう	1240	1.7	20.7	18.7	18.5	15.3	25.0
4	子どもと話しているときに、テレビの方が気になってしまう	1240	0.8	13.4	16.5	15.4	16.4	37.6
5	子どもを遊ばせているときに、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている	1240	1.0	19.1	15.3	16.5	16.7	31.4
6	スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離した隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある	1240	0.2	2.3	4.0	3.6	12.8	77.0
								%

Q21	お子さんと一緒に過ごされているときのご自身の情報機器やソーシャルメディア利用についてお伺いします。 あなたのお考えや状況にあてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある	1240	10.2	27.2	38.0	24.6
2	手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくてしまう	1240	22.4	46.2	19.4	11.9
3	子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう	1240	8.6	43.2	33.3	14.8
4	子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる	1240	12.5	36.9	33.0	17.6
5	子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい	1240	14.0	38.5	31.9	15.6
6	公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われない気がする	1240	22.3	44.1	21.8	11.8
7	子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする	1240	7.5	18.1	28.1	46.2
8	育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう	1240	11.4	33.4	24.9	30.3
9	育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう	1240	5.0	21.9	28.5	44.7
10	スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである	1240	6.2	24.2	26.9	42.7
11	子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う	1240	44.7	32.4	13.2	9.7
						%

Q22	仕事と家庭における情報機器利用の考え方などについて、あなたのお考えにあてはまるものをお選びください。 ※情報機器を所持していない方は「3. どちらとも言えない」をお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			まったくそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	まったくそう思わない
1	スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	1240	3.6	39.0	34.5	13.6	9.2
2	スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	1240	3.1	25.9	41.0	20.0	9.9
3	スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	1240	6.0	40.4	35.3	10.4	7.8
4	スマートフォンは私から時間を奪っている	1240	10.5	34.9	29.8	17.7	7.1
5	スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている	1240	4.8	21.4	31.0	27.4	15.4
6	スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	1240	4.0	25.8	38.1	21.0	11.1
7	スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	1240	2.6	14.7	43.5	25.7	13.5
8	スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	1240	8.3	27.9	38.0	15.3	10.5
9	スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	1240	5.1	19.9	41.9	19.0	14.2
10	スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている	1240	1.6	10.2	49.1	24.6	14.4
							%

Q23	次のうち、あなたが育児をする際にあてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			まったくそのとおり	そのとおり	どちらともいえない	ちがう	まったくちがう
1	私は親であることを楽しんでいる	1240	14.5	41.0	33.9	7.4	3.2
2	私は子どもを産んでから、やりたいことがほとんどできなと感じている	1240	8.8	30.8	35.6	18.3	6.5
3	子どもを産んでから、私の周囲の人は、期待したほど援助やサポートをしてくれない	1240	6.7	16.5	30.4	29.6	16.8
4	私は以前のように物事を楽しめない	1240	7.9	20.0	30.8	25.7	15.6
5	いつも、子どもが何か悪いことをすると、私のあやまちだと感じてしまう	1240	7.5	20.9	37.0	23.4	11.2
							%

Q24	ご家庭でのお子さんとの接し方についてお伺いします。 それぞれの項目について、あなた自身がどのくらいの頻度でその行動を取るかを、選択肢の中から選んでお答えください。 お子さんとの接し方には各家庭で様々なスタイルがあり、絶対的に正しい・間違っているという基準はありませんので、ありのままをお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			非常に よくある	よくある	たまにある	ほとんどない	まったくない
1	子どもが遊ぶ友だちのことをよく知っている	1240	18.9	43.5	26.9	7.8	2.9
2	子どもが外で遊んでいるとき、何をしているのか把握している	1240	21.3	41.8	24.5	8.6	3.8
3	休日には子どもをレジャー(遊園地、動物園、旅行など)に連れて行く	1240	20.3	30.6	38.0	9.4	1.7
4	子どもが何かをしてくれたときに、ありがとうと言う	1240	44.1	40.3	12.7	2.1	0.8
5	頭をなでる、抱き合う等のスキンシップをする	1240	42.3	34.1	17.7	4.9	1.0
6	子どもが何かうまくできたときには、ほめてあげる	1240	45.2	37.7	14.1	2.0	0.9
7	子どもが問題に直面していても、できるだけ本人に解決させる	1240	7.6	36.0	45.1	9.2	2.1
8	できるだけ子ども自身の意思を尊重する	1240	11.9	46.8	37.0	3.9	0.5
9	失敗することがわかっている、子どものやりたいようにやらせる	1240	7.9	33.3	44.8	12.4	1.5
10	子どもの意思とは関係なく、習い事や塾に行かせている	1240	3.7	12.0	20.2	22.3	41.9
11	どの友達と遊ぶべき(遊ぶべきでない)かを、子どもに言い聞かせている	1240	2.3	9.4	19.3	23.6	45.4
12	自分の目を離れている間、子どものことが心配で仕方ない	1240	8.9	22.0	39.7	19.8	9.7
13	子どもを叱ったりほめたりする基準が、その時の気分で左右される	1240	7.2	24.8	49.4	14.1	4.5
14	個人的なイライラを子どもにぶつけてしまうときがある	1240	7.9	26.4	49.7	12.2	3.9
15	子どものペースより、自分のペースを優先する	1240	4.8	23.2	46.0	20.7	5.2
16	ちょっとしたことで口やかましくなる	1240	11.9	33.7	40.6	11.0	2.7
17	子どもに対して、乱暴な言葉遣いになる	1240	9.0	22.9	41.7	17.3	9.1
18	子どもが悪いことをしたときには、大声で怒鳴る	1240	11.0	25.3	46.1	12.9	4.7
							96

Q26	あなたには、以下のようなことが、どのくらいあてはまりますか。 あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	気分が沈んでゆううつになることがよくある	1240	15.2	36.5	32.3	16.0
2	泣いたり、泣きたくなくなったりすることがよくある	1240	9.8	29.8	36.0	24.4
3	落ち着かず、じっとしていられないことがよくある	1240	5.6	20.6	42.3	31.4
4	自分の人生は充実している	1240	12.1	48.1	28.8	11.0
5	私は、まわりの人たちとうまくいっている	1240	9.3	56.8	26.5	7.4
6	私をよく知っている人はだれもない	1240	6.7	24.8	47.4	21.0
7	私には知人がいるが、気心の知れた人はいない	1240	9.0	25.4	43.4	22.2
8	私には、頼りにできる人がだれもない	1240	4.7	17.2	43.1	35.1
9	人と一緒にいるのが好きだ	1240	9.5	40.7	36.8	13.0
10	人づきあいの機会があれば、喜んで参加する	1240	8.5	33.5	38.4	19.5
11	私にとって何よりも刺激的なのは、人とのつきあいである	1240	4.5	29.8	42.8	22.9
12	広く人づきあいができなくなったら、不幸になると思う	1240	4.0	19.5	46.0	30.5
13	あなたが落ちこんでいると、元気づけてくれる人がいる	1240	21.3	49.6	22.3	6.8
14	日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる人がいる	1240	14.1	45.8	30.1	10.0
15	あなたが人間関係に悩んでいると知ったら、いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる人がいる	1240	15.2	47.3	27.6	9.9
16	あなたが不満をぶちまけたいときは、聞いてくれる人がいる	1240	24.6	48.8	19.3	7.3
17	現在の、生活に満足している	1240	17.1	46.2	25.6	11.1
18	現在の、こどもとの関係に満足している	1240	24.5	47.5	23.1	4.8
19	現在の、配偶者やパートナーとの関係に満足している	1240	18.5	40.4	22.8	18.3
						96

Q27	あなたのご職業に最もあてはまるものを1つお選びください。 単一回答	%
1	会社団体役員	0.6
2	管理職	0.6
3	フルタイム一般職	18.7
4	パートタイム・アルバイト	30.8
5	自営業・自由業	1.2
6	専業主婦	46.5
7	学生	0.2
8	無職	0.3
9	その他【 】	1.1
全体(N)		1240

育児と母親の情報機器画面閲覧による干渉・妨害

Technology Use While Parenting and Parent Screen Distraction

久保隅綾 KUBOSUMI, Aya 橋元良明 HASHIMOTO, Yoshiaki

目次

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

1. 母親によるスマホ育児の実態

1.1 全体／子どもの性別／学齢別分析結果

1.2 母親の職業別／世帯年収別／学歴別分析結果

2. 情報機器画面閲覧による干渉・妨害 (Parent Screen Distraction: PSD)

2.1 情報機器別 PSD 実態

2.2 日常生活場面での母親の PSD 状況認識

2.3 育児と情報機器およびソーシャルメディア利用への態度・考え

3. 考察および今後の課題

<補足資料>

調査方法、回答者の属性、質問票および単純集計結果については、本紀要に同時に掲載されている橋元・久保隅・大野「育児とスマートフォン」を参照願いたい。

久保隅綾 GOB Incubation Partners 株式会社
橋元良明 東京大学大学院情報学環

本報告のベースとなる調査は、株式会社 KDDI 総合研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室の共同研究の一環として実施されたものであり、本報告は当該共同研究の成果の一部である。また、本報告は久保隅綾が執筆した。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的および研究概要

近年、スマートフォンやタブレット端末といった情報機器が仕事や買い物などの日常生活を効率化するだけでなく、育児の面においても親の強力な支援ツールとなっている。とりわけ、子どもにスマートフォンを渡し、その間に家事を済ますといった子守り代わりの利用や子どもをなだめたりあやしたりするといった”スマホ育児”が日常に浸透しつつある(橋元・久保岡・大野, 2019)。そして家庭スマホ育児が浸透するにつれ、親などの保護者によるモバイルテクノロジー利用時に、保護者が画面を閲覧する時間が親子間のコミュニケーションや交流を阻害する、Parent Screen Distraction (以下、PSD) の発生とそのネガティブな影響が懸念されている(Blackman, 2015 など)。

そこで、本研究では母親のスマホ育児と PSD に焦点を当て、(1)母親によるスマホ育児の実態、(2)PSD の実態と母親の PSD への態度・意識を明らかにすることを目的に、3歳から10歳の第一子をもつ母親にオンライン上でアンケート調査を実施した。

なお、本稿の調査は、本紀要に同時に掲載されている橋元・久保岡・大野「育児とスマートフォン」(橋元・久保岡・大野, 2020)と同一の調査に基づいている。本稿の調査方法、回答者の属性、質問票および単純集計結果単純集計値は前記の論文を参照願いたい。

1. 母親によるスマホ育児の実態

1.1 全体／子どもの性別／学齢別分析結果

Q18 では、母親によるスマホ育児について、日常の育児場面でのスマートフォン利用の有無について尋ねている。設問文および選択肢は、橋元・久保隅・大野（2019）を採用し、「怒ったり不機嫌なお子さんをなだめたり、落ち着かせたりするため」「家で静かに過ごさせるため」、「食事中のとき」、「電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき」、「自分が家事をするときの子守代わり」、「寝かしつけのとき」の6場面に加え、新規に「勉強やテストなどのごほうびとして」を追加した。設問文は「あなたは育児の際、次のような時に、スマートフォンやタブレットをお子さんに見せたり使わせたりすることが、どの程度ありますか。あてはまるものをお選びください。」で、「かなりある」「ややある」「あまりない」「まったくない」の4件法で尋ねた。回答はスマートフォンもしくはタブレット端末利用者（N=557）である。表 1.1 に「かなりある」「ややある」と回答した割合と子どもの性別および学齢別のクロス集計の χ^2 検定結果を示す。

表 1.1 全体／子どもの性別および学齢別
育児におけるスマートフォン・タブレット端末の利用目的(単位：%)

	怒ったり不機嫌なお子さんをなだめたり、落ち着かせたりするため	家で静かに過ごさせるため	食事中のとき	電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき	自分が家事をするときの子守代わり	寝かしつけのとき	勉強やテストなどのごほうびとして	N
全体	40.0	60.0	9.2	39.7	47.6	8.3	30.2	557
性別								
男	42.7	62.0	9.5	43.8	48.5	8.4	32.8	274
女	37.5	58.0	8.8	35.7	46.6	8.1	27.6	283
χ^2 値	1.60	0.97	0.07	3.82	0.20	0.01	1.85	
検定結果	n.s.	n.s.	n.s.	†	n.s.	n.s.	n.s.	
学齢								
未就学	46.7	61.1	12.2	45.0	53.7	9.2	16.2	229
就学	35.4	59.1	7.0	36.0	43.3	7.6	39.9	328
χ^2 値	7.25	0.22	4.41	4.57	5.87	0.43	36.21	
検定結果	**	n.s.	*	*	*	n.s.	***	

※スマートフォン、タブレット機器非利用者を除く回答数。「かなりある」「ややある」と回答した割合と子どもの年齢のクロス集計の χ^2 検定結果。***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

母親はどのような場面でスマホ育児をしているのだろうか。最も行われているスマホ育児は「家で静かに過ごさせるため(60%)」、次いで「自分が家事をするときの子守代わり(47.5%)」、「怒ったり不機嫌なお子さんをなだめたり、落ち着かせたりするため(40.0%)」、「電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき(39.7%)」であった。日常の様々な場面で子守り代わりに利用されているようすが伺える。

子どもの性別の観点からみると、「電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき」のみ、男児 43.8%、女児 35.7%と約 8 ポイント男児の該当率が高く、10%水準での緩やかな有意差がみられ、残差分析でも 5%水準で有意に男児の該当率が高かった。それ以外の場面では子どもの性別で有意差はみられなかった。

続いて学齢では、「家で静かに過ごさせるため」、「寝かしつけのとき」を除く 5 項目で未就学児および就学児との間に有意差があり、「怒ったり不機嫌なお子さんをなだめたり、落ち着かせたりするため」、「電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき」、「自分が家事をするときの子守代わり」の 4 項目で未就学児が就学児と比較しておよそ 10 ポイント程度該当率が高く、「食事中のとき」は約 5 ポイント該当率が高く、残差分析においていずれも有意に未就学児の該当率が高かった。逆に「勉強やテストなどのごほうびとして」は就学児が未就学児と比較して 23.7 ポイント該当率が高く、残差分析の結果でも有意に就学児の該当率が高かった。未就学児の「自分が家事をするときの子守代わり」でのスマートフォン利用は 53.7%と半数以上の未就学児の母親になされており、低年齢の子ども単独のスマートフォン利用の場面が少なからず存在するという現状が浮き彫りとなった。子どもの年齢が低いほど、子どもをあやしたり、子守り代わりなど、様々な場面でスマートフォンが用いられているようすが伺え、低年齢でのスマートフォン利用がこうしたスマホ育児からも促進されているといえよう。

1.2 母親の職業別／世帯年収別／学歴別分析結果

表 1.2 に母親の職業別、世帯年収別、学歴別にスマホ育児を分析した結果を示す。母親の職業別では、「食事中のとき」、「勉強やテストなどのごほうびとして」の 2 場面で有意差がみられ、「食事中のとき」はフルタイム 14.7%、パートタイム・アルバイト 5.2%、専業主婦 9.5%で、有意にフルタイムの回答比率が高く、パートタイム・アルバイトの回答比率が低かった。また、「勉強やテストなどのごほうびとして」では、フルタイム 36.2%、パートタイム・アルバイト 34.1%、専業主婦 25.2%であり、専業主婦で有意に回答比率が低かった。それ以外の 5 場面では有意差はなかった。

世帯年収別では、7 場面全てにおいて有意差はみられなかった。しかしながら、残差分析の結果、「電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき」のみ、600 万から 800 万円未満の層で有意に回答比率が低かった。

最後に学歴別では、「電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき」のみ有意差がみられ、高卒以下 32.3%、短大及び高専・専門学校卒 44.8%、大卒以上 41.9%であった。残差分析でも高卒以下において有意に回答比率が低く、高卒以下で公共の場でのスマホ利用に非積極的なようすが伺える。

2018年に実施した同様の調査（橋元・久保隅・大野，2019）では、学歴別において「食事中」を除く全ての項目で有意差がみられたが、本調査では学歴を含む母親の属性で差異があまりみられない結果となり、母親の属性に関わらず、広くスマホ育児が浸透しているようすが伺える。

表 1.2 母親の職業／学歴／世帯年収別
育児におけるスマートフォン・タブレット端末の利用目的(単位：%)

		怒ったり不 機嫌なお子 さんをなだ めたり、落 ち着かせた りするため	家で静かに 過ごさせる ため	食事中のと き	電車やバスな どの公共交 通機関やレ スランなど の公共の場 にいるとき	自分が家事 をするとき の子守代わ り	寝かしつけ のとき	勉強やテ ストなど のほ うびとし て	N
職業	フルタイム	36.2	57.8	14.7	45.7	48.3	12.1	36.2	116
(N=551)	パートタイム・アルバイト	38.7	61.3	5.2	39.3	45.7	6.4	34.1	173
	専業主婦	41.6	59.5	9.5	37.8	48.1	7.3	25.2	262
χ^2 値		1.05	0.36	7.44	2.13	0.30	3.45	6.34	
検定結果		n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	*	
世帯年収	400万未満	36.3	59.3	7.1	41.6	44.2	8.0	25.7	113
(N=455)	400万以上-600万未満	42.2	66.2	11.7	39.6	53.9	7.8	33.1	154
	600万以上-800万未満	35.1	55.3	8.5	30.9	48.9	9.6	34.0	94
	800万以上	43.6	57.4	9.6	46.8	42.6	7.4	31.9	94
χ^2 値		2.39	3.61	1.74	5.22	3.93	0.35	2.25	
検定結果		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	
学歴	高卒以下	42.5	61.1	9.6	32.3	50.9	9.6	32.9	167
(N=548)	短大および高専・専門学校卒	41.5	63.9	7.7	44.8	50.3	8.2	30.6	183
	大卒以上	36.4	56.6	10.6	41.9	43.4	7.1	27.3	198
χ^2 値		1.71	2.21	1.01	6.16	2.59	0.76	1.41	
検定結果		n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	

※スマートフォン、タブレット機器非利用者および学歴別、世帯年収別では「わからない/答えなくない」の回答を除く回答数。職業別は学生および無職の回答を除く回答数。「かなりある」「ややある」と回答した割合と子どもの年齢のクロス集計の χ^2 検定結果。*: $p < .05$, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

2 情報機器画面閲覧による干渉・妨害 (Parent Screen Distraction: PSD)

2.1 情報機器別 PSD 実態

Q19 では、機器別に PSD の頻度について尋ねている。対象の機器はスマートフォン、タブレット端末 (iPad など)、パソコン、テレビの 4 種である。設問文は「あなたはふだん、あなたのお子さんとの会話や活動中に、次の情報機器に気がそれてしまうことがどの程度ありますか。あてはまるものをお選びください。」であり、「1 日に 10 回以上」、「1 日に数回程度」、「1 日に 1 回程度」、「週に数回程度」、「週に 1 回以下」と回答した割合と子どもの性別、学齢別に比較した結果を表 2.1 に示す。

4 種の情報機器のうち、スマートフォン 77.3%、テレビ 70.2%、パソコン 17.7%、タブレット端末 16.0% の順に少なくとも週 1 回以下の PSD が発生している結果となり、スマートフォンおよびテレビは日常で母親の気をそらす二大機器となっている。これは昨年度の調査結果とも一致する。特にスマートフォン、テレビにおいては、図 2.1 に示すように、スマートフォンで 37%、テレビで 29.9% の母親が一日に数回以上の頻度で PSD が発生していると回答しており、かなりの頻度で PSD が発生しているようすが伺える。

子どもの性別では 4 種の情報機器全てにおいて男女間に有意差はなかった。学齢別ではパソコン、テレビにおいて有意差があり、パソコンでは就学児 (19.9%) において有意に回答比率が高く、未就学児 (14.6%) で低かった。テレビにおいては、未就学児 73.8%、就学児 67.7% で、有意に未就学児で回答比率が高く、就学児で低かった。子どもの学齢が上がるほど、家庭で子どもと一緒にの場面でのパソコンの利用が増加し、逆に子どもの学齢が低いほど、子どもと一緒にの場面でのテレビが増えるのかもしれない。

表 2.1 全体／子どもの性別／学齢と情報機器別 PSD の発生有無 (単位：%)

	スマートフォン	タブレット端末	パソコン	テレビ	N
全体	77.3	16.0	17.7	70.2	1240
性別 男	77.2	15.5	17.4	69.3	626
女	77.4	16.4	17.9	71.2	614
χ^2 値	0.01	0.21	0.05	0.50	
検定結果	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	
学齢 未就学	79.5	14.4	14.6	73.8	526
就学	75.6	17.1	19.9	67.6	714
χ^2 値	2.54	1.57	5.74	5.42	
検定結果	n.s.	n.s.	*	*	

※ 「1 日に 10 回以上」、「1 日に数回程度」、「1 日に 1 回程度」、「週に数回程度」、「週に 1 回以下」と回答した割合と子どもの性別、学齢別のクロス集計の χ^2 検定結果。*: $p < .05$, n.s. 有意差なし。

※ 残差分析の結果 5% 水準 (両側検定) で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

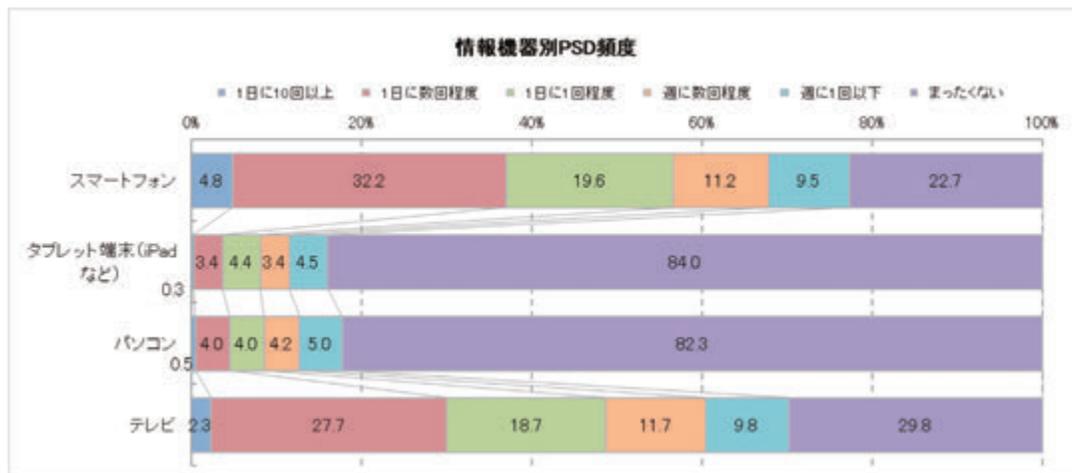


図 2.1 情報機器別 PSD 発生頻度

続いて表 2.2 に母親の属性別に情報機器 PSD 発生の回答割合を比較した結果を示す。職業別にみると、二大 PSD 機器であるスマートフォンおよびテレビは職業間で有意差はなかった。しかしながら、タブレット端末とパソコンにおいて職業間に有意差がみられ、フルタイムがタブレット端末による PSD があると回答した比率が 22.2%、同パソコン 24.1%と残差分析でも有意に高く、専業主婦のタブレット端末による PSD の該当率が 13.9%と有意に低い結果となった。フルタイムの母親ほど、タブレット端末、パソコンによる PSD 発生を認知しているといえよう。専業主婦の母親においては他の職業と有意差はないものの、スマートフォンによる PSD の該当率が 79.4%と多層と比較してやや高く、タブレット端末においては PSD の該当率が低いことが特徴的である。職業間で情報機器利用に差があることに起因する可能性がある。

表 2.2 母親の職業／学歴／世帯年収と情報機器別 PSD の発生有無(単位：%)

		スマート フォン	タブレット 端末 (iPad など)	パソコン	テレビ	N
職業 (N=1220)	フルタイム	74.3	22.2	24.1	72.0	261
	パートタイム・アルバイト	75.9	15.4	16.2	73.0	382
	専業主婦	79.4	13.9	16.1	67.6	577
χ^2 値		3.13	9.47	8.89	3.77	
検定結果		n.s.	**	*	n.s.	
世帯年収 (N=993)	400万未満	70.2	13.2	9.1	69.4	242
	400万以上-600万未満	84.0	13.4	19.9	76.3	337
	600万以上-800万未満	78.9	19.7	25.0	72.4	228
	800万以上	79.0	22.6	22.0	64.0	186
χ^2 値		15.84	11.03	22.20	9.49	
検定結果		**	*	***	*	
学歴 (N=1221)	高卒以下	72.3	15.2	12.5	68.8	336
	短大および高専・専門学校卒	81.8	13.9	14.8	71.1	440
	大卒以上	76.9	18.7	24.5	70.8	445
χ^2 値		9.94	4.00	22.94	0.58	
検定結果		**	n.s.	***	n.s.	

※ 「1日に10回以上」、「1日に数回程度」、「1日に1回程度」、「週に数回程度」、「週に1回以下」と回答した割合と母親の職業別、世帯年種別、学歴別のクロス集計の χ^2 検定結果。世帯年収及び学歴のN数は「わからない/答えなくない」の回答を除く回答数。職業別のN数は学生および無職の回答を除く回答数。***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

次に世帯年収別にみると、全ての情報機器で世帯年収グループ間に有意差があった。スマートフォンによるPSDでは、世帯収入400万円未満の層で70.2%と残差分析でも有意に該当率が低く、世帯年収400万円以上から600万円未満の層で84.0%と有意に該当率が高かった。テレビによるPSDでは世帯年収400万円以上から600万円未満の層で76.3%と有意に該当率が高く、世帯年収800万円以上の層で64.0%と有意に低い結果となった。世帯年収400万円以上から600万円未満の層はスマートフォンおよびテレビのPSD二大機器において、他の世帯年収層と比較して最もPSD該当率が高いことが特徴的である。タブレット端末のPSDにおいては、残差分析の結果、世帯年収800万円以上の層で有意に該当率が高く、逆にテレビにおいて、世帯年収800万円以上の層で有意に該当率が低かった。世帯年収800万円以上の層はタブレット端末の利用に積極的であり、また、テレビ視聴に対し

ては非積極的であり、その結果として PSD が発生していることが考えられる。パソコンによる PSD では、世帯年収 400 万円未満の層で 9.1%と残差分析でも有意に該当率が低く、世帯年収 600 万円から 800 万円未満の層で 25.0%と有意に該当率が高かった。

最後に学歴別に 4 つの情報機器による PSD を比較した結果をみると、スマートフォンおよびパソコンによる PSD において学歴グループ間に有意差があった。スマートフォンによる PSD では、高卒以下の層で 72.3%と残差分析の結果、有意に該当率が高かった。逆に短大および高専・専門学校卒の層で 81.8%と有意に該当率が低かった。パソコンでは高卒以下の層（12.5%）と短大及び高専・専門学校卒の層（14.8%）で残差分析の結果、該当率が有意に低く、大卒以上の層（24.5%）で有意に該当率が高かった。学歴別ではタブレット端末を除き、高卒以下の層で PSD 発生が低い傾向がみられる。タブレット端末およびテレビによる PSD は学歴グループ間に有意差はなかった。

2.2 日常生活場面での母親の PSD 状況認識

では、具体的にどのような PSD 状況が発生しているのだろうか。スマートフォンおよびテレビによる PSD について頻度を尋ねたものが Q20 である。本設問は橋元・久保隅・大野 (2019) と同様のものを使用した。「子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう」、「子どもとの顔を合わせて話しているときに、メールやメッセージを送ってしまう」を含む、6 つの PSD 状況について、「1 日に 10 回以上」、「1 日に数回程度」、「1 日に 1 回程度」、「週に数回程度」および「週に 1 回以下」と回答した割合と子どもの属性別のクロス集計の χ^2 検定結果を表 2.3 に示す。

最も回答割合が高かったのは「子どもと話しているときに、スマートフォンが鳴ると、取り出して確認してしまう（75.0%）」、次いで「子どもを遊ばせている時に、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている（68.6%）」、「子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう（64.6%）」であり、「スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離した隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある（23.0%）」を除いた全ての 5 項目で 6 割弱から 7 割強の母親が該当すると回答しており、PSD による注意散漫状況がかなりの程度経験されているといえよう。この数字は子どもと一緒にいる生活場面で PSD が日常的に発生しており、食事や会話時間といった子どもとのコミュニケーションや交流を妨げている可能性が示唆される。「スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離した隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある」についても、23.0%の母親が日常で経験しており、PSD により子どもに直接的な危害状況をもたらす可能性が少なからずあったことは注意喚起や状況の改善が必要だろう。

表 2.3 全体／子どもの性別／学齢別

日常生活場面での母親の PSD 状況認識 (単位：%)

	子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう	子どもとの顔を合わせて話しているときに、メールやメッセージを送ってしまう	子どもと話しているときに、スマートフォンが鳴ると、取り出して確認してしまう	子どもと話しているときに、テレビの方が気になってしまう	子どもを遊ばせている時に、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている	スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離した隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある	N
全体	64.6	59.8	75.0	62.4	68.6	23.0	1240
性別 男	62.5	57.5	73.2	60.9	66.1	23.0	626
女	66.8	62.2	76.9	64.0	71.2	23.0	614
χ^2 値	2.52	2.86	2.28	1.31	3.66		0.00
検定結果	n.s.	†	n.s.	n.s.	†	n.s.	
学齢 未就学	66.0	61.2	75.7	64.6	72.2	26.6	526
就学	63.6	58.8	74.5	60.8	66.0	20.3	714
χ^2 値	0.75	0.72	0.22	1.92	5.54		6.81
検定結果	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*	**	

※「1日に10回以上」、「1日に数回程度」、「1日に1回程度」、「週に数回程度」、「週に1回以下」と回答した割合と子どもの年齢のクロス集計の χ^2 検定結果。**: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

子どもの性別による比較では、「子どもを遊ばせている時に、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている」のみ、男児66.1%、女児71.2%の該当率であり、有意水準10%での差があったものの、概ね男女間で差はないといえよう。

子どもの学齢別では、「子どもを遊ばせている時に、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている」および「スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離した隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある」の2項目でPSDの発生に有意差がみられ、いずれも未就学児ほど該当率が有意に高い。残差分析の結果でも、2項目ともに有意に未就学児の該当率が高く、就学時の該当率が有意に低かった。このことから、PSDによる注意散漫状況や注意散漫による子どもへの危害発生の可能性は未就学児ほど発生しやすいといえる。

つづいて、母親の職業、世帯年収および学歴別に日常生活場面での母親のPSD状況認識について、「1日に10回以上」、「1日に数回程度」、「1日に1回程度」、「週に数回程度」および「週に1回以下」と回答した割合を比較した結果を表2.4に示す。

表 2.4 母親の職業別／世帯年収別／学歴別

日常生活場面での母親の PSD 状況認識 (単位：%)

		子どもと一緒に 食事をしている ときに、スマー トフォンを取り 出して確認して しまう	子どもとの顔を 合わせて話して いるときに、 メールやメッ セージを送って しまう	子どもと話して いるときに、ス マートフォンが 鳴ると、取り出 して確認してし まう	子どもと話して いるときに、テ レビの方が気 になってしまう	子どもを遊ばせ ている時に、ス マートフォンな どを操作して、 子どもへの注意 力が散漫になっ てしまっている	スマートフォン などを操作して いて、子どもか ら目を離れた隙 に、子どもが怪 我をしそうにな ったことがある	N
職業	フルタイム	68.6	63.2	77.8	60.2	69.0	26.4	261
(N=1220)	パートタイム・アルバイト	61.0	57.9	73.0	62.0	66.2	21.7	382
	専業主婦	65.3	60.1	75.0	62.9	69.7	22.2	577
χ^2 値		4.12	1.86	1.86	0.58	1.30		2.31
検定結果		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.		n.s.
世帯年収	400万未満	62.8	53.3	71.9	61.2	65.7	18.6	242
(N=993)	400万以上-600万未満	64.7	63.8	80.7	69.4	74.8	27.9	337
	600万以上-800万未満	69.3	63.2	79.8	63.6	70.6	18.0	228
	800万以上	68.8	60.2	74.2	57.0	69.9	26.3	186
χ^2 値		3.12	7.45	8.05	9.10	5.68		11.60
検定結果		n.s.	†	*	*	n.s.		**
学歴	高卒以下	61.3	55.7	73.8	62.2	67.3	22.9	336
(N=1221)	短大および高専・専門学校卒	64.5	62.3	77.3	64.8	70.7	18.9	440
	大卒以上	68.8	61.8	74.6	60.4	69.0	27.6	445
χ^2 値		4.82	4.16	1.44	1.78	1.05		9.59
検定結果		†	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.		**

※常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と子どもの年齢、性別のクロス集計の χ^2 検定結果。世帯年収及び学歴のN数は「わからない/答えたくない」の回答を除く回答数。職業別のN数は学生および無職の回答を除く回答数。**: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

6つのPSD状況全てにおいて母親の職業グループ間で有意差はなかった。日常のPSD状況認識は母親の職業の影響はないといえよう。

学歴別では「子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう」で10%水準の、「スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離れた隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある」で1%水準の有意差がみられた。2項目共に残差分析の結果、大卒以上のグループで有意に回答比率が高かった。食事時のPSDについては、育児場面での情報機器利用(Q18)について、大卒で食事時に子どもに情報機器を利用させるとの回答が他のグループと比較してやや多い結果となっていたが、食事時の情報機器利用頻度が母子ともに他のグループと比較して多いことが影響しているのかもしれない。

最後に母親の世帯年収別では、「子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう」に若干の、「子どもとの顔を合わせて話しているときに、メ

ールやメッセージを送ってしまう」、「子どもと話しているときに、スマートフォンが鳴ると、取り出して確認してしまう」、「子どもと話しているときに、テレビの方が気になってしまう」、「スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離れた隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある」の項目で有意差があった。世帯年収 400 万円未満の層では、残差分析でも、「子どもとの顔を合わせて話しているときに、メールやメッセージを送ってしまう」、「子どもと話しているときに、スマートフォンが鳴ると、取り出して確認してしまう」、「スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離れた隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある」の 3 項目で有意に回答比率が低く、日常の PSD 発生状況の認識が他の年収グループと比較して低いことが示された。世帯年収 400 万円以上から 600 万円未満の層では逆に、「子どもと話しているときに、テレビの方が気になってしまう」および「子どもを遊ばせている時に、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている」、「スマートフォンなどを操作して、子どもから目を離れた隙に、子どもが怪我をしそうになったことがある」の 3 項目において、残差分析の結果、有意に回答比率が高かった。概して、**世帯年収 400 万円未満のグループで PSD 発生の認知が少なく、世帯年収 400 万円以上 600 万円未満のグループで PSD 発生の認知が多くな**されているといえよう。

2.3 育児と情報機器およびソーシャルメディア利用への態度・考え

最後に育児における情報機器およびソーシャルメディア利用への態度や考えについて検討する。育児場面や子どもと一緒にいる場面での情報機器とソーシャルメディア利用について、「子どもの前で LINE などの SNS を使うことにはためらいがある」、「手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくなくなってしまふ」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまふ」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる」、「子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい」、「公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使ったり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする」、「子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする」、「育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう」、「育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまふ」、「スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである」、「子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う」の 11 項目の設定問を設定し、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の 4 件法で回答を求めた。表 2.5 に全体および子どもの性別、学齢別に回答結果の比較を示す。

表 2.5 全体／子どもの性別／学齢別

育児と情報機器およびソーシャルメディア利用への態度・考え（単位：％）

	子ども性別										子ども学齢			
	全体		男児		女児		χ ² 値	検定結果	未就学		就学		χ ² 値	検定結果
	N													
子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある	37.4	36.7	38.1	0.25	n.s.	38.8	36.4	0.73	n.s.					
手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくなくなってしまう	68.6	66.9	70.4	1.69	n.s.	69.4	68.1	0.25	n.s.					
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう	51.9	51.8	52.0	0.01	n.s.	55.3	49.3	4.40	*					
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる	49.4	48.6	50.3	0.39	n.s.	55.1	45.2	11.86	***					
子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい	52.5	51.8	53.3	0.28	n.s.	60.1	46.9	21.03	***					
公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われない気がする	66.5	67.3	65.6	0.36	n.s.	71.9	62.5	12.00	***					
子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする	25.6	26.2	25.1	0.20	n.s.	24.9	26.2	0.26	n.s.					
育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう	44.8	45.2	44.3	0.10	n.s.	49.2	41.5	7.42	**					
育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう	26.9	25.7	28.0	0.83	n.s.	29.8	24.6	4.17	*					
スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである	30.4	31.2	29.6	0.33	n.s.	30.4	30.4	0.00	n.s.					
子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う	77.1	78.3	75.9	0.99	n.s.	79.7	75.2	3.39	†					

※「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合と子どもの年齢、性別のクロス集計のχ²検定結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

全体で最も回答比率が高かったものは「子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う(77.1%)」で、約8割弱の母親が情報機器より、他のおもちゃ等で子どもが遊ぶことが望ましいとの考えを持っていた。逆に、「スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである(30.4%)」は3割程度の母親の支持にとどまったものの、スマートフォンが子どもにとって魅力的なツールであるという認識が一定程度持たれていることが垣間見られる。

子どもの前での自身の情報機器やソーシャルメディアの利用については、「手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくなくなってしまう(68.5%)」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう(51.9%)」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる(49.4%)」、「子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい(52.5%)」、「公園や電車などの公共の場で子どもと一緒に

いるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする(66.5%)」で約5割から7割弱の母親が該当し、子どもの前での情報機器やソーシャルメディア利用によるネガティブな効用や意識を少なからず持っているといえよう。「子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある(37.4%)」はスマートフォン利用と比較すると、子どもの前でのソーシャルメディア利用にはネガティブな意識は少ないようである。

育児ストレスとスマートフォン利用との関係に関する設問では、「育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう(44.8%)」で、育児ストレスによるスマートフォン利用が半数弱の母親に肯定されていた。育児ストレスによる子どもへのスマートフォン利用については、「育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう(26.9%)」で、少なからず、育児ストレスを逃れるために母親自身、もしくは子どもにスマートフォンを利用させてしまうことが生じている現状が明らかとなった。

子どもの性別(表2.5)では、全ての項目において有意差はなかった。しかしながら、子どもの学齢別の比較(表2.5)では、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる」、「子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい」、「公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする」、「育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう」、「育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう」の6項目で有意差が認められ、残差分析の結果でも未就学児を持つ母親ほど回答比率が高く、就学児を持つ母親ほど回答比率が低かった。概して、就学児と比較して未就学児を持つ母親ほど、子どもの前での情報機器やソーシャルメディア利用に対するネガティブな認知や態度を持っているといえる。育児ストレスによる母親自身のスマートフォン利用や子どもへの利用も未就学児ほど多く、子どもの年齢が低いほど、育児ストレスによるスマートフォン利用が増える。その利用と共にスマートフォンやソーシャルメディア利用に対してより罪悪感を感じたり、周囲からの目を気にしたりしてしまうのかもしれない。

表 2.6 母親の職業別

育児と情報機器およびソーシャルメディア利用への態度・考え（単位：％）

N	母親職業 (N=1220)			χ ² 値	検定結果
	パートタイム・アルバイト				
	フルタイム	パート	専業主婦		
	261	382	577		
子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある	37.5	34.8	39.3	2.01	n.s.
手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくなくなってしまう	64.8	70.2	69.5	2.44	n.s.
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう	51.0	56.0	49.0	4.54	n.s.
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる	50.6	48.2	50.1	0.47	n.s.
子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい	56.7	49.5	53.0	3.30	n.s.
公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われたい気がする	65.9	67.5	66.2	0.25	n.s.
子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする	30.3	24.6	24.1	3.88	n.s.
育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう	40.6	45.3	45.9	2.16	n.s.
育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう	32.6	27.0	23.9	6.88	*
スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである	32.6	31.2	28.8	1.41	n.s.
子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う	71.6	76.2	80.2	7.81	*

※N 数は学生および無職の回答を除く回答数。「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合と母親の職業別のクロス集計のχ²検定結果。*: p<.05, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

続いて、母親の職業別に情報機器およびソーシャルメディア利用への態度や考えに関する回答を比較した結果を表 2.6 に示す。「育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう」、「子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う」の 2 項目において職業グループ間に有意差があった。「育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう」では、残差分析でも有意にフルタイム（32.6％）の回答割合が高く、専業主婦（23.9％）の回答割合が有意に低かった。仕事をもち、家事や育児との両立で忙しいほど育児ストレスが生じ、その結果、子どもにスマートフォン利用をさせてしまうのかもしれない。類似の設問である「子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする」についても、フルタイムが最も回答割合が高かった。「子

どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う」については、逆に専業主婦（80.2%）の回答割合が有意に高く、フルタイム（71.6%）の回答割合が有意に低かった。子どものスマートフォン利用に対しては仕事を持つほど肯定的になるといえよう。

同様に表 2.7 に母親の学歴別に比較した結果を示す。子どもの前でのスマートフォンおよび SNS の利用に対するためらい、罪悪感、周囲の人の目を気にするといったネガティブな認知に関して、「子どもの前で LINE などの SNS を使うことにはためらいがある」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる」、「子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい」、「公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われたい気がする」の項目で有意差があった。いずれも、**高卒以下のグループで回答割合が低く、学歴が上がるほど回答割合が高くなる**。残差分析の結果でも、「子どもの前で LINE などの SNS を使うことにはためらいがある」、「子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる」、「子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい」の 3 項目で、高卒以下のグループの回答割合が有意に低く、大卒以上で有意に高かった。**子どもの前でのスマートフォンおよび SNS の利用に対するためらい、罪悪感、周囲の人の目を気にするといったネガティブな認知は、総じて学歴が上がるほど高くなる**といえよう。

子どもにとってのスマートフォンの存在についての項目である「スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである」で有意差があり、「子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う」でもやや有意な傾向があった。いずれも、残差分析の結果、高卒において、「スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである」で有意に回答割合が高く、「子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う」で有意に回答割合が低かった。**高卒以下において、スマートフォンを玩具として肯定的に捉える母親が多い傾向がある**。

育児ストレスの関連項目では、「育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう」のみやや有意な傾向がみられ、この項目でも残差分析の結果、高卒以下の母親で有意に回答割合が高かった。学歴別では、総じて学歴が低いほど、子どもの前でのスマートフォン利用や SNS に対して寛容な態度や認知を持っているといえる。

表 2.7 母親の学歴別

育児と情報機器およびソーシャルメディア利用への態度・考え（単位：％）

N	母親学歴 (n=1221)			χ ² 値	検定結果
	短大および				
	高卒以下	高専・専門 学校卒	大卒以上		
	336	440	445		
子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある	31.5	33.2	45.8	21.82	***
手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくなくなってしまう	66.1	71.8	67.2	3.52	n.s.
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう	48.5	53.4	53.5	2.38	n.s.
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる	44.0	47.7	54.8	9.59	**
子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい	44.6	51.1	59.6	17.51	***
公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする	63.7	64.5	71.2	6.42	*
子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする	28.3	26.1	23.4	2.47	n.s.
育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう	46.4	46.8	42.0	2.46	n.s.
育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう	31.8	26.6	24.0	5.99	†
スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである	37.5	28.9	27.4	10.25	**
子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う	73.2	79.8	77.8	4.77	†

※N 数は学歴において「わからない/答えなくない」の回答を除く回答数。「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合と母親の学歴別のクロス集計のχ²検定結果。***: p< .001, **: p< .01, *: p< .05, †: p< .10, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

最後に世帯年収別に比較した結果を表 2.8 に示す。「公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする」、「育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう」の2項目において職業間で有意差があり、「子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする」において 10%水準の有意傾向がみられた。「公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする」では、残差分析の結果、世帯年収 400 万円未満のグループで有意に回答割合が低く、400 万円以上 600 万円未満のグループで有意に回

答割合が高かった。「子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする」では、残差分析の結果、世帯年収 400 万以上 600 万円未満のグループで有意に回答割合が高く、600 万円以上 800 万円未満のグループで有意に回答割合が低かった。「育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう」では残差分析の結果、世帯年収 800 万円以上のグループで有意に回答割合が低かった。同様に、「子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う」の項目においては、残差分析の結果、世帯年収 800 万円以上のグループで有意に回答割合が低く、高世帯年収層でスマートフォン利用との距離を置く様子が感じられる。

表 2.8 母親の世帯年収別

育児と情報機器およびソーシャルメディア利用への態度・考え（単位：％）

	母親世帯年収 (N=993)				検定 χ ² 値	結果
	400万以 400万未		600万以 上-800 万未満			
	満	万未満	万未満	上		
N	242	337	228	186		
子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある	36.0	36.8	36.8	41.4	1.57	n.s.
手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくなくなってしまう	66.5	72.1	72.4	64.0	5.61	n.s.
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう	54.1	55.5	53.9	53.2	0.29	n.s.
子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる	47.1	52.2	53.1	49.5	2.19	n.s.
子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい	47.9	51.9	57.5	56.5	5.36	n.s.
公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われぬ気がする	60.7	73.0	67.1	66.7	9.75	*
子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする	24.8	30.9	20.6	26.3	7.72	†
育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう	42.6	50.4	50.0	39.2	8.66	*
育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう	25.2	30.6	25.4	29.0	2.87	n.s.
スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである	28.5	34.1	30.7	31.2	2.15	n.s.
子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う	79.8	80.4	81.1	72.6	5.73	n.s.

※N 数は世帯年収において「わからない/答えたくない」の回答を除く回答数。「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した割合と世帯年収別のクロス集計のχ²検定結果。*: p< .05, †: p< .10, n.s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

3. 考察および今後の課題

本研究では、3歳から10歳の第一子をもつ母親にオンライン上でアンケート調査を実施し、母親によるスマホ育児と、親などの保護者によるモバイルテクノロジー利用時に、保護者が画面を閲覧する時間が親子間のコミュニケーションや交流を阻害する、PSDの実態を明らかにした。

母親によるスマホ育児は、スマートフォンを用いて子どもをあやしたり、子守り代わりにして家事をこなすなど、様々な育児の場面で日常に浸透しており、子どもの年齢が低いほどなされていた。子どもが幼いころから、母親が子どもにスマートフォンを与えたり、自身も子どもの目の前で利用することで、子どもがスマートフォンへの親和性を高め、その結果、低年齢でのスマートフォン利用を促進する構図が示唆される。

母親によるPSDについては、スマートフォンで37%、テレビで29.9%の母親が一日に数回以上の頻度でPSDが発生しているという結果が呈示された。さらには、PSDによる注意散漫状況が発生していることも7割近くの母親が認識しており、日常においてこれらの情報機器がもたらすPSDが、母親と子どもの関係やコミュニケーションの間に何らかの影響を及ぼしていることは論を俟たない。

その一方で、母親自身も家事や育児に追われ、そのストレスから逃避したり、ストレスを解消したりするために母親自身がスマートフォンを利用する、子どもにスマートフォンを利用させるという現状も明らかとなり、加えて、母親はスマートフォンが家庭と仕事の効率化などにも寄与していることを認識しているようすも伺えた。スマートフォンを中心とした情報機器が母親の日々の育児や心身のサポートに貢献しているというポジティブな一面もあり、スマホ育児や子どもの前でのスマートフォン利用を一様に排除することは母親の育児負担やストレス軽減といった問題が解決されず、実際問題として現実的ではない。

今後、スマホ育児やPSDが子どもの発達、親子関係、コミュニケーションなどにおいてどのような影響があるのか、特にネガティブな影響やスマホ育児、PSDとの因果関係を明らかにするためのさらなる研究が待たれる。その上で、スマホ育児やPSDにおいてネガティブな影響を最小化するためのスマートフォンの利用の仕方、させ方の建設的な議論や検討が必要とされよう。

参考文献

Blackman, A. (2015). Screen time for parents and caregivers: Parental screen distraction and parenting perceptions and beliefs (Unpublished doctoral dissertation). New York, NY: Pace University.

橋元良明・久保隅綾・大野志郎 (2019) 「育児と ICT—乳幼児のスマホ依存、育児中のデジタル機器利用、育児ストレス」, 『東京大学大学院情報 学環 情報学研究 調査研究編』 No. 35, pp. 53-103.

橋元良明・久保隅綾・大野志郎(2020), 「育児とスマートフォン」, 『東京大学大学院情報 学環紀要 情報学研究・調査研究編』 No. 36, 印刷中.

中高年齢層の情報行動

Information Behavior of the Over Forties

橋元 良明	HASHIMOTO, Yoshiaki	片桐 恵子	KATAGIRI, Keiko
木村 忠正	KIMURA, Tadamasa	是永 論	KORENAGA, Ron
辻 大介	TSUJI, Daisuke	森 康俊	MORI, Yasutoshi
小笠原 盛浩	OGASAHARA, Morihiro	北村 智	KITAMURA, Satoshi
河井 大介	KAWAI, Daisuke	大野 志郎	OHNO, Shiroh

0. 調査の概要	橋元 良明
1. インターネットの利用(問1)	
1.1 インターネットの利用状況(問1)	河井 大介
1.2 主なサービスの利用頻度(問4)	森 康俊
1.3 SNSの利用(問5)	小笠原 盛浩
1.4 ネット利用に際するトラブルへの不安(問6)	河井 大介
2. テレビの視聴	
2.1 テレビ・新聞・ラジオの利用時間(問3)	是永 論
2.2 簡易日記式調査からみたテレビの視聴時間と視聴行為者率推移(問12)	橋元 良明
2.3 よく見るテレビ番組のジャンル(問11)	大野 志郎
3. ニュース、諸情報の情報源	木村 忠正
3.1 情報の種類毎に利用される情報源	
3.2 情報の種類毎に利用される情報源(複数回答)	
3.3 利用情報源が最もよく利用される割合(単一回答/複数回答)	
3.4 情報の種類毎に最もよく利用される情報源(単一回答)	
4. メディアの重要性評価	
4.1 情報源としての重要性評価(問8)	辻 大介
4.2 娯楽情報源としての重要性評価(問9)	辻 大介
4.3 メディアの信頼性(問10)	是永 論
5. コミュニケーション	
5.1 対面/インターネットによる近隣・友人・親族とのコミュニケーション	辻 大介
5.2 社会参加の状況(問18)	片桐 恵子
5.3 社会参加の状況(問18-1)	片桐 恵子

5.4 活動している人の中での連絡方法(問18-2)	片桐 恵子
5.5 ヘルスリテラシーと情報行動	北村 智
5.6 ICT利用に関するソーシャルサポートと周囲のスマートフォン利用状況	北村 智
6. 心理・健康	
6.1 孤独感、幸福度、社会的満足度	大野 志郎
6.2 主観的健康状態(問24)	河井 大介
6.3 日頃の健康習慣(問25)	河井 大介

<補足資料>

単純集計表

橋元 良明	東京大学大学院情報学環
片桐 恵子	神戸大学大学院人間発達環境学研究科
木村 忠正	立教大学社会学部
是永 論	立教大学社会学部
辻 大介	大阪大学大学院人間科学研究科
森 康俊	関西学院大学社会学部
小笠原 盛浩	東洋大学社会学部
北村 智	東京経済大学コミュニケーション学部
河井 大介	東京大学大学院情報学環
大野 志郎	東京大学大学院情報学環

報告のベースとなる調査は、平成 30 年度科学研究費基盤研究 (A)「日本人の情報行動、その四半世紀にわたる変遷と超高齢社会における課題の検討」(課題番号 18H03645、研究代表者:橋元良明)の一環として実施されたものである。

0. 調査の目的

0.1 調査の目的

2018年10月1日において日本の総人口は1億2,644万人、そのうち65歳以上の人口は28.1%を占めている。人類史上でも類を見ないほどの超高齢化社会である。単にネット利用率という側面で見れば、年齢層にまたがるデジタルデバイドはかなり解消されたと言える。しかし、高齢者におけるネット利用の実態は、モバイルでのメール利用が中心で、サイト利用、スマートフォン利用とも、若年層と比べ活発とは言えない（本報告の調査によれば70代のモバイルによるサイト利用率は26.3%、スマートフォン利用率は28.3%にとどまる）。すなわち、まだまだICTの恩恵を十分被っているとは言えない状況にある。

その背景として、機器スキルの不足や経済的側面以外に、詐欺や誹謗中傷、個人情報流出等に関し、若年層に比べ不安度が高いという意識面での影響や周りのサポートを十分受けられないという実態などもある。

この調査では、高齢者層の情報機器利用実態の他に、ネット社会に対する不安や個人情報にまつわる諸意識、ICT利用と生活満足度や幸福度との関連等を分析し、超高齢社会にもやさしい情報環境のあり方を考察する糸口を提示する。また、地域活動やグループ・団体への参加、それらの活動に利用しているメディア、周りからのサポート状況等、地域内コミュニケーションの実態についても分析することを目的とする。

0.2 調査方法

(1)調査対象者：実査を委託した中央調査社の個人マスターサンプル（中央調査社のモニターリスト。自主企画個人訪問面接調査の協力者の中から郵送調査への協力意向のある対象者を募ったもの）から抽出した全国40歳から79歳の男女。

(2)調査対象者の内訳・回収率

40歳代、50歳代、60歳代、70歳代の10歳刻み各年代の男女別に100人ずつの合計800人を抽出するにあたり、全国を10の地域区分（北海道、東北、関東、甲信越、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州）×3の都市規模（21大市・その他の市・町村）で層化し、各年代の男女別に100人ずつを層ごとに

		発送数	回収数	回収率
男性	40代	288	101	35.1%
	50代	207	108	52.2%
	60代	175	100	57.1%
	70代	199	102	51.3%
女性	40代	246	106	43.1%
	50代	204	103	50.5%
	60代	183	104	56.8%
	70代	272	103	37.9%
合計		1774	827	46.6%

2018年1月住基人口に比例配分した人数を、中央調査社の個人マスターサンプルから無作為に抽出。

(3)調査方法：郵送法。

(4)有効回答数：827票

(5)調査期間：2018年11月22日 ～ 2018年12月25日

1. インターネットの利用

1.1 インターネットの利用状況（問1）

インターネット（以下、ネット）の利用状況について、問1で質問している。問1では、次の4つの機器それぞれについて、

- (1)「パソコン（タブレット型端末を除く）で」（PC）
- (2)「タブレット型端末（iPadなど）で」（タブレット）
- (3)「スマートフォン（iPhone、アンドロイド端末など）で」（スマートフォン）
- (4)「従来型携帯電話（スマートフォンを除く。PHSを含む）で」（従来型携帯）

「メールや、LINEなどでのメッセージを見たり送ったりする」（メッセージ）、「インターネットのサイトやアプリを利用する」（サイト・アプリ）の利用の有無を確認した。

ここでは、個別の利用状況に加えて、以下の利用状況を検討する。

- ①PCネット利用者：(1)でメッセージまたはサイト・アプリを利用した人
- ②タブレットネット利用者：(2)でメッセージまたはサイト・アプリを利用した人
- ③スマートフォンネット利用者：(3)でメッセージまたはサイト・アプリを利用した人
- ④従来型携帯ネット利用者：(4)でメッセージまたはサイト・アプリを利用した人
- ⑤PC系ネット利用者：(1)または(2)でメッセージまたはサイト・アプリを利用した人
- ⑥モバイルネット利用者：(3)または(4)でメッセージまたはサイト・アプリを利用した人
- ⑦メッセージ利用者：(1)から(4)のいずれかでメッセージを利用した人
- ⑧サイト・アプリ利用者：(1)から(4)のいずれかでサイト・アプリを利用した人
- ⑨汎ネット利用者：(1)から(4)のいずれかで、メッセージまたはサイト・アプリを利用した人

個別のものに加えて、上記①～⑨の利用者の比率について、全体および性別の傾向を示したものが表1.1.1である。

今回の調査回答者（40歳～79歳）の全体の傾向としては、汎ネット利用の比率は91.2%であった。また、機器別の利用を見た場合、スマートフォンでのネット利用（68.1%）が最も高く、次いでPC（62.7%）であるが、タブレットでのネット利用は26.2%と十分に普及しているとは言えない。一方、利用内容は、メッセージ利用は90.3%とほとんどの人が利用しており、サイト・アプリでも78.4%と多くの人が利用している。

性別で見ると、PCでのネット利用は女性よりも男性が多い傾向があり、スマートフォンでのメールやLINEなどでのメッセージ利用は女性が男性よりも多い傾向がみられた。また、PC系とモバイルでは、PC系では男性の利用率が高く、モバイルでは女性の方が高い傾向がみられた。

表 1.1.1 全体・性別のインターネットの利用状況（％）

		N	全体	男性	女性	χ^2 検定
P C	メッセージ	809	53.6	64.1	43.2	***
	サイト・アプリ	796	58.2	66.4	49.9	***
タブレット	メッセージ	800	16.4	17.8	14.9	
	サイト・アプリ	792	25.1	26.1	24.1	
スマートフォン	メッセージ	809	67.7	64.4	71.0	*
	サイト・アプリ	799	63.1	60.3	65.8	
従来型携帯	メッセージ	796	27.0	29.4	24.6	
	サイト・アプリ	784	6.1	8.7	3.6	**
① P C		810	62.7	70.5	54.9	***
② タブレット		802	26.2	27.1	25.2	
③ スマートフォン		809	68.1	65.2	71.0	†
④ 従来型携帯		796	27.0	29.4	24.6	
⑤ P C 系		811	67.8	74.3	61.4	***
⑥ モバイル		820	88.7	86.8	90.5	***
⑦ メッセージ		821	90.3	89.3	91.2	
⑧ サイト・アプリ		810	78.4	79.5	77.3	
⑨ 汎ネット利用		821	91.2	90.7	91.7	

※ χ^2 検定の記号は性別とそれぞれの利用有無での χ^2 検定の結果、*** : $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ で有意であることを示す。

さらに、年齢層別に見たものが表 1.1.2 である。従来型携帯を除いて、ほとんどの項目で年齢層が低いほど利用率が高い傾向がみられた。従来型携帯では逆に年齢層が高いほどネット利用率が高い傾向がみられた。機器別では、60 代まではスマートフォンでの利用率が最も高いが、70 代では従来型携帯や P C がスマートフォンよりも利用率が高いが、P C 系とモバイルでの比較ではいずれの年齢層でもモバイルでの利用が高い。

また利用内容別では、いずれの年齢層でもメッセージがサイト・アプリよりも高い傾向がみられるが、サイト・アプリの利用は 60 代で 74.1% と落ち込み、さらに 70 代では 46.4% と半数を割っている。

また、今回の調査は 40 歳～79 歳を対象としているが、サンプリング方法、調査の時期が異なるが、参考までに 2015 年に実施された日本人の情報行動調査（橋元ら、2016）の 40 代以上の年齢層別の結果と比較すると、今回の調査では P C 系が全体的に高く、モバイルでは 60 代が高くなっている。P C 系ではタブレットの普及に伴う可能性がある。

ここで、高齢者のネット利用と基本属性の関連を明らかにするために、60 代、70 代それぞれで、P C 系、モバイル、汎ネットの利用有無を従属変数としたロジスティック回帰分析を行った。説明変数としては、橋元ら（2016）でネット利用との関連が示されている基本属性である性別、学歴、世帯収入、就業形態、都市規模を参考に、男性ダミー（男性を 1、女性を 0）、学歴、世帯収入、就労有無（フルタイム、パート・アルバイトを 1、それ以外を 0 としたダミー変数）、大都市居住（2 1 大都市を 1、それ以外を 0 としたダミー変数）を用いた。

表 1.1.2 年齢層別のインターネットの利用状況 (%)

		40代	50代	60代	70代	χ^2 検定
PC	メッセージ	63.6 +	65.7 +	50.0	34.0 -	***
	サイト・アプリ	71.2 +	71.7 +	53.0	34.6 -	***
タブレット	メッセージ	21.1 +	17.4	14.6	12.1	†
	サイト・アプリ	39.2 +	26.7	20.8	12.4 -	***
スマートフォン	メッセージ	91.8 +	83.8 +	61.7 -	30.4 -	***
	サイト・アプリ	90.8 +	79.3 +	55.3 -	22.2 -	***
従来型携帯	メッセージ	12.7 -	19.6 -	32.3	44.8 +	***
	サイト・アプリ	4.9	3.4	8.9	7.7	†
① PC		73.8 +	74.0 +	60.4	41.2 -	***
② タブレット		39.0 +	27.4	23.1	14.2 -	***
③ スマートフォン		92.3 +	83.8 +	62.7	30.4 -	***
④ 従来型携帯		12.7 -	19.6 -	32.3	44.8 +	***
⑤ PC系		80.1 +	77.9 +	66.3	45.6 -	***
⑥ モバイル		99.5 +	95.7 +	89.2	69.3 -	***
⑦ メッセージ		100.0 +	97.6 +	90.6 +	72.0 -	***
⑧ サイト・アプリ		97.6 +	92.9 +	74.1	46.4 -	***
⑨ 汎ネット利用		100.0 +	98.6 +	92.6	73.0 -	***

※ χ^2 検定の列の記号は、 χ^2 検定の結果、***: $p<.001$ 、** : $p<.01$ 、* : $p<.05$ 、† : $p<.10$ で有意であることを示す。

※ 各年齢層の数値右肩の記号は、残差分析の結果、+ : $p<.05$ で有意に高い、- : $p<.05$ で有意に低いことを示す。

表 1.1.3 年齢層別のインターネットの利用状況の日本人の情報行動 2015 との比較

(%)	日本人の情報行動 2015				今回調査			
	40代	50代	60代	70代	40代	50代	60代	70代
汎ネット利用	95.9	89.0	66.0	-	100.0	98.6	92.6	73.0
PC系	69.4	63.0	39.3	-	80.1	77.9	66.3	45.6
モバイル	92.4	85.8	61.7	-	99.5	95.7	89.2	69.3

分析の結果(表 1.1.4)、60代では学歴や世帯収入が高いほど利用している確率が高くなるが、70代では世帯収入の効果はみられず学歴が高いほど利用している確率が高い傾向がみられた。

表 1.1.4 60代 70代の各ネット利用有無を従属変数としたロジスティック回帰分析

	60代			70代		
	PC系	モバイル	汎ネット	PC系	モバイル	汎ネット
N	199	200	200	191	194	195
男性ダミー	0.1533 †	-0.0404	-0.0465	0.1329	-0.1814 †	-0.1111
学歴	0.4481 ***	0.1090	0.3718 *	0.3365 ***	0.2019 *	0.2770 **
世帯収入	0.2329 *	0.4323 *	0.7958 **	0.1034	0.0340	-0.0143
就労有無	-0.1292	-0.2738 †	-0.2489	-0.0320	0.0243	-0.0322
大都市居住	0.0146	-0.0291	-0.0168	-0.0254	-0.0442	-0.0775

※数値は、標準化偏回帰係数。

※数値横の記号は、***: $p<.001$ 、** : $p<.01$ 、* : $p<.05$ 、† : $p<.10$ で有意であることを示す。

参考文献

橋元良明編 (2016) 『日本人の情報行動 2015』、東京大学出版会

1.2 主なサービスの利用頻度

問4では、主なサービスの利用頻度を尋ねている。まず、利用率について見ると、「メールの読み書きをする」が利用率80.4%と最も高い。次いで、「地図アプリ（Googleマップなど）を利用する」70.6%、「LINEでメッセージのやり取りをする」60.5%、「YouTubeを見る」55.6%、「ネットショッピングで商品・サービスを購入する」53.2%、「他の人（個人）のブログ、ホームページを見る」44.7%、「旅行の予約をする」34.9%と続く。一方、「YouTube以外の無料ネット動画を見る」は28.4%、「スカイプ、LINEなどの音声通信を利用する」27.3%、「オンラインゲームをする」19.8%と3割弱の利用率となっており、「ネットバンキングを利用する」利用率は18.1%に止まっている。

表 1.2.1 主なサービスの利用頻度

	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない	無回答	している (計)
(1) メールを読み書きをする	47.2	19.2	10.3	3.7	18.3	1.3	80.4
(2) LINEでメッセージのやり取りをする	39.2	15.6	4	1.7	37.8	1.7	60.5
(3) スカイプ、LINEなどの音声通信を利用する	2.4	6	11.4	7.5	70.3	2.4	27.3
(4) オンラインゲームをする	13.1	3.6	1.7	1.5	78.2	1.9	19.8
(5) ネットバンキングを利用する	1.1	1.7	8.2	7.1	80.2	1.7	18.1
(6) ネットショッピングで商品・サービスを購入する	0.1	3.6	24.5	24.9	45.2	1.6	53.2
(7) 旅行の予約をする	0.1	0.2	2.3	32.3	63.5	1.6	34.9
(8) 他の人（個人）のブログ、ホームページを見る	12.2	11.2	11.7	9.6	53.6	1.7	44.7
(9) 地図アプリ（Googleマップなど）を利用する	4	16.7	28.5	21.4	27.6	1.8	70.6
(10) YouTubeを見る	13.2	14.3	16.2	12	42.9	1.5	55.6
(11) YouTube以外の無料ネット動画を見る	3.3	6.3	9.4	9.4	69.9	1.7	28.4

利用頻度を男女、年層、学歴、世帯年収別に見ると、「メールの読み書きをする」は、女性の方がやや高く、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっている（表1.2.2）。「LINEでメッセージのやり取りをする」は、男性、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっており、60歳代と70歳代には大きなひらきがある（表1.2.3）。

「スカイプ、LINEなどの音声通信を利用する」は、男女に差はなく、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっている（表1.2.4）。「オンラインゲームをする」は、男女と学歴に差はなく、若年と世帯年収400万円以上が高い頻度となっている（表1.2.5）。「ネットバンキングを利用する」は、女性、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっている（表1.2.6）。「ネットショッピングで商品・サービスを購入する」は、男女に差はなく、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっている（表1.2.7）。「旅行の予約をする」は、女性、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっている（表1.2.8）。「他の人（個人）のブログ、ホームページを見る」は、男女に差はなく、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻度となっている。また、40歳代・50歳代と60歳代・70歳代には大きなひらきがある（表1.2.9）。「地図アプリ（Googleマップなど）を利用する」は、男性、若年、高学歴、世帯年収400万円以上が高い頻

度となっている（表 1.2.10）。「YouTubeを見る」は、女性、若年、高学歴、世帯年収 400 万円以上が高い頻度となっている（表 1.2.11）。「YouTube以外の無料ネット動画を見る」は、学歴に差はなく、女性、若年、世帯年収 400 万円以上が高い頻度となっている（表 1.2.8）。

表 1.2.2 メールを読み書きをする

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	390	159	85	31	151
男性	409	178	90	46	13	82
女性	407	212	69	39	18	69 †
40歳代	207	125	41	27	8	6
50歳代	210	132	35	15	14	14
60歳代	203	82	49	28	4	40
70歳代	196	51	34	15	5	91 ***
中学・高校	359	125	76	40	17	101
短大・高専・専門学校	193	101	36	22	6	28
大学・大学院	264	164	47	23	8	22 ***
400万円未満	345	106	84	38	15	102
400万円以上	466	282	75	46	16	47 ***

（有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし）

表 1.2.3 LINEでメッセージのやり取りをする

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	324	129	33	14	313
男性	408	197	65	11	3	132
女性	405	127	64	22	11	181 ***
40歳代	207	136	37	5	3	26
50歳代	208	119	34	9	1	45
60歳代	201	58	38	12	5	88
70歳代	197	11	20	7	5	154 ***
中学・高校	359	101	63	15	5	175
短大・高専・専門学校	193	110	29	7	0	47
大学・大学院	261	113	37	11	9	91 ***
400万円未満	345	74	53	15	7	196
400万円以上	463	249	75	18	7	114 ***

（有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし）

表 1.2.4 スカイプ、LINEなどの音声通信を利用する

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	20	50	94	62	581
男性	404	8	30	50	24	292
女性	403	12	20	44	38	289 n.s.
40歳代	206	6	21	43	28	108
50歳代	208	9	16	33	13	137
60歳代	200	3	10	14	14	159
70歳代	193	2	3	4	7	177 ***
中学・高校	356	6	15	39	20	276
短大・高専・専門学校	192	5	21	20	17	129
大学・大学院	259	9	14	35	25	176 *
400万円未満	340	9	14	27	15	275
400万円以上	462	11	36	67	47	301 ***

（有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし）

表 1.2.5 オンラインゲームをする

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない	
全体	827	108	30	14	12	647	
男性	406	59	13	9	6	319	
女性	405	49	17	5	6	328	n.s.
40歳代	206	52	11	4	6	133	
50歳代	209	36	8	3	3	159	
60歳代	200	12	5	4	1	178	
70歳代	196	8	6	3	2	177	***
中学・高校	359	43	11	5	4	296	
短大・高専・専門学校	190	34	9	3	2	142	
大学・大学院	262	31	10	6	6	209	n.s.
400万円未満	342	27	11	5	4	295	
400万円以上	464	81	19	9	8	347	**

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.6 ネットバンキングを利用する

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない	
全体	827	9	14	68	59	663	
男性	407	3	2	22	28	352	
女性	406	6	12	46	31	311	***
40歳代	206	2	8	31	26	139	
50歳代	208	2	3	23	20	160	
60歳代	201	1	2	12	8	178	
70歳代	198	4	1	2	5	186	***
中学・高校	359	4	1	22	16	316	
短大・高専・専門学校	191	1	2	20	14	154	
大学・大学院	263	4	11	26	29	193	***
400万円未満	346	3	5	16	15	307	
400万円以上	462	6	9	52	44	351	***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.7 ネットショッピングで商品・サービスを購入する

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない	
全体	827	1	30	203	206	374	
男性	407	0	13	96	104	194	
女性	407	1	17	107	102	180	n.s.
40歳代	207	0	11	95	72	29	
50歳代	209	0	12	66	65	66	
60歳代	201	0	6	30	43	122	
70歳代	197	1	1	12	26	157	***
中学・高校	359	0	6	60	63	230	
短大・高専・専門学校	192	0	9	52	65	66	
大学・大学院	263	1	15	91	78	78	***
400万円未満	345	1	5	46	71	222	
400万円以上	464	0	25	157	134	148	***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.8 旅行の予約をする

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	1	2	19	267	525
男性	407	0	0	5	125	277
女性	407	1	2	14	142	248*
40歳代	207	0	0	7	97	103
50歳代	209	0	1	9	91	108
60歳代	200	0	1	3	50	146
70歳代	198	1	0	0	29	168***
中学・高校	360	0	0	3	86	271
短大・高専・専門学校	192	0	0	3	67	122
大学・大学院	262	1	2	13	114	132***
400万円未満	346	1	1	1	69	274
400万円以上	463	0	1	18	197	247***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.9 他の人(個人)のブログ、ホームページを見る

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	101	93	97	79	443
男性	408	48	46	46	36	232
女性	405	53	47	51	43	211 n.s.
40歳代	206	47	45	35	23	56
50歳代	209	35	30	35	22	87
60歳代	201	11	12	21	14	143
70歳代	197	8	6	6	20	157***
中学・高校	360	24	31	33	28	244
短大・高専・専門学校	191	32	30	22	21	86
大学・大学院	262	45	32	42	30	113***
400万円未満	344	33	18	28	25	240
400万円以上	464	68	75	69	53	199***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.10 地図アプリ(Googleマップなど)を利用する

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	33	138	236	177	228
男性	407	10	52	119	92	134
女性	405	23	86	117	85	94***
40歳代	206	11	54	86	42	13
50歳代	208	12	43	78	44	31
60歳代	200	7	25	47	51	70
70歳代	198	3	16	25	40	114***
中学・高校	360	8	37	91	70	154
短大・高専・専門学校	190	7	35	61	50	37
大学・大学院	262	18	66	84	57	37***
400万円未満	345	9	41	74	76	145
400万円以上	462	24	97	159	101	81***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.11 YouTubeを見る

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	109	118	134	99	355
男性	409	41	45	65	56	202
女性	406	68	73	69	43	153***
40歳代	207	43	43	56	27	38
50歳代	209	40	37	37	35	60
60歳代	202	16	29	29	22	106
70歳代	197	10	9	12	15	151***
中学・高校	359	38	39	39	32	211
短大・高専・専門学校	193	24	33	40	26	70
大学・大学院	263	47	46	55	41	74***
400万円未満	345	33	34	40	42	196
400万円以上	465	76	84	93	55	157***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

表 1.2.12 YouTube以外の無料ネット動画を見る

	計	ほぼ毎日する	週に数回	月に数回	月に一回以下	していない
全体	827	27	52	78	78	578
男性	406	9	19	28	37	313
女性	407	18	33	50	41	265**
40歳代	207	9	16	30	31	121
50歳代	209	11	20	26	29	123
60歳代	200	6	11	12	12	159
70歳代	197	1	5	10	6	175***
中学・高校	359	10	21	32	23	273
短大・高専・専門学校	191	8	13	17	19	134
大学・大学院	263	9	18	29	36	171 n.s.
400万円未満	344	7	14	23	17	283
400万円以上	464	20	38	54	60	292***

(有意水準：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.10, n.s. 有意差なし)

1.3 SNSの利用

SNSの利用については、3種類のSNS（Facebook、Twitter、Instagram）について、利用状況（書き込み・投稿もする、見るだけ、利用していない）をたずねている（問5）。性別・年層別に利用状況を比較したものが図1.3.1～1.3.3である。

どのSNSでも利用状況の性別による差異は有意ではないが、年層別による差異は0.1%水準で有意である（Facebook： $\chi^2(6)=69.12$ 、Twitter： $\chi^2(6)=71.35$ 、Instagram： $\chi^2(6)=100.15$ ）。40・50代は比較的SNSを利用しているが、60・70代になると利用率が急減する。

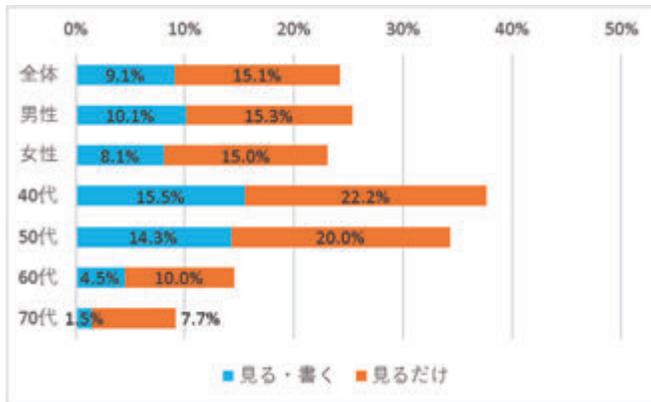


図 1.3.1 全体・性別・年層別の Facebook 利用状況 (n=812)

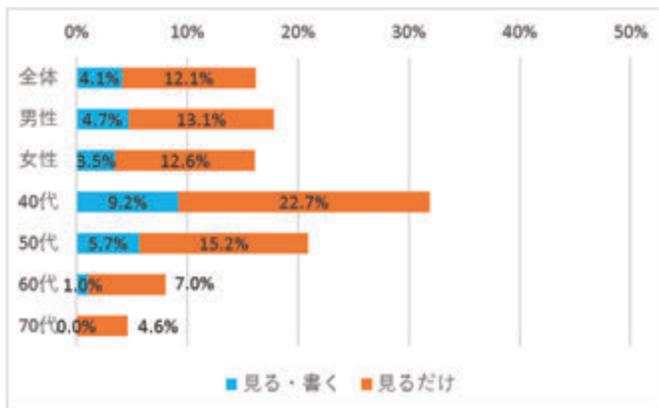


図 1.3.2 全体・性別・年層別の Twitter 利用状況 (n=811)

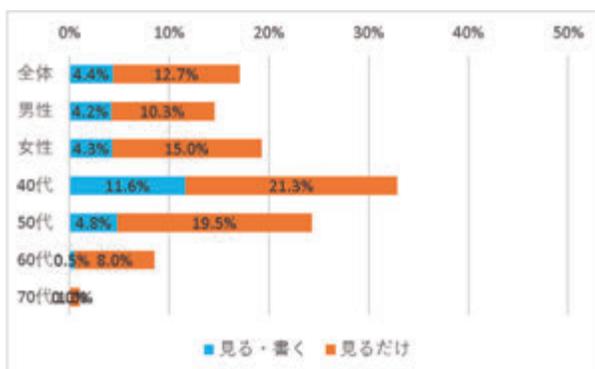


図 1.3.3 全体・性別・年層別の Instagram 利用状況 (n=812)

次に、各 SNS の利用（見る・書く、見るだけ）の有無をロジスティック回帰分析で予測した（表 1.3.1）。独立変数には回答者の属性（性別、年齢、教育年数、フルタイム仕事ダミー、世帯年収、子供と同居ダミー、独居ダミー、都市規模）を投入した。

表 1.3.1 SNS 別利用有無の予測

従属変数	Facebook	Twitter	Instagram
	<i>B</i>	<i>B</i>	<i>B</i>
性別（1:男性, 2:女性）	0.172	0.276	0.719**
年齢	-0.047***	-0.074***	-0.082***
教育年数（学歴から換算）	0.100*	0.111 †	0.099 †
フルタイム仕事（ダミー）	0.403 †	0.221	0.425
世帯年収（数値換算）	0.001*	0.000	0.001 †
子供と同居（ダミー）	-0.295	-0.680**	-0.477 †
独居（ダミー）	0.577 †	0.330	0.347
都市規模（反転）	0.317*	0.351*	0.127
定数	-0.096	1.202	0.386
n	798	797	798
Nagelkerke R²	0.154	0.169	0.208

†:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

どの SNS でもおおむね共通しているのは、年齢が若いほど、高学歴であるほど利用率が高くなる点である。SNS 別に見ると、Facebook は世帯年収が多いほど、大都市に居住しているほど利用率が高い。Twitter は子供と同居しているほど利用率が低く、大都市に居住しているほど利用率が高い。Instagram は女性の方が男性より利用率が高くなっている。

1.4 ネット利用に際するトラブルへの不安（問6）

インターネットに対する不安について、以下の5項目について、「とても不安」「やや不安」「あまり不安ではない」「まったく不安ではない」の4件法で確認した。

- (1)「利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される」（違法請求）
- (2)「ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される」（カード悪用）
- (3)「自分のIDやパスワードが勝手に使われる」（乗っ取り）
- (4)「住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する」（情報流出）
- (5)「パスワードを忘れてしまう」（パスワード忘れ）

これを、「とても不安」「やや不安」を不安として、全体、性別、年齢層別に確認したものが表 1.4.1 である。全体では、すべての項目で4分の3以上が不安を感じており、特に情報流出（89.0%）、カード悪用（86.9%）、乗っ取り（86.8%）が高い。この傾向は、性別や年齢層別にみても共通している。性別では、違法請求、カード悪用、情報流出で女性が

男性よりも有意に高く、年齢層別では、カード悪用で40代が高く、カード悪用と乗っ取りで70代が低い傾向がみられたが、それ以外に差はみられなかった。

表 1.4.1 全体・性別・年齢層別のインターネットに対する不安 (%)

	N	全体	男性	女性		40代	50代	60代	70代	
(1)違法請求	799	75.6	69.0	82.2	***	71.5	74.3	79.9	77.0	
(2)カード悪用	801	86.9	83.5	90.3	**	91.3	+ 88.6	84.9	82.2	· *
(3)乗っ取り	800	86.8	85.3	88.2		88.9	85.7	89.9	82.1	· †
(4)情報流出	801	89.0	85.5	92.5	**	88.4	90.0	91.0	86.5	
(5)パスワード忘れ	800	76.1	74.2	78.0		72.9	80.5	76.9	73.8	

※性別・年齢層横の記号は χ^2 検定の結果、***: $p<.001$ 、** : $p<.01$ 、* : $p<.05$ 、

† : $p<.10$ であることを示す。

※各年齢層の数値右肩の記号は、残差分析の結果、+ : $p<.05$ で有意に高い、· : $p<.05$ で有意に低いことを示す。

2. テレビの視聴

2.1 テレビ・新聞・ラジオの利用時間

マスメディアの利用時間については、テレビ・新聞・ラジオの平日一日の平均利用時間（時間と分）を直接記入する形でたずねている（問3の1～3）。このうち、利用していない場合を0分としてカウントした回答を「全体平均」、利用していない場合をカウントから除いた回答を「行為者平均」として、性別・年層・学歴・職業別に平均時間(分)を比較したものが表2.1.1である。

全体の傾向としてはテレビが全体平均205.1分で、行為者平均212.0分との差は大きくないが、ラジオでは行為者率が41.4%と低いこともあり、全体平均48.4分に対して行為者平均116.8分と大きな開きを見せている。

属性としては、テレビについてはすべての属性について全体平均および行為者平均ともに有意な差が見られた。女性と60代以上の年層、中学・高校卒および非有職者で利用時間が長くなっており、この傾向は全体平均および行為者平均ともに同様である。新聞については性別による差が見られないが、年層では70代の利用時間が全体平均で54.0分と他の年層に対する差が大きく、中学・高校卒および無職についても利用時間が長くなっている。ラジオは属性による差がほとんど見られないが、年層別の全体平均で70代が76.1分と特に長くなっている。

全体として、70代以上の層が活発にマスメディアを利用する傾向を読み取ることができる。

表 2.1.1 全体・性別・年層・学歴・職業別のマスメディア利用時間

	テレビ		新聞		ラジオ		
	全体	行為者	全体	行為者	全体	行為者	
	n=825	n=798	n=819	n=626	n=813	n=337	
平均利用時間 (分)	205.1	212.0	31.6	41.3	48.4	116.8	
性別	男性	189.2 b	195.9 b	32.8 a	42.9 a	48.7 a	111.0 a
	女性	220.7 a	227.9 a	30.4 a	39.7 b	48.2 a	123.3 a
	F値	10.44 **	10.84 **	1.09 n.s.	1.57 n.s.	0.00 n.s.	0.65 n.s.
年齢	40代	145.0 b	155.5 b	14.3 d	24.5 c	33.7 b	97.9 a
	50代	173.1 b	175.6 b	24.9 c	33.1 bc	39.0 b	94.9 a
	60代	247.0 a	253.3 a	33.7 b	40.8 b	46.1 b	125.3 a
	70代	257.3 a	263.8 a	54.0 a	59.9 a	76.1 a	141.5 a
	F値	35.45 ***	34.73 ***	68.23 ***	44.21 ***	6.45 ***	2.38 n.s.
学歴	中・高卒	246.7 a	252.9 a	37.9 a	46.4 a	56.3 a	126.8 a
	大学・短大等・大学院卒	171.7 b	178.7 b	26.6 b	36.7 b	42.2 a	108.0 a
	F値	61.97 ***	61.28 ***	25.21 ***	15.47 ***	3.51 n.s.	1.54 n.s.
就業形態	正規職	145.0 c	152.8 c	22.6 c	32.7 c	48.1 a	119.1 a
	非正規職	206.2 b	208.8 b	27.3 c	36.8 bc	36.1 a	103.8 a
	専業主婦	263.7 a	267.2 a	36.7 b	44.4 b	47.9 a	119.5 a
	無職	270.7 a	278.9 a	48.7 a	56.4 a	61.7 a	121.2 a
	F値	48.68 ***	47.68 ***	28.94 ***	20.00 ***	1.56 n.s.	0.20 n.s.

各属性最下段の数値はF値と検定結果。各属性の要素の右肩の a,b,c…は、縦に見て同記号間ではTukeyの多重範囲検定で p.<05 の有意差がないことを示す。太字は各属性について最も数値が高いことを示す。有意確率は ***:p<.001, **:p<.01, *:p<.05 で表記。

2.2 簡易日記式調査からみたテレビの視聴時間と視聴行為者率推移 (問 12)

問 12 では、回答日にもっとも近い平日について、簡易日記式形式でテレビ視聴の有無を質問した。

【回答記入例】 ←

例:8:30から10:00までテレビを見て、12:00から13:00までテレビをつけて他のことをしていた場合 ←

[5:00~17:00] ←	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
	30分												
テレビをつけていた時間帯 ←	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
そのうち、他のことをしたり、ぼんやり見ていた時間帯 ←	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

←

図 2.2.1 問 12 回答記入例

回答記入例は図 2.2.1 の通りであり、30分を1マスとし、「半分以上テレビをつけていた時間帯の欄に矢印を引いてください」「テレビはつけていたけれども他のことをしたりぼんやり見ていた時間帯は下の欄に×印を記入してください」という指示を与えた。

本節の分析では「テレビをつけていた時間」を「視聴計」、そのうち、「他のことをしたりぼんやり見ていた時間」を「ながら」、「視聴計」から「ながら」を引いた時間を「専念」

と呼ぶことにする。

また、「専念」の場合は、視聴時間を各セル 30 分、「ながら」の場合は各セル 15 分として計算した。

各セルで、たとえば「専念」の場合、実際には 30 分見た場合も 15 分しか見ていない場合も「30 分」として計算するため、視聴時間は実際の視聴時間より多目にでる。その結果、問 3(1)の「テレビを見る」で尋ねた自己報告時間よりかなり高め数値が示されている。

また、視聴行為者率は、30 分の各セルで印が付いた場合を 1、それ以外を 0 として計算しているため、30 分ごとの視聴行為者率も、他の調査などで分析している 15 分ごとの視聴行為者率などに比べ、高い比率を示すことにも注意が必要である。

なお、問 12 でまったくどのセルにもチェックを入れなかった人 26 人(3.1%)には、テレビをまったく見ない人と、単純に回答を拒否・失念した人 (DKNA) の両者を含む。したがって、26 人のうち、問 3(1)の「テレビを見る」の時間を尋ねる質問で「利用していない」と答えた人(3.3%)または問 11(12)の「ふだんよく見るテレビ番組のジャンル」で「テレビは全く見ていない」と答えた人(1.9%)で、かつ問 12 において DKNA 扱いになっている場合に、各セルでのテレビ視聴時間を 0 として計算した。その残余の 9 名を問 12 の最終的な欠損値とし、それ以外の 818 名を分析対象とした (なお、問 3(1)で「0」と答えたか、問 11(12)で「テレビはまったく見ない」と答えていても、問 12 でいずれかのセルにチェックをいれた人も存在する。その場合も上記の原則に従い 0 か欠損値かを弁別した)。

(1)簡易日記式によるテレビ視聴時間

表 2.2.1 簡易日記式によるテレビ視聴時間 (男女別、年齢層別。数値は分数)

	全体	男性	女性	t値	40代	50代	60代	70代	F値
総視聴時間	306.1	276.6	335.0	4.64***	224.9 a	255.1 a	363.2 b	384.4 b	44.07***
専念視聴	227.6	216.7	238.3	1.78ns	136.1 a	180.0 b	282.8 c	314.7 c	57.97***
ながら視聴	78.5	60.0	96.7	8.00***	88.8 a	75.1 ab	80.4 ab	69.7 b	2.90*
N	818	405	413		205	209	204	200	

数値は本節冒頭に示した計算方法によるテレビ視聴時間(分)。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc..は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

簡易日記式によるテレビ視聴時間(分数)を、全体、男女別、年齢層別に見たのが表 2.2.1 である。

専念視聴 (セルにチェックが付いた場合 30 分として計算)、ながら視聴 (セルにチェックが付いた場合 15 分として計算)、総視聴時間 (専念とながらの合計) において、男女別ではいずれも男性より女性の方が長時間視聴している。

年齢層別に見た場合、専念視聴、総視聴時間は年齢が高いほど長時間であるが、ながらは 40 代が最も長くなっている。

(2) 時刻別視聴行為者率推移

図 2.2.2-図 2.2.8 には、時刻別視聴行為者率推移を、「全体」、「男性」「女性」、年齢層別（「40代」「50代」「60代」「70代」）の順で示した。

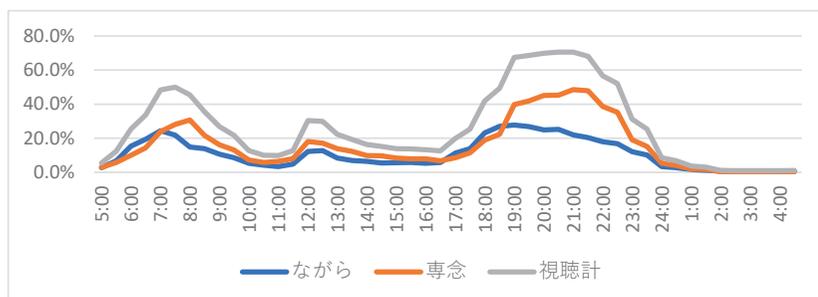


図 2.2.2 時刻別視聴行為者率の推移 (調査対象者全体)

「全体」について見れば、視聴計のピークは 21 時台の 70.5%である。専念とながらは 19 時まで拮抗しているが、19 時以降 24 時まででは専念がながらを上回っている。

視聴行為者率推移を男女別に見れば、視聴計のピークは男性が 21 時台の 64.2%、女性が 20 時 30 分の 77.5%である。女性の場合、19 時台までは専念に比べ、ながらの比率が男性より勝っているのが特徴的である。

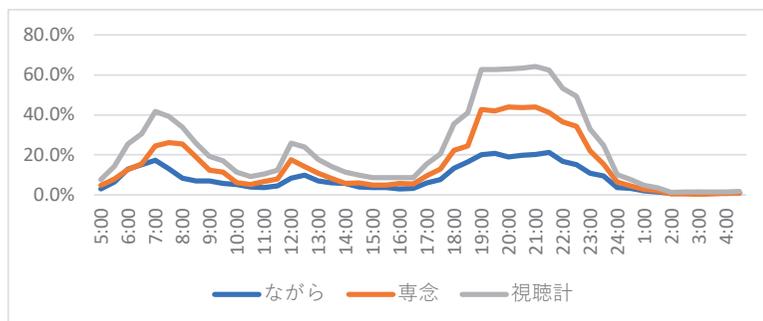


図 2.2.3 時刻別視聴行為者率の推移 (男性)

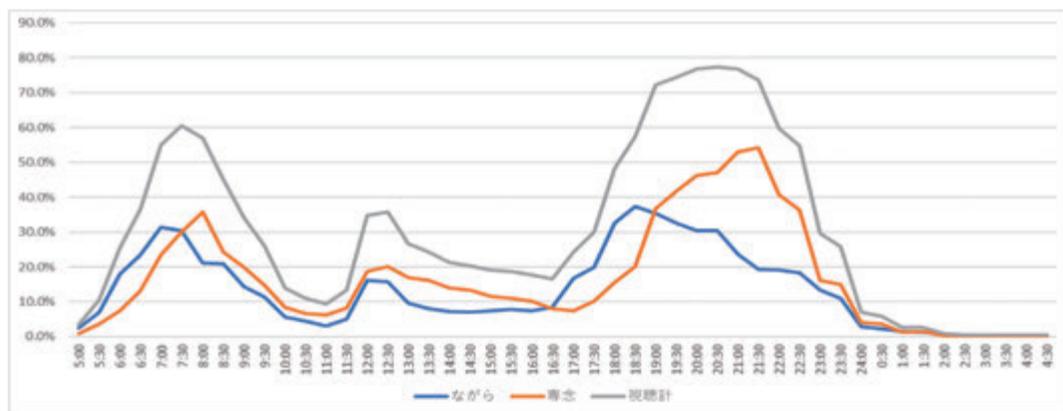


図 2.2.4 時刻別視聴行為者率の推移 (女性)

時刻別視聴行為者率の推移を年齢層別に見れば(図 2.2.3、図 2.2.4)、視聴計のピークは40代が21時台の63.9%、50代が21時台の67.5%、60代が19時台の77.9%、70代が19時台の81.5%である。

60代、70代はほぼ全時間帯でながらを専念が上回っている。

40代においてながら視聴のピークが朝の7時台であることが特徴的である。

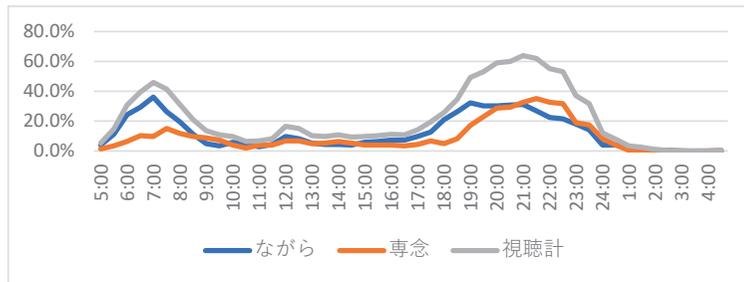


図 2.2.5 時刻別視聴行為者率の推移(40代)

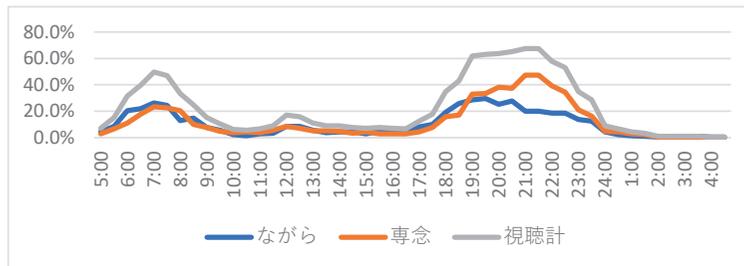


図 2.2.6 時刻別視聴行為者率の推移(50代)

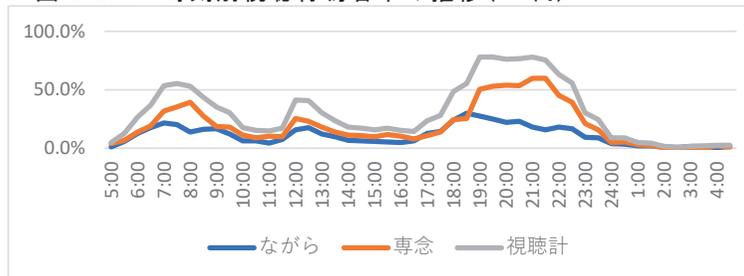


図 2.2.7 時刻別視聴行為者率の推移(60代)

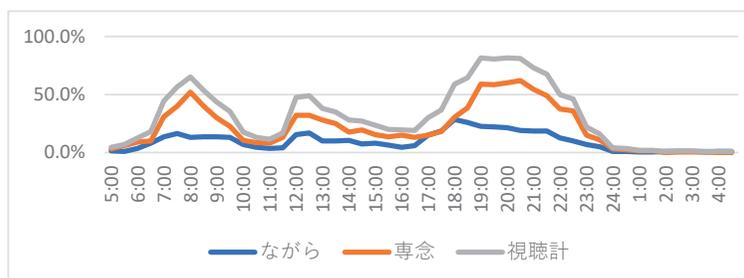


図 2.2.8 時刻別視聴行為者率の推移(70代)

以上について、全体、男女別、年齢層別に見たそれぞれの視聴行為者率のピーク時間帯を示したのが表 2.2.2 である。

表 2.2.2 男女別、年齢層別テレビ視聴行為者率のピーク時刻

	全体	男性	女性	40代	50代	60代	70代
視聴計	21:00 70.5%	21:00 64.2%	20:30 77.5%	21:00 63.9%	21:00 67.5%	19:00 77.9%	19:00 81.5%
専念視聴	21:00 48.5%	21:00 44.0%	21:30 54.2%	21:30 35.1%	21:00 47.4%	21:00 59.8%	20:00 60.0%
ながら視聴	19:00 27.8%	21:30 21.2%	18:30 37.3%	7:00 36.1%	19:30 29.7%	18:30 29.9%	18:00 28.5%

※ピークが複数の時間帯にまたがる場合、初めの時間帯を示した。

2.3 よく見るテレビ番組のジャンル

「ふだんよく見るテレビ番組のジャンル」それぞれについて、あてはまると回答した割合を表 2.3.1 に示す。

表 2.3.1 よく見るテレビ番組のジャンル（年層・性別・就業形態）

	n	バラエティ (お笑い・クイズなど)					
		ニュース	スポーツ	ドラマ	アニメ	バラエティ (お笑い・クイズなど)	
全体	821	92.1%	57.7%	61.6%	13.4%	56.8%	
40代	206	83.5%	43.2%	59.7%	27.2%	69.4%	
50代	210	92.4%	55.7%	62.4%	14.8%	60.5%	
60代	204	95.6%	62.3%	68.6%	7.8%	51.0%	
70代	201	97.0%	70.1%	55.7%	3.5%	45.8%	
検定		31.01(3)	32.58(3)	7.56(3)	56.54(3)	27.30(3)	
男性	407	93.1%	69.3%	53.1%	14.0%	52.1%	
女性	414	91.1%	46.4%	70.0%	12.8%	61.4%	
検定		1.19(1)	44.15(1)	25.02(1)	0.26(1)	7.18(1)	
フルタイム	333	91.0%	60.1%	55.0%	17.4%	57.7%	
パートタイム	159	89.9%	47.8%	71.1%	11.9%	62.9%	
専業主婦(夫)	150	94.7%	54.0%	72.0%	15.3%	61.3%	
無職	172	94.8%	65.1%	57.6%	5.8%	44.8%	
検定		4.68(3)	11.86(3)	20.32(3)	13.83(3)	13.89(3)	
	n	その他					
		音楽	情報番組	映画	旅行・グルメ	趣味・教養	その他
全体	821	33.4%	55.4%	41.9%	38.1%	35.7%	3.7%
40代	206	31.1%	51.0%	37.9%	32.5%	25.2%	1.5%
50代	210	33.3%	61.4%	36.7%	38.1%	35.2%	2.4%
60代	204	32.8%	55.9%	51.5%	43.6%	38.2%	4.4%
70代	201	36.3%	53.2%	41.8%	38.3%	44.3%	6.5%
検定		1.30(3)	5.13(3)	11.42(3)	5.36(3)	16.85(3)	8.65(3)
男性	407	28.3%	49.1%	45.5%	33.2%	33.9%	3.7%
女性	414	38.4%	61.6%	38.4%	43.0%	37.4%	3.6%
検定		9.51(1)	12.89(1)	4.19(1)	8.40(1)	1.12(1)	0.00(1)
フルタイム	333	27.0%	49.2%	36.9%	32.1%	28.8%	2.1%
パートタイム	159	38.4%	58.5%	42.1%	47.2%	37.7%	2.5%
専業主婦(夫)	150	40.0%	68.7%	48.0%	42.0%	44.0%	6.7%
無職	172	35.5%	54.1%	47.1%	38.4%	40.7%	5.2%
検定		11.11(3)	16.52(3)	7.54(3)	11.53(3)	13.47(3)	7.88(3)

※検定は χ^2 検定、値は χ^2 値(括弧内は自由度)。黒太字は5%水準で有意差があることを示す。また残差分析の結果、5%水準で有意に高い場合に青太字、有意に低い場合に赤太字で割合を記載している。就業形態における n は 814。パートタイムにはアルバイトも含む。

全体として、ニュースが 92.1%と最も高く、ついでドラマが 61.6%、スポーツが 57.7%、バラエティが 56.8%、情報番組が 55.4%であった。

年齢層別に比較すると、40代はアニメ(27.2%)、バラエティ(69.4%)が有意に高く、ニュース(83.5%)、スポーツ(43.2%)、趣味・教養(25.2%)が有意に低かった。50代には有意な差は見られなかった。60代はニュース(95.6%)、映画(51.5%)が有意に高く、アニメ(7.8%)が有意に低かった。70代はニュース(97.0%)、スポーツ(70.1%)、趣味・教養(44.3%)、その他(6.5%)が有意に高く、アニメ(3.5%)、バラエティ(45.8%)が有意に低かった。

性別で比較すると、男性はスポーツ(69.3%)、映画(45.5%)が有意に高く、ドラマ(53.1%)、バラエティ(52.1%)、音楽(28.3%)、情報番組(49.1%)、旅行・グルメ(33.2%)が有意に低かった。女性はドラマ(70.0%)、バラエティ(61.4%)、音楽(38.4%)、情報番組(61.6%)、旅行・グルメ(43.0%)が有意に高く、スポーツ(46.4%)、映画(38.4%)が有意に低かった。

就業形態別では、フルタイムはアニメ(17.4%)が有意に高く、ニュースとバラエティ、映画を除くすべてのジャンルで有意に低かった。パートタイム・アルバイトはドラマ(71.1%)、旅行・グルメ(47.2%)が有意に高く、スポーツ(47.8%)が有意に低かった。この結果は、女性の傾向と類似している。専業主婦(夫)は、ドラマ(72.0%)、情報番組(68.7%)、趣味・教養(44.0%)、その他(6.7%)が有意に高かった。無職はスポーツ(65.1%)が有意に高く、アニメ(5.8%)、バラエティ(44.8%)が有意に低かった。

これらの特徴をもとにジャンル毎の主な視聴者を特徴づけると、ニュースは全年齢的だが比較的高齢者層、スポーツは70代・無職・男性、ドラマはフルタイム勤務でない女性、アニメは40代のフルタイム勤務者、バラエティは40代女性、音楽はフルタイム勤務でない女性、情報番組は専業主婦、映画は60代の男性、旅行・グルメはパートタイムの女性、趣味・教養は70代の専業主婦(夫)に親和的なコンテンツであると言える。

3. ニュース、諸情報の情報源

3.1 情報の種類毎に利用される情報源

本調査では、1.国内ニュース、2.海外ニュース、3.天気予報、4.旅行、観光情報、5.買物、商品情報、6.健康・医療情報、7.TV番組情報、8.グルメ情報(美食)、8種類の情報について、1.TV、2.ラジオ、3.新聞、4.雑誌、5.パンフ、チラシ、6.PCウェブサイト、7.スマホ携帯アプリ・サイト、8.友人・家族という8種類の情報源を利用しているか(8種類とも利用していないか(「9.情報不要」)を、まずは複数回答で訊ねた。さらに、8種類いずれかを選択している場合には、「最もよく使った情報源」を単一回答してもらった。

そこで本章では、複数回答の結果、単一回答の結果、複数回答で選択した回答者の内、単一回答でも選択回答者の割合について、それぞれ、性年代との関係を概観する。

3.2 情報の種類毎に利用される情報源（複数回答）

表 3.1 は複数回答の結果をまとめたものである。まずは情報の種類毎に、異なる情報源にそれぞれの性年代がどの程度接触しているかをみてみたい。国内ニュース、海外ニュースは類似した傾向を示している。40代から70代を全体として平均すると、単純集計表にあるように、テレビ（9割弱）、新聞（5割～6割）、スマホ（4割前後）、PC（4分の1前後）、ラジオ（2割前後）、友人・家族（1割～2割）、雑誌（5%前後）という順番となる。

他方、性年代別にみると、年代、性別それぞれ大きく情報源接触に影響を与えていることが見て取れる。テレビ、ラジオ、新聞は40代から70代へと接触率が高くなっていくのに対して、PC、スマホ、友人・家族は低くなっていく。とくに、新聞とスマホは対照的で、新聞は40代が3分の1～4割強に対して、70代は7割前後（70代女性の海外ニュースは5割だが）、スマホは40代が6割から7割に対して、70代は1割前後に過ぎない。それとともに、性別でみると、それぞれの年代で、ラジオ、PCは男性の方が、友人・家族は女性の方が接触率が高い。

つまり、国内、海外問わず、ニュースについては、40代以上ではテレビがいまだに最も接触率が高いが、40代男性では、テレビも4分の3前後で相対的に低く、次いで、スマホが6分の2、PC5割弱と、新聞（4割前後）を上回り、ネットがニュース接触回路として大きな役割を果たしていることが示される。40代女性の場合には、テレビが85%前後やはり相対的に低く、次いでスマホが6～7割に達する。ただ、PCは2割前後で、女性の場合、ネットはスマホが優勢であり、PCは新聞、友人・家族よりも低い。他方、60代、70代では、テレビが9割前後、新聞も6割～7割と高いのに対して、PC、スマホは5%～36%と、マスメディアの影響力が依然として強い。そして、50代ではスマホと新聞が拮抗しており、50代が境目になっていることが示されている。

天気もおよそ同様の傾向だが、40代男性では、スマホ（8割）がテレビ（7割）を上回り、30代以下は一層顕著だと推測できる。旅行、買物・商品は類似しており、雑誌、チラシ・パンフ、新聞といった紙メディアが、平均すると2割～3割と一定の割合利用されている。ネット利用をみると、男性の場合、PC、スマホともに、40代、50代で5割前後とテレビ（2～3割と紙メディアと同水準）よりも多く、ネットが情報源として最もよく利用されている。60代も3割弱とテレビの4割強には及ばないが、紙メディアと同程度である。女性の場合、PC利用は男性よりも低い、それでも70代を除いて紙メディアと同程度（3割前後）である。スマホの場合には年代差が大きく、60代では2割前後（テレビ3割）だが、50代で5割前後（テレビ5割弱で同水準）、40代では、テレビ、紙メディア3

割前後に対してスマホが6～7割と生活に深く浸透していることが分かる。また、友人・家族の口コミが、男性で1割～1.5割、女性で2割から3割と、とくに女性（60代以上）において、情報源として一定の役割を果たしていることが読み取れる。

健康、グルメでは、テレビの接触率が4割から7割、紙メディアに特徴（健康は新聞、グルメは雑誌、チラシ・パンフが強い）があり、友人家族の口コミが、が、それ以外の情報源の接触率水準、年代、性別での差異の傾向は、旅行、買物と類似している。60代以上ではテレビ、新聞が依然として強く、友人家族の口コミもまた大きな役割を果たすが、50代でマスメディアとネットとが拮抗し、40代でネット利用が優勢となる傾向がみられる。

表 3. 1 性年代別にみた情報種類別情報源利用（複数回答）

	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F
	国内ニュース								海外ニュース							
1.TV	76.2	89.8	90.0	94.0	85.8	93.2	94.2	93.9	72.3	85.2	90.0	93.0	82.9	91.3	88.2	94.8
2.ラジオ	26.7	24.1	28.0	35.0	14.2	17.5	17.5	23.5	22.8	17.6	25.0	25.0	9.5	9.7	10.8	14.4
3.新聞	43.6	59.3	71.0	74.0	47.2	56.3	65.0	67.3	34.7	52.8	64.0	70.0	38.1	48.5	61.8	49.5
4.雑誌	5.9	9.3	11.0	9.0	4.7	5.8	7.8	13.3	1.0	4.6	10.0	6.0	1.9	1.0	3.9	9.3
5.チラシ	2.0	2.8	3.0	4.0	3.8	3.9	5.8	2.0	0.0	0.9	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0
6.PCサイト	47.5	40.7	34.0	26.0	21.7	25.2	19.4	5.1	47.5	38.0	32.0	22.0	17.1	22.3	17.6	3.1
7.スマホアプリ	69.3	58.3	36.0	15.0	72.6	61.2	27.2	9.2	65.3	53.7	29.0	13.0	62.9	49.5	23.5	6.2
8.友人家族	22.8	14.8	14.0	10.0	28.3	24.3	24.3	13.3	14.9	6.5	10.0	6.0	18.1	14.6	11.8	9.3
9.情報不要	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1.9	1.0	3.0	1.9	1.9	1.0	1.0
N	101	108	100	100	106	103	103	98	101	108	100	100	105	103	102	97
	天気								旅行							
1.TV	70.3	85.2	90.0	95.0	87.7	89.3	90.2	98.0	28.0	30.6	34.0	33.3	34.3	45.6	31.7	40.0
2.ラジオ	21.8	17.6	25.0	29.0	12.3	15.5	11.8	20.4	4.0	4.6	7.0	6.1	2.9	5.8	3.0	1.1
3.新聞	18.8	27.8	37.0	42.0	13.2	27.2	33.3	39.8	9.0	14.8	26.0	41.4	6.7	23.3	27.7	31.6
4.雑誌	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	17.0	22.2	26.0	17.2	26.7	31.1	37.6	30.5
5.チラシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	14.8	27.0	36.4	26.7	34.0	30.7	42.1
6.PCサイト	31.7	36.1	27.0	26.0	11.3	16.5	16.7	1.0	45.0	44.4	29.0	24.2	24.8	34.0	25.7	4.2
7.スマホアプリ	81.2	63.0	41.0	17.0	75.5	62.1	32.4	12.2	53.0	48.1	28.0	8.1	59.0	45.6	20.8	6.3
8.友人家族	13.9	3.7	3.0	6.0	17.9	10.7	3.9	3.1	14.0	9.3	12.0	14.1	17.1	25.2	30.7	32.6
9.情報不要	0.0	0.0	2.0	2.0	0.9	1.0	0.0	0.0	16.0	16.7	12.0	10.1	12.4	7.8	9.9	5.3
N	101	108	100	100	106	103	102	98	101	108	100	100	106	103	102	98
	買物								健康							
1.TV	21.8	32.4	41.0	37.8	28.6	46.5	31.4	40.2	42.0	48.1	63.0	65.7	54.3	69.9	56.9	64.9
2.ラジオ	6.9	5.6	12.0	6.1	3.8	5.0	4.9	1.1	8.0	7.4	14.0	9.1	4.8	5.8	2.9	7.4
3.新聞	9.9	19.4	25.0	40.8	8.6	20.8	22.5	29.3	8.0	33.3	36.0	49.5	16.2	32.0	35.3	46.8
4.雑誌	20.8	14.8	15.0	12.2	24.8	26.7	26.5	25.0	7.0	10.2	15.0	19.2	15.2	21.4	17.6	27.7
5.チラシ	14.9	22.2	27.0	29.6	25.7	29.7	33.3	46.7	2.0	3.7	10.0	6.1	4.8	7.8	8.8	10.6
6.PCサイト	55.4	45.4	29.0	25.5	25.7	35.6	22.5	6.5	43.0	33.3	32.0	21.2	22.9	24.3	17.6	5.3
7.スマホアプリ	57.4	51.9	24.0	6.1	73.3	54.5	18.6	4.3	44.0	44.4	15.0	5.1	55.2	48.5	18.6	7.4
8.友人家族	15.8	10.2	10.0	8.2	17.1	21.8	22.5	27.2	19.0	11.1	16.0	17.2	25.7	24.3	33.3	30.9
9.情報不要	5.0	6.5	16.0	19.4	1.9	5.9	9.8	8.7	13.0	13.0	13.0	9.1	9.5	4.9	9.8	6.4
N	101	108	100	98	105	101	102	92	100	108	100	99	105	103	102	94
	TV番組								グルメ							
1.TV	65.3	70.4	70.0	57.7	67.0	77.7	67.6	63.5	45.5	47.2	51.5	50.5	59.4	69.9	46.1	66.3
2.ラジオ	4.0	1.9	4.0	5.2	1.9	1.0	0.0	3.1	5.9	5.6	7.1	4.1	3.8	4.9	3.9	2.1
3.新聞	29.7	49.1	59.0	73.2	39.6	44.7	55.9	63.5	2.0	17.6	22.2	28.9	6.6	16.5	19.6	25.3
4.雑誌	2.0	4.6	6.0	5.2	5.7	8.7	9.8	2.1	18.8	22.2	26.3	16.5	21.7	35.0	33.3	31.6
5.チラシ	0.0	0.9	2.0	1.0	0.9	1.0	2.0	0.0	14.9	13.0	19.2	20.6	20.8	23.3	25.5	24.2
6.PCサイト	20.8	15.7	11.0	9.3	7.5	10.7	6.9	1.0	34.7	26.9	24.2	16.5	20.8	25.2	14.7	4.2
7.スマホアプリ	20.8	18.5	7.0	3.1	28.3	19.4	6.9	1.0	52.5	46.3	29.3	6.2	64.2	50.5	19.6	10.5
8.友人家族	9.9	0.9	8.0	3.1	17.0	14.6	11.8	10.4	16.8	12.0	17.2	14.4	30.2	30.1	33.3	30.5
9.情報不要	11.9	6.5	8.0	7.2	6.6	7.8	6.9	4.2	16.8	13.9	13.1	27.8	4.7	7.8	13.7	13.7
N	101	108	99	98	106	103	102	96	101	108	99	97	106	103	102	95

さて、8種類の情報源を複数回答で訊いているが、回答数の平均値、中央値を性年代別にまとめたのが表3.2である。表をみると、ニュースに関しては、40代から60代では、3つ程度の情報源を利用する人が多い。また、50代女性が、旅行、買物、健康、グルメでも積極的に複数の情報源を利用する人が相対的に多いことも読み取れる。

表3.2 性年代別にみた情報種別利用情報源数

	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F
	平均値								中央値							
国内	2.94	2.99	2.87	2.62	2.78	2.87	2.59	2.17	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0
海外	2.58	2.59	2.6	2.31	2.29	2.38	2.14	1.76	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
天気	2.38	2.33	2.24	2.11	2.18	2.21	1.85	1.67	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
旅行	1.81	1.89	1.89	1.75	1.96	2.45	2.02	1.74	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0
買物	2.03	2.02	1.83	1.6	2.06	2.36	1.79	1.61	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	1.5	1.0
健康	1.71	1.92	2.01	1.87	1.97	2.34	1.88	1.83	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0
TV番組	1.52	1.62	1.67	1.5	1.68	1.78	1.58	1.35	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
グルメ	1.91	1.91	1.95	1.5	2.27	2.55	1.92	1.8	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0

3.3 利用情報源が最もよく利用される割合（単一回答／複数回答）

表3.3 利用情報源が最もよく利用される割合（単一回答／複数回答）

	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F
	国内ニュース								海外ニュース							
1.TV	48.1	54.6	61.1	54.3	63.7	62.5	74.2	68.5	43.8	53.3	64.4	54.8	65.5	62.8	80.0	81.5
2.ラジオ	11.1	7.7	7.1	11.4	20.0	16.7	0.0	13.0	30.4	5.3	8.0	4.0	10.0	20.0	0.0	14.3
3.新聞	13.6	14.1	11.3	24.3	18.0	12.1	10.4	19.7	11.4	15.8	15.6	22.9	22.5	12.0	9.5	10.4
4.雑誌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
5.チラシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6.PCサイト	31.3	22.7	41.2	30.8	8.7	15.4	20.0	20.0	33.3	29.3	37.5	36.4	11.1	21.7	33.3	0.0
7.スマホアプリ	45.7	25.4	22.2	13.3	40.3	25.4	14.3	11.1	50.0	27.6	20.7	15.4	48.5	35.3	20.8	16.7
8.友人家族	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
	天気								旅行							
1.TV	35.2	43.5	55.6	68.4	57.0	57.6	76.1	82.3	25.0	33.3	41.2	39.4	27.8	34.0	40.6	39.5
2.ラジオ	13.6	10.5	8.0	0.0	0.0	12.5	8.3	5.0	25.0	0.0	14.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
3.新聞	10.5	13.3	8.1	7.1	21.4	3.6	5.9	5.1	11.1	25.0	15.4	36.6	14.3	16.7	21.4	40.0
4.雑誌			0.0					0.0	17.6	12.5	53.8	35.3	32.1	25.0	28.9	48.3
5.チラシ									15.4	18.8	51.9	61.1	35.7	25.7	61.3	65.0
6.PCサイト	31.3	33.3	25.9	30.8	8.3	23.5	17.6	0.0	68.9	58.3	86.2	41.7	46.2	57.1	57.7	50.0
7.スマホアプリ	63.4	44.1	58.5	23.5	53.8	50.0	36.4	25.0	60.4	50.0	25.0	25.0	74.2	48.9	66.7	33.3
8.友人家族	7.1	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	28.6	20.0	8.3	42.9	5.6	15.4	16.1	38.7
	買物								健康							
1.TV	31.8	22.9	36.6	24.3	13.3	21.3	34.4	35.1	42.9	53.8	55.6	50.8	45.6	61.1	62.1	65.6
2.ラジオ	14.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	66.7	28.6
3.新聞	20.0	33.3	24.0	45.0	33.3	33.3	21.7	40.7	12.5	16.7	27.8	36.7	11.8	15.2	19.4	29.5
4.雑誌	19.0	25.0	33.3	16.7	23.1	18.5	25.9	21.7	0.0	9.1	13.3	21.1	31.3	22.7	16.7	19.2
5.チラシ	13.3	45.8	66.7	62.1	37.0	36.7	61.8	69.8	0.0	25.0	20.0	33.3	20.0	12.5	11.1	20.0
6.PCサイト	64.3	42.9	72.4	60.0	48.1	58.3	69.6	66.7	69.8	47.2	68.8	52.4	50.0	40.0	61.1	80.0
7.スマホアプリ	62.1	62.5	45.8	33.3	84.4	56.4	52.6	25.0	52.3	50.0	26.7	20.0	65.5	38.0	52.6	28.6
8.友人家族	18.8	9.1	0.0	37.5	5.6	9.1	34.8	32.0	47.4	33.3	18.8	47.1	25.9	24.0	35.3	31.0
	TV番組								グルメ							
1.TV	66.7	60.5	57.1	46.4	73.2	62.5	68.1	65.6	45.7	39.2	47.1	46.9	39.7	45.8	46.8	44.4
2.ラジオ	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0		33.3	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0
3.新聞	63.3	54.7	64.4	74.6	69.0	63.0	56.1	63.9	0.0	15.8	13.6	14.3	0.0	11.8	10.0	8.3
4.雑誌	100.0	20.0	0.0	20.0	0.0	11.1	50.0	0.0	5.3	33.3	46.2	43.8	21.7	27.8	35.3	33.3
5.チラシ		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		13.3	28.6	42.1	70.0	27.3	12.5	15.4	39.1
6.PCサイト	38.1	41.2	9.1	22.2	37.5	0.0	14.3	100.0	48.6	44.8	70.8	37.5	40.9	30.8	73.3	100.0
7.スマホアプリ	52.4	35.0	42.9	0.0	36.7	25.0	14.3	0.0	64.2	62.0	44.8	33.3	72.1	51.9	50.0	40.0
8.友人家族	20.0	0.0	0.0	0.0	5.6	13.3	8.3	10.0	23.5	15.4	5.9	21.4	12.5	12.9	44.1	34.5

表 3.2 でみたように、回答者たちは、複数の情報源を利用している。そこで、複数回答で利用すると回答した情報源が、「最もよく利用する」に当てはまる割合を算出したのが、表 3.3 である。これを見ると、ニュース、健康、TV 番組情報では、テレビ利用者はテレビが最もよく利用する情報源として機能している。PC は、ニュース、天気の場合、2 番手以降の情報源である場合が多いが、旅行、買物、健康、グルメでは、情報源として利用される場合に一番手の位置を占める傾向にある。スマホは年代差が大きく、40 代では情報源として利用する場合、一番手のメディアであるが、70 代になると利用していても 2 番手以下となっている。

3.4 情報の種類毎に最もよく利用される情報源（単一回答）

表 3.4 は、情報の種類ごとに、「最もよく利用する」情報源の分布をまとめたものである。これをみると、ニュースに関しては、テレビが依然として強いことが分かるが、60 代から

表 3. 4 性年代別にみた情報種類別「最もよく利用する」情報源

	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F	40M	50M	60M	70M	40F	50F	60F	70F
	国内ニュース								海外ニュース							
1.TV	39.8	58.9	63.2	61.4	55.8	66.7	82.8	76.8	34.8	55.7	65.9	65.4	55.9	65.6	80.9	89.3
2.ラジオ	3.2	2.2	2.3	4.8	2.9	3.3	0.0	3.7	7.6	1.1	2.3	1.3	1.0	2.2	0.0	2.4
3.新聞	6.5	10.0	9.2	21.7	8.7	7.8	8.0	15.9	4.3	10.2	11.4	20.5	8.8	6.7	6.7	6.0
4.雑誌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
5.チラシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6.PCサイト	16.1	11.1	16.1	9.6	1.9	4.4	4.6	1.2	17.4	13.6	13.6	10.3	2.0	5.6	6.7	0.0
7.スマホアプリ	34.4	17.8	9.2	2.4	29.8	17.8	4.6	1.2	35.9	18.2	6.8	2.6	31.4	20.0	5.6	1.2
8.友人家族	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
	天気								旅行							
1.TV	26.9	44.9	58.1	81.3	52.0	57.6	79.5	92.9	8.6	14.3	17.5	17.1	11.2	18.8	15.7	18.1
2.ラジオ	3.2	2.2	2.3	0.0	0.0	0.0	2.2	1.1	1.2	0.0	1.3	2.6	0.0	1.2	0.0	0.0
3.新聞	2.2	4.5	3.5	3.8	2.9	1.1	2.3	2.4	1.2	5.2	5.0	19.7	1.1	4.7	7.2	14.5
4.雑誌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	3.9	17.5	7.9	10.1	9.4	13.3	16.9
5.チラシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	3.9	17.5	28.9	11.2	10.6	22.9	31.3
6.PCサイト	10.8	14.6	8.1	10.0	1.0	4.3	3.4	0.0	38.3	36.4	31.3	13.2	13.5	23.5	18.1	2.4
7.スマホアプリ	55.9	33.7	27.9	5.0	42.2	34.8	13.6	3.5	39.5	33.8	8.8	2.6	51.7	27.1	16.9	2.4
8.友人家族	1.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	4.9	2.6	1.3	7.9	1.1	4.7	6.0	14.5
	買物								健康							
1.TV	7.7	9.2	19.2	13.2	3.9	11.5	14.1	18.1	21.7	34.6	44.9	42.9	28.0	48.9	43.9	51.9
2.ラジオ	1.1	0.0	2.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.4	2.6
3.新聞	2.2	8.0	7.7	26.5	2.9	8.0	6.4	15.3	1.2	7.4	12.8	23.4	2.2	5.6	8.5	16.9
4.雑誌	4.4	4.6	6.4	2.9	5.9	5.7	9.0	6.9	0.0	1.2	2.6	5.2	5.4	5.6	3.7	6.5
5.チラシ	2.2	12.6	23.1	26.5	9.8	12.6	26.9	41.7	0.0	1.2	2.6	2.6	1.1	1.1	1.2	2.6
6.PCサイト	39.6	24.1	26.9	22.1	12.7	24.1	20.5	5.6	36.1	21.0	28.2	14.3	12.9	11.1	13.4	5.2
7.スマホアプリ	39.6	40.2	14.1	2.9	63.7	35.6	12.8	1.4	27.7	29.6	5.1	1.3	40.9	21.1	12.2	2.6
8.友人家族	3.3	1.1	0.0	4.4	1.0	2.3	10.3	11.1	10.8	4.9	3.8	10.4	7.5	6.7	14.6	11.7
	TV番組								グルメ							
1.TV	51.2	51.1	48.8	31.7	53.1	57.5	54.0	48.8	26.6	24.7	30.8	38.3	25.5	37.9	28.9	41.2
2.ラジオ	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	1.5
3.新聞	22.1	32.2	46.3	64.6	29.6	33.3	36.8	47.6	0.0	3.7	3.8	6.7	0.0	2.3	2.6	2.9
4.雑誌	2.3	1.1	0.0	1.2	0.0	1.1	5.7	0.0	1.3	9.9	15.4	11.7	5.1	11.5	15.8	14.7
5.チラシ	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.5	4.9	10.3	23.3	6.1	3.4	5.3	13.2
6.PCサイト	9.3	7.8	1.2	2.4	3.1	0.0	1.1	1.2	21.5	16.0	21.8	10.0	9.2	9.2	14.5	5.9
7.スマホアプリ	12.8	7.8	3.7	0.0	11.2	5.7	1.1	0.0	43.0	38.3	16.7	3.3	50.0	31.0	13.2	5.9
8.友人家族	2.3	0.0	0.0	0.0	1.0	2.3	1.1	1.2	5.1	2.5	1.3	5.0	4.1	4.6	19.7	14.7

次元1（横軸）が63.7%、次元2（縦軸）が16.3%の変動を説明している。図をみると、次元1は年代、次元2は性別と解釈することができ、8種類の情報源が、性年代と結びついている様子を見て取れる。スマホは、40代の近くに固まっており、旅行、買物、健康、グルメは女性に若干寄っている。PCは50代男性に近く、ラジオは主として50代、60代男性に近い。新聞は60代、70代の男性、テレビは60代、70代女性に近く位置しており、情報源として利用されるメディアが性年代で大きく異なる傾向を持つことが分かる。情報の種類という観点からみると、「旅行」「グルメ」は相対的に女性の利用が強いことが示されているが、情報の種類よりも、メディアそれ自体が性年代と結びつく傾向が読み取れる。

本章で分析してきたように、情報源としてのメディアの利用は、メディア自体が性年代と結びついており、それが情報ジャンルの特性によって、一定の強弱を生み出していると考えられる。利用者、メディア、ジャンル、それぞれがエイジェンシーとしての力をもっており、その相互作用によって、社会的な利用傾向が形成されているのである。

4. メディアの重要性評価

4.1 情報源としての重要性評価（問8）

今回の調査でも、これまでの〈日本人の情報行動〉調査と同様に、「情報を得るための手段（情報源）」としての重要性を、テレビ、新聞、ラジオ、インターネットそれぞれについて訊ねている。回答選択肢は「非常に重要」「ある程度重要」「どちらかともいえない」「あまり重要ではない」「まったく重要ではない」の5件法であり、うち前2者を選択したケースを当該メディアについて重要と評価したものとして、その比率を全体・性別・年齢層別にまとめたものが、表4.1.1である（分母は無回答を除いた有効回答数）。

表 4.1.1 情報を得るための手段として重要と評価した比率

	テレビ		新聞		ラジオ		インターネット	
全体	90.7%	(N=819)	73.9%	(N=812)	41.2%	(N=799)	70.5%	(N=799)
40代	88.5%	(n=207)	55.3%	(n=206)	29.6%	(n=206)	92.3%	(n=207)
50代	90.0%	(n=211)	72.4%	(n=210)	36.8%	(n=209)	84.4%	(n=211)
60代	91.6%	(n=203)	77.7%	(n=202)	44.2%	(n=197)	59.7%	(n=201)
70代	96.0%	(n=198)	91.2%	(n=194)	55.6%	(n=187)	41.1%	(n=180)
$\chi^2=$	13.45 ***		68.79 ***		29.82 ***		152.57 ***	
男性	89.5%	(n=408)	71.3%	(n=407)	44.3%	(n=395)	73.4%	(n=399)
女性	92.0%	(n=411)	76.5%	(n=405)	38.1%	(n=404)	67.5%	(n=400)
$\chi^2=$	0.22 n.s.		2.94 n.s.		3.15 n.s.		3.38 n.s.	

(*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ の有意水準を表す)

全体としては、テレビ、新聞、インターネット、ラジオの順に重要とする者が多いが、40代ではインターネットの重要性評価率が他のメディアを上まわるのに対して、70代では旧来のマスメディアであるテレビ・新聞・ラジオのほうがやはり高く評価されている。

また、これらのマスメディアについては年齢層が上がるほど、重要性評価率が有意に高くなるが (χ^2 検定による)、インターネットは逆に加齢とともに低くなるという点でも、対照的な傾向を示している。男女別では、いずれのメディアに関しても 5%有意水準を上まわる差は認められない。ただし、10%参考水準まで基準を緩めると、新聞は女性のほうが、ラジオとインターネットは男性のほうが重要と評価する者が多い。

男女によって、若干異なる年齢層の効果が認められるのは、テレビに対する重要性評価である。男性の場合は、40代から70代にかけて 82.2%→88.0%→93.0%→94.9%に (12.7ポイント差)、女性では 88.7%→92.2%→90.3%→97.0% (8.3ポイント差) に増える。いずれもほぼ単調増加する点では同じだが、男性のほうがより顕著な増加分を示しており (5%水準で有意)、女性の場合の年齢層による差は有意ではない。男性のこの傾向が加齢効果によるのか世代効果なのかは判断できないが、ひとつの特徴として挙げておきたい。

4.2 娯楽手段としての重要性評価 (問9)

次に、「楽しみを得るための手段」としての重要性を、各メディアについて先と同じ5件法で訊ねた結果を、表4.2.1に示す(「非常に重要」または「ある程度重要」を選択回答した比率、分母は無回答を除いた有効回答数)。

表 4.2.1 楽しみを得るための手段として重要と評価した比率

	テレビ		新聞		ラジオ		インターネット	
全体	89.4%	(N=820)	56.3%	(N=814)	33.9%	(N=805)	68.4%	(N=800)
40代	83.0%	(n=206)	30.6%	(n=206)	20.9%	(n=206)	92.7%	(n=207)
50代	89.5%	(n=210)	48.3%	(n=209)	31.1%	(n=209)	81.0%	(n=211)
60代	89.7%	(n=204)	62.2%	(n=201)	35.3%	(n=201)	59.4%	(n=201)
70代	95.5%	(n=200)	85.4%	(n=198)	49.7%	(n=189)	36.3%	(n=180)
$\chi^2=$	16.74 ***		131.52 ***		37.66 ***		166.12 ***	
男性	87.2%	(n=407)	51.7%	(n=404)	35.4%	(n=398)	73.3%	(n=401)
女性	91.5%	(n=413)	60.7%	(n=410)	32.4%	(n=407)	63.4%	(n=399)
$\chi^2=$	4.00 *		6.70 *		0.81 n.s.		9.08 **	

(*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ の有意水準を表す)

全体として、テレビの評価率が最も高く、ラジオが最も低いのは、先にみた情報源としての重要性評価の場合と同じだが、ここではインターネットの評価率が新聞を12ポイントも上まわっている点が異なる。

年齢層別にみた変化傾向は、基本的には情報源としての重要性評価と似ており、マスメディア(テレビ・新聞・ラジオ)は年齢が上がるほど単調増加し、インターネットは単調減少しているが、いずれのメディアについても χ^2 値が大きくなっていることに示されるように、差の開きはより顕著になっている。マスメディアか、インターネットか、という重心の置き方の世代差は、情報源としてよりも娯楽手段としての側面により大きく現れているように思われる。この点でいえば、インターネットの重要性評価率がテレビを上まわる

40代とその逆の50代以上とのあいだに、ひとつの断層を認めることができるだろう。

男女差に関しても、娯楽手段としての重要性評価の場合には、テレビ、新聞、インターネットに有意な違いがみられ、テレビ・新聞は女性において評価率が高く、インターネットについては男性のほうが高い。これはおそらく、男性が仕事上でインターネットに慣れ親しみをもっていることによるものだろう。

4.3 メディアの信頼性

メディア情報のうち、信頼できる情報について、テレビ、新聞、ラジオ、インターネットそれぞれに対して「全部信頼できる」、「大部分信頼できる」、「半々くらい」、「一部しか信頼できない」、「まったく信頼できない」の5件法でたずねた。(問10)。このうち、「全部信頼できる」と「大部分信頼できる」の合計を「信頼度」として、性別・年層別にまとめたものが表4.3.1である。

全体としては、新聞の信頼度が71.1%と最も高くなっているのに対して、インターネットについては26.3%と、他のマスメディアと比較しても信頼度の低さが目立っている。

表 4.3.1 メディア信頼度

	テレビ	新聞	ラジオ	インターネット
N	818	814	803	799
全体	60.3	71.1	53.4	26.3
男性	56.2	66.7	52.0	23.5
女性	64.3	75.6	54.8	29.1
χ ² 値	5.69*	7.82**	0.63	3.20
40代	49.0	68.0	47.3	24.3
50代	60.5	68.6	53.6	29.5
60代	68.6	75.1	56.3	29.2
70代	63.1	73.1	56.8	21.0
χ ² 値	17.50***	3.60	4.61	4.89

※有意確率は ***:p<.001, **:p<.01, *:p<.05 で表記。

年層別では残差分析の結果、黒太字：p<.05で高く、赤字：p<.05で低いことを示す。

属性としては、テレビについては性別と年層ともに有意な差が見られた。女性が男性よりも信頼度が高い一方で、40代の信頼度が特に低くなっている。他のメディアについては新聞への信頼度が女性で高くなっているほかは、属性による有意な差は見られなかった。

なお、本調査と同じ研究グループで2016年に5か国を対象に行った調査(北村ほか、2018)でも同じ項目で質問をしており、こちらは30代以下を含んでいるので、参考まで表4.3.2として示しておく。

2016年はモニターを対象としたオンライン調査のため単純に比較することはできないものの、傾向としてインターネットの信頼度が他のメディアに比較して最も低くなっていることは同様である。一方で、若年層を含む全体の信頼度は今回よりもかなり低い、マ

スメディアの信頼度には年層による有意な差があり、20代における全般的な信頼度の低さが目立っているのに対して、60代はいずれも信頼度が相対的に高くなっている。今回の結果においてはテレビだけではあるが、40代以下の信頼度の低さが60代の年齢層における信頼度の高さに関連した共通の傾向として出ている可能性がある。

表 4.3.2 年齢層全般のメディア信頼度（北村ほか、2018、p.132）

	テレビ	新聞	ラジオ	インターネット
全体	39.2	49.6	31.7	24.8
10代（2016年）	47.0	47.0	39.4	13.6
20代（2016年）	28.1	38.1	20.9	21.6
30代（2016年）	33.0	46.6	27.2	22.0
40代（2016年）	37.1	48.0	33.7	25.1
50代（2016年）	39.9	49.4	28.1	27.5
60代（2016年）	51.5	62.9	42.1	30.7
χ^2 値	25.14***	22.60***	22.58***	10.47

※有意確率は ***:p<.001,**:p<.01,*:p<.05 で表記。

年層別では残差分析の結果、黒太字：p<.05 で高く、赤字：p<.05 で低いことを示す。

参考文献

北村智ほか 2018 「情報行動と社会意識に関する国際比較：「日本人の情報行動調査」プロジェクトにおける日中韓星米 5 ヶ国オンライン調査」『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編』34号、119-211 頁

5. コミュニケーション

5.1 対面／インターネットによる近隣・友人・親族とのコミュニケーション

今回の調査では、下記の4種の相手と、「会って話したり遊んだりする」頻度、「インターネット（メールやSNSなど）で個人的なやりとりをする」頻度について設問している（問14）。以下では、前者を対面的コミュニケーションとして〈FtF: Face-to-Face〉、後者をネットを介したコミュニケーションとして〈CMC: Computer-Mediated Communication〉の頻度と表記することにしたい。

コミュニケーションの相手として設定したのは、近隣（設問文の表現は「近所・地域の人」）、近距離友人（「会いに行くのに1時間以内で会える友人」）、遠距離友人（「会いに行くのに1時間以上かかる友人」）、親族（「親せき・親族（同居している家族は除く）」）である。コミュニケーションの頻度は、FtF・CMCともに「一日に1回以上」「週に数回」「月に数回」「年に数回」「年に1回以下」の5件法で回答を求めた。

5.1.1 性別・年齢層別にみた近隣・友人・親族とのコミュニケーション

表 5.1.1 は、近隣・近距離友人・遠距離友人・親族との対面コミュニケーション（FtF）

について、「一日1回以上」を5～「年に1回以下」を1として頻度順位得点を与え、その平均値を示したものである。なお、性別に関しては Wilcoxon 順位和検定を、年齢層別に関しては Kruskal-Wallis 順位検定を行なった結果を付記してある。

表 5.1.1 近隣・友人・親族との FtF に関する頻度比較（数値は頻度順位得点の平均値）

	近隣	近距離友人	遠距離友人	親族
全体	2.82 (N=814)	2.44 (N=806)	1.63 (N=794)	2.33 (N=803)
40代	2.46 (n=206)	2.31 (n=205)	1.53 (n=205)	2.28 (n=206)
50代	2.61 (n=208)	2.25 (n=208)	1.62 (n=204)	2.29 (n=207)
60代	2.85 (n=201)	2.52 (n=196)	1.66 (n=199)	2.45 (n=201)
70代	3.41 (n=199)	2.72 (n=197)	1.72 (n=186)	2.31 (n=189)
$\chi^2=$	72.90 ***	24.87 ***	4.32 n.s.	3.79 n.s.
男性	2.63 (n=405)	2.32 (n=400)	1.60 (n=395)	2.19 (n=399)
女性	3.02 (n=409)	2.56 (n=406)	1.66 (n=399)	2.47 (n=404)
$z=$	-4.56 ***	-3.31 ***	-0.94 n.s.	-3.89 ***

(*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ の有意水準を表す)

年齢層別にみると、近隣および近距離の友人との FtF 頻度は高年層ほど有意に増え、特に70代の近隣とのコミュニケーションの活発さが目立つ。一方、遠距離の友人、親族との FtF には有意差はみられない。男女別では、近隣、近距離の友人、親族との FtF に有意差が認められ、いずれも女性のほうが活発な傾向にある。

次に、CMC の頻度を同様に比較したものが、表 5.1.2 である。ただし、CMC に関しては高年層で無回答が顕著に多くなっており、70代では CMC 設問 4 項目いずれについても欠損値が3割におよぶ。これは、高年層ほどインターネットの非利用者が増えるために、無回答が多くなるものと考えられる。そこで、調査票の問3でパソコン・タブレット端末・スマートフォン・携帯電話いずれでもインターネットを利用していないと回答しており、かつ、CMC 設問に無回答であるケースについては、欠損値を1（「年に1回以下」）に置換する操作を加えた。表 5.1.2 は、この置換操作後の分析結果であることに注意されたい。

表 5.1.2 近隣・友人・親族との CMC に関する頻度比較（数値は頻度順位得点の平均値）

	近隣	近距離友人	遠距離友人	親族
全体	1.89 (N=780)	2.33 (N=781)	1.91 (N=781)	2.20 (N=782)
40代	1.98 (n=205)	2.67 (n=203)	2.10 (n=204)	2.38 (n=205)
50代	1.88 (n=199)	2.48 (n=202)	2.00 (n=200)	2.22 (n=202)
60代	1.87 (n=191)	2.16 (n=191)	1.80 (n=191)	2.24 (n=190)
70代	1.84 (n=185)	1.98 (n=185)	1.73 (n=186)	1.94 (n=185)
$\chi^2=$	2.40 n.s.	35.05 ***	17.34 ***	15.20 **
男性	1.69 (n=387)	2.12 (n=391)	1.83 (n=389)	1.86 (n=390)
女性	2.10 (n=393)	2.54 (n=390)	1.99 (n=392)	2.53 (n=392)
$z=$	-4.74 ***	-4.83 ***	-2.59 **	-7.40 ***

(*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ の有意水準を表す)

年齢層別では、近距離および遠距離の友人、親族との頻度に有意差が認められ、いずれも高年層ほど CMC 頻度が下がる。近隣については有意差がみられない。近隣との FtF は年齢が上がるにつれて活発になる傾向にあったが、その活発さが CMC においては高年層でのインターネット利用の低調によって相殺されるということだろう。男女別では、どの相手との CMC にも有意な頻度差が認められ、いずれも女性のほうが活発である。

5.1.2 近隣・友人・親族とのコミュニケーションの幸福感に対する効果

以下では、近隣・友人・親族との FtF および CMC が幸福感におよぼす効果を、重回帰分析により検討する。従属変数には、「とても幸せ」を 10、「とても不幸」を 0 として 11 件法で評定したいわゆる主観的幸福度（問 22）を用いる。独立変数には、多重共線性を生じることが懸念された近距離の友人との FtF・CMC を除き、近隣・遠距離の友人・親族とのコミュニケーション頻度 6 変数を投入する。なお、CMC 変数については、前項で行なったような置換操作ではなく、完全情報最尤法による欠損値代入によって対処した。

統制変数としては、性別（男性ダミー）、年齢、教育年数、世帯年収、有職ダミー（「フルタイムで働いている」もしくは「パートタイム、アルバイト」）、独居ダミー（同居している家族が「いない」）、健康状態（「まったく健康」～「まったく健康でない」の 5 件法で回答）、社交性尺度（「社会的な集まりにはよく出かける」「人と一緒にいるのが好きである」「人とのつきあいは私にとっていつも刺激的だ」の 3 項目に対する 4 件法の回答を単純加算、Cronbach's $\alpha=.78$ ）を投入した。

表 5.1.3 が、その分析結果を 60 代・70 代の高年層と 40 代・50 代の中年層に分けて示したものである（有意性の検定にはロバスト標準誤差を用いた）。

表 5.1.3 幸福感に関する重回帰分析の結果（完全情報最尤法により欠損値代入）

		高年層 (60代~70代, n=409)	中年層 (40代~50代, n=418)
FtF	近隣	.119 *	-.079
	遠距離の友人	-.076	-.048
	親族	.011	.037
CMC	近隣	-.130 *	.029
	遠距離の友人	.033	-.039
	親族	.063	.073
(統制変数)	男性ダミー	-.041	-.049
	年齢	.024	.057
	教育年数	.066	.048
	世帯年収	.052	.218 ***
	有職ダミー	.012	.006
	独居ダミー	-.016	-.041
	健康状態	.268 ***	.234 ***
	社交性	.236 ***	.145 **
Bentler-Raykov R^2		.196	.184

(*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$ の有意水準を表す)

中年層では FtF・CMC いずれの項目も有意な効果をもたないが、高年層では近隣との FtF に幸福感を高める正の効果が、CMC には逆に負の効果が認められる。いわゆるインターネット・パラドクスを思わせる結果と言えよう (Kraut et al., 1998, Internet Paradox, *American Psychologist*, vol.53-no.9, pp.1017-1031)。この結果は、前項での置換操作による欠損値代入を用いて分析しても基本的に変りはなく、少なくとも今回の調査データでは安定的な連関傾向である。

今回よりもサンプリング面で信頼性の高い、他の調査データでも同じ結果が確認できるか、また、幸福感の高い者が FtF を好み、CMC を避けるという逆向きの因果ではないか、これらの検証を今後の課題としたい。

5.2 社会参加の状況(問 18)

高齢者の社会参加は、認知や心身の健康、ひいては死亡率を低下させることが多くの研究結果で示されている(片桐, 2017 等)。平成 29 年高齢社会白書(2017)によれば、全国の 60 歳以上の高齢者のグループ参加率は、61.0%であり、20 年前に比べると 18.7%も上昇したことが報告されている。

今回の調査では、問 18 において、以下の 12 の選択肢を示し、現在のグループ参加の様子を尋ねた(複数回答)。

- 1 自治会、町内会、老人会、婦人会
- 2 同業者の団体、農協、労働組合
- 3 生協・消費者団体・住民/市民運動の団体
- 4 ボランティア団体
- 5 宗教団体
- 6 学習会や習いごとのグループ
- 7 趣味や遊び仲間のグループ
- 8 仕事仲間のグループ
- 9 同窓会
- 10 生涯学習機関(例:高齢者大学)
- 11 その他(具体的に:)
- 12 参加しているものはない

これに対する回答について、まず、一つでも何らかのグループに参加しているかどうかについて男女、年代別に示した(図 5.2.1)。

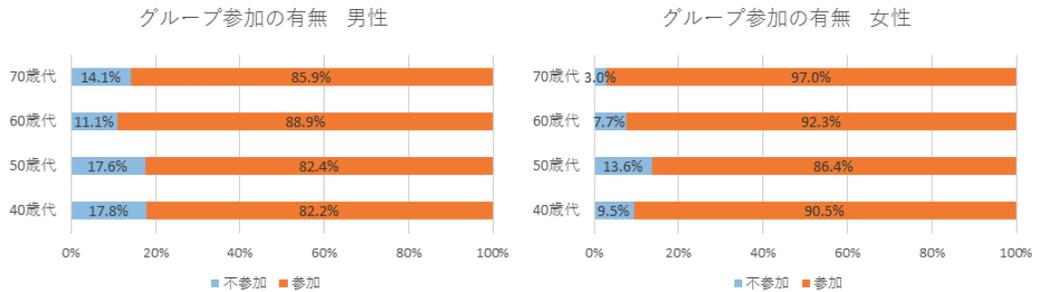


図 5.2.1 社会参加の有無（男女、年代別）

男女別の社会参加率は、男性で 84.8%、女性で 90.9%となっている。このうち 60 歳以上でみると、男性で 85.6%、女性で 93.7%となり、前述した全国平均と比べるとかなり高い参加率を示している。本調査でのサンプルは一般に比べて、かなり社会参加に活発な人たちであるという点を留意する必要がある。

男女、世代別で比較すると、どの年代も男性より女性の参加率の方が高くなっており、特に 40 歳代、70 歳代で差が顕著である。男性は 40 歳代が最も参加率が低く、60 歳代まで上昇するが、70 歳代で若干低下する。男性の場合は、仕事で 40 歳代が最も忙しく、50 歳代になると役職定年などを経験して、時間的余裕ができて参加率が上昇することが考えられる。女性の場合は 50 歳代が最も参加率が低い。仕事や子育て、介護など多くの役割を果たさなくてはならない年代であるためではないだろうか。60 歳以降参加率は上昇し、70 歳代ではほとんどの人が参加している。定年後社会から孤立しがちな男性の問題がよく指摘されるが、70 歳代の女性は社会参加を通じて活発にか社会との関わりを保っている。

次に、活動の内容に応じて、社会貢献、仕事関連、学習、趣味や遊び、宗教の 5 つに分類して、それぞれの参加の特徴を検討した。

「自治会、町内会、老人会、婦人会」、「生協・消費者団体・住民/市民運動の団体」「ボランティア団体」という利他的な社会貢献的な行動の性質の強い 3 種類の活動について、みたものが図 5.2.2 である。この中で、「自治会、町内会、老人会、婦人会」への参加率が最も高い。男性では 50 歳代までの現役世代はほぼ 4 割である参加率が、60 歳以降、約 6 割の人が参加する状況となっている。女性の場合は年代による差が大きく、様々な役割に追われる 50 歳代の参加率が 5 割を切るが、その後上昇し、70 歳代では 3/4 の人が参加している。

「生協・消費者団体・住民/市民運動の団体」については、男性がどの年代も 1 割に達しないのに対して、女性では 60 歳代に約 3 割の参加となっている。ただこの活動グループには生協が含まれているので、会員となつてはいるが、単にスーパーマーケットとして買い物をしている人も混在している可能性が高いため、女性の参加率が高いということが考えられる。

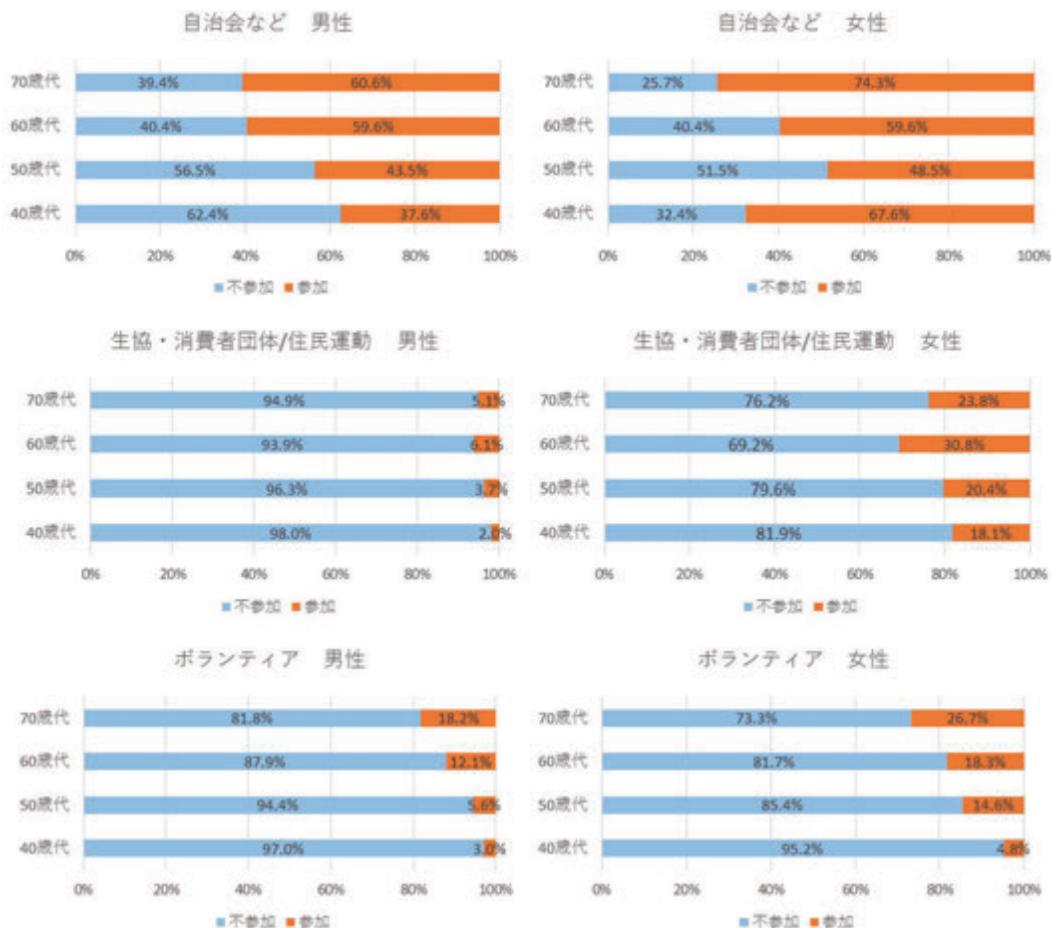


図 5.2.2 社会貢献的活動（男女、年代別）

「ボランティア団体」については、男女ともに年代が高くなるにつれ、参加率が高くなっている。現在多くのボランティア・グループの担い手はシニアであることと一貫した結果である（片桐，2017）。

次に「同業者の団体、農協、労働組合」と「仕事仲間のグループ」という仕事に関連したグループ参加の状況を示した（図 5.2.3）。「同業者の団体、農協、労働組合」については男性では現役世代と 60 歳以降もほぼ一貫して 2 割程度である。女性の場合は年代が上がるほど参加率が下がっているが、70 歳代でも 8% の人は参加している。就業状況（F5）と組み合わせてみると、現在無職の人でも参加していると答えている人がいることから、会社を定年退職後も、会社の OB・OG 会など関連グループに参加していることが示唆される。

「仕事仲間のグループ」についても男女で分布の違いが見られた。男性は 50 歳代が最も

参加率が高いが、60歳代でも40歳代より高い。40歳代は仕事も忙しく、仕事仲間との付き合いが少ないと考えられる。70歳代になると徐々に仕事仲間との付き合いは減少する。働いている男性の割合は、40歳代で99.0%、50歳代で95.4%、60歳代で60.0%、70歳代で27.0%、女性は40歳代で77.4%、50歳代で64.1%、60歳代で42.3%、70歳代で17.7%であり、男女とも60歳代以降減少する。しかし、男性の場合は、60歳代で女性ほど仕事仲間のグループ参加率が下がらないことは、男性の場合、退職後しばらくは仕事仲間とのつきあいを続けるが、時間がたつにつれ、疎遠になっていくことを示唆している。

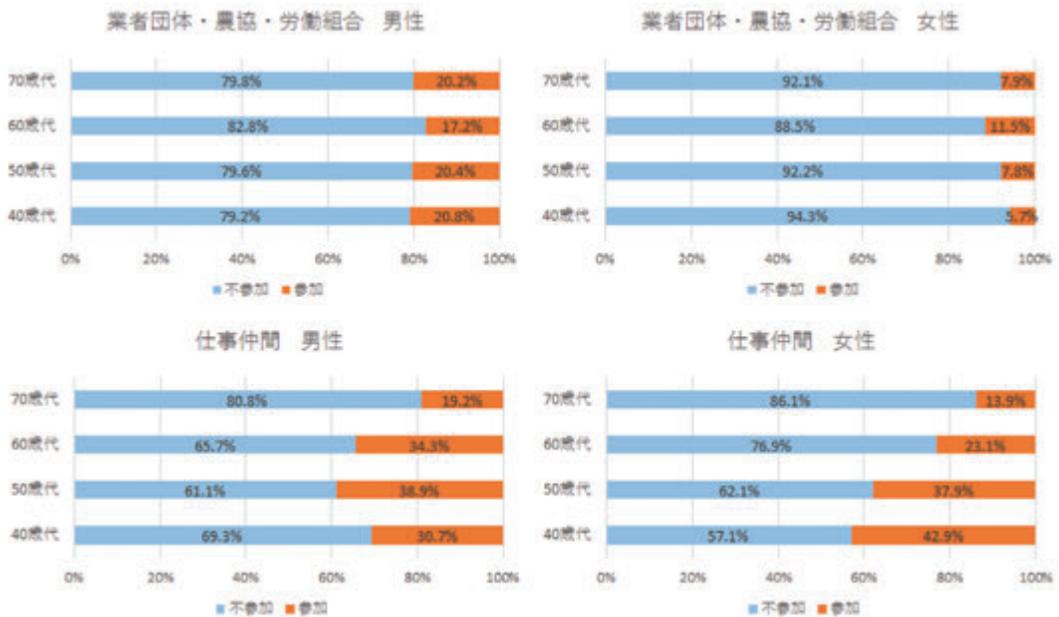


図 5.2.3 仕事関連のグループ活動（男女、年代別）

次に「生涯学習機関（例：高齢者大学）」「学習会や習いごとのグループ」の2種類のグループ参加で、生涯学習への参加を検討した（図 5.2.4）。まず生涯学習機関への参加は、男女ともに5%に達せず、少ない。地方自治体関連組織などが主催する高齢者向けの生涯学習機関は、より多くの人に機会を提供するという観点から、長期での聴講を認めないなど制限も多く、また講義の内容も初心者向けの内容が多く、例えば環境問題への知識をより深めようと思ったときに、提供される授業内容では物足りないということもあるのだろう。それに比べて、「学習会や習いごとのグループ」への参加は、男女ともに高くなっている。自らの志向やレベルに合わせることができる、或いはより家に近い場所を選べる等いろいろな面で選択の幅が広く、自由度が高いという点が魅力と考えられる。年代で見ると、男女ともに50歳代の参加率が低く、その後は年代が上がるにつれ、参加率が上がってい

る。男女で比較すると、女性の方が男性よりどの年代でも参加率が高く、特に 70 歳代では、1/3 の人が参加しており、同年代の男性のほぼ 2.5 倍である。日本にはお茶や生け花などの習い事の伝統があり、これらは古くから女性が中心であり、その傾向を今も観察することができる。

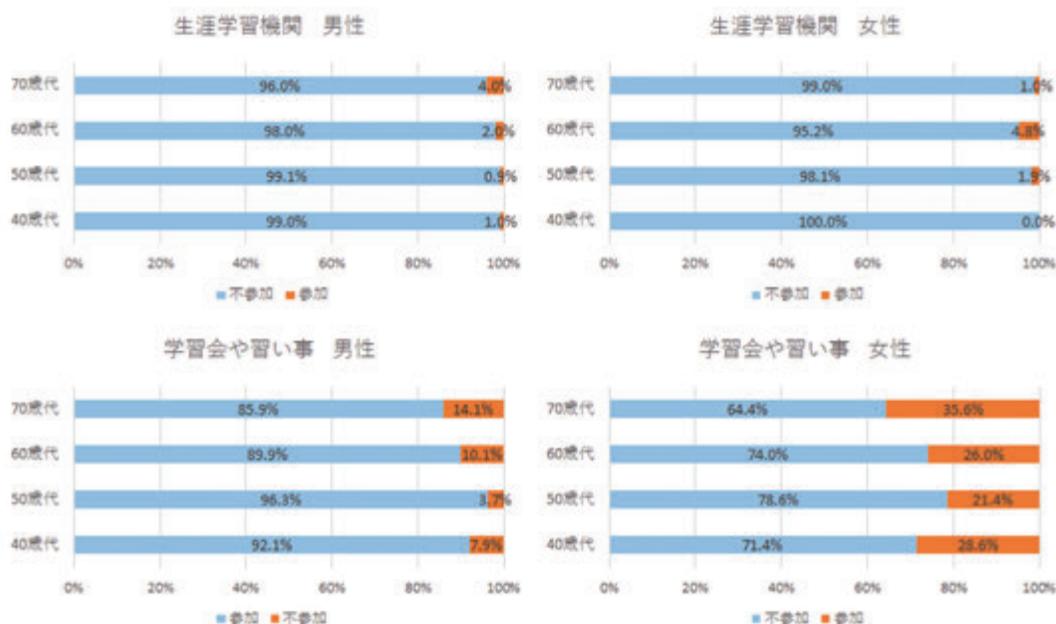


図 5.2.4 学習活動（男女、年代別）

次に、「同窓会」、「趣味や遊び仲間のグループ」への参加を示したものが図 5.2.5 である。同窓会への参加は男性では、40 歳代、50 歳代と徐々に上昇し、60 歳代が最も高く、5 割近くが参加し、70 歳代でも 4 割の人が参加している。現役世代が終わったのち、学生時代の友人の存在が大きくなるのだろう。女性は、年代が高くなるほど、参加率が上がり、やはり 7 歳代では 4 割の人が参加している。

趣味や遊び仲間グループの参加については、男女ともに年代が上がるほど、上昇している。また女性の方がどの年代でも男性より高く、男性に比べて女性の方が趣味や人との交流を盛んに行っている様子が読み取れる。

最後に宗教団体への参加については、男女ともに 1 割くらいとなっている（図 5.2.6。）男性では 60 歳以降 1 割程度であり、それ以下の年代よりやや高い。女性では、50 歳代が 12.6% と高くなっていた。

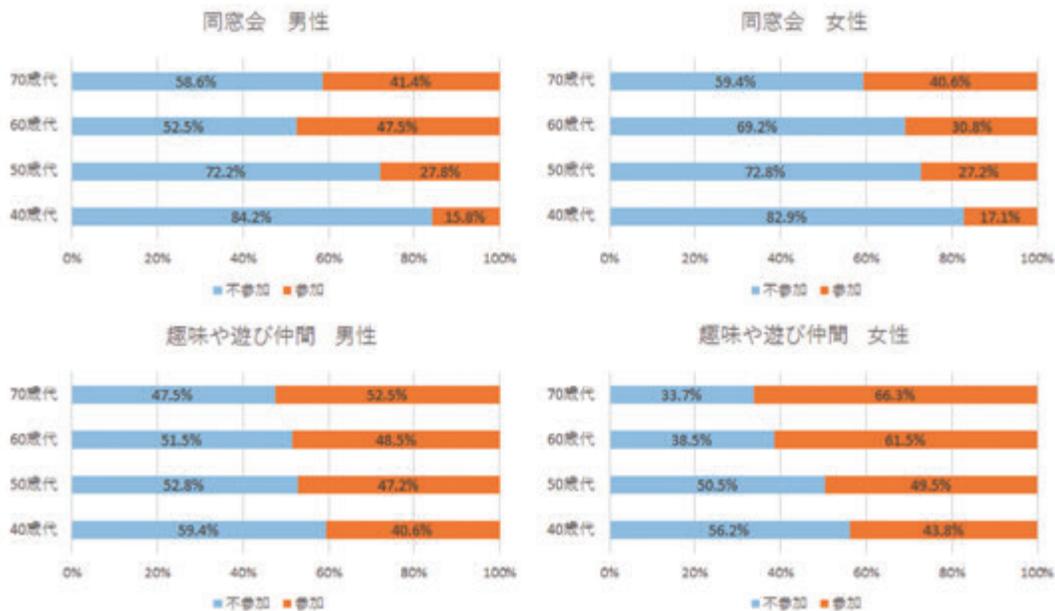


図 5.2.5 同窓会、趣味や遊び仲間やへの参加（男女、年代別）

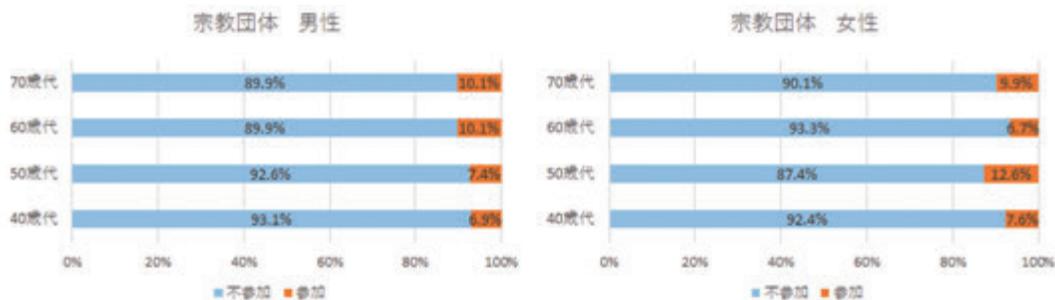


図 5.2.6 同窓会、趣味や遊び仲間やへの参加（男女、年代別）

5.3 社会参加の状況(問 18-1)

日本人の場合、社会参加はしているけれど、活発に活動していない名目参加の割合が高い (Katagiri & Kim, 2018)。本調査では、問 18 の参加の有無に加えて、問 18-1 において、参加しているグループの中で最も頻繁に参加しているグループの種類を問 18 と同じ 11 の選択肢を用いて尋ねた。男女、年代別に最も頻繁に参加しているグループについてまとめた (表 5.3.1)。

各男女、年代別に、もっとも参加の割合が高かったグループ活動をピンク色、2 番目を緑色、3 番目を黄色で示した。男女とも各年代において最も頻繁に参加していたのは「趣味や遊び仲間のグループ」であり、3 割から 4 割であった。趣味や志向を一にする、仲の

いい仲間と活発に交流している様子がうかがわれる。2 番目は、男性は現役世代は「仕事仲間のグループ」、女性は「自治会、町内会、老人会、婦人会」を挙げる人が多かった。「自治会、町内会、老人会、婦人会」50 歳代までは女性の方が高いが、60 歳以降は男性の方が高く、退職後に地域活動に熱心になる男性が多いようだ。女性では、60 歳代は「ボランティア団体」、70 歳代は「学習会や習いごとのグループ」が 3 番目に挙げられており、男性よりより幅の広いグループ活動にいそしんでいるようである。

表 5.3.1 もっとも頻繁に参加している活動（男女、年代別）

	40歳代		50歳代		60歳代		70歳代	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
自治会等	19.8%	20.2%	16.1%	19.3%	25.3%	17.4%	28.2%	22.8%
生協/住民運動の団体	1.2%	3.2%	0.0%	2.3%	1.2%	6.5%	0.0%	3.3%
ボランティア団体	1.2%	1.1%	1.1%	4.5%	3.6%	10.9%	6.4%	9.8%
業者団体・農協・労働組合	7.4%	0.0%	8.0%	0.0%	6.0%	2.2%	2.6%	0.0%
仕事仲間	19.8%	22.3%	27.6%	15.9%	10.8%	6.5%	10.3%	3.3%
学習会や習いごと	2.5%	14.9%	2.3%	10.2%	4.8%	8.7%	3.8%	13.0%
生涯学習機関	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
趣味や遊び仲間	35.8%	27.7%	33.3%	37.5%	30.1%	42.4%	37.2%	43.5%
同窓会	1.2%	2.1%	4.6%	4.5%	9.6%	1.1%	2.6%	0.0%
宗教団体	7.4%	3.2%	4.6%	4.5%	6.0%	3.3%	3.8%	2.2%

5.4 活動している人の中での連絡方法(問 18-2)

円滑に活動するためには、参加者の間で連絡を取り合うことが必要となる。問 18-2 において、活動をする人たちと会って話す以外にどのような連絡方法を取っているのかについて、「手紙」、「電話」、「FAX」、「メール」、「SNS (LINE など)」、「その他」、「会って話す以外に連絡は取らない」の 7 つの選択肢について、当てはまるものをすべて選択するよう求めた。男女、年代別に結果をまとめたものが図 5.4.1 である。

「会って話す以外に連絡は取らない」では、70 歳代の女性以外はほぼ 1 割程度である。つまり、何らかの社会参加活動をしている場合、活動以外でも人との交流が行われているということを示す。社会参加は活動をすることにより、社会関係を保つ、或いは活発にする機能を果していることがわかる。

また、問 18-1 の最も頻繁に参加しているグループと組み合わせてみると、グループの種類により、日頃連絡を取り合っているのかどうか異なっていた。男性では「生協・消費者団体・住民/市民運動の団体」では 50%、「自治会、町内会、老人会、婦人会」が 25%、「学習会や習いごとのグループ」が 18.2%、女性では「同業者の団体、農協、労働組合」が 50%、「自治会、町内会、老人会、婦人会」が 31.5%、「生協・消費者団体・住民/市民運動の団体」が 21.4%の人が、「会って話す以外に連絡は取らない」と回答していた。この結果からは、頻繁に活動はしていても、その中で人との交流を促進しないような義務的な

参加（例えば自治会）、利便性を求める形式的な参加（例えば生協）があることが示唆され、社会参加の様相を捉えるには、単なる参加の有無だけでは不十分で、参加の頻度や人との交流の様子など多面的に把握する必要が示唆された。

連絡の手段については、男女間の違いは少なく、年代の差の方が大きかった。最も用いられていた連絡手段では、60歳以上では、「電話」であった。「メール」と「SNS（LINEなど）」というインターネットを媒介とした手段については、「メール」は50歳代が最も高く、「SNS（LINEなど）」は40歳代で最も多く用いられていた。「メール」については、70歳代でもほぼ半分の人が利用していたのに対し、「SNS（LINEなど）」では、男性は60歳代で2割、70歳代で1割と減少する。女性の場合は、60歳代でも5割近い人が利用していたが、70歳代になると14%に低下していた。男女とも70歳代では、1割程度となっており、スマートファンの利用は70歳代で急激に減少する(表 1.1.2)ことと関連すると考えられる。



図 5.4.1 同窓会、趣味や遊び仲間やへの参加（男女、年代別）

また、連絡手段は、一つの方法だけではなく、複数の場合もありうる。何種類の方法を利用するかを見てみると、男性では 29.4%、女性では 32.5%の人が 1 つの手段のみを用いており、男性では 55.6%、女性では 52.7%の人が 2 つ以上の連絡手段を用いていた。男性 60 歳代では 41.9%。70 歳代で 56.9%、女性 60 歳代では 62.5%、70 歳代で 38.0%が 2 つ以上の連絡手段を用いていた。社会参加活動をする中で、複数の連絡手段を利用しながら、豊かなコミュニケーションを紡いでいるシニアも多くいることが示唆される結果となった。

引用文献

片桐恵子 (2017) 『「サードエイジ」をどう生きるか: シニアと拓く高齢先端社会』 東京大学出版会

Katagiri, K. and Kim, J. (2018) Factors determining the social participation of older adults: a comparison between Japan and Korea using EASS 2012. *PLoS one*, 13(4). <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0194703> A.

厚生労働省 (2017) 『平成 29 年版高齢社会白書』 日経印刷

5.5 ヘルスリテラシーと情報行動

本調査ではヘルスリテラシーについて、Ishikawa, Nomura, Sato, & Yano (2008) の伝達の・批判的ヘルスリテラシー尺度を元に、(1)「新聞、本、テレビ、インターネットなど、いろいろな情報源から、病気や健康に関連した情報を集められる」(情報収集)、(2)「病気や健康に関連した情報がどの程度信頼できるのかを判断できる」(信頼性判断)、(3)「病気や健康に関連した情報をもとに健康改善のための計画や行動を決めることができる」(健康改善)の 3 項目について、「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「まったくそう思わない」の 4 件法で尋ねた。この質問項目は回答者の自己評定に基づくものであり、ヘルスリテラシーに関する自己効力感を回答しているとみなすことができよう。回答者全体における各項目の回答分布をまとめたのが表 5.5.1 である。

表 5.5.1 ヘルスリテラシーの 3 項目の回答分布

		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	Total
(1) 情報収集	Freq.	221	554	40	1	816
	Percent	27.1	67.9	4.9	0.1	100.0
(2) 信頼性判断	Freq.	53	571	186	6	816
	Percent	6.5	70.0	22.8	0.7	100.0
(3) 健康改善	Freq.	57	531	216	13	817
	Percent	7.0	65.0	26.4	1.6	100.0

表 5.5.1 に示したように、いずれの項目においても「まったくそう思わない」の回答選択率が極めて低かった。このことから、「そう思わない」と「まったくそう思わない」を統

合し、それぞれを3値の変数とした上で、性別・年齢層とのクロス表を作成した。各項目についての性別・年齢層ごとの回答分布と独立性の検定の結果をまとめたのが表 5.5.2 である。

表 5.5.2 ヘルスリテラシー3項目の性別・年齢層ごとの回答分布

		強く 思う	そう 思う	そう 思わ ない		
(1) 情報収集	男性 (n=406)	27.1	67.5	5.4	$\chi^2 =$	0.269
	女性 (n=410)	27.1	68.3	4.6	$p =$.874
	40代 (n=206)	30.1	67.0	2.9	$\chi^2 =$	10.523
	50代 (n=208)	29.8	67.3	2.9	$p =$.104
	60代 (n=201)	25.4	67.7	7.0		
70代 (n=201)	22.9	69.7	7.5			
(2) 信頼性判断	男性 (n=407)	6.9	66.3	26.8	$\chi^2 =$	5.369
	女性 (n=409)	6.1	73.6	20.3	$p =$.068
	40代 (n=205)	6.3	65.9	27.8	$\chi^2 =$	9.219
	50代 (n=207)	7.2	66.7	26.1	$p =$.162
	60代 (n=202)	4.5	77.2	18.3		
70代 (n=202)	7.9	70.3	21.8			
(3) 健康改善	男性 (n=407)	6.9	60.9	32.2	$\chi^2 =$	7.069
	女性 (n=410)	7.1	69.0	23.9	$p =$.029
	40代 (n=206)	1.8	16.4	7.0	$\chi^2 =$	7.095
	50代 (n=207)	2.1	16.5	6.7	$p =$.312
	60代 (n=202)	0.9	17.1	6.7		
70代 (n=202)	2.2	14.9	7.6			

注) 「そう思わない」には「まったくそう思わない」も含めた

分析結果は項目によって異なるものであった。まず、情報収集に関しては、性別・年齢層ともに回答分布との独立性の検定の結果は有意なものではなかった。一方で、信頼性判断、健康改善については、年齢層と回答分布の独立性の検定結果が有意でなかったことは共通していたが、性別との関係については前者は10%水準 ($\chi^2(2) = 5.369$)、後者は5%水準 ($\chi^2(2) = 7.069$) で有意な関係が認められた。

性差に関して残差分析の結果を確認すると、信頼性判断、健康改善ともに、男性に比べて女性のほうが「そう思う」を選択する率が高く、女性に比べて男性のほうが「そう思わない(「まったくそう思わない」を含む)」を選択する率が高いという結果であった。病気や健康に関連した情報の信頼性判断やそうした情報を元にした健康改善に関して、女性に比べて男性のほうがやや自己効力感が低いということを示唆する結果であったといえよう。

次に、これらの3項目((1)情報収集、(2)信頼性判断、(3)健康改善)を4件法(強く思う=4点、そう思う=3点、そう思わない=2点、まったくそう思わない=1点)で得点化した上で、平日1日あたりのテレビ視聴時間、新聞閲読時間、ラジオ聴取時間、パソコン、タブレット端末、スマートフォン、従来型携帯電話のそれぞれからのインターネット利用時間(非利用者も含む)との相関分析を行なった。その結果が表 5.2.3 を示す。

表 5.5.3 に示されるように、それぞれのメディア利用時間はヘルスリテラシー3項目と

ほぼ有意な相関はなかった。唯一、情報収集がパソコンからのインターネット利用時間 ($r=.0.08$) およびスマートフォンからのインターネット利用時間 ($r=.09$) と 5%水準で有意な正の相関関係にあることが認められた。ただし、いずれも相関係数の値としては 0.10 未満で、非常に弱い相関関係を示す値であった。これらの結果から、パソコンおよびスマートフォンからのインターネット利用をよくする人ほど、病気や健康に関連した情報の収集に関する自己効力感が高い傾向にあることが示唆されたといえる。一方で、そうした情報の信頼性判断や健康改善への応用に関しては有意な関係は認められなかったことから、あくまで情報収集との関連に留まるものだけということができよう。

表 5.5.3 主要なメディア利用時間とヘルスリテラシー3項目の相関関係

n=757	情報収集		信頼性判断		健康改善
(1) 情報収集	1.00				
(2) 信頼性判断	.43 ***		1.00		
(3) 健康改善	.44 ***		.62 ***		1.00
テレビ視聴時間	-.01		.07		.04
新聞閲読時間	-.03		.02		.01
ラジオ聴取時間	-.06		.00		.00
インターネット利用時間					
パソコン	.08 *		.02		.02
タブレット端末	.05		.00		-.01
スマートフォン	.09 *		.03		.06
従来型携帯電話	-.01		.03		-.01

*** $p<.001$, * $p<.05$

5.6 ICT 利用に関するソーシャルサポートと周囲のスマートフォン利用状況

本調査では、ICT 利用に関するソーシャルサポートに関して Jung (2008) を参考に、「仮に以下のものを始めたり、使って何か新しいことをやってみようとして困ったときに、あなたは助けてくれる人をみつけられそうですか」という質問を行なった。この質問に関して、「パソコンでタブレット端末に関して困ったとき」(パソコン・タブレット端末)、「スマートフォンまたは携帯電話に関して困ったとき」(スマートフォン・携帯電話)の2項目で、「簡単にみつけられる」「みつけられると思う」「みつけられないかもしれない」「みつけられない」の4件法で尋ねた。回答者全体におけるそれぞれの項目の回答分布をまとめたのが表 5.6.1 である。

表 5.6.1 ICT 利用に関するソーシャルサポートの回答分布

		簡単にみつけられる	みつけられると思う	みつけられないかもしれない	みつけられない	Total
(1) パソコン・タブレット端末	Freq.	217	395	127	65	804
	Percent	27.0	49.1	15.8	8.1	100.0
(2) スマートフォン・携帯電話	Freq.	247	400	115	50	812
	Percent	30.4	49.3	14.2	6.2	100.0

表 5.6.1 に示したように、パソコン・タブレット端末、スマートフォン・携帯電話のいずれに関しても、「みつげられると思う」に回答の約半数（それぞれ 49.1%、49.3%）が集中した。また、「簡単にみつげられる」にもパソコン・タブレット端末で 27.0%、スマートフォン・携帯電話で 30.4%であったことから、ICT 利用に関するソーシャルサポートを受けられるだろうと考えている人が回答者の 4 分の 1 以上（それぞれ 76.1%、79.3%）を占めていることがわかった。なお、2 項目間の相関関係は、ピアソンの積率相関係数で 0.84、スピアマンの順位相関係数で 0.86 と強い正の相関関係にあった。

この 2 項目について、性別・年齢層ごとの回答分布と独立性の検定の結果を示したのが表 5.6.2 である。表 5.6.2 に示すように、カイ 2 乗検定の結果、パソコン・タブレット端末、スマートフォン・携帯電話のいずれにおいても、性別・年齢層との有意な連関が認められた。

表 5.6.2 ICT 利用に関するソーシャルサポートの性別・年齢層ごとの回答分布

		簡単に みつげら れる	みつげら れる と思う	みつげら れない かもしれ ない	みつげら れない	
(1) パソコン・タブレット端末	男性 (n=405)	22.0	53.1	18.5	6.4	$\chi^2 = 16.832$
	女性 (n=399)	32.1	45.1	13.0	9.8	$p = .001$
	40 代 (n=206)	6.6	14.4	3.7	0.9	$\chi^2 = 19.739$
	50 代 (n=208)	6.6	13.2	4.5	1.6	$p = .020$
	60 代 (n=200)	7.2	11.3	4.0	2.4	
	70 代 (n=190)	6.6	10.2	3.6	3.2	
(2) スマートフォン・携帯電話	男性 (n=405)	24.9	52.6	16.3	6.2	$\chi^2 = 12.397$
	女性 (n=407)	35.9	45.9	12.0	6.1	$p = .006$
	40 代 (n=206)	7.3	13.9	3.8	0.4	$\chi^2 = 27.188$
	50 代 (n=208)	8.0	12.2	4.2	1.2	$p = .001$
	60 代 (n=202)	7.4	12.8	3.2	1.5	
	70 代 (n=196)	7.8	10.3	3.0	3.1	

まず性差に関しては、パソコン・タブレット端末とスマートフォン・携帯電話でおおよその傾向は類似したものであった。残差分析の結果、どちらの項目においても男性に比べて女性のほうが「簡単にみつげられる」を選択する割合が有意に高く、どちらの項目でも男性に比べて女性のほうが 10 ポイント程度選択率が高かった。ただし、パソコン・タブレット端末では「みつげられると思う」「みつげられないかもしれない」を選択する割合が女性に比べて男性のほうが有意に高いという残差分析の結果も示された。この結果に関連して、必要となるサポートのレベル、対人関係、援助要請に対する抵抗感など、さまざまな点での性差が背景要因として考えられるだろう。

次に、年齢層との連関に関しては、パソコン・タブレット端末、スマートフォン・携帯電話のいずれにおいても「みつげられない」を選択する割合が 70 代で有意に高く、40 代

で有意に低いという結果が残差分析によって示された。「みつけれない」については 70 代でもパソコン・タブレット端末で 3.2%、スマートフォン・携帯電話で 3.1%と大きな割合を占めるものではなかったが、わずかであるとはいえ 70 代では ICT 利用に関するソーシャルサポートを得にくい人びとの割合が高まるといえるだろう。

ICT 利用に関するソーシャルサポートに関わる要因として、回答者の周囲における ICT 利用の普及率があげられる (Jung, 2008)。本調査ではスマートフォンに関して、家族 (別に暮らしている人も含む) と友人 (遠くに住んでいる人も含む) のそれぞれについて、利用者の割合を「みんな使っている」「ほとんど使っている」「半々」「ほとんど使っていない」「誰も使っていない」の 5 件法で尋ねた。回答者全体における各項目の回答分布をまとめたのが表 5.6.3 である。

表 5.6.3 周囲のスマートフォン利用状況の回答分布

		みんな使 っている	ほとんど使 っている	半々	ほとんど使 っていない	誰も使っ ていない	Total
(1) 家族	Freq.	369	255	127	26	35	812
	Percent	45.4	31.4	15.6	3.2	4.3	100.0
(2) 友人	Freq.	287	359	136	27	8	817
	Percent	35.1	43.9	16.7	3.3	1.0	100.0

表 5.6.3 に示したように、家族、友人のどちらにおいても「みんな使っている」「ほとんど使っている」を合わせると 75%以上という回答分布であった (家族:76.8%、友人:79.0%)。さらに「半々」も加えれば家族でも友人でも 90%以上であった。本調査の結果からは、少なくとも 4 分の 1 以上の回答者にとって身近な人間関係でスマートフォン利用者が多数派となっている状況であるといえる。また、特に友人では「誰も使っていない」と回答した人は 1.0%にとどまっており、スマートフォン利用者が周囲に誰もいないという人はわずかであるという結果も示された。

特に友人では「誰も使っていない」が 1.0%と少数であったことから、「誰も使っていない」を「ほとんど使っていない」に含めてそれぞれ 4 値の変数とした上で、性別・年齢層とのクロス表を作成した。性別・年齢層との独立性の検定の結果も含めて表 5.6.4 にまとめた。独立性の検定の結果、家族では性別との間に 10%水準で、年齢層との間に 0.1%水準での有意な連関が認められた。友人では性別との間には有意な連関が認められなかったが、年齢層との間には 0.1%水準での有意な連関が認められた。

まず、性差に関して、10%水準での有意な連関の認められた家族について残差分析を行なった結果、女性に比べて男性のほうが有意に多く「ほとんど使っていない」を選択していたことが示された。この結果については、本調査では別に暮らしている人も含めて家族として考えて回答することを求めたため、男性と女性の間で家族として想起する範囲が異なっていた可能性も考えられる。

表 5.6.4 周囲のスマートフォン利用状況に関する性別・年齢層ごとの回答分布

		みんな使っている	ほとんど使っている	半々	ほとんど使っていない		
(1) 家族	男性 (n=406)	42.9	31.5	15.8	9.9	$\chi^2 =$	7.125
	女性 (n=406)	48.0	31.3	15.5	5.2	$p =$.068
	40代 (n=206)	39.8	32.5	23.3	4.4	$\chi^2 =$	84.636
	50代 (n=208)	63.9	22.6	6.3	7.2	$p =$.000
	60代 (n=201)	50.2	34.3	8.5	7.0		
	70代 (n=197)	26.9	36.5	24.9	11.7		
(2) 友人	男性 (n=408)	34.1	46.1	15.2	4.7	$\chi^2 =$	2.402
	女性 (n=409)	36.2	41.8	18.1	3.9	$p =$.493
	40代 (n=206)	61.2	36.4	1.9	0.5	$\chi^2 =$	269.892
	50代 (n=208)	43.3	52.4	3.4	1.0	$p =$.000
	60代 (n=202)	26.7	50.0	18.8	4.5		
	70代 (n=201)	8.5	36.8	43.3	11.4		

注) 「殆ど使っていない」には「誰も使っていない」を含めた

次に、年齢層との連関に関しては、友人では年齢層が上になるほど「半々」「ほとんど使っていない(「誰も使っていない」も含む)」の割合が高くなり、年齢層が下になるほど「みんな使っている」の割合が高くなる傾向にあった。一方、家族では40代で「みんな使っている」の割合が低く、「半々」の割合が高かった。これは40代の回答者の家族には、スマートフォンを持たされていない中学生・小学生以下の子どもが含まれる可能性が高いためであると考えられるだろう。

パソコン・タブレット端末およびスマートフォン・携帯電話に関するソーシャルサポートについて「簡単にみつけられる」を4点、「みつけられると思う」を3点、「みつけられないかもしれない」を2点、「みつけられない」を1点とし、家族および友人のスマートフォン利用状況について「みんな使っている」を5点、「ほとんど使っている」を4点、「半々」を3点、「ほとんど使っていない」を2点、「誰も使っていない」を1点として、ピアソンの積率相関係数を計算した(表5.6.5)。

表 5.6.5 ICT 利用に関するソーシャルサポートと
周囲のスマートフォン利用状況の相関関係

n=800	(1)	(2)	(3)
(1) パソコン・タブレット端末に関するソーシャルサポート	1.00		
(2) スマートフォン・携帯電話に関するソーシャルサポート	.84 ***	1.00	
(3) 家族のスマートフォン利用状況	.24 ***	.25 ***	1.00
(4) 友人のスマートフォン利用状況	.17 ***	.14 ***	.37 ***

***p<.001

相関分析の結果、ICT 利用に関するソーシャルサポート得点と周囲のスマートフォン利用状況得点の間には有意な正の相関関係が認められた。相関係数と値をみると、友人のスマートフォン利用状況とソーシャルサポートの間の相関係数は 0.2 に満たなかったのに対し、家族のスマートフォン利用状況はソーシャルサポートとの間に 0.2 よりも大きい相関係数が示された。この結果は、特に家族に ICT 利用者が多いことが ICT 利用に関するサポートのみつけやすさにつながっていることを示しているといえるだろう。

参考文献 (5.5・5.6)

Ishikawa, H., Nomura, K., Sato, M., & Yano, E. (2008). Developing a measure of communicative and critical health literacy: a pilot study of Japanese office workers. *Health Promotion International*, 23(3), 269-274. Doi: <https://doi.org/10.1093/heapro/dan017>

Jung, J.-Y. (2008). Internet connectedness and its social origins: An ecological approach to postaccess digital divides. *Communication Studies*, 59(4), 322-339. Doi: <https://doi.org/10.1080/10510970802467387>

6. 心理・健康

6.1 孤独感、幸福度、社会的満足度

孤独感、幸福度、社会的満足度について、年齢層、性別、婚姻状況、世帯年収ごとに平均値を算出した。その結果を表 6.1.1 に示す。説明変数として、就業形態別（フルタイム/パートタイム・アルバイト/専業主婦・夫/無職）、都市規模別（21 大都市/その他市部/町村部）についての分析も行ったが、いずれも有意差は見られなかったため、省略した。

(1) 孤独感

孤独感について、工藤・西川(1983:103)¹ より抜粋した次の 5 項目²への 4 択による回答をもとに得点化した。1)私は自分の周辺の人たちとうまくやっている（逆転項目） 2)私を本当に知っている人はいない 3)私には人とのつきあいがいい 4)私には頼りにできる人がだれもいない 5)私には知人がいるが、気心の知れた人はいない

しばしば感じる（4 点）、時々感じる（3 点）、めったに感じない（2 点）、まったく感じない（1 点）の合算得点を分析に用いた³。

¹ 工藤力・西川正之(1983)「孤独感に関する研究(I)—孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討—」,『実験社会心理学研究』, 22(2),99-108.

² 第一項目は部分的に文言を修正している。また第一項目は点数を反転させて加算した。

³ 逆転項目を補正した後のクロンバックの α 係数は 0.78 であった。

表 6.1.1 孤独感、幸福度、社会的満足度の平均値（年層・性別・婚姻・年収）

	孤独感			幸福度			社会的満足度		
	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD
全体	816	9.76	3.03	823	7.19	1.81	825	5.52	1.89
40代	205	10.28	3.22	205	7.05	1.96	206	5.30	1.97
50代	210	9.73	3.30	211	7.17	1.81	211	5.64	1.98
60代	203	9.51	2.90	203	7.30	1.89	203	5.52	1.93
70代	198	9.52	2.60	204	7.25	1.55	205	5.61	1.65
検定			2.94(3, 812)			.72(3, 819)			1.34(3, 821)
男性	407	10.21	2.97	411	7.05	1.74	410	5.49	1.85
女性	409	9.32	3.03	412	7.33	1.87	415	5.54	1.93
検定			4.21(814)			-2.24(821)			-40(823)
既婚	675	9.72	2.99	680	7.31	1.72	681	5.58	1.85
離婚、死別	83	9.31	2.75	85	7.28	1.80	86	5.40	2.11
未婚	55	10.82	3.77	55	5.58	2.10	55	4.91	1.91
検定			4.33(2, 810)			24.86(2, 817)			3.48(2, 819)
200万円未満	86	10.24	3.06	87	6.87	1.98	88	5.18	2.09
200万円～400万円	258	9.67	3.00	262	6.94	1.80	264	5.19	1.88
400万円～600万円	162	9.98	3.25	162	7.17	1.73	161	5.45	1.86
600万円～800万円	136	9.46	2.70	136	7.43	1.72	136	5.79	1.83
800万円～1,000万円	90	9.88	2.94	92	7.37	1.77	92	5.96	1.68
1,000万円以上	78	9.35	3.14	78	7.92	1.64	78	6.24	1.73
検定			1.25(5, 804)			4.92(5, 811)			6.22(5, 813)

※検定は性別のみ t 検定 (t 値)、その他は分散分析 (F 値) で、括弧内は自由度。5%水準の有意差が見られる場合に平均値を黒太字としている。

平均値の差を見ると、年齢層では 40 代が 10.28 ポイントともっとも高かった。性別では男性が 10.21 ポイントと女性 (9.32 ポイント) よりも高く、婚姻状況では未婚が 10.82 ポイントともっとも高かった。世帯年収、就業形態、都市規模においては、有意差は見られなかった。

(2) 幸福度

幸福度について、「現在、あなたはどの程度幸せですか」の設問に対し、とても不幸 (0 点) からとても幸せ (10 点) までの 10 段階の数値選択により回答を得て、該当する点を分析に用いた。平均値の差を見ると、年齢層、就業形態、都市規模において有意差は見られなかった。性別では女性が 7.33 ポイントと男性 (7.05 ポイント) よりも高く、婚姻状況では未婚が 5.58 ポイントともっとも低かった。世帯年収では高所得者ほど高く、200 万円未満では 6.87 ポイントであるのに対し、1000 万円以上では 7.92 ポイントであった。

(3) 社会的満足度

社会的満足度について、「現在、あなたは社会に対してどの程度満足していますか」の設問に対し、とても不満 (0 点) からとても満足 (10 点) までの 10 段階の数値選択により回答を得て、該当する点を分析に用いた。平均値の差を見ると、年齢層、性別、就業形態、

都市規模において有意差は見られなかった。婚姻状況では未婚が 4.91 ポイントともっとも低かった。世帯年収では高所得者ほど高く、200 万円未満では 5.18 ポイントであるのに対し、1000 万円以上では 6.24 ポイントであった。

孤独感、幸福度、社会的満足度の全体として、世帯年収については高所得であるほど、婚姻状況については既婚であるほどポジティブな傾向が見られた。また、離婚・死別については、既婚と比較して大きな差は見られなかった。年齢層・性別では幸福度と社会的満足度に大きな差は見られず、孤独感については 40 代であること、男性であることにネガティブな傾向が見られた。

6.2 主観的健康状態（問 24）

主観的健康状態について、「まったく健康」「健康」「普通」「健康でない」「まったく健康でない」の 5 件法で確認した。この結果を、「まったく健康」「健康」を「健康である」、「普通」を「普通」、「健康でない」「まったく健康でない」を「健康でない」として、全体、性別、年齢層別に確認したものが表 6.2.1 である。性別では有意な関連がみられず、年齢層別では、40 代で「普通」が有意に少なく「健康である」が有意に多く、70 代では「健康である」が有意に少なかった。

表 6.2.1 全体・性別・年齢層別の主観的健康状態（％）

	N	全体	男性	女性	40代	50代	60代	70代	χ^2 検定
健康でない	148	17.9	16.3	19.6	13.5	17.1	20.3	21.0	**
普通	390	47.3	48.8	45.7	41.1	47.4	50.5	50.2	
健康である	287	34.8	34.9	34.7	45.4	35.5	29.2	28.8	

※ χ^2 検定は、年齢層と主観的健康状態で χ^2 検定の結果、***: $p < .001$ 、**: $p < .01$ 、*: $p < .05$ 、†: $p < .10$ であることを示す。性別と主観的健康状態の間には、 χ^2 検定で $p > .10$ であった。
 ※各年齢層の数値右肩の記号は、残差分析の結果、+: $p < .05$ で有意に高い、.: $p < .05$ で有意に低いことを示す。

6.3 日頃の健康習慣（問 25）

日頃の健康習慣について、以下の 7 項目について、複数選択式で確認した。

- (1) 体重を測定している（体重測定）
- (2) 血圧を測定している（血圧測定）
- (3) できるだけ歩くようにしている（歩く）
- (4) 筋力トレーニングをしている（筋トレ）
- (5) スポーツジムに通っている（ジム）
- (6) スポーツをしている（スポーツ）
- (7) この中にしているものはない（していない）

これを全体、性別、年齢層別に当てはまると回答した人の比率を示したものが表 6.3.1 で

ある。全体では、歩く（57.1%）や体重測定（55.4%）が比較的該当者が多い。性別では、血圧測定、スポーツで男性が女性よりも該当者が多い。年齢層別では、体重測定、血圧測定、歩くで年齢層が高いほど該当者が多く、筋トレをしている人や何もしていない人は年齢層が低いほど多い。

表 6.3.1 全体・性別・年齢層別の日頃の健康習慣（%）

N=826	全体	男性	女性	χ^2 検定	40代	50代	60代	70代	χ^2 検定
(1)体重測定	55.4	52.4	58.4	†	39.1	59.7	62.1	61.0	***
(2)血圧測定	33.7	38.8	28.6	**	8.2	26.5	42.4	58.0	***
(3)歩く	57.1	57.3	57.0		42.5	48.3	65.5	72.7	***
(4)筋トレ	16.3	17.8	14.9		22.2	19.4	9.9	13.7	**
(5)ジム	7.6	6.6	8.7		5.3	9.5	8.9	6.8	
(6)スポーツ	16.3	20.5	12.3	**	15.0	20.4	15.8	14.1	
(7)していない	12.5	12.4	12.5		25.6	11.4	6.9	5.9	***

※ χ^2 検定は、性、年齢層と主観的健康状態で χ^2 検定の結果、*** : $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、

† : $p < .10$ であることを示す。

※各年齢層の数値右肩の記号は、残差分析の結果、+ : $p < .05$ で有意に高い、- : $p < .05$ で有意に低いことを示す。

単純集計表

※個別に N を表示していない問の N はすべて 827 (全員)

情報端末とインターネット、メディア利用についておたずねします。

問1 あなたは、次のようなことをしていますか。自宅での利用に限らず、職場や学校、移動中での利用も含めて、(1)～(4)について、「1 (している)」「2 (していない)」のうち、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

※なお、「サイトやアプリを利用する」とは、サイトを見るだけの場合も含みます。

		している	していない	無回答
(1) パソコン(タブレット端末を除く)で	メールや、LINEなどでのメッセージを見たり送ったりする	52.5%	45.3%	2.2%
	インターネットのサイトやアプリを利用する	56.0%	40.3%	3.7%
(2) タブレット端末(iPadなど)で	メールや、LINEなどでのメッセージを見たり送ったりする	15.8%	80.9%	3.3%
	インターネットのサイトやアプリを利用する	24.1%	71.7%	4.2%
(3) スマートフォン(iPhone、アンドロイド端末などで)	メールや、LINEなどでのメッセージを見たり送ったりする	66.3%	31.6%	2.2%
	インターネットのサイトやアプリを利用する	60.9%	35.7%	3.4%
(4) 従来型の携帯電話(スマートフォンを除く。PHSを含む)で	メールや、LINEなどでのメッセージを見たり送ったりする	26.0%	70.3%	3.7%
	インターネットのサイトやアプリを利用する	5.8%	89.0%	5.2%

問2 次の中で、あなたが自宅での利用に限らず、職場や学校、移動中での利用も含めて、ふだん利用しているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

[60.5%] パソコン(タブレット端末を除く)	[66.5%] スマートフォン(iPhone、アンドロイド端末など)		
[24.9%] タブレット端末(iPadなど)	[31.9%] 従来型の携帯電話(スマートフォンを除く。PHSを含む)	[1.7%] 無回答	
	[3.6%] この中に利用しているものはない		

問3 あなたは、ふだん平日1日で、下記それぞれのことをする時間がどのくらいありますか。おおよその時間をお答えください。利用していない場合は、「利用していない」の「0」に○をつけてください。

※メールの利用もインターネット利用に含みます。

※自宅での利用に限らず、職場や学校での利用も含めてお答えください。

	ふだん(平日1日平均)	利用していない	無回答
(1) テレビを見る	平均 205.1分	3.3%	0.2%
(2) 紙の新聞を読む(インターネットは含まない)	平均 31.6分	23.3%	1.0%
(3) ラジオを聴く	平均 48.4分	57.6%	1.7%
(問3の続き)	ふだん平日1日平均	利用していない	無回答
(4) パソコン(タブレット端末を除く)でインターネットを利用する	平均 56.0分	41.7%	3.0%
(5) タブレット端末(iPadなど)からインターネットを利用する	平均 10.6分	73.5%	4.6%
(6) スマートフォン(iPhone、アンドロイド端末など)でインターネットを利用する	平均 49.6分	36.0%	2.2%
(7) 従来型の携帯電話(スマートフォンを除く。PHSを含む)でインターネットを利用する	平均 2.2分	87.3%	4.8%

- 問4 あなたは、インターネットで以下のようなことをしていますか。(1)～(11)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。
※自宅での利用に限らず、職場や学校での利用も含めて、インターネット利用全般についてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

	すほ る 毎 日	週 に 数 回	月 に 数 回	以 下 に 一 回	い し て い な	無 回 答
(1) メールの読み書きをする	47.2%	19.2%	10.3%	3.7%	18.3%	1.3%
(2) LINEでメッセージのやり取りをする	39.2%	15.6%	4.0%	1.7%	37.8%	1.7%
(3) スカイク、LINEなどの音声通信を利用する	2.4%	6.0%	11.4%	7.5%	70.3%	2.4%
(4) オンラインゲームをする	13.1%	3.6%	1.7%	1.5%	78.2%	1.9%
(5) ネットバンキングを利用する	1.1%	1.7%	8.2%	7.1%	80.2%	1.7%
(6) ネットショッピングで商品・サービスを購入する	0.1%	3.6%	24.5%	24.9%	45.2%	1.6%
(7) 旅行の予約をする	0.1%	0.2%	2.3%	32.3%	63.5%	1.6%
(8) 他の人(個人)のブログ、ホームページを見る	12.2%	11.2%	11.7%	9.6%	53.6%	1.7%
(9) 地図アプリ(Google マップなど)を利用する	4.0%	16.7%	28.5%	21.4%	27.6%	1.8%
(10) YouTubeを見る	13.2%	14.3%	16.2%	12.0%	42.9%	1.5%
(11) YouTube 以外の無料ネット動画(ニコニコ動画、AbemaTVなど)を見る	3.3%	6.3%	9.4%	9.4%	69.9%	1.7%

- 問5 以下の(1)～(3)のサイト・アプリの中で、あなたが利用しているものはありますか。あてはまるもの1つずつに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	利用している		利用していない	無回答
	見るだけ	書き込み・投稿もする		
(1) Facebook (フェイスブック)	14.9%	8.9%	74.4%	1.8%
(2) Twitter (ツイッター)	12.3%	4.0%	81.7%	1.9%
(3) Instagram (インスタグラム)	12.5%	4.2%	81.5%	1.8%

- 問6 インターネットを利用する時に、起こるかもしれない以下のトラブルについて、あなたのお気持ちに最も近いもの1つずつに○をつけてください。インターネットを利用していない方も、だいたいの印象で○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	と と も 不 安	や や 不 安	不 あ ま り は な い	不 ま あ つ で は く な い	無 回 答
(1) 利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される	38.3%	34.7%	15.8%	7.7%	3.4%
(2) ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される	49.3%	34.8%	6.3%	6.4%	3.1%
(3) 自分のIDやパスワードが勝手に使われる	47.3%	36.6%	8.5%	4.4%	3.3%
(4) 住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する	49.2%	37.0%	7.9%	2.8%	3.1%
(5) パスワードを忘れてしまう	32.6%	40.9%	15.7%	7.4%	3.4%

問7 あなたは次の内容に関する情報を、どのような情報源から得ていますか。この1ヶ月の間に、(1)～(8)の内容に関する情報を得た情報源としてあてはまるものに、1～8の中からいくつでも○をつけてください。
また、(1)～(8)のそれぞれについて、1～8の中でもっともよく使った情報源を右の欄に記入してください。その種の情報を必要としなければ9に○をつけてください。

情報	情報源 (○はそれぞれいくつでも)									無回答
	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	ペーパー・フリー	パソコン・タブレット・スマートフォン	パソコンのウェブサイトの	スマホ・携帯のアプリ・サイトの	友人・家族	
(1) 国内ニュース	88.8%	23.0%	59.7%	8.2%	3.4%	27.3%	43.7%	18.9%	0.2%	1.0%
もっともよく使った情報源(N=817)	55.0%	2.4%	9.4%	0.1%	0.0%	7.1%	13.5%	0.1%	-	12.4%
(2) 海外ニュース	86.0%	16.6%	51.6%	4.6%	0.6%	24.8%	37.8%	11.2%	1.7%	1.3%
もっともよく使った情報源(N=802)	56.5%	2.0%	8.1%	0.1%	0.1%	7.6%	14.1%	0.1%	-	12.4%
(3) 天気予報	87.2%	18.9%	29.4%	0.2%	-	20.7%	48.0%	7.7%	0.7%	1.1%
もっともよく使った情報源(N=812)	53.6%	1.4%	2.5%	-	-	5.7%	24.6%	0.4%	-	11.9%
(4) 旅行、観光情報	34.0%	4.2%	21.9%	25.5%	27.3%	28.7%	33.5%	18.9%	11.1%	1.9%
もっともよく使った情報源(N=719)	13.8%	0.7%	6.5%	9.5%	14.6%	19.9%	21.1%	4.9%	-	9.0%
(5) ショッピング、商品情報	34.0%	5.6%	21.3%	20.2%	27.7%	30.4%	36.2%	16.1%	8.8%	2.4%
もっともよく使った情報源(N=734)	10.5%	0.5%	8.0%	5.2%	16.5%	20.0%	26.0%	3.5%	-	9.7%
(6) 健康・医療関連	56.8%	7.3%	31.3%	16.2%	6.5%	24.7%	29.7%	21.6%	9.7%	1.9%
もっともよく使った情報源(N=731)	35.6%	1.1%	8.5%	3.4%	1.4%	16.0%	16.6%	7.9%	-	9.6%
(7) テレビ番組情報	66.4%	2.5%	50.7%	5.4%	1.0%	10.3%	13.2%	9.3%	7.3%	1.7%
もっともよく使った情報源(N=753)	45.8%	0.3%	35.6%	1.3%	0.1%	3.1%	5.0%	0.9%	-	7.8%
(8) グルメ情報	53.4%	4.6%	16.8%	25.2%	19.7%	20.7%	34.8%	22.6%	13.5%	1.9%
もっともよく使った情報源(N=699)	28.0%	0.3%	2.3%	9.3%	7.2%	12.2%	24.3%	6.2%	-	10.3%

問8 あなたが情報を得るための手段(情報源)として、次の(1)～(4)のメディアは、どのくらい重要ですか。それぞれについて、あてはまるもの1つずつに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	非常に重要	ある程度重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	まったく重要ではない	無回答
(1) テレビ	59.7%	30.1%	3.7%	3.4%	2.1%	1.0%
(2) 新聞	37.1%	35.4%	9.2%	8.8%	7.6%	1.8%
(3) ラジオ	10.3%	29.5%	18.5%	22.1%	16.2%	3.4%
(4) インターネット	39.1%	29.0%	11.2%	7.1%	10.2%	3.4%

問9 あなたが楽しみを得るための手段として、次の(1)～(4)のメディアは、どのくらい重要ですか。それぞれについて、あてはまるもの1つずつに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	非常に重要	ある程度重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	まったく重要ではない	無回答
(1) テレビ	53.8%	34.8%	4.5%	4.1%	1.9%	0.8%
(2) 新聞	18.7%	36.6%	16.8%	14.0%	12.2%	1.6%
(3) ラジオ	7.3%	25.8%	21.0%	23.5%	19.8%	2.7%
(4) インターネット	36.5%	29.6%	10.5%	8.5%	11.6%	3.3%

問10 あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報のうち、信頼できる情報はどの程度あると思いますか。それぞれについて、あてはまるもの1つずつに○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、だいたいの印象でお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

	全部 信頼できる	大部分 信頼できる	半々くらい	一部しか 信頼 できない	まったく 信頼 できない	無回答
(1) テレビ	5.1%	54.5%	30.7%	7.6%	1.0%	1.1%
(2) 新聞	9.2%	60.8%	21.4%	5.4%	1.6%	1.6%
(3) ラジオ	3.9%	48.0%	35.3%	7.9%	2.1%	2.9%
(4) インターネット	1.8%	23.6%	45.5%	20.9%	4.8%	3.4%

テレビの視聴についておたずねします。

問11 ふだんよく見るテレビ番組のジャンルは何ですか。次の中からあてはまるものいくつかを○をつけてください。また、その中で最もよく見る番組のジャンルに◎をつけてください。テレビをふだん見ない場合は、「12 テレビは全く見ていない」に◎をつけてください。(○はいくつでも、◎は1つ)

<input type="radio"/> [91.4%]	<input checked="" type="radio"/> [34.5%]	ニュース	<input type="radio"/> [55.0%]	<input checked="" type="radio"/> [6.2%]	情報番組
<input type="radio"/> [57.3%]	<input checked="" type="radio"/> [5.3%]	スポーツ	<input type="radio"/> [41.6%]	<input checked="" type="radio"/> [2.1%]	映画
<input type="radio"/> [61.2%]	<input checked="" type="radio"/> [17.4%]	ドラマ	<input type="radio"/> [37.8%]	<input checked="" type="radio"/> [1.0%]	旅行・グルメ
<input type="radio"/> [13.3%]	<input checked="" type="radio"/> [0.6%]	アニメ	<input type="radio"/> [35.4%]	<input checked="" type="radio"/> [1.5%]	趣味・教養
<input type="radio"/> [56.3%]	<input checked="" type="radio"/> [5.2%]	バラエティ(お笑い・クイズなど)	<input type="radio"/> [3.6%]	<input checked="" type="radio"/> [0.5%]	その他
<input type="radio"/> [33.1%]	<input checked="" type="radio"/> [0.5%]	音楽	<input type="radio"/> [1.9%]	<input checked="" type="radio"/> [1.2%]	テレビは全く見ていない
			<input type="radio"/> [0.7%]	<input checked="" type="radio"/> [24.2%]	無回答

問12 回答日にもっとも近い平日に、テレビを見ていた時間帯についてうかがいます。

1マスは30分となっていますので、半分以上テレビをつけていた時間帯の欄に矢印()を引いてください。そのうちテレビはつけていたけれどもぼんやり見ていたり、他のことをしていた時間帯は下の欄に×印を記入してください。

【回答記入例】

例:8:30から10:00までテレビを見て、12:00から13:00までテレビをつけて他のことをしていた場合

	5時 30分	6時 30分	7時 30分	8時 30分	9時 30分	10時 30分	11時 30分	12時 30分	13時 30分	14時 30分	15時 30分	16時 30分
テレビをつけていた時間帯				←→					←→			
そのうち、他のことをしたり、ぼんやり見ていた時間帯									×	×		

回答欄 【5:00～17:00】

	5時 30分	6時 30分	7時 30分	8時 30分	9時 30分	10時 30分	11時 30分	12時 30分	13時 30分	14時 30分	15時 30分	16時 30分
テレビをつけていた時間帯	5.4%	12.3%	25.2%	33.3%	47.9%	49.5%	45.0%	35.2%	26.5%	21.4%	12.6%	9.9%
そのうち、他のことをしたり、ぼんやり見ていた時間帯	2.7%	6.7%	15.2%	19.1%	24.2%	21.6%	14.6%	13.8%	10.5%	8.5%	5.3%	4.1%

回答欄 【17:00～翌5:00】

	17時 30分	18時 30分	19時 30分	20時 30分	21時 30分	22時 30分	23時 30分	0時 30分	1時 30分	2時 30分	3時 30分	4時 30分
テレビをつけていた時間帯	19.7%	25.0%	41.5%	48.7%	66.7%	67.8%	69.2%	69.8%	67.4%	56.0%	51.5%	30.8%
そのうち、他のことをしたり、ぼんやり見ていた時間帯	11.2%	13.7%	22.9%	26.7%	27.4%	26.5%	24.5%	24.9%	21.8%	20.1%	17.8%	16.6%

日常生活や社会に対する意識についておたずねします。

問13 次の(1)～(6)の意見について、あなたご自身はどう思われますか。あなたのお気持ちに最も近いものに、それぞれ1つずつ○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	やや思う	あまりない	そうでもない	無回答
(1) 社会的な集まりにはよく出かける	10.8%	29.0%	39.8%	18.7%	1.7%
(2) 人と一緒にいるのが好きである	14.0%	39.2%	38.1%	7.5%	1.2%
(3) 人とのつきあいは私にとっていつも刺激的だ	14.9%	43.5%	32.9%	7.5%	1.2%
(4) 私は政治問題に関心がある	16.1%	42.0%	30.8%	10.0%	1.1%
(5) 政治のことは難しすぎて自分にはよくわからない	6.9%	34.7%	36.3%	20.7%	1.5%
(6) われわれが少々騒いだところで政治はよくなるものではない	31.2%	43.2%	15.4%	9.2%	1.1%

問14 あなたは、次の(1)～(4)のような人たちと、
①会って話をしたり遊んだりすることや、
②インターネット（メールやSNSなど）で個人的なやりとりをすることが、
それぞれどれくらいありますか。それぞれの1～5のうち、1つずつ○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	① 会って話したり遊んだりする						② インターネット（メールやSNSなど）で個人的なやりとりをする					
	上1回 日に 1回	週 回数	月に 回数	年に 回数	年に 以下 1	無 回答	上1回 日に 1回	週 回数	月に 回数	年に 回数	年に 以下 1	無 回答
(1) 近所・地域の人	8.1%	22.0%	29.0%	23.1%	16.2%	1.6%	4.7%	9.4%	12.3%	12.5%	48.4%	12.7%
(2) 会いに行くのに 1時間以内で会える友人	2.4%	12.2%	30.1%	34.1%	18.6%	2.5%	3.4%	16.6%	22.2%	17.8%	27.4%	12.6%
(3) 会いに行くのに 1時間以上かかる友人	0.1%	1.3%	9.4%	36.9%	48.2%	4.0%	1.8%	6.0%	16.0%	28.9%	34.6%	12.7%
(4) 親せき・親族（同居している家族は除く）	2.2%	9.6%	24.9%	42.0%	18.5%	2.9%	4.5%	12.3%	19.1%	20.3%	31.2%	12.6%

問15 次の(1)～(3)の意見について、あなたご自身はどう思われますか。あなたのお気持ちに最も近いものに、それぞれ1つずつ○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	強く 思う	そう 思う	そう 思わない	まったく 思わない	無 回答
(1) 新聞、本、テレビ、インターネットなど、 いろいろな情報源から、病気や健康に関連 した情報を集められる。	26.7%	67.0%	4.8%	0.1%	1.3%
(2) 病気や健康に関連した情報がどの程度信頼 できるかを判断できる。	6.4%	69.0%	22.5%	0.7%	1.3%
(3) 病気や健康に関連した情報をもとに健康改善の ための計画や行動を決めることができる。	6.9%	64.2%	26.1%	1.6%	1.2%

問16 仮に以下のものを始めたり、使って何か新しいことをやってみようとして困ったときに、あなたは
助けてくれる人を見つけられそうですか。それぞれ1つずつに○をつけてください。
それぞれのものを使っていない方は、使い始めたと考えた場合にどうなりそうかを答えてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	簡単に みつけ られる	みつけ られると 思う	みつけ られないか もしれない	みつけ られない	無 回答
(1) パソコンやタブレット端末に関して困ったとき	26.2%	47.8%	15.4%	7.9%	2.8%
(2) スマートフォンまたは携帯電話に関して困ったとき	29.9%	48.4%	13.9%	6.0%	1.8%

問17 あなたのご家族、ご友人のなかで、次のものを使っている人はそれぞれどのくらいいますか。それぞれ1つずつに○をつけてください。ご家族については別に暮らしている人も含めて、ご友人については遠くにお住まいの方も含めてお考え下さい。(○はそれぞれ1つずつ)

	みんな使っている	ほとんど使っている	半々	ほとんど使っていない	誰も使っていない	無回答
(1)ご家族でスマートフォンを使っている人	44.6%	30.8%	15.4%	3.1%	4.2%	1.8%
(2)ご友人でスマートフォンを使っている人	34.7%	43.4%	16.4%	3.3%	1.0%	1.2%

問18 あなたは、下の枠内にあるようなグループや団体に参加していますか。現在参加しているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

[55.9%]	自治会、町内会、老人会、婦人会	[50.8%]	趣味や遊び仲間のグループ
[13.8%]	同業者の団体、農協、労働組合	[30.0%]	仕事仲間のグループ
[13.7%]	生協・消費者団体・住民/市民運動の団体	[30.6%]	同窓会
[12.7%]	ボランティア団体	[1.9%]	生涯学習機関(例：高齢者大学)
[8.8%]	宗教団体	[2.9%]	その他
[18.3%]	学習会や習いごとのグループ	[11.7%]	参加しているものはない
			[0.8%]無回答

12に○をつけた方は問19へお進みください

【問18-1、問18-2は、問18で、1～11に○をつけた方におたずねします。】

問18-1 問18で参加しているとお答えになった中で、一番頻繁に参加している活動はどれですか。1～11の番号を1つ記入してください。[N=723]

[20.2%]	自治会、町内会、老人会、婦人会	[34.6%]	趣味や遊び仲間のグループ
[3.0%]	同業者の団体、農協、労働組合	[14.0%]	仕事仲間のグループ
[2.2%]	生協・消費者団体・住民/市民運動の団体	[3.0%]	同窓会
[4.7%]	ボランティア団体	[0.3%]	生涯学習機関(例：高齢者大学)
[4.1%]	宗教団体	[2.5%]	その他
[7.5%]	学習会や習いごとのグループ	[3.9%]	無回答

問18-2 その活動をしている人たちの中では会って話す以外にどのように連絡を取っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。[N=723] (○はいくつでも)

[6.1%]	手紙	[50.2%]	メール
[57.3%]	電話	[43.0%]	SNS(LINEなど)
[6.2%]	FAX	[2.6%]	その他
		[10.0%]	会って話す以外に連絡は取らない
			[1.2%] 無回答

問19 次の(1)～(5)について、あなたのお気持ちに最も近いものに、それぞれ1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	まあそう思う	どちらでもない	まあ思わない	そう思わない	無回答
(1)私にはいくつも良い点がある	9.6%	41.7%	31.4%	12.3%	2.4%	2.5%
(2)私は少なくとも他人と同じくらいは価値のある人間だと思う	10.5%	44.7%	30.2%	8.8%	3.0%	2.7%
(3)私には誇れるものがあまりないと思う	4.5%	19.7%	32.5%	29.4%	11.2%	2.7%
(4)全体として、自分自身に満足している	9.2%	44.1%	25.8%	14.3%	4.0%	2.7%
(5)私は全く役に立たないと時々思う	2.1%	7.9%	18.7%	37.1%	31.7%	2.5%

問20 過去30日の間にどれくらいの頻度で次の(1)～(6)のようなことがありましたか。最もあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない	無回答
(1) 神経過敏に感じた	2.3%	4.4%	21.9%	31.2%	40.0%	0.2%
(2) 絶望的だと感じた	1.1%	1.5%	6.7%	17.7%	72.8%	0.4%
(3) そわそわ、落ち着かなく感じた	1.0%	2.1%	12.0%	33.7%	50.5%	0.7%
(4) 気分が沈みこんで、何が起ころとも気が晴れないように感じた	1.3%	2.2%	11.6%	32.6%	52.1%	0.1%
(5) 何をするのも骨折りだと感じた	1.3%	2.9%	15.4%	30.0%	50.2%	0.2%
(6) 自分は価値のない人間だと感じた	1.6%	1.3%	6.9%	16.8%	73.2%	0.2%

問21 次の(1)～(5)について、あなたはどのくらいの頻度で感じているかお答えください。あてはまる番号1つずつに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	感じるしばしば	感じる時々	感じないに	まったくない	無回答
(1) 私は自分の周辺の人たちとうまくやっている	32.9%	51.0%	12.1%	3.3%	0.7%
(2) 私を本当に知っている人はいない	7.5%	31.2%	44.7%	16.1%	0.5%
(3) 私には人とのつきあいがいい	4.8%	17.0%	37.1%	40.1%	0.8%
(4) 私には頼りにできる人がだれもない	2.5%	16.0%	37.5%	43.2%	0.8%
(5) 私には知人がいるが、気心の知れた人はいない	5.2%	20.9%	37.7%	35.1%	1.1%

問22 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになるとお考えですか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○は1つ)

とても不幸											とても幸せ
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点	
[0.1%]	[0.4%]	[1.3%]	[2.3%]	[2.2%]	[12.3%]	[10.9%]	[20.4%]	[28.7%]	[11.4%]	[9.6%]	

無回答[0.5%]

問23 現在、あなたは社会に対してどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満」を0点とすると、何点くらいになるとお考えですか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○は1つ)

とても不満											とても満足
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点	
[0.7%]	[2.3%]	[3.0%]	[9.4%]	[9.8%]	[23.6%]	[18.5%]	[18.0%]	[11.0%]	[2.4%]	[1.0%]	

無回答[0.2%]

問24 全般的にいて、あなたの現在の健康状態はいかがですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

[7.4%]	[27.3%]	[47.2%]	[15.7%]	[2.2%]	[0.2%]
まったく健康	健康	普通	健康でない	まったく健康でない	無回答

問25 日ごろの習慣として次のようなことをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

[55.4%]	体重を測定している	[7.6%]	スポーツジムに通っている
[33.6%]	血圧を測定している	[16.3%]	スポーツをしている
[57.1%]	できるだけ歩くようにしている	[12.5%]	この中にしているものはない
[16.3%]	筋力トレーニングをしている	[0.1%]	無回答

最後にあなたご自身のことについておたずねします。

調査を統計的に分析するために重要ですので、ぜひご記入いただくようお願いいたします。

F 1 あなたの性別をお知らせください。(○は1つ)

[49.7%] 男性	[50.3%] 女性
------------	------------

F 2 あなたの年齢をお知らせください。

[25.0%] 40歳代	[25.5%] 50歳代	[24.7%] 60歳代	[24.8%] 70歳代
--------------	--------------	--------------	--------------

F 3 あなたが最後に在籍した学校は、次のどれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

(○は1つ)

[5.4%] 中学校	[39.1%] 高校	[23.6%] 短大、高専、専門学校
[29.7%] 大学	[2.2%] 大学院	[-] 無回答

F 4 お家で同居なさっているご家族の構成について、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

[55.4%] 子ども	[6.0%] 孫
[13.2%] 親	[0.8%] その他の家族
[2.1%] 兄弟姉妹	[-] 友人・知人
[0.7%] 祖父母	[0.7%] その他
[80.2%] 配偶者(夫・妻・パートナー)	[8.3%] いない(一人暮らし) [0.2%] 無回答

F 5 あなたの現在のお仕事についておうかがいします。あなたはふだんどのような仕事をなさっていますか。次のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

[40.6%] フルタイムで働いている	} F 6へおすすみください
[19.3%] パートタイム、アルバイト	
[18.1%] 専業主婦(夫)	} F 5-1へおすすみください
[-] 学生・生徒	
[21.0%] 無職	
[0.8%] 無回答	

【F 5で「3」～「5」に○をつけた方におたずねします】

F 5-1 あなたは、以前はお勤めやお仕事をされてきましたか。(○は1つ) N = 324
お勤めやお仕事をされていた場合は、何歳まででしたか。 N = 310

[95.7%] はい(平均51.9歳まで)	[2.8%] いいえ	[1.5%] 無回答
-----------------------	------------	------------

F 6 あなたは現在、結婚していますか。次のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

[82.6%] 既婚(パートナーと同居も含む)	[10.4%] 離婚、死別	[6.7%] 未婚
[0.4%] 無回答		

【F 6-1は、F 6で「1」に○をつけた方におたずねします】

F 6-1 あなたの配偶者(パートナー)はお勤めやお仕事をされていますか。(○は1つ) N = 683

[62.8%] はい	[35.3%] いいえ	[1.9%] 無回答
------------	-------------	------------

F 7 あなたの現在の経済的な暮らし向きはいかがですか。(○は1つ)

[4.0%] 大変 ゆとりがある	[18.6%] やや ゆとりがある	[51.8%] 普通	[19.3%] やや 難しい	[5.7%] 大変 難しい	[0.6%] 無回答
---------------------	----------------------	------------	-------------------	------------------	------------

F 8 お宅の世帯年収(税込み・年金込み)は、次のうちどれにあたりますか。次のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

(○は1つ)

[10.6%] 200万円未満	[16.4%] 600万円以上～800万円未満
[31.9%] 200万円以上～400万円未満	[11.1%] 800万円以上～1,000万円未満
[19.7%] 400万円以上～600万円未満	[9.4%] 1,000万円以上 [0.7%] 無回答

スマートフォンアプリでの利用規約・プライバシーポリシー接触と
プライバシー意識・行動の調査

A Survey on Users' Privacy Related Awareness and Behavior
toward Terms of Service and Privacy Policies
of Smartphone Applications

篠田 詩織 SHINODA, Shiori 橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki
天野 美穂子 AMANO, Mihoko 堀川 裕介 HORIKAWA, Yusuke
間形 文彦 MAGATA, Fumihiko 藤村 明子 FUJIMURA, Akiko

目次

1. 調査の目的と実施概要.....篠田 詩織, 間形 文彦, 藤村 明子
 - 1.1 調査の目的
 - 1.2 調査の実施概要
 - 1.3 本調査のアンケート設計
 - 1.4 データクリーニング
2. プライバシーポリシーは読まれているか.....篠田 詩織
 - 2.1 プライバシーポリシーはどれだけ読まれたか
 - 2.2 プライバシーポリシーのリンクをクリックした理由
 - 2.3 プライバシーポリシーの内容の理解度
 - 2.4 同意画面の設計別でのプライバシーポリシーが読まれる割合
 - 2.5 同意画面の設計別でのプライバシーリスクの理解度
3. 利用規約の同意／不同意の決定要因.....堀川 裕介
 - 3.1 本パートの概要
 - 3.2 規約類の確認と同意/不同意の関連
 - 3.3 態度や意識傾向と同意/不同意の関連
 - 3.4 分析結果のまとめと考察
4. ネット企業の情報管理に関する考え方とプライバシー意識、第三者提供の停止.....橋元 良明
 - 4.1 ネット企業の情報管理に関する考え方
 - 4.2 プライバシー意識
 - 4.3 第三者への情報提供の停止

5. 個人情報の取扱いに対するユーザーの問合せ・苦情・ネット書き込み行動

.....天野 美穂子

5.1 個人情報の取扱いに対する行動傾向

5.2 問合せ・苦情・ネット書き込み行動の状況

5.3 問合せ・苦情・ネット書き込み行動高頻度ユーザーの特徴

<補足資料>

質問票・単純集計表

篠田 詩織	NTTセキュアプラットフォーム研究所
橋元 良明	東京大学大学院情報学環
天野 美穂子	東京家政大学家政学部児童教育学科／東京大学大学院情報学環客員研究員
堀川 裕介	東京大学大学院学際情報学府博士課程
間形 文彦	NTTセキュアプラットフォーム研究所
藤村 明子	NTTセキュアプラットフォーム研究所

本稿は東京大学と日本電信電話株式会社 NTTセキュアプラットフォーム研究所による共同研究「パーソナルデータ利活用ビジネスの消費者受容性を高める手法構築に向けた研究」の成果の一部である。

1. 調査の目的と概要

1.1 調査の目的

近年、スマートフォン・ウェアラブル端末などの多くのセンサーを備えた端末の普及により、サービス提供企業は、一般ユーザー向けサービスを介して、ユーザーの位置情報や身体健康情報などの多様なパーソナルデータを取得することができるようになった。それに伴い、サービス提供企業は、多くのパーソナルデータを取得し、サービス提供のためだけでなく、マーケティングやパーソナライゼーション等、従来よりもデータ利活用の幅を広めようとする「パーソナルデータ利活用サービス」へのニーズが高まっている。

しかし、パーソナルデータを利活用するサービスは、説明の仕方などが適切でなかった場合、ユーザーのプライバシーの不安によって「炎上」してしまったり反発を受けたりして、サービスを中断せざるを得なくなる場合がある。

このような背景の中、我々は、「パーソナルデータ利活用サービス」を促進するために、以下に示すような疑問点を調査する目的で本調査を実施した。

- ユーザーはどのようなプライバシー意識を持っているのか
- スマートフォンを介したパーソナルデータ利活用サービスを利用する際、ユーザーはどのように同意・不同意の決定をするのか
- プライバシーポリシー（パーソナルデータの取扱いに関する取決め）の説明の仕方は、ユーザーのプライバシー行動やプライバシーリスクの理解等にどう影響を与えるのか
- パーソナルデータを第三者へ提供して利活用するような場面において、ユーザーはどのようなプライバシー行動をとるのか
- パーソナルデータ利活用サービスに対して、ユーザーはプライバシーに関してどのような問合せ・苦情・ネット書き込みを行うのか

1.2 調査の実施概要

(1) 調査方法

調査会社が保有するモニターに対する Web アンケート

(2) 調査設計

架空のアプリサービスシナリオを設定して模擬的な同意画面を複数パターン設計し、各パターンに対して調査参加者をランダムに配置してランダム化比較試験の形で各画面において仮想的に画面操作行動を調査した。また、プライバシー意識・デジタルリテラシーその他の性格特性等を測定する質問も含めた。

(3) 調査対象者

a) 選定条件

- 20～60代の男女
- 現在スマートフォンを利用している
- ポイントアプリまたは地図ナビゲーションアプリを現在利用している又は利用意向がある
- 調査業に従事していない

b) 調査参加者数

16480名

c) 調査参加者の割付

架空のスマートフォンアプリサービスのシナリオを2つ（ポイントアプリ、地図ナビゲーションアプリ）設定して2つのアプリ実験群に分け、それぞれ、現在利用しているか利用意向があると答えた参加者を割付けた。それぞれのアプリ実験群内でさらに8つの同意画面の条件に分け、合計（2サービス×8画面＝）16実験群に対し、図1.3.1のようにそれぞれの性別・年齢層について均等になるよう、無作為に103名ずつ割り付けた。

これら16実験群に対してWebアンケートの質問表示内容を変えることで、ランダム化比較試験の形をとって調査を行った。

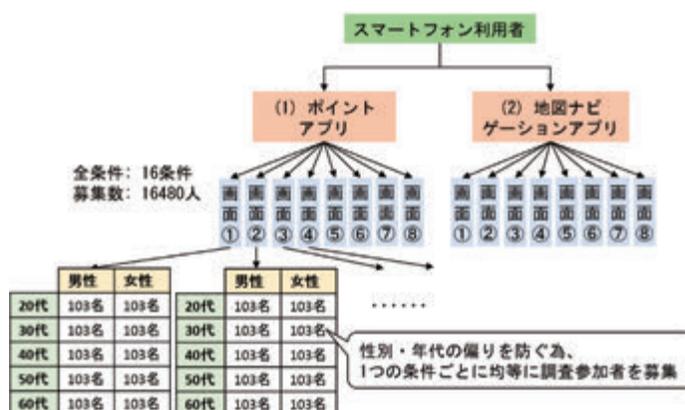


図 1.3.1 16 実験群へ属性が均等になるよう無作為に割付

(4) 調査期間

スクリーニング調査：2019年2月8日～13日

本調査：2019年3月5日～8日

1.3 本調査のアンケート設計

(1) 本調査のアンケート設計の概要

本調査のアンケートは、全 48 問で構成した。表 1.3.1 にその内訳を示す。

項目 1 は、スクリーニング調査で事前に聞いていたアプリサービスの利用状況および利用意向について、再度質問するものである。項目 2 は、架空アプリサービスの模擬的な同意画面を提示した上で、実際に利用した場合の行動と、それに関連する事柄を調査する質問である。項目 3 は、プライバシーポリシーの表現の違いによる印象の差を調査する質問である。項目 4 は、性格特性、普段のプライバシー意識・行動等を調査する質問である。

質問番号が昇順となっていないのは、質問設計時に順番変更や質問追加を行った名残である。調査参加者は、表 1.3.1 に示した項目順に回答をした。

表 1.3.1 アンケートの構成内容

#	項目	質問数	質問番号
1	架空アプリサービス提示・利用意向	最大 2 問	Q1, Q2
2	架空アプリサービス提示・行動調査	最大 38 問	
	1. インストール後のアプリ評判調査行動	1 問	Q53
	2. アプリ同意画面での画面操作	最大 13 問	Q3~Q15
	3. 問合せ・苦情・ネット書き込み行動	最大 4 問	Q29~Q32
	4. 登録情報を偽る行動	1 問	Q54
	5. 同意画面での各行動の理由	6 問	Q16~Q19
	6. 各画面で読んだ箇所	最大 7 問	Q20~Q28
	7. データ利用についての理解・想定	1 問	Q33
	8. データ利用について理解した後の行動	最大 5 問	Q34~Q37, Q52
3	プライバシーポリシー表示で絵の利用の有無の比較	1 問	Q38
4	回答者の属性・性格特性等に関する質問	7 問	Q43~Q47, Q49, Q50
計		最大 48 問	

(2) 架空アプリサービスシナリオの設定

画面操作行動実験においては、サービスの種類による偏りを防ぐために、ポイントアプリ、地図ナビゲーションアプリの 2 つの架空のシナリオを設定した。

表 A.1 に示すように、「KY ポイント」というポイントアプリと「なびなび地図」という地図ナビゲーションアプリの 2 つの架空のサービスを設定した。

(3) 複数の同意画面の設定 - プライバシーポリシー提示の既存手法と提案手法

同意画面については、以下に示す 8 つの画面を設定した。

1 つ目（画面①とする）は、従来のプライバシーポリシーの提示で最も多く見られる手法で、同意画面にプライバシーポリシーのページへのリンクを提示しておくものである（図 A.1、図 A.9 にイメージを示す）。この手法は、プライバシーリスクをユーザーに伝えられているか、通知・公表・同意取得として適切か懐疑的な議論が多い（McDonald (2008) 他）。

2つ目（画面②とする）は、2012年に一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム（2012）が、従来のリンクのみの提示の不十分さを問題視し、「スマートフォンのアプリケーション・プライバシーポリシーに関するガイドライン」にて「簡易版プライバシーポリシー」として、プライバシーポリシー本体とは別に作成して同意画面等のアクセスしやすい場所で提示することを提案しているものである。これは、取得情報、利用目的、第三者提供の有無、問合せ先の4点を、箇条書き等で簡潔に示すものである（図A.2、図A.10にイメージを示す）。しかし、この手法でもやはり、ユーザーの最も気にすると思われるプライバシーリスク「第三者提供の有無」について、ユーザーは簡易プライバシーポリシーの下まで読まないで把握することができず、情報へのアクセスしやすさに限りがある。

3つ目（画面③とする）は、上記の課題を解決するために提案する、ユーザーが気にすると考えられるプライバシーリスク（第三者提供の有無）を同意画面に強調表示する手法である（図A.3、図A.11）。これにより、ユーザーはサービス利用開始前にプライバシーリスクの存在を認識した上で同意・不同意を判断できると考えた。しかしこれはプライバシーリスクのみを表示しており逆にユーザーに過度な不安を感じさせてしまう可能性がある。

4つ目～8つ目（それぞれ画面④、…、画面⑧とする）は、そのような過度な不安を感じさせないための提案手法である、プライバシーリスクに加え安心材料も同時に強調して表示する手法である（図A.4～図A.8、図A.12～図A.16）。

安心材料の内容は、(1) リスク受容を求める目的（第三者提供先での利用目的）、(2) サービス提供企業が行うリスク低減対策（第三者提供先とはデータの適切な扱いに関して契約すること）、(3) ユーザー自身が行えるリスク低減対策（第三者提供を停止できること・問合せができること）、(4) リスクを受け入れることでユーザーが得られるメリット（第三者提供を許可することで謝礼ポイントがもらえること）の4点を設定した。

画面④はそれら4点を全て記載する手法（図A.4、図A.12）、画面⑤は「(1) 利用目的」のみを記載する手法（図A.5、図A.13）、画面⑥は「(2) サービス提供企業が行うリスク低減対策」のみを記載する手法（図A.6、図A.14）、画面⑦は「(3) ユーザー自身が行えるリスク低減対策」のみを記載する手法（図A.7、図A.15）、画面⑧は「(4) リスクを受け入れることでユーザーが得られるメリット」のみを記載する手法（図A.8、図A.16）である。

これら4点の安心材料は、過去のプライバシー意識に関する調査および法律の要請をもとに設定した。ユーザーがパーソナルデータを提供する際に重視する情報は、データの利用目的、安全管理措置、自分のデータの利用についてコントロールできる仕組みの有無等であり、かつサービス・アプリケーションの利便性・有益性も求めている（総務省（2017））。また、個人情報保護法やGDPR等プライバシーに関わる法律でも、データの利用目的を明らかにすること、安全管理措置を行うことが要請されている。これらより、上記4点いずれかの安心材料の提示によりユーザーの不安感を過度に煽らず適切な理解を促せると考えた。

(4) 同意画面の操作データ取得のためのアンケート設計

それぞれの同意画面でユーザーがどのように振舞うのかを多くの実験参加者数を集めて調べるため、今回の調査では、Web アンケートでスマートフォンアプリの同意画面の遷移を仮想的に作成し、アンケートに回答してもらうことで実験参加者の各画面での操作行動データを取得できるように、図 1.3.2 に示すように 1つの質問に 1つの画面遷移を割り当てたアンケートを設計した。

こうすることで、実機を用意したり実験参加者を実験室に呼んだりする必要なく、大規模にデータを収集することが可能になった。

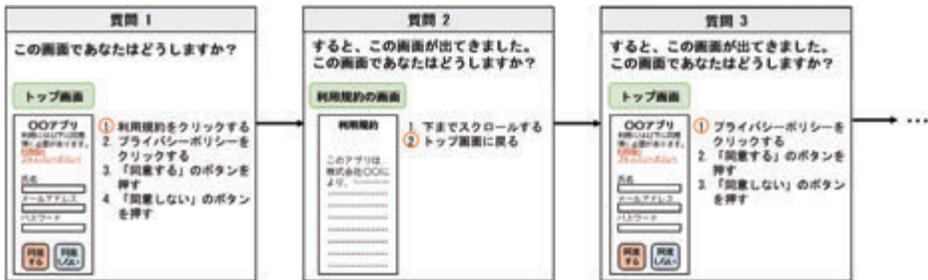


図 1.3.2 1つの質問へ1つの画面遷移を割り当てるイメージ

具体的には、図 1.3.3 に示すように、Q3～Q15 の 13 問に各画面遷移をあてはめることで、同意画面を見てから同意・不同意を決定するまでの画面操作データを取得した。Q3 では、同意画面を見たときに自分が取るだろう行動を選択肢から選択してもらう。同意・不同意を決定した場合はそこで終了し、もし利用規約リンク、プライバシーポリシーリンク、重要事項説明部分、第三者提供停止リンクのいずれかをクリックまたはスクロールすると答えた場合は、それらに対する行動を Q4～Q6 で質問する。Q7 では、最初の同意画面に戻り Q3 と同様の質問をするが、Q3 で選択した選択肢は表示されない。これらを同意・不同意を決定するまで繰り返して行動を質問する。これは最大で 4 順繰り返される。

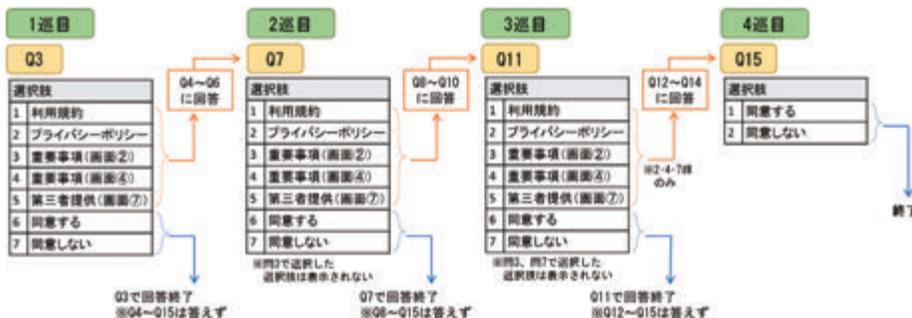


図 1.3.3 画面操作行動データ取得のための質問構成

Q3・Q7・Q11・Q15 は同意画面への行動、Q4・Q8・Q12 は同意画面から利用規約またはプライバシーポリシーのリンクをクリックした後に表示される画面への行動、Q5・Q9・Q13 は、利用規約・プライバシーポリシー・重要事項説明に提示される説明文への行動、Q6・Q10・Q14 は、第三者提供を停止設定できる画面への行動を聞く質問である。

1.4 データクリーニング

本調査で集まった 16480 人のうち、以下の 3 つの条件にあてはまった参加者については分析対象から外し、最終的に残った 14520 人を対象に分析を行った。

(1) ポイント・地図アプリについて、事前調査では現在利用中または利用意向ありと答えたが、本調査の Q1・Q2 で、現在利用中でなく、「利用してみたいとは思わない」と答えた

(2) 三浦ら (2015) による Satisfice 判定質問 2 問 (Q43-6・Q46-13) 両問で指示無視した

(3) マトリクス質問 6 問 (Q38・Q43~Q47) 全てで同じ数字への回答を設問内で繰り返した

以上のデータクリーニングの後、分析対象者について、実験群ごとの性別・年齢層別の割合は表 1.4.1 のようになり、ランダム化比較試験には影響がないことを確認した。

表 1.4.1 データクリーニング後の各実験群の属性分布

	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	合計人数
ポイント-画面①	47.6%	52.4%	19.3%	20.2%	20.2%	19.6%	20.6%	906
ポイント-画面②	48.5%	51.5%	19.0%	20.4%	20.5%	20.4%	19.7%	897
ポイント-画面③	48.6%	51.4%	19.3%	20.2%	20.0%	19.9%	20.6%	908
ポイント-画面④	48.4%	51.6%	19.7%	20.3%	19.6%	20.6%	19.8%	883
ポイント-画面⑤	48.1%	51.9%	19.8%	19.8%	19.3%	20.4%	20.7%	908
ポイント-画面⑥	48.3%	51.7%	19.8%	19.6%	19.9%	21.2%	19.5%	911
ポイント-画面⑦	48.6%	51.4%	19.7%	20.3%	19.7%	20.0%	20.3%	920
ポイント-画面⑧	47.2%	52.8%	19.3%	20.0%	19.6%	20.5%	20.5%	906
地図-画面①	48.1%	51.9%	19.4%	20.4%	20.6%	20.2%	19.5%	918
地図-画面②	48.4%	51.6%	18.9%	19.7%	20.3%	20.2%	20.9%	927
地図-画面③	47.2%	52.8%	18.9%	19.1%	19.8%	21.1%	21.1%	892
地図-画面④	47.8%	52.2%	17.2%	20.6%	20.6%	20.4%	21.1%	906
地図-画面⑤	47.5%	52.5%	19.2%	20.5%	19.6%	20.3%	20.5%	903
地図-画面⑥	48.2%	51.8%	18.8%	19.3%	21.0%	19.9%	21.0%	900
地図-画面⑦	48.0%	52.0%	18.2%	19.3%	20.3%	21.3%	20.9%	916
地図-画面⑧	48.3%	51.7%	19.2%	20.7%	19.2%	20.6%	20.5%	919
全体	48.1%	51.9%	19.1%	20.0%	20.0%	20.4%	20.5%	14520

参考文献

McDonald, A. M., & Cranor, L. F. (2008). The Cost of Reading Privacy Policies. *A Journal of Law and Policy for the Information Society*, 4(3), 543-568.

一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム (2012) 「スマートフォンのアプリケーション・プライバシーポリシーに関するガイドライン」.

総務省 (2017) 「データ流通・利活用における課題」『平成 29 年版 情報通信白書』 77-86.

三浦麻子・小林哲郎 (2015) 「オンライン調査モニタの Satisfice に関する実験的研究」『社会心理学研究』 31(1), 1-12.

2. プライバシーポリシーは読まれているか

2.1 プライバシーポリシーはどれだけ読まれたか（Q5・Q9・Q13の合計）

実験内では、画面に表示されたプライバシーポリシーのリンクをクリックしたかどうか、リンクをクリックした場合に下までスクロールをしたかどうか、下までスクロールした場合に読んだかどうかを Q3～Q15 の中で聞いていた。下までスクロールした後に、「読まない」、「ざっと読む」、「じっくりと読む」の選択肢のうち「ざっと読む」、「じっくりと読む」のいずれかを Q5・Q9・Q13 で選択した場合に、「プライバシーポリシーを読んだ」とする。表 2.1.1 は、年齢層別・性別でプライバシーポリシーを読んだ割合を示したものである。

全体ではプライバシーポリシーを読んだ割合は 16.1%であり、8 割以上は読んでいなかった。属性別で見ると、若年層よりも中高年層で、女性よりも男性で読んだ割合が多い傾向にあった。

表 2.1.1 年齢層別、性別でのプライバシーポリシーを読んだ割合

	プライバシー ポリシーを読んだ
全体 (N=14520)	16.1%
20代 (n=2773)	14.2%
30代 (n=2908)	14.6%
40代 (n=2906)	16.0%
50代 (n=2963)	17.9%
60代 (n=2970)	17.4%
カイ2乗検定	***
女性 (n=6978)	15.3%
男性 (n=7542)	16.9%
カイ2乗検定	**

※それぞれ、カイ 2 乗の結果「**」は 1%、「***」は 0.1%水準でそれぞれ有意差が見られたことを示す。残差分析にて 5%水準で有意に高かったものを黒色太字、低かったものを赤色太字で表す。

4 章でも記載するが、プライバシー意識は、男性よりも女性が、若年層よりも中高年層が高い傾向にある。その一方、プライバシーポリシーを読んだ割合を見ると、若年層より中高年層が高かったのに対し、女性については男性よりも低かった。プライバシー意識が高いとプライバシーポリシーを読む割合も高くなると考えられるが、性別でわけて見ると、女性はプライバシー意識は高いもののプライバシーポリシーを読む割合は低かった。プライバシーポリシーを読む行為には、プライバシー意識だけでなく、批判的思考態度等の他の因子の方がより大きく影響を与えていると考えられる。

2.2 プライバシーポリシーのリンクをクリックした理由（Q18）

次に、プライバシーポリシーのリンクをクリックした理由を分析する。

Q18にて、リンクをクリックした参加者に対してその理由を聞いた結果を年齢層別・性別で見たものを表 2.2.1 に示す。「普段からプライバシーポリシーには目を通すようにしているから」と、習慣に基づいてリンクをクリックしたとする参加者（以下「習慣者」とする。）が全体の 59.0%と、半数以上であった。また、その割合は、若年層・男性が有意に多かった。

表 2.2.1 年齢層別、性別でのプライバシーポリシーをクリックした理由

	普段からプライバシーポリシーには目を通すようにしているから	個人情報などが取られるか不安だったから	自分に不利な条件がないか確認したかったから	サービス提供者を信頼できないと思ったから	クリックするのが面倒ではなかったから	プライバシーポリシーの内容を詳しく知りたいと思ったから	リンクに気づいたから	その他（【 】）	特に理由はない
全体(n=2691)	59.0%	47.1%	33.4%	6.6%	6.7%	19.1%	6.1%	0.3%	4.4%
20代(n=450)	64.2%	46.2%	32.2%	8.4%	9.1%	16.4%	6.2%	0.2%	5.6%
30代(n=471)	59.4%	46.9%	36.1%	6.8%	5.5%	17.8%	7.0%	0.4%	3.8%
40代(n=521)	58.9%	45.1%	33.2%	6.9%	8.4%	22.5%	7.7%	0.0%	4.8%
50代(n=627)	59.0%	43.7%	34.0%	5.1%	6.9%	17.7%	4.5%	0.0%	4.9%
60代(n=622)	54.8%	52.9%	31.7%	6.4%	4.3%	20.6%	5.8%	0.6%	3.2%
カイ2乗検定	*	*	n. s.	n. s.	**	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.
女性(n=1355)	56.0%	50.5%	31.1%	6.1%	6.2%	20.5%	6.9%	0.4%	4.4%
男性(n=1336)	62.0%	43.6%	35.7%	7.2%	7.3%	17.7%	5.4%	0.1%	4.4%
カイ2乗検定	***	***	**	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

※それぞれ、カイ2乗の結果「*」は5%、「**」は1%、「***」は0.1%の危険率で有意差が見られたことを、「n. s.」は有意差が見られなかったことを示す。残差分析にて5%水準で有意に高かったものを黒色太字、低かったものを赤色太字で表す。

続いて、クリックした理由で「普段からプライバシーポリシーには目を通すようにしているから」を選んだ参加者（習慣者）とそれ以外の参加者（非習慣者）でのリンクをクリックした他の理由を比較したところ、表 2.2.2 のようになった。

非習慣者については「個人情報などがどう取られるか不安だったから」の選択率が有意に高く、不安起因が多い傾向にあり、また、習慣者に比べて「プライバシーポリシーの内容を詳しく知りたいと思ったから」という好奇心起因は少ない傾向にあった。

表 2.2.2 習慣者と非習慣者のプライバシーポリシーをクリックした理由

	個人情報などが取られるか不安だったから	自分に不利な条件がないか確認したかったから	サービス提供者を信頼できないと思ったから	クリックするのが面倒ではなかったから	プライバシーポリシーの内容を詳しく知りたいと思ったから	リンクに気づいたから	その他（【 】）	特に理由はない
全体(n=2691)	47.1%	33.4%	6.6%	6.7%	19.1%	6.1%	0.3%	4.4%
習慣者(n=1587)	41.6%	33.1%	6.3%	5.9%	21.4%	5.4%	0.0%	0.0%
非習慣者(n=1104)	55.0%	33.7%	7.1%	8.0%	15.9%	7.2%	0.6%	10.8%
カイ2乗検定	***	n. s.	n. s.	*	***	*	***	***

※それぞれ、カイ2乗の結果「*」は5%、「**」は1%、「***」は0.1%水準でそれぞれ有意差が見られたことを、「n. s.」は有意差が見られなかったことを示す。残差分析にて5%水準で有意に高かったものを黒色太字、低かったものを赤色太字で表す。

2.3 プライバシーポリシーの内容の理解度（Q33）

次に、プライバシーポリシーの内容の理解度について分析する。

Q33 では、表 2.3.1 に示す 7 点について「正しいと思う」、「間違っていると思う」、「わからない」の 3 つの選択肢の中から 1 つ回答するよう質問していた。表内では、プライバシーポリシーに記載している内容と合致しているものを「正」、合致していないものを「誤」としている。ここでは、正しい選択肢を選んだ場合に「理解している」とし、プライバシーポリシーの内容の理解度について分析を行う。

同じく表 2.3.1 内に、各項目の正解率を載せている。項目 6「個人情報の扱いについて問合せ窓口の有無」が、正解率が 61.6%と最も高くなっており、続いて項目 7「第三者提供時の適切な取扱いに関する契約の実施」が 55.9%、項目 5「第三者提供先での利用目的」が 53.4%、項目 4「社員のデータアクセス制御」が 49.1%、項目 2「ユーザーによる第三者提供停止機会の有無」が 46.1%、項目 1「第三者提供の有無」が 35.0%、項目 3「第三者提供許可で謝礼ポイント付与」が 19.5%と続く。第三者提供があることを前提としている項目 2・4・5・7 の正解率が、第三者提供の有無に関する項目 1 の正解率を上回っているのは論理的には矛盾しているが、これら項目 2・4・5・7 は、「もし第三者提供がなされるなら」という想定のもと答えたのだと思われる。

最も重要な項目である、項目 1 のプライバシーリスク（「第三者提供の有無」）については、全体の 35.0%と半数以下しか理解していなかった。

表 2.3.1 Q33 で理解度調査に用いた項目一覧

No	項目	略称	正誤	正解率 (N=14520)
1	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、自分の購買履歴／位置情報のデータは第三者に提供される	プライバシーリスク	正	35.0%
2	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、自分の購買履歴／位置情報のデータが第三者提供されるのを停止することはできない	自己対策1	誤	46.1%
3	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、自分の購買履歴／位置情報のデータの第三者提供を停止しないとポイントがもらえる	メリット	正	19.5%
4	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、自分の購買履歴／位置情報のデータは、サービス提供企業の社員全員が見ることができる	企業対策1	誤	49.1%
5	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、自分の購買履歴／位置情報のデータは、第三者提供先ではマーケティング分析や需要分析等に活用される	利用目的	正	53.4%
6	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、個人情報の扱いについて問合せのできる窓口がない	自己対策2	誤	61.6%
7	「KYポイント」／「なびなび地図」サービスでは、自分の購買履歴／位置情報のデータが第三者へ提供されるときは、適切に取扱うよう契約を交わしている	企業対策2	正	55.9%

続いて、表 2.3.2 に、年齢層別、性別で見た各正解率を示す。

プライバシーリスク、メリット、利用目的については、若年層・男性の方が中高年層・女性よりも正解率が高かった。パーソナルデータを利活用するサービスは最近に出てきた新しいビジネスであるため、新しいものに対して不安なく取り入れやすい傾向にある若年層・男性の方が、このようなサービスになじみがあったのではないかと考えられる。

逆に、企業対策 1、自己対策 2 では、中高年層よりも若年層の方が正解率が高かった。企業対策 1（社員のデータへのアクセス制御）や自己対策 2（問合せ窓口の有無）について

は、中高年層の方が働いている経験が長く、サービス提供企業の内部の事情を想像しやすかったのではないかと考えられる。

表 2.3.2 年齢層別、性別で見たプライバシーポリシーの内容の正解率

	プライバシー リスク (自分のデータが 第三者提供される こと)	自己対策1 (自分で第三者提 供を停止できるこ と)	メリット (第三者提供許可 で謝礼ポイントが 付与されること)	企業対策1 (従業員のデー タアクセス制御を 行っていること)	利用目的 (第三者提供先で はマーケティング 分析等に用いられ ること)	自己対策2 (個人情報の扱い についての問合せ 窓口があること)	企業対策2 (第三者提供時に はデータの適切な 扱いについて契約 を交わすこと)
全体(N=14520)	35.0%	46.1%	19.5%	49.1%	53.4%	61.6%	55.9%
20代(n=2773)	38.9%	44.5%	20.3%	42.9%	55.2%	58.9%	56.0%
30代(n=2908)	36.3%	47.2%	19.3%	47.1%	55.0%	61.7%	55.1%
40代(n=2906)	37.0%	45.0%	20.9%	49.4%	53.9%	62.4%	56.6%
50代(n=2963)	32.4%	46.9%	17.7%	52.1%	51.6%	63.7%	56.2%
60代(n=2970)	30.6%	46.6%	19.3%	53.6%	51.4%	61.5%	55.9%
カイ2乗検定	***	n. s.	*	***	**	**	n. s.
女性(n=6978)	28.7%	45.3%	15.0%	48.6%	49.6%	61.8%	55.3%
男性(n=7542)	41.7%	46.9%	24.3%	49.6%	57.5%	61.4%	56.6%
カイ2乗検定	***	n. s.	***	n. s.	***	n. s.	n. s.

※ここでは、Q33の各選択肢について、正しい選択肢を選んだ参加者の割合を示している。それぞれ、カイ2乗の結果「*」は5%、「**」は1%、「***」は0.1%水準でそれぞれ有意差が見られたことを、「n. s.」は有意差が見られなかったことを示す。残差分析にて5%水準で有意に高かったものを黒色太字、低かったものを赤色太字で表す。

2.4 同意画面の設計別でのプライバシーポリシーが読まれる割合 (Q5・Q9・Q13の合計)

プライバシーポリシーは全体の16%の参加者にしか読まれていなかったが、同意画面の設計の違いによるその割合の違いについて分析をする。以下、画面①～画面⑧については、それぞれ図A.1～図A.8、図A.9～図A.16に示したものを言う。

表2.4.1は、同意画面の設計別でのプライバシーポリシーが読まれた割合を示している。読まれた割合は画面ごとに有意な差がなく、どの画面でも16%前後であった。同意画面に重要事項の説明を加えても、プライバシーポリシーは結局ほとんどのユーザーに読まれなことが示唆された。

表 2.4.1 同意画面設計別でのプライバシーポリシーが読まれた割合

	画面① リンクのみ (n=1824)	画面② 簡易プライ バシーポリ シー (n=1824)	画面③ リスクのみ (n=1800)	画面④ リスク+安 心材料全部 盛り (n=1789)	画面⑤ リスク+利 用目的 (n=1811)	画面⑥ リスク+企 業対策 (n=1811)	画面⑦ リスク+自 己対策 (n=1836)	画面⑧ リスク+メ リット (n=1825)	合計 (n=14520)
読まれた割合	15.9%	15.2%	17.7%	15.0%	16.5%	17.4%	14.9%	15.8%	16.1%

※カイ2乗検定の結果、有意な偏りは見られなかった。

2.5 同意画面の設計別でのプライバシーリスクの理解度 (Q33-1)

適切な同意に重要なのは、プライバシーリスクに対するユーザーの適切な理解である。ここでは、同意画面設計ごとにプライバシーリスクの理解度を分析する。

まず、画面①（リンクのみ）と画面②～⑧（なんらかの重要事項説明表示あり）を比較したのが表 2.5.1 である。画面①のリンクのみの表示よりも、それ以外のなんらかの重要事項説明表示を加えた画面の方がプライバシーリスクの正解率が上がった。**プライバシーポリシーが読まれなくても、同意画面で重要事項を説明する表示により、ユーザーのプライバシーリスクへの理解を有効に助けることができる**ことが示唆された。しかしそれでも正解率は依然として5割未満であるため、リスクの理解度向上のために他の手段を合わせて考えるか、またはリスクは半数以上のユーザーに理解されないことを前提にした別のプライバシー配慮の仕方を考えるなど、他にも工夫を施した方がよいことが伺える。

表 2.5.1 画面①とそれ以外でのプライバシーリスクの正解率

	画面① リンクのみ (n=1824)	それ以外 重要事項説明表示あり (n=12696)
正解率	32.2%	35.4%

※カイ 2 乗検定の結果、1%水準で有意な偏りが見られた。有意に高かったものを黒色太字、低かったものを赤色太字で表す。

表 2.5.2 は、全ての同意画面の設計別でのプライバシーリスクが理解された割合を示している。画面①（リンクのみ）で有意に正解率が低く、そして画面⑤（リスク+利用目的）と画面⑦（リスク+自己対策）で有意に正解率が高かった。この結果より、**リスクの理解度の向上にはリスクの表示だけでは十分でなく、利用目的を合わせて記載することで納得性を高めたり、ユーザーのとれる自己対策を合わせて記載して具体的な行動を促したりすることで、理解度を高められそう**だということが明らかになった。

表 2.5.2 同意画面設計別でのプライバシーリスクの正解率

	画面① リンクのみ (n=1824)	画面② 簡易プライバシー (n=1824)	画面③ リスクのみ (n=1800)	画面④ リスク+安心材料全部 盛り (n=1789)	画面⑤ リスク+利用目的 (n=1811)	画面⑥ リスク+企業対策 (n=1811)	画面⑦ リスク+自己対策 (n=1836)	画面⑧ リスク+メリット (n=1825)
正解率	32.2%	34.6%	33.9%	35.2%	37.1%	33.4%	37.8%	35.5%

※ここでは、Q33-1 の各選択肢について、正しい選択肢を選んだ参加者の割合を示している。カイ 2 乗検定の結果、1%水準で有意な偏りが見られた。残差分析にて 5%水準で有意に高かったものを黒色太字、低かったものを赤色太字で表す。

3. 利用規約の同意／不同意の決定要因

3.1 本パートの概要

(1) 実験質問の概要について

「1. 調査の目的と実施概要」でもふれられているが、本パートで用いる質問項目と分析の概要について改めて説明したい。本調査では Q3 から Q15 にかけて、スマートフォンアプリの画面遷移を模した質問群を設けた（本パートではこの質問群を「実験質問」と称する）。実験質問では「利用規約への同意/不同意ボタン」「プライバシーポリシーへのリンク」など、スマートフォンアプリの利用を始める際に利用者が目にするボタンやリンクが画面内に表示されており、画面を見た回答者が次にどの行動をするかを選択肢で選ぶと、選択肢に応じた次の画面に遷移するようになっている。これにより、ウェブアンケートの形式をとりながらも、実際にスマートフォンを操作しながら実験している時と同様の行動傾向を把握できる作りとなっている。

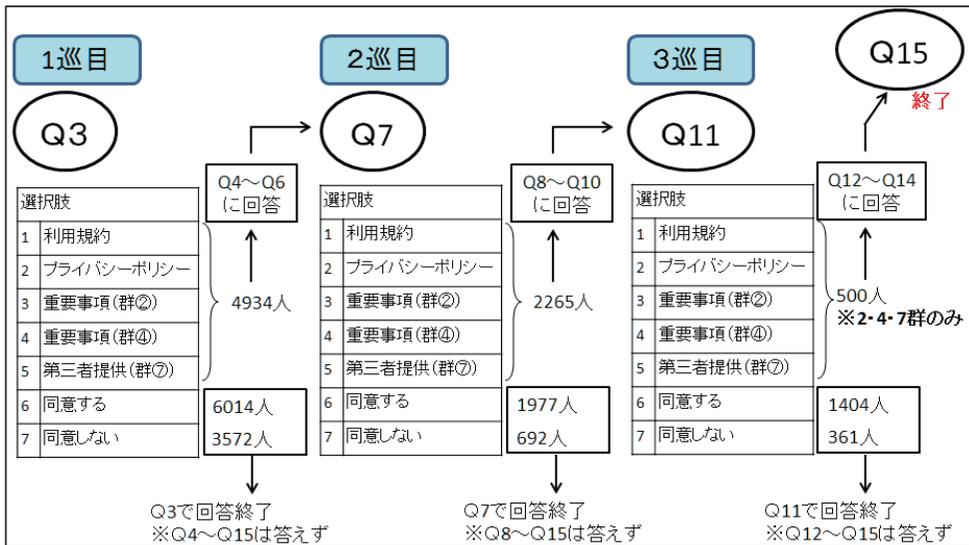


図 3. 1. 1 実験質問の流れ略図（図 1. 3. 3 を若干改変）

実験質問の流れは図 3. 1. 1 の略図の通りとなっている。まず Q3 では個人情報の入力欄に加え、アプリの利用規約への同意/不同意、利用規約・プライバシーポリシー・重要事項へのリンク¹⁾、第三者提供の停止手続きへのリンク²⁾といったボタンならびにリンクが表示されており、回答者はその時点で個人情報を入力して同意するか、同意しないでアプリの利

1) プライバシーポリシーと重要事項へのリンクは第 2 群と第 4 群のみ表示。

2) 第 7 群のみ表示。

用をやめるか、利用規約やプライバシーポリシー等（以下ではこれらの全体を総称する場合には「規約類」と表記する）の中身を確認するか、といった一連の選択肢の中から次の行動を選ぶことになる。この時、Q3の時点で同意または不同意を決めた回答者については実験質問への回答は終了となり、後の質問（Q4～Q15）には回答しない。同意/不同意以外の選択肢を選んだ回答者は、確認内容に対応した画面に遷移し、遷移した先でさらにその次の行動への選択をする（Q4～Q6として尋ねた）。利用規約等の確認を終えた後は再び最初と同様の画面に戻り、再び同意/不同意の決定をするか、さらに他の情報を確認するかをQ7で選択する³⁾。このような「同意/不同意か利用規約等へのリンクを押す→各々の内容確認」というサイクルが、Q3～Q6（1巡目）、Q7～Q10（2巡目）、Q11～Q14（3巡目）と3回繰り返され、最終的にはQ15で同意/不同意を決定する⁴⁾。したがって一連の質問群の中では利用規約への同意/不同意を決定するタイミングが四回ある（Q3, Q7, Q11, Q15）。本パートではこの各時点における同意/不同意の決定状況に着目して検討することとした。

(2) 実験質問の回答状況

どの時点で同意/不同意を決定したか確認したところ、Q3で決定した人が全体の66.0%に上り、回答者の過半は利用規約等を読むことなく決定していたことが明らかとなった（図3.1.2）。これに対し規約類を一度でも見た上で決定した人は全体の34.0%である。なお、Q15については第2群・第4群・第7群の回答者だけが辿りつけるため、それ以外の群についてはQ11の時点で規約類の確認はすべて済んでいることになる。したがってすべての規約類を見た人は全体の15.6%となる。

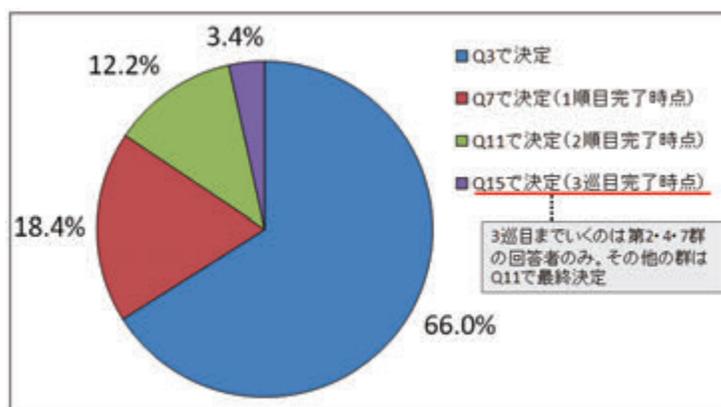


図 3.1.2 同意/不同意の決定時点

³⁾ Q7の選択肢には、Q4～Q6ですでに確認した項目は外されており、一度確認した内容を再び確認することはない。ただし「第三者提供の停止」だけは二度通ることができる。

⁴⁾ この時点では利用規約等の確認がすべて済んでいるため、同意するかしないかの選択肢しかない。なお3巡目まで行くのは第2群・第4群・第7群のみであり、それ以外の群はQ11で最終決定する。

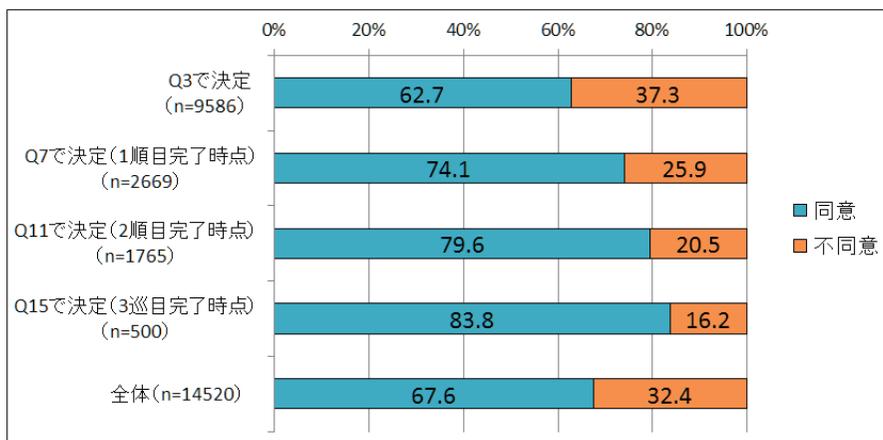


図 3. 1. 3 決定時点毎に見た同意/不同意の割合

$p < .001$ (χ^2 乗検定)、 $V = .15^5)$

決定時点毎に同意/不同意の割合をみたのが図 3. 1. 3 である (母数は各時点で同意/不同意を決定した人)。これを見ると、後の時点で決定した人ほど同意の割合が多い。時点が後になるほどより多くの規約類を確認したことになるため、この結果からは規約類の確認と同意/不同意に関係のあることが示唆される。

(3) 以降の検討課題

上記の結果からは、規約類を読むことによってアプリへの理解や信頼が形成され、アプリを利用しても良い(利用規約に同意)との意思形成が促されたという仮説が考えられる。以降の節ではこの仮説に沿って、規約類の確認度合いと同意/不同意の関連を検討する。

一方で、アプリ利用への同意/不同意には規約類を読んだか否かだけでなく、元々そのアプリを利用する意向の高低やプライバシー意識の高低など、回答者が元々持っている態度や意識傾向によって左右される面もあると考えられる。これらの要素と同意/不同意の関連についても検討したい。

3. 2 規約類の確認と同意/不同意の関連

(1) 利用規約とプライバシーポリシー

利用規約とプライバシーポリシー (両者は全実験群に共通で表示) について、再度細かな画面遷移を確認しよう (図 3. 2. 1)。トップ画面ではそれぞれのリンクが表示されており、そのリンクを「クリックする」を選択するとスクロール画面に遷移する。ここでは全文は

⁵⁾ V はクラメールの連関係数 (効果量) を表す。以下、断りない場合 V は同係数を指すものとする。

まだ表示されていないため、全文を読もうとする人はさらに「画面をスクロールする」の選択肢を選んで全文画面に遷移することとなる。全文画面では利用規約やプライバシーポリシーの全文が表示されており、これを見た上で回答者がどうするかを「読まない」「ざっと読む」「じっくり読む」の中から選択する。

本パートでは、これらの選択行動を五つの段階に分け、利用規約やプライバシーポリシーの「確認度合」として扱うこととした。五つの段階とは「リンクをクリックしない」「リンクをクリックしただけ（スクロール画面までは見た）」「全文をスクロールしただけ（全文表示したが読まなかった）」「全文をざっと読んだ」「全文をじっくり読んだ」であり、後ろのカテゴリーほど規約類の確認度合が高いと想定される。

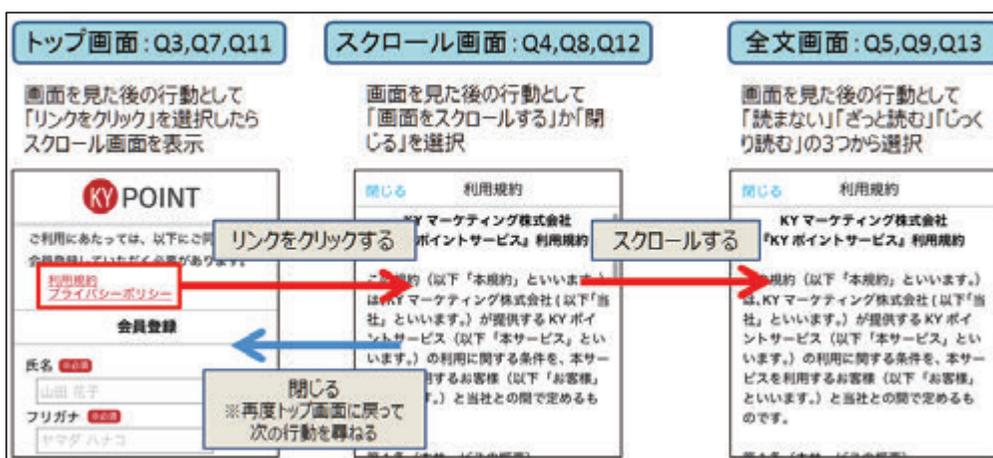


図 3.2.1 利用規約とプライバシーポリシーにおける画面遷移の詳細

まず利用規約とプライバシーポリシーがどの程度読まれたかを上記の五カテゴリーで集計した（図 3.2.2）。利用規約には回答者全体の 24.3%、プライバシーポリシーには同じく 18.6%が目を通したとの結果であった。どちらも、接触した人のうち 80%強は全文に多少なりとも目を通しており、「じっくり読んだ」割合はプライバシーポリシーの方が高かった。

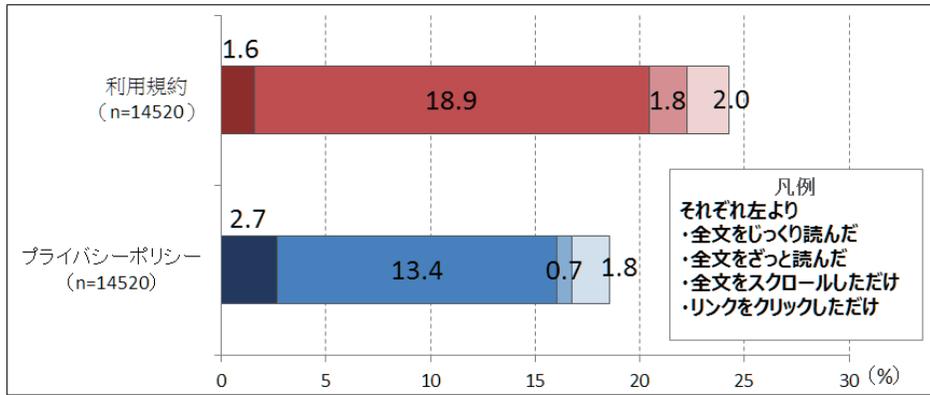


図 3.2.2 利用規約とプライバシーポリシーへの確認度合
 ※回答者全体における、実験質問全体を通じた割合。統計的検定はせず。

次に確認度合と規約類への理解度との関連を検討した。「規約類への理解度」とは、実験質問で表示された内容に沿った規約類の正誤問題（本調査の Q33）七項目に対する正答数をとったものである（最小 0 点、最大 7 点）。利用規約とプライバシーポリシー各々の確認度合に応じた理解度の平均値を見ると（図 3.2.3）、確認度合が高いほど理解度が高い傾向が明瞭である。元々知識のある人の確認度合が高かったことも考えられるが⁶⁾、利用規約やプライバシーポリシーを読んだことによる学習効果があった可能性も考えられる。

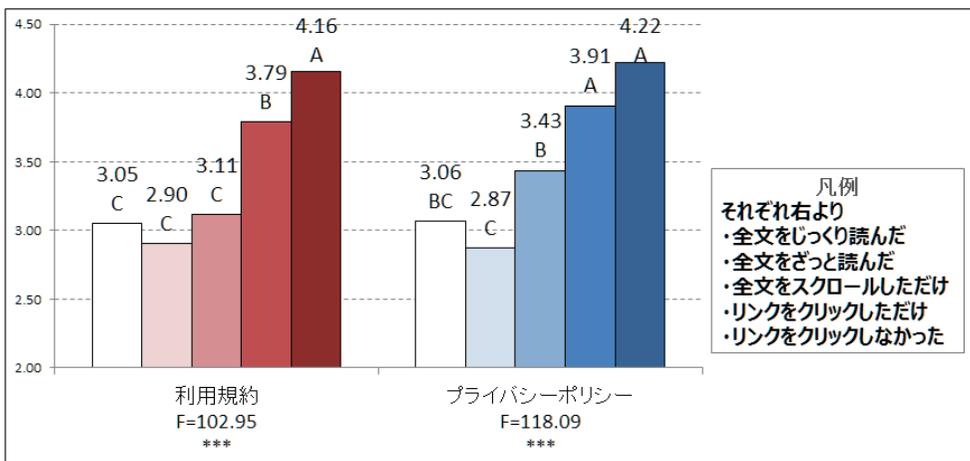


図 3.2.3 利用規約・プライバシーポリシーの確認度合ごとに見た、規約類への理解度

*** $p < .001$ 一般線形モデル (GLM) による分散分析 分析対象は回答者全体: $n=14520$

※アルファベット記号は Tukey 法による多重範囲検定の結果を示す。

※理解度は、七項目の理解度質問における正答数を表す。(最小 0 点～最大 7 点)

⁶⁾ 実験とは言え、利用規約やプライバシーポリシーの内容は一般のアプリのそれと大きく異なるものではなかったため、日頃から規約類を知悉している人には正解しやすかったと考えられる。

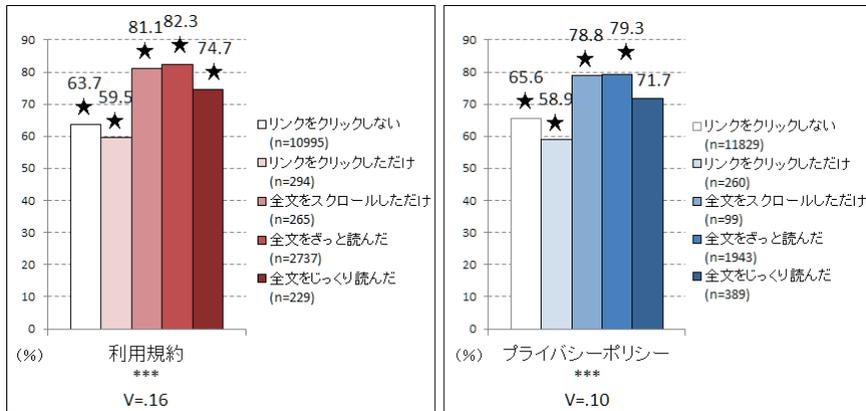


図 3.2.4 利用規約・プライバシーポリシーの確認度合ごとにみた、同意の割合

*** $p < .001$ (χ^2 二乗検定)、★マークは残差分析において調整済残差が ± 1.96 以上あることを示す。
※母数は回答者全体 (n=14520)

確認度合と同意/不同意の関連を検討した。図 3.2.4 は確認度合ごとに利用規約への同意割合 (全時点あわせたもの) を見たものだが、利用規約・プライバシーポリシーとも、「全文をざっと読んだ」「全文をスクロールしただけ」の人において同意の割合が高い。確認度合の低い人々との比較では、規約類の確認による効果が見て取れる結果と言えよう。しかし「全文をじっくり読んだ」人の同意率は必ずしも高くはない。これらの人々においては、「じっくり読んだからこそ心配になった」ために不同意に傾く人が一定程度出た結果ではないかと考えられる。

(2) 重要事項の効果

実験群のうち第 2 群と第 4 群では、利用規約とプライバシーポリシーに加えて、それらを要約した「重要事項」についてもトップ画面に表示しきれていない内容が詳しく読めるようになっている⁷⁾。これについても、「全文を表示する」(全文画面を見た上で)「読まない」「ざっと読む」「じっくり読む」の選択が可能であり、以下の四つの確認度合が設定可能である。すなわち「全文スクロールをしなかった (スクロール画面までは見た)」「全文をスクロールしただけ (全文表示したが読まなかった)」「全文をざっと読んだ」「全文をじっくり読んだ」の四段階である (画面遷移の詳細は次頁の図 3.2.5 を参照)。以下では第 2 群と第 4 群を対象を絞りながら、利用規約・プライバシーポリシー・重要事項について比較を行い、規約類を「重要事項」として表示することの効果を検討したい。

7) すべての群においてトップ画面に「重要事項」の記載がある点は共通しているが、他の群がトップ画面を一瞥するだけで完結するのに対し、第 2 群と第 4 群はスクロール画面となっており、表示されていない部分についての中身を確認する選択肢が設けられている。実際の表示画面や重要事項の内容は参考資料を参照のこと。

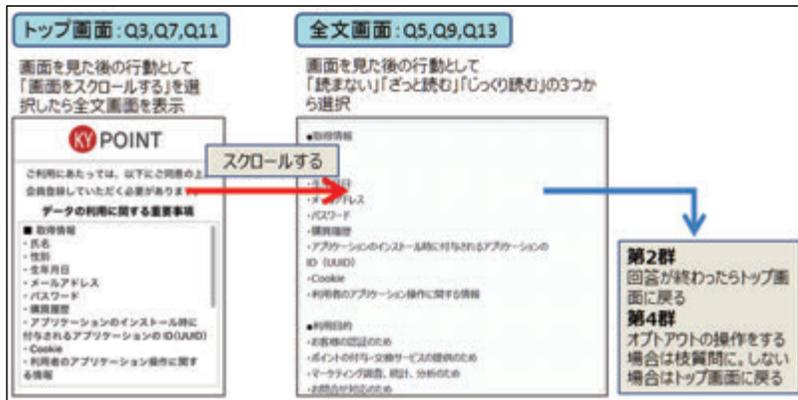


図 3.2.5 重要事項における画面遷移の詳細

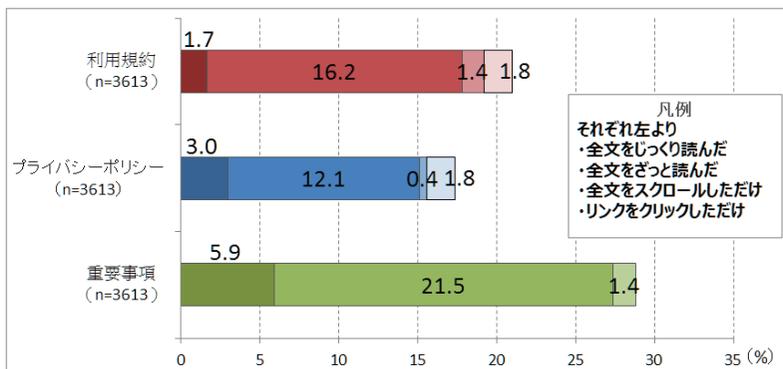


図 3.2.6 三つの規約類の確認割合

※分析対象は第2群と第4群 (n=3613)。統計的検定はせず。

三つの規約類について確認割合を集計したのが図 3.2.6 である。これを見ると、利用規約への接触率（何らかの確認行動をした人の割合）が合わせて 21.1%、プライバシーポリシーが同 17.3% だったのに対し、重要事項への接触率は 28.8% と他の二つに比べ高い値を示した。利用規約とプライバシーポリシーは中身を見るのに一度リンクをクリックしなければならないが、重要事項はトップ画面の時点ですでにスクロール画面が見えているため、回答者にとってアクセス性が良かったのではないかと考えられる。

利用規約やプライバシーポリシーへの接触率が重要事項よりも低いということは、第2群と第4群では重要事項だけを確認して残る二つを見なかった可能性が考えられる。重要事項が入ることにより規約類全体の確認状況にはどのような影響が及んでいるだろうか。

この点を実験群ごとの規約類への全体的な接触率で確認したのが図 3.2.7 (次頁) である。これを見ると、第2群と第4群では他の群と比べて規約類への接触率が高く、残差分析の結果も有意であった。全体への接触率と重要事項の接触率の差に鑑みると、重要事項に接触した上でさらに重要事項やプライバシーポリシーを確認した人も一定割合でいたこ

とがうかがえる。このことから、重要事項が単に他の規約類の代替になっているだけではなく、他の規約類を読むことへの呼び水にもなっていることが考えられる。

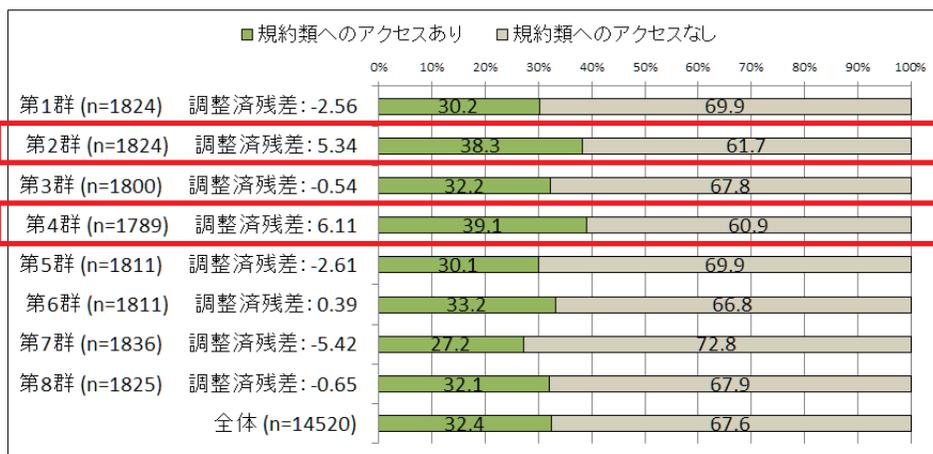


図 3.2.7 実験群ごとに見た規約類へのアクセスの有無

*** $p < .001$ (χ^2 乗検定)、 $V = .08$ 分析対象：各群の回答者全体

※「規約類へのアクセスあり」とは三つの規約類のいずれかへのアクセスがあったこと（クリックをする/画面スクロールする以上の行動をしたこと）を表す。逆に「なし」はトップ画面の表示を見る以上のアクションを起こさなかったことを示す。

他方で、確認度合と規約類への理解度の関係を見ると、重要事項には他の二つと比べてさほど顕著な差がないことも分かる。図 3.2.8 で三つの規約類を比較しても、重要事項をじっくり読んだことによる理解度は他の二つとほとんど差がなかった。

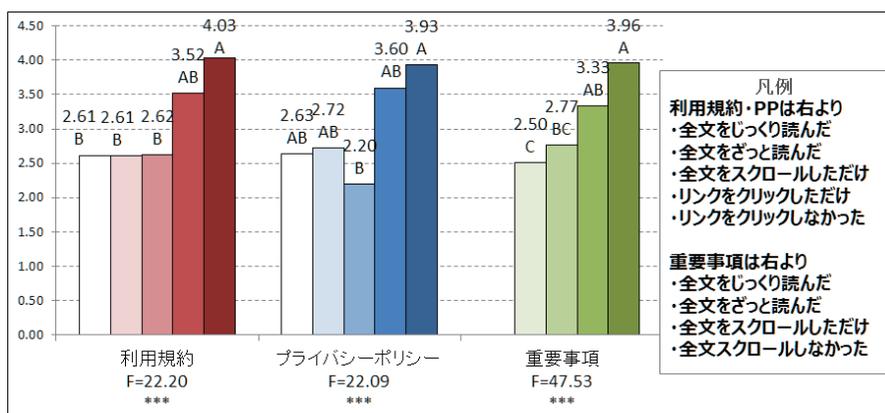


図 3.2.8 三つの規約類の確認度合ごとに見た、規約類への理解度

*** $p < .001$ 一般線形モデル (GLM) による分散分析 分析対象：第 4 群のみ (n=1789)

※アルファベット記号は Tukey 法による多重範囲検定の結果を示す

※理解度は理解度質問における正答数を表す。ただし第 4 群では重要事項だけを見た人では分からない一項目を除外した六項目に限って得点を分析した (最小 0 点～最大 6 点)。

※第 2 群は、重要事項だけを見た人では正確に答えづらい項目が多いため検討から除外した。

図 3.2.8 の結果を補足するため、群ごとの理解度比較も行った (図 3.2.9)。第 4 群は第 7 群や第 8 群に次いで高い理解度を示したが、重要事項が含まれる第 2 群の理解度は逆に下位グループに属しており⁸⁾、重要事項の存在が規約類への理解につながっているとは必ずしも言えないことがうかがわれた。また、同意/不同意への効果を見ても重要事項と他の二つの間でさほど顕著な違いは認められなかった (図 3.2.10)。

これらの結果から、重要事項は規約類への接触を広げることには成功しているが、必ずしも理解度や同意率の向上にはつながっていないと考えられる。

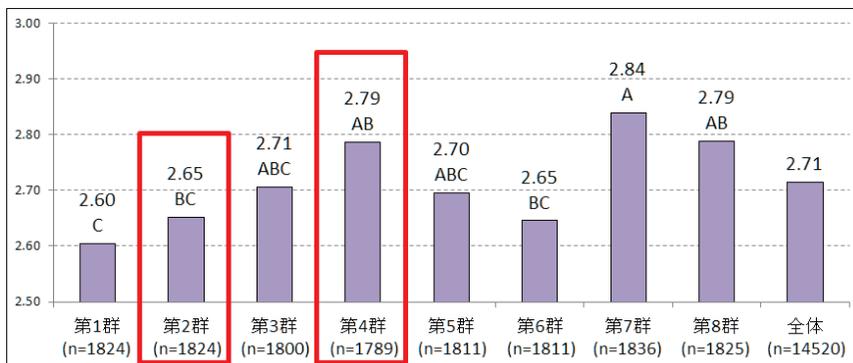


図 3.2.9 実験群ごとに見た、規約類への理解度

一般線形モデル (GLM) による分散分析 $F=4.42$ $p<.001$ 分析対象: 各群の回答者全体
 ※アルファベット記号は Tukey 法による多重範囲検定の結果を示す
 ※理解度は理解度質問における正答数を表す。ただし第 4 群において重要事項だけを見た人では分からない項目があるため、それを除外した六項目に限った得点で比較した (最小 0 点~最大 6 点)。

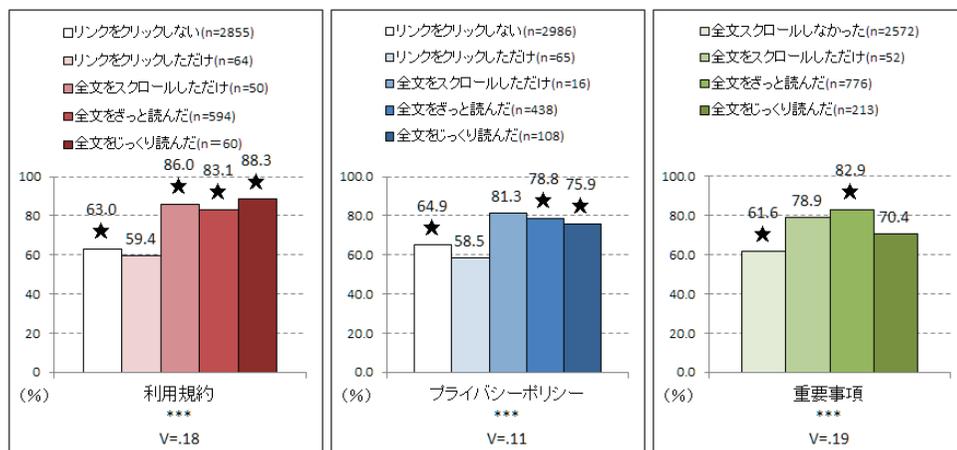


図 3.2.10 三つの規約類の確認度合ごとに見た、同意の割合

*** $p<.001$ (χ^2 乗検定)、★マークは残差分析において調整済残差が ± 1.96 以上あることを示す。

8) 図 3.2.8 でも注記したが、第 2 群の重要事項は内容が簡素であり、そこだけを見た人の中には理解度質問に正確に回答できなかった恐れがある。図 3.2.9 で示した第 2 群の数値にはそうした事情が反映されている可能性があるが、あくまで参考値として考えられたい。

3.3 態度や意識傾向と同意/不同意の関連

(1) 元々の利用意向 (Q1・Q2) との関連

本調査では Q1 と Q2 において実験質問に用いたアプリについて回答者の利用状況と利用意向を尋ねている。これを用いて「利用中 (既に同様のアプリを利用している)」「利用していないが利用してみたい」「利用しておらず利用してみたいとも思わない」の三カテゴリーに回答者を分類し、決定時点毎の分布を見たのが図 3.3.1 である。これを見ると「利用中」の割合はどの時点でもほぼ変わらないが、「非利用&利用意向高」の割合が後の時点ほど高まり、逆に「非利用&利用意向低」の割合は時点が後になるほど少なくなる。このことから、元々利用意向の低かった人は比較的早い時点で同意/不同意を決定し、わざわざ規約類を確認する労をとらなかったことがうかがわれる。



図 3.3.1 決定時点毎に見た元々の利用意向

$p < .001$ (χ^2 二乗検定)、 $V = .06$

図 3.3.2 (次頁) は、実験質問全体を通じての同意/不同意の構成比を利用意向毎にとったものである。これを見ると、「利用中」「非利用&利用意向高」の群では 70%強が同意したのに対し、「非利用&利用意向低」群では 44.2%しか同意していないことが分かる。つまり、結局のところは事前の利用意向によって同意/不同意が大きく左右されているということであろう。

本パート冒頭の図 3.1.3 では時点が後になるほど同意の割合が高まることを確認したが、これも図 3.3.1 と合わせて考えれば、回答時点毎における利用意向の高い人 (低い人) の割合の変化が同意/不同意に反映されたものとみることができよう。



図 3.3.2 利用意向毎に見た同意/不同意（全体通して）の割合

$p < .001$ (χ^2 二乗検定)、 $V = .23$

(2) 意識傾向との関連

次に回答者が元々持つ意識傾向を決定時点毎に比較した（図 3.3.3）。「プライバシー意識」は「ネット企業が個人情報を求めるとき、イライラすることが多い」「ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある」などネット上でのプライバシーに関する意識を表す。「認知的熟慮性/衝動性」は「何かを決めるとき、時間をかけて慎重に考える方だ」「すべての選択肢をよく検討しないと気が済まない方だ」など、物事の判

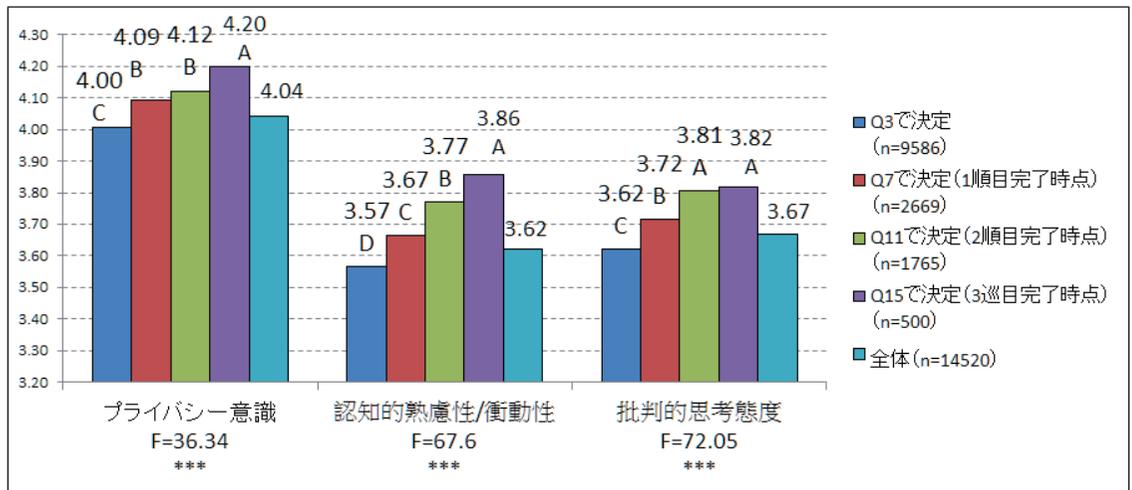


図 3.3.3 決定時点別に見た、回答者の意識傾向

一般線形モデル (GLM) による分散分析 $F = 36.34$ $p < .001$

※アルファベット記号は Tukey 法による多重範囲検定の結果を示す。

※数値は各意識傾向について得点化したものの平均値（いずれも最小 1 点～最大 5 点）。

断や決定をする際の慎重さを表す心理尺度、「批判的思考態度」は「道筋を建てて物事を考える」「物事を決めるときには客観的な態度を心がける」など批判的・論理的な思考についての態度を表す心理尺度である⁹⁾。これらを用いることで、回答者が同意/不同意の決定に関してプライバシー問題を意識したか、慎重に論理的に考えた上で決定したかを検討したものである。

図 3.3.3 の結果からは、決定時点が後になるほど三つの意識傾向の値が高まっていることが読み取れる。ここからは、プライバシー意識の高い人や慎重で論理的な性格の人ほど早い段階で即決せず、規約類を読んでから判断しようとしたことがうかがわれる。

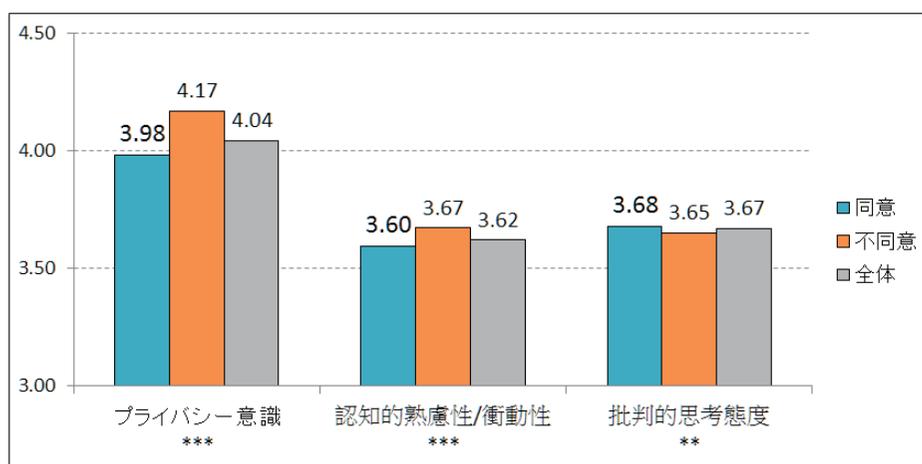


図 3.3.4 同意/不同意で見た、回答者の意識傾向

*** p<.001, ** p<.01 t検定による

※数値は各意識傾向について得点化したものの平均値（いずれも最小1点～最大5点）。

最終的な同意/不同意と意識傾向の関連はどうであろうか。図 3.3.4 では三つの意識傾向の平均値を全体通しての同意/不同意で比較したが、批判的思考態度を除けば同意よりも不同意の方で数値が高い結果が見られた。プライバシー意識の高い人や認知的熟慮性/衝動性の高い人においては、決定を慎重にした末に、最終的には不同意に傾く場合が多かったと考えられる。

(3) 同意/不同意の直接的な理由

本調査の Q16 では、利用規約に同意した人と同意しなかった人のそれぞれに対し、複数回答形式で同意した理由/同意しなかった理由を直接的に尋ねている。図 3.3.5 (次頁) が単純集計の結果だが、同意した人においては「サービスを利用したかったから」が最も高

⁹⁾ 意識傾向の出典、構成項目、一貫性（クロンバックの α ）については本パート末尾を参照のこと。

く、元々の利用意向とあわせてサービス内容が同意の主要な要因であったことがわかる。これに対し、同意しなかった人においては「個人情報はどう扱われるか不安だったから」の割合が最多で、個人情報の取扱いへの懸念が主だったと考えられる。

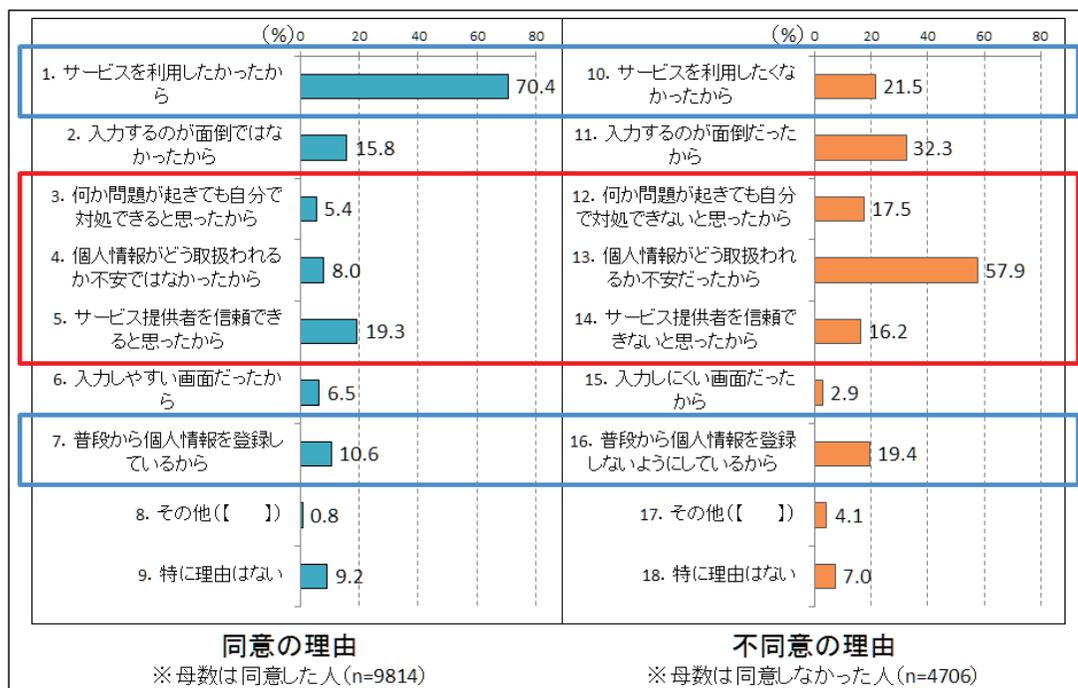


図 3.3.5 利用規約への同意/不同意それぞれの理由

この同意/不同意の理由が決定時点によって異なるのか、図 3.3.5 の枠で囲った項目に限定して比較した。

まず同意の理由について時点ごとの変化を見ると（表 3.3.1）、「サービス提供者を信頼できると思ったから」の割合が後の時点ほど高まっていた。このことは、規約類の情報を多く得るに従い、サービス提供者への信頼が決定要因としての比重を高めていくことになったものと解釈できるのではないだろうか。一方「普段から個人情報を登録しているから」は早い時点ほど高い。これは早期に同意した人ほど同意/不同意がルーチン的な行動になっていることを示していると思われる。

今度は不同意の理由について時点毎の変化を見よう（表 3.3.2）。「普段から個人情報を登録しないようにしているから」というルーチン的な回答者が早い時点ほど多いのは同意の場合と変わらないが、「何か問題が起きても自分で対処できないと思ったから」「サービス提供者を信頼できないと思ったから」の回答は後の時点ほど該当者が多い。不同意の人

においては、情報量が増すほどにサービス提供者が信頼できなくなったり、アプリの利用に対する不安が増していったりしたものと考えられる。

以上のように、同意/不同意によって方向性は異なるが、規約類の情報を得ることによってサービス提供者への信頼などに一定の変化が生じたことがうかがわれ、元々の利用意向や意識傾向もさることながら、規約類を読むことも同意/不同意の決定に一定の効果を及ぼした可能性があったと考えられる。

表 3.3.1 決定時点毎に見た、同意の理由

	サービスを利用し たかったから	何か問題が起き ても自分で対処 できると思ったか ら	個人情報はどう 取り扱われるか 不安ではなかつ たから	サービス提供者 を信頼できると 思ったから	普段から個人情 報を登録してい るから
Q3で決定 n=6014	68.5%	4.6%	8.1%	18.4%	12.5%
Q7で決定 n=1977	72.5%	6.0%	7.6%	19.9%	8.2%
Q11で決定 n=1404	75.5%	8.0%	7.9%	21.7%	7.3%
Q15で決定 n=419	70.9%	5.3%	7.9%	22.2%	6.0%
全体 n=9814	70.4%	5.4%	8.0%	19.3%	10.6%
χ ² 乗検定	*** V=.06	*** V=.05	n.s.	* V=.03	*** V=.08

※各項目について同意の理由として挙げた割合。母数は同意した人 (n=9814)

表 3.3.2 決定時点毎に見た、不同意の理由

	サービスを利用 したくなかつたか ら	何か問題が起 きても自分で 対処できない と思ったから	個人情報どう 取り扱われ るか不安だつ たから	サービス提供 者を信頼でき ないと思ったか ら	普段から個人 情報を登録し ないようにして いるから
Q3で決定 n=3572	19.9%	15.6%	58.5%	15.3%	20.9%
Q7で決定 n=692	25.1%	22.1%	57.2%	17.9%	15.5%
Q11で決定 n=361	30.5%	24.4%	53.5%	21.1%	13.6%
Q15で決定 n=81	23.5%	28.4%	59.3%	22.2%	12.4%
全体 n=4706	21.5%	17.5%	57.9%	16.2%	19.4%
χ ² 乗検定	*** V=.08	*** V=.09	n.s.	** V=.05	*** V=.07

※各項目について不同意の理由として挙げた割合。母数は同意しなかった人 (n=4706)

3.4 分析結果のまとめと考察

(1) 規約類を読むことは同意/不同意とどう関連しているか

一言で言えば両義的である。規約類（利用規約、プライバシーポリシー、重要事項）の全文にわずかでも触れた人は、たとえ全文画面を開けてみた程度の人でさえも、それ以前の段階でとどまった人より顕著に同意の割合が高い結果が見られた（図 3.2.4、図 3.2.10）。また、規約類の全文を「ざっと」または「じっくり」読んだ人は規約類への理解度も顕著に高い（図 3.2.3、図 3.2.8）。本調査だけでは因果関係を想定できないものの¹⁰⁾、これらの結果を合わせて考えると「規約類を読むことにより規約類への理解が促され、同意（＝アプリの利用開始）を促す効果があった」と想定するのは不可能ではないだろう。

だがその反面で、図 3.2.4 や図 3.2.10 を見た際に「じっくり読んだ」人の同意率が「ざっと読んだ」人よりもやや低い点には注意が必要である。たしかに規約類への理解度は「じっくり読んだ」人ほど高いことには違いない。しかし規約類をよく理解した結果、個人情報の取扱いへの懸念などを覚えて（図 3.3.5、表 3.3.2）不同意の方に傾いた人もいたであろうことを、この結果は示していると考えられる。

(2) 元々の態度や意識傾向は同意/不同意とどう関連しているか

既に同様のアプリを利用中か非利用でも利用意向の高い人は、全体を通して同意の割合が高く（図 3.3.2）、規約類を読んだ上で決定した人の割合も高かった（図 3.3.1）。

意識傾向ではプライバシー意識、認知的熟慮性/衝動性、批判的思考態度のいずれも後の時点で決定した人ほど高く（図 3.3.3）、「プライバシー意識が高い」「慎重に決断する」「論理的に考える」タイプほど、規約類の情報を見ながらじっくりと検討した跡がうかがわれた。ただしそうした人々は検討の結果必ずしも同意に傾くとは限らず、むしろ「プライバシー意識が高い」「慎重に決断する」人は不同意に傾く傾向が見られた（図 3.3.4）。

以上の結果からは、元々の利用意向が高い人は同意に傾きやすく、プライバシー意識が高い人や慎重な決断をする人は不同意に傾きやすいことが見て取れる。本パートでは多変量解析を行わなかったが、規約類への接触と元々の態度・意識傾向がどのように相互関連しながら同意/不同意と関わっているかは今後検討の必要があるだろう。

(3) どうしたら規約類を読んでもらえるか

本パートで検証した中では重要事項の特異な働きが注目された。規約類への理解度や同意率では利用規約やプライバシーポリシーとの差は認めがたかったが（図 3.2.8、図

¹⁰⁾ 本文とは別の方向性、すなわち「元々理解度の高い人が利用規約をよく読んだ」「規約類をよく読むような関心度の高い人ほど同意しやすかった」といった方向での関連も考えられる。

3.2.10)、重要事項がスクロール画面として表示されている第2群・第4群では規約類全体への接触率が他の群に比べて有意に高かった(図3.2.7)。スクロール画面で規約類の中身が少しでも見えていたことで利用者の関心が喚起され、重要事項以外にも含めた規約類にアクセスする呼び水となったのではないだろうか。

規約類は全文をざっと読んでもらえるだけでも理解度を高める効果が期待されることから(図3.2.3、図3.2.8)、中身への接触可能性が向上することは事業者にとって大きな意味を持つはずである。そのためにもどのような見せ方が呼び水となるか。重要事項のスクロール画面の見せ方は一つの示唆になるものと考えられよう。

<本パートの意識傾向に関する資料>

1) プライバシー意識 (Q43, Q44)

- ・ 出典 Malhotra, N.K., Kim, S.S., & Agarwal, J. (2004) 'Internet User's Information Privacy Concerns (IUIPC): The Construct, the Scale, and a Causal Model', Information System Research, 15(4), 336-355. ※項目文の邦訳は本研究グループによる。
- ・ 項目 6項目
 - ▶ ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い
 - ▶ ネット企業に自分の情報を渡さないといけないうとき、ためらうことがある
 - ▶ ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる
 - ▶ ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う
 - ▶ 個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う
 - ▶ 自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う
- ・ 調整済 α 係数 = .77

2) 認知的熟慮性/衝動性 (Q45)

- ・ 出典 滝間一嘉、坂元章 (1991) 「認知的熟慮性—衝動性尺度の作成—信頼性と妥当性の検討」, 日本グループダイナミクス学会第39回大会発表論文集, 39-40.
- ・ 項目 3項目
 - ▶ 何かを決めるとき、時間をかけて慎重に考えるほうだ
 - ▶ すべての選択肢をよく検討しないと気が済まない方だ
 - ▶ 用心深い方だ
- ・ 調整済 α 係数 = .69

3) 批判的思考態度 (Q46)

- ・ 出典 平山るみ、楠見孝 (2004) 「批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響—証拠評価と結論生成課題を用いての検討—」, 教育心理学研究, 52, 186-198.
- ・ 項目 7項目
 - ▶ 一筋縄ではいかないような難しい問題に対しても取り組みつづけることができる
 - ▶ 道筋を立てて物事を考える
 - ▶ いつも偏りのない判断をしようとする
 - ▶ 物事を決めるときには、客観的な態度を心がける
 - ▶ 一つ二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする
 - ▶ 結論をくだす場合には、確たる証拠の有無にこだわる
 - ▶ 判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる
- ・ 調整済 α 係数 = .83

4. ネット企業の情報管理に関する考え方とプライバシー意識、第三者提供の停止

4.1 ネット企業の情報管理に関する考え方(Q43((7)~(9))

ネット企業が、自分自身の個人情報はどう扱っているのかに対して、どのような意識を持っているのかを質問した回答比率分布を属性別に示したのが表4.1.1、表4.1.2である。

なお、質問票では、回答は「1.あてはまる」「2.ややあてはまる」「3.どちらともいえない」「4.あまりあてはまらない」「5.あてはまらない」の5択であるが、この節の分析では「1.あてはまる」「2.ややあてはまる」を合わせて「あてはまる」、その他を（「どちらともいえない」も含めた）「それ以外」の2値に変換した。表中の値は「あてはまる」と答えた人の比率である。

表 4.1.1 性別、年齢層別にみた「ネット企業の情報管理に関する考え方」（該当率）

	全体	男性	女性		20代	30代	40代	50代	60代		N(全体)
ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い	55.6%	51.9%	58.9%	***	53.1%	56.5%	56.2%	57.0%	55.0%	*	14520
ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある	77.8%	72.3%	82.9%	***	72.7%	76.9%	78.6%	80.9%	79.9%	***	14520
ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる	73.7%	68.4%	78.7%	***	67.6%	72.3%	74.2%	76.7%	77.5%	***	14520

※表 4.1.1、表 4.1.2 の数値は「あてはまる（「あてはまる」+「ややあてはまる」）」と答えた人の割合。
 アスタリスクは、各属性（性別、年齢層、世帯年収、学歴）×各回答 [あてはまる／それ以外] のクロス集計の χ^2 検定結果
 ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001
 残差分析の結果 5%水準（両側検定）で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.1.2 世帯年収、学歴別にみた「ネット企業の情報管理に関する考え方」（該当率）

	200万未満	200-400万未満	400-600万未満	600-800万未満	800-1000万未満	1000万以上		中学・高校卒	専門・短大卒	大卒以上	
ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い	52.2%	53.0%	53.9%	55.9%	52.2%	58.1%	**	52.4%	55.3%	57.4%	***
ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある	76.1%	75.5%	76.4%	76.6%	76.1%	77.5%	ns	77.3%	80.6%	76.4%	***
ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる	73.0%	70.6%	72.6%	72.6%	72.6%	74.7%	ns	73.1%	76.4%	72.5%	***

まず、調査対象者全体では「ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い」に対し、半数強の 55.6%が「あてはまる」と答えている。「ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある」は全体の 77.8%、「ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる」は全体の 73.7%が「あてはまる」と回答した。やはり、企業に自分の情報を渡すことには多くの人が躊躇を覚え、また第三者への提供を不快に感じているようだ。

これを男女別に見ると、いずれの項目も女性の方が「あてはまる」の回答比率が高い（いずれも危険率 0.01%未満で有意差）。

年齢層別に見れば、20代において「あてはまる」の比率が低く、50代・60代で該当率が高くなっている。

世帯年収別に見れば、「ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある」と「ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる」において世帯年収1000万以上の人が有意に高比率で「あてはまる」と答えている。

学歴別に見れば、各項目で異なった傾向が見られ、「ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある」は中高卒で該当率が低く、大卒以上で該当率が高い。一方、「ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある」と「ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる」は「専門・短大卒」において該当率が高く、大卒以上において低い。これは専門・短大卒に女性が多く、大卒以上に男性が多いことも反映していると思われる。

4.2 プライバシー意識 (Q44)

「プライバシー」とはどのようなものか、ネット企業の個人情報収集の透明性に対する考え方、個人情報の扱い方に関する認識、個人情報と政府との関連を質問した結果の属性別回答分布を示したのが表4.2.1、表4.2.2である。

なお、質問票では、回答は「1. そう思う」「2. ややそう思う」「3. どちらともいえない」「4. あまりそう思わない」「5. そう思わない」の5択であるが、この節の分析では「1. そう思う」「2. ややそう思う」を合わせて「そう思う」、その他を（「どちらともいえない」も含めた）「それ以外」の2値に変換した。表中の値は「そう思う」と答えた人の比率である。

「ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う（以降、「自己コントロール」と呼ぶ）」については調査対象者全体の69.8%が「そう思う」と答えた。

「個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う（以降、「透明性」と呼ぶ）」については調査対象者全体の88.0%が「そう思う」と答えた。

「自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う（以降、「自己把握」と呼ぶ）」については調査対象者全体の87.6%が「そう思う」と答えた。

表 4.2.1 性別、年齢層別にみたプライバシー意識(該当率)

	全体	男性	女性		20代	30代	40代	50代	60代		N(全体)
ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う	69.8%	70.5%	69.1%	ns	69.8%	66.6%	67.7%	70.3%	74.3%	***	14520
個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う	88.0%	86.1%	89.9%	***	85.5%	86.2%	87.7%	89.5%	91.1%	***	14520
自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う	87.6%	84.3%	90.7%	***	83.2%	85.4%	88.1%	89.6%	91.5%	***	14520
ネット企業に集められた自分の個人情報は、政府に常時監視されていると思う	37.1%	38.9%	35.5%	***	35.3%	34.2%	37.2%	37.6%	41.0%	***	14520

※表 4.2.1、表 4.2.2 の数値は「そう思う（「そう思う」＋「ややそう思う」）」と答えた人の割合。
 アスタリスクは、各属性(性別、年齢層、世帯年収、学歴)×各回答[「そう思う／それ以外」]のクロス集計の χ^2 検定結果
 ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001
 残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.2.2 世帯年収、学歴別にみたプライバシー意識(該当率)

	200万未満	200-400万未満	400-600万未満	600-800万未満	800-1000万未満	1000万以上		中学・高校卒	専門・短大卒	大卒以上	
ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う	69.6%	67.4%	70.5%	71.0%	72.8%	75.4%	***	65.4%	69.4%	73.2%	***
個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う	86.6%	87.0%	87.9%	88.6%	88.4%	88.9%	ns	86.6%	88.3%	88.9%	**
自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う	87.4%	86.6%	86.9%	87.0%	87.2%	88.4%	ns	87.0%	89.2%	87.0%	**
ネット企業に集められた自分の個人情報は、政府に常時監視されていると思う	37.6%	37.6%	36.5%	37.1%	39.8%	38.5%	ns	35.3%	35.6%	39.1%	***

「ネット企業に集められた自分の個人情報は、政府に常時監視されていると思う(以降、「政府監視」と呼ぶ)」についてはさすがに比率が低く調査対象者全体の37.1%が「そう思う」と答えた。

これらを男女別に見ると「自己コントロール」では有意差がなく、「透明性」「自己把握」については女性の方が男性より「そう思う」という比率が有意に高かった。「政府監視」については、女性より男性において有意に比率が高かった。

年齢層別に見れば、いずれの項目も有意差があり、概して低年齢では「そう思う」比率が低く、50代60代では比率が高かった。

世帯年収別では、「自己コントロール」では有意差があり、とくに1000万以上の人が「そう思う」という比率が高かった。その他はいずれの項目も有意差は見られなかった。

学歴別では、「自己コントロール」「透明性」「政府監視」で大卒以上に「そう思う」比率が高く、「中学・高校卒では比率が低かった。「自己把握」では専門・短大卒に「そう思う」という人の比率が高かった。

5.3 第三者への情報提供の停止

今回の実験的調査では、途中、回答者に「お客様の購買履歴のデータは、企業、公的機関、研究機関等の第三者へ提供することがございます。第三者へのデータの提供を停止したい方は、以下のリンクより停止できます」という説明を与えている。回答中、人によってはそのような選択場面が複数回登場するが、(途中でのオンオフの切り替えは問わず)最終的にオフにした人がどの程度いるかを分析した。なお分析の母数は「第三者提供停止の画面を表示した人のみ(N=1375)」に限定している。

表 4.3.1、4.3.2 は属性別に見て、どの程度の割合の人が最終的にオフにしたかを示したものである。

表 4.3.1 性別、年齢層別にみた第三者提供の諾否 (オフにした人の比率)

	全体	男性	女性		20代	30代	40代	50代	60代		N(全体)
(最終的に) 第三者提供をオフにした人の比率	85.7%	81.8%	89.3%	***	85.9%	83.9%	88.7%	84.9%	85.3%	ns	1375

※表 4.3.1、表 4.3.2 の数値は最終的にオフにした人の割合。

アスタリスクは、各属性(性別、年齢層、世帯年収、学歴)×各回答 [オフにした/オフにしなかった] のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定) で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.3.2 世帯年収、学歴別にみた第三者提供の諾否 (オフにした人の比率)

	200万未満	200-400万未満	400-600万未満	600-800万未満	800-1000万未満	1000万以上		中学・高校卒	専門・短大卒	大卒以上	
(最終的に) 第三者提供をオフにした人の比率	89.6%	80.7%	87.3%	87.1%	83.3%	82.9%	ns	82.4%	87.6%	86.0%	ns

調査対象者全体では 85.7% の人が最終的に第三者提供を停止している。

男女別に見れば、女性の方が男性より停止した人の比率が有意に高い。年齢層別では有意な差は示されなかった。

世帯年収別、学歴別でも有意な差は見られなかった。

表 4.3.3 は Q43(7)―(9) で質問した「ネット企業の情報管理に関する考え方」に対する回答(「あてはまる」/「それ以外」)別に、第三者提供を停止した人の比率を比較したものである。

「ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い」に対し「あてはまる」と答えた人の方が、「ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある」に対し「あてはまる」と答えた人の方が、「ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる」に対し「あてはまる」と答えた人の方が、いずれも「それ以外(あてはまらない)」と答えた人より有意に第三者提供を停止すると答えた比率が高い。やはり、企業の情報管理に敏感な人の方

が、第三者提供を懸念するのであろう。

表 4.3.3 「ネット企業の情報管理に関する考え方」別にみた第三者提供の諾否（オフにした人の比率）

	ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い		ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある		ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる	
(最終的に) 第三者提供をオフにした人の比率	該当	89.6%***	該当	87.4%***	該当	88.6%***
	非該当	79.2%	非該当	75.1%	非該当	70.8%

※表 4.3.3 の数値は最終的にオフにした人の割合。
 アスタリスクは、企業の情報管理に関する考え方の質問の回答[あてはまる／それ以外]×[オフにした／オフにしなかった]のクロス集計の χ^2 検定結果
 ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

表 4.3.4 プライバシー意識別にみた第三者提供の諾否（オフにした人の比率）

	ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う		個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う		自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う		ネット企業に集められた自分の個人情報は、政府に常時監視されていると思う	
(最終的に) 第三者提供をオフにした人の比率	該当	85.7% ns	該当	86.6%***	該当	86.3%*	該当	87.1% ns
	非該当	85.9%	非該当	74.5%	非該当	75.9%	非該当	84.9%

※表 4.3.4 の数値は最終的にオフにした人の割合。
 アスタリスクは、プライバシー意識に関する質問の回答[そう思う／それ以外]×[オフにした／オフにしなかった]のクロス集計の χ^2 検定結果
 ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

表 4.3.4 は Q44 で質問したプライバシー意識に対する回答（「そう思う」／「それ以外」）別に、第三者提供を停止した人の比率を比較したものである。

「ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う（「自己コントロール」）」については「そう思う」と答えた人と「それ以外」の人では第三者提供の停止について有意な差は見られなかった。

「個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う（「透明性」）」については、「そう思う」と答えた人の方が第三者提供を停止する人の比率が有意に高かった。

「自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う（「自己把握」）」については「そう思う」と答えた人が「それ以外」より、有意に停止する人の比率が高かった。

「ネット企業に集められた自分の個人情報は、政府に常時監視されていると思う（「政府監視」）」については停止する人の比率に有意差は見られなかった。

概してプライバシー意識に敏感な人ほど第三者提供を停止する比率が高くなる傾向が見られる。

5. 個人情報の取扱いに対するユーザーの問合せ・苦情・ネット書き込み行動

本章では、個人情報の取扱いに対するユーザーの反応として、能動的かつ社会的な影響力を持ち得る「問合せ、苦情、ネット書き込み」といった行動に焦点を当て、分析を行なう。

5.1 個人情報の取扱いに対する行動傾向 (Q47)

(1) 属性別にみた個人情報の取扱いに対する行動傾向

表 5.1.1 は、普段、個人情報の取扱いに対してどのような行動をどのくらいの頻度で行っているかについて質問した結果を性別、年齢層別、職業別に示したものである。回答の選択肢は「1. よくある」「2. ときどきある」「3. あまりない」「4. ほとんどない」の4件法であったが、ここでは「1. よくある」「2. ときどきある」を「ある」、「3. あまりない」「4. ほとんどない」を「ない」の2値に変換して分析した。表 5.1.1 は、個人情報の取扱いに対する各行動について「ある」（「1. よくある」「2. ときどきある」と回答）の比率を記載している。

表 5.1.1 個人情報の取扱いに対する行動

	n	自分の個人情報の取扱いを理由に、はじめからサービスを利用しないでおく		自分の個人情報の取扱いを理由に、あとからサービスの利用をとりやめる		自分の個人情報を第三者に提供しないようサービス提供者に申請をする		自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に問合せを行う		サービスにおける個人情報の取扱いについて、SNSや掲示板等で話題にする		自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に苦情を言う	
		該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定
全体	14520	57.0%		36.3%		13.7%		11.7%		9.0%		7.5%	
男性	6978	53.2%	***	35.7%	n. s	16.3%	***	14.7%	***	12.0%	***	10.2%	***
女性	7542	60.5%		36.9%		11.3%		8.8%		6.3%		5.1%	
20代	2773	60.9%	***	38.7%	***	17.9%	***	16.9%	***	15.7%	***	10.2%	***
30代	2908	55.0%		37.9%		14.0%		12.1%		10.4%		8.1%	
40代	2906	58.7%		37.3%		12.7%		11.1%		8.4%		7.5%	
50代	2963	60.9%		34.9%		11.9%		9.0%		6.1%		5.7%	
60代	2970	59.0%		33.1%		12.2%		9.4%		5.2%		6.4%	
会社員・公務員	6806	53.6%	***	36.3%	n. s	15.2%	***	13.8%	***	11.2%	***	9.2%	***
役員・自営業・自由業	1025	61.4%		37.9%		15.7%		12.0%		10.6%		8.8%	
専業主婦/主夫	2778	62.7%		36.0%		10.5%		7.8%		4.8%		4.1%	
パート・アルバイト	2255	57.6%		36.5%		11.3%		9.0%		6.5%		5.7%	
学生・無職・その他	1656	57.5%		35.6%		15.1%		12.7%		9.9%		8.1%	

※ χ^2 検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n. s 有意差なし

※残差分析（5%水準）の結果、有意に高いものを黒太字、有意に低いものを赤太字で表示。

まず、調査対象者全体では「自分の個人情報の取扱いを理由に、はじめからサービスを利用しないでおく」（以降、「はじめからサービスを利用しない」と呼ぶ）が57.0%と最も該当率が高く、次に「自分の個人情報の取扱いを理由に、あとからサービスの利用をとりやめる」（36.3%）と続いた。比較的負荷がかからず、能動的ではない行動が多いといえる。

一方で、比較的負荷が高く、能動的な行動である「自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に問合せを行う」（以降、「問合せ」と呼ぶ）は全体で 11.7%、「サービスにおける個人情報の取扱いについて、SNS や掲示板等で話題にする」（以降、「ネット書き込み」と呼ぶ）は 9.0%、「自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に苦情を言う」（以降、「苦情」と呼ぶ）は 7.5%と該当率が低かった。

属性別でみると、「はじめからサービスを利用しない」については性別では女性、年齢層別では 50 代・60 代の該当率が高く、職業別では専業主婦／主夫の該当率が最も高かった。他方、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」に加え、同様に能動的な行動である「自分の個人情報を第三者に提供しないようサービス提供者に申請をする」に関しては、性別では男性、年齢層別では 20 代、職業別では会社員・公務員の該当率が高い傾向がみられた。

(2) 個人情報の取扱いに対する行動と心理傾向

次に、普段接する個人情報の取扱いに対する行動傾向に関して、属性以外の特徴を検討するため、心理傾向との関係を確認した（表 5.1.2）。

表 5.1.2 個人情報の取扱いに対する行動傾向と各種心理傾向

	自分の個人情報の取扱いを理由に、はじめからサービスを利用しないで おく			自分の個人情報の取扱いを理由に、あとからサービスの利用をとりやめる			自分の個人情報を第三者に提供しないようサービス提供者に申請をする		
	ある (n=8270)	ない (n=6250)	検定	ある (n=5274)	ない (n=9246)	検定	ある (n=1990)	ない (n=12530)	検定
自尊感情	3.186	3.126	***	3.173	3.152	n. s	3.241	3.147	***
認知的熟慮性—衝動性	3.718	3.490	***	3.738	3.552	***	3.805	3.590	***
情動調整	3.356	3.265	***	3.356	3.294	***	3.498	3.288	***
言語的攻撃性	3.230	3.114	***	3.289	3.118	***	3.441	3.139	***
批判的思考態度	3.724	3.594	***	3.755	3.619	***	3.836	3.642	***
プライバシー意識	4.220	3.805	***	4.240	3.928	***	4.166	4.022	***
	自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に問合せを行う			サービスにおける個人情報の取扱いについて、SNS や掲示板等で話題にする			自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に苦情を言う		
	ある (n=1692)	ない (n=12828)	検定	ある (n=1314)	ない (n=13206)	検定	ある (n=1094)	ない (n=13426)	検定
自尊感情	3.227	3.151	***	3.232	3.153	***	3.267	3.151	***
認知的熟慮性—衝動性	3.791	3.597	***	3.755	3.606	***	3.785	3.606	***
情動調整	3.515	3.290	***	3.557	3.293	***	3.551	3.297	***
言語的攻撃性	3.535	3.133	***	3.495	3.149	***	3.590	3.147	***
批判的思考態度	3.831	3.647	***	3.786	3.657	***	3.824	3.656	***
プライバシー意識	4.031	4.043	n. s	3.997	4.046	*	4.024	4.043	n. s

※t 検定結果 *** p<0.001, * p<0.05, n. s 有意差なし

心理傾向に関しては、自尊感情、認知的熟慮性／衝動性、情動調整因子、言語的攻撃性、批判的思考態度、プライバシー意識を使用した。自尊感情は自分自身で自己を評価する（「こ

れでよい (good enough)」と感じる) 程度、認知的熟慮性／衝動性は意思決定や判断の際の慎重さ、情動調整因子は自分の気持ちをコントロールする程度、言語的攻撃性は言語的な攻撃反応、批判的思考態度は物事に対して分析的に思考する態度、プライバシー意識はネット上での個人情報の扱いに関する意識、について示す心理尺度である。

分析にあたっては、各心理尺度の下位項目の回答 (5 件法) について「あてはまる」を 5 ポイント、「ややあてはまる」を 4 点、「どちらでもない」を 3 ポイント、「あまりあてはまらない」を 2 ポイント、「まったくあてはまらない」を 1 ポイントとし、その合計変数 (平均値) を作成して使用した¹¹。表 5.1.2 は個人情報の取扱いに対する各行動について「ある」(「1. よくある」「2. ときどきある」選択者) と「ない」(「3. あまりない」「4. ほとんどない」選択者) 別に各心理尺度のポイントと t 検定結果を示したものである。

まず、プライバシー意識以外の 5 つの心理尺度に関しては、概ね各種行動項目の行動頻度が高い人 (「ある」該当者) の方が行動頻度が低い人 (「ない」該当者) よりも有意にポイントが高い傾向がみられた。これは、表に記載の各種行動を普段行っている人の方が自尊心が高く、行動の際に熟慮し、感情をコントロールでき、自分の意見・権利をはっきり主張し、物事に対して分析的に思考・判断する傾向があることを示唆している。

プライバシー意識については、「はじめからサービスを利用しないでおく」、「あとからサービスの利用をとりやめる」、「自分の個人情報を第三者に提供しないよう申請する」の行動頻度が高い人 (「ある」該当者) が有意にポイントが高かった。プライバシー意識尺度は、そのポイントが高いほど企業が個人情報を収集することに対する不快感や個人情報の使われ方に対する関心が強いことを示しているため、「はじめからサービスを利用しないでおく」等の行動は、個人情報に関する意識が高いが故の、リスク回避の行動だと推測できる。反対に、「ネット書き込み」に関しては、行動頻度が低い人 (「ない」該当者) の方がプライバシー意識のポイントが有意に高かった。「ネット書き込み」という行動は、個人情報の扱いに関する高い関心に裏付けられているわけではないということである。「問合せ」、「苦情」に関しては、有意差はみられなかった。

5.2 問合せ・苦情・ネット書き込み行動の状況 (Q29、Q34)

今回の実験的調査では、架空サービスの利用規約への同意・不同意に関する一連の流れの中で、同意・不同意の決定後、個人情報の使途を公表した上で (図 5.2.1 の Q34 設問文を参照)、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を含むどのような行動をとるかを確認した (Q34)。つまり、5.1 で取り上げた Q47 の設問では個人情報の扱いに関して普段どのような行動をしているのかを確認したのだが、Q34 の設問では個人情報が第三者に提供され

¹¹ 各心理傾向の出典及び本章の分析で使用した下位項目、合成変数作成時の α 係数は章末の参考資料を参照されたい。

る可能性があると思った時に実際にどのような行動をとるのかについて確認することになる。なお、Q34 の設問の回答選択肢としては「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」以外にも 6 つの選択肢項目があり¹²、回答者はこれらの選択肢に対して複数回答可で、該当項目を選択している。

また、個人情報の使途を公表する前の同意・不同意の決定前のタイミングでも「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」をするかを質問している（「Q29「KY ポイント」／「なびなび」アプリをインストールしてから会員登録をするかしないか決めるまでの間、どのようなことをすると思いますか」。つまり、個人情報の使途に関する情報提供の前（Q29）と後（Q34）で「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を行うかを問い、その件数や内容¹³に相違があるかを確認できる。

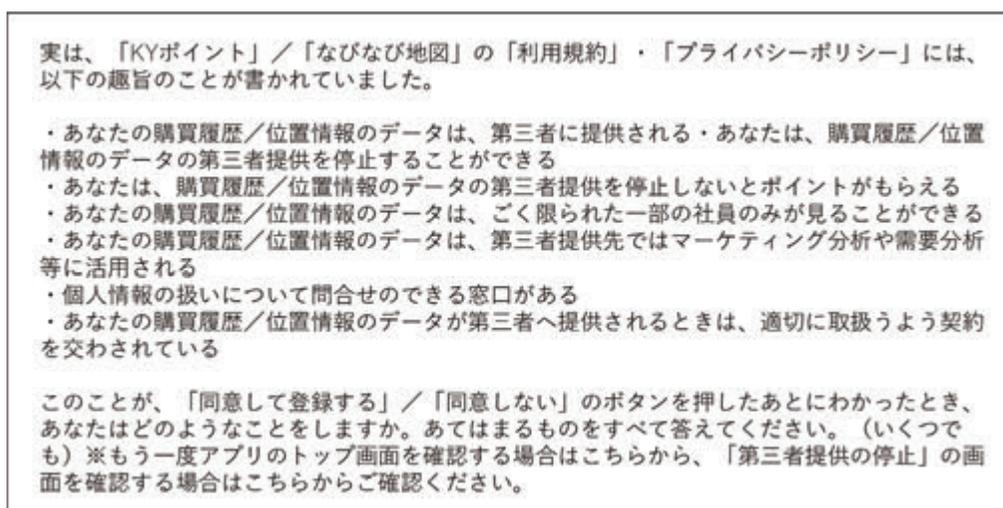


図 5.2.1 Q34 設問文

図 5.2.2 は、個人情報の使途を公表する前と後それぞれの「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を行う比率を比較したものである。情報提供後の棒グラフは積上げ式になっているが、これは実験的調査の利用規約への同意・不同意に関する一連のプロセスの中で「利用規約に同意し、加えて第三者提供をオフ（停止）にした」回答者（図中で「同意&第三者提供をオフ」と表記）、「利用規約に同意し、加えて第三者提供をオン（提供する）にした、もしくは途中で選択した回答により第三者提供オン・オフの選択画面が表示されなかった」

¹² 「アプリの評判を調べる」、「サービス提供者の評判を調べる」、「登録した個人情報を変更する」、「サービスの利用をやめる」、「第三者提供を許可する」、「あてはまるものはない」の 6 項目。

¹³ 情報提供の前（Q29）・後（Q34）で、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を選択した回答者は具体的な「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」内容を回答する設問（自由記述式）設けている。

回答者（図中で「同意&第三者提供オン・表示されない」と表記）、「利用規約に不同意」（図中で「不同意」と表記）の回答者それぞれの比率を内訳として示している。

図が示す通り、情報提供後の「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」のいずれの行動においても、「同意&第三者提供オン・表示されない」の比率が高かった。これは、利用規約に同意し、第三者に情報を提供すると選択したことにより個人情報がさらされるリスクが高い状況に置かれたことから、不安感やサービス提供者に対する不信感などによって「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」という行動に至ったのだと推測できる。

また、「問合せ」と「ネット書き込み」に関しては情報提供前の方が該当率が高く、「苦情」に関しては情報提供後の方が該当率が高かった。「問合せ」と「ネット書き込み」が情報提供前に多かった要因の一つとして、個人情報の使途に関する情報の提供後の Q34 では、状況的に個人情報の扱いに関する「問合せ」、「ネット書き込み」を連想すると考えられるが¹⁴、情報提供前の Q29 の設問文においては「アプリをインストールしてから会員登録をするかしないか決めるまでの間にどのような行動をとるか」を聞いているため、個人情報の扱いに限らない幅広い内容の「問合せ」、「ネット書き込み」が連想されたのだと推測できる。実際、「問合せ」の具体的内容を問う Q30（自由記述）には、「個人情報をどのような遵守してくれるのか、漏洩があったらどのように責任をとるのか」といった個人情報に関する内容があった一方で、「ポイントの利用できる店舗」、「料金が発生するか」等の個人情報以外での問合せ内容も多数みられた。「ネット書き込み」に関しても同様に、「使い勝手」、「ポイントの取得のしやすさ」等の自由記述回答(Q32)が多数あった。

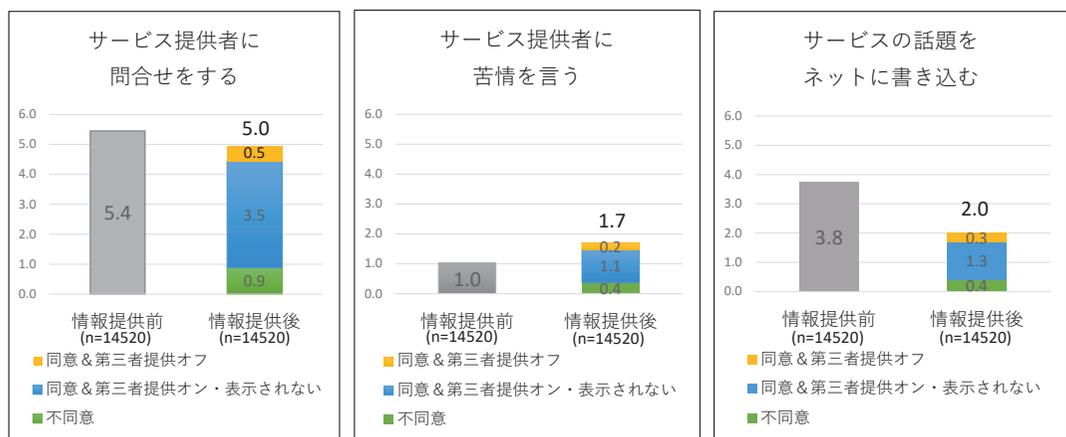


図 5.2.2 情報提供前後に問合せ・苦情・ネット書き込みを行う比率

¹⁴ といえ、具体的内容についての自由記述回答をみると、実際には個人情報の扱い以外の内容も含まれていた。

5.3 問合せ・苦情・ネット書き込み行動高頻度ユーザーの特徴 (Q29、Q34)

(1) 問合せ・苦情・ネット書き込み行動の頻度

5.2 においては、個人情報の使途を公表する前と後それぞれの「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を行う比率を比較したが、情報提供前・後両方共「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を行った回答者（高頻度ユーザー）もいたのだろうか。

表 5.3.1 は、調査対象者全体で、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を情報提供前 1 回のみした人、情報提供後 1 回のみした人、前・後両方の計 2 回した人、前・後両方共しなかった人に分けて、その比率を示したものである。結果として、「問合せ」を前・後両方共した人は全体の 1.3%（186 人）、「苦情」を前・後両方共した人は全体の 0.3%（38 人）、「ネット書き込み」を前・後両方共した人は全体の 0.7%（95 人）であった。労力のかかる行動を何度も行うユーザーが少数ではあるが存在することが示された。

表 5.3.1 各行動の頻度（対象者全体）

	サービス提供者に問合せをする	サービス提供者に苦情を言う	サービスの話題をネットに書き込む
情報提供前のみした	4.2%	0.8%	3.1%
情報提供後のみした	3.7%	1.4%	1.4%
前後両方共した	1.3%	0.3%	0.7%
前後両方共しなかった	90.9%	97.5%	94.9%

表 5.3.2 各行動の頻度（行動傾向がある人）

	サービス提供者に問合せをする (n=1692)	サービス提供者に苦情を言う (n=1094)	SNSや掲示板等で話題にする (n=1314)
情報提供前のみした	14.8%	4.7%	10.5%
情報提供後のみした	9.2%	6.5%	5.4%
前後両方共した	6.1%	2.2%	4.6%
前後両方共しなかった	69.9%	86.7%	79.5%

※分析母数は対象者全体 (n=14520)

※分析母数は Q47 で各行動について「1. よくある」「2. ときどきある」と回答した人

表 5.3.1 は、分析母数を調査対象者全体としており、すなわち、今回の実験的調査という状況の中で実際に「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動をした人を検討したものであった。では、本章 5.1 で確認した、普段個人情報の取扱いに対して「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動をしている人（各行動について「ある」に該当した人）は、どの程度今回の実験的調査内でも実際に各行動をしていたのだろうか。

表 5.3.2 は、一般的な個人情報の取扱いに対して普段「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」をする人を分析母数とし、本実験的調査内で各行動を情報提供前 1 回のみした人、情報提供後 1 回のみした人、前・後両方の計 2 回した人、前・後両方共しなかった人に分け、その比率を示している。まず、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」それぞれで「前後両方共しなかった」人が 7~8 割を占めていることから、普段はこれらの行動をしていた（と認識していた）ものの、今回の実験的調査の状況では実際に各行動には至らなかったということがわかる。これは、個人情報を取扱う企業や利用するサービス内容などによっても「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動をするか否かは異なるということが理由の一つとして考えられるだろう。

また、「問合せ」を前・後両方とも行った回答者は全体 (n=1692) の 6.1% (103 人)、「苦情」を前・後両方とも行った回答者は全体 (n=1094) の 2.2% (24 人)、「ネット書き込み」を前・後両方とも行った回答者は全体 (n=1314) の 4.6% (61 人) であった。これらの回答者は、普段個人情報の取扱いに対して「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を行い(行っていると認識し)、なおかつ今回の実験的調査でも実際に「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を情報提供前後の計 2 回行った回答者ということになる。

(2) 問合せ・苦情・ネット書き込み行動高頻度ユーザーの属性

ここでは、今回の「KY ポイント」、「なびなび」アプリという架空サービスを使用した実験的調査の状況の中で「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」を情報提供前後の計 2 回行っていた少数派(表 5.3.1 の赤枠内。以降、「高頻度ユーザー」と呼ぶ)¹⁵に対象を限定し、その特徴を確認することとする。

表 5.3.3 は、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動の高頻度ユーザーについて属性別に示したものである。性別では、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」のいずれにおいても男性の該当率が有意に高かった。年齢層別では、「苦情」、「ネット書き込み」において 20 代が有意に該当率が高く、「問合せ」は有意差が見られなかった。

表 5.3.3 問合せ・苦情・ネット書き込み行動高頻度ユーザーの属性

	n	サービス提供者 に問合せをする		サービス提供者 に苦情を言う		サービスの話題 をネットに 書き込む	
		該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定
全体	14520	1.3%		0.3%		0.7%	
男性	6978	1.9%	***	0.4%	***	0.9%	***
女性	7542	0.7%		0.1%		0.4%	
20代	2773	1.6%	n. s	0.7%	***	1.0%	*
30代	2908	1.3%		0.2%		0.8%	
40代	2906	1.2%		0.2%		0.7%	
50代	2963	0.9%		0.2%		0.5%	
60代	2970	1.5%		0.1%		0.3%	
会社員・公務員	6806	1.6%	***	0.4%	n. s	0.8%	***
役員・自営業・自由業	1025	1.8%		0.4%		1.4%	
専業主婦/主夫	2778	0.7%		0.1%		0.1%	
パート・アルバイト	2255	0.8%		0.1%		0.7%	
学生・無職・その他	1656	1.3%		0.3%		0.5%	

※ χ^2 検定結果 *** $p < 0.001$, * $p < 0.05$, n. s 有意差なし

※ 残差分析 (5%水準) の結果、有意に高いものは黒太字、有意に低いものは赤太字で表示。

¹⁵ このグループは、普段個人情報の取扱いに対して「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動をしている(と認識している)人と、普段は「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動をしていない(と認識している)人の双方を含んでいる。

(3) 問合せ・苦情・ネット書き込み行動高頻度ユーザーと心理傾向

次に、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」行動高頻度ユーザーと心理傾向の関係を確認した。表 5.3.4 は、「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」それぞれの高頻度ユーザー（表中で「該当」と記載）とそれ以外（表中で「非該当」と記載）の各心理尺度のポイントと t 検定結果を示したものである。

表 5.3.4 問合せ・苦情・ネット書き込み行動高頻度ユーザーと心理傾向

	情報提供前後共に 問合せをする			情報提供前後共に 苦情を言う			情報提供前後共に ネット書き込みをする		
	該当 (n=186)	非該当 (n=14334)	検定	該当 (n=38)	非該当 (n=14482)	検定	該当 (n=95)	非該当 (n=14425)	検定
自尊心	3.396	3.157	***	3.316	3.159	n.s	3.343	3.159	*
認知的熟慮性/衝動性	4.009	3.615	***	3.737	3.619	n.s	4.049	3.617	***
情動調整	3.652	3.312	***	3.482	3.316	n.s	3.642	3.314	***
言語的攻撃性	3.656	3.174	***	3.579	3.179	**	3.796	3.176	***
批判的思考態度	3.975	3.664	***	3.756	3.668	n.s	4.017	3.666	***
プライバシー意識	4.229	4.039	***	4.053	4.041	n.s	4.154	4.041	n.s

※t 検定結果 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n.s 有意差なし

まず、「問合せ」については、全ての心理尺度において高頻度ユーザーの方が有意にポイントが高く、また、「該当」・「非該当」間でポイント差が大きかったのは言語的攻撃性（差 0.482 ポイント）、認知的熟慮性/衝動性（差 0.394 ポイント）であった。すなわち、意思決定の際に慎重によく検討し、自分の意見をはっきり主張する傾向があるため、何度も「問合せ」という行動に至ったと推察できる。

「苦情」については、有意差が出たのは言語的攻撃性のみで、高頻度ユーザーの方が有意にポイントが高かった。自分の権利をはっきりと主張し、対立した場合は議論しないと気が済まないという心理傾向が何度も「苦情」を言う行動の背景にあったと考えられる。逆に言えば、プライバシー意識等の他の心理傾向については今回の苦情行動とは関係がなかったことになる。

「ネット書き込み」については、プライバシー意識以外の心理尺度において高頻度ユーザーの方が有意にポイントが高く、「該当」・「非該当」間でポイント差が大きなのは言語的攻撃性（差 0.621 ポイント）、認知的熟慮性/衝動性（差 0.432 ポイント）であった。また、批判的思考態度のポイント（4.017）が「問合せ」、「苦情」と比べて高い。慎重に意思決定し、分析的に思考し、はっきり意見を主張する傾向が「ネット書き込み」という行動に特に関係していたと考えられるが、それが書き込みの内容・トピック¹⁶や主張の方向性（ポ

¹⁶ 既述の通り、本章で扱っている「問合せ」、「苦情」、「ネット書き込み」には、個人情報扱い以外の内容も含まれている。

ジティブ・ネガティブなど) にどのように関係したのかについては、具体的な書き込み内容と併せて検討する必要があるだろう。

参考資料

※本章で使用した心理尺度とその項目

	項目	出典
自尊感情 $\alpha = .83$	私にはいくつも良い点がある	山本他 (1982)
	私は少なくとも他人と同じくらいは価値のある人間だと思う	
	私には誇れるものがあまりないと思う (逆転)	
	全体として、自分自身に満足している	
認知的熟慮性/ 衝動性 $\alpha = .69$	何かを決めるとき、時間をかけて慎重に考えるほうだ	滝間他 (1991)
	すべての選択肢をよく検討しないと気が済まない方だ	
	用心深い方だ	
情動調整 ※WLEISより $\alpha = .77$	自分自身の気持ちをうまくコントロールできている	Wong & Law (2002)
	腹が立って気持ちが高ぶっていても、すぐに落ち着きを取り戻すことができる	
	難しい問題が起こったときでも、自分の気持ちを抑えてきちんと解決できる	
言語的攻撃性 ※攻撃性より $\alpha = .70$	友達の意見に賛成できないときには、はっきり言う	安藤他 (1999)
	自分の権利は遠慮しないで主張する	
	意見が対立したときは、議論しないと気がすまない	
批判的思考 態度 $\alpha = .83$	一筋縄ではいかないような難しい問題に対しても取り組みつづけることができる	平山他 (2004)
	道筋を立てて物事を考える	
	いつも偏りのない判断をしようとする	
	物事を決めるときには、客観的な態度を心がける	
	一つ二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	
	結論をくだす場合には、確たる証拠の有無にこだわる	
プライバシー 意識 $\alpha = .77$	ネット企業が、自分の個人情報を求めるとき、イライラすることが多い	Malhotra他 (2004)
	ネット企業に自分の情報を渡さないといけなとき、ためらうことがある	
	ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる	
	ネットにおける消費者のプライバシーとは、自分の個人情報がどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う	
	個人情報をオンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う	
	自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う	

参考文献

Malhotra, N. K., Kim, S. S., and Agarwal, J. (2004) "Internet Users' Information Privacy Concerns (IUIPC): The Construct, the Scale, and a Causal Model". *Information Systems Research*, 15(4), 336-355.

- Rodríguez-De-dios, I., Igartua, J. J., and González-Vázquez, A. (2016) "Development and Validation of a Digital Literacy Scale for Teenagers". *ACM International Conference Proceeding Series*. 02-04-November-2016: 1067-1072.
- Wong, C. S. and Law, K. S. (2002) "The effects of leader and follower emotional intelligence on performance and attitude: An exploratory study". *The leadership quarterly*, 13(3), 243-274.
- 安藤明人・曾我祥子・山崎勝之・島井哲志・島田洋徳・宇津木成介・大芦治・坂井明子 (1999) 「日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙(BAQ)の作成と妥当性信頼性の検討」『心理学研究』 70(5), 384-392.
- 池内裕美 (2008) 「誠意とは何か：苦情行動者の特性と適切な苦情対応」『研究双書』 第147冊, 関西大学経済・政治研究所, 91-122.
- 滝間一嘉・坂元章 (1991) 「認知的熟慮性－衝動性尺度の作成——信頼性と妥当性の検討」『日本グループダイナミクス学会第39回大会発表論文集』 39-40.
- 平山るみ・楠見孝 (2004) 「批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響—証拠評価と結論生成課題を用いての検討—」『教育心理学研究』 52, 186-198.
- 山本真理子・松井豊・山成由紀子 (1982) 「認知された事故の諸側面の構造」『教育心理学研究』 30, 64-68.

質問票・単純集計表

回答対象者 (回答者数)	質問番号	質問文	質問 タイプ	選択肢表示 対象者	選 択 値	選択肢	N=14520 割合(%)	ポイント アプリ n=7239 割合(%)
		性別	SA		1	男性	48.1	
					2	女性	51.9	
		年齢層	SA		1	20代	19.1	
					2	30代	20.0	
					3	40代	20.0	
					4	50代	20.4	
					5	60代	20.5	
		地域	SA		1	北海道	4.9	
					2	東北地方	6.0	
					3	関東地方	35.0	
					4	中部地方	17.6	
					5	近畿地方	19.4	
					6	中国地方	5.4	
					7	四国地方	2.5	
					8	九州地方	9.2	
		未婚	SA		1	未婚	33.3	
					2	既婚	66.7	
		子供の有無	SA		1	子供なし	39.3	
					2	子供あり	60.7	
		世帯年収	SA		1	200万未満	5.4	
					2	200～400万未満	17.3	
					3	400～600万未満	20.7	
					4	600～800万未満	14.2	
					5	800～1000万未満	8.6	
					6	1000万以上	8.7	
					7	わからない・無回答	25.0	
		個人年収	SA		1	200万未満	31.7	
					2	200～400万未満	20.9	
					3	400～600万未満	14.1	
					4	600～800万未満	6.5	
					5	800～1000万未満	2.9	
					6	1000万以上	2.6	
					7	わからない・無回答	21.2	
		職業	SA		1	会社員・公務員	46.9	
					2	役員・自営業・自由業	7.1	
					3	専業主婦/主夫	19.1	
					4	パート・アルバイト	15.5	
					5	学生・無職・その他	11.4	
SQ 1		あなたご自身が従事しているお仕事にあてはまるものを1つお答えください。※複数あてはまる場合は、ご自身に最も関係していると思うものを1つ選んでください。	SA		1	製造業(食品・飲料・酒類関連)	2.0	
					2	製造業(化粧品・トイレタリー関連)	0.2	
					3	製造業(自動車関連)	1.8	
					4	製造業(家電・AV製品)	1.1	
					5	その他製造業	8.3	
					6	印刷業・出版業	0.7	
					7	卸売業(食品・飲料・酒類関連)	0.7	
					8	卸売業(化粧品・トイレタリー関連)	0.2	
					9	卸売業(自動車関連)	0.4	
					10	卸売業(家電・AV製品)	0.2	
					11	その他卸売業	1.3	
					12	商社関連	0.7	
					13	電気・ガス・熱供給・水道業	1.0	
					14	通信業	0.8	
					15	マスコミ・メディア関連	0.2	
					16	情報サービス業	2.5	
					17	インターネット関連	0.7	
					18	運輸・運送・倉庫業	4.3	
					19	百貨店・スーパー・コンビニエンスストア	2.7	
					20	家電量販店・ホームセンター・ディスカウントストア	0.5	
					21	その他の小売業	3.1	
					22	金融業・保険業	3.7	
					23	不動産業	1.8	
					24	飲食業・飲食関連	2.5	
					25	レジャー関連サービス(ホテル、レジャー施設など)	1.1	
					26	医療・福祉関連	8.9	
					27	教育・学校法人	4.2	
					28	広告業	0.1	
					29	調査業	0.0	
					30	その他サービス業	10.0	
					31	その他の業種	11.8	
					32	就業していない(学生、専業主婦など)	22.6	
SQ 2		あなたが、プライベートで利用している機器をすべてお答えください。(いくつでも)	MA		1	デスクトップPC	22.2	
					2	ノートPC	57.3	
					3	タブレット(iPad、Xperia Tabletなど)	28.9	
					4	スマートフォン(iPhone、Xperiaなど)	100.0	
					5	ガラケー(従来型携帯電話)	4.3	
					6	ウェアラブル端末(Apple Watch、Android Wearなど)	2.1	
					7	スマートスピーカー(Google Home、Amazon echoなど)	4.0	
					8	ゲーム機(Nintendo Switch、Play Station 4など)	15.5	
					9	どれも持っていない	0.0	
SQ 3		以下のようなスマートフォンアプリの利用について、あなたにあてはまるものを1つ選択してください。 [表A1] ポイントアプリの図と説明	SA		1	現在利用している	55.9	65.1
					2	現在利用していない	44.1	34.9
SQ3=2 (n=6410)	SQ 4	前ページで表示されたスマートフォンアプリについて、利用してみたいと思いますか。あなたにあてはまるものを1つ選択してください。 [表A1] ポイントアプリの図と説明	SA		1	利用してみたい	16.5	22.4
					2	やや利用してみたい	51.4	77.6
					3	あまり利用してみたいとは思わない	24.9	0.0
					4	利用してみたいとは思わない	7.2	0.0
SQ 5	SQ 5	以下のようなスマートフォンアプリの利用について、あなたにあてはまるものを1つ選択してください。 [表A1] 地図アプリの図と説明	SA		1	現在利用している	69.1	
					2	現在利用していない	30.9	
SQ5=2 (n=4489)	SQ 6	前ページで表示されたスマートフォンアプリについて、利用してみたいと思いますか。あなたにあてはまるものを1つ選択してください。 [表A1] 地図アプリの図と説明	SA		1	利用してみたい	15.2	
					2	やや利用してみたい	56.7	
					3	あまり利用してみたいとは思わない	26.9	
					4	利用してみたいとは思わない	6.2	
Q1		以下のようなスマートフォンアプリ(以下「アプリ」と呼びます)の利用について、あなたにあてはまるものを1つ選択してください。	SA		1	現在利用している	50.4	53.5
					2	現在利用していない	49.6	46.5

回答対象者 (回答者数)	質問番号	質問文	質問 タイプ	選択該表示 対象者	選択 値	選択該	N=14520 割合(%)	ポイント アプリ n=7239 割合(%)	地図 アプリ n=7281 割合(%)					
Q1=2 (n=7209)	Q2	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリについて、利用してみたいと思いますか、あなたにあてはまるものを1つ答えてください。 ※アプリの説明をもう一度確認する場合は、こちらからご確認ください。 【表A.1 割付アプリの図と説明】	SA		1	利用してみたいと思う	13.9	14.1	13.7					
					2	やや利用してみたいと思う	50.3	48.2	52.1					
					3	あまり利用してみたいとは思わない	35.8	37.7	34.2					
					4	利用してみたいとは思わない	0.0	0.0	0.0					
Q5 3	Q3	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリを利用しようとする、自分のスマートフォンにインストールした場面を想定してください。あなたは、このアプリをインストールする前後で、どのようなことをすると思いますか。あてはまるものをすべて答えてください。(1つでも) ※アプリの説明をもう一度確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA		1	アプリストアのレビューの星の数を見る	39.8	37.4	42.2					
					2	アプリストアのレビュー欄を読む	51.8	50.5	53.0					
					3	似たようなアプリを比較検討する	39.8	33.3	46.2					
					4	サービス提供者の評判を調べる	21.9	26.7	17.1					
					5	いずれもあてはまらない	18.4	21.2	15.5					
Q3=1.2 Q3=3.4 +Q3=1 (n=2693) +Q3=2 (n=1016)	Q4	「利用規約」/「プライバシーポリシー」のリンクをクリックしたところ、以下のような画面が表示されました。あなただったら、次にどのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 【利用規約：図A.17/図A.18】 【プライバシーポリシー：図A.19/図A.20】	SA	Q3=1 (利用規約)	1	利用規約のリンクをクリックする	18.5	21.3	15.8					
					2	「プライバシーポリシー」のリンクをクリックする	7.0	7.3	6.7					
					3	「データの利用に関する重要事項」の部分スクロールする	2.9	3.3	2.4					
					4	「データの利用に関する重要事項」の部分スクロールする	3.1	3.5	2.8					
					5	「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	2.5	2.7	2.3					
					6	会員登録に必要な事項を入力し、「同意して登録する」のボタンを押す	41.4	48.7	34.1					
					7	「同意しない」のボタンを押す	24.6	13.1	36.0					
					1	画面をスクロールする	91.0	90.61	91.55					
					2	「閉じる」のボタンを押す	9.0	9.385	8.449					
					3	画面をスクロールする	85.8	87.5	84.02					
					4	「閉じる」のボタンを押す	14.2	12.5	15.98					
Q4=1.3 Q3=3.4 +Q4=1 (n=2451) +Q4=3 (n=872) +Q3=3 (n=414) +Q3=4 (n=454)	Q5	「利用規約」/「プライバシーポリシー」/「データの利用に関する重要事項」の部分を下までスクロールしたところ、全文は以下のようになっていました。あなただったら、次にどのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 【利用規約：(本稿では略)】 【プライバシーポリシー：表A.2】 【重要事項②：表A.3】 【重要事項④：表A.4】	SA	Q4=1 (利用規約)	1	読まない	8.7	7.4	10.5					
					2	ざっと読む	85.7	86.2	85.0					
					3	じっくりと読む	5.6	6.4	4.6					
										4	読まずにこの画面を閉じる	1.7	1.3	2.2
										5	ざっと読んでこの画面を閉じる	55.7	55.6	55.9
										6	じっくりと読んでこの画面を閉じる	10.6	11.5	9.5
										7	読まずに「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	2.3	2.6	2.0
										8	ざっと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	22.1	21.6	22.7
										9	じっくりと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	7.6	7.4	7.8
										10	読まない	5.6	5.0	6.4
										11	ざっと読む	81.4	84.7	76.7
										12	じっくりと読む	13.0	10.3	16.9
										13	読まずにトップ画面の操作に戻る	3.3	4.0	2.5
										14	ざっと読んでトップ画面の操作に戻る	51.3	52.6	49.8
										15	じっくりと読んでトップ画面の操作に戻る	15.2	14.2	16.4
										16	読まずに「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	1.5	1.6	1.5
										17	ざっと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	18.3	16.2	20.9
										18	じっくりと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	10.4	11.5	9.0
Q3=5, Q5=7-9, 16-18 (n=773)	Q6	「第三者提供の停止」のリンクをクリックしたところ、以下のような画面が表示されました。あなただったら、次にどのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 【図A.21 図A.22】	SA		1	第三者提供を「オフ」にして「閉じる」のボタンを押す	89.5	87.7	91.7					
					2	第三者提供は「オン」のまま「閉じる」のボタンを押す	10.5	12.3	8.3					
Q3=6.7 Q3=3.4 (n=4934)	Q7	前問までの操作を終え、アプリのトップ画面に戻ってきました。あなただったら、次にどのようなことをしますか。ただし、前問までに行った操作はできないものとします。また、通信の内容はすべて暗号化され、安全であるとします。 【図A.1-16 割付アプリ画面】	SA	Q3≠1	1	「利用規約」のリンクをクリックする	15.3	15.6	14.8					
					2	「プライバシーポリシー」のリンクをクリックする	21.1	27.6	26.4					
										3	「データの利用に関する重要事項」の部分スクロールする	1.3	1.3	1.2
										4	「データの利用に関する重要事項」の部分スクロールする	1.1	1.2	0.9
										5	「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	1.2	1.2	1.2
					6	会員登録に必要な事項を入力し、「同意して登録する」のボタンを押す	40.1	42.5	37.0					
					7	「同意しない」のボタンを押す	14.0	10.6	18.4					
Q7=1.2 Q7=3.4 +Q7=1 (n=754) +Q7=2 (n=1337)	Q8	「利用規約」/「プライバシーポリシー」/「データの利用に関する重要事項」の部分を下までスクロールしたところ、全文は以下のようになっていました。あなただったら、次にどのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 【利用規約：図A.17/図A.18】 【プライバシーポリシー：図A.19/図A.20】	SA	Q7=1 (利用規約)	1	画面をスクロールする	94.0	94.7	93.2					
					2	「閉じる」のボタンを押す	6.0	5.3	6.8					
										3	画面をスクロールする	92.2	92.4	92.0
					4	「閉じる」のボタンを押す	7.8	7.6	8.0					
Q8=1.3 Q7=3.4 +Q8=1 (n=709) +Q8=3 (n=1233) +Q7=3 (n=62) +Q7=4 (n=54)	Q9	「利用規約」/「プライバシーポリシー」/「データの利用に関する重要事項」の部分を下までスクロールしたところ、全文は以下のようになっていました。あなただったら、次にどのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 【利用規約：(本稿では略)】 【プライバシーポリシー：表A.2】 【重要事項②：表A.3】 【重要事項④：表A.4】	SA	Q8=1 (利用規約)	1	読まない	6.9	6.4	7.7					
					2	ざっと読む	83.4	83.4	83.3					
					3	じっくりと読む	9.7	10.3	9.0					
										4	読まずにこの画面を閉じる	2.2	2.4	1.9
										5	ざっと読んでこの画面を閉じる	50.9	50.2	51.7
										6	じっくりと読んでこの画面を閉じる	8.2	8.8	7.4
										7	読まずに「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	1.9	2.3	1.5
										8	ざっと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	30.4	30.5	30.3
										9	じっくりと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	6.4	5.8	7.2
										10	読まない	4.8	5.7	3.7
										11	ざっと読む	71.0	65.7	77.8
										12	じっくりと読む	24.2	28.6	18.5
										13	読まずにトップ画面の操作に戻る	1.9	0.0	5.0
										14	ざっと読んでトップ画面の操作に戻る	53.7	52.9	55.0
										15	じっくりと読んでトップ画面の操作に戻る	11.1	17.6	0.0
										16	読まずに「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	3.7	2.9	5.0
										17	ざっと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	18.5	20.6	15.0
										18	じっくりと読んで「第三者提供の停止」のリンクをクリックする	11.1	5.9	20.0

回答対象者 (回答者数)	質問番号	質問文	質問 タイプ	選択肢表示 選択者	選 択 肢	ポイント 割合(%)	正解 割合(%)	時間 平均 割合(%)
Q7=5、 Q9=7-9、 16-18 ・オン状 態 (n=3) ・オフ状態 (n=31)	Q10	「第三者提供の停止」のリンクをクリックしたところ、以下のような画面が表示されました。あなただったら、次じのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 [図A.21／図A.22]	SA	1 2選目でオフに していない (オン状態)	1 第三者提供を「オフ」にして「閉じる」の ボタンを押す	33.3	0.0	50.0
					2 第三者提供は「オン」のまま「閉じる」の ボタンを押す	66.7	100.0	50.0
Q7=6.7 (n=2265)	Q11	前問までの操作を終え、アプリのトップ画面に戻ってきました。あなただったら、次じのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。ただし、前問までに行った操作はできないものとします。また、通信の内容はすべて暗号化され、安全であるとしてします。 [図A.1-16 割付アプリ画面]	SA	Q3.Q7≠1 Q3.Q7≠2	1 「利用規約」のリンクをクリックする	3.4	3.4	82.4
					2 「プライバシーポリシー」のリンクをクリックする	14.9	15.0	14.8
Q11=1.2 Q11=3.4 ・Q11=1 (n=78) ・Q11=2 (n=338)	Q12	「利用規約」/「プライバシーポリシー」のリンクをクリックしたところ、以下のような画面が表示されました。 [利用規約: 図A.17／図A.18] [プライバシーポリシー: 図A.19／図A.20]	SA	Q11=1 (利用規約)	1 1画面をスクロールする	15.9	88.6	94.1
					2 「閉じる」のボタンを押す	9.0	11.4	5.9
Q12=1.3、 Q13=3.4 ・Q12=1 (n=71) ・Q12=3 (n=326) ・Q11=3 (n=35) ・Q11=4 (n=22)	Q13	「利用規約」/「プライバシーポリシー」/「データの利用に関する重要事項」の部分を下までスクロールしたところ、全文は以下のようになっていました。あなただったら、次じのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 [利用規約: (本稿では略)] [プライバシーポリシー: 表A.2] [重要事項②: 表A.3] [重要事項④: 表A.4]	SA	Q12=1 (利用規約)	1 読まない	4.2	0.0	9.4
					2 ざっと読む	64.8	66.7	62.5
Q11=5、 Q13=7-9、 16-18 ・オン状 態 (n=89) ・オフ状態 (n=77)	Q14	「第三者提供の停止」のリンクをクリックしたところ、以下のような画面が表示されました。あなただったら、次じのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。 [図A.21／図A.22]	SA	1.2 2選目でオフに していない (オン状態)	1 第三者提供を「オフ」にして「閉じる」の ボタンを押す	80.9	78.6	84.8
					2 第三者提供は「オン」のまま「閉じる」の ボタンを押す	19.1	21.4	15.2
Q11≠6.7 (n=500)	Q15	前問までの操作を終え、アプリのトップ画面に戻ってきました。あなただったら、次じのようなことをしますか。あてはまるものを1つ答えてください。ただし、前問までに行った操作はできないものとします。また、通信の内容はすべて暗号化され、安全であるとしてします。 [図A.1-16 割付アプリ画面]	SA	Q11=3 (重要事項②)	1 会員登録に必要な事項を入力し、「同意 して登録する」のボタンを押す	83.8	86.9	79.5
					2 「同意しない」のボタンを押す	16.2	13.1	20.5
Q29=1 (n=791)	Q30	「サービス提供者に問合せをする」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」のサービス提供者にどのような問合せを行うと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q29=1 (n=149)	1 サービス提供者に問合せをする	5.4	6.1	4.8
					2 サービス提供者に苦情を言う	1.0	1.0	1.0
Q29=2 (n=545)	Q32	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q29=3 (n=545)	1 サービスの話題をネットに書き込む	3.8	3.8	3.7
					2 あてはまるものはない	90.8	90.3	91.4
Q3.Q7.O11=1 or Q15=1 同意した人 (n=9814)	Q54	あなたは、「KYポイント」/「なびなび地図」アプリで会員登録するとき、会員登録欄にどのような入力をすると思いますか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも)	MA	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=1 同意した人	1 全ての欄に正しい情報を入力する(メールアドレス欄には普段使うアドレスを入力する)	83.9	85.8	81.3
					2 氏名欄に自分の氏名を入力しない	3.6	2.1	5.8
・同意した人 (n=9814) ・同意しな かった人 (n=4706)	Q16	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリのトップ画面で、「『同意して登録する』のボタンを押す」/「『同意しない』のボタンを押す」を選んだ理由は何ですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度アプリのトップ画面を確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=1 同意しな かった人	1 サービスを利用したかったから	70.4	71.0	69.6
					2 入力するのが面倒だったから	15.8	15.8	15.7
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q17	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 何か問題が起きても自分で対処でき ると思ったから	5.4	5.4	5.5
					2 個人情報などが取扱われるか不安では なかったから	7.9	7.6	8.4
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q18	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 サービス提供者を信頼できると思っ たから	19.3	22.0	15.5
					2 入力しやすい画面だったから	6.5	6.5	6.4
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q19	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 普段から個人情報登録しているから	10.6	10.5	10.8
					2 その他(【 】)	0.8	0.8	0.7
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q20	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 特に理由はない	9.2	8.8	9.9
					2 サービスを利用したくなかったから	21.5	28.7	18.3
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q21	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 入力するのが面倒だったから	32.3	23.5	36.3
					2 何か問題が起きても自分で対処でき ないと思ったから	17.4	23.3	14.8
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q22	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 個人情報などが取扱われるか不安だ ったから	57.9	48.6	62.1
					2 サービス提供者を信頼できないと 思ったから	16.2	18.5	15.2
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q23	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 入力しにくい画面だったから	2.9	2.8	2.9
					2 普段から個人情報登録しないように しているから	19.4	11.9	22.7
Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	Q24	「サービスの話題をネットに書き込む」と答えた方に質問です。あなたは「KYポイント」/「なびなび地図」サービスについてどのような話題をネットに書き込むと思いますか。内容を教えてください。	自由	Q3.Q7.Q11=6 or Q15=2 同意しな かった人	1 その他(【 】)	4.1	3.6	4.3
					2 特に理由はない	7.0	10.4	5.4

回答対象者 (回答者数)	質問番号	質問文	質問 タイプ	選択該表示 内容者	選 択 種	選 択 該	N=14520 割合(%)	ポイント アプリ 7281 割合(%)	地 図 ア プ リ 7281 割合(%)
・利用規約選択 (n=3525) ・利用規約非選択 (n=10995)	Q17	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリのトップ画面で、「利用規約」のリンクをクリックするを選んだ/選ばなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度アプリのトップ画面を確認する場合はこちらから、「利用規約」の画面を確認する場合はこちらからご確認ください。	MA	Q3.Q7.Q11=1 「利用規約」選択	1	普段から利用規約には目を通すようにしているから	64.3	66.0	62.1
					2	個人情報などがどう扱われるか不安だったから	30.6	29.1	32.6
・プライバシーポリシー選択 (n=2691) ・プライバシーポリシー非選択 (n=11829)	Q18	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリのトップ画面で、「プライバシーポリシー」のリンクをクリックするを選んだ/選ばなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度アプリのトップ画面を確認する場合はこちらから、「プライバシーポリシー」の画面を確認する場合はこちらからご確認ください。	MA	Q3.Q7.Q11=2 「プライバシーポリシー」選択	1	普段からプライバシーポリシーには目を通すようにしているから	59.0	61.8	55.5
					2	個人情報などがどう扱われるか不安だったから	47.1	45.2	49.4
画面②、画面④ ・スクロール選択 (n=1041) ・スクロール非選択 (n=2572)	Q19	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリのトップ画面で「データの利用に関する重要事項」の部分を下までスクロールするを選んだ/選ばなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度アプリのトップ画面を確認する場合はこちらから、「データの利用に関する重要事項」を確認する場合はこちらからご確認ください。	MA	Q3.Q7.Q11=3.4 「『データの利用に関する重要事項』の部分を下までスクロールをする」選択	1	普段から説明には目を通すようにしているから	53.4	54.1	52.8
					2	個人情報などがどう扱われるか不安だったから	27.4	25.5	29.8
画面⑦、プライバシーポリシー全文表示した人、画面④の重要事項全文表示した人 ・クリック選択 (n=1375) ・クリック非選択 (n=2938)	Q20	「KYポイント」/「なびなび地図」アプリのトップ画面、「プライバシーポリシー」の全文表示画面、「データの利用に関する重要事項」において「第三者提供の停止」のリンクをクリックするを選んだ/選ばなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度アプリのトップ画面を確認する場合はこちらから、「プライバシーポリシー」の全文表示画面を確認する場合はこちらから、「データの利用に関する重要事項」を確認する場合はこちらから、「第三者提供の停止」の画面を確認する場合はこちらからご確認ください。	MA	Q3.Q7.Q11=5 or Q5.Q9.Q13=7-9, 16-18 「『第三者提供の停止』のリンクをクリックする」選択	1	普段から第三者提供の停止の申請をするようにしているから	32.7	32.2	33.0
					2	個人情報などがどう扱われるか不安だったから	64.9	65.1	64.6
- 368 -									

回答対象者 (回答者数)	質問番号	質問文	質問 タイプ	選択表示 対象者	選 択 値	選 択 肢	ポイント アプリ N=1,4520 割合(%)	ポイント アプリ N=7239 割合(%)	地図 アプリ N=7281 割合(%)
Q6.Q10.Q 14≠null ・オフ状態 (n=1179) ・オン状 態 (n=196)	Q21	「第三者提供の停止」の画面で、第三者提供を「オフ」にする／第三者提供を「オン」のままにすることを選んだ理由は何か。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度「第三者提供の停止」の画面を確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA	最後は「第三者提供をオフにする」の状態の人	1	普段から第三者提供の停止の申請をするようにしているから	30.7	31.2	30.1
					2	提供しても自分のメリットにはならないから	38.0	39.6	36.1
					3	個人情報などが取扱われるか不安だったから	61.5	62.4	60.4
					4	自分の購買履歴／位置情報のデータが第三者に渡るのがいやだったから	53.6	52.5	55.0
					5	サービス提供者を信頼できないと思ったから	10.4	10.9	9.9
					6	オフにするのが面倒ではなかったから	8.2	8.1	8.4
					7	よくわからなかったから	2.9	3.0	2.8
					8	その他()	1.3	1.7	0.7
					9	特に理由はない	2.6	2.6	2.6
					10	普段から第三者提供の停止の申請をしないから	24.0	22.0	26.9
					11	提供した方が自分のメリットになるから	24.0	22.0	26.9
					12	個人情報などが取扱われるか不安ではなかったから	18.9	19.5	17.9
					13	自分の購買履歴／位置情報のデータが第三者に渡ってもかまわないから	19.9	24.6	12.8
					14	サービス提供者を信頼できると思ったから	24.0	25.4	21.8
					15	オフにするのが面倒だったから	7.7	5.1	11.5
					16	よくわからなかったから	14.8	10.2	21.8
					17	その他()	5.1	6.8	2.6
					18	特に理由はない	7.1	8.5	5.1
Q3.Q7.Q1 1-1 and Q4.Q8.Q1 2-2 (n=294)	Q22	最初にこの「KYポイント」／「なびなび地図」アプリのトップ画面を見たとき、あなたが注目したところはどこですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) [図A.1-16 割付アプリ画面]	MA	「KYポイント」／「なびなび地図」のタイトル部分	1	「KYポイント」／「なびなび地図」のタイトル部分	26.3	26.8	25.8
					2	「ご利用にあたっては…」の段落	14.8	15.9	13.7
					3	「データの利用に関する重要事項」のタイトル部分	20.4	22.9	17.9
					4	「取得情報」の段落	2.0	2.1	1.9
					5	「お客様の購買履歴／位置情報のデータは、…」の段落	15.4	15.2	15.7
					6	「提供されたデータは、提供先のマーケティング」の段落	3.5	3.5	3.5
					7	「第三者へは、本アプリのプライバシーポリシーに…」の段落	3.0	3.4	2.7
					8	「第三者へのデータの提供を停止したい方は…」の段落	3.1	3.3	2.8
					9	「お問合せは、以下までお願いします…」の段落	0.6	0.8	0.5
					10	「第三者へのデータの提供を停止せず許可して…」の段落	2.3	2.7	1.9
					11	「利用規約」「プライバシーポリシー」のリンク部分	9.6	11.0	8.2
					12	「会員登録」のタイトル部分	15.0	11.9	18.0
					13	「氏名」の入力欄	16.1	12.8	19.5
					14	「フリガナ」の入力欄	10.7	8.8	12.7
					15	「性別」の入力欄	10.0	8.4	11.5
					16	「生年月日」の入力欄	13.0	10.5	15.5
					17	「メールアドレス」の入力欄	14.3	12.1	16.5
					18	「パスワード」の入力欄	13.9	12.5	15.4
					19	「同意して登録する」のボタン	13.2	14.0	12.5
					20	「同意しない」のボタン	6.0	5.3	6.7
					21	あてはまるものはない	16.2	17.8	14.7
Q3.Q7.Q1 1-2 and Q4.Q8.Q1 2-2 (n=280)	Q23	あなたが最初に「利用規約」の画面を見たとき、読んだところはどこですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度「利用規約」の画面を確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA	「この規約(以下「本規約」といいます。)	1	「この規約(以下「本規約」といいます。)	49.0	49.7	47.9
					2	「第1条(本サービスの概要)」の条文	33.7	32.9	34.7
					3	あてはまるものはない	24.5	26.0	22.3
Q3.Q7.Q1 1-2 and Q4.Q8.Q1 2-4 (n=260)	Q24	あなたが最初に「プライバシーポリシー」の画面を見たとき、読んだところはどこですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度「プライバシーポリシー」の画面を確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA	「KYマーケティング株式会社／株式会社ジョイントメンバーシップ」の会社名	1	「KYマーケティング株式会社／株式会社ジョイントメンバーシップ」の会社名	41.9	43.9	39.8
					2	「第1条(個人情報の取得について)」の条文	43.8	43.9	43.8
					3	あてはまるものはない	23.8	24.2	23.4
Q4.Q8.Q1 2-1 (n=3231)	Q25	あなたが最初に「利用規約」の全文を見たとき、読んだところはどこですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度「利用規約」の全文を確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA	「この規約(以下「本規約」といいます。)	1	「この規約(以下「本規約」といいます。)	44.4	44.2	44.8
					2	「第1条(本サービスの概要)」の条文	47.3	48.1	46.2
					3	「第2条(利用契約の成立等)」の条文	29.7	29.5	29.9
					4	「第3条(本規約の変更)」の条文	21.5	22.0	20.8
					5	「第4条(使用条件等)」の条文	31.5	31.7	31.4
					6	「第5条(お客様の情報の取扱い)」の条文	46.6	48.0	44.8
					7	「第6条(ポイント等の進呈等について)」の条文	30.4	36.3	22.5
					8	「第7条(認証)」の条文	17.1	17.9	15.9
					9	「第8条(本サービスの利用停止等)」の条文	23.1	25.1	20.4
					10	「第9条(通知)」の条文	15.7	16.1	15.1
					11	「第10条(損害賠償)」の条文	28.3	30.4	25.6
					12	「第11条(権利義務の譲渡の禁止)」の条文	19.4	20.1	18.4
					13	「第12条(準拠法および管轄)」の条文	14.5	15.1	13.6
					14	「制定:2016年3月1日 改定:2018年10月25日」の部分	10.6	11.2	9.9
					15	あてはまるものはない	9.0	8.8	9.3
Q4.Q8.Q1 2-3 (n=2431)	Q26	あなたが最初に「プライバシーポリシー」の全文を見たとき、読んだところはどこですか。あてはまるものをすべて答えてください。(いくつでも) ※もう一度「プライバシーポリシー」の全文を確認する場合は、こちらからご確認ください。	MA	「第1条(個人情報の取得について)」の条文	1	「第1条(個人情報の取得について)」の条文	65.9	66.3	65.5
					2	「第2条(利用目的について)」の条文	46.1	46.6	45.4
					3	「第3条(個人情報の取得および利用、第三者提供と委託について)」の条文	51.3	51.9	50.6
					4	「第4条(個人情報の開示・訂正・削除等)」の条文	37.3	38.3	36.0
					5	「第5条(本章の規定に不同意の場合)」の条文	23.0	24.4	21.1
					6	「第6条(個人情報に関するお問合せ先)」の条文	26.8	27.9	25.4
					7	「第7条(安全管理措置)」の条文	27.6	29.7	24.9
					8	「第8条(改定を行う場合の手続)」の条文	17.5	19.1	15.6
					9	「制定:2016年3月1日 改定:2018年10月25日」の部分	12.0	12.6	11.2
					10	あてはまるものはない	9.0	8.6	9.4

回答対象者 (回答者数)	質問番号	質問文	質問 タイプ	選択肢表示 対象者	選択 肢	選択肢	N=14520 割合(%)	ポイント アワード 割合(%)	報酬 アワード 割合(%)						
	3	サービスの利用に抵抗を感じる	SA		1	AもBもあてはまる	32.5	26.8	38.0						
					2	Aのみあてはまる	21.0	21.7	20.3						
					3	Bのみあてはまる	13.5	13.6	13.4						
					4	AもBもあてはまらない	33.1	37.9	28.3						
	4	第三者へ自分のデータを提供したくないと思う	SA		1	AもBもあてはまる	40.9	33.4	48.3						
					2	Aのみあてはまる	17.2	18.3	16.1						
					3	Bのみあてはまる	11.8	12.0	11.6						
					4	AもBもあてはまらない	30.1	36.3	23.9						
	5	自分のデータが第三者に提供されることには気がないと思う	SA		1	AもBもあてはまる	22.3	21.0	23.5						
					2	Aのみあてはまる	21.9	23.4	20.4						
					3	Bのみあてはまる	9.7	9.8	9.6						
					4	AもBもあてはまらない	46.2	45.8	46.5						
6	自分のデータの取扱いについて不安を感じる	SA		1	AもBもあてはまる	45.3	38.9	51.6							
				2	Aのみあてはまる	15.8	16.8	14.8							
				3	Bのみあてはまる	9.6	9.5	9.6							
				4	AもBもあてはまらない	29.3	34.8	24.0							
Q43	あなたの考え方や普段の行動について、あてはまるものをそれぞれ選んでください。 (1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない)	SA		1	あてはまる／ややあてはまる	43.7	47.7	39.8							
				2	あてはまる／ややあてはまる	47.4	49.1	45.8							
				3	あてはまる／ややあてはまる	54.3	57.1	51.6							
				4	あてはまる／ややあてはまる	60.2	61.6	58.7							
				5	あてはまる／ややあてはまる	31.0	33.1	28.9							
				6	あてはまる	0.8									
				7	ややあてはまる	1.1									
				8	どちらともいえない	2.5									
				9	あまりあてはまらない	3.6									
				10	あてはまらない	92.0									
				7	ネット企業が、自分の個人情報要求するとき、イライラすることが多い	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	55.6	52.2	58.9				
				8	ネット企業に自分の情報を渡さないといけないとき、ためらうことがある	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	77.8	75.0	80.6				
9	ネット企業に自分の情報を渡したあと、そのネット企業が自分の情報を第三者へ渡すのは、不快に感じる	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	73.7	69.4	78.0								
Q44	あなたの考え方や普段の行動について、あてはまるものをそれぞれ選んでください。 (1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない)	SA		1	ネットにおける消費者のプライバシーと、自分の個人情報はどう集められ、使われ、共有されるかを自分で管理する権利のことだと思う	1	そう思う／ややそう思う	69.8	70.2	69.3					
				2	個人情報オンラインで集めるネット企業は、その収集方法や利用方法についてしっかり公開するべきだと思う	1	そう思う／ややそう思う	88.0	88.8	87.3					
				3	自分の個人情報がどう使われているかについては、しっかりと知っておきたいと思う	SA	1	そう思う／ややそう思う	87.6	87.3	87.9				
				4	ネット企業に集められた自分の個人情報は、政府に常時監視されていると思う	SA	1	うそう思う／ややそう思う	37.1	36.0	38.2				
Q45	あなたの考え方や普段の行動について、あてはまるものをそれぞれ選んでください。 (1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない)	SA		1	私にはいづつ良い点がある	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	42.7						
				2	私は少なくとも他人と同じくらいは価値のある人間だと思う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	50.2						
				3	私は誇れるものがありたいと思う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	41.5						
				4	全体として、自分自身に満足している	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	38.3						
				5	私は全く役に立たない時々思う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	29.9						
				6	何かを決めるとき、時間をかけて慎重に考えるほうが	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	65.8						
				7	すべての選択肢をよく検討しないと気が済まない方だ	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	48.3						
				8	用心深い方だ	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	65.3						
				9	自分自身の気持ちやうまくコントロールできて	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	47.9						
				10	腹が立って気持ちが高ぶっていても、すぐに落ち着いた考えを取り戻すことができる	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	42.2						
				11	難しい問題が起こったときでも、自分の気持ちを抑えきちんと解決できる	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	47.0						
				12	友達に意見を賛成できないときには、はっきり言う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	46.9						
				13	自分の権利は遠慮しないで主張する	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	38.6						
				14	意見が対立したときは、議論しないと気がすまない	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	31.6						
Q46	あなたの考え方や普段の行動について、あてはまるものをそれぞれ選んでください。 (1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. あまりない 4. ほとんどない 5. あてはまらない)	SA		1	商品に不具合があった場合、新品との交換だけでなく、プラスアルファの特典をつけるべきだと思う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	48.3						
				2	保証期間を2〜3日過ぎた程度なら、無償で修理をしてほしいと思う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	55.2						
				3	交渉のため、自ら店舗まで出向いた際にかかった交通費は、請求してもよいと思う	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	32.7						
				4	何か複雑な問題を考えると、混乱してしまう	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	46.9						
				5	一筋縄ではいかないような難しい問題に対しても取り組みつづけることができる	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	67.7						
				6	いつでも断りのない判断をしようとする	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	59.1						
				7	物事を決めるときには、客観的な態度を心がける	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	66.8						
				8	一つ二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	64.0						
				9	結論をくだす場合には、確たる証拠の有無にこだわらる	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	59.3						
				10	判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	73.2						
				11	何事も、少しも疑わずに信じ込んではいけない	SA	1	あてはまる／ややあてはまる	62.2						
				12	何事も、少しも疑わずに信じ込んではいけない	SA	1	あてはまる	97.0						
				13	(この質問は、「あてはまる」の選択肢を選んでください)	SA	1	あてはまる	0.9						
2	ややあてはまる	1.5													
3	どちらともいえない	0.3													
4	あまりあてはまらない	0.4													
Q47	あなたは、以下のことをどのくらいの頻度で行いますか、それぞれについてあてはまるものを答えてください。 (1. よくある 2. ときどきある 3. あまりない 4. ほとんどない)	SA		1	自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に問合せを行う	SA	1	よくある／ときどきある	11.7	11.9	11.4				
				2	自分の個人情報の取扱いについて、サービス提供者に苦情を言う	SA	1	よくある／ときどきある	7.5	7.4	7.7				
				3	自分の個人情報第三者に提供しないようサービス提供者に申請をする	SA	1	よくある／ときどきある	13.7	12.7	14.7				
				4	自分の個人情報の取扱いを理由に、はじからサービスを利用しないやめ	SA	1	よくある／ときどきある	57.0	51.5	62.4				
				5	自分の個人情報の取扱いを理由に、あとからサービスの利用をとりやめる	SA	1	よくある／ときどきある	36.3	32.9	39.7				
				6	サービスにおける個人情報の取扱いについて、SNSや掲示板等で話題にする	SA	1	よくある／ときどきある	9.0	8.9	9.2				
				Q49	あなたは、パソコン、スマートフォンそれぞれで、インターネットを今までに何年くらい利用してきましたか、それぞれについてあてはまるものを答えてください。	SA		1	パソコン	SA	1	1年未満	3.3		
								2	1年以上3年未満	3.4					
								3	3年以上5年未満	4.9					
								4	5年以上7年未満	5.5					
								5	7年以上10年未満	6.7					
								6	10年以上	69.6					
7	利用したことがない	6.6													
2	スマートフォン	SA	1					1年未満	3.7						
2	1年以上3年未満	10.5													
3	3年以上5年未満	16.7													
4	5年以上7年未満	27.8													
5	7年以上10年未満	23.0													
6	10年以上	18.2													
Q50	あなたの最終学歴は何ですか。あてはまるものを1つ答えてください。在学中の方は、現在在学されている学校を答えてください。	SA		1	中学校卒業	2.0									
				2	高校卒業	27.2									
				3	専門学校卒業	12.7									
				4	短期大学卒業	10.5									
				5	高等専門学校卒業	1.7									
				6	大学卒業	40.6									
				7	大学院修了	3.8									
				8	上記以外の学校卒業	0.2									
				9	答えたくない/わからない	1.3									



図 A.1
画面①
(ポイント)

図 A.2
画面②
(ポイント)

図 A.3
画面③
(ポイント)

図 A.4
画面④
(ポイント)

図 A.5
画面⑤
(ポイント)

図 A.6
画面⑥
(ポイント)

図 A.7
画面⑦
(ポイント)

図 A.8
画面⑧
(ポイント)



図 A.9
画面①
(地図)

図 A.10
画面②
(地図)

図 A.11
画面③
(地図)

図 A.12
画面④
(地図)

図 A.13
画面⑤
(地図)

図 A.14
画面⑥
(地図)

図 A.15
画面⑦
(地図)

図 A.16
画面⑧
(地図)



図 A.17
利用規約
画面
(ポイント)

図 A.18
利用規約
画面
(地図)

図 A.19
プライバシー
ポリシー
画面
(ポイント)

図 A.20
プライバシー
ポリシー
画面
(地図)

図 A.21
第三者提供
停止画面
(ポイント)

図 A.22
第三者提供
停止画面
(地図)

図 A.23
第三者提供
停止画面
(ポイント)

図 A.24
第三者提供
停止画面
(地図)



図 A.25 図 A.26 図 A.27 図 A.28
 Q38 画像 A Q38 画像 B Q38 画像 A Q38 画像 B
 (ポイント) (ポイント) (地図) (地図)

表 A.1 架空サービスの設定と実験参加者への架空アプリサービスの説明内容

	ポイントアプリ	地図ナビゲーションアプリ
アプリ利用イメージ図 (左: スクリーニング、右: 本調査)		
提示したアプリ説明 (スクリーニング/本調査)	<p><大手企業の提供するポイントサービスのアプリ>/「KY ポイント」アプリ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● /大手企業の提供するポイントサービスのアプリ ● アプリを起動すると表示されるバーコードを、ポイント提携店舗のレジで見せて買い物をする事で、ポイントをためられる ● 多くの店舗と提携しており、色々な買い物でポイントをためられる ● ためたポイントは、商品券や割引等に引き換えられる <p>【似たアプリの例】Tポイント、楽天ポイントカード、dポイントクラブ、Ponta カード、JRE POINT 等のアプリ</p>	<p><大手企業の提供する地図ナビゲーションアプリ>/「なび地図」アプリ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● /大手企業の提供する地図ナビゲーションアプリ ● 行きたい場所と現在地を入力すると、そこまでの経路(車・公共交通機関・徒歩)を表示してくれる ● 見たい場所の地図を表示できる ● コンビニやレストランなど、行きたいお店の場所を調べることができる <p>【似たアプリの例】Google Maps、マップ (Apple Maps)、Yahoo! MAP、ドコモ地図ナビ、NAVITIME 等のアプリ</p>

表 A.2 「プライバシーポリシー」の全文 (ポイントアプリ/地図アプリ)

<p>KY ポイントサービス/なびなび地図サービス お客様の個人情報に関するプライバシーポリシー</p> <p>KY マーケティング株式会社/株式会社ジョインフォメーション(以下「当社」といいます。))は、本プライバシーポリシーの規定に定めるところに従い、当社が提供する KY ポイントサービス(以下「本サービス」といいます。))および本サービス専用の各アプリケーション(以下「本アプリ」といいます。))を利用するお客様(以下「お客様」といいます。))の個人情報(以下「個人情報」といいます。))の取得・利用・提供を行うものとします。 お客様は、自己の個人情報の取扱いに関し、本プライバシーポリシーの規定に定める内容に同意するものとします。</p> <p>第1条 (個人情報の取得について)</p> <p>(1) 当社は、本サービスに関連して、取得の場面に依りて、お客様から個人情報を取得いたします。取得した個人情報はそれぞれの利用目的の範囲内及びご本人の同意の範囲内で、個人情報を利用させていただきます。個別に利用目的を通知又は公表する場合には、当該通知又は公表した利用目的の範囲内で、個人情報を利用させていただきます。</p> <p>(2) 当社は、お客様の意に反する個人情報の取扱い防止とプライバシー保護に十分配慮するとともに、正確性・機密性の維持に努めるべく個人情報を厳重に管理するものとします。</p> <p>(3) 当社は、適法、かつ、公正な手段によって個人情報を取得するものとし、不正に取得した個人情報を販売する、いわゆる名簿業者から個人情報を取得することはありません。</p> <p>(4) 当社は、人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪の経歴、犯罪による害を被った事実その他を含む要配慮個人情報は、法令によって認められている場合を除き、ご本人の明示的な同意がない限り取得いたしません。</p> <p>第2条 (利用目的について)</p> <p>当社は、下記に掲げる利用目的のために個人情報を利用いたします。</p> <p>(1) ポイントの発行、計算、利用、交換等の円滑な運営のために購買履歴を利用します。</p> <p>(2) お客様の認証のため。</p> <p>(3) お客様に対して、ポイント残高の通知等、サービスご利用に関連して必要な連絡等を行うため。</p> <p>(4) 本サービス廃止、運営の停止、他サービスへの引き継ぎ等やそれらに関連する業務を行うため。</p> <p>(5) お客様に対して、ポイントに係る各種キャンペーンやイベントの案内や当社が適切と判断した企業の様々な商品情報やサービス情報その他の営業案内又は情報提供を行うため。</p> <p>(6) 利用状況の調査及び分析その他のマーケティング分析(個人を特定できないよう加工した分析結果を第三者へ提供する等方法によりマーケティングに活用することを含みます。))を行うため。</p> <p>(7) お客様からのお問合せ、苦情等に対し適切に対応するため。</p> <p>(8) データの分析又はこれに関連する業務の遂行のために必要な範囲で第三者提供を行うため。</p> <p>(9) 不正利用の防止のため。</p> <p>(10) その他上記各目的に準ずるか、これらに密接に関連する目的のため。</p> <p>第3条 (個人情報の取得および利用、第三者提供と委託について)</p> <p>(1) 当社は、第2条に定める利用目的のため、以下の個人情報を保護措置を講じた上で適法かつ公正な手段により取得・利用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名 ・性別 ・生年月日 ・メールアドレス ・パスワード
--

<p>・購買履歴/位置情報</p> <p>・アプリケーションのインストール時に付与されるアプリケーションの ID (UUID)</p> <p>・Cookie</p> <p>・お客様のアプリケーション操作に関する情報</p> <p>(2) 当社は第 2 条の利用目的達成のために必要な範囲で業務を当社が他の企業に委託することがあります。その場合には、当社は、当該委託業務の処理に必要な範囲で、個人情報の保護措置を講じた上でお客様の個人情報を委託します。</p> <p>(3) 第 2 条(7)に定める第三者への提供を停止したい方は、以下のリンクより停止をして頂けます。</p> <p>第三者提供の停止</p> <p>なお、第三者への提供を停止せず許可して頂いている方には、毎月謝礼ポイントを付与しております (2019 年 2 月現在)。</p> <p>(3) 前項に定める購買履歴データの第三者提供の提供先、提供される情報、提供方法、利用目的等は以下の通りです</p> <p>・提供先：企業・公的機関・研究機関等の第三者</p> <p>・提供される情報：購買履歴データ/位置情報データ</p> <p>・提供方法：秘密保持、安全管理義務、個人の特定の禁止等を定めた契約を結んだ上で提供</p> <p>・利用目的：マーケティング分析、需要分析、新規サービス開発、学術的研究等</p> <p>第 4 条 (個人情報の開示・訂正・削除等)</p> <p>(1) お客様は、当社に対して、個人情報の保護に関する法律に定めるところにより自己に関する個人情報に関し開示・訂正・削除等するよう請求することができます。請求を行う場合、本人確認書類 (自動車運転免許証、パスポート等) の提示その他所定の手続きに従っていただくとともに、開示等の請求の場合、所定の手数料をご負担いただきます。開示・訂正・削除等の手続きの詳細については、お問い合わせ窓口までお問合せください。</p> <p>第 5 条 (本章の規定に不同意の場合)</p> <p>(1) 当社は、お客様が所定の申込書に記載する等により申告すべき事項を申告されない場合、及び本プライバシーポリシーの規定の内容を承認していただけない場合、入会をお断りすることや退会の手続きをとらせていただくことがあります。</p> <p>(2) 本サービス利用による個人情報の取得を停止したい場合には、本アプリをアンインストールしてください。その場合第 2 条に記載した利用目的に関連してお客様に提供されるサービスの全部又は一部を受けられないことについて、あらかじめご了承ください。</p> <p>第 6 条 (個人情報に関するお問合せ先)</p> <p>個人情報の開示・訂正・削除等の請求その他個人情報に関するお問合せ・ご意見は、以下までお願い致します。</p> <p>個人情報の取扱いに関するお問合せ</p> <p>KY マーケティング株式会社/株式会社ジオインフォメーション 個人情報管理責任者 privacy@ky-marketing.xxx.jp/privacy@geo-information.xxx.jp</p> <p>第 7 条 (安全管理措置)</p> <p>(1) 当社は、個人情報の漏えい、滅失又はは損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。</p> <p>(2) 当社は、個人情報にアクセスできる担当者を、情報の処理のためにその情報を必要とする限られた一部の社員に限定しています。</p> <p>第 8 条 (改定を行う場合の手続)</p> <p>当社は、本規定を、法令に定める範囲内で変更できるものとします。変更した内容は当社ホームページでご確認いただけます。</p> <p>制定：2016 年 3 月 1 日 改定：2018 年 10 月 25 日</p>
--

表 A.3 「重要事項②」：画面②内での簡易版プライバシーポリシー (ポイントアプリ/地図アプリ)

<p>■取得情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名 ・性別 ・生年月日 ・メールアドレス ・パスワード ・購買履歴/位置情報 ・アプリケーションのインストール時に付与されるアプリケーションの ID (UUID) ・Cookie ・利用者のアプリケーション操作に関する情報 <p>■利用目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の認証のため ・ポイントの付与・交換サービスの提供のため ・マーケティング調査、統計、分析のため ・お問合せ対応のため ・不正利用の防止のため ・お客様に合わせたお知らせの送付のため <p>■第三者提供の有無</p> <p>お客様の購買履歴/位置情報のデータは、企業・公的機関・研究機関等の第三者へ提供することがございます。</p> <p>■お問合せ先</p> <p>KY マーケティング株式会社/株式会社ジオインフォメーション 個人情報管理責任者 privacy@ky-marketing.xxx.jp/privacy@geo-information.xxx.jp</p>
--

表 A.4 「重要事項④」：画面④内でのリスクと安心材料の重要事項説明 (ポイントアプリ/地図アプリ)

<p>■取得情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名 ・性別 ・生年月日 ・メールアドレス ・パスワード ・購買履歴/位置情報 ・アプリケーションのインストール時に付与されるアプリケーションの ID (UUID) ・Cookie ・利用者のアプリケーション操作に関する情報 <p>■利用目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の認証のため ・ポイントの付与・交換サービスの提供のため ・マーケティング調査、統計、分析のため ・お問合せ対応のため ・不正利用の防止のため ・お客様に合わせたお知らせの送付のため <p>■第三者提供の有無</p> <p>お客様の購買履歴/位置情報のデータは、企業・公的機関・研究機関等の第三者へ提供することがございます。</p> <p>■お問合せ先</p> <p>KY マーケティング株式会社/株式会社ジオインフォメーション 個人情報管理責任者 privacy@ky-marketing.xxx.jp/privacy@geo-information.xxx.jp</p>
--

インターネットと政治、プライバシー、AI／ロボット — 2018年ワールド・
インターネット・プロジェクト日本チーム（JWIP）調査結果から

Internet and Politics, Privacy and AI/Robots: The Survey Results of the 2018
World Internet Project in Japan

小笠原盛浩	OGASAHARA, Morihiro	木村忠正	KIMURA, Tadamasa
石井健一	ISHII, Kenichi	遠藤薫	ENDO, Kaoru
橋元良明	HASHIMOTO, Yoshiaki	三上俊治	MIKAMI, Syunji

目次

0. 調査の概要	
0.1 JWIPの説明.....	小笠原 盛浩
0.2 調査方法概要.....	木村 忠正
1. インターネット利用の概況	
1.1 インターネット利用の有無（問2、問3、問6、問18）.....	小笠原 盛浩
1.2 インターネット接続環境（問4、問5）.....	小笠原 盛浩
1.3 インターネット上の情報収集活動（問8、問9）.....	橋元 良明
1.4 SNS等の利用（問7）.....	木村 忠正
1.5 コミュニケーション・コンテンツ共有（問10）.....	橋元 良明
1.6 オンラインゲーム・音楽利用（問11）.....	橋元 良明
1.7 インターネットバンキング／ショッピング（問13）.....	橋元 良明
1.8 インターネットリテラシー（問12）.....	橋元 良明
1.9 メディアへの信頼（問1）.....	石井 健一
2. インターネットと政治.....	木村 忠正
2.1 本章の問題意識	
2.2 OPOS-EC 研究調査の枠組	
2.3 OII 調査	
2.4 EC 度・政治的情報接触の国際比較	
2.5 MFT、SDO、VSA	
2.6 回帰分析	

- 3. インターネットとプライバシー.....石井 健一
 - 3.1 ネット上のプライバシー侵害経験（問 16、問 17）.
 - 3.2 関係流動性（問 19）
 - 3.3 対人関係におけるリスク回避傾向（問 20）
 - 3.4 ネット上のプライバシーに対する不安（問 21）.

- 4. AI／ロボット.....遠藤 薫
 - 4.1 AI／ロボット知識度(問 24)
 - 4.2 AI／ロボットの社会的受容の予想（問 32、問 33）
 - 4.3 AI／ロボットへの期待・不安（問 26、問 27、問 31）
 - 4.4 AI／ロボットで代替される仕事(問 28、29)
 - 4.5 AI／ロボットと規制（問 25、問 30）

- <補足資料> 質問票と単純集計結果.....三上 俊治

小笠原 盛浩	東洋大学社会学部
木村 忠正	立教大学社会学部
石井 健一	文教大学情報学部
遠藤 薫	学習院大学法学部
橋元 良明	東京大学大学院情報学環
三上 俊治	東洋大学名誉教授

本研究は、公益財団法人・放送文化基金 2017 年度研究助成「インターネット利用と社会的分断に関する国際比較研究」（代表・木村忠正）、公益財団法人・電気通信普及財団調査研究助成（2018-2019 年度）「ワールドインタネットプロジェクト研究」（代表・石井健一）、「学習院大学計算機センター2018 年度特別プロジェクト」（代表・遠藤薫）の助成により実施された。

0.1 JWIP について

本論文は、アメリカの USC を中心に世界 28 カ国と共同で取り組んでいる「ワールドインターネットプロジェクト (WIP)」の一環として、日本チームが 2018 年に実施した調査 (JWIP 調査) から得られた知見を報告するものである。WIP は 1999 年に米国の UCLA を中心に立ち上げられた国際共同研究プロジェクトである。2020 年現在、WIP には 28 カ国が参加しており、日本は 2000 年から正式に参加している。研究の目的は、国家や家庭にインターネット利用が広まるにしたがってどのような変化が生じているかを記録し、インターネットの社会的、政治的、経済的な影響を国際的かつ縦断的に明らかにすることである。そのため WIP はインターネット利用者・非利用者の比較などプロジェクト全体の問題関心にもとづいた共通質問を作成し、参加国が調査を実施する際に使用することとしている。2018 年 JWIP 調査ではこの WIP 共通質問と、日本独自の問題把握のためにインターネットと政治、プライバシー、AI・ロボットの関連に焦点を当てた JWIP 独自質問をたずねている。

0.2 調査方法概要

本研究の中核となる JWIP 調査は、日本全国人口比例による無作為抽出 60 地点におけるエリアサンプリング法により、18～69 歳男女を対象として、2018 年 11 月・12 月に留置訪問法で実査を行った。有効回答数 600。質問票は本論文末の単純集計表にあるが、WIP 共通質問と JWIP 独自質問を組み合わせている。

共通質問は、独自質問と切り離し、完全に独立させて訊くのではなく、独自質問と組合せ、ある質問において項目として含む場合もあるが、大きくは、単純集計表の間 1～6、8～13、15～17、21、22、42～47 が該当する。他方、独自質問は、大別して 3 つの問題意識にもとづいた質問項目から成り立つ。それらは、①社会的分断 (エコーチェンバー現象) を中心とする政治的情報行動と社会心理 (社会的支配志向性や道徳基盤理論等) との関係 (問 14、22、23、35～39)、②プライバシー意識等の情報行動と関係流動性などの対人関係心理との関連 (問 16、17、19～21)、③AI・ロボット等の新たな技術の社会的普及に関する意識 (問 24～33) に分かれ、本論文第 2 章から第 4 章にそれぞれ対応している。

1. インターネット利用の概況

1.1 インターネット利用の有無（問2、問3、問6）

2018年 JWIP 調査回答者のインターネット利用率（問2）は89.3%である。3.2%は3カ月以上前に利用していたが調査時点では利用を止め、7.5%はまったく利用経験がない。インターネット利用の有無を性・年齢層別に比較したものが表1.1.1である。男性の利用率92.1%に対して女性の86.6%は統計的に有意に低く、年齢層別では10・20代～40代が高く60代の64.1%が低い。男性の利用率が高い傾向はインターネット初期から続いており、若年層ほど利用率が高くなる傾向は薄まる一方、高齢者層が取り残されているようである。

調査回答者のネット利用期間（問6）の平均値は14.7年、性別では男性が15.4年、女性が13.9年であり有意に男性の方が長い（ $t(517)=2.68$, $p<0.01$ ）。

表 1.1.1 性別・年齢層別インターネット利用率

全体	性別		年齢層別				
	男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
89.3%	92.1%	86.6%*	98.1%	98.1%	95.7%	94.0%	64.1%***

χ^2 検定の結果、*: $p<0.05$ 、***: $p<0.001$

表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

インターネットを利用していない理由について、インターネット利用経験有無別に最もあてはまる理由をまとめたものが表1.1.2である。統計的検定は行わないが、利用経験がない者は利用経験がある者と比べて「興味がない」「使い方がわからない」の比率が高い。

表 1.1.2 利用経験有無別・インターネットを利用しない理由

	興味がない	利用価値がない	使い方がわからない	接続機器がない	料金が低い	時間がない	その他
利用経験有 (n=19)	31.6%	15.8%	10.5%	10.5%	5.3%	15.8%	10.5%
利用経験無 (n=45)	42.2%	2.2%	26.7%	13.3%	2.2%	8.9%	4.4%

1.2 インターネット接続環境（問4、問5）

問5ではインターネットをどのような回線から接続しているかたずねている（表1.2.1）。携帯・スマートフォンからの接続率が81.3%と圧倒的に高く、友人・隣人宅、職場・学校が続く。海外で多いとみられる公衆Wi-fiやネットカフェからの接続率は低水準である。

問5ではインターネット接続に使う端末別の利用頻度を「1日数回」～「使っていない」の6件法で回答させている。回答を利用の有無に変換して利用率を比較したものが表1.2.2である。パソコンとスマートフォン・携帯電話の利用率は男性の方が女性より有意

に高い。年齢層別では60代のスマートフォン・携帯電話からのネット利用率が有意に低く、テレビからの接続は10代が多く60代が低い。

表 1.2.1 インターネット接続回線タイプ別利用率

携帯・スマホ回線	携帯・スマホ以外の回線	友人・隣人宅の回線	職場・学校	公衆Wi-fi	ネットカフェ等
81.3%	3.5%	31.2%	18.5%	3.5%	0.2%

表 1.2.2 インターネット接続端末利用率

	全体	性別			年齢層別					
		男性	女性		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	
パソコン	83.3%	89.3%	76.8%	***	86.7%	82.7%	79.8%	89.2%	78.0%	
スマホ・携帯	96.6%	98.2%	94.9%	*	100.0%	100.0%	99.2%	96.3%	84.2%	***
タブレット	44.3%	48.1%	40.2%	†	46.6%	50.5%	44.7%	41.4%	36.3%	
テレビ	34.5%	35.1%	33.9%		50.5%	31.4%	36.8%	27.3%	23.1%	**

χ^2 検定の結果、†:p<0.1、*:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001

表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

次に、利用者限定して問5の回答結果を1カ月あたりの端末利用頻度に換算して比較したものが表1.2.3である。性別では男性の方がネット接続にパソコンを使う頻度が有意に高い。年齢層別では30～50代のパソコン利用頻度、10～40代のスマートフォン・携帯電話利用頻度が高い。タブレットからのネット利用頻度では60代の利用頻度が高いのは興味深い。

表 1.2.3 インターネット接続端末利用頻度（利用者限定）

	全体	性別			年齢層別					
		男性	女性		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	
パソコン	34.8	41.7	26.1	***	21.7a	32.3ab	41.6b	42.4b	35.2ab	***
スマホ・携帯	67.2	68.0	66.4		73.3c	70.7bc	68.6bc	64.2b	54.4a	***
タブレット	26.2	29.6	21.8	†	30.4ab	20.1a	20.1a	27.8ab	39.4b	*
テレビ	41.0	36.5	46.0	†	44.2	44.3	33.6	40.8	44.8	

t検定（性別比較）・一元配置分散分析の結果 †:p<0.1、*:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001

年齢層別比較の符号は、Tukeyの多重比較により同符号間では5%水準の有意差がないことを示す。

1.3 インターネット上の情報収集活動（問8、問9）

インターネットで人々はどのような情報収集活動を行っているのか、日常的な情報収集（問8）と、学習のためのネット利用（問9）に分けて、それぞれの利用頻度を性別、年齢層別に見ていく。

※なお、問 8、9 の回答選択肢は質問票上では以下のようにカテゴリー分けされている。

(1)1 日数回	(2)日に 1 回	(3)週に 1 回～数回	(4)月に 1 回～数回	(5)月に 1 回未満	(6)利用したことはない
----------	-----------	--------------	--------------	-------------	--------------

分析では、まず(1)～(5)のいずれかのうち、いずれかに○をつけた人(利用者)と(6)に○をつけた人(非利用者)に区分した。利用者の割合を「利用率」と記している。男女別、年齢層別での検定は、いずれも χ^2 検定である。

また、(1)～(6)を月ごとの利用頻度換算した数値で「月利用頻度」を算出した。その場合、(1)を月 75 回、(2)を月 30 回、(3)を月 10 回、(4)を月 2.5 回、(5)を月 0.5 回、(6)を月 0 回として計算した。月利用頻度の検定は、男女比較では t 検定、年齢層別比較では一元分散分析で F 検定(年齢層間では Tukey の多重範囲検定)による。

クロス集計および平均値の比較、分散分析の際、DK・NA 回答は削除している。

年齢層に関し、18 歳 19 歳の 10 代はサンプルが 18 と少なく、20 代と併せ「10・20 代」とした。

(1) ネットでの情報収集活動(利用率)

表 1.3.1 男女別、年齢層別にみたネットでの情報収集活動(利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
(地域、国内、国際)のニュースを知る	94.4%	94.2%	94.6%	ns	93.3%	98.1%	98.5%	89.0%	91.7%	**	536
旅行の情報を得る	80.6%	79.1%	82.2%	ns	78.1%	80.2%	81.8%	83.5%	78.6%	ns	536
求人情報を得る	41.6%	36.1%	47.5%	**	68.6%	49.1%	40.0%	29.4%	16.7%	***	534
健康についての情報を得る	75.5%	71.2%	80.2%	*	72.4%	78.3%	85.5%	73.4%	63.1%	**	535

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

ネットの利用内容について、問 8 で質問した項目の利用率を示したのが表 1.3.1 である。表に示される通り、「ニュースを知る」の利用率は全体の 94.4%であり、男女に有意差はない。年齢層別に見れば、40 代が有意に高く、50 代は有意に低い。

「旅行の情報を得る」の利用率は全体の 80.6%であり、男女別、年齢層別ともに有意差はない。

「求人情報を得る」の利用率は全体の 41.6%であり、男性より女性の方が有意に高い。年齢層別では 10・20 代が有意に高く、50 代、60 代で有意に低い。

「健康についての情報を得る」の利用率は全体で 75.5%、男性より女性の方が比率が高く、年齢層別では 40 代が有意に高く、60 代が有意に低い。40 代はいわゆる「働き盛り」だからかもしれない。

(2) 「ニュースを見る」で日に1回以上利用する人の割合

表 1.3.2 男女別、年齢層別にみた「ニュースを見る」(1日1回以上の比率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	
(地域、国内、国際の)ニュースを知る	69.6%	70.1%	69.0%	ns	61.9%	78.3%	74.2%	66.1%	65.5%	ns

表 1.3.1 の項目中、最も利用率の高かった「ニュースを見る」について、「1日1回以上美人の割合」を示したのが表 1.3.2 である。

表に示されるとおり、全体で1日1回以上見る人は69.6%いる。これに関して、男女別年齢層別ともに有意差はない。

(3) ネットでの情報収集活動(月ごとの利用頻度)

表 1.3.3 男女別、年齢層別にみたネットでの情報収集活動(月利用頻度)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
(地域、国内、国際の)ニュースを知る	42.1	42.7	41.4	ns	36.5 a	47.5 a	44.4 a	42.2 a	38.4 a	2.24ns
旅行の情報を得る	4.9	4.3	5.6	ns	6.6 a	4.3 a	6.3 a	3.9 a	2.6 a	1.59ns
求人情報を得る	2.1	1.5	2.7	ns	5.1 a	2.7 ab	0.7 b	1.2 b	0.7 b	4.11**
健康についての情報を得る	4.6	4.0	5.3	ns	5.5 a	6.1 a	4.6 a	3.0 a	3.8 a	1.47ns

数値は本節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女についてはt検定結果。年齢層別についてはF検定結果。数値右のabc..は、行ごとに横に見て、Tukeyの多重範囲検定で同符号間では危険率5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度でみると「ニュースを知る」は全体で月42.1回である。「旅行の情報を得る」以下の項目は、月ごとの頻度ではいずれも1桁である。いずれも男女差はなく、「求人情報を得る」については10・20代が他の年齢層より高頻度になっている。

(4) 学習のためのインターネット利用(利用率)

表 1.3.4 男女別、年齢層別にみた学習のためのネット利用(利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
言葉の意味・定義を調べる	91.0%	91.3%	90.7%	ns	95.2%	94.3%	95.5%	88.1%	78.3%	***	534
事実を調べたり、確認する	89.7%	90.2%	89.1%	ns	97.1%	95.3%	91.7%	84.4%	77.1%	***	534
学校の授業や勉強に関連する情報を得る	44.9%	43.6%	46.3%	ns	76.0%	51.4%	43.9%	38.9%	13.4%	***	532
学位を得たり、職場で必要なため、遠隔授業を受ける	13.5%	15.6%	11.3%	ns	23.1%	18.1%	12.9%	7.3%	4.9%	***	532

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

問9では「学校の授業のためや、学習のためのインターネット利用」について質問した。

まず、利用している人の割合を男女別、年齢層別に示したのが表 1.3.4 である。

「言葉の意味・定義を調べる」は全体の 91.0%の人が利用している。「事実を調べたり、確認する」も 89.7%と高い。「授業や勉強に関連する情報を得る」「学位を得たり、職場で必要なため、遠隔授業を受ける」などは、そもそも当該の行動が必要とされる人が限定されるため、利用率は低い。問 9 の 4 項目とも利用率に男女差はない。

一方、年齢層別に見れば、いずれの項目も、概して 10・20 代で利用率が高く、50 代 60 代で低くなっている。

(5) 学習のためのインターネット利用（月利用頻度）

表 1.3.5 男女別、年齢層別にみた学習のためのネット利用（月利用頻度）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
言葉の意味・定義を調べる	17.7	18.2	17.1	ns	23.0 a	16.7 ab	17.8 ab	17.0 ab	12.9 bc	2.10ns
事実を調べたり、確認する	18.8	20.6	16.8	ns	27.8 a	16.5 b	19.8 ab	17.6 b	10.1	6.26***
学校の授業や勉強に関連する情報を得る	7.1	7.5	6.6	ns	20.1 a	7.4 b	3.5 b	3.1 b	1.3 b	23.18***
学位を得たり、職場で必要なため、遠隔授業を受ける	2.2	1.8	2.6	ns	5.5 a	3.0 ab	1.4 ab	1.1 b	0.0 b	3.61**

数値は本節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc.. は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度で見ると「言葉の意味・定義を調べる」が全体で月 17.7 回、「事実を調べたり、確認する」が 18.8 回となっている。その他の項目も含め、いずれの項目も男女差はない。年齢層別に見れば、「言葉の意味・定義を調べる」以外、有意差があり、10・20 代が最も高頻度で利用している。

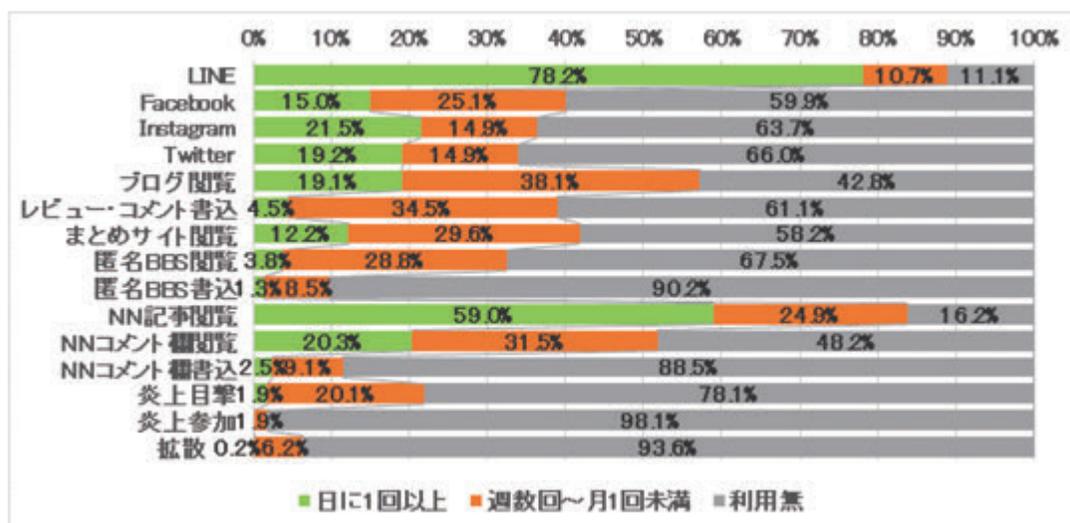
1.4 SNS 等の利用

21 世紀は「ソーシャルメディアの時代」と呼ぶこともできよう。本調査では、ソーシャルメディアに関連した問 7 において、図 1.4.1 にある 15 項目の利用をたずねた。単純集計表にあるように、利用（頻度）／非利用について、「日数回」「日 1 回」「週 1 回～数回」「月 1 回～数回」「月 1 回未満」「利用しない」の 6 選択肢だが、図 1.4.1 では、「日に 1 回以上」「週数回～月 1 回未満」「非利用」の 3 カテゴリーに分けて示す。

この 15 項目について、性年代別の観点から、表 1.4.1 をもとに概観しよう。LINE、Facebook、Instagram、Twitter の SNS 利用をみると、LINE が突出し、幅広い年代、男女を問わず普及している。全体¹の 9 割が利用し、利用者の 9 割近くが「1 日 1 回以上」利用と、日本社会のコミュニケーション手段として広く深く浸透していることが分かる。

¹ 本項では、回答者母数はネット利用者（非利用者は除く）であり、「全体」とは「ネット利用者全体」を指す。

図 1.4.1 ソーシャルメディア利用（問 7）15 項目の利用率



NN=ネットニュースサイト・アプリ

表 1.4.1 ソーシャルメディア利用（問 7）15 項目の性年代別利用率

	20男		20女		30男		30女		40男		40女		50男		50女		60男		60女		χ^2
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
LINE	98.1	1.9	94.1	5.9	81.5	14.8	88.5	7.7	79.4	14.7	84.1	6.3	65.5	12.7	83.0	9.4	46.7	15.6	47.4	21.1	***
Facebook	18.5	35.2	11.8	35.3	20.8	24.5	17.3	40.4	18.8	23.2	19.0	20.6	10.9	21.8	11.3	17.0	15.6	22.2	0.0	7.9	***
Instagram	46.3	14.8	54.9	17.6	13.0	13.0	25.0	30.8	11.6	18.8	27.4	14.5	7.3	10.9	17.0	11.3	2.3	9.3	5.3	2.6	***
Twitter	57.4	18.5	51.0	17.6	9.3	20.4	15.4	19.2	11.6	14.5	21.3	19.7	5.5	7.3	11.3	7.5	4.4	17.8	0.0	2.6	**
ブログ閲覧	25.9	27.8	19.6	54.9	18.5	48.1	19.2	51.9	23.5	29.4	20.0	45.0	14.8	37.0	17.0	37.7	15.2	26.1	13.2	18.4	**
レビュー・コメント書込	3.7	29.6	11.8	31.4	5.6	33.3	3.8	51.9	4.3	39.1	3.2	40.3	3.6	29.1	3.8	30.2	2.2	28.3	2.6	26.3	
まとめサイト閲覧	22.2	35.2	29.4	37.3	18.5	37.0	11.5	44.2	10.3	32.4	6.5	29.0	9.1	27.3	5.7	22.6	4.3	17.4	2.6	5.3	***
匿名BBS閲覧	16.7	29.6	3.9	35.3	7.4	38.9	1.9	28.8	2.9	35.3	0.0	35.5	1.8	30.9	1.9	22.6	0.0	15.6	0.0	2.6	***
匿名BBS書込	0.0	16.7	0.0	11.8	3.7	13.0	1.9	3.8	1.5	10.4	1.6	4.8	1.8	10.9	0.0	1.9	2.2	6.7	0.0	2.6	
NN記事閲覧	56.6	24.5	60.8	17.6	66.7	24.1	66.7	25.5	72.5	21.7	54.8	24.2	55.6	25.9	55.6	27.8	50.0	30.4	40.5	29.7	
NNコメント欄閲覧	24.5	34.0	25.5	25.5	26.4	39.6	21.2	34.6	27.5	29.0	12.9	32.3	21.8	30.9	17.0	32.1	13.3	31.1	7.9	23.7	
NNコメント欄書込	3.8	17.0	0.0	6.0	5.7	13.2	1.9	5.8	2.9	18.8	0.0	1.6	1.9	9.3	5.7	3.8	2.2	11.1	0.0	0.0	*
炎上目撃	7.4	37.0	5.9	29.4	0.0	31.5	0.0	25.0	0.0	22.1	0.0	8.1	0.0	20.0	3.8	9.4	0.0	10.9	2.6	2.6	***
炎上参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	*
拡散	0.0	18.5	2.0	5.9	0.0	7.4	0.0	5.8	0.0	7.4	0.0	4.8	0.0	3.7	0.0	3.8	0.0	2.2	0.0	0.0	

A 列=日に 1 回以上、B 列=週に数回~月 1 回未満、 χ^2 列: *** $p \leq 0.001$, ** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$

Facebook、Twitter、Instagramを比較すると、Facebookは年代、性別による差異が小さく、「月1回未満」が利用者の4分の1と、とりあえず登録し、たまにアクセスする人も多いのに対して、Twitter、Instagramは共通して、日に1回以上が双方とも20代では5割を超え、30代以上では2割前後以下と、20代利用が際立っている。但し、Twitterの場合、年代毎に男女で利用率にさほど大きな差がないのに対して、Instagramは30代、40代、50

代と女性の利用が高い。このように、SNS は、性年代によって利用率が大きく異なり、それぞれに大きな特徴がみられる。

ブログ閲覧、レビュー・コメント書込をみると、ブログ閲覧は全体で6割近く、レビュー・コメント書込も4割程度に達し、性年代でみても、広い年代に利用が広がっている。また、レビュー・コメントは、閲覧ではなく、書込が4割に上り、しかも、女性の方が男性よりも各年代で多い傾向を持つ。

ネット炎上との関連において重要となる、まとめサイト閲覧、匿名 BBS 閲覧の利用もまた社会的に広がっている。例えば、まとめサイト閲覧は、全体で4割、20代、30代では半数を越え、50代女性でも3割近い。また、ネットニュース（NN）閲覧、コメント欄閲覧、書込をみると、NN サイト・アプリが主要なニュース接触チャンネルとなっていること（全体の84%程度、30代男女、40代男性で9割以上、60代女性7割で、他は8割前後、「日に1回以上」も全体で6割近い）、半数以上（記事閲覧者の6割以上）がコメント欄を閲覧し、12%程度の人々がコメント欄に書込んでいる。このように、人々がネットで情報発信を行い、閲覧することが、日常生活に広範に浸透しており、ネット世論（ニュースに対するソーシャルメディア上の意見・態度の社会的分布）が生成、展開される素地を形成していると考えられる。

他方、「ネット炎上」について、炎上目撃は、全体で2割を越えるが、年代による差が大きい。また、Twitter 利用者の炎上目撃率が40%に対して、非利用者の目撃率は13%と、Twitter 利用が20代中心に広がっていることと炎上目撃とは強く関連している。「炎上参加」は、全体として2%に満たず、30代～60代男性のみである。「拡散（参加）」については、全体として6%だが、20代男性が18.5%と突出している。これは、炎上目撃と同様、Twitter との相関性が高く、Twitter 利用者が17%に対して、非利用者は1%に過ぎない。「炎上」「拡散」は、社会的な問題ではあるが、Twitter 利用者中心の現象であり、実際の関与者も限定的である。

1.5 コミュニケーション・コンテンツ共有（問10）

インターネット上でコミュニケーションしたり、コンテンツを創作・共有したりするようなことをどの程度するかを質問したのが問10である。

※なお、問10の回答選択肢は問8、9と同様、質問票上では以下のようにカテゴリー分けされている。

(1)1日数回	(2)日に1回	(3)週に1回～数回	(4)月に1回～数回	(5)月に1回未満	(6)利用したことはない
---------	---------	------------	------------	-----------	--------------

分析では、まず(1)～(5)のいずれかのうち、いずれかに○をつけた人(利用者)と(6)に○をつけた人(非利用者)に区分した。利用者の割合を「利用率」と記している。男女別、年齢層別での検定は、いず

れも χ^2 検定である。

また、(1)～(6)を月ごとの利用頻度換算した数値で「月利用頻度」を算出した。その場合、(1)を月75回、(2)を月30回、(3)を月10回、(4)を月2.5回、(5)を日0.5回、(6)を月0回として計算した。月利用頻度の検定は、男女比較ではt検定、年齢層別比較では一元分散分析でF検定（年齢層別にはTukeyの多重範囲検定）による。

クロス集計および平均値の比較、分散分析の際、DK・NA回答は削除している。

年齢層に関し、18歳19歳の10代はサンプルが18と少なく、20代と併せ「10・20代」とした。

(1) コミュニケーション・コンテンツ共有（利用率）

表 1.5.1 男女別、年齢層別にみたコミュニケーション・コンテンツ共有（利用率）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
メールを利用する	94.0%	93.9%	94.2%	ns	90.4%	97.2%	95.5%	99.1%	85.7%	***	535
ダイレクトメッセージを送る・チャットをする	45.4%	47.1%	43.5%	ns	70.2%	52.8%	46.9%	32.1%	19.5%	***	531
インターネットで電話をかけたり、受けたりする	61.0%	58.5%	63.7%	ns	72.8%	64.8%	57.6%	64.2%	42.9%	***	533
自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する	31.5%	29.5%	33.7%	ns	52.4%	34.9%	32.6%	22.0%	11.9%	***	536
他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする	29.3%	31.3%	27.1%	ns	54.3%	30.2%	28.0%	22.0%	8.3%	***	536

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

ネットでのコミュニケーション・コンテンツ共有利用内容について、問10で質問した項目の利用率を示したのが表1.5.1である。表に示される通り、「メールを利用する」は全体の94.0%であり、男女に有意差はない。年齢層別に見れば、50代が有意に高く、60代は有意に低い。

「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」の利用率は全体の45.4%であり、男女別には有意差がなく、年齢層別では10・20代が高く、50代60代では比率が低くなっている。

「インターネットで電話をかけたり、受けたりする」の利用率は全体の61.0%であり、男女差はなく、年齢層別では10・20代が有意に高く、60代で有意に低い。

「自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する」の利用率は全体で31.5%、男女差はなく、年齢層別では10・20代が有意に高く、50代、60代が有意に低い。

「他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする」の利用率は全体で29.3%、男女差はなく、年齢層別では10・20代が有意に高く、60代が有意に

低い。

(2) 「メールを利用する」で日に1回以上利用する人の割合

表 1.5.2 男女別、年齢層別にみた「メールを利用する」(1日1回以上の比率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	
メールを利用する	60.6%	62.8%	58.1%	ns	53.8%	63.2%	65.9%	65.1%	51.2%	ns

表 1.5.1 の項目中、最も利用率の高かった「メールを利用する」について、「1日1回以上利用する人の割合」を示したのが表 1.5.2 である。

表に示されるとおり、1日1回以上利用する人は全体で60.5%いる。これに関して、男女別年齢層別ともに有意差はない。

(3) コミュニケーション・コンテンツ共有(月ごとの利用頻度)

表 1.5.3 男女別、年齢層別にみたコミュニケーション・コンテンツ共有(月利用頻度)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
メールを利用する	42.5	44.1	40.9	ns	36.2 a	44.2 a	45.4 a	46.8 a	38.3 a	2.04ns
ダイレクトメッセージを送る・チャットをする	11.1	13.6	8.5	*	18.3 a	12.5 ab	11.8 ab	6.4 b	5.6 b	4.62**
インターネットで電話をかけたり、受けたりする	13.6	12.4	14.9	ns	19.0 a	14.5 ab	12.8 ab	12.0 ab	9.0 b	2.17ns
自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する	3.3	3.8	2.6	ns	5.6 a	2.4 a	4.1 a	2.1 a	1.6 a	2.05ns
他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする	3.2	3.3	3.0	ns	10.2 a	0.9 b	2.7 b	0.8 b	1.1 b	12.25***

数値は本節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女についてはt検定結果。年齢層別についてはF検定結果。数値右のabc..は、行ごとに横に見て、Tukeyの多重範囲検定で同符号間では危険率5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度でみると「メールを利用する」は全体で月42.5回である。「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」は11.1回、「インターネットで電話をかけたり、受けたりする」は13.6回であった。それ以外の項目は、月ごとの頻度ではいずれも1桁である。男女を比べると「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」だけが有意差があり、女性より男性の方が高頻度であった。年齢層別では、「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」「他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする」において有意差があり、いずれも10・20代が高頻度であった。

1.6 オンラインゲーム・音楽利用(問11)

(1) オンラインゲーム・音楽利用(利用率)

問11ではゲームや音楽の利用等について質問した。

まず、利用している人の割合を男女別、年齢層別に示したのが表1.6.1である。

表 1.6.1 男女別、年齢層別にみたオンラインゲーム・音楽利用(利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	全体N
ネットでゲームをする	65.3%	66.1%	64.5%	ns	86.7%	82.1%	71.5%	48.1%	29.8%	533
ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする	71.7%	72.6%	70.8%	ns	92.4%	83.0%	74.0%	56.5%	47.6%	534
動画配信サイト(Netflix, Amazon Prime Videoなど)を見たりダウンロードしたりする	51.4%	53.8%	48.8%	ns	70.2%	58.5%	49.2%	45.0%	31.0%	535
動画投稿サイト(YouTubeなど)を見たりダウンロードしたりする	80.2%	83.0%	77.1%	ns	97.1%	93.4%	81.1%	73.4%	50.0%	535
インターネット放送局(AbemaTVなど)の番組を見る	35.2%	39.4%	30.7%	*	51.9%	37.1%	34.1%	31.2%	19.0%	534
テレビ見逃し配信サービス(TVer, FODなどで番組を見る	29.9%	26.3%	33.9%	ns	41.9%	27.4%	27.5%	32.1%	19.0%	535
宗教・スピリチュアル関連のコンテンツを見る	7.1%	6.5%	7.8%	ns	9.5%	8.6%	8.3%	5.6%	2.4%	534
ネットでギャンブルしたり、宝くじを購入する	6.5%	9.0%	3.9%	*	5.7%	6.6%	9.8%	4.6%	4.8%	536
アダルト系コンテンツを見る	16.1%	28.6%	2.7%	**	17.3%	23.8%	16.7%	11.0%	10.7%	534
マッチングアプリ・サイトを見る	3.4%	4.4%	2.3%	ns	6.7%	2.9%	3.8%	1.8%	1.2%	533

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

全体で「ネットでゲームをする」が65.3%、「ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする」が71.7%、「動画配信サイトを見たりダウンロードしたりする」が51.4%、「動画投稿サイトを見たりダウンロードしたりする」が80.2%にも達する。

その他で「インターネット放送局の番組を見る」が全体で35.2%、「見逃し配信サービスで番組を見る」が29.9%でそれぞれ3分の1の人が利用している。

男女別で見れば、「インターネット放送局の番組を見る」「アダルト系コンテンツを見る」「ネットでギャンブル・宝くじ」において、女性より男性の方が利用率が高い。

年齢層別にみれば、多くの項目で有意差があり、10・20代の利用率が高く、50代、60代の利用率が低くなっている。

(2) オンラインゲーム・音楽利用(月利用頻度)

月ごとの頻度で見ると「ネットでゲームをする」が全体で月25.9回、「動画投稿サイトを見たりダウンロードしたりする」が22.5回等となっている。

「動画配信サイト」「動画投稿サイト」「インターネット放送局」「アダルト系コンテンツ」については、女性より男性の利用率が高い。

年齢層別に見れば、多くの項目で10・20代の利用頻度が高く、50代、60代の利用頻度が低くなっている。

表 1.6.2 男女別、年齢層別にみたオンラインゲーム・音楽利用(月利用頻度)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
ネットでゲームをする	25.9	27.9	23.7	ns	39.3 a	36.2 ab	25.4 bc	19.2 c	5.7 d	17.6***
ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする	17.7	18.8	16.5	ns	42.3 a	18.1 b	12.9 ab	8.9 ab	5.2 c	35.45***
動画配信サイト(Netflix, Amazon Prime Videoなど)を見たりダウンロードしたりする	9.9	12.8	6.8	***	17.8 a	11.4 ab	9.6 bc	6.5 bc	3.2 c	7.35***
動画投稿サイト(YouTubeなど)を見たりダウンロードしたりする	22.5	26.9	17.8	***	40.2 a	28.6 b	19.7 bc	14.3 cd	8.2 d	20.91***
インターネット放送局(AbemaTVなど)の番組を見る	4.6	6.1	2.8	**	9.2 a	4.9 ab	3.2 b	3.4 b	1.9 b	3.94**
テレビ見逃し配信サービス(TVer, FODなどで)番組を見る	2.2	2.4	2.0	ns	5.3 a	1.7 b	2.0 b	1.3 b	0.2 b	5.41***
宗教・スピリチュアル関連のコンテンツを見る	0.3	0.2	0.5	ns	0.4 a	0.5 a	0.5 a	0.1 a	0.1 a	0.68ns
ネットでギャンブルしたり、宝くじを購入する	0.3	0.4	0.2	ns	0.2 a	0.3 a	0.5 a	0.1 a	0.4 a	0.79ns
アダルト系コンテンツを見る	1.3	2.4	0.1	***	1.4 ab	2.7 a	1.4 ab	0.5 ab	0.1 c	2.21ns
マッチングアプリ・サイトを見る	0.4	0.5	0.4	ns	0.9 a	0.8 a	0.3 a	0.0 a	0.0 a	0.76ns

数値は 1.5 節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc.. は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

1.7 インターネットバンキング／ショッピングの利用 (問 13)

(1) インターネットバンキング／ショッピングの利用 (利用率)

表 1.7.1 男女別、年齢層別にみたインターネットバンキング／ショッピングの利用 (利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
製品についての情報を得る	88.4%	87.7%	89.1%	ns	90.5%	96.2%	92.4%	83.3%	76.2%	***	535
商品を購入する	80.4%	78.8%	82.2%	ns	82.9%	93.4%	86.4%	77.1%	56.0%	***	536
旅行の予約をする	57.2%	56.0%	58.5%	ns	59.0%	61.3%	59.8%	56.0%	47.0%	ns	535
請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する	36.8%	41.4%	31.8%	*	41.9%	39.6%	43.2%	31.2%	23.8%	*	536
株式、債券などの金融取引をする	12.0%	16.5%	7.0%	**	9.5%	5.7%	17.6%	12.8%	13.1%	ns	535
商品の価格やサービスの料金を比較する	68.2%	69.0%	67.4%	ns	63.5%	78.3%	75.8%	63.3%	56.0%	**	535
ネットでモノや情報売る	23.9%	26.3%	21.3%	ns	35.2%	22.6%	29.5%	19.3%	8.3%	***	536

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

問 13 ではインターネットバンキング／ショッピングの利用等について質問した。

まず、利用している人の割合を男女別、年齢層別に示したのが表 1.7.1 である。

全体で「製品について情報を得る」が 88.4%、「商品を購入する」が 80.4%、「商品の価格やサービスの料金を比較する」が 68.2%にも達する。

そのほかに「旅行の予約をする」が全体で 57.2%、「請求書の支払いをする／銀行オンラ

インサービスを利用する」が 36.8%でそれぞれかなり高い比率を示している。

男女別で見れば、「請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する」「株式・債権などの金融取引をする」において女性より男性の利用率が高い。

年齢層別にみれば、ほとんどの項目で有意差があり、概して 30 代、40 代の利用率が高く、60 代の利用率が低くなっている。10・20 代の利用率は「ネットでモノや情報を売る」以外、他の年齢層に比べ、いずれの項目もさほど高くない。

(2) インターネットバンキング／ショッピングの利用（月利用頻度）

表 1.7.2 男女別、年齢層別にみたインターネットバンキング／ショッピングの利用
（月利用頻度）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
製品についての情報を得る	12.0	12.0	11.9	ns	15.6 a	12.6 ab	14.3 ab	8.5 ab	7.5 b	3.22*
商品を購入する	3.5	3.5	3.4	ns	5.0 a	3.3 a	4.0 a	2.5 a	2.1 a	2.16ns
旅行の予約をする	0.8	0.7	0.8	ns	1.5 a	0.5 a	0.7 a	0.5 a	0.7 a	1.27ns
請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する	1.7	1.9	1.4	ns	2.6 a	1.9 a	1.5 a	1.1 a	1.2 a	0.79ns
株式、債券などの金融取引をする	0.7	0.8	0.6	ns	0.3 a	0.8 a	0.5 a	0.7 a	1.4 a	0.69ns
商品の価格やサービスの料金を比較する	4.1	5.1	2.9	*	4.8 a	4.7 a	4.1 a	4.1 a	2.3 a	0.83ns
ネットでモノや情報を売る	1.5	1.9	1.0	ns	1.5 a	1.4 a	1.8 a	1.4 a	1.1 a	0.12ns

数値は 1.5 節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc.. は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度で見ると「製品についての情報を得る」が全体で月 12.0 回で、それ以外の項目は 1 桁である。

男女別に見れば、「商品の価格やサービスの料金を比較する」だけが有意差があり、女性より男性の方が頻度が高い。

問 13 の各項目を年齢層別にみれば、「製品について情報を得る」で若年層の頻度が高いのを除き、いずれも年齢層別に有意差はない。

1.8 インターネットリテラシー（問 12）

問 12 では各種のインターネット利用に関するリテラシーを質問した。

質問の回答選択肢は「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」「まああてはまる」「あてはまる」の 5 択であったが、この節の分析では、「あてはまる（「あてはまる」と「まああてはまる」を合算）」とそれ以外の「あてはまらない」の 2 値に分けた。

表 1.8.1 に示される通り、「ダウンロードしたファイルの開き方を知っている」と答えた人は全体の 63.4%、「アプリをスマートフォンなどのモバイル木岐にダウンロードするやり

方を知っている」と答えた人は 58.1%、「オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単」と答えた人は 49.7%であった。一方、「インターネット上のコンテンツをシェア（共有）する相手を変えるやり方を知っている」と答えた人は 24.3%、「コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている」と答えた人は 18.4%にとどまった。

いずれの項目も男女に有意差はない。

表 1.8.1 男女別、年齢層別にみたインターネットリテラシー（該当者の比率）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
ダウンロードしたファイルの開き方を知っている。	63.4%	64.4%	62.4%	ns	76.2%	73.6%	59.8%	53.2%	53.6%	***	536
オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単である。	49.7%	48.7%	50.8%	ns	65.7%	57.5%	45.0%	41.3%	38.1%	***	535
インターネット上のコンテンツをシェア（共有）する相手を変えるやり方を知っている。	24.3%	25.3%	23.2%	ns	40.0%	29.5%	20.9%	17.4%	12.0%	***	531
コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている。	18.4%	19.1%	17.5%	ns	21.9%	24.5%	15.3%	13.8%	16.9%	ns	534
アプリをスマートフォンなどのモバイル機器にダウンロードするやり方を知っている。	58.1%	57.8%	58.5%	ns	75.2%	69.8%	55.7%	46.8%	40.5%	***	535

※数値はあてはまると答えた人の割合。アスタリスクは、各属性（性別、年齢層）×各回答 [あてはまる／あてはまらない] のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準（両側検定）で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

年齢層別にみて、「コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている」以外の項目では有意差があり、いずれも 10・20 代の該当率が高く、50 代、60 代の該当率が低い。

1.9 メディアへの信頼（問 1）

インターネット、テレビ、新聞の各々の信頼度を測定した結果が表 1.9.1 である。このうち、インターネットの質問だけが、もともとの WIP の共通項目であり、テレビと新聞は、比較のために日本チームの質問文において追加されたものである。インターネットと他のメディアを比べると、インターネットにおいて「大部分」の比率が 20%以上少なくなっており、テレビや新聞に比べてインターネットへの信頼度が著しく低いことがわかる。

結果を見やすく比較するため、「全部」と「大部分」の合計比率を「信頼率」として、各メディアに対する信頼の比率を性別、年齢グループ別に求め、カテゴリー間に統計的な有意差があると言えるかどうか、カイ 2 乗検定をおこなった。男女別の差をみたところ、テレビのみで統計的な有意差がみられた。女性の方が男性よりもテレビを信頼する傾向がある。また、年齢層による差をみたところ、年齢が高くなるほど信頼度が高くなるという傾向が、インターネットとテレビについて見られた。なお、インターネットへの信頼とインターネットの利用時間の間には統計的に有意な関係は見られなかった。インターネットを信頼している人のインターネット利用時間（1 日あたり）は 37.6 分 (N=102) であるのに対

して、信頼していない人のインターネット利用時間は 41.9 分 (N=497) であるが、分散分析の結果は統計的に有意な差は見られなかった (F=0.263, p=0.608)。つまり、インターネットの利用時間とインターネットへの信頼とは関係がないといえる。

表 1.9.1 メディアへの信頼 (%、N=600)

	まったくくない	一部	半々くらい	大部分	全部
インターネット	3.8	23.7	55.5	15.2	1.8
テレビ	1.0	12.8	42.2	40.8	3.2
新聞	2.8	9.2	26.5	56.2	5.3

表 1.9.2 男女別のメディアへの信頼率

	男性	女性	X ²
インターネット	16.6%	17.4%	.085
テレビ	45.5%	54.5%	4.49 *
新聞	59.9%	63.1%	.630

表 1.9.3 年齢別のメディアへの信頼率

	10-20 代	30-40 代	50-60 代	X ²
インターネット	9.3%	16.7%	20.6%	6.79 *
テレビ	38.3%	40.2%	50.2%	6.67 *
新聞	59.9%	63.1%	61.5%	0.630

2. インターネット利用と社会的分断

2.1 本章の問題意識

2010年代、スマートフォンが普及し、Facebook、TwitterなどのSNSやYouTubeなどの動画共有サイトの利用がグローバルに拡大するに従い、ソーシャルメディアと政治的活動との関係についての関心、議論が高まってきた。2011年からの「アラブの春」を巡っては、「ソーシャルメディア革命」論（ソーシャルメディアが独裁政権維持を困難にし、民主主義革命を促す）といった立場も主張されたが、2016年のアメリカ大統領選挙を契機に、分断化、部族主義、世論操作、民主主義の危機などに焦点があたるようになってきた。

本章で報告する研究（「ネット世論研究」、以下、OPOS（"Online Public Opinion Study"の略、「オーポス」と読ませる）は、本論文全体の基盤となる JWIP 調査を含み拡張したもので、ネット世論形成に関連する情報行動と政治的態度との関係を、社会的支配志向性や道徳基盤等の社会心理的尺度との連関で分析することを目的とした大規模な調査研究プロジェクトである。本章では、その OPOS の一部として、「エコーチェンバー」現象（個人が自らの嗜好性に適合的情報のみに接し社会的分断が進展する現象、以下、「EC 現象」「EC 効果」と表記することもある）の観点から、情報行動と政治的態度との関係を国際比較し、日本社会の現状を分析、把握することにしたい（以下、本章で展開する研究は、「OPOS-EC 研究」と表記する）²。

2.2 OPOS-EC 研究調査の枠組

WIP の中心的メンバーであり、OII (Oxford Internet Institute) 所長を務めた William Dutton が、ミシガン州立大学 Quello Center で実施したプロジェクト Quello Search Project: "The Part Played by Search in Shaping Political Opinion"（以下、「QSP」と表記）は、EC 現象を含む、政治行動・態度・意見と検索行動・ネット行動との関係に関するオンライン調査を、2017年1月欧米7カ国（米英仏独伊西ポーランド）で実施した（Dutton et al. 2017）。各国とも18歳以上、無作為抽出による設計サンプル約2000名である。さらに、この国際比較調査を踏まえ、OII の Dubois と Blank は、2017年12月英在住ネット利用者無作為抽出2000名を対象として同様の調査を行った（Dubois and Blank 2018）。以下、2017年1月7か国調査は「QSP 調査」、12月のイギリス調査は「OII 調査」と表記する。

他方、木村（2018：第10章）は、ネット世論に関して、Twitter、5ちゃんねる、ニュ

² OPOS-EC 研究は、(公益)放送文化基金2017年度研究助成を受けており、放送文化基金への報告書が、本章の元となっている。基金報告書は基金のホームページで公開されるが、紙幅の制約から本章の一部のみとなっていることを予めご承知おきいただきたい。

ースサイトコメントなどの大量なソーシャルデータをもとに計量テキスト分析を進めるに伴い、政治的投稿に、道徳的価値観（善悪、正誤、正義・不義といった道徳的判断）が強く働いていることに着目し、道徳心理学的理論をもと、ネット世論関係の情報行動との関係を考究している。

こうした既存の研究を踏まえ、OPOS-EC 研究では、オフラインの JWIP 調査とともに、オンライン調査を設計、実施した。以下、オフライン JWIP 調査を、「(JWIP) 留置調査」、オンライン調査を「(JWIP) ウェブ調査」と表記する。留置調査は紙幅の関係から OPOS-EC 研究センターに絞り込み、他の OPOS 研究に関する質問はウェブ調査で行っている。OPOS-EC について、同じ質問項目をオフライン、オンライン両調査で行うことにより、ウェブ調査の偏りについて分析し、OPOS 研究全体に反映させることも意図している。

JWIP 留置調査において、EC 関連独自質問項目は、①QSP における EC 関係の質問文（QSP をもとに JWIP に合わせて翻案）（問 14、23）、②MFT（Moral Foundations Theory、道徳基盤理論）（問 35、37）、③SDO（Social Dominance Orientation、社会的支配志向性）（問 39）、④VSA（Very Short Authoritarianism、RWA（Right Wing Authoritarianism）からの発展形の一つ）（問 38）である。

他方、JWIP ウェブ調査は、2018 年 10 月、ウェブ調査会社のモニター17～69 歳男女を対象とし実施した。有効回答数 1500。地域に関して、関東、東海、関西の 3 地域で人口比に対応して、それぞれ 5 割、2 割、3 割となるよう割付け、さらに、それぞれの地域で、10 代～60 代の 6 区分（但し 10 代のみ他の世代の 5 分の 3）、男女で均等になるよう割り付けた。留置調査でたずねた①～④の質問文は同様である。

ここでは、①～④について、簡略ではあるが具体的に説明する。

① OII 調査では、政治分野のニュース、情報、議論に接するときへの対応として、A) 自分には同意できない情報・報道・意見に目を通すこと（Disagree）、B) あなたが普段目にする情報源とは異なる情報源で調べてみる（Different）、C) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、ネット上の別な情報源を探し、正しいかどうかチェックすること（Confirm）、D) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、主要なオフラインのニュースメディアをチェックし、正しいかどうか確かめること（Offline）（QSP には無）、E) ネットで検索していて、政治的問題・争点について、自分の考えを変えるような情報、議論に出会うこと（Changed）の 5 項目³を EC の尺度とした。それぞれに肯定的であれば EC 度は低く、否定的であれば EC 度が高い。

JWIP では、上記 QSP、OII 調査の質問項目を参考にしながら、まず、大きく「インターネットで」と「印刷物（新聞、雑誌、書籍）、テレビ、ラジオのマスメディア（ネットでの

³ QSP、OII 調査では、A) ～D) が、never⇔rarely⇔sometimes⇔often⇔very often の 5 件法、E) が never⇔rarely⇔occasionally⇔often の 4 件法による回答。

記事・書籍・番組は除く)で」とに分け、上記A)、B)、C)、E)4種類(但し、「印刷物・マスメディア」においてC)は「ネット上情報源」ではなく「印刷物・マスメディアの別情報源」)に加え、次の4項目をEC設問として考案した(紙幅の関係で「インターネットの場合」のみを示す)。F)自分の考えに反する意見、議論を見て、不快感や怒りを感じること(Enraged)、G)ネットの情報源で、自分の考えが正しいことを改めて認識すること(Reconfirm)、H)自分の考え方に関係なく、本当のことを知ろうとして、様々な情報源を調べること(Truth)、I)自分が関心のある政治的問題・争点について、より多くを知るために、いろいろな情報源でニュースに接すること(More)。F)、G)は逆転項目として位置づけられており、JWIPの場合、回答はすべて、よくある、しばしばある、ときどきある、あまりない、全くない、の5件法である。

② MFTはHaidtらが2000年代に発展させてきた道徳心理学における理論である(Haidt 2013)。道徳的判断と行動を、理性ではなく情動を伴う直観にもとづくとするSocial Intuitionism(社会的直観主義)に因り、<ケア/危害>、<公正/欺瞞>、<内集団(忠誠)/背信>、<権威/転覆>、<聖/不浄>、<自由/抑圧>という6つの情動が、道徳基盤を構成すると主張する。これら6情動の高低パターンと政治的態度・志向性(アメリカにおける「保守」「リベラル」「リバタリアン」)との間に強い相関性があることを実証的に示してきた。木村(2018)は、日本社会においてMFTにもとづき、「保守」、「リベラル」それぞれのパターンと情動の強さによる複数のレベルを識別でき、ネット世論、炎上に関連する情報行動とも相関性があることを明らかにした。

これら6情動を測るMFT質問は、ある人の行為が道徳的に正しいか間違っているかを判断するときの基準としての関連性を訊く質問群(A群、問35)と道徳的価値観への同意を訊く質問群(B群、問37)からなり、完全版はA群17問、B群22問の合計39問だが、本研究では問35、37にあるように、それぞれ12問、合計24問の短縮版を用いた。

③④ MFTとともに、政治的態度・志向性との関係で議論されてきたのが、SDOとRWAである。SDOはPrattoら(Pratto et al. 1994)により提案された集団間差別に関する心理的尺度(社会を集団間の競争と考え、集団間に優劣があり、ある集団が別の集団に対して優位に立つことを正当と考える傾向)であり、本研究では16項目版をもとにした8項目版(問39)を用いた。VSAは、Bizumic and Duckitt(2018)が、AltemeyerのRWA(右翼的権威主義)をACT(Authoritarianism, Conservatism, Traditionalism)という3次元から構成されるものとし提案したものである。SDO、VSA、RWAは、ナショナリズム、偏見・差別、自民族中心主義、権威主義などを説明する社会心理的尺度であり、本稿では触れないが、MFTとの関係についての研究も展開されている。

2.3 OII 調査

先述のように、Dubois と Blank (2018) は、EC を、Disagree、Different、Confirm、Offline、Changed という 5 項目で測定している。これはつまり、EC を、個人が自らの政治的意見に固執している程度、異なる意見、多様な意見に耳を傾け、正しい情報を求める情報行動を行わない程度として捉えている。Dubois と Blank は、このような EC 度が、ニュース接触における「メディア多様性 (Media Diversity、以下「MD」と表記)」と「政治的関心の強さ」に反比例することを示した。

MD とは、ニュース、政治的情報接触のメディアチャンネル多様性のことである。OII 調査では、オフラインメディア 6 項目 (㊶テレビ、㊷ラジオ、㊸新聞・雑誌、㊹政治家・政党配布情報、㊺家族・友人、㊻慈善団体等)、オンラインメディア 6 項目 (㊼ネット検索、㊽電子メール、㊾ネットニュースサイト、㊿ソーシャルメディア、㊽政治家・政党ウェブサイト、㊾動画サイト) の計 12 項目について、利用頻度を「けてない」から「よくある (ほとんどいつも)」の 5 件法できき、それぞれ 0~4 で得点化 (得点 0~48) された。JWIP では、オフライン 4 項目 (㊶~㊹)、オンライン 4 項目 (㊼、㊽~㊿) の計 8 項目 (得点 8~40) で得点化することとした。

直観的に MD は EC と相関している (MD が高まれば EC は低下する) ように思われるが、概念的に MD は EC とは独立している。つまり、自らの政治的意見に固執し、異なる意見に耳を傾けない EC 度が高い個人が、MD を構成する多様な情報チャンネルで、同質的情報にのみ接する場合や、ソーシャルメディアだけ利用するが、多様な意見に耳を傾け、EC 度が低い場合も十分にありうる。それはソーシャルメディア (以下「SM」と表記) の場合で考えればより明確だろう。SM は多様だが、異なる SM 利用が EC 度と関連するか否かは実証的に検証されるべき課題である。そこで、OII 調査では、SM 多様性 (以下「SMD」と表記) を、Facebook、Twitter、Instagram など 12 のソーシャルメディアでのアカウント保持数 (得点 0~12) として規定した (JWIP では、Facebook、Twitter、Instagram、LINE、ブログ 5 種類の利用有無・頻度合計 (得点 0~15))。仮に、MD、SMD が EC 度に影響を与えているのであれば、多様な情報流通チャンネルを育み、接触を促すことが民主主義にとって重要と考えることもできる。

他方、政治的関心と EC もまたは独立しているが、政治的関心が高いと EC もまた高いとも考えられる。あるいは、政治的関心の高い個人が、特定のメディアに積極的に接することによって、EC 度が高まることも十分考えられる。したがって、MD、SMD、政治的関心、EC との関係をつかえることが重要となる。

Dubois と Blank (2018) は、統制変数として、人口学的属性 (年齢、性、婚姻状態、就労状態 (就労・退職・失業)、学歴、世帯収入)、保守・革新イデオロギー尺度 (JWIP 問 40)、ネット利用スキル (JWIP 問 12 が対応)、政治参加 (候補者・政党支援のための活動、政党

員、他者との議論、説得など、11項目（それぞれ有／無）（JWIPには対応なし）、説明変数として、a) 政治への関心（JWIP問34(4)）、b) MD、c) SMDを投入し、EC5項目それぞれを目的変数とする回帰分析を行った。

その結果、MDが5項目すべてで0.1%水準、SMDが0.1%水準（1項目）、1%水準（4項目）、政治的関心とネット利用スキルが0.1%水準（3項目）、5%水準（1項目）、政治参加が1%水準（2項目）、5%水準（1項目）で有意。つまり、MD、SMDが高ければ高いほど、政治的情報への多様なチャンネル、ソーシャルメディアを利用していればいるほど、EC度は有意に低く、政治的関心、政治参加が強ければ強いほど、EC度がやはり低い。さらに、保守・革新尺度で、最も保守寄り2水準、最も革新寄り2水準の回答者のみでも、また、政治的関心がないとの回答者だけを分析しても、同様の結果であった。つまり、FacebookやTwitterという単一のプラットフォームでは、homophily、ECが観察されたとしても、大半の人々は、高度に多元化した選択の情報メディア環境において、複数のメディアに接触し、使い分けることで、ECに陥ることがないと考えられる。

2.4 EC度・政治的情報接触の国際比較

上記のようなOII調査を受け、OPOS-EC研究の分析を行った。紙幅の関係から、ここでは3種類の分析結果のみを報告する。まず、QSP7か国調査データとの比較を、EC関係と政治的情報接触について概観する。OII調査EC5項目の内、QSPとJWIPに共通しているのは4項目（Disagree、Different、Confirm、Changed）である（表2.4.1）。4項目はいずれも同意の場合EC度が低いため、表の「5」～「1」は、5件法の回答における「全くない」＝5から「よくある」＝1とし、平均が高ければEC度が高い（ChangedはQSPが4件法のため、1=1, 2=2.333, 3=3.667, 4=5で換算）。

表に示されているように、7か国と比較し、日本は相対的にEC度が高い。いずれの項目も中立点は3であり、QSP7か国の内、伊、波蘭、西、米4か国は、Changedこそ3点を若干超えるが、他の3項目については3点未満であり、社会全体として中立点よりもEC度が低く、異なる意見、情報源に耳を傾ける傾向が強い。英仏独はEC度が中立点よりもやや強く、英独は4項目中3項目、仏は4項目とも3点を超える。ところが、日本の場合、留置調査、ウェブ調査、印刷物接触、ネット接触問わず、多くの場合3.5を越える。回答の分布をみても、ECに囚われない肯定的な回答は、ConfirmやChangedでは1割前後に留まっており、印刷物でも、ネットでも、事実を確かめたり、異なる意見に触れて自分の意見を変えることがあまりない。

表 2.4.1 QSP7 か国・JWIP 留置、ウェブ調査での EC4 項目の比較

	Confirm						Changed*					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
FR	15.8	14.5	35.8	24.7	9.2	3.03	29.7	33.9		29.6	6.8	3.49
DE	14.8	18.4	38.7	21.1	7.1	3.13	30.2	39.4		25.2	5.2	3.59
IT	9.3	12.9	35.2	32.2	10.4	2.79	20.0	34.7		32.3	13.1	3.16
PL	6.8	12.2	35.4	33.5	12.1	2.68	14.8	36.2		37.6	11.5	3.06
ES	9.2	10.5	35.4	28.4	16.5	2.68	17.4	37.9		34.7	10.0	3.17
UK	13.9	15.3	37.7	23.7	9.4	3.01	28.4	36.9		27.8	7.0	3.49
US	8.2	10.7	35.1	29.7	16.3	2.65	17.2	38.8		33.7	10.3	3.17
留置・印刷	17.9	48.7	24.4	7.0	2.0	3.73	13.0	47.6	32.7	5.7	1.0	3.66
留置・ネット	34.6	30.5	24.7	8.0	2.2	3.87	33.2	40.7	22.0	3.2	0.9	4.02
ウェブ・印刷	17.9	32.4	36.1	10.2	3.3	3.51	14.8	37.1	38.0	8.5	1.6	3.55
ウェブ・ネット	17.5	30.0	37.1	11.9	3.4	3.46	19.5	33.5	35.5	9.2	2.3	3.59

*Changed=QSP が 4 件法 (Never、Rarely、Occasionally、Often) のため、1=1, 2=2.333, 3=3.667, 4=5 で換算

	Disagree						Different					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
FR	13.1	15.4	42.9	21.4	7.2	3.06	17.0	19.0	38.8	18.6	6.6	3.21
DE	7.2	14.1	46.7	24.3	7.7	2.89	18.9	28.8	38.2	10.2	3.8	3.49
IT	7.2	11.0	39.1	33.2	9.4	2.73	9.6	15.1	39.7	27.5	8.2	2.91
PL	6.3	15.1	41.6	29.1	7.9	2.83	7.7	16.7	41.7	26.5	7.4	2.91
ES	8.0	12.8	40.8	28.1	10.3	2.80	9.2	16.2	38.0	25.9	10.8	2.87
UK	8.9	11.8	44.7	24.9	9.7	2.85	15.9	22.4	38.8	16.7	6.2	3.25
US	6.3	11.0	45.2	25.8	11.7	2.74	10.0	17.1	41.5	21.7	9.7	2.96
留置・印刷	7.8	32.7	38.5	16.8	4.2	3.23	13.7	50.0	27.7	7.7	1.0	3.68
留置・ネット	23.6	29.5	28.6	13.3	5.0	3.53	28.0	36.9	23.9	8.4	2.8	3.79
ウェブ・印刷	10.7	23.7	44.3	16.1	5.3	3.18	14.9	33.9	35.8	11.9	3.5	3.45
ウェブ・ネット	12.6	25.7	42.7	14.7	4.3	3.28	16.1	30.6	38.2	12.0	3.1	3.45

但し、日本の留置調査とウェブ調査を比べると、留置の方がより EC 度が高く、ウェブ調査モニターは、相対的に EC 度が低い。ウェブ調査モニターは、ネット非利用者、非モニター者に比べてネット利用に積極的と考えられるが、本研究では、そのモニターたちの EC 度が相対的に高くなることはなく、これは、ネットの活発な利用が EC を促進するという EC に関して語られる懸念は当たらないことを示唆していると解することができます。しかしながら、留置調査の印刷物とネットでの情報接触を比べると、印刷物に比べ、ネットでの情報接触の方が、政治的情報に関して EC 度が高くなっており、この点はさらに分析が必要である。

さて、QSP7 か国と比較可能な政治家・候補者・政党ウェブサイト、ネットニュースサイト、ソーシャルメディアでの政治的情報への接触に関する回答の分布をまとめたのが表 2.4.2 である。この表では、「よくある」=5 から「全くない」=1 とし、平均も算出して

いる。この表からも、波蘭が最も政治的情報接触が活発で、西、伊、米と続き、英仏独はどの項目も中立点未満と、EC度と同様の傾向を見せている。そして、日本の場合も同様に、政治的情報への接触がきわめて限られている。

このように、日本社会では、政治的情報へのオンラインでの接触自体が限られており、社会全体としてEC度が相対的に高いことはまず十分認識する必要があるだろう。

表 2.4.2 QSP7 か国・JWIP 留置、ウェブ調査での政治的情報ネット接触の比較

	政治家・候補者・政党ウェブサイト						ネットニュースサイト						ソーシャルメディア					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
FR	3.8	11.7	22.4	21.3	40.8	2.16	6.6	22.6	31.9	18.5	20.4	2.77	7.2	13.8	22.6	19.0	37.5	2.35
DE	3.6	9.9	25.5	24.3	36.7	2.19	10.1	25.1	32.1	17.6	15.1	2.98	5.9	13.7	24.3	19.2	36.9	2.33
IT	4.2	11.9	25.0	24.8	34.1	2.27	9.1	28.5	35.8	15.5	11.1	3.09	8.5	20.0	29.4	21.6	20.4	2.74
PL	6.3	20.2	34.1	24.4	15.0	2.78	11.3	35.7	33.9	13.1	6.1	3.33	11.6	25.6	28.5	19.7	14.6	3.00
ES	5.9	14.6	23.5	22.7	33.4	2.37	14.9	36.1	30.6	10.1	8.4	3.39	12.6	22.0	28.0	18.3	19.1	2.91
UK	4.5	10.3	23.7	23.1	38.4	2.19	10.3	23.3	32.7	16.4	17.4	2.93	6.9	13.0	25.1	16.8	38.2	2.34
US	7.2	15.2	28.5	21.3	27.8	2.53	11.7	23.3	36.4	14.5	14.1	3.04	11.3	16.4	25.6	18.3	28.4	2.64
留置	1.5	4.0	12.0	41.2	41.2	1.83	5.3	11.4	27.5	28.2	27.5	2.39	2.5	7.5	19.8	33.0	37.2	2.05
ウェブ	1.3	5.1	17.5	26.3	49.8	1.82	5.9	15.3	29.8	21.0	28.0	2.50	3.5	9.2	21.7	25.0	40.6	2.10

2.5 MFT、SDO、VSA

JWIP 調査で独自項目として設けた MFT (問 35、37)、SDO (問 39)、VSA (問 38) についてだが、詳述する余地がないため、次節で報告する回帰分析に投入した変数を明確にし、留置調査における、回答者全体と性年代別の大きな傾向をまとめておくに留める。表 2.5.1 は、VSA、SDO、それぞれについて、構成する質問項目とその単純平均としての VSA、SDO をまとめている。6 件法でたずねており、各項目、権威主義的、支配志向であれば得点が高くなるように、「0」～「5」で得点化した。したがって中立点は 2.5 である。

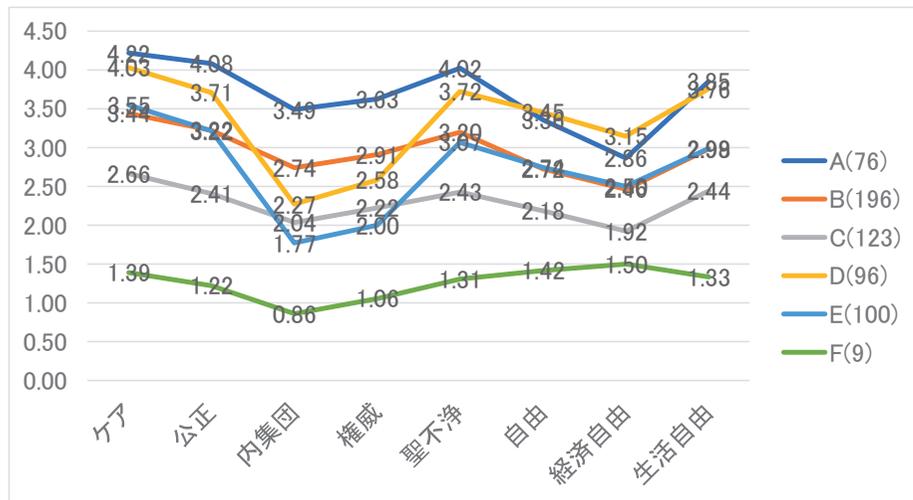
表をみると、VSA の場合、「・・・法と秩序を守りたいのであれば、問題を引き起こす人々を、もっと厳しく取り締まる必要がある」という項目に賛成が多い反面、「・・・すべての人が、団結して、指導者たちに従うことだ」には反対が多く、全体としては中立点に近い。性年代でみると、女性では若年層は低く、高齢者は高い傾向が認められる。SDO は、全体としては中立点よりも低く、女性は総じて 2.1～2.2 と強くないが、男性は 20 代～40 代が 2.4～2.5 と相対的に高い。劣った集団の存在があると認識し、所得格差をなくす方向に消極的、人々を平等に扱うことが社会的問題を減少させるとは考えない傾向がみられる。ただ、今回の調査データでは、クロンバックの α 係数が、VSA は 0.240、SDO は 0.651 と、尺度としての信頼性は高くない。

表 2.5.1 留置調査における VSA、SDO の概要

JWIP留置	全体	20女	30女	40女	50女	60女	20男	30男	40男	50男	60男
問38.VSA	2.455	2.330	2.490	2.500	2.566	2.609	2.451	2.367	2.375	2.372	2.460
1.若者権威反抗R	2.349	2.020	2.333	2.324	2.586	2.318	2.278	2.455	2.275	2.466	2.413
2.規律団結服従	1.804	1.654	1.942	1.750	1.776	1.776	2.037	1.745	1.826	1.724	1.828
3.神の摂理	2.713	2.808	2.943	2.881	2.707	2.954	2.759	2.491	2.478	2.571	2.556
4.婚前交渉R	2.049	1.846	1.925	1.882	2.293	2.754	2.074	1.764	1.671	1.931	2.297
5.強い政府・厳格法不必要R	2.502	2.346	2.396	2.574	2.638	2.585	2.370	2.527	2.657	2.439	2.406
6.法秩序取締り	3.310	3.255	3.491	3.612	3.397	3.242	3.185	3.218	3.333	3.138	3.190
問39.SDO	2.238	2.235	2.174	2.193	2.112	1.940	2.439	2.507	2.424	2.223	2.165
1.劣位集団の存在	2.551	2.627	2.451	2.515	2.483	2.455	2.564	2.685	2.743	2.316	2.645
2.集団間好運差異是認	1.976	2.098	1.962	1.851	1.862	1.493	2.364	2.345	2.129	1.948	1.839
3.他集団踏み台	2.170	2.353	2.288	2.209	1.948	1.567	2.436	2.618	2.457	2.103	1.839
4.劣位集団身分相応	1.745	1.627	1.755	1.627	1.534	1.328	1.964	2.000	1.913	1.839	1.919
5.集団間平等理想R	2.240	2.196	1.981	2.235	2.086	2.075	2.564	2.455	2.449	2.328	2.032
6.集団間平等措置R	2.274	2.294	2.212	2.239	2.158	2.045	2.455	2.491	2.406	2.246	2.226
7.社会的平等R	2.454	2.333	2.308	2.559	2.345	2.104	2.618	2.782	2.565	2.466	2.468
8.平等に扱うと問題改善R	2.485	2.353	2.346	2.397	2.466	2.299	2.545	2.673	2.783	2.603	2.365

MFT については、6 基盤（さらに<自由>については、<経済自由>と<生活自由>に分けた）の得点をもとに、回答者のクラスタリング分析を行った。K-means 法、階層型で、クラスタ数を変え、探索的に分析した結果、K-means 法での 6 クラスタモデルを採用した。その A~F のクラスタについて、6 基盤毎の平均値をプロットしたのが図 2.5.1 である。

図 2.5.1 留置調査における MFT による 6 クラスタの概要



凡例のクラスタ名に続くカッコ内の数字は、分類された回答者数を示す。

図から分かるように、各基盤がほぼ同程度に強い「保守」パターン（A~C）と、<ケア><公正>が<内集団><権威>よりも 1 ポイント以上高くなる「リベラル」パターン（D、

E) に大別され、少数だが、ややいい加減な Satisfice (回答努力最小限化) 傾向 (F) も認められる。保守とリベラルはほぼ 2 対 1 である。回帰分析には、このクラスターの区別を投入した。

2.6 回帰分析

表 2-4 は、留置調査の印刷物接触、ネット接触での EC 各項目に関して、回帰分析を行い、5%水準で有意となった変数について、パラメータ推計値をまとめている。EC は効果が高いほど数値も高いため、推計値がプラスということは、その変数が EC 効果を高める方向に働き、マイナスの場合は EC 効果を低減する方向に働くことを示す。

OII 調査と同様、OPOS-EC 研究においても、今回測定した EC8 項目に関して、社会経済的属性はほとんど影響なく、MD が最も EC に対して働き、しかも、それは低減する方向であることが示された。保守・革新イデオロギーの強さ (極端さ) 自体は、EC にほとんど影響を与えず、「政治関心」がウェブ接触の Truth を除いて、いずれも有意であり、政治関心の高い回答者ほど EC は低くなる。

この 2 要因に比べると、他の要因は限定的だが、EC 効果を低下させる方向に働くものとしては、ネットニュース閲覧、テレビニュース視聴をあげることができる。他方、匿名 BBS 閲覧は、よく利用するほど、自説を確認することが多くなり、見解を改めることは少なくなる。また、道徳基盤が保守的で情動がさほど強くないクラスターでは、ネットでの政治的情報接触で EC が高まる傾向がみられる。さらに、OII 調査と同様、イデオロギー的態度が強い (MFT 道徳基盤が強い) 人々で、EC 効果が高まるわけではなく、むしろ低くなる傾向も認められる。

表 2-1 EC8 項目の回帰分析結果 (JWIP 留置調査)

留置調査	印刷物接触								ウェブ接触							
	Disagree	Difference	Confirmation	Enraged	Reconfirmation	Truth	More	Changed	Disagree	Difference	Confirmation	Enraged	Reconfirmation	Truth	More	Changed
MD	-0.55	-0.57	-0.56	-0.75	-0.55	-0.66	-0.71	-0.82	-0.56	-0.73	-0.84	-0.73	-0.69	-0.82	-0.94	-0.67
政治関心	-0.20	-0.14	-0.17	-0.03	-0.15	-0.16	-0.21	-0.01	-0.36	-0.23	-0.31	-0.20	-0.25		-0.21	-0.19
SMD									-0.25		-0.23					-0.25
保守革新																0.23
ネットリテラシ得点	0.18									-0.18						
TVニュース			-0.41		-0.30	-0.37	-0.40	-0.30							-0.38	
NetNews閲覧	-0.33	-0.51	-0.56		-0.45	-0.56	-0.43	-0.39	-0.59	-0.46						-0.49
NNコメント閲覧									-0.27	-0.13	-0.16	-0.14			-0.21	-0.12
NNコメント書込																
匿名BBS閲覧					0.23			0.16								
炎上目撃	-0.22	-0.19									-0.24					
拡散			-0.34		-0.31											
レビュー書込		-0.17				-0.25								-0.16	-0.16	
男性					-0.09		-0.15									
MFT・C保守低									0.25					0.35	0.42	

つまり、政治的に極端な立場、態度の人々が、同じ立場の言説ばかりに接し、より過激になるというイメージをこれまでの EC に関する議論は前提としている側面があるが、本研究は、政治的態様の強さ、立場の極端さは関係なく、政治関心が強ければむしろ EC は低下すること。むしろ政治的関心が高いからこそ対立する立場にも接する可能性があること。MD が最も重要であり、ネットニュース、テレビニュースへの接触と合わせ、多メディア環境で、多様なメディアから政治情報に接触することが重要であり、その意味では、日本社会はネット上の情報源利用が多様性を欠いており、社会全体として EC 傾向が強まっていることをまずは認識することが必要であると結論づけられる。

参考文献

- 木村忠正 (2018) 『ハイブリッド・エスノグラフィー』新曜社
- Bizumic, B., & Duckitt, J. (2018). Investigating right wing authoritarianism with a very short authoritarianism scale. *Journal of Social and Political Psychology*, 6(1), 129-150.
- Dubois, E., and Blank, G. (2018). 'The echo chamber is overstated: the moderating effect of political interest and diverse media'. *Information, Communication and Society*, 21(5), 729-745.
- Dutton, W.H., Reisdorf, B.C., Dubois, E., & Blank, G. (2017). Search and Politics: The Uses and Impacts of Search in Britain, France, Germany, Italy, Poland, Spain, and the United States. Quello Center Final Report for the project "The Part Played by Search in Shaping Political Opinion", supported by Google, UK, in collaboration with Google Inc. East Lansing, MI: Michigan State University.
- Haidt, Jonathan, 2013, *The Righteous Mind: Why Good People are Divided by Politics and Religion*. (=2014, 『社会はなぜ左と右にわかれるのか——対立を超えるための道徳心理学』紀伊國屋書店.)
- Pratto, F., Sindanius, J., Stallworth, L. M., & Malle, B. F. (1994). Social Dominance Orientation: A Personality Variable Predicting Social and Political Attitudes. *Journal of Personality and Social Psychology*, 67 (4), 741-763.

3. インターネットとプライバシー

3章は、プライバシーおよび人間関係に関する質問に関する集計結果を紹介する。まず、プライバシー侵害経験(問 16, 17)、次いで、関係流動性、対人関係におけるリスク回避志向(問 20)、ネット上のプライバシーに関する不安についての集計結果を紹介する。

3.1 ネット上のプライバシー侵害経験 (問 16、問 17)

表 3.1.1 は、過去一年間にネット上でプライバシーを侵害されたことがあるかを聞いた結果である(対象者はインターネット利用者のみ)。大部分(96%)の人がプライバシーを侵害されたことはないと答えた。また、侵害経験があると答えた 19 人のうち、「かなりの問題」あるいは「深刻な問題」と答えたのは 3 人のみである。19 人の被害状況の内容を分類したのが表 3.1.2 である。

表 3.1.1 プライバシーの侵害経験 (N=535)

	%	N
1) 過去1年で、侵害されたことはない	96.4	516
2) 侵害はされたが、實際上問題はなかった	2.4	13
3) 侵害されたが、たいした問題ではなかった	.6	3
4) 侵害され、かなり問題が起きた	.2	1
5) 侵害され、深刻な問題が起きた	.4	2

表 3.1.2 プライバシーの侵害の具体的な内容 (N=19)

	%
1. 金銭的・経済的損害(例: お金を失った)	15.8
2. 恥ずかしい・メンツを失う(例: 他人に知らないでほしかったあなた自身のことを知られる)	10.5
3. なりすまし(例: 誰かがあなたになりすます、あなたの身分証明を盗み取る)	5.3
4. 人間関係(例: 友人関係、恋愛関係が危うくなる)	15.8
5. 仕事(例: あなたの仕事、キャリアが影響を受ける)	15.8
6. 心理的被害(例: ネットいじめ、からかいの対象になる)	31.6
7. その他(具体的に)	26.3

プライバシーの侵害被害を受けた人がどういう人々かデモグラフィック要因との関係からみてみる。性別で言うと男性 9 人、女性 10 人であり一般の回答者と違いは見られない。年齢別では、10-20 代 4 人、30-40 代 12 人。50-60 代 3 人であり、やはり一般の回答者と

の統計的な有意差は見られなかった。統計的に強い有意差が見られたのは、インターネットの利用時間である。被害はなかったとした回答者の1日あたり平均が43.4分(N=515)であるのに対して、被害を受けた19人の平均は93.7分であり、2つのグループの間には0.1%水準で統計的に有意差が認められた(F=7.61, $p < 0.001$)。インターネットを使う人ほどプライバシーの侵害を受けやすいという結果が見られるといえる。

3.2 関係流動性（問19）

問19の12問の質問は、人間関係の流動性を測定することを目的として Yuki, Schug, Horikawa, Takemura, Sato, Yokota, & Kamaya(2007)によって提案された「関係流動性尺度」の7点尺度の項目を用いたものである(山田, 鬼頭, 結城 2015)。関係流動性とは、個人が自発的に新しい人間関係を形成したり、やめたりできる程度である(Yuki and Schug 2012)。結城らは、関係流動性が日米の文化差を説明する基本的な変数と考えており、米国のように関係流動性が高い文化では人間関係を強化しようという動機が強くなり、親しい人への自己開示度が高くなるとしている(Yuki & Schug, 2012)。表3.2.1で項目3, 4, 8, 9, 11, 12は逆転項目である。これらの項目を逆転し他の項目と合計して尺度を構成し、クロンバックの α 係数を求めたところ $\alpha = 0.759$ であり、尺度としての信頼性がみとめられた。男女別、年齢別に平均値の差があるかどうかを分析した分散分析の結果(F検定)は、女性の方が男性よりも関係流動性が高く、年齢が低いほど関係流動性が高いことが示されている(表3.2.2)。

表 3.2.1 関係流動性尺度の各項目 (N=599)

	平均値	標準偏差
1. 彼ら(あなたと普段付き合いのある人たち)には、人々と新しく知り合いになる機会がたくさんある	4.15	1.34
2. 彼らは初対面の人と会話を交わすことがよくある	4.11	1.28
3. 彼らには、新しい友人を見つける機会があまりない	3.68	1.19
4. 彼らにとっては見知らぬ人と会話をすることはそうあることではない	3.69	1.23
5. 彼らが新しい人たちと出会うのは簡単なことだ	4.12	1.24
6. 彼らは、ふだんどんな人と付き合いかを、自分の好みで選ぶことができる	4.25	1.28
7. もし、現在所属している集団が気に入らなければ、彼らは新しい集団に移っていくであろう	4.03	1.25
8. 彼らにとって、付き合い相手を自由に選べないことはよくある	3.72	1.23
9. たとえ所属する集団に満足していなかったとしても、彼らはたいていそこに居続けることになる	4.00	1.19
10. 彼らはどの集団や組織に所属するかを自分の好みで選ぶことができる	4.17	1.22

11. たとえ現在の人間関係に満足していなくても、彼らはそこに留まり続けるしかないことがよくある	3.85	1.19
12. たとえ、現在所属する集団から離れたいと思っても、彼らはそこに留まらざるをえないことがよくある	3.82	1.22

表 3.2.2 男女・年齢別の関係流動性の平均値

	N	平均値	F 値	有意確率
男性	299	49.26		
女性	293	50.80	5.886	*
10-20 代	106	52.47		
30-40 代	245	50.06		
50-60 代	241	48.90	7.968	***

3.3 対人関係におけるリスク回避傾向（問 20）

これらの質問は、人間関係においてリスクを積極的にとる傾向を測定する目的で作られたものである（最低 1、最高 5 点のリッカート尺度）。Blais & Weber（2006）を参考にし、これを修正することによって作られた。クロンバックの α 係数を求めたところ、 $\alpha=0.739$ であり、尺度としての信頼性がみとめられた。男女別、年齢別の平均値を求めたのが表 3.3.4 である。男性の方がリスクをとる傾向があること、若者ほどリスクをよくとることが分かる。また、関係流動性の尺度得点とこの得点の間には $r=0.151$ ($r<.001$) という統計的に有意な正の相関関係があり、関係流動性が高いほど人間関係におけるリスクをとる関係があることも確かめられた。

表 3.3.3 人間関係におけるリスク志向（N=598）

	平均値	標準偏差
1. 友だちと自分の食べ物の好みが違うと言うこと	4.70	1.533
2. 人々から尊敬されている有名な人を批判すること	3.69	1.371
3. 安定した仕事を捨てて、楽しい仕事を始めること	3.33	1.453
4. 親戚や友達がいらない、遠く離れた町に引っ越すこと	2.93	1.560
5. 仕事の会合で、他の人たちとは異なるあなたの考えを主張すること	3.85	1.403

表 3.3.4 人間関係におけるリスク志向性の男女別・年齢別平均値

	N	平均値	F 値
男性	300	19.00	
女性	296	18.02	5.407 *
10-20 代	106	19.73	
30-40 代	245	18.86	
50-60 代	245	17.64	7.180 ***

3.4 ネット上のプライバシーに対する不安（問 21）

問 21 の 15 個の質問は、5 点尺度でプライバシーに関する様々な意識を測定するものであり、ここには WIP の共通質問および我々日本チームの独自質問が含まれている。項目 1 から項目 8 までは WIP の共通項目を翻訳したものである。このうち、項目 2, 3, 4 がクロンバックの α 係数の結果より、一次元性があることがわかった。これらは、ネットでプライバシー侵害されことへの不安の程度を示すものといえる。また、項目 9 から 12 の 4 項目は、ネットとは関係のない一般的なプライバシー意識の強さを測定することを目的としたものである。クロンバックの α 係数の結果は、これらの 4 項目が尺度として信頼性があることを示している。これらの項目は全て平均点が 3 点を上回っており、日常生活でのプライバシーに関して回答者が比較的重視していることを示している。項目 13 から 15 の 3 項目は、ネット上で自分の個人情報をどの程度開示しているのかについて聞いたものである。これらの平均点は全て 1 点台であり、ネット上においてあまり個人情報の開示は積極的にはされていないようである。これらの三項目のクロンバック係数は 0.795 であり、尺度としての信頼性があることがわかった（表 3.4.2）。

これらの三つの尺度得点の男女別・年齢別の平均値を示したのが、表 3.4.3 である。まず、ネットでのプライバシーの侵害については、男女差はないが、年齢については若者ほど不安を感じていることが示されている。一般的なプライバシー意識については、男性よりも女性の方が統計的に有意に強いが、年齢差は見られない。ネット上の個人情報の開示については、男性が女性よりも高く、若者の方が中高年の人々よりも高かった。ただし、これはネットを利用しない人も含めた結果であることに注意されたい（ネットを利用しない人であっても、他の人によって自分の個人情報が開示される可能性があるので、ネットを利用していない人を含めた分析をおこなった）。

また、ここでの三つの尺度間の相関関係についての分析結果をみると、ネット上のプライバシーの侵害の不安度と一般的なプライバシー意識の間には、 $r=0.222$ ($p<0.001$) という正の有意な相関関係が得られた。つまり、オフラインを含めた一般的なプライバシー意識が

高い人ほど、ネットでのプライバシー侵害への不安度が高いという関係があるといえる。また、ネット上での個人情報の開示度は、一般的なプライバシー意識と-0.128 という負の有意な相関関係が得られた。一般的なプライバシー意識の高い人ほど、ネット上での個人情報の開示度が低いという相関関係があると言える。

表 3.4.1 プライバシー意識に関する各項目(問 21)の記述統計

	平均値	標準偏差	N
1) プライバシーはもはやないのが現実だ	3.05	1.06	598
2) 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.29	0.98	598
3) 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.53	1.10	599
4) 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.53	1.06	599
5) わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	2.94	1.08	597
6) ネット上のプライバシーに関する不安が大げさに騒がれ過ぎている	2.93	0.97	599
7) わたしは何ら隠すものはない	2.75	1.06	596
8) インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	3.25	0.98	598
9) 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	3.24	1.11	597
10) 友人との会話を知らない人に聞かれない	3.38	1.10	599
11) ふだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	3.11	1.13	598
12) 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	3.71	1.05	597
13) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の詳細なプロフィールを公開している	1.85	1.05	599
14) 自分の個人情報(氏名、職業、年齢など)の多くは、インターネットで見ることができる	1.96	1.08	599
15) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の個人情報を書きこんでもよい	1.72	0.92	599

表 3.4.2 プライバシー関係の尺度

尺度	項目	クロンバックの α
ネットでのプライバシー侵害の不安	2,3,4	0.905
一般的な(オフラインの)プライバシー意識	9,10,11,12	0.771
ネット上での個人情報の開示	13,14,15	0.795

表 3.4.3 プライバシー関係の尺度の男女別・年齢別平均値

尺度		男性	女性	10-20代	30-40代	50-60代
ネットでのプライバシー侵害の不安	平均	7.38	7.31	8.01	7.40	6.99
	F 値	.086		4.80**		
一般的な(オフラインの)プライバシー意識	平均	13.17	13.71	13.24	13.41	13.56
	F 値	3.895*		0.337		
ネット上での自己情報の開示	平均	5.98	5.08	6.38	5.48	5.22
	F 値	18.655***		7.88***		

参考文献

- Blais, A., & Weber, E. U. (2006). A domain-specific risk-taking (DOSPERT) scale for adult populations. *Judgment and Decision Making*, 1(1), 33. Retrieved from <https://search.proquest.com/docview/1010959385?accountid=25225>
- 山田 順子, 鬼頭 美江, 結城 雅樹 (2015) 友人・恋愛関係における関係流動性と親密性—日加比較による検討—『実験社会心理学研究』55(1), 18-27.
- Yuki, M., Schug, J., Horikawa, H., Takemura, K., Sato, K., Yokota, K., & Kamaya, K. (2007). Development of a scale to measure perceptions of relational mobility in society. *CERSS Working Paper 75*, Center for Experimental Research in Social Sciences, Hokkaido University.
- Yuki, Masaki; Schug, Joanna (2012) Relational mobility: A socioecological approach to personal relationships. *Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP*, 137-151 <https://doi.org/10.1037/13489-00>

4. AI／ロボット

4.1 AI／ロボット知識度（問 24）

まず、調査対象者の AI（人工知能）やロボットに関する知識を尋ねた。その結果を図 4.1.1 に示す。「よく知っている」は 2.0%ときわめて少なく、「まあ知っている」が 30.5%、合わせても「知っている」と答えた人は三分の一にも満たない。AI ブームと囃されるには、心許ない数字である。無論これは主観的な「知識度」であるが。

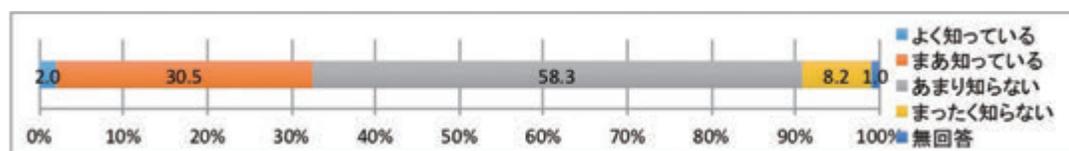


図 4.1.1 AI（人工知能）やロボットに関する知識

この主観的知識度が、どのような因子と関連しているかをみるために、この問に対する回答を「非知識度」（よく知っている：1，まあ知っている：2，あまり知らない：3，まったく知らない：4）として数値尺度化し、性別（男性：1，女性：2）、年齢、教育年数、年収額、保守度（問 40 による）を独立変数として重回帰分析を行った。結果を表 4.1.1 に示す。これによれば、AI／ロボットに関する知識度は、男性の方が、若い方が、教育年数が長い方が、高い傾向にある。一般的な通念に合致する結果である。年収額や、イデオロギーとはあまり関係ないようである。

表 4.1.1 AI／ロボット知識の重回帰分析

	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
(定数)	2.312	0.265			8.711	0
性別	0.267	0.054	0.21		4.951	0
年齢	0.006	0.002	0.127		3.009	0.003
教育年数	-0.025	0.013	-0.081		-1.847	0.065
年収額	-8.28E-06	0	-0.004		-0.085	0.932
リベラルか保守か	0.023	0.026	0.036		0.871	0.384

4.2 AI／ロボットの社会的受容の予想（問 32、問 33）

人びとは、AI／ロボットの社会的受容をどのように予想しているだろうか。

問 32 では、2030 年に①医師はほとんどの病気について、診断と治療をコンピュータに依存するようになる、②ほとんどの商店あるいは小売業は完全自動化され、顧客と店員の間に対面的な対応はほとんどなくなる、③都市におけるほとんどの輸送は、人間に代わっ

て、ロボットやドローンが行うようになる、④人々が一般的な製品を購入するとき、3Dプリンタを使って、家で自分で作るようになる、などの予想は実現していると思うかを尋ねている。

その結果をみると「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、医療のコンピュータ化については41.0%、小売の自動化は33.8%、物流のロボット化が47.4%、3Dプリンタによる商品自作化は16.8%と、いずれも半数に満たない。小売の自動化は、中国などでは急速に進んでおり、日本でも導入の試みが始まっているが、33.8%に留まっている。日本では他国に比べてキャッシュレス化が遅れていることとも関係があるのかもしれない。

社会的需要予測を数値尺度化（そう思う：1，まあそう思う：2，あまりそう思わない：3，そうは思わない：4）し、性別、年齢、教育年数、年収額、保守度で重回帰分析した結果を表4.2.1に示す。医療のコンピュータ化と3Dプリンタによる自作化については、いずれの因子も相関があるとはいえなかった。小売の自動化と物流のロボット化については、性別では男性の方が、年齢では高齢層の方が実現を予測する傾向が見られた。

表 4.2.1 AI/ロボットの2030年における社会的受容予測

	性別	年齢	教育年数	年収額	リベラルか保守か
医療のコンピュータ化	0.001	-0.012	-0.006	0.038	-0.002
小売の自動化	0.095*	-0.114**	-0.068	0.022	0.016
物流のロボット化	0.092*	-0.081△	0.011	0.032	0.026
3Dプリンタによる自作化	-0.021	-0.022	-0.044	-0.046	0.01

**：p<1%，*：p<5%，△：p<10%

また問32については、アメリカのPew Research Centerが2017年10月に公表した調査報告書⁴⁾“Automation in Everyday Life”⁵⁾に、同じ質問の結果がある。日米を比較したのが、図4.2.1である。調査方法なども違うので短絡的な結論は慎まねばならないが、一瞥したところ、アメリカの方が、いずれについても、実現を予測する割合が2倍近くになっている。

4 調査期間：2017年5月1日～15日，N=2090

5 https://www.pewresearch.org/internet/wp-content/uploads/sites/9/2017/10/PI_2017.10.04_Automation_FINAL.pdf

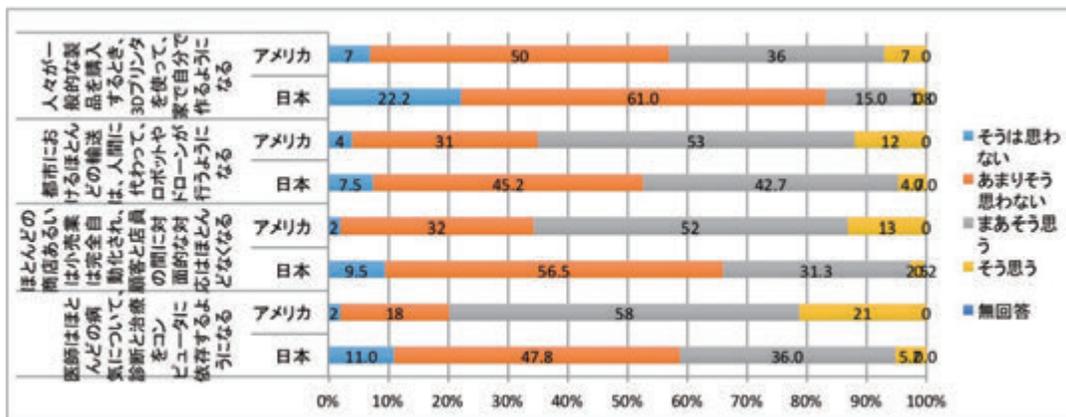


図 4.2.1 AI/ロボットの 2030 年における社会的受容予測の日米比較

個別システムの評価としては、職員採用時の人物評価システムが①適格者の採用、②企業文化に適合する人の採用、③多様なバックグラウンドをもった人からの選別、④伝統的でない経験を持った人に機会を提供するにおいて人間よりも優れているかについて、①問 33 で尋ねた。これも、上記 Pew Research Center の調査に同じ質問項目があるので、それとの比較を、図 4.2.2 に示す。全般に、アメリカの方が採用システムに対する評価が厳しい。ただしそれは、「人間と同じレベル」との回答割合が低いことにもよる。

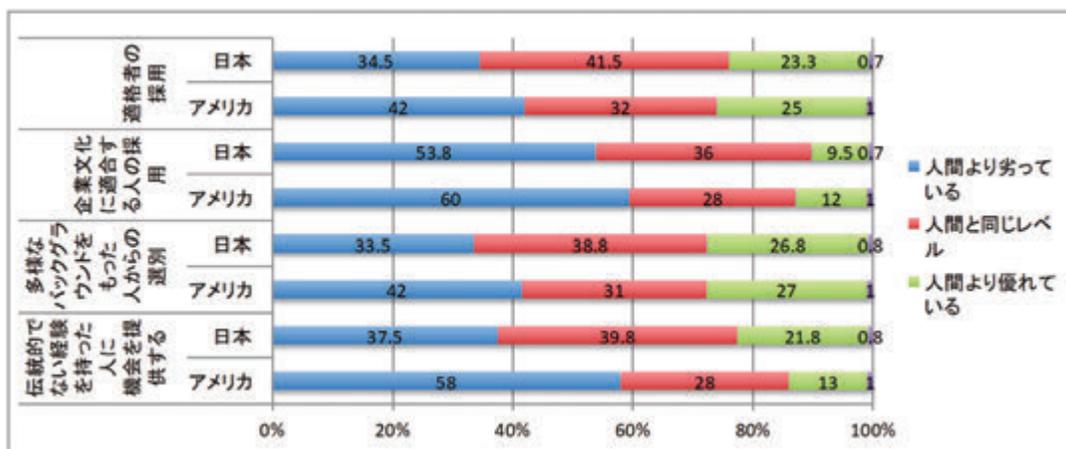


図 4.2.2 人物評価システムと人間との優劣（日米比較）

4.3 AI/ロボットへの期待・不安（問 26、問 27、問 31）

AI、IoT の進歩する未来は望ましいか否かについて尋ねた結果を図 4.3.1 に示す。

これによると、「介護ロボット」と「自動運転技術」については、「望ましい」という答えが6割を超えている。これに対して、「人に代替して仕事を行うロボット」や「人事採用評価AI」については、「望ましくない」が8割近くに達している。

現代日本人は、人間をサポートしてくれるロボットやAIを望んでおり、人間に取って代わるロボットやAIは望んでいないということであると考えられる。

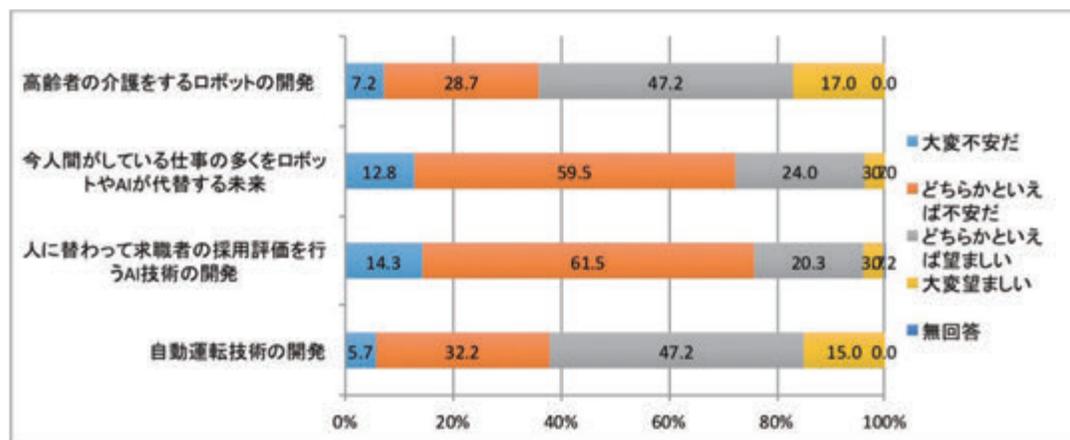


図 4.3.1 AI（人工知能）やロボットの進歩は望ましいか？（N=600）

未来技術を望ましいと感じる感性は、どのような因子と関係があるのかを考えるために、重回帰分析を行った結果が、表 4.3.1 である。これによれば、「自動運転技術」や「介護ロボット」に対して望ましいと感じる感性は、「AI やロボットに関する知識」と正の相関があることがわかった。これに対して「人間に代替するロボット」の望ましさは、性別や年齢と関係があり、男性や若年層の方が望ましいと感じる傾向があることがわかった。

表 4.3.1 各未来像の望ましさに関する重回帰分析（各因子の標準化係数）

	モデル有意確率	性別	年齢	教育年数	年収額	AI やロボットに関する知識	リベラルか保守か
自動運転技術の開発	0.002	-0.024	-0.045	0.072	0.062	-0.118**	0.032
求職者の採用評価を行うAI技術の開発	0.742	-0.052	-0.029	-0.005	0.03	-0.014	0.029
人間の仕事の多くをロボットやAIが代替	0.009	-0.102**	-0.087*	0.053	-0.007	-0.05	0.008
高齢者の介護をするロボットの開発	0.062	-0.023	-0.014	0.066	-0.013	-0.1*	0.054

注) *** : p<0.1%、** : p<1%、* : p<5%、△ : p<10%

AI、ロボット技術が普及した社会では、どのような変化が起こると人びとは考えているだろうか。調査結果を図 4.3.1 に示す。これによれば、飛び抜けて「可能性がある」と答えた人の割合が高いのは、「貧富の差の拡大」で、8 割以上の人々が「可能性がある」と答えている。つぎに多いのは、「経済の効率化」、「高齢者や障がい者の自立支援」、「人生の意義の不明化」が起こる可能性がある」と 6 割以上の人々が答えている。「仕事よりも人生で重要なことに集中できる」は「可能性がある」と答えた人と、「ない」と答えた人がほぼ半々であった。反対に、「人間はもっと意味のある仕事に集中できる」「もっと賃金の高い仕事が創造される」の「可能性がある」と答えた人は、約 4 割にとどまった。全体として、現代日本人は、AI やロボットの普及した社会のゆくえに悲観的であるようである。

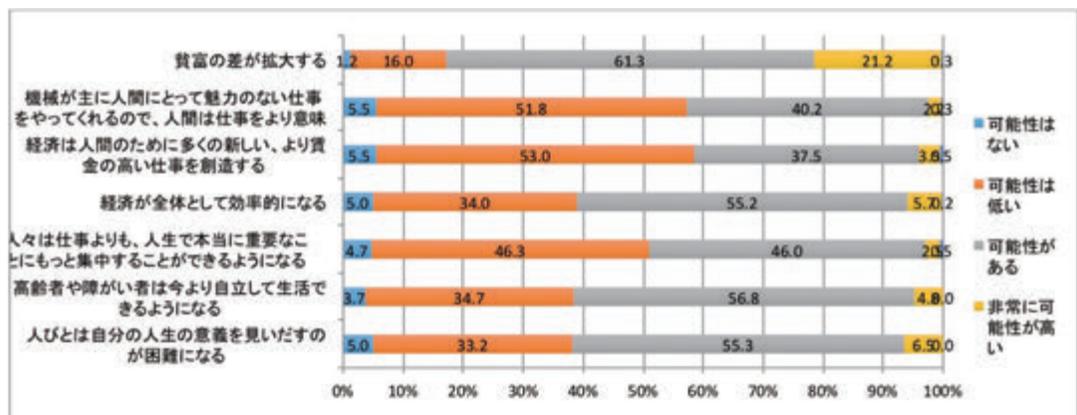


図 4.3.2 AI、ロボット技術が普及した社会で起こる変化

AI、ロボット技術普及の結果予測にどのようなファクターが関係しているのかを見るために、重回帰分析を行った。その結果を表 4.3.2 に示す。

これによると、AI やロボットに関する知識があるほど未来に対して肯定的な予測をする傾向がある。また、保守層ほど否定的である傾向があることがわかった。

表 4.3.2 AI、ロボット技術普及の結果予測に関する重回帰分析 (N=550)

	モデル有意確率	性別	年齢	教育年数	年収額	AI やロボットに関する知識	リベラルか保守か
自分の人生の意義を見いだすのが困難になる	0.012	0.04	-0.016	-0.098*	-0.1*	0.019	-0.007
高齢者や障がい者はより自立して生活できる	0.071	0.046	-0.002	0.029	-0.006	-0.119**	0.08△
仕事よりも人生で重要なことにもっと集中できる	0.033	0.008	-0.014	0.038	0.066	-0.095*	0.079△

経済が効率的になる	0	-0.004	-0.047	0.078	-0.012	-0.135**	0.176***
多くの新しい、より賃金の高い仕事を創造する	0.187	-0.022	-0.011	0.041	0.011	-0.058	0.087*
機械が仕事をやってくれるので、人間は仕事をより意味深く充実した	0.03	-0.031	-0.023	0.074	0.041	-0.044	0.09*
貧富の差が拡大する	0.697	-0.041	-0.016	0.022	-0.046	-0.045	-0.012

注) *** : p<0.1%、** : p<1%、* : p<5%、△ : p<10%

その開発を肯定的に考える人の割合が高い介護ロボットが普及したら、その結果としてどのような事態が起こると考えられるか、質問した結果を図 4.3.3 に示す。これによれば、

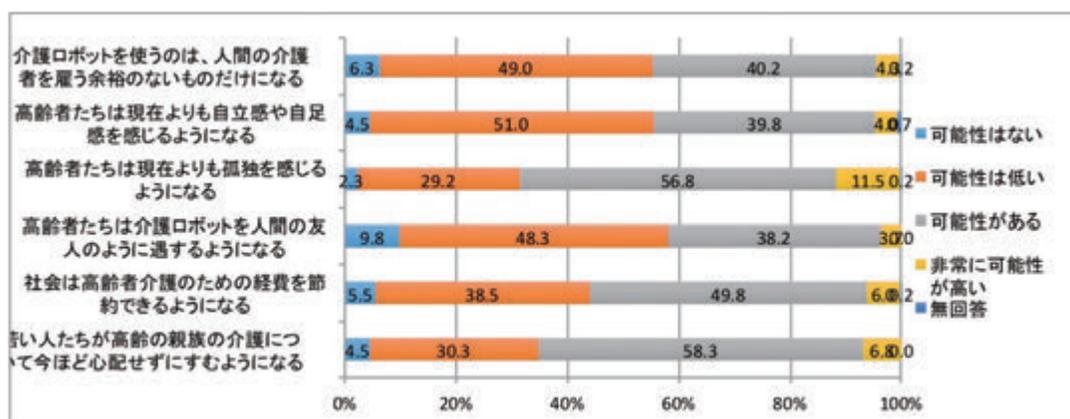


図 4.3.3 介護ロボット普及の結果、どのような事態が起こるか

4.4 AI／ロボットで代替される仕事(問 28、29)

AI やロボット技術に関して、「仕事が奪われるのではないか」という不安が取りあげられることが多い。では、生きている間に、ソフトウェア・エンジニア、法律関連業務、看護師、建設作業員、ファストフード店員、教師、保険金請求担当者などの仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性が高いと思うか尋ねたのが、問 28 である。その集計結果を図 4.4.1 に示す。

これによれば、「かなり可能性はある」（「非常に高い」あるいは「可能性はある」と答えた人）の割合は、ファストフード店員（76.0%）、ソフトウェア・エンジニア（67.8%）、保険金給付支払手続担当者（63.4%）、建設作業員（58.4%）、看護師（31.8%）、法律関連業務（31.7%）、教師（20.8%）の順となっている。

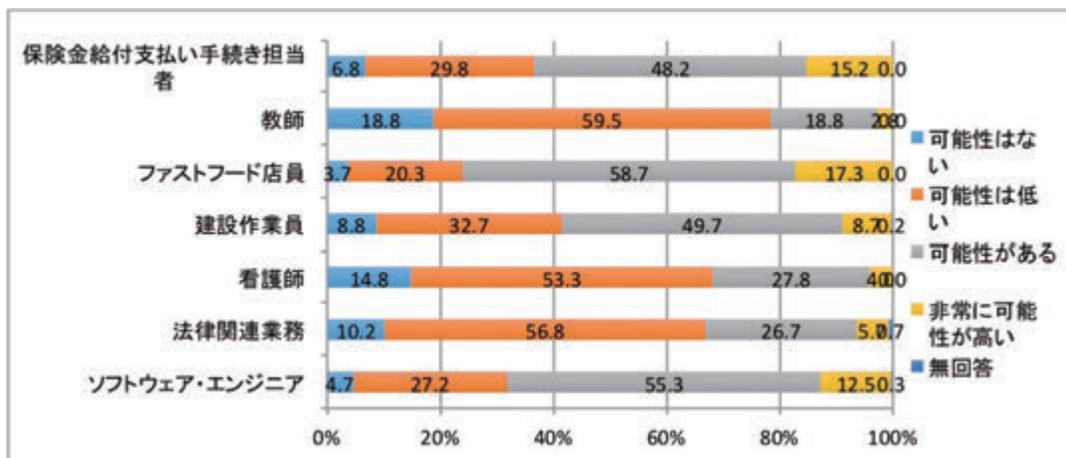


図 4.4.1 AI／ロボットで代替される仕事（％、N=600）

問 28 では第三者の視点で「AI やロボットに奪われる仕事」を尋ねたが、問 29 では、回答者自身が生きている間に、回答者自身の仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性について尋ねた。その結果、全体では、約三分の二にあたる 63.2% の回答者が「可能性はない」または「可能性は低い」と答えた。

「仕事が奪われる可能性」に対する回答を、数値尺度化（可能性はない：1，可能性は低い：2，可能性はある：3，非常に可能性が高い：4）し、重回帰分析した結果（標準化係数）を表 4.4.1 に示す。これによれば、女性ほど、年齢が低いほど、保守的であるほど、自分の仕事が奪われる可能性が高いと感じる傾向にある。

また、現在の職業によっても、（当然ながら）「自分の仕事が奪われる可能性」の認識は異なる（図 4.4.2）。

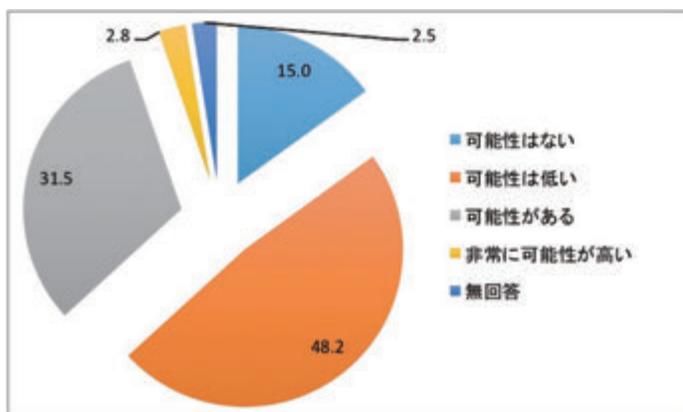


図 4.4.2 生きている間に自分の仕事が AI／ロボットに奪われると思うか（％）

表 4.4.1 「あなたの仕事が奪われる可能性」の重回帰分析（標準化係数）

	性別	年齢	教育年数	年収額	リベラルか保守か
標準化係数	0.08△	-0.149**	0.032	-0.006	0.115**

a 従属変数 あなたの仕事が奪われる可能性

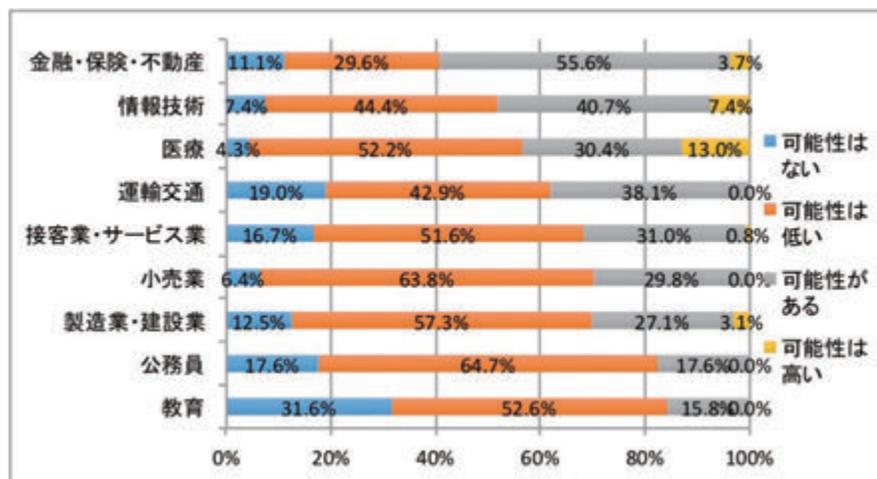


図 4.4.3 現職による「あなたの仕事が奪われる可能性」

4.5 AI／ロボットと規制（問 25、問 30）

最後に、実際にAI／ロボット技術を社会に導入するにあたって、どのような社会的対応が必要かを尋ねた。

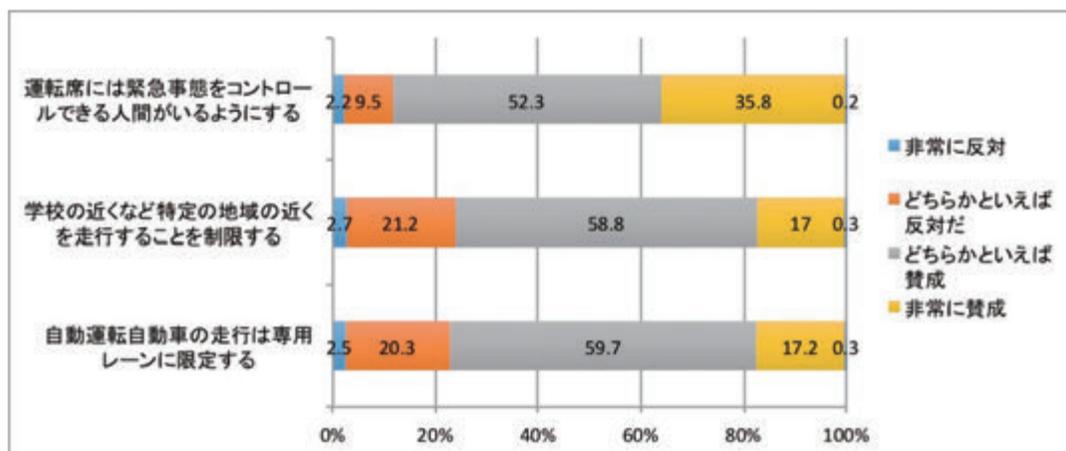


図 4.5.1 自動運転自動車に対する走行制限への賛否（%、N=600）

問 25 は、自動運転自動車について、①専用レーンでの走行、②学校の近くなど特定の地域の近くを走行することを制限する、③運転席に緊急事態をコントロールできる人間がいるようにする、などの規則や規制を課することに対する賛否を尋ねた。結果を図*に示す。いずれの規制についても、「非常に賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が8割前後に達しており、現代日本人が、自動運転自動車の技術に対してまだ警戒心が高いことを示している。

では、もっと一般に、ロボットやコンピュータが人間の仕事の大部分を実行できるようになった場合、人びとはどのような政策を求めているだろうか？問 30 の集計結果を図 4.5.2 に示す。

これによれば、現代日本人が最も高い割合で支持するのは、「ロボットの仕事を限定する」というもので、この政策を支持するものは約8割にも達する。「ベーシックインカム」や「別料金で人間による対応を求められる」についても、約6割の人が支持している。「ロボットにやらせた方がよい仕事も、あえて人間にやらせる」を支持するのは3割程度にすぎない。

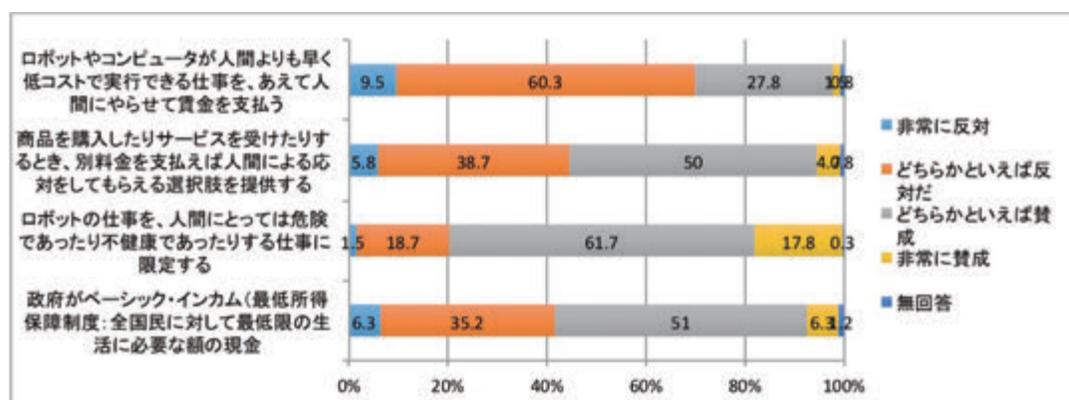


図 4.5.2 ロボットやコンピュータが人間の仕事を代替するようになったとき、どのような政策を望むか（％、N=600）

現状の日本では、メディアなどで多く取りあげられているにもかかわらず、IoT、AI やロボット技術に関する知識は薄く、評価や期待は低い。一方、産業面では、世界との競争もあり、開発や社会実装を進める動きが急である。このようにバランスを欠いた状況は、技術にとっても社会にとっても望ましいものではない。

近年、国連はSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）を発表した。これは、「2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現

するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として置き去りにしない (leave no one behind) ことを誓っている。

本調査分析からは、ロボットや IoT の進んだ未来社会の評価には「知識」や「イデオロギー」が大きく影響することがわかった。いいかえれば、正確な知識を持ち、客観的な視座をふまえて、今後、一般の人々を巻き込んだ幅広い議論が望まれる。

謝辞：本研究は、平成 30 年度学習院大学計算機センター特別プロジェクト（「IoT、AI の時代における社会的態度形成」代表者・遠藤薫）として実施されたものの一部である。

<補足資料> 質問票と単純集計結果

日本人のメディア利用に関する実態調査 (N=600)

問1 インターネット、テレビ、新聞のそれぞれから得られる情報を、全般的にみると、信頼でき正確な情報は、どの程度あると思いますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	まったくない	一部	半々くらい	大部分	全部	無回答
インターネット	3.8	23.7	55.5	15.2	1.8	-
テレビ	1.0	12.8	42.2	40.8	3.2	-
新聞	2.8	9.2	26.5	56.2	5.3	-

問2 あなたはインターネットを利用していますか。最もよくあてはまるものに1つ○をつけてください

1. 現在利用している 89.3	3. 3カ月以上前には使っていたが、いまは使っていない 3.2
2. ここ3カ月以内に使うのをやめた -	4. 使ったことはない 7.5

【問2で「3」または「4」と答えた方のみ】(N=64)

問3 インターネットを利用しない主な理由は何ですか。最もよくあてはまるものに1つ○をつけてください。

1. 興味がない 39.1	5. 利用料金が高すぎるから/利用料金が払えない 3.1
2. 利用価値がない 6.3	6. 時間がない/忙しすぎる 10.9
3. どうやって使うかわからない/機器の設定などがわからない 21.9	7. インターネット接続が利用できない地域である -
4. インターネットに接続する機器がない 12.5	8. その他() 6.3

【問3にご回答の方は、7次の問18にお進みください】

【問2で「1」または「2」を答えた方のみ、問4以降にお進みください】

問4 過去1カ月間で、あなたは次のような形で、インターネットを利用しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(N=536)

1. 携帯電話会社の回線経由で、携帯電話・スマートフォンを用い、インターネットを利用した 91.0
2. 1.以外の接続手段で、インターネットを利用した(利用機器を問いません) 45.0
3. 友人・隣人の家で、その家のインターネット接続回線を利用して、インターネットを利用した(利用機器を問いません) 3.9
4. 職場/学校/大学のインターネット接続を利用した 34.9
5. 公衆WiFi(ワイファイ)スポットを使って、インターネットを利用した 20.7
6. インターネットカフェ、公共図書館、共用インターネット利用施設に行つて、インターネットを利用した 3.9
7. 該当するものはない 0.2
8. 無回答 2.6

問5 あなたは、インターネットを利用する(例えば、検索、電子メール、SNS 利用など)ときに、次の機器をどの程度使いますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。(N=536)

	1日数回	日に1回	週に1回 ～数回	月に1回 ～数回	月に1回 未滿	利用したこと はない	無回答
1)パソコン	32.3	7.5	14.7	9.5	17.2	16.2	2.6
2)スマートフォン、携帯電話	83.4	4.5	5.2	1.9	0.9	3.4	0.7
3)タブレット	11.8	3.7	8.0	6.0	12.3	52.6	5.6
4)テレビ	15.7	3.9	3.4	3.0	6.7	61.9	5.4

(以下の各問で「インターネット」という場合、パソコン、携帯電話・スマートフォン、タブレット、いずれによるインターネット利用も含まれます。)

問6 あなたはいつからインターネット(携帯電話のi-mode サービスも含まれます)を利用しはじめましたか。1年に満たない場合には、開始した月も記入してください。

西暦()年 (1年に満たない場合には)[]月 (N=536)								
1969年 以前	1970～ 1979年	1980～ 1989年	1990～ 1999年	2000～ 2009年	2010～ 2014年	2015～ 2017年	2018年	無回答
-	-	0.6	22.8	53.7	13.8	5.4	0.4	3.4

問7 あなたは、次のネットサービス利用やネット上での行動を、どの程度していますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。(N=536)

	1日 数回	日に 1回	週に1 回～数 回	月に1 回～数 回	月に1 回未 滿	利用し たこと はない	無回 答
Twitter(ツイッター)	14.4	4.7	5.6	2.8	6.3	65.5	0.7
LINE(ライン)	71.3	6.3	7.3	2.1	1.3	11.0	0.7
Instagram(インスタグラム)	16.8	4.5	6.5	3.4	4.9	63.1	0.9
Facebook(フェイスブック)	10.3	4.7	9.7	5.2	10.1	59.5	0.6
ブログの閲覧	11.6	7.3	12.3	9.9	15.5	42.4	1.1
匿名電子掲示板(5ちゃんねる/2ちゃんねるなど)の閲覧	2.2	1.5	3.2	6.2	19.2	67.0	0.7
匿名電子掲示板での書き込み	0.7	0.6	0.6	1.3	6.5	89.4	0.9
ネットニュースサイト・アプリでの記事の閲覧	40.5	17.9	15.9	4.5	4.3	16.0	0.9
ネットニュースサイト・アプリのコメント欄の閲覧	12.3	7.8	15.3	7.5	8.4	47.8	0.9
ネットニュースサイト・アプリのコメント欄への書込	1.5	0.9	2.4	1.5	5.0	87.3	1.3
ネットのいわゆる「炎上」の目撃	0.4	1.5	4.5	5.0	10.4	77.6	0.6
ネットのいわゆる「炎上」への参加	-	-	0.2	0.6	1.1	97.4	0.7
ネットのいわゆる「拡散」(炎上だけでなく、面白いこと、「バズる」、呼びかけへの呼応も)への参加	0.2	-	1.3	1.9	3.0	92.9	0.7
まとめサイトの閲覧	6.9	5.2	11.8	8.8	9.0	57.8	0.6

商品・サービスへの評価・レビューやコメントの書込	1.9	2.6	7.5	10.6	16.2	60.8	0.4
--------------------------	-----	-----	-----	------	------	------	-----

問 8 ニュース、スポーツの結果、映画の上映時間など、日常生活でネット検索をよく行う人もいれば、しない人もいます。あなたは、次のような目的で、インターネットをどの程度利用しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) (地域、国内、国際の) ニュースを知る	43.5	26.1	14.6	5.4	4.9	5.6	-
2) 旅行の情報を得る	3.0	2.4	11.6	22.4	41.2	19.4	-
3) 求人情報を得る	1.5	0.7	4.1	6.0	29.1	58.2	0.4
4) 健康についての情報を得る	1.5	3.2	17.9	24.3	28.5	24.4	0.2

問 9 学校の授業のためや、学習のためにインターネットを利用する人がいます。あなたは、次のようなことを、インターネットでどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) 言葉の意味・定義を調べる	13.6	11.8	32.8	20.7	11.8	9.0	0.4
2) 事実を調べたり、確認する	15.1	11.9	32.5	18.8	11.0	10.3	0.4
3) 学校の授業や勉強に関連する情報を得る	5.0	5.6	13.6	6.5	13.8	54.7	0.7
4) 学位を得たり、職場で必要のため、遠隔授業を受ける	2.1	1.3	2.1	2.1	6.0	85.8	0.7

問 10 インターネットでコミュニケーションしたり、コンテンツを創作したり、共有したりする方法がいろいろあります。あなたは次のようなことをどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) メールを利用する	49.8	10.6	16.4	9.1	7.8	6.0	0.2
2) ダイレクトメッセージを送る・チャットをする	11.8	3.9	8.2	6.3	14.7	54.1	0.9
3) インターネットで電話をかけたり、受けたりする	12.7	6.0	18.8	10.3	12.9	38.8	0.6
4) 自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する	2.1	2.6	6.5	8.8	11.6	68.5	-
5) 他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする	2.4	1.5	6.9	6.2	12.3	70.7	-

問 11 娯楽のためにゲームをしたり、音楽を聴いたりすることについてうかがいます。あなたは、次のようなことを、インターネットでどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) ネットでゲームをする	30.2	6.3	10.3	4.5	13.6	34.5	0.6
2) ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする	17.9	7.3	15.7	13.8	16.8	28.2	0.4
3) 動画配信サイト(Netflix, Amazon Prime Video など)を見たりダウンロードしたりする	7.6	8.0	14.7	8.2	12.7	48.5	0.2
4) 動画投稿サイト(YouTube など)を見たりダウンロードしたりする	21.8	11.8	21.8	14.2	10.4	19.8	0.2
5) インターネット放送局(AbemaTV など)の番組を見る	3.4	3.7	6.3	7.6	14.0	64.6	0.4
6) テレビ見逃し配信サービス(TVer, FOD など)で番組を見る	0.9	1.7	7.3	6.9	13.1	70.0	0.2
7) 宗教・スピリチュアル関連のコンテンツを見る	-	0.6	0.9	1.9	3.7	92.5	0.4
8) ネットでギャンブルしたり、宝くじを購入する	-	0.2	1.9	1.5	3.0	93.5	-
9) アダルト系コンテンツを見る	0.6	1.1	3.7	3.5	7.1	83.6	0.4
10) マッチングアプリ・サイトを見る	0.4	0.2	0.6	0.9	1.3	96.1	0.6

問 12 あなたは、次の 1)から 5)で述べられていることについて、それぞれ、あなたはどの程度あてはまりますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	まああてはまる	あてはまる	無回答
1) ダウンロードしたファイルの開き方を知っている。	14.2	8.4	14.0	28.4	35.1	-
2) オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単である。	17.2	10.1	22.9	28.0	21.6	0.2
3) インターネット上のコンテンツをシェア(共有)する相手を変えるやり方を知っている。	40.3	16.6	18.1	10.4	13.6	0.9
4) コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている。	46.5	16.8	18.1	7.8	10.4	0.4
5) アプリをスマートフォンなどのモバイル機器にダウンロードするやり方を知っている。	21.1	7.8	12.9	24.1	34.0	0.2

問 13 インターネットでバンキングやショッピングなど、様々な取引をすることについてお聞きします。あなたは、次のようなことを、インターネットでどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) 製品についての情報を得る	8.0	6.9	31.5	25.4	16.4	11.6	0.2
2) 商品を購入する	0.7	2.1	12.9	33.6	31.2	19.6	-

3) 旅行の予約をする	0.2	0.2	1.7	6.5	48.5	42.7	0.2
4) 請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する	0.7	0.6	4.7	15.5	15.3	63.2	-
5) 株式、債券などの金融取引をする	0.4	0.4	2.1	3.2	6.0	87.9	0.2
6) 商品の価格やサービスの料金を比較する	1.5	2.1	16.2	23.5	24.8	31.7	0.2
7) ネットでモノや情報を売る	0.7	0.9	4.5	5.2	12.5	76.1	-

問 14 あなたは、インターネットで、政治分野のニュース、それに関連した情報、議論に接するとき、次のようなことがどの程度ありますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけて下さい。

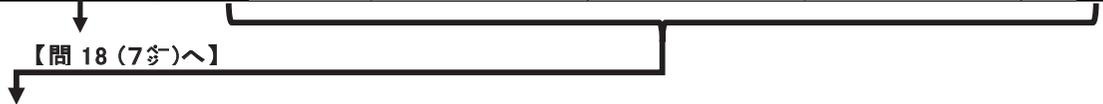
	よくある	しばしばある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答
1) 自分には同意できない情報・報道・意見に目を通すこと	5.0	13.2	28.5	29.5	23.5	0.2
2) あなたが普段使う情報源とは異なる情報源で調べてみる	2.8	8.4	23.9	36.9	28.0	-
3) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、ネット上の別な情報源を探し、正しいかどうかチェックすること	2.2	8.0	24.6	30.4	34.5	0.2
4) 自分の考えに反する意見、議論を見て、不快感や怒りを感じる	2.4	5.2	25.7	34.0	32.6	-
5) ネットの情報源で、自分の考えが正しいことを改めて認識すること	2.4	6.7	31.0	30.8	28.9	0.2
6) 自分の考え方に関係なく、本当のことを知ろうとして、様々な情報源を調べる	5.4	11.9	33.0	25.2	24.3	0.2
7) 自分が関心のある政治的問題・争点について、より多くを知るために、いろいろな情報源でニュースに接すること	3.2	11.2	27.1	29.5	29.1	-
8) ネットで検索していて、政治的問題・争点について、自分の考えを変えるような情報、議論に出会う	0.9	3.2	22.0	40.7	33.2	-

問 15 あなたは、過去1年間に、次のような経験がありますか。それぞれについて、「ある」「ない」いずれかに○をつけてください。

	ある	ない	無回答
1) コンピュータウイルスに気づいた(未然に検知、感染したかを問わず)	19.2	80.6	0.2
2) ウェブサイトで、商品表示・説明が事実とは異なる偽ったものを購入した	7.1	92.5	0.4
3) インターネットを利用することで、クレジットカードの詳細な情報を盗まれた	1.1	98.7	0.2
4) ネットで、あなたの銀行情報や個人情報を提供するよう、誰かが連絡してきた	5.2	94.6	0.2
5) アダルトサイトに、誤ってアクセスした	11.9	87.9	0.2
6) ネットでのいじめ、ハラスメントを受けた	0.9	98.9	0.2
7) ネットで、フェイクニュース(虚偽の情報で作られたニュース)を見た	14.4	85.4	0.2

問 16 あなたは、過去1年間で、インターネットで、プライバシーを侵害されたことがありますか。また、あったとすると、それはどの程度問題だったでしょうか。1～5のうち最もよくあてはまるものに1つ○をつけてください。

過去1年で、侵害されたことはない	侵害はされたが、実際上問題はなかった	侵害されたが、たいした問題ではなかった	侵害され、かなり問題が起きた	侵害され、深刻な問題が起きた	無回答
96.3	2.4	0.6	0.2	0.4	0.2



【問 17 は、問 16 で、「2」「3」「4」「5」を回答された方のみお答えください。(1の回答者は除く)】

問 17 プライバシー侵害がどのようなことで問題となったでしょうか。次の選択肢から、あてはまるものにすべて○をつけてください。(N=19)

1. 金銭的・経済的損害(例:お金を失った)	15.8
2. 恥ずかしい・メンツを失う(例:他人に知らないでほしかったあなた自身のことを知られる)	10.5
3. なりすまし(例:誰かがあなたになりすます、あなたの身分証明を盗み取る)	5.3
4. 人間関係(例:友人関係、恋愛関係が危うくなる)	15.8
5. 仕事(例:あなたの仕事、キャリアが影響を受ける)	15.8
6. 心理的被害(例:ネットいじめ、からかいの対象になる)	31.6
7. その他	26.3
8. 無回答	-

【問 18 からは、再び、全員におたずねします】 (N=600)

問 18 あなたはふだん1日平均で、以下の行動をする時間はどの程度ありますか。それぞれおおよその時間を記入してください(ふだんやらないかたは、「ない」に○をつけてください)。

	ふだん (1日平均=分)	無回答 (%)
1) テレビを見る	163.5	0.2
2) テレビでニュースを見る	52.6	0.3
3) 新聞を読む(インターネットは含まない)	17.0	0.3
4) インターネットを利用する(携帯電話やスマートフォンで)	82.4	0.7
5) インターネットを利用する(パソコンやタブレットで)	46.7	0.2
6) インターネット上でニュースを見たり読んだりする	23.8	0.5
7) SNS(LINE、Facebook、Twitter、Instagram など)を利用する	41.2	0.2

問 19 あなたと普段付き合いのある人たち(学校の友人や知人、職場の同僚、近所の人々など)についてお尋ねします。次のそれぞれの文が、それぞれの人々にどの位あてはまるか、想像し、最もよくあてはまるものを1つずつ選んで、○をつけてください。

	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	非常によくあてはまる	無回答
1) 彼ら(あなたと普段付き合いのある人たち)には、人々と新しく知り合いになる機会がたくさんある	3.7	8.3	13.0	40.0	17.2	14.8	2.8	0.2
2) 彼らは初対面の人と会話を交わすことがよくある	3.7	7.8	13.8	38.7	22.2	11.8	1.8	0.2
3) 彼らには、新しい友人を見つける機会があまりない	4.8	11.7	20.0	43.2	14.0	5.2	0.7	0.2
4) 彼らにとっては見知らぬ人と会話することはそうあることではない	4.8	13.2	19.5	40.5	15.0	6.5	0.3	0.2
5) 彼らが新しい人たちと出会うのは簡単なことだ	3.2	6.2	15.3	42.7	18.5	11.7	2.3	0.2
6) 彼らは、ふだんどんな人と付き合うかを、自分の好みで選ぶことができる	3.5	6.5	9.8	40.8	22.8	13.8	2.5	0.2
7) もし、現在所属している集団が気に入らなければ、彼らは新しい集団に移っていくであろう	3.8	8.3	13.2	43.8	19.0	9.8	1.8	0.2
8) 彼らにとって、付き合い相手を自由に選べないことはよくある	5.2	11.5	18.5	42.3	15.3	5.5	1.0	0.7
9) たとえ所属する集団に満足していなかったとしても、彼らはいそいでそこに居続けることになる	4.2	7.0	12.8	46.3	20.8	6.5	1.8	0.5
10) 彼らはどの集団や組織に所属するかを自分の好みで選ぶことができる	3.8	5.0	13.3	40.0	26.0	9.7	2.0	0.2
11) たとえ現在の人間関係に満足していなくても、彼らはそこに留まり続けるしかないことがよくある	4.0	10.8	15.5	42.0	22.3	3.8	1.3	0.2
12) たとえ、現在所属する集団から離れたいと思っても、彼らはそこに留まらざるをえないことがよくある	4.2	12.2	14.3	43.3	20.0	4.2	1.7	0.2

問 20 以下のおのおの文について、あなたご自身がそのようなことをする可能性はどのくらいあると思いますか。それぞれについて、最もよくあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

	全く可能性がない	可能性はない	どちらかと言うと可能性はない	どちらとも言えない	どちらかと言うと可能性はある	可能性はある	非常に可能性はある	無回答
1) 友だちと自分の食べ物の好みが違うと言うこと	3.8	5.2	11.2	22.7	21.0	25.3	10.5	0.2

2) 人々から尊敬されている有名な人を批判すること	6.7	13.0	21.5	33.8	14.8	8.0	1.8	0.3
3) 安定した仕事を捨てて、楽しい仕事を始めること	11.2	18.8	24.3	27.3	8.2	8.5	1.3	0.3
4) 親戚や友達がいらない、遠く離れた町に引っ越すこと	19.7	27.7	17.3	20.3	6.0	6.7	2.0	0.3
5) 仕事の会合で、他の人たちとは異なるあなたの考えを主張すること	6.7	10.0	19.7	34.2	16.0	11.2	2.0	0.3

問 21 次の 1) から 15) で述べられていることについて、それぞれ、あなたはどの程度同意しますか。「そうは全く思わない」を1、「強くそう思う」を5として、1～5の中から1つずつ○をつけてください。**インターネットを使っていない方はイメージでお答えください。**

	そう 思わない	あまり そう思わ ない	どちらと もいえな い	まあ そう思う	そう思う	無回答
1) プライバシーはもはやないのが現実だ	7.0	24.8	31.2	29.5	7.2	0.3
2) 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	21.0	42.8	24.0	9.5	2.3	0.3
3) 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	19.8	32.2	26.7	17.8	3.3	0.2
4) 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	18.2	32.8	30.2	15.3	3.3	0.2
5) わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	10.5	22.8	35.7	23.3	7.2	0.5
6) ネット上のプライバシーに関する不安が大げさに騒がれ過ぎている	8.5	21.2	43.2	22.8	4.2	0.2
7) わたしは何ら隠すものはない	14.3	24.2	37.5	18.8	4.5	0.7
8) インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	5.8	13.5	38.0	34.5	7.8	0.3
9) 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	4.7	24.7	26.3	30.2	13.7	0.5
10) 友人との会話を知らない人に聞かれたくない	3.5	21.3	24.7	34.2	16.2	0.2
11) ふだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	6.7	27.7	24.3	29.7	11.3	0.3
12) 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	3.5	10.7	20.3	41.3	23.7	0.5
13) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の詳細なプロフィールを公開している	50.2	24.7	16.7	6.2	2.2	0.2
14) 自分の個人情報(氏名、職業、年齢など)の多くは、インターネットで見ることができる	45.8	25.0	18.5	8.3	2.2	0.2

15) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の個人情報を書きこんでもよい	54.0	24.7	16.8	3.5	0.8	0.2
---	------	------	------	-----	-----	-----

問 22 次の 1)から 9)で述べられていることについて、それぞれ、あなたはどの程度同意しますか。最もよくあてはまるものに 1 つずつ○をつけてください。インターネットを使っていない方はイメージでお答えください。

	そう 思わな い	あまり そう思 わない	どちらと もいえな い	まあ そう思 う	そう思 う	無回答
1) 一般的に言って、政治について自分の意見を言うのは気分がよいことである	14.5	28.7	41.3	12.8	2.5	0.2
2) インターネットでは、政治についてどのような考えを表明しても安全である	21.5	43.2	29.3	5.3	0.5	0.2
3) インターネットでは、人々は自由に政府を批判すべきだ	13.8	27.7	38.8	15.5	3.7	0.5
4) 極端な意見であっても、インターネットでは自分の意見を表明することは許される	14.7	32.2	34.5	15.3	2.8	0.5
5) 政府は、インターネットをもっと規制すべきである	10.0	21.8	42.8	18.3	6.8	0.2
6) インターネットの利用によって、一般の市民が政治に対して、より大きな力をもつようになる	4.8	20.3	44.7	25.7	4.2	0.3
7) インターネットの利用によって、一般の市民が行政に対してもっと発言するようになる	4.2	16.8	42.2	32.0	4.7	0.2
8) インターネットの利用によって、一般の市民が政治をよりよく理解できるようになる	4.2	16.8	44.2	31.2	3.2	0.5
9) インターネットの利用によって、政府や自治体の役人が、一般の市民にもっとサービスをしてくれるようになるだろう	9.5	25.0	48.7	15.2	1.3	0.3

問 23 あなたは、印刷物(新聞、雑誌、書籍)、テレビ、ラジオのマスメディア(ネットでの記事・書籍・番組は除く)で、政治分野のニュース、それに関連した情報、議論に接するとき、次のようなことがどの程度ありますか。最もよくあてはまるものに 1 つずつ○をつけて下さい。

	よく ある	しばしば ある	ときどき ある	あまりな い	全く ない	無回 答
1) 自分には同意できない情報・報道・意見に目を通すこと	4.2	16.8	38.5	32.7	7.8	-
2) あなたが普段使う情報源とは異なる情報源で調べてみること	1.0	7.7	27.7	50.0	13.7	-
3) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、別な情報源(印刷物、マスメディア)で、正しいかどうかチェックすること	2.0	7.0	24.3	48.7	17.8	0.2
4) 自分の考えに反する意見、議論を見て、不快感や怒りを感じる	1.7	10.0	33.3	42.3	12.7	-
5) 主要なニュース情報源(新聞、テレビ報道番組など)で、自分の考えが正しいことを改めて認識する	1.0	8.0	41.2	39.3	10.3	0.2
6) 自分の考え方に関係なく、本当のことを知ろうとして、様々な情報源を調べる	3.2	13.7	30.3	39.8	12.8	0.2
7) 自分が関心のある政治的問題・争点について、より多くを知るために、いろいろな情報源でニュースに接する	2.0	10.7	34.0	40.8	12.3	0.2

8) マスメディアの情報に接して、政治的 問題・争点に関する自分の見解が変わること	1.0	5.7	32.7	47.5	13.0	0.2
--	-----	-----	------	------	------	-----

問 24 あなたは AI(人工知能)やロボット技術についてよく知っていますか。最もよくあてはまるものに 1 つ〇をつけてください。

1. よく知っている 2.0 2. まあ知っている 30.5 3. あまり知らない 58.3 4. まったく知らない 8.2 5. 無回答 1.0

問 25 自動運転自動車について次の規則や規制を課することに賛成しますか。次の 1) から 3) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ〇をつけてください。

	非常に反 対	どちらかと いえば反 対だ	どちらかと いえば賛 成	非常 に賛 成	無回 答
1) 自動運転自動車の走行は専用レーンに限定する	2.5	20.3	59.7	17.2	0.3
2) 学校の近くなど特定の地域の近くを走行することを制限する	2.7	21.2	58.8	17.0	0.3
3) 運転席には緊急事態をコントロールできる人間がいるようにする	2.2	9.5	52.3	35.8	0.2

問 26 介護ロボットが普及したら、その結果として以下のような事態が起こる可能性が高いと思いますか。次の 1) から 6) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ〇をつけてください。

	可能性 はない	可能性 は低い	可能性 がある	非常に 可能性 が高い	無回答
1) 若い人たちが高齢の親族の介護について今ほど心配せずにすむようになる	4.5	30.3	58.3	6.8	-
2) 社会は高齢者介護のための経費を節約できるようになる	5.5	38.5	49.8	6.0	0.2
3) 高齢者たちは介護ロボットを人間の友人のように遇するようになる	9.8	48.3	38.2	3.7	-
4) 高齢者たちは現在よりも孤独を感じるようになる	2.3	29.2	56.8	11.5	0.2
5) 高齢者たちは現在よりも自立感や自足感を感じるようになる	4.5	51.0	39.8	4.0	0.7
6) 介護ロボットを使うのは、人間の介護者を雇う余裕のないものだけになる	6.3	49.0	40.2	4.3	0.2

問 27 ロボットやコンピュータが人間の仕事の大部分を実行できるようになったら、結果として起こりそうなことは次のうちどれですか。次の 1) から 7) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	可能性はない	可能性は低い	可能性がある	非常に可能性が高い	無回答
1) 人びとは自分の人生の意義を見いだすのが困難になる	5.0	33.2	55.3	6.5	-
2) 高齢者や障がい者は今より自立して生活できるようになる	3.7	34.7	56.8	4.8	-
3) 人々は仕事よりも、人生で本当に重要なことにもっと集中することができるようになる	4.7	46.3	46.0	2.5	0.5
4) 経済が全体として効率的になる	5.0	34.0	55.2	5.7	0.2
5) 経済は人間のために多くの新しい、より賃金の高い仕事を創造する	5.5	53.0	37.5	3.5	0.5
6) 機械が主に人間にとって魅力のない仕事をやってくれるので、人間は仕事をより意味深く充実したものと感じるようになる	5.5	51.8	40.2	2.2	0.3
7) 貧富の差が拡大する	1.2	16.0	61.3	21.2	0.3

問 28 あなたが活着ている間に、次のような仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性が高いと思いますか。以下について、それぞれあなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	可能性はない	可能性は低い	可能性がある	非常に可能性が高い	無回答
1) ソフトウェア・エンジニア	4.7	27.2	55.3	12.5	0.3
2) 法律関連業務	10.2	56.8	26.7	5.7	0.7
3) 看護師	14.8	53.3	27.8	4.0	-
4) 建設作業員	8.8	32.7	49.7	8.7	0.2
5) ファストフード店員	3.7	20.3	58.7	17.3	-
6) 教師	18.8	59.5	18.8	2.8	-
7) 保険金給付支払い手続き担当者	6.8	29.8	48.2	15.2	-

問 29 あなたが活着ている間に、あなた自身の仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性が高いと思いますか。あなたのお考えに最も近いものに 1 つ○をつけてください。

1. 可能性はない	15.0	2. 可能性は低い	48.2		
3. 可能性がある	31.5	4. 非常に可能性が高い	2.8	無回答	2.5

問 30 ロボットやコンピュータが人間の仕事の大部分を実行できるようになった場合、あなたは次の政策に賛成しますか。次の 1) から 4) までのそれぞれあなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	非常に反対	どちらかといえば反対だ	どちらかといえば賛成	非常に賛成	無回答
1) 政府がベーシック・インカム(最低所得保障制度: 全国民に対して最低限の生活に必要な額の現金を定期的に支給)を実施する	6.3	35.2	51.0	6.3	1.2
2) ロボットの仕事を、人間にとっては危険であったり不健康であったりする仕事に限定する	1.5	18.7	61.7	17.8	0.3
3) 商品を購入したりサービスを受けたりするとき、別料金を支払えば人間による対応をしてもらえる選択肢を提供する	5.8	38.7	50.0	4.7	0.8
4) ロボットやコンピュータが人間よりも早く低コストで実行できる仕事を、あえて人間にやらせて賃金を支払う	9.5	60.3	27.8	1.5	0.8

問 31 あなたにとって次のような未来は、望ましい未来ですか、それとも不安に満ちた未来ですか。次の 1) から 4) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	大変不安だ	どちらかといえば不安だ	どちらかといえば望ましい	大変望ましい	無回答
1) 自動運転技術の開発	5.7	32.2	47.2	15.0	-
2) 人に替わって求職者の採用評価を行う AI 技術の開発	14.3	61.5	20.3	3.7	0.2
3) 今人間がしている仕事の多くをロボットや AI が代替する未来	12.8	59.5	24.0	3.7	-
4) 高齢者の介護をするロボットの開発	7.2	28.7	47.2	17.0	-

問 32 2030 年には次の予測は実現しているでしょうか。次の 1) から 4) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	そうは思わない	あまりそう思わない	まあそう思う	そう思う	無回答
1) 医師はほとんどの病気について、診断と治療をコンピュータに依存するようになる	11.0	47.8	36.0	5.2	-
2) ほとんどの商店あるいは小売業は完全自動化され、顧客と店員の間に対面的な対応はほとんどなくなる	9.5	56.5	31.3	2.5	0.2
3) 都市におけるほとんどの輸送は、人間に代わって、ロボットやドローンが行うようになる	7.5	45.2	42.7	4.7	-
4) 人々が一般的な製品を購入するとき、3D プリンタを使って、家で自分で作るようになる	22.2	61.0	15.0	1.8	-

問 33 AI による求職者の評価は、以下の点で、人間に比べて優れているでしょうか。次の 1) から 4) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	人間より劣っている	人間と同じレベル	人間より優れている	無回答
1) 仕事にふさわしい能力をもった人材の採用	34.5	41.5	23.3	0.7
2) 企業文化になじむ人材の採用	53.8	36.0	9.5	0.7
3) 多様な属性や経歴をもった人のなかから仕事にふさわしい人を選ぶ	33.5	38.8	26.8	0.8
4) 一般的でない経歴を持った人に仕事の機会を提供する	37.5	39.8	21.8	0.8

問 34 以下に述べられていることについて、それぞれ、あなたほどの程度同意しますか。次の 1) から 12) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	同意しない	さほど同意しない	ある程度同意する	同意する	無回答
1) 私は、保守(右派)かリベラル(左派)かといわれれば、保守である	12.8	30.2	46.5	9.3	1.2
2) 私は、保守(右派)かリベラル(左派)かといわれれば、リベラルである	22.8	55.2	18.7	2.0	1.3
3) 普段から、自民党を支持している	23.0	41.3	29.2	5.7	0.8
4) 政治に関心がある	17.2	39.5	34.8	8.3	0.2
5) 政治のことよりも自分の生活のほうが大事だ	3.8	10.5	51.8	33.7	0.2
6) われわれが少々騒いだところで政治はよくなるものではない	3.8	13.2	49.2	33.7	0.2
7) 政治のことは難しすぎて自分にはよくわからない	8.2	28.0	47.7	15.7	0.5
8) 社会的弱者、少数者は、立場の弱さを盾にとって、権利を主張し、利益を得ている	8.3	51.5	32.0	7.3	0.8
9) 人を助ければ、今度は自分が困っている時に誰かが助けてくれる	6.3	32.7	49.2	11.5	0.3
10) 国、民族の違う人とは、うまくつきあえない	15.0	58.5	21.5	4.7	0.3
11) 日本人であることに誇りを感じる	1.8	18.3	54.0	25.5	0.3
12) 日本のマスコミの情報は偏っていて信用できない	2.7	39.7	45.5	11.8	0.3

問 35 ある人の行為が倫理的に正しいか間違っているかを判断するときに、次のような判断材料はあなたの考え方にどの程度関係しますか。「全く関係がない(善悪の判断に全く無関係)」～「きわめて関係がある(善悪の判断に最も重要なものの 1 つ)」で、最も適切な選択肢を選び、それぞれ 1 つずつ○をつけてください。

	全く関係がない	あまり関係がない	わずかに関係がある	ある程度関係がある	とても関係がある	きわめて関係がある	無回答
1) 誰かが感情面・精神面で苦痛を受けたかどうか	1.7	11.2	20.7	39.7	21.2	5.2	0.5

2) 一部の人が他の人々とは違う扱いを受けたかどうか	1.5	12.3	23.3	41.5	16.5	4.3	0.5
3) 行動がその人の属する国への愛に基づいていたかどうか	6.7	32.3	27.7	26.2	5.5	0.7	1.0
4) 権威への尊重を欠いていたかどうか	3.8	29.2	29.5	27.7	7.5	1.2	1.2
5) 清廉さや礼儀・品位の基準に反していたかどうか	1.8	16.0	25.0	39.7	13.3	3.3	0.8
6) 弱い人や傷つきやすい人に対する配慮があったかどうか	1.3	7.8	19.2	41.5	23.8	5.7	0.7
7) 不公平な行動をとっていたかどうか	1.2	7.7	16.8	39.5	25.2	9.2	0.5
8) 自分の所属する集団を裏切るような行為をしたかどうか	3.3	17.0	23.8	37.2	14.3	3.3	1.0
9) 社会の伝統に従っていたかどうか	3.5	23.2	34.7	29.0	7.7	1.2	0.8
10) きわめて不快で、人の気持ちを逆撫でするようなことをしたかどうか	1.5	8.2	17.8	40.0	24.2	7.5	0.8
11) 個人で保有している財産が尊重されていたかどうか	4.0	22.0	24.2	33.8	11.7	3.3	1.0
12) 誰もが自由に望むことをできたかどうか	1.5	15.3	24.2	38.7	13.0	6.0	1.3

問 36 あなたは、**政治分野**のニュース、論点、話題、政治家(候補者)、政党に関する情報を得るために、次のような人々と話したり、組織(の人)と接触したり、メディアを利用したりしますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	よくある	しばしばある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答
1) 家族、友人	9.7	14.8	40.8	26.8	7.5	0.3
2) 政治家、候補者、政党のウェブサイト	1.5	4.0	12.0	41.2	39.8	0.2
3) 政治家、候補者、政党とのやりとりや、配布する情報(ウェブサイト以外)の入手	1.5	3.2	14.7	40.7	39.8	0.2
4) テレビ	11.5	22.8	42.7	15.7	7.3	-
5) ラジオ	2.0	4.7	18.0	32.0	43.2	0.2
6) 印刷された新聞、雑誌	4.2	14.0	34.7	26.3	20.8	-
7) 慈善団体、宗教団体、非営利組織	1.0	3.0	7.3	25.0	63.7	-
8) ネット検索	5.8	12.5	27.0	28.0	28.7	-
9) ネットニュースサイト・ポータル・アプリ	5.3	11.3	27.5	28.2	27.5	0.2
10) ソーシャルメディア(SNS、ブログ、掲示板、まとめサイト、動画共有サイトなど)	2.5	7.5	19.8	33.0	37.2	-

問 37 あなたは、次のような道徳、価値観に関する意見についてどう思いますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	全く同意しない	まあ同意しない	さほど同意しない	ある程度同意する	まあ同意する	強く同意する	無回答
1) 困っている人や苦しんでいる人を思いやることは何よりも大切なことだ	0.3	0.7	2.0	31.2	42.2	23.3	0.3
2) 政府が法律を作る際の第一原則は、全ての人が平等な扱いを受けることを保証することだ	0.3	0.8	7.8	32.5	37.5	20.3	0.7
3) 私は、自分の国の歴史を誇りに思う	1.3	3.5	17.7	42.0	25.8	9.3	0.3
4) 子供たちは皆、我が国の歴史や伝統、社会的に認められた人などを敬うことの大切さを教わる必要がある	0.8	2.5	13.7	45.0	27.0	10.5	0.5
5) たとえ誰も傷つかないとしても、きわめて不快で、人の気持ちを逆なでするような行動をとるべきではない。	0.5	0.5	1.8	25.0	43.5	28.3	0.3
6) 無防備な動物を傷つける事は、人間として最悪の行動の一つだ	0.3	1.3	2.2	15.2	29.3	51.2	0.5
7) 正義とは、社会にとって必要とされる最も重要なものだ	1.3	1.7	9.7	39.5	33.5	13.5	0.8
8) たとえ家族が間違っただけをしたとしても、人は家族に忠実であるべきだ	9.0	19.0	35.8	21.5	9.8	3.8	1.0
9) 男性と女性には、それぞれ社会の中で果たすべき異なる役割がある	3.3	4.5	17.2	41.2	27.2	6.3	0.3
10) 自然の道理に反している行為は間違っている	0.7	1.5	15.5	44.8	26.7	9.8	1.0
11) たとえ個人の自由が制限されたとしても、政府は社会全体の利益につながる政策を押し進めるべきだ	7.3	13.8	33.5	31.2	10.8	2.5	0.8
12) お互いの自由を侵さない限り、自分で自分の進むべき道を選ぶ自由があるべきだ	0.3	1.0	6.0	41.7	34.3	15.8	0.8

問 38 あなたは、次のような意見についてどう思いますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	とてもそう思う	無回答
1) 今日、多くの若者が、躊躇せず権威に反抗できるのは、素晴らしいことだ	1.7	8.8	33.0	37.5	14.5	3.3	1.2
2) 我が国が最も必要なことは規律であり、すべての人が、団結して、指導者たちに従うことだ	9.5	24.7	45.3	16.7	2.5	0.8	0.5

3) 堕胎、ポルノ、結婚に関する自然の摂理は、手遅れにならない前に、厳格に守られるべきだ	2.5	8.2	27.2	43.0	13.0	4.8	1.3
4) 未婚での性行為に問題ない	1.5	7.7	23.7	34.8	25.0	6.8	0.5
5) 私たちの社会では、いま以上に強い政府、厳格な法は必要ない	1.3	13.2	37.3	32.7	11.8	3.0	0.7
6) 犯罪についてのデータや近年の公共における無秩序をみると、私たちは、法と秩序を守りたいのであれば、問題を引き起こす人々を、もっと厳しく取り締まる必要がある	0.2	3.3	12.5	45.0	25.7	12.3	1.0

問 39 あなたは、次のような意見についてどう思いますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	全く そう思わ ない	そう 思わな い	あまりそ う思わな い	ややそ う思う	そう 思う	とて もそ う思 う	無回 答
1) 人間の集団には、他の集団より単に劣っているものもある	1.8	8.3	39.2	35.8	10.0	3.5	1.3
2) 欲しいものを手に入れるためには、他の集団が不利になるような力を行使することも時に必要だ	6.0	20.3	48.5	20.0	3.0	1.3	0.8
3) 成功するためには、他の集団を踏み台にしなければならないときもある	5.5	16.3	40.3	30.8	5.2	1.0	0.8
4) 弱い集団は、身分相応の場所に留まるべきだ	9.7	25.0	49.2	11.8	2.2	1.0	1.2
5) 各集団間の平等は我々の理想である	1.2	7.5	25.3	47.7	15.0	2.5	0.8
6) 色々な集団に平等な条件が整えられるように、我々は可能な措置を取るべきだ	1.8	6.8	26.8	46.2	14.7	2.2	1.5
7) 出来る限り所得を平等にするよう我々は努めるべきだ	1.8	10.3	37.3	33.8	13.2	2.7	0.8
8) 我々が人々をより平等に扱えば、我々の抱える問題はより少なくなる	3.5	10.2	35.7	35.0	11.7	3.3	0.7

問 40 あなたは、保守(右派)的傾向がとても強い場合を7、リベラル(左派)的傾向がとても強い場合を1とした場合、ご自身の政治的立場がどこに位置すると思いますか。1~7の内、最も近いと考える数字をご回答ください。

リベラル(左派)的	0.7	2.2	9.5	42.2	31.7	10.7	2.0	無回答 1.2	保守(右派)的
-----------	-----	-----	-----	------	------	------	-----	------------	---------

問 41 かりに現在の日本社会全体を、以下の5つの層に分けるとすれば、あなたご自身はどれに入ると思われますか。あなたのお考えに最も近いものに1つ○をつけてください。(○は1つ)

1. 上	0.7	2. 中の上	6.8	3. 中の中	46.0
4. 中の下	37.8	5. 下	8.2	無回答	0.5

問 42 あなたの現在のお仕事についておうかがいします。あなたはふだんどのような仕事をなさっていますか。次のうち、あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | |
|---------------------------|------|-----------|-----|
| 1. フルタイム(正社員・正職員)で働いている | 45.0 | 5. 学生・生徒 | 6.5 |
| 2. フルタイム(派遣社員・派遣職員)で働いている | 4.3 | 6. 無職 | 3.5 |
| 3. パートタイム、アルバイト | 21.7 | 7. 退職している | 2.7 |
| 4. 専業主婦／専業主夫 | 10.7 | 8. その他 | 5.7 |

問 42 あなたのお仕事は次のうちどの分野ですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | | | |
|--------------|------|-----------|-----|------------|------|
| 1. 接客業・サービス業 | 21.3 | 6. 教育 | 3.2 | 11. 働いていない | 22.5 |
| 2. 医療 | 4.3 | 7. 運輸交通 | 3.7 | | |
| 3. 製造業、土木建設業 | 16.3 | 8. 公務員 | 2.8 | | |
| 4. 小売業 | 8.0 | 9. 情報、技術 | 4.7 | | |
| 5. 金融、保険、不動産 | 4.5 | 10. その他職業 | 8.7 | | |

問 43 あなたのお仕事には、次のような業務の要素が含まれていますか。 1~4 については、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | | | |
|-------------|------|----------------|------|----------------|------|
| 1. 肉体労働 | 29.3 | 2. 管理業務 | 25.5 | 3. 直接顧客と対応する業務 | 44.3 |
| 4. データ処理/分析 | 17.3 | 5. いずれも含まれていない | 28.7 | | |

問 44 あなたが最後に在籍、または現在在学中の学校は、次のどれですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。(各種学校・専門学校は除きます)。

- | | | | |
|----------|------|--------|------|
| 1. 中学校 | 3.3 | 4. 大学 | 28.7 |
| 2. 高校 | 46.0 | 5. 大学院 | 2.0 |
| 3. 短大・高専 | 19.0 | 6. 無回答 | 1.0 |

問 45 お宅の1年間の世帯収入(税込)は、次のうちどれにあたりますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|------|----------------------|------|
| 1. 200万円未満 | 7.0 | 5. 800万円以上～1000万円未満 | 10.2 |
| 2. 200万円以上～400万円未満 | 25.3 | 6. 1000万円以上～1200万円未満 | 4.0 |
| 3. 400万円以上～600万円未満 | 29.2 | 7. 1200万円以上～ | 2.0 |
| 4. 600万円以上～800万円未満 | 16.5 | 8. 無回答 | 5.8 |

問 46 あなたは結婚されていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | | | |
|--------|------|------------------|------|-------------|-----|
| 1. 未婚 | 27.0 | 2. 既婚またはパートナーと同居 | 64.3 | 3. 離婚、離別、死別 | 8.2 |
| 4. 無回答 | 0.5 | | | | |

2019年参議院議員選挙における投票行動と情報行動

A Survey on Information Behavior and Voting Behavior
in the 2019 House of Councillors Election

長濱 憲 NAGAHAMA, Ken 小笠原 盛浩 OGASAHARA, Morihiro
河井 大介 KAWAI, Daisuke 橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki

目次

0. 調査の概要	
0.1 調査の目的	橋元 良明
0.2 方法、概要	河井 大介
1. 投票行動	
1.1 投票行動（事後問1、事後問2）	河井 大介
1.2 投票先の政党（事後問3、事後問4）	長濱 憲
1.3 投票の基準（事後問5）	長濱 憲
1.4 投票先決定時期（事後問6）	長濱 憲
2. 選挙運動期間中のメディア接触	
2.1 メディアへの接触（事後問25）	長濱 憲
2.2 SNS への接触（事後問32）	長濱 憲
2.3 ネットニュースへの接触（事後問33）	長濱 憲
2.4 政党サイト・SNS への接触（事後問34）	小笠原 盛浩
2.5 候補者ウェブサイト・SNS への接触、SNS で見た選挙関連の話題 （事後問35、事後問36）	小笠原 盛浩
3. 役に立った情報源、信頼できた情報源	
3.1 役に立った情報源（事後問26）	河井 大介
3.2 信頼できた情報源（事後問27）	河井 大介
4. 重視争点	
4.1 重視した争点（事後問20、事後問21）	長濱憲
4.2 争点に接触した情報源（事後問22）	長濱 憲

4.3 争点に関する安倍政権の取り組みへの評価(事後問23)	長濱 憲
5. 争点への態度	
5.1 争点への態度(事前問14、事後問24)	河井 大介
5.2 投票の有無による争点への賛否	河井 大介
5.3 争点への態度の変化	河井 大介
6. 支持政党(事後問9、事後問10)	長濱 憲
7. メディアの信頼性評価(事後問28)	長濱 憲
8. 社会・政治に対する考え方(事後問8)	長濱 憲
9. 政治的有効性感覚(事後問7)	長濱 憲
10. 政治知識	
10.1 政治の仕組みに関する知識(事前問15、事前問16、事前問17、事前問19)	長濱 憲
10.2 政党政治の動向に関する知識(事前問23、事後問13)	長濱 憲
10.3 政治リーダーに関する知識(事前問24、事後問14)	長濱 憲
10.4 選挙中の争点に関する知識(事前問25、事前問26、事前問27、事前問28、事前問29、事後問15、事後問16、事後問17、事後問18、事後問19)	長濱 憲
11. フェイクニュースへの接触(事後問37)	小笠原 盛浩
<補足資料> 質問票と単純集計結果	河井 大介

長濱 憲 東京大学大学院学際情報学府博士課程

小笠原 盛浩 東洋大学社会学部・社会学研究科

河井 大介 東京大学大学院情報学環

橋元 良明 東京大学大学院情報学環

なお、本研究は、公益財団法人電気通信普及財団による2018年度研究調査助成を受けて実施された。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

第25回参議院選挙は2019年7月24日に実施された。

第二次安倍政権が発足してから6年半あまり経過し、対抗馬となりうる強力な野党や指導者も出現しないまま、与党はこれまでの安定した勢力を維持し続けることができるのか。自民党が勝利を収めたとしても国民の多数の支持が得られるのかどうか、が最大の焦点と言ってよい選挙であった。

個別には、(1)憲法改正を目指す安倍政権が、その重要なステップとして、参議院全体で過半数を維持できるのか、(2)選挙後の10月に予定されている消費税率引き上げについて国民が是とするのか、(3)年金や社会保障制度の改革について国民の支持が得られているのか、等も重要な争点になっていた。

さらに前回の2016年の参議院選挙から選挙権が18歳に引き下げられたが、初回の24回参議院選挙こそ10代で46.8%の投票率を得たが、その後の2017年の衆議院選では40.5%に低下した。果たして19年度参議院選挙では若年層の関心を引き戻すことができるのか等も話題となっていた。

こうした情勢下で、我々は以下のような問題意識をもってネットを通じたアンケート調査を実施した。

(ア)自由民主党は引き続き高い支持率を維持できるのか。支持する層はどのような層か。

(イ)憲法改正や消費税率引き上げ等の争点に関し、国民はどの程度の関心を持ち、またどのような意見を持っているのか。

(ウ)選挙権の年齢引き下げ以降、若年層の政治関心、投票意向はどう変化したのか。

(エ)若年層において選挙期間中のネットの利用、とくにソーシャルメディアの利用に、他の年齢層と異なった特徴はみられるのか。

(オ)全体的に保守化が進んでいると言われる状況で、各年齢層ごとに投票先政党、支持政党にどのような傾向がみられるか。

0.2 方法、概要

2019年7月21日投票の第25回参議院議員選挙において、選挙公示前と投票終了直後に、同一サンプルに対してインターネットをもちいたパネル調査を行った。調査は株式会社マクロミルのモニターで18～69歳の男女に対し、18～19歳、20歳以上では10歳刻み、男女の12セルで、18～19歳を20歳以上の10歳刻みのサンプルサイズの5分の1となるようにクォーターサンプリングを行った。実査は、参議院議員選挙の公示前の2019年7月2日(火)～3日(水)に事前調査を行い、投票終了直後の2019年7月21日(日)20時～22日(火)に事後調査を実施し1,610サンプルを回収した。その性・年齢層別の分布を表0.2.1に示す。

表0.2.1 クォータごとの回収数(人)

(人)	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	合計
女性	31	152	158	154	155	154	804
男性	30	155	156	155	154	156	806
合計	61	307	314	309	309	310	1,610

質問項目は、投票行動、政治関心、支持政党、メディアの利用、争点重要性、知識度などで、事前調査で32問、事後調査で37問である。

1. 投票行動

1.1 投票行動

1.1.1 投票率

投票行動について、2016年7月の参議院議員選挙と2017年10月の衆議院議員選挙の際に投票したか（事前調査問5）、今回の2019年参議院議員選挙で投票に行ったか（事後問1）を質問した。それぞれの投票した人の比率（投票率、「選挙権がなかった」と「覚えていない」を除く）を示したものが表1.1.1である。

今回の調査での全体での投票率は、2016年参院選で72.8%、2017年衆院選で72.7%、今回の2019年参院選で69.1%であった。いずれも、総務省の公表している投票率よりも高い点には注意が必要である。属性別では、いずれの選挙においても、性別で男性が女性よりも高く、年齢層別では、いずれの選挙でも一貫して50代60代が高く、18-29歳および30代が低い傾向がみられた。

表 1.1.1 2016年参院選、2017年衆院選、2019年参院選での投票した人の比率

	2016年参院選			2017年衆院選			2019年参院選（今回）			
	n	投票率	χ^2 値 p値	n	投票率	χ^2 値 p値	n	投票率	χ^2 値 p値	
全体	1274	72.8%		1321	72.7%		1604	69.1%		
性別	女性	614	67.9%	14.54	635	68.3%	11.52	802	64.5%	15.98
	男性	660	77.4%	0.0001	686	76.7%	0.0007	802	73.7%	<.0001
年齢層	18-29歳	199	52.8%	88.48	230	55.2%	88.84	366	56.3%	74.59
	30-39歳	251	64.1%	<.0001	252	63.1%	<.0001	313	63.9%	<.0001
	40-49歳	263	73.0%		272	72.4%		308	67.2%	
	50-59歳	271	79.7%		276	80.1%		307	75.6%	
	60-69歳	290	87.6%		291	88.0%		310	84.8%	

※「選挙権がなかった」と「覚えていない」は欠損値。

※ χ^2 値およびp値は、 χ^2 検定の結果。

※性別は χ^2 検定の結果、年齢層別は残差分析の結果、黒太字： $p < .05$ で有意に高く、赤太字： $p < .05$ で有意に低いことを示す。

1.1.2 選挙期間中のメディア利用と投票行動との関連

次に選挙期間中のメディア利用と投票行動にどのような関連があるのか確認した。まず、投票行動に関連がある項目として、男性ダミー（女性=0、男性=1）、年齢、ふだんの政治的関心（事前調査問9（1）、「そう思う」を5、「ややそう思う」を4、「どちらともいえない」を3、「あまりそう思わない」を2、「そう思わない」を1）を統制変数、ネットでの選挙情報接触有無（事後調査問25（6）（7）（8）（9）（10）（11）（12）（13）のうち1つでも選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人

を0)、テレビでの選挙情報接触有無（事後調査問 25(1)で選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0)、新聞での選挙情報接触有無（事後調査問 25(2)で選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0)、友人・家族との選挙関連会話有無（事後調査問 25(15)(16)のいずれかで選挙期間中に1回以上した人を1、そうでない人を0)を説明変数とし、投票の有無を目的変数とし、全年齢層および年齢層ごとのロジスティック回帰分析を行った（表 1.1.2）。

表 1.1.2 メディア接触と投票行動の関連を示すロジスティック回帰分析

	全体	18-29 歳	30-39 歳
N	1604	366	313
男性ダミー	0.0048	0.0726	0.1086
年齢	0.2255 ***		
政治関心	0.3620 ***	0.2396 ***	0.3683 ***
ネットでの選挙情報接触有無	0.1311 ***	0.1767 *	0.1292 †
テレビでの選挙情報接触有無	0.0421	0.0766	0.1046
新聞での選挙情報接触有無	0.1610 ***	0.1064	0.1034
友人・家族との選挙関連会話有無	0.1324 ***	0.2138 **	0.0583
Wald χ^2	268.3196 ***	61.4998 ***	46.8289 ***

	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳
N	308	307	249
男性ダミー	-0.0883	-0.0035	-0.1099
政治関心	0.3958 ***	0.3650 ***	0.5604 ***
ネットでの選挙情報接触有無	0.1214	0.1396	0.0400
テレビでの選挙情報接触有無	-0.1402 †	0.1386 †	-0.0215
新聞での選挙情報接触有無	0.2171 **	0.1965 *	0.2207 *
友人・家族との選挙関連会話有無	0.0505	0.0113	0.3190 **
Wald χ^2	38.8658 ***	46.0520 ***	50.1771 ***

※数値は標準化推定値。

※数値横の記号は、***: $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ であることを示す。

分析の結果、全体では、新聞、友人・家族、ネット（いずれも 0.1%水準）に正の関連がみられた。年齢層別でみた場合、18-29 歳では、友人・家族（1%水準）、ネット（5%水準）で正の関連がみられ

た。30代では10%水準ではあるがネットで正の関連がみられたが、それ以外のメディアでは10%水準でも有意な関連はみられなかった。40代では新聞(1%水準)で正の関連がみられ、10%水準ではあるがテレビで負の関連がみられた。50代では新聞(5%水準)で正の関連がみられ、10%水準ではあるがテレビでも正の関連がみられた。60代では友人・家族(1%水準)、新聞(5%水準)で正の関連がみられた。

さらに、投票に行かなかった人に対して、その理由を単一選択式で確認している。全体・性別・年齢層別の有無別の投票に行かなかった理由を分析した結果が表1.1.3である。全体では「時間がなかったから」(22.0%)が最も高く、次いで「関心がなかったから」(20.8%)、「選択したい候補者がいなかったから」(19.8%)が続く。性別では χ^2 検定の結果、有意な関連はみられなかった。年齢層別では、他の年齢層と比べて18-29歳で「時間がなかったから」「面倒だったから」が高く、「選択したい候補者がいなかったから」「投票しても結果に大きな影響を及ぼすと思わなかったから」が低い。これは政治的な情勢よりもむしろプライベートを優先させた結果であろう。また、他の年齢層と比べて30-39歳は「投票しても結果に大きな影響を及ぼすと思わなかったから」が高く、政治的有効性感覚が低い可能性がある。また、他の年齢層と比べて60-69歳は「選択したい候補者がいなかったから」が高く、政治情勢によるものであろう。

表 1.1.3 投票しなかった人の理由

	全体	性別		年齢層別				
		女性	男性	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69
	N 496	285	211	160	113	101	75	47
関心がなかったから	20.8	20.7	20.9	23.1	15.0	26.7	18.7	17.0
時間がなかったから	22.0	21.1	23.2	28.1	21.2	19.8	16.0	17.0
選択したい候補者がいなかったから	19.8	18.6	21.3	13.8	18.6	20.8	24.0	34.0
どの政党・候補者に投票するか判断に迷ったから	6.7	8.8	3.8	6.9	5.3	6.9	6.7	8.5
面倒だったから	10.3	9.8	10.9	14.4	9.7	9.9	6.7	4.3
投票しても結果に大きな影響を及ぼすと思わなかったから	12.9	12.3	13.7	6.3	21.2	12.9	17.3	8.5
その他	7.7	8.8	6.2	7.5	8.8	3.0	10.7	10.6
		χ^2 値=6.66		χ^2 値=41.56*				

※ χ^2 値は χ^2 検定の結果。 χ^2 値横の記号は、*： $p<.05$ で有意であることを示す。

※年齢層別は残差分析の結果、黒太字： $p<.05$ で有意に高く、赤太字： $p<.05$ で有意に低いことを示す。

1.2 投票先の政党

事後調査問3で、選挙区での投票先について単数回答で質問した（表1.2.1）。対象者は、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。選挙区の投票先の政党は、上位から自由民主党（36.9%）、立憲民主党（16.4%）、日本維新の会（10.8%）の順番だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別で見ると「自由民主党」と「その他の政党」で男性の割合が有意に高かった。一方、「政党名は覚えていない」「記入していない」では、女性の割合が有意に高い結果となった。

年齢層別に見ると、「自由民主党」で30代、「日本共産党」で60代の割合が有意に高かった。「立憲民主党」は60代と50代が有意に高く、「政党名は覚えていない」は10・20代で有意に高かった。「自由民主党」と、「立憲民主党」「日本共産党」とでは、投票の割合が高い年齢層が異なる状況が示された。

表 1.2.1 投票先政党（選挙区）（事後問3） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
自由民主党	36.9%	39.8%	33.7%	34.0%	45.5%	41.5%	33.6%	31.9%
立憲民主党	16.4%	16.2%	16.6%	14.1%	10.5%	13.0%	20.7%	21.7%
日本維新の会	10.8%	10.8%	10.8%	7.8%	12.5%	8.7%	10.8%	13.7%
政党名は覚えていない	6.9%	5.2%	8.7%	13.1%	6.5%	6.3%	6.0%	3.4%
無所属	5.3%	5.6%	5.0%	3.9%	6.0%	4.8%	6.9%	4.9%
日本共産党	4.9%	4.1%	5.8%	4.4%	3.0%	4.8%	3.9%	7.6%
国民民主党	4.7%	4.7%	4.6%	7.3%	6.0%	4.8%	2.6%	3.4%
公明党	4.5%	4.1%	5.0%	3.9%	3.5%	4.3%	5.6%	4.9%
れいわ新選組	3.1%	3.0%	3.1%	3.4%	2.5%	4.3%	2.2%	3.0%
記入していない	3.0%	2.0%	4.1%	3.4%	1.0%	4.3%	4.3%	1.9%
その他の政党	2.7%	3.7%	1.5%	3.4%	2.5%	2.4%	2.6%	2.7%
社会民主党	0.8%	0.7%	1.0%	1.5%	0.5%	0.5%	0.9%	0.8%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.061		0.007				
有意水準	-	†		**				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、**はp<.01で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。
※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

さらに事後調査問4で、比例代表選挙の投票先についても単数回答で質問を行った（表1.2.2）。対象者は同じく、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。

比例代表選挙の投票先は、上位から自由民主党（32.6%）、立憲民主党（16.2%）、日本維新の会（14.4%）の順番だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「自由民主党」は男性の割合が有意に高かった。「日本共産党」と「無所属」は女性の割合が有意に高かった。

年齢層別で見ると、「立憲民主党」は50代と60代、「日本維新の会」「日本共産党」「社会民主党」は60代、「れいわ新選組」は40代での投票率が有意に高かった。「政党名は覚えていない」は10・20代、「記入していない」は50代で回答の比率が高かった。

この分析の結果から、「れいわ新選組」は40代、「立憲民主党」「日本維新の会」「日本共産党」「社会民主党」は高齢層において投票先の割合が高く、政党によって投票割合が高い年齢層が異なることが示された。

表 1.2.2. 投票先の政党（比例代表）（事後問4） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
自由民主党	32.6%	35.7%	29.0%	35.0%	38.0%	35.3%	27.6%	28.9%
立憲民主党	16.2%	16.4%	15.9%	13.1%	11.5%	13.5%	20.7%	20.2%
日本維新の会	14.4%	14.9%	13.9%	9.2%	14.5%	13.0%	15.1%	19.0%
れいわ新選組	6.9%	6.6%	7.2%	9.2%	5.0%	10.1%	5.2%	5.3%
公明党	6.6%	6.3%	7.0%	5.3%	5.5%	6.8%	8.6%	6.5%
日本共産党	5.1%	3.2%	7.2%	1.9%	3.0%	3.4%	7.3%	8.4%
政党名は覚えていない	4.9%	4.1%	5.8%	9.7%	7.5%	4.8%	2.6%	1.1%
国民民主党	4.0%	3.9%	4.1%	5.3%	6.0%	4.3%	3.0%	1.9%
その他の政党	3.8%	4.7%	2.7%	4.9%	5.0%	3.4%	3.0%	3.0%
記入していない	3.1%	2.4%	3.9%	2.9%	2.5%	3.9%	5.2%	1.1%
社会民主党	1.5%	1.4%	1.7%	2.4%	0.5%	0.5%	0.9%	3.0%
無所属	1.1%	0.5%	1.7%	1.0%	1.0%	1.0%	0.9%	1.5%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.014		0.000				
有意水準	-	*		***				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、*はp<.05で有意であることを表す。
※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

1.3 投票の基準

事後調査問5で、政党や候補者に投票する時に何を判断の基準にしたか単数回答で質問を行った（表1.3.1）。調査対象は、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。

表 1.3.1 投票の基準（事後問5） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
争点に関する政党の主張	19.3%	20.5%	18.0%	12.1%	17.5%	19.8%	20.3%	25.1%
政党のイメージ	15.9%	13.7%	18.4%	19.4%	15.0%	11.1%	16.4%	17.1%
自分自身の生活や暮らし向き	14.4%	15.4%	13.3%	14.6%	16.0%	15.0%	14.2%	12.9%
争点に関する候補者の主張	11.3%	10.5%	12.2%	11.2%	9.0%	11.1%	12.9%	11.8%
参考にしたものはない	10.1%	9.0%	11.4%	8.3%	12.5%	13.0%	11.2%	6.5%
候補者の人柄やイメージ	9.1%	9.6%	8.5%	7.8%	7.0%	9.2%	9.5%	11.4%
国全体の経済状況	8.6%	11.0%	5.8%	6.8%	11.0%	9.7%	6.9%	8.7%
周りの人の意見や評価	3.5%	1.9%	5.4%	7.8%	3.5%	1.9%	3.0%	1.9%
所属する企業や団体、組合の推薦	3.3%	3.6%	3.1%	4.4%	4.5%	5.3%	1.7%	1.5%
その他	2.5%	3.4%	1.5%	2.9%	2.5%	2.4%	2.6%	2.3%
運動員からの働きかけ	1.9%	1.5%	2.3%	4.9%	1.5%	1.4%	1.3%	0.8%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.000		0.006				
有意水準	-	***		**				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.05で有意、**はp<.01で有意であることを表す。
※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

投票の基準は上位から「争点に関する政党の主張」（19.3%）、「政党のイメージ」（15.9%）、「自分自身の生活や暮らし向き」（14.4%）、「争点に関する候補者の主張」（11.3%）、「参考にしたものはない」（10.1%）の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「政党のイメージ」「周りの人の意見や評価」で女性が有意に高く、「国全体の経済状況」では男性が有意に高かった。

年齢層別では、「争点に関する政党の主張」で60代が有意に高く、「周りの人の意見や評価」「運動員からの働きかけ」で10・20代が有意に高かった。

男性は経済状況を、女性は政党イメージや周囲の意見・評価を参考に投票する割合が高いことが明らかとなった。また、高年齢層では争点に関する政党の主張を参考に投票する割合が高い一方、若年層では、周りの意見や評価、働きかけを参考に投票する割合が高い傾向が示された。

1.4 投票先決定時期

事後調査問6で、選挙区選挙での投票先の候補者の決定時期について、単数回答で質問を行った（表1.4.1）。対象は事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。

回答は上位から、「7月14日（投票日1週間前）～7月20日（投票日の前日）」（35.8%）、「7月21日（投票日の当日）」（22.6%）、「7月4日（選挙公示日）～7月13日」（20.3%）、「5月以前」（13.2%）、「6月～7月3日（選挙公示日の前）」（8.1%）の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「5月以前」と「6月～7月3日（選挙公示日の前）」で男性の割合が有意に高かった。一方、「7月14日（投票日1週間前）～7月20日（投票日の前日）」では女性の割合が有意に高かった。

年齢層別では、「6月～7月3日（選挙公示日の前）」と「7月4日（選挙公示日）～7月13日」で60代の割合が有意に高かった。「7月21日（投票日の当日）」では10・20代と30代の割合が有意に高かった。

男性は早期に、女性は投票日の直前に投票先を決定する割合が高いことが明らかになった。また、高年齢層は選挙期間の前半までに投票先を決定し、若年層では投票日の当日に投票先を決める割合が高いことが示された。

表 1.4.1 投票先決定時期（選挙区）（事後問6） ※単数回答

	全体	性別		年齢層					
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代	
5月以前	13.2%	15.6%	10.4%	8.3%	12.0%	13.0%	14.7%	16.7%	
6月～7月3日（選挙公示日の前）	8.1%	9.8%	6.2%	5.3%	7.0%	8.7%	7.3%	11.4%	
7月4日（選挙公示日）～7月13日	20.3%	21.5%	19.0%	22.3%	16.0%	15.9%	19.0%	26.6%	
7月14日（投票日1週間前）～7月20日（投票日の前日）	35.8%	32.8%	39.3%	35.4%	37.0%	39.6%	35.3%	32.7%	
7月21日（投票日の当日）	22.6%	20.3%	25.1%	28.6%	28.0%	22.7%	23.7%	12.5%	
n	1108	591	517	206	200	207	232	263	
p値	-	0.002		0.000					
有意水準	-	**		***					

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

比例代表選挙の投票先の選択時期についても事後調査問6で質問を行った（表1.4.2）。対象は同じく、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。その結果、上位から「7月14日（投票日1週間前）～7月20日（投票日の前日）」（36.3%）、「7月21日（投票日の当日）」

(21.5%)、「7月4日(選挙公示日)～7月13日」(17.8%)、「5月以前」(15.9%)、「6月～7月3日(選挙公示日の前)」(8.6%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「5月以前」で男性の割合が有意に高かった。

年齢層別では、「5月以前」で50代、「7月4日(選挙公示日)～7月13日」では60代、「7月21日(投票日の当日)」では10・20代が有意に高かった。

分析の結果から、比例代表選挙でも男性について、早期に投票先を決定する傾向が明らかとなった。また、高年齢層では選挙期間の前半までに投票先を決定する傾向がある一方、若年層では投票日当日に投票先を決める割合が高いことが示された。

表 1.4.2 投票先決定時期(比例代表)(事後問6) ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
5月以前	15.9%	18.1%	13.3%	9.2%	13.5%	15.0%	20.7%	19.4%
6月～7月3日(選挙公示日の前)	8.6%	9.5%	7.5%	6.8%	5.5%	10.6%	7.8%	11.4%
7月4日(選挙公示日)～7月13日	17.8%	19.3%	16.1%	18.9%	15.5%	15.5%	14.7%	23.2%
7月14日(投票日1週間前)～7月20日(投票日の前日)	36.3%	33.8%	39.1%	37.4%	39.5%	37.2%	34.9%	33.5%
7月21日(投票日の当日)	21.5%	19.3%	24.0%	27.7%	26.0%	21.7%	22.0%	12.5%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.020		0.000				
有意水準	-	*		***				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、*は $p < .05$ で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

2. 選挙運動期間中のメディア接触

2.1 メディアへの接触

事後調査問 25 で、「あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、以下のメディアで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。（それぞれひとつだけ）」との質問を行った。「ほぼ毎日」「週に数回」「選挙運動期間中に数回」「選挙運動期間中に1回」「まったく見ていない」の5件法を用いて、単数回答で回答を求めた。このうち「まったく見ていない」以外を合わせて「接触」とし、その割合を集計した結果が表 2.1.1 である。

表 2.1.1 メディアへの接触（事後問 25）

	全体	性別				有意水準	年齢層					p値	有意水準
		男性	女性	p値	10・20代		30代	40代	50代	60代			
テレビ	80.2%	80.2%	80.1%	0.970	n.s.	76.6%	81.2%	77.7%	80.9%	85.2%	0.054	†	
政党・候補者のポスター・パンフレット	64.2%	65.0%	63.4%	0.490	n.s.	60.3%	67.2%	64.1%	63.4%	66.8%	0.330	n.s.	
政党・候補者の街頭演説・宣伝車	52.4%	53.9%	51.0%	0.250	n.s.	57.6%	52.2%	53.4%	51.1%	46.8%	0.082	†	
インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)	52.0%	61.3%	42.8%	0.000	***	54.6%	54.1%	52.1%	47.9%	51.0%	0.433	n.s.	
政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	48.0%	53.2%	42.8%	0.000	***	43.2%	41.1%	45.6%	53.4%	57.7%	0.000	***	
新聞	47.1%	53.5%	40.8%	0.000	***	35.3%	35.4%	46.9%	55.0%	65.5%	0.000	***	
選挙に関連した家族との会話	44.0%	40.4%	47.5%	0.004	**	44.6%	37.3%	36.6%	46.3%	55.2%	0.000	***	
選挙公報	38.1%	40.0%	36.1%	0.103	n.s.	32.9%	31.5%	33.7%	33.7%	59.7%	0.000	***	
選挙についての検索結果 (Googleなどで)	26.1%	33.8%	18.4%	0.000	***	31.0%	26.1%	27.8%	22.7%	21.9%	0.046	*	
メディアを問わず世論調査	25.9%	33.1%	18.7%	0.000	***	26.4%	18.5%	22.7%	25.9%	36.1%	0.000	***	
選挙に関連した友人との会話	23.4%	27.9%	19.0%	0.000	***	29.3%	18.2%	22.0%	21.7%	24.8%	0.010	**	
まとめサイト (NAVERまとめなど)	19.8%	27.4%	12.3%	0.000	***	25.0%	22.6%	20.4%	16.8%	13.2%	0.001	**	
政党・候補者のウェブサイト (ブログを含む)	19.4%	26.2%	12.5%	0.000	***	24.7%	20.7%	19.4%	17.8%	13.2%	0.005	**	
政党・候補者のネット広告	18.3%	25.1%	11.5%	0.000	***	24.5%	15.3%	18.1%	17.5%	15.2%	0.009	**	
政党・候補者が投稿したSNS	18.0%	24.9%	11.0%	0.000	***	29.1%	18.8%	16.2%	13.6%	10.0%	0.000	***	
政党・候補者のネット動画	16.6%	23.0%	10.2%	0.000	***	23.4%	17.2%	14.2%	12.6%	14.2%	0.001	**	
友人・知人が投稿したSNS	15.8%	20.0%	11.7%	0.000	***	27.2%	17.8%	13.6%	10.0%	8.4%	0.000	***	
政党集会・市民集会	10.9%	15.5%	6.3%	0.000	***	16.8%	11.5%	11.7%	5.8%	7.7%	0.000	***	
政党・候補者のメール・メールマガジン	10.4%	16.0%	4.7%	0.000	***	15.5%	9.2%	10.4%	8.4%	7.4%	0.005	**	
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-	

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、**は $p < .01$ で有意、*は $p < .05$ で有意、†は $p < .1$ で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

その結果、選挙運動期間中に接触したメディアは上位から「テレビ」（80.2%）、「政党・候補者のポスター・パンフレット」（64.2%）、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」（52.4%）、「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）」（52.0%）となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「選挙に関連した家族との会話」の割合は女性で有意に

高かった。また、「テレビ」「政党・候補者のポスター・パンフレット」「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「選挙公報」では有意差は見られなかった。それ以外の全てのメディアにおいて、接触した割合が男性で有意に高かった。

年齢層別では、「テレビ」「新聞」「選挙に関連した家族との会話」「選挙広報」「メディアを問わず世論調査」で60代の接触率が有意に高かった。また、「政党・候補者の新聞広告・テレビ広告」で50代・60代の接触率が有意に高い結果となった。一方、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「選挙についての検索結果 (Google など)」「選挙に関連した友人との会話」「まとめサイト (NAVER まとめなど)」「政党・候補者のウェブサイト」「政党・候補者のネット広告」「政党・候補者が投稿した SNS」「政党・候補者のネット動画」「友人・知人が投稿した SNS」「政党集会・市民集会」「政党・候補者のメール・メールマガジン」への接触率は10・20代が有意に高かった。

高年齢層では「テレビ」「新聞」等のマスメディアへの接触率が高い一方、若年層ではインターネット上の情報源への接触率が高い傾向が示された。

2.2 SNS への接触

事後調査問 32 で、選挙運動期間中の選挙に関する情報への SNS 上での接触頻度について、単数回答で質問した。「ほぼ毎日」「週に数回」「選挙運動期間中に数回」「選挙運動期間中に1回」「まったく見ていない」の5件法で質問し、「まったく見ていない」以外を「接触」として集計した割合が表 2.2.1 である。全体では上位から、「Twitter (ツイッター)」（23.5%）、「LINE (ライン)」「YouTube (ユーチューブ)」（いずれも 23.4%) の順番となった。カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では全ての SNS への接触割合が男性で有意に高かった。年齢層別では、「YouTube」と「ニコニコ動画」は10・20代と30代で、その他の SNS は10・20代で、接触率が有意に高かった。選挙に関する情報への個別の SNS 上での接触割合も、若年層で高いことが明らかとなった。

表 2.2.1 SNS への接触 (事後問 32)

	全体	性別				年齢層					p値	有意水準
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代		
Twitter(ツイッター)	23.5%	29.5%	17.6%	0.000	***	45.7%	24.8%	21.0%	13.3%	8.7%	0.000	***
LINE(ライン)	23.4%	26.1%	20.7%	0.011	*	35.1%	24.8%	23.0%	18.1%	13.9%	0.000	***
YouTube(ユーチューブ)	23.4%	32.0%	14.9%	0.000	***	34.8%	28.0%	19.7%	16.8%	15.5%	0.000	***
Facebook(フェイスブック)	13.4%	19.3%	7.4%	0.000	***	19.0%	15.6%	8.7%	10.4%	11.9%	0.000	***
Instagram(インスタグラム)	12.4%	14.8%	9.9%	0.003	**	25.3%	15.3%	8.4%	5.2%	5.2%	0.000	***
ニコニコ動画	7.5%	12.3%	2.7%	0.000	***	14.1%	10.8%	4.9%	3.9%	2.6%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、*は p<.05 で有意を表す。
 ※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

2.3 ネットニュースへの接触

選挙運動期間中にポータルサイト・ニュースサイト・アプリ上において、選挙に関する情報に接触した頻度を、事後調査問 33 において単数回答で質問した。対象は、事後調査問 25 (12) で選挙運動期間中に「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)」に1回以上接触した人 (n=838) である。「ほぼ毎日」「週に数回」「選挙運動期間中に数回」「選挙運動期間中

に1回「まったく見ていない」の5件法で回答を求め、「まったく見ていない」以外を接触とし集計した割合が表2.3.1である。上位から、「Yahoo!ニュース」(80.0%)、「LINENEWS」(41.3%)、「Googleニュース」(35.6%)、「SmartNews」(29.7%)、「日経電子版」(20.6%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行ったところ、性別では「LINENEWS」以外は全て、男性の接触率の方が高かった。年齢層別では、「Yahoo!ニュース」は40代、「NewsPicks」は10・20代と30代の接触率が有意に高かった。この他、「Googleニュース」と「日経電子版」以外は全て、10・20代の接触率が有意に高い結果となった。「Yahoo!ニュース」では40代の接触率が高い一方、「Googleニュース」「日経電子版」以外の他のネットニュースでは、若年層の接触率が高い状況が明らかとなった。

表 2.3.1 ネットニュースへの接触（事後問33）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
Yahoo!ニュース	80.0%	83.8%	74.5%	0.001	***	72.6%	76.5%	88.2%	82.4%	82.3%	0.003	**
LINENEWS	41.3%	40.4%	42.6%	0.516	n.s.	57.2%	45.3%	34.8%	32.4%	31.6%	0.000	***
Googleニュース	35.6%	41.6%	27.0%	0.000	***	31.8%	36.5%	35.4%	36.5%	38.6%	0.741	n.s.
SmartNews	29.7%	33.5%	24.3%	0.004	**	35.3%	30.0%	28.0%	28.4%	25.3%	0.302	n.s.
日経電子版	20.6%	28.0%	10.1%	0.000	***	25.4%	21.2%	19.3%	12.8%	22.8%	0.063	†
Gunosy	18.1%	24.5%	9.0%	0.000	***	26.4%	21.2%	14.3%	15.5%	10.8%	0.001	**
朝日新聞デジタル	18.1%	23.5%	10.4%	0.000	***	23.9%	17.1%	14.9%	13.5%	19.6%	0.088	†
msnニュース	17.2%	22.1%	10.1%	0.000	***	23.9%	17.6%	16.8%	11.5%	13.9%	0.027	*
産経ニュース	17.2%	23.3%	8.4%	0.000	***	24.9%	15.9%	13.7%	11.5%	17.7%	0.010	**
読売新聞オンライン	16.3%	22.7%	7.2%	0.000	***	21.9%	15.3%	13.7%	12.2%	17.1%	0.113	n.s.
毎日新聞ニュース	15.4%	20.3%	8.4%	0.000	***	21.9%	17.1%	12.4%	10.8%	12.7%	0.024	*
NewsPicks	12.1%	16.0%	6.4%	0.000	***	21.4%	16.5%	8.7%	7.4%	3.2%	0.000	***
n	838	493	345	—	—	201	170	161	148	158	—	—

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

2.4 政党サイト・SNS への接触

事後問 25(6) (7)で政党・候補者のウェブサイトやソーシャルメディアに選挙運動期間中に1回以上接触した回答者（ウェブサイト：n=312、ソーシャルメディア：n=289）を対象に、どの政党のウェブサイト・ソーシャルメディアにアクセスしたかをたずねている（事後問 34）。表 2.4.1 は政党別にアクセス率を比較したものである。サンプルサイズが小さいため、本稿ではウェブサイト・ソーシャルメディアいずれのアクセス率も5%未満の政党は分析対象から外し、自由民主党、公明党、立憲民主党、国民民主党、日本共産党、日本維新の会、れいわ新選組の7政党を分析対象とした。

表 2.4.1 全体・性別・年齢層別の政党サイト・SNS 接触率

	全体	性別		年齢層別				
		男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
自民 (site)	34.7%	37.9%	26.7% †	38.5%	44.6%	30.0%	25.5%	26.8%
自民 (social)	30.1%	32.5%	24.7%	34.6%	42.4%	22.0%	26.2%	9.7% *
公明 (site)	10.6%	11.4%	8.9%	12.1%	18.5%	1.7%	7.3%	12.2% *
公明 (social)	9.7%	11.0%	6.7%	11.2%	15.3%	6.0%	4.8%	6.5% †
立憲 (site)	23.7%	25.6%	19.8%	25.3%	30.8%	16.7%	14.5%	31.7%
立憲 (social)	17.6%	18.0%	16.9%	21.5%	22.0%	14.0%	11.9%	9.7%
国民 (site)	12.2%	12.8%	10.9%	14.3%	21.5%	6.7%	5.5%	9.8% *
国民 (social)	11.1%	10.5%	12.4%	13.1%	15.3%	16.0%	2.4%	0.0% *
共産 (site)	10.3%	9.5%	11.9%	14.3%	18.5%	3.3%	0.0%	12.2% **
共産 (social)	8.7%	9.0%	7.9%	11.2%	11.9%	8.0%	0.0%	6.5%
維新 (site)	17.6%	19.0%	14.9%	17.6%	29.2%	10.0%	12.7%	17.1% †
維新 (social)	12.5%	15.0%	6.7% †	10.3%	25.4%	8.0%	14.3%	0.0% **
れいわ (site)	10.6%	9.5%	12.9%	11.0%	20.0%	10.0%	1.8%	7.3% *
れいわ (social)	14.2%	12.5%	18.0%	15.0%	16.9%	14.0%	4.8%	19.4%

χ^2 検定の結果、† : p<0.1、* : p<0.05、** : p<0.01

表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

2017年衆院選時に実施した調査では、政党別サイト・ソーシャルメディア接触率で性別による有意差はなく、10歳代ではソーシャルメディアへの接触率が高かった（橋元ら，2018）。2019年参院選の調査結果では、性別による接触率の差は2017年調査と同様に有意ではないが、年齢層別では30代が政党のウェブサイトやSNSへの接触率が高くなっている。

次に、政党のウェブサイト・SNSへの接触に関連する変数を調べるため、いずれかの政党・候補者へのウェブサイトまたはソーシャルメディアへの接触を従属変数、属性、政治関心（問8）、メディアごとの選挙関連情報接触頻度（問1：テレビ、新聞、ニュースサイト、友人のSNS、友人との会話）を独立変数に投入したロジスティック回帰分析を行った（表2.4.2）。

政党ウェブサイト・SNSともに、年齢が低くなるほど（5%水準）接触する可能性が高くなっている。異なる点では、政党ウェブサイトへの接触では政治関心、ニュースサイト（10%水準有意傾

向)・友人との会話(5%水準)での選挙関連情報接触と正の関連がある一方で、政党 SNS への接触は友人 SNS からの選挙関連情報接触(1%水準)と正の関連があった。選挙関連情報の情報源として、ウェブサイト(ニュースサイト)を利用している人は政党ウェブサイトにも、友人 SNS を利用している人は政党 SNS にも接触している傾向がみられる。

表 2.4.2 政党・候補者ウェブサイト・ソーシャルメディア接触の予測

従属変数	政党ウェブサイト接触		政党 SNS 接触	
	<i>B</i>	<i>SE</i>	<i>B</i>	<i>SE</i>
性別(1:男性, 2:女性)	-0.070	0.277	-0.122	0.292
年齢	-0.037***	0.010	-0.040***	0.010
教育年数	0.056	0.067	0.054	0.068
政治関心	0.234 †	0.127	0.187	0.129
テレビ	0.007	0.022	0.009	0.023
新聞	0.008	0.021	0.016	0.024
ニュースサイト	0.040 †	0.022	0.026	0.023
友人の SNS	0.064	0.040	0.095**	0.036
友人との会話	0.110*	0.049	0.031	0.041
定数	-0.388	1.287	-0.423	1.269
n	311		287	
Nagelkerke R ²	0.201		0.188	

† : p<0.1, ** : p<0.01, *** : p<0.001

橋元良明・小笠原盛浩・河井大介・長濱憲(2018)「2017年衆議院選挙における投票行動と情報行動:年齢層別比較を中心に」『東京大学大学院情報学環情報学研究.調査研究編』東京大学大学院情報学環, 34, 1-59.

2.5 候補者ウェブサイト・SNS への接触、SNS で見た選挙関連の話題

2.5.1 候補者ウェブサイト・SNS への接触

事後問 25(6)(7)で政党・候補者のウェブサイトや SNS のどちらかに選挙期間中に 1 回以上接触した回答者 (n=384) を対象に、候補者のウェブサイト・SNS にアクセスした頻度を 4 件法でたずねている (事後問 35)。表 2.5.1 は事後問 35 の回答を、回答者全員を母数とした (n=1612) 候補者ウェブサイト・SNS への接触有無の 2 値変数 (接触あり、接触なし) に変換し、接触率を性別・年齢層別に比較したものである。

男性、10・20 代の回答者は候補者のウェブサイト・SNS への接触率が有意に高く、女性・50・60 代の回答者は接触率が有意に低い。

表 2.5.1 全体・性別・年齢層別の候補者サイト・SNS 接触率

全体	性別		年齢層別				
	男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
17.3%	23.0%	11.7%***	26.4%	19.1%	16.5%	11.7%	11.3%***

χ^2 検定の結果、***: $p < 0.001$

表中の黒太字は残差分析の結果 5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

表 2.5.2 候補者ウェブサイト・SNS 接触頻度の予測

従属変数	候補者サイト・SNS 接触頻度	
	β	t
性別 (1:男性, 2:女性)	-0.037 †	0.998
年齢	-0.129***	-1.693
教育年数	0.018	-5.733
政治関心	0.139***	0.818
テレビ	-0.017	5.906
新聞	0.004	-0.723
ニュースサイト	0.109***	0.141
友人の SNS	0.311***	4.704
友人との会話	0.110***	13.708
調整済 R ²	0.302	

†: $p < 0.1$, ***: $p < 0.001$

次に事後問 35 の回答を回答者全員を母数にして変換し、候補者ウェブサイト・SNS への接触頻度を重回帰分析で予測した結果が表 2.5.2 である。男性であるほど (10%有意傾向)、年齢が若いほど・政治関心が高いほど (0.1%水準)、ニュースサイト・友人の SNS・友人との会話を通じて選挙関

連情報に接しているほど（0.1%）、候補者のウェブサイト・SNSにも接触する頻度が高くなっている。

2.5.2 SNS で見た選挙関連の話題

選挙運動期間中に SNS で見た選挙関連の話題について、回答者全員（n=1612）を母数に事後問 36 でたずねている。話題ごとの接触率を性別・年齢層別に比較したものが表 2.5.3 である。

最も接触率が高い話題は政党関連（43.2%）、最も低い話題は街頭演説・演説会関連（11.2%）であった。性別では、党首関連（5%水準）・争点関連（1%水準）の話題に男性の方が有意に高く接触している。年齢層別では、政党関連の話題への接触率が 10・20 代で有意が高く、50・60 代では有意に低い。また、候補者関連の話題には 40 代の接触率が高く、60 代が低い。

表 2.5.3 全体・性別・年齢層別の SNS で見た選挙関連の話題接触率

	全体	性別		年齢層別				
		男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
政党関連	43.2%	45.4%	40.9% †	53.0%	46.2%	42.4%	38.2%	34.2% ***
党首関連	12.7%	14.9%	10.5% *	14.4%	11.5%	12.0%	10.4%	15.2%
候補者関連	24.8%	23.3%	26.3%	27.2%	25.8%	31.1%	24.3%	15.5% ***
争点関連	20.5%	23.7%	17.2% **	23.6%	20.7%	18.8%	19.4%	19.4%
街頭演説関連	11.2%	9.8%	12.5% †	12.5%	13.4%	11.3%	10.4%	8.1%

χ^2 検定の結果、† : p<0.1、* : p<0.05、** : p<0.01、*** : p<0.001

表中の黒太字は残差分析の結果 5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

3. 役に立った情報源、信頼できた情報源

3.1 役に立った情報源

選挙期間中（7月4日～7月20日）に19のメディアそれぞれで1回でも選挙に関する情報に接触した人に、その情報源が役に立ったか、「役に立った」「やや役に立った」「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の4件法で確認した。「役に立った」「やや役に立った」を「役に立った」として、その比率を、全体、性別、年齢層別に確認したものが表3.1.1である。また、参考として、(6)～(13) (19)を汎ネットとして、いずれか一つでも「役に立った」としている人の比率も示す。

分析の結果、全体では、(2)新聞（72.1%）が最も役に立った人の比率が高く、次いで(19)検索結果（66.0%）、(1)テレビ（65.8%）、(12)ニュースサイト・ニュースアプリ（63.7%）が続く。

性別では、(1)テレビ、(10)政党・候補者のネット動画で男性の方が役に立ったと回答した人の比率が高く、(15)家族との会話では女性の方が役に立ったと回答した人の比率が高い。それ以外のメディアでは性別による差異はみられなかった。

表 3.1.1 全体・性別・年齢層別の情報源が役に立った人の比率（利用者のみ）

	N	全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
(1) テレビ	1291	65.8%	62.1%	69.6%	8.15 **	62.1%	64.3%	64.2%	68.8%	70.1%	5.44
(2) 新聞	759	72.1%	71.7%	72.3%	0.03	68.5%	75.7%	66.9%	72.4%	75.9%	4.94
(3) 政党・候補者のポスター・パンフレット	1034	36.3%	34.1%	38.4%	2.15	40.5%	39.3%	36.4%	29.6%	34.8%	6.59
(4) 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	773	34.4%	32.5%	36.0%	1.05	41.5%	35.7%	34.8%	29.1%	31.8%	6.24
(5) 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	844	24.2%	21.9%	26.3%	2.26	29.7%	23.8%	23.6%	17.1%	24.8%	7.96 †
(6) 政党・候補者のウェブサイト	312	59.6%	56.4%	61.1%	0.63	70.3%	66.2%	60.0%	40.0%	51.2%	15.49 **
(7) 政党・候補者が投稿したSNS	289	58.5%	59.6%	58.0%	0.06	66.4%	61.0%	56.0%	35.7%	61.3%	12.08 *
(8) 政党・候補者のメール、メールマガジン	167	43.7%	34.2%	46.5%	1.81	45.6%	48.3%	46.9%	30.8%	43.5%	2.23
(9) 政党・候補者のネット広告	295	40.0%	34.4%	42.6%	1.77	50.0%	41.7%	37.5%	22.2%	42.6%	11.19 *
(10) 政党・候補者のネット動画	267	56.2%	41.5%	62.7%	10.41 **	66.3%	55.6%	59.1%	43.6%	45.5%	8.29 †
(11) 友人・知人が投稿したSNS	255	51.8%	56.4%	49.1%	1.27	55.0%	42.9%	52.4%	48.4%	61.5%	3.34
(12) ニュースサイト・ニュースアプリ	838	63.7%	60.6%	65.9%	2.51	65.2%	67.1%	60.9%	62.2%	62.7%	1.80
(13) まとめサイト（NAVERまとめなど）	319	55.2%	56.6%	54.5%	0.11	50.0%	59.2%	63.5%	53.8%	48.8%	3.93
(14) 選挙公報	613	57.6%	60.5%	55.0%	1.90	57.9%	58.6%	58.7%	56.7%	56.8%	0.18
(15) 選挙に関連した家族との会話	708	59.0%	62.9%	54.5%	5.21 *	64.0%	55.6%	61.1%	58.0%	56.1%	3.12
(16) 選挙に関連した友人との会話	377	56.2%	58.2%	54.9%	0.39	53.7%	52.6%	60.3%	50.7%	63.6%	3.57
(17) 政党集会・市民集会	176	51.1%	47.1%	52.8%	0.48	51.6%	50.0%	47.2%	44.4%	62.5%	1.81
(18) メディアを問わず世論調査	417	48.7%	50.3%	47.7%	0.26	51.5%	51.7%	47.1%	52.5%	42.9%	2.59
(19) 選挙についての検索結果	420	66.0%	68.9%	64.3%	0.90	68.4%	73.2%	61.6%	58.6%	66.2%	4.63
汎ネット	957	67.6%	61.2%	72.3%	13.02 ***	73.7%	68.1%	65.9%	63.1%	64.8%	6.53

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***： $p<.001$ 、**： $p<.01$ 、*： $p<.05$ 、†： $p<.10$ であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字： $p<.05$ で高く、赤太字： $p<.05$ で低いことを示す。

※汎ネット：(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)(13)(19)のいずれか1つでも役に立ったと回答した人の比率。

年齢層別では、(3)政党・候補者のポスター・パンフレットでは50代が低く、(4)政党・候補者の新聞広告・テレビ広告、(10)政党・候補者のネット動画では18-29歳が高く、(5)政党・候補者の街頭

演説・宣伝車、(6)政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む）、(7)政党・候補者が投稿した SNS、(9)政党・候補者のネット広告では50代が低く、18-29歳で高い結果となった。

3.2 信頼できた情報源

選挙期間中（7月4日～7月20日）に19のメディアそれぞれで1回でも選挙に関する情報に接触した人に、その情報源が信頼できたか、「信頼できた」「やや信頼できた」「あまり信頼できなかった」「信頼できなかった」の4件法で確認した。「信頼できた」「やや信頼できた」を「信頼できた」として、その比率を、全体、性別、年齢層別に確認したものが表3.2.1である。また、参考として、(6)～(13)(19)を汎ネットとして、いずれか一つでも「信頼できた」としている人の比率も示す。

分析の結果、全体では、(2)新聞（75.9%）が最も高く、次いで(15)家族との会話（72.9%）、(1)テレビ（67.4%）、(19)検索結果（66.7%）、(12)ニュースサイト・ニュースアプリ（66.1%）、(14)選挙公報（65.7%）、(15)友人との会話（64.2%）が続く。

表 3.2.1 全体・性別・年齢層別の情報源が信頼できた人の比率（利用者のみ）

	N	全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
(1) テレビ	1291	67.4%	67.6%	67.1%	0.04	60.6%	64.7%	66.7%	73.2%	72.3%	13.54 **
(2) 新聞	759	75.9%	81.2%	71.9%	8.80 **	70.8%	75.7%	73.1%	77.6%	79.8%	4.47
(3) 政党・候補者のポスター・パンフレット	1034	42.2%	43.4%	40.9%	0.68	47.3%	46.0%	40.9%	34.2%	41.5%	8.93 †
(4) 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	773	42.0%	45.2%	39.5%	2.58	50.3%	46.5%	42.6%	37.0%	35.8%	10.18 *
(5) 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	844	31.6%	30.9%	32.3%	0.20	36.8%	33.5%	30.9%	24.7%	30.3%	6.56
(6) 政党・候補者のウェブサイト	312	56.7%	51.5%	59.2%	1.67	63.7%	64.6%	51.7%	49.1%	46.3%	7.20
(7) 政党・候補者が投稿したSNS	289	57.8%	61.8%	56.0%	0.85	67.3%	54.2%	56.0%	38.1%	61.3%	11.16 *
(8) 政党・候補者のメール、メールマガジン	167	49.7%	52.6%	48.8%	0.17	50.9%	55.2%	50.0%	46.2%	43.5%	0.87
(9) 政党・候補者のネット広告	295	43.1%	38.7%	45.0%	1.04	51.1%	47.9%	39.3%	31.5%	40.4%	6.25
(10) 政党・候補者のネット動画	267	56.9%	52.4%	58.9%	0.97	65.1%	57.4%	61.4%	46.2%	45.5%	6.92
(11) 友人・知人が投稿したSNS	255	58.8%	60.6%	57.8%	0.20	60.0%	60.7%	64.3%	48.4%	53.8%	2.32
(12) ニュースサイト・ニュースアプリ	838	66.1%	63.5%	68.0%	1.81	65.7%	68.8%	66.5%	65.5%	63.9%	0.94
(13) まとめサイト（NAVERまとめなど）	319	56.1%	55.6%	56.4%	0.02	56.5%	54.9%	63.5%	57.7%	43.9%	3.97
(14) 選挙公報	613	65.7%	68.4%	63.4%	1.72	64.5%	64.6%	67.3%	64.4%	67.0%	0.47
(15) 選挙に関連した家族との会話	708	72.9%	77.8%	67.1%	10.24 **	76.2%	76.1%	69.0%	68.5%	73.7%	3.80
(16) 選挙に関連した友人との会話	377	64.2%	65.4%	63.4%	0.15	58.3%	64.9%	66.2%	59.7%	74.0%	5.57
(17) 政党集会・市民集会	176	58.5%	58.8%	58.4%	0.00	61.3%	52.8%	52.8%	61.1%	66.7%	1.88
(18) メディアを問わず世論調査	417	56.4%	57.6%	55.6%	0.15	59.8%	60.3%	55.7%	60.0%	49.1%	3.68
(19) 選挙についての検索結果	420	66.7%	67.6%	66.2%	0.08	73.7%	72.0%	64.0%	54.3%	64.7%	8.79 †
汎ネット	957	71.4%	65.7%	75.5%	11.01 ***	76.1%	71.7%	69.3%	70.8%	67.0%	4.73

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***: $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字 : $p < .05$ で高く、赤太字 : $p < .05$ で低いことを示す。

※汎ネット : (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (19)のいずれか1つでも役に立ったと回答した人の比率。

性別では、(2)新聞と(15)家族との会話で、女性が男性よりも高かったが、それ以外のメディアでは性別による差異はみられなかった。

年齢層別では、(1)テレビで18-29歳が低く、50代が高い傾向がみられた。また、(3)政党・候補者

のポスター・パンフレット、(5)政党・候補者の街頭演説・宣伝車、(19)検索結果で 50 代が低い傾向がみられ、(4)政党・候補者の新聞広告・テレビ広告では 18-29 歳が高く、(7)政党・候補者が投稿した SNS で 18-29 歳が高く、50 代で低い傾向がみられ、(16)友人との会話では 60 代が高い傾向がみられた。それ以外のメディアでは年齢層による差異はみられなかった。

4. 重視争点

4.1 重視した争点

選挙後の事後調査問 20 において、選挙で重視した争点について複数回答で質問した（表 4.1.1）。重視した争点は上位から「年金」（39.4%）、「消費税引き上げ」（34.5%）、「景気」（34.2%）、「あてはまるものはない」（23.3%）、「憲法改正」（21.1%）の順番となった（表 4.1.1）。

カイ二乗検定・残差分析の結果では、「景気」「憲法改正」「財政再建」「外交政策全般」「日韓関係」「陸上イージスの配備」の割合は男性で有意に高かった。一方、「あてはまるものはない」「幼児教育・保育・高等教育無償化」の割合は、女性で有意に高かった。年齢層別では「年金」（50代、60代）、「憲法改正」「財政再建」「原子力発電所の稼働」「外交政策全般」「沖縄基地」（いずれも 60代）で、高年齢層における割合が有意に高かった。また、「消費税引き上げ」「あてはまるものはない」（いずれも 10・20代）については若年層で重視する割合が有意に高かった。「幼児教育・保育・高等教育無償化」（10・20代、30代）、「雇用」（40代）においても、各年齢層で重視する割合が有意に高い結果となった。

表 4.1.1 重視争点（複数）（事後問 20） ※複数回答

	全体	性別				年齢層						有意水準
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	
年金	39.4%	37.7%	41.2%	0.150	n.s.	35.1%	31.8%	35.9%	46.9%	48.4%	0.000	***
消費税引き上げ	34.5%	34.8%	34.1%	0.765	n.s.	38.9%	28.3%	34.3%	34.6%	35.5%	0.075	†
景気	34.2%	38.4%	30.0%	0.000	***	28.8%	33.1%	36.2%	35.6%	38.4%	0.085	†
あてはまるものはない	23.3%	20.3%	26.3%	0.004	**	28.5%	27.4%	27.2%	19.7%	12.6%	0.000	***
憲法改正	21.1%	24.4%	17.9%	0.001	**	17.4%	17.5%	17.5%	19.1%	34.8%	0.000	***
雇用	17.8%	19.3%	16.4%	0.128	n.s.	16.8%	17.2%	22.7%	18.8%	13.9%	0.068	†
財政再建	16.4%	19.3%	13.5%	0.002	**	13.0%	13.7%	16.2%	16.8%	22.9%	0.006	**
幼児教育・保育・高等教育無償化	16.1%	12.6%	19.7%	0.000	***	20.4%	26.1%	11.3%	8.7%	13.2%	0.000	***
原子力発電所の稼働	11.9%	11.7%	12.0%	0.831	n.s.	8.2%	7.0%	9.4%	12.9%	22.6%	0.000	***
外交政策全般	11.4%	14.1%	8.7%	0.001	***	7.1%	8.0%	12.0%	11.0%	19.7%	0.000	***
日韓関係	8.2%	10.7%	5.7%	0.000	***	5.2%	8.0%	9.4%	10.7%	8.4%	0.105	n.s.
震災復興	7.2%	6.3%	8.1%	0.182	n.s.	6.5%	5.7%	6.8%	7.4%	9.7%	0.378	n.s.
沖縄基地	4.7%	4.9%	4.6%	0.806	n.s.	4.3%	3.8%	3.2%	4.5%	7.7%	0.075	†
北朝鮮拉致	4.2%	4.5%	4.0%	0.613	n.s.	3.5%	4.5%	3.9%	3.9%	5.5%	0.759	n.s.
北方領土・対ロシア交渉	3.5%	4.0%	3.0%	0.272	n.s.	3.0%	3.5%	3.9%	2.6%	4.5%	0.711	n.s.
陸上イージスの配備	3.0%	4.2%	1.9%	0.006	**	3.3%	1.9%	2.9%	2.9%	4.2%	0.583	n.s.
新たな日米貿易協定	2.8%	3.5%	2.1%	0.095	†	2.2%	2.9%	3.6%	1.6%	3.9%	0.394	n.s.
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、†は p<.1 で有意傾向であることを表す。n.s.は not significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

さらに、選挙後の事後調査問 21 において、選挙時に最も重視した争点について単数回答で質問した（表 4.1.2）。対象は、事後調査問 20 でいずれかの争点を重視すると回答があった人（n=1,235）である。選挙後に最重視された争点は上位から、「消費税引き上げ」（19.4%）、「年金」（18.9%）、「景気」（18.5%）だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「景気」「日韓関係」は男性で、「幼児教育・保育・高等教育無償化」は女性で最重視する割合が有意に高かった。

年齢層別に見ると、「憲法改正」「原子力発電所の稼働」（いずれも 60代）において、高年齢層で重

視する割合が有意に高かった。一方、「消費税引き上げ」「沖縄基地」（いずれも10・20代）は、若年層で重視する割合が高かった。「幼児教育・保育・高等教育無償化」（10・20代、30代）、「雇用」（30代）、「財政再建」（40代）、「年金」（50代）、についても、各年齢層で重視する割合が高かった。

調査結果を通じて、性別・年齢層によって重視する争点異なる傾向が見られた。

表 4.1.2 最重視争点（事後問 21） ※単数回答

	全体	性別		年齢層					
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代	
消費税引き上げ	19.4%	17.5%	21.4%	24.7%	17.5%	22.2%	20.2%	12.5%	
年金	18.9%	18.4%	19.4%	17.9%	12.3%	13.3%	26.6%	22.9%	
景気	18.5%	22.0%	14.6%	14.8%	20.2%	20.9%	20.6%	16.6%	
憲法改正	10.5%	11.1%	9.9%	6.8%	9.2%	8.0%	9.7%	18.1%	
幼児教育・保育・高等教育無償化	7.9%	4.7%	11.3%	11.0%	20.6%	4.4%	1.6%	2.6%	
財政再建	6.5%	7.0%	5.9%	4.6%	4.4%	10.2%	5.6%	7.7%	
雇用	5.0%	5.1%	4.9%	5.7%	7.9%	5.3%	3.2%	3.3%	
外交政策全般	4.8%	5.0%	4.5%	3.4%	1.3%	7.1%	5.2%	6.6%	
原子力発電所の稼働	3.5%	3.1%	3.9%	2.7%	1.8%	2.2%	4.0%	6.3%	
日韓関係	2.3%	3.4%	1.2%	1.5%	3.1%	3.6%	2.4%	1.5%	
沖縄基地	0.9%	0.8%	1.0%	2.7%	0.9%	0.4%	0.0%	0.4%	
震災復興	0.7%	0.6%	0.8%	1.1%	0.0%	1.3%	0.4%	0.7%	
北朝鮮拉致	0.5%	0.3%	0.7%	1.1%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	
北方領土・対ロシア交渉	0.2%	0.3%	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	
新たな日米貿易協定	0.2%	0.3%	0.2%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	
陸上イージスの配備	0.2%	0.3%	0.2%	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	
n	1235	641	594	263	228	225	248	271	
p値	-	0.001		0.000					
有意水準	-	***		***					

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

4.2 争点に接触した情報源

選挙期間中の重要なテーマだったと考えられる争点について、接触した情報源を事後調査問 22 において複数回答で質問した（表 4.2.1）。

争点の「景気回復」「憲法改正」「外交政策」に接触した割合は、「テレビ」「接触なし」「新聞」「ネットニュース」「SNS」「家族・友人との会話」「その他の情報源」の順番だった。「年金改革」については、「テレビ」「新聞」「接触なし」「ネットニュース」「SNS」「家族・友人との会話」「その他の情報源」の順番だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別については、いずれの争点も「新聞」「ネットニュース」に接触した割合は男性で有意に高く、「接触なし」は女性で有意に高かった。また、年齢層別では、いずれの争点についても「新聞」は50代と60代、「接触なし」は10・20代と30代、「SNS」は10・20代で回答の割合が高かった。「テレビ」は60代、または50代と60代で回答の割合が高かった。

選挙時の主要争点について、「テレビ」と「新聞」は高齢層、「SNS」は若年層が、高い割合で接触している状況が明らかになった。

表 4. 2. 1 争点に接触した情報源（事後問 22） ※複数回答

	全体	性別				年齢層					有意水準		
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代		p値	
景気回復	テレビ	57.3%	59.7%	54.8%	0.049	*	48.4%	51.3%	56.3%	64.4%	67.7%	0.000	***
	接触なし	29.0%	22.4%	35.6%	0.000	***	37.8%	34.1%	28.5%	24.3%	18.7%	0.000	***
	新聞	21.7%	27.0%	16.5%	0.000	***	12.2%	13.1%	19.4%	29.1%	36.8%	0.000	***
	ネットニュース	18.1%	24.5%	11.8%	0.000	***	17.7%	16.6%	19.1%	19.1%	18.4%	0.913	n.s.
	SNS	5.4%	6.6%	4.2%	0.035	*	10.6%	6.7%	3.6%	4.2%	1.0%	0.000	***
	家族・友人との会話	3.4%	3.1%	3.7%	0.499	n.s.	4.3%	3.8%	2.9%	2.9%	2.9%	0.764	n.s.
	その他の情報源	2.2%	2.9%	1.5%	0.059	†	1.4%	2.9%	1.9%	1.9%	2.9%	0.594	n.s.
年金改革	テレビ	64.8%	64.8%	64.8%	0.988	n.s.	56.3%	61.5%	63.1%	68.6%	78.1%	0.000	***
	新聞	23.1%	26.6%	19.6%	0.001	***	11.7%	14.6%	21.4%	28.8%	41.3%	0.000	***
	接触なし	22.2%	19.5%	24.8%	0.011	*	27.4%	26.4%	24.3%	18.8%	12.9%	0.000	***
	ネットニュース	20.3%	26.5%	14.1%	0.000	***	21.2%	19.1%	19.7%	21.0%	20.3%	0.961	n.s.
	SNS	6.6%	7.1%	6.2%	0.475	n.s.	13.3%	6.4%	4.5%	5.2%	2.6%	0.000	***
	家族・友人との会話	4.5%	3.9%	5.2%	0.191	n.s.	5.4%	4.5%	3.2%	3.9%	5.5%	0.584	n.s.
	その他の情報源	2.7%	3.2%	2.1%	0.162	n.s.	1.6%	3.2%	2.6%	1.3%	4.8%	0.045	*
憲法改正	テレビ	60.5%	63.2%	57.8%	0.028	*	50.5%	54.8%	61.5%	63.4%	74.2%	0.000	***
	接触なし	27.0%	21.5%	32.5%	0.000	***	32.3%	34.1%	26.2%	25.6%	15.8%	0.000	***
	新聞	21.3%	26.5%	16.1%	0.000	***	12.8%	13.1%	20.4%	25.9%	36.1%	0.000	***
	ネットニュース	16.8%	23.0%	10.7%	0.000	***	15.8%	16.6%	17.8%	17.5%	16.8%	0.961	n.s.
	SNS	5.7%	7.0%	4.5%	0.031	*	10.3%	6.4%	4.2%	4.5%	2.3%	0.000	***
	家族・友人との会話	3.9%	3.7%	4.0%	0.803	n.s.	5.7%	3.2%	3.6%	1.6%	4.8%	0.065	†
	その他の情報源	2.9%	2.7%	3.0%	0.771	n.s.	3.5%	2.9%	2.3%	2.3%	3.2%	0.820	n.s.
外交政策	テレビ	55.7%	60.2%	51.1%	0.000	***	46.2%	49.4%	57.3%	60.5%	66.8%	0.000	***
	接触なし	31.9%	23.6%	40.2%	0.000	***	38.0%	38.9%	30.4%	29.8%	21.3%	0.000	***
	新聞	20.6%	25.5%	15.6%	0.000	***	11.1%	10.8%	18.8%	26.5%	37.4%	0.000	***
	ネットニュース	18.7%	25.1%	12.3%	0.000	***	17.4%	17.8%	20.7%	18.8%	19.0%	0.841	n.s.
	SNS	6.0%	7.1%	4.8%	0.057	†	12.2%	5.7%	3.9%	3.9%	2.9%	0.000	***
	家族・友人との会話	2.7%	3.1%	2.4%	0.355	n.s.	3.3%	3.8%	1.6%	1.3%	3.5%	0.170	n.s.
	その他の情報源	2.3%	3.0%	1.6%	0.066	†	2.2%	2.2%	1.9%	1.9%	3.2%	0.814	n.s.
n	1610	804	806			368	314	309	309	310			

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

4.3 争点に関する安倍政権の取り組みへの評価

選挙期間中の主要なテーマと考えられる争点について、安倍政権の取り組みへの評価を、選挙後の事後調査問 23 において、争点ごとに単数回答で質問した（表 4.3.1）。

安倍政権の取り組みを「評価する」と回答した割合は、「外交政策」（34.7%）、「景気対策」（22.2%）、「憲法改正」（18.0%）、「年金改革」（8.9%）の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行い、性別で比較すると「外交政策」「景気対策」「憲法改正」「年金改革」の4争点全てで、「評価する」割合は男性が有意に高かった。「景気対策」「憲法改正」で「評価しない」割合は女性が有意に高かった。「わからない」回答は4つの争点全てで女性の割合が有意に高かった。

年齢層別で比較すると、4争点全てで「評価しない」と回答した割合は、50代・60代で有意に高かった。「景気対策」「年金改革」について「評価する」と回答した割合は、60代で有意に高かった。また、「憲法改正」について「どちらでもない」と回答した割合は30代で有意に高かった。4争点全てで「わからない」と回答した割合は、10・20代、30代で有意に高かった。

分析の結果、主要な争点に関する安倍政権の取り組みを「評価する」割合は男性で高く、評価が「わからない」割合は女性で高い傾向が示された。また、「評価しない」割合は高年齢層で高く、「わからない」割合は若年層で高い傾向も明らかとなった。

表 4.3.1 争点に関する安倍政権の取り組みへの評価（事後問 23） ※単数回答

	全体	性別			有意水準	年齢層					有意水準	有意水準	
		男性	女性	p値		10・20代	30代	40代	50代	60代			
景気対策	評価する	22.2%	27.1%	17.2%	0.000	***	20.1%	22.6%	23.3%	18.4%	26.8%	0.000	***
	どちらでもない	29.4%	31.2%	27.5%			30.7%	29.0%	31.7%	30.7%	24.5%		
	評価しない	40.9%	37.1%	44.8%			32.6%	37.3%	39.5%	49.5%	47.4%		
	わからない	7.5%	4.6%	10.4%			16.6%	11.1%	5.5%	1.3%	1.3%		
年金改革	評価する	8.9%	11.6%	6.3%	0.000	***	9.8%	7.3%	6.1%	9.4%	11.9%	0.000	***
	どちらでもない	26.3%	27.4%	25.2%			25.0%	29.9%	27.8%	25.9%	22.9%		
	評価しない	57.6%	56.1%	59.2%			50.0%	51.6%	60.8%	63.1%	64.2%		
	わからない	7.1%	5.0%	9.3%			15.2%	11.1%	5.2%	1.6%	1.0%		
憲法改正	評価する	18.0%	24.8%	11.2%	0.000	***	15.2%	15.6%	21.0%	16.8%	21.6%	0.000	***
	どちらでもない	32.5%	32.0%	33.0%			29.3%	38.9%	33.3%	33.3%	28.1%		
	評価しない	40.8%	37.9%	43.7%			37.8%	32.2%	38.8%	46.6%	49.4%		
	わからない	8.8%	5.3%	12.2%			17.7%	13.4%	6.8%	3.2%	1.0%		
外交政策	評価する	34.7%	39.8%	29.7%	0.000	***	28.3%	36.9%	38.8%	33.0%	37.7%	0.000	***
	どちらでもない	28.5%	27.7%	29.3%			28.5%	31.5%	27.8%	30.4%	24.2%		
	評価しない	28.6%	26.9%	30.3%			26.1%	18.5%	26.9%	34.6%	37.4%		
	わからない	8.2%	5.6%	10.8%			17.1%	13.1%	6.5%	1.9%	0.6%		
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-	

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意で有意傾向であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

5. 争点への態度

5.1 争点への態度

重視する争点とは別に 10 の争点への賛否について、事前調査、事後調査で、それぞれ「賛成」「やや賛成」「どちらでもない」「やや反対」「反対」の 5 件法で確認した。「賛成」「やや賛成」を「賛成」、「やや反対」「反対」を「反対」として、事前調査の分布を全体・性別・年齢層別で確認したものが表 5.1.1 である。

「(1)消費税引き上げ」については、全体で「反対」が 54.2%と過半数が反対している。性別では女性で「反対」が多く、男性で「反対」が少ない傾向がみられた。年齢層別では 40 代で「賛成」が少なく、60 代で「賛成」が多く「反対」が少ない傾向がみられた。

「(2)教育の無償化」については、全体で「賛成」が 58.3%と過半数が賛成している。性別では差はみられなかったが、年齢層別では、18-29 歳、30 代で「反対」が少なく「賛成」が多い一方で、40 代 50 代では「賛成」が多い傾向がみられた。

「(3)年金支給年齢の引き上げ」については、全体では「反対」(47.1%)が最も多かった。性別では差がみられなかったが、年齢層別では 18-29 歳と 60 代で「反対」が少なく、50 代では「反対」が多く「賛成」が少ない傾向がみられた。

「(4)子育て支援策の拡充」については、全体で「賛成」が 66.5%と約 3 分の 2 が賛成している。性別では差がみられなかったが、「(2)教育の無償化」と同様の傾向で、18-29 歳、30 代で「賛成」が多く、40 代 50 代で「反対」が多く「賛成」が少なかった。

「(5)社会保障(年金、医療、介護等)の拡充」については、全体の 70.7%と 3 分の 2 以上が「賛成」であった。性別では男性で「反対」が多く、女性で「賛成」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-29 歳で「反対」が多く「賛成」が少ない一方で、50 代 60 代で「賛成」が多い傾向がみられた。

「(6)外国との経済連携協定の締結」については、「どちらでもない」が 51.6%と最も多いが、「賛成」も 41.2%と高い数値を示している。性別では、男性が「反対」「賛成」のいずれでも高くなっているが、これは女性が「どちらでもない」と回答している人が多いためであろう。年齢層別では、18-29 歳、30 代で「賛成」が少なく、40 代では「反対」が多く、60 代で「反対」が少なく「賛成」が多い傾向がみられた。

「(7)外国人労働者の受け入れ」については、全体ではやや「どちらでもない」と「賛成」(いずれも 35.5%)が多い。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-20 歳では「反対」が少なく「賛成」が多いが、40 代では「賛成」が少ない傾向がみられた。

「(8)原子力発電所の稼働」では「賛成」が 24.8%とやや少ない傾向がみられた。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「反対」と「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-29 歳で「反対」が少なく、「どちらでもない」が多い一方で、50 代 60 代では「反対」が多く「どちらでもない」が少ない傾向がみられた。

「(9)憲法を変えること」については、「反対」が28.0%とやや少ない傾向がみられた。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では30代で「反対」が少なく「どちらでもない」が多い一方で、60代では「反対」が多く「どちらでもない」が少ない傾向がみられた。

「(10)普天間基地の野辺古地区への移転」については、「どちらでもない」が56.7%と過半数であった。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-29歳、30代で「どちらでもない」が多くそれに伴い賛成、反対が少ない一方で、60代では「賛成」「反対」がともに多く分極化している。

表 5.1.1 全体・性別・年齢層別の争点への態度（事前調査）

		全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
(1)消費税引き上げ	反対	54.2%	59.2%	49.1%	30.62 ***	52.2%	58.0%	57.0%	55.7%	48.4%	15.54 †
	どちらでもない	25.7%	26.1%	25.4%		28.5%	22.6%	27.2%	24.6%	25.2%	
	賛成	20.1%	14.8%	25.5%		19.3%	19.4%	15.9%	19.7%	26.5%	
(2)教育の無償化	反対	15.2%	15.0%	15.4%	0.05	10.9%	10.5%	20.4%	18.4%	16.8%	37.12 ***
	どちらでもない	26.5%	26.6%	26.5%		21.5%	25.5%	26.9%	31.4%	28.4%	
	賛成	58.3%	58.4%	58.1%		67.7%	64.0%	52.8%	50.2%	54.8%	
(3)年金支給年齢の引き上げ	反対	47.1%	48.9%	45.4%	3.32	41.3%	47.5%	49.5%	57.6%	41.0%	26.85 ***
	どちらでもない	36.6%	36.4%	36.8%		39.1%	36.6%	35.9%	31.4%	39.4%	
	賛成	16.3%	14.8%	17.8%		19.6%	15.9%	14.6%	11.0%	19.7%	
(4)子育て支援策の拡充	反対	8.6%	7.9%	9.2%	2.09	7.1%	4.8%	12.3%	12.3%	6.8%	47.96 ***
	どちらでもない	25.0%	23.9%	26.0%		19.3%	22.9%	28.2%	33.3%	22.3%	
	賛成	66.5%	68.1%	64.8%		73.6%	72.3%	59.5%	54.4%	71.0%	
(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	反対	5.8%	4.0%	7.6%	13.68 **	8.4%	5.1%	6.8%	6.8%	1.3%	48.33 ***
	どちらでもない	23.5%	21.8%	25.1%		29.9%	27.7%	24.6%	16.5%	17.4%	
	賛成	70.7%	74.2%	67.3%		61.7%	67.2%	68.6%	76.7%	81.3%	
(6)外国との経済連携協定の締結	反対	7.1%	5.3%	9.0%	53.58 ***	7.3%	8.0%	11.3%	5.8%	3.2%	34.51 ***
	どちらでもない	51.6%	60.7%	42.5%		56.8%	56.1%	49.8%	48.2%	46.1%	
	賛成	41.2%	34.0%	48.5%		35.9%	36.0%	38.8%	46.0%	50.6%	
(7)外国人労働者の受け入れ	反対	28.9%	26.4%	31.5%	14.79 ***	24.7%	26.4%	33.3%	33.0%	28.1%	22.94 **
	どちらでもない	35.5%	40.1%	31.0%		31.5%	39.8%	37.2%	35.6%	34.2%	
	賛成	35.5%	33.5%	37.6%		43.8%	33.8%	29.4%	31.4%	37.7%	
(8)原子力発電所の稼働	反対	36.0%	38.6%	33.3%	70.90 ***	27.2%	27.4%	34.3%	42.1%	50.6%	66.10 ***
	どちらでもない	39.3%	45.5%	33.0%		46.5%	49.4%	37.2%	34.0%	27.7%	
	賛成	24.8%	15.9%	33.7%		26.4%	23.2%	28.5%	23.9%	21.6%	
(9)憲法を変えること	反対	28.0%	29.5%	26.5%	40.23 ***	28.0%	15.3%	27.2%	31.4%	38.4%	54.02 ***
	どちらでもない	38.3%	44.0%	32.6%		42.1%	48.7%	35.6%	35.9%	28.4%	
	賛成	33.7%	26.4%	40.9%		29.9%	36.0%	37.2%	32.7%	33.2%	
(10)普天間基地の野辺古地区への移転	反対	22.8%	23.3%	22.3%	103.43 ***	18.2%	16.6%	22.3%	26.5%	31.3%	79.48 ***
	どちらでもない	56.7%	66.1%	47.3%		69.3%	66.6%	55.0%	50.2%	40.0%	
	賛成	20.5%	10.5%	30.5%		12.5%	16.9%	22.7%	23.3%	28.7%	

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***: p<.001、** : p<.01、* : p<.05、† : p<.10であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字 : p<.05で高く、赤太字 : p<.05で低いことを示す。

一方で、事後調査の結果を同様に確認した結果が表 5.1.2 である。全体・性別・年齢層別に傾向と

しては大きく変化はしていない。

表 5.1.2 全体・性別・年齢層別の争点への態度（事後調査）

		全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
		(1)消費税引き上げ	反対	52.2%	55.7%	48.6%	20.61 ***	52.4%	52.5%	55.0%	52.8%
	どちらでもない	24.8%	26.1%	23.6%		26.6%	26.4%	24.6%	23.3%	22.9%	
	賛成	23.0%	18.2%	27.7%		20.9%	21.0%	20.4%	23.9%	29.0%	
(2)教育の無償化	反対	15.6%	16.3%	14.9%	0.89	9.5%	9.9%	22.3%	21.0%	16.5%	47.14 ***
	どちらでもない	27.0%	26.2%	27.9%		26.6%	25.2%	25.2%	32.0%	26.1%	
	賛成	57.4%	57.6%	57.2%		63.9%	65.0%	52.4%	46.9%	57.4%	
(3)年金支給年齢の引き上げ	反対	44.7%	46.0%	43.3%	1.37	38.6%	40.4%	47.2%	56.6%	41.6%	37.23 ***
	どちらでもない	37.6%	37.0%	38.2%		37.8%	40.8%	39.5%	31.4%	38.4%	
	賛成	17.8%	17.0%	18.5%		23.6%	18.8%	13.3%	12.0%	20.0%	
(4)子育て支援策の拡充	反対	7.9%	7.6%	8.2%	0.28	6.0%	4.5%	12.6%	11.3%	5.5%	56.60 ***
	どちらでもない	27.2%	27.5%	26.9%		21.7%	21.7%	32.4%	34.6%	26.8%	
	賛成	64.9%	64.9%	64.9%		72.3%	73.9%	55.0%	54.0%	67.7%	
(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	反対	8.2%	5.7%	10.7%	13.41 **	11.1%	9.6%	8.4%	6.8%	4.5%	28.69 ***
	どちらでもない	25.2%	26.2%	24.1%		29.1%	26.8%	27.8%	22.7%	18.7%	
	賛成	66.6%	68.1%	65.2%		59.8%	63.7%	63.8%	70.6%	76.8%	
(6)外国との経済連携協定の締結	反対	7.8%	6.5%	9.2%	44.67 ***	9.2%	7.6%	10.4%	6.8%	4.8%	34.48 ***
	どちらでもない	49.0%	57.3%	40.7%		53.5%	54.8%	49.8%	46.0%	40.0%	
	賛成	43.2%	36.2%	50.1%		37.2%	37.6%	39.8%	47.2%	55.2%	
(7)外国人労働者の受け入れ	反対	29.9%	28.9%	31.0%	7.07 *	22.6%	29.3%	36.2%	33.3%	29.7%	26.37 ***
	どちらでもない	35.1%	38.2%	32.0%		33.7%	35.4%	36.2%	33.7%	36.8%	
	賛成	35.0%	32.9%	37.1%		43.8%	35.4%	27.5%	33.0%	33.5%	
(8)原子力発電所の稼働	反対	37.6%	40.6%	34.7%	84.74 ***	30.4%	24.8%	35.6%	44.7%	54.2%	92.76 ***
	どちらでもない	35.6%	42.6%	28.6%		39.9%	50.3%	37.2%	29.1%	20.3%	
	賛成	26.8%	16.9%	36.7%		29.6%	24.8%	27.2%	26.2%	25.5%	
(9)憲法を変えること	反対	31.6%	34.6%	28.6%	42.49 ***	31.3%	24.2%	28.8%	34.3%	39.7%	29.77 ***
	どちらでもない	36.4%	40.9%	31.8%		39.1%	44.6%	36.6%	34.3%	26.8%	
	賛成	32.0%	24.4%	39.6%		29.6%	31.2%	34.6%	31.4%	33.5%	
(10)普天間基地の辺野古地区への移転	反対	25.0%	25.4%	24.5%	75.84 ***	23.4%	14.3%	26.5%	28.2%	32.9%	79.00 ***
	どちらでもない	53.2%	61.4%	45.0%		60.1%	68.2%	52.4%	47.9%	36.1%	
	賛成	21.8%	13.2%	30.5%		16.6%	17.5%	21.0%	23.9%	31.0%	

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***：p<.001、**：p<.01、*：p<.05、†：p<.10であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字：p<.05で高く、赤太字：p<.05で低いことを示す。

5.2 投票の有無による争点への賛否

ここで、投票の有無によって争点への賛否に違いがあるのであろうか。投票に行かなかった人たちの争点に対する態度が、投票に行った人たちの争点に対する態度と異なっている可能性がある。そこで、投票の有無と事後調査の争点への賛否について分析した結果が表 5.2.1 である。分析の結果、「{1}消費税引き上げ」「{5}社会保障（年金、医療、介護等）の拡充」「{6}外国との経済連携協定の締結」では、投票に行っている人ほど賛成の傾向が強い。一方で、「{8}原子力発電所の稼働」「{9}憲法を変え

ること」「(10)普天間基地の辺野古地区への移転」では、投票に行っている人ほど賛成、反対のいずれかの意見を持っている傾向がみられる。

表 5.2.1 投票の有無別の事後の争点への態度

		全体	非投票	投票	χ^2 値
N		1604	496	1108	
(1)消費税引き上げ	反対	52.2%	56.7%	50.3%	15.24 ***
	どちらでもない	24.7%	26.4%	23.9%	
	賛成	23.1%	16.9%	25.8%	
(2)教育の無償化	反対	15.6%	14.9%	15.9%	0.59
	どちらでもない	26.9%	26.2%	27.3%	
	賛成	57.5%	58.9%	56.9%	
(3)年金支給年齢の引き上げ	反対	44.6%	45.4%	44.3%	1.43
	どちらでもない	37.5%	38.5%	37.1%	
	賛成	17.8%	16.1%	18.6%	
(4)子育て支援策の拡充	反対	7.8%	7.5%	7.9%	1.85
	どちらでもない	27.2%	29.4%	26.2%	
	賛成	65.0%	63.1%	65.9%	
(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	反対	8.1%	10.1%	7.2%	5.95 †
	どちらでもない	25.0%	26.8%	24.2%	
	賛成	66.9%	63.1%	68.6%	
(6)外国との経済連携協定の締結	反対	7.8%	7.5%	7.9%	26.64 ***
	どちらでもない	48.9%	58.3%	44.7%	
	賛成	43.3%	34.3%	47.4%	
(7)外国人労働者の受け入れ	反対	29.9%	27.2%	31.0%	4.18
	どちらでもない	35.1%	38.5%	33.6%	
	賛成	35.0%	34.3%	35.4%	
(8)原子力発電所の稼働	反対	37.7%	31.5%	40.5%	37.72 ***
	どちらでもない	35.4%	46.4%	30.5%	
	賛成	26.9%	22.2%	29.0%	
(9)憲法を変えること	反対	31.7%	26.2%	34.1%	29.70 ***
	どちらでもない	36.2%	46.0%	31.9%	
	賛成	32.1%	27.8%	34.0%	
(10)普天間基地の辺野古地区への移転	反対	25.0%	20.0%	27.3%	72.72 ***
	どちらでもない	53.1%	68.3%	46.3%	
	賛成	21.9%	11.7%	26.4%	

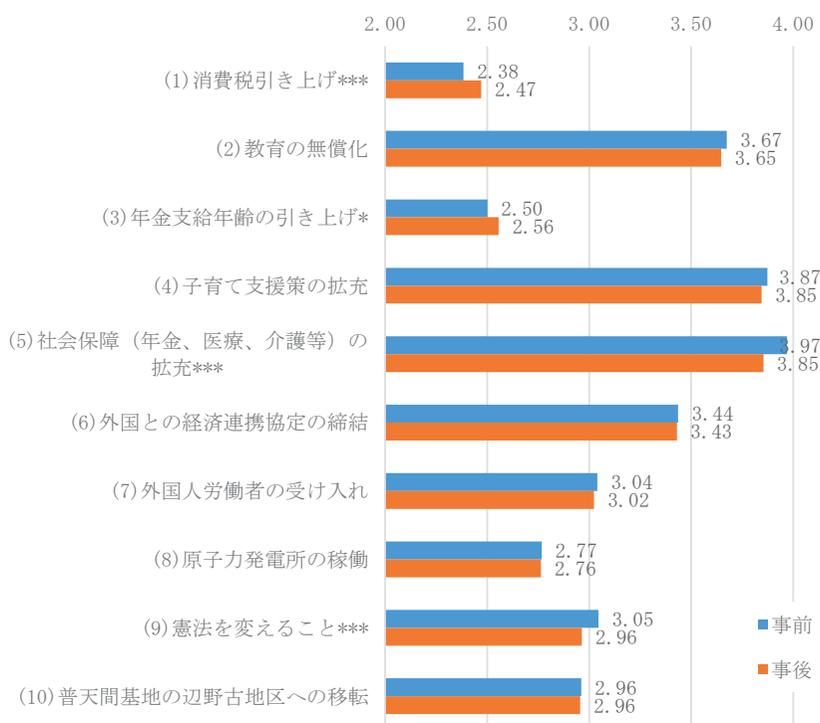
※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、*** : $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字 : $p < .05$ で高く、赤太字 : $p < .05$ で低いことを示す。

5.3 争点への態度の変化

このような争点態度に関して、選挙期間中に大きな変化はあったのであろうか。それを確認するため、事前調査、事後調査の争点への賛否について、それぞれ「賛成」を5、「やや賛成」を4、「どちらでもない」を3、「やや反対」を2、「反対」を1とし、事後調査と事前調査の平均値の差を確認したものが図 5.3.1 である。

分析の結果、「(1)消費税引き上げ」と「(3)年金支給年齢の引き上げ」については賛成が増加し、「(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充」と「(9)憲法を変えること」については反対が増加している。



※項目横の記号は、Wilcoxon の順位和検定の結果、*** : $p < .001$ 、* : $p < .05$ で有意差があることを示す。

図 5.3.1 事前調査・事後調査での争点への態度の差

6. 支持政党

支持政党について、選挙後に事後調査問9で質問した。「あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)」との設問を示し、提示した政党について「支持している」「やや支持している」「どちらでもない」「あまり支持していない」「支持していない」「政党名を知らない」の中から1つ回答を選んでもらった。この回答から、「支持している」「やや支持している」を「支持」とし、割合を集計した結果が表6.1である。この結果、支持する割合は、上位から「自由民主党」(31.4%)、「日本維新の会」(24.5%)、「立憲民主党」(18.1%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行ったところ、性別では「自由民主党」「日本維新の会」「公明党」「沖縄社会大衆党」において、男性の支持の割合が有意に高かった。

また、年齢層別で見たところ、「立憲民主党」で50代と60代、「日本維新の会」「日本共産党」「社会民主党」で60代、「自由民主党」で40代、「れいわ新選組」「国民民主党」「希望の党」で10・20代の支持の割合が有意に高い結果となった。

表 6.1 支持政党 (事後問9)

	全体	性別			年齢層							
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
自由民主党	31.4%	37.4%	25.3%	0.000	***	25.8%	30.9%	36.2%	29.4%	35.5%	0.020	*
日本維新の会	24.5%	29.7%	19.4%	0.000	***	21.2%	22.9%	23.9%	25.6%	29.7%	0.120	n.s.
立憲民主党	18.1%	18.7%	17.5%	0.544	n.s.	15.8%	12.4%	13.3%	22.0%	27.4%	0.000	***
れいわ新選組	9.4%	10.4%	8.4%	0.168	n.s.	13.6%	8.6%	7.8%	6.8%	9.7%	0.024	*
日本共産党	9.1%	9.3%	8.9%	0.783	n.s.	7.9%	7.0%	7.8%	9.7%	13.5%	0.033	*
国民民主党	8.1%	8.8%	7.3%	0.266	n.s.	11.7%	7.3%	7.4%	5.8%	7.4%	0.057	†
公明党	7.8%	9.2%	6.3%	0.031	*	9.2%	6.4%	8.4%	7.8%	6.8%	0.631	n.s.
社会民主党	6.1%	7.2%	5.1%	0.076	†	7.3%	4.5%	2.6%	5.2%	11.0%	0.000	***
希望の党	3.1%	3.9%	2.4%	0.083	†	5.2%	4.5%	2.6%	1.3%	1.6%	0.011	*
沖縄社会大衆党	2.5%	3.4%	1.7%	0.039	*	3.0%	1.9%	0.3%	2.3%	5.2%	0.004	**
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant (非有意)を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

また、最も支持する政党について、選挙後に事後問10において単数回答で質問した(表6.2)。対象は、事後問9でいずれかの政党に対して「支持している」または「やや支持している」と回答した人(n=1,025)である。

選挙後に最も支持する割合が高いのは、「自由民主党」(41.7%)、「日本維新の会」(18.0%)、「立憲民主党」(16.2%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行ったところ、性別では「自由民主党」で、男性における最支持の割合が有意に高かった。また、「日本共産党」では女性における最支持の割合が有意に高かった。年齢層別では、「自由民主党」は30代と40代、「立憲民主党」は50代と60代、「日本共産党」と「社会民主党」は60代、「れいわ新選組」「国民民主党」と「希望の党」は10・20代において、最支持の割合が有意に高かった。

分析の結果、「自由民主党」は30代と40代、「立憲民主党」「日本共産党」「社会民主党」は高年齢層、「れいわ新選組」「国民民主党」「希望の党」は若年層など、政党によって最支持の割合が高い年齢層が異なる傾向が示された。

表 6.2 最支持政党（事後問 10） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10-20代	30代	40代	50代	60代
自由民主党	41.7%	45.6%	36.8%	37.6%	49.7%	50.3%	39.4%	34.0%
日本維新の会	18.0%	18.5%	17.5%	16.3%	16.4%	15.7%	18.8%	22.0%
立憲民主党	16.2%	16.0%	16.4%	11.4%	10.7%	13.2%	21.6%	22.0%
れいわ新選組	7.5%	6.5%	8.8%	15.8%	5.6%	6.6%	5.8%	4.1%
公明党	5.0%	4.4%	5.7%	5.0%	4.5%	4.6%	6.3%	4.6%
日本共産党	4.7%	3.2%	6.6%	2.5%	4.5%	4.1%	4.3%	7.5%
国民民主党	3.9%	3.2%	4.8%	6.4%	5.1%	4.1%	2.4%	2.1%
社会民主党	1.5%	1.4%	1.5%	1.5%	1.7%	0.5%	0.5%	2.9%
希望の党	1.2%	0.9%	1.5%	3.0%	1.7%	1.0%	0.5%	0.0%
沖縄社会大衆党	0.4%	0.4%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%
n	1025	568	457	202	177	197	208	241
p値	-	0.059		0.000				
有意水準	-	†		***				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、†は $p < .1$ で有意傾向であることを表す。
 ※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

7. メディアの信頼性評価

主要なメディアへの信頼度について、事後調査問 28 で質問した。「あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**信頼**できますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。（それぞれひとつだけ）」との設問を提示し、「非常に信頼できる」「ある程度信頼できる」「どちらともいえない」「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」の5件法で選んでもらった。このうち「非常に信頼できる」「ある程度信頼できる」を信頼とし、集計した割合が表 7.1 である。

各メディアを信頼する割合は、「新聞」(51.6%)、「テレビ」(50.1%)、「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)」(35.2%)、「SNS 上の情報」(13.9%) となった。

また、カイ二乗検定と残差分析を行った。性別で見ると、「新聞」は女性で信頼する割合が有意に高く、「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)」「SNS 上の情報」は男性で信頼する割合が有意に高い結果となった。また、年齢層別に見ると、「新聞」は60代、「テレビ」は50代と60代、「SNS 上の情報」は10・20代で信頼する割合が有意に高かった。

分析の結果、高齢層ではマスメディアの「新聞」「テレビ」を信頼する割合が高く、若年層では「SNS 上の情報」を信頼する割合が高い傾向が示された。

表 7.1 メディアへの信頼 (事後問 28)

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
新聞	51.6%	48.9%	54.2%	0.032	*	46.5%	49.7%	48.2%	54.4%	60.0%	0.004	**
テレビ	50.1%	48.9%	51.4%	0.319	n.s.	40.8%	49.7%	46.6%	57.6%	57.7%	0.000	***
インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)	35.2%	37.8%	32.5%	0.026	*	36.4%	36.6%	33.7%	35.3%	33.5%	0.876	n.s.
SNS上の情報	13.9%	16.2%	11.7%	0.009	**	22.0%	15.6%	10.4%	11.0%	9.0%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、**は $p < .01$ で有意、*は $p < .05$ で有意であることを表す。n. s. は not significant (非有意) を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

8. 社会・政治に対する考え方

社会や政治に対する考え方について、選挙後に事後調査問8で質問した。質問としては「政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。（それぞれひとつだけ）」と提示し、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5件法で聞いた。この中で「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合を集計したものが表8.1である。

表 8.1 政治への考え方（事後問8）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
いまの日本には、格差が広がっている	78.2%	74.5%	81.9%	0.000	***	72.0%	75.2%	81.2%	82.5%	81.3%	0.002	**
いまの年金制度は維持できない	76.6%	70.8%	82.5%	0.000	***	77.7%	79.9%	79.9%	78.0%	67.1%	0.000	***
政治に関心がある	41.3%	51.0%	31.6%	0.000	***	36.4%	37.9%	37.2%	38.8%	57.1%	0.000	***
与党には政権担当能力がある	33.2%	42.5%	23.8%	0.000	***	26.6%	31.2%	35.0%	33.3%	41.0%	0.002	**
安倍内閣を支持している	25.7%	31.3%	20.0%	0.000	***	21.7%	27.1%	28.5%	24.9%	26.8%	0.301	n.s.
現在の生活に満足している	23.9%	24.5%	23.2%	0.540	n.s.	27.4%	21.3%	19.4%	21.0%	29.4%	0.009	**
安倍政権を信頼している	21.9%	28.0%	15.8%	0.000	***	21.2%	24.2%	19.1%	20.7%	24.2%	0.446	n.s.
いまの日本は、努力すれば報われる社会である	19.1%	21.1%	17.1%	0.040	*	20.7%	19.4%	16.8%	16.2%	22.3%	0.256	n.s.
現在の国内政治に満足している	11.5%	16.3%	6.7%	0.000	***	15.2%	11.5%	9.4%	8.7%	11.9%	0.068	†
いまの景気は良い	10.1%	13.8%	6.3%	0.000	***	12.5%	11.8%	8.1%	8.7%	8.7%	0.199	n.s.
野党には政権担当能力がある	8.9%	10.0%	7.8%	0.132	n.s.	10.6%	8.0%	9.1%	6.8%	9.7%	0.465	n.s.
いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている	8.4%	9.7%	7.1%	0.057	†	9.5%	9.6%	8.1%	7.1%	7.4%	0.695	n.s.
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

集計の結果、「いまの日本には、格差が広がっている」（78.2%）「いまの年金制度は維持できない」（76.6%）について、8割近くが回答していた。

また、カイ二乗検定と残差分析を行った。性別で見たところ、「いまの日本には、格差が広がっている」「いまの年金制度は維持できない」について女性の回答の割合が有意に高かった。一方、「政治に関心がある」「与党には政権担当能力がある」「安倍内閣を支持している」「安倍政権を信頼している」「いまの日本は、努力すれば報われる社会である」「現在の国内政治に満足している」「いまの景気は良い」については男性の回答の割合が有意に高かった。年齢層別に見ると、「政治に関心がある」「与党には政権担当能力がある」「現在の生活に満足している」と回答した割合が60代で有意に高かった。また、「いまの日本には、格差が広がっている」との回答は50代で有意に高かった。さらに、「現在の国内政治に満足している」と回答した割合は10・20代で有意に高かった。

分析の結果、政治への関心や安倍内閣への支持は、男性で高い傾向が明らかになった。また、高齢者において、政治への関心や、現在の生活に満足する割合が高い傾向も明らかとなった。

9. 政治的有効性感覚

政治的有効性感覚について、選挙後の事後調査問7で質問した。設問として「政治に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。（それぞれひとつだけ）」と提示し、金（2014）を踏まえ作成した指標について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の5件法で聞いた。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、表9.1である。集計の結果、「国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる（以下、国会議員）」（72.2%）「今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない（以下、政治家）」（70.0%）、「政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある（以下、政治複雑）」（55.2%）、「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない（以下、政府左右）」（53.5%）、「選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらいしてもしなくてもどちらでもかまわない（以下、選挙投票）」（26.4%）、「私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える（以下、政治資質）」（22.9%）となった¹。

残差分析とカイ二乗検定を行い、性別では「国会議員」「政治家」「政治複雑」「政府左右」について女性の回答の割合が有意に高く、「政治資質」は男性の回答の割合が有意に高かった。年齢層別では「政治複雑」「政府左右」「選挙投票」で10・20代、30代の回答の割合が有意に高かった。「政治資質」は、60代で回答の割合が有意に高かった。外的有効性感覚の「国会議員」「政治家」は女性で低く、内的有効性感覚の「政治複雑」「政府左右」は女性と若年層で低い傾向が示された（表9.1は逆転項目）。

表 9.1 政治的有効性感覚（事後問7）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	72.2%	68.9%	75.6%	0.003	**	68.8%	73.9%	70.2%	74.8%	74.2%	0.303	n.s.
今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない	70.0%	64.8%	75.2%	0.000	***	69.6%	69.4%	68.3%	73.8%	69.0%	0.598	n.s.
政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある	55.2%	41.7%	68.6%	0.000	***	64.9%	60.5%	54.4%	50.5%	43.5%	0.000	***
自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	53.5%	49.0%	58.1%	0.000	***	58.4%	59.2%	49.8%	56.0%	43.2%	0.000	***
選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらいしてもしなくてもどちらでもかまわない	26.4%	25.4%	27.4%	0.352	n.s.	35.9%	34.1%	22.3%	23.0%	14.8%	0.000	***
私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える	22.9%	30.2%	15.5%	0.000	***	26.1%	22.6%	17.8%	20.1%	27.1%	0.024	*
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

参考文献：金 允希（2014）, 日本における政治的有効性感覚指標の再検討 —指標の妥当性と政治参加への影響力の観点から—, 法学政治学論究：法律・政治・社会, 100, 121-154

¹ 「国会議員」「政治家」は外的有効性感覚、「政治複雑」「政府左右」は政治的有効性感覚を表す。また、「政治資質」以外は逆転項目である。

10. 政治知識

10.1 統治の仕組みに関する知識

政治知識を測定するにあたり、今井（2008）を踏まえて「統治の仕組み」「政党政治の動向」「政治リーダー」に関する設問を設けた。また、あわせて選挙期間中の争点に関する設問を設けた。

統治の仕組みについて、事前調査問 15・16・17・19 で質問した（表 10.1.1）。正答率は「裁判の制度名（正解：裁判員制度）」（75.7%）、「内閣が責任を負う対象（正解：国会）」（61.4%）、「参議院議員の任期（正解：6年）」（42.1%）、「国民の権利と義務（正解：働くこと）」（13.5%）だった²。

カイ二乗検定と残差分析では「内閣の責任対象」「参議院議員の任期」「国民の権利と義務」で男性の正答率が有意に高かった。年齢層別では「裁判の制度名」は 50 代、「内閣の責任対象」は 50 代と 60 代、「参議院議員の任期」は 60 代、「国民の権利と義務」は 10・20 代と 30 代で有意に高かった。

「国民の権利と義務」については若年層で正答率が高く、その他の知識については、比較的高い年齢層で正答率が高い傾向が示された。

表 10.1.1 統治の仕組みに関する知識（事前問 15・16・17・19）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
裁判の制度名	75.7%	77.6%	73.7%	0.067	†	70.1%	75.5%	74.1%	80.3%	79.4%	0.015	*
内閣の責任対象	61.4%	70.0%	52.9%	0.000	***	53.5%	53.8%	57.6%	68.9%	74.8%	0.000	***
参議院議員の任期	42.1%	51.5%	32.8%	0.000	***	32.9%	27.1%	41.4%	44.0%	67.1%	0.000	***
国民の権利と義務	13.5%	17.2%	9.9%	0.000	***	16.8%	17.2%	12.6%	12.3%	8.1%	0.004	**
n	1610	804	806	—	—	368	314	309	309	310	—	—

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、*は p<.05 で有意、†は p<.1 で有意傾向であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

10.2 政党政治の動向に関する知識

政党政治の動向に関する知識として、参院選で各政党が掲げているキャッチコピー・キャッチフレーズを事前問 23、公約・マニフェストを事後調査問 13 で提示し、選択肢の中から該当する政党名を回答してもらった（表 10.2.1）³。

政党のコピーについては「日本の明日を切り拓く。（正解：自由民主党）」（18.5%）、「小さな声を、聴く力。（正解：公明党）」（11.9%）、「つくろう、新しい答え。（正解：国民民主党）」（7.4%）の正答率となった。公約・マニフェストについては「自由民主党」（40.3%）、「日本維新の会」（16.8%）、「立憲民主党」（4.7%）の正答率となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、政党のコピーについては「公明党」と「国民民主党」、公約・マ

² この他に、日本で裁判を受けられる最大の回数と、参議院議員の定数についても質問を行った。ただし、前者については三審制に例外があり（簡易裁判所を第一審とした場合）、後者については定数の改正時期にあたっていたため、分析対象からは除外した。

³ この他に、「消費税の増税」「原発稼働」「憲法改正」「普天間基地の移転」について、「自由民主党」と「立憲民主党」の政策の位置を聞く設問を設けたが、紙幅の関係もあり分析結果は割愛する。

ニフェストについては「自由民主党」「日本維新の会」「立憲民主党」で男性の正答率が高かった。年齢層別では、政党のコピーについて「国民民主党」で有意に30代の正答率が高かった。また、公約・マニフェストについては、「自由民主党」が50代と60代、「日本維新の会」が60代、「立憲民主党」は10・20代において正答率が高かった。「自由民主党」「日本維新の会」では、高年齢層において公約・マニフェストについての正答率が高い傾向が示された。

表 10.2.1 政党政治の動向に関する知識（事前問 23、事後問 13）

	全体	性別				年齢層							
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準	
政党のコピー	自由民主党	18.5%	20.4%	16.6%	0.051	†	15.8%	21.7%	17.8%	17.5%	20.3%	0.297	n.s.
	公明党	11.9%	13.8%	9.9%	0.016	*	12.0%	11.5%	9.1%	12.9%	13.9%	0.418	n.s.
	国民民主党	7.4%	9.1%	5.7%	0.010	**	7.6%	10.5%	7.4%	3.9%	7.4%	0.040	*
公約・マニフェスト	自由民主党	40.3%	46.6%	34.0%	0.000	***	29.6%	29.6%	39.2%	45.3%	60.0%	0.000	***
	日本維新の会	16.8%	20.9%	12.7%	0.000	***	8.4%	11.8%	15.9%	18.8%	30.6%	0.000	***
	立憲民主党	4.7%	5.8%	3.6%	0.033	*	7.6%	3.8%	2.6%	2.6%	6.5%	0.003	**
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-	

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

10.3 政治リーダーに関する知識

政治リーダーに関する知識について、事前問 24、事後問 14 で質問した。人名を挙げて、その役職を質問した正答率が表 10.3.1 である。正答率は「ドナルド・トランプ（正解：アメリカ大統領）」（95.6%）、「ウラジーミル・プーチン（正解：ロシア大統領）」（89.3%）、「麻生太郎（正解：副総理・財務大臣）」（75.1%）、「菅義偉（正解：内閣官房長官）」（72.8%）、「エマニュエル・マクロン（正解：フランス大統領）」（66.1%）、「河野太郎（正解：外務大臣）」（64.5%）、「大島理森（正解：衆議院議長）」（17.8%）、「アントニオ・グテーレス（正解：国連事務総長）」（17.3%）となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別で見ると「ドナルド・トランプ」以外は全て男性の正答率の方が有意に高い結果となった。年齢層別に見ると、「ドナルド・トランプ」と「アントニオ・グテーレス」は60代、それ以外は50代と60代が有意に高い結果となった。

この結果から、政治リーダーに関する知識は、男性と高年齢層で高い傾向が明らかとなった。

表 10.3.1 政治リーダーに関する知識（事前問 24、事後問 14）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
ドナルド・トランプ	95.6%	95.1%	96.0%	0.390	***	92.1%	94.3%	97.4%	96.4%	98.4%	0.000	***
ウラジーミル・プーチン	89.3%	91.8%	88.8%	0.001	***	80.7%	86.0%	90.6%	93.5%	97.4%	0.000	***
麻生太郎	75.1%	82.2%	68.0%	0.000	***	66.3%	64.6%	72.8%	83.5%	90.0%	0.000	***
菅義偉	72.8%	79.7%	65.9%	0.000	***	66.6%	63.1%	68.6%	79.3%	87.7%	0.000	***
エマニュエル・マクロン	66.1%	72.4%	59.8%	0.000	***	47.6%	54.8%	64.4%	78.3%	89.0%	0.000	***
河野太郎	64.5%	72.9%	56.2%	0.000	***	42.7%	52.2%	68.9%	76.4%	86.8%	0.000	***
大島理森	17.8%	24.6%	11.0%	0.000	***	7.3%	12.1%	14.9%	22.3%	34.5%	0.000	***
アントニオ・グテーレス	17.3%	22.4%	12.3%	0.000	***	12.5%	13.4%	15.2%	20.4%	26.1%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

10.4 選挙期間中の争点に関する知識

選挙期間中の争点に関する知識について、事前問 25・26・27・28・29、事後問 15・16・17・18・19 で質問した (表 10.4.1)。正答率は「引き上げ後の消費税率 (正解: 10%)」(96.2%)、「G20 の開催地 (正解: 大阪)」(90.2%)、「老後に年金だけでは不足するとされる金額 (正解: 2000 万円)」(87.1%)、「日本で開催された国際会議の名称 (正解: G20)」(85.1%)、「戦力不保持を定めた憲法の条文 (正解: 第 9 条)」(81.7%)、「北方 4 島に属する島 (正解: 色丹島)」(64.8%)、「憲法改正発議に必要な議席数 (正解: 3 分の 2 以上)」(64.7%)、「イージス・アショアの配備予定県 (正解: 秋田県)」(37.8%)、「年金の報告書を取りまとめた審議会のある政府機関 (正解: 金融庁)」(35.2%)、「幼児教育・保育無償化の時期 (正解: 2019 年 10 月)」(22.0%) となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、「幼児教育・保育無償化の時期」について女性が有意に高かった。この他、「引き上げ後の消費税率」「G20 の開催地」以外は全て男性の正答率が有意に高かった。

年齢層別で見ると、「老後に年金だけでは不足するとされる金額」(40 代、50 代、60 代)、「引き上げ後の消費税率」「G20 の開催地」「戦力不保持を定めた憲法の条文」「北方 4 島に属する島」「イージス・アショアの配備予定県」(いずれも 50 代、60 代)、「日本で開催された国際会議の名称」「憲法改正発議に必要な議席数」「年金の報告書を取りまとめた審議会のある政府機関」(60 代)、「幼児教育・保育無償化の時期」(30 代) が有意に高い結果となった。

「幼児教育・保育無償化の時期」については、子育てへの関心が高いと考えられる 30 代で、他の知識については高年齢層で正答率が高い結果となった。また、「幼児教育・保育無償化の時期」の正答率は子育てへの関心が高いと考えられる女性で高く、「引き上げ後の消費税率」「G20 の開催地」以外のその他の知識は、男性の正答率の方が高かった。

表 10.4.1 選挙期間中の争点の知識 (事前問 25・26・27・28・29、事後問 15・16・17・18・19)

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
引き上げ後の消費税率	96.2%	95.6%	96.8%	0.236	n.s.	91.8%	96.5%	96.1%	98.7%	98.7%	0.000	***
G20の開催地	90.2%	91.4%	89.0%	0.097	†	83.2%	86.8%	91.3%	94.2%	96.8%	0.000	***
老後に年金だけでは不足するとされる金額	87.1%	89.9%	84.2%	0.001	***	70.7%	82.8%	93.2%	93.5%	98.4%	0.000	***
日本で開催された国際会議の名称	85.1%	87.8%	82.4%	0.002	**	82.6%	80.6%	84.8%	85.4%	92.6%	0.000	***
戦力不保持を定めた憲法の条文	81.7%	88.8%	74.7%	0.000	***	71.5%	75.2%	83.8%	86.1%	94.2%	0.000	***
北方4島に属する島	64.8%	74.5%	55.1%	0.000	***	48.1%	51.3%	66.3%	75.1%	86.5%	0.000	***
憲法改正発議に必要な議席数	64.7%	74.9%	54.6%	0.000	***	58.7%	57.0%	65.4%	67.6%	79.7%	0.000	***
イージス・アショアの配備予定県	37.8%	48.6%	27.0%	0.000	***	23.4%	24.5%	39.8%	46.0%	58.4%	0.000	***
年金の報告書を取りまとめた審議会のある政府機関	35.2%	41.3%	29.2%	0.000	***	27.7%	34.4%	35.0%	35.0%	45.5%	0.000	***
幼児教育・保育無償化の時期	22.0%	18.2%	25.8%	0.000	***	18.5%	40.1%	21.0%	15.2%	15.5%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、†は p<.1 で有意傾向であることを表す。n.s.は not significant (非有意) を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

参考文献：今井亮佑 (2008), 政治的知識の構造 (特集 21COE-GLOPE 世論調査), 早稲田政治経済学雑誌, 370, 39-52

11. フェイクニュースへの接触

本調査では、2019年参院選選挙運動期間中にインターネット上で選挙関連情報に接触していた回答者（事後問25(6)～(13)、(19)のいずれかに選挙期間中に1回以上接触した回答者）を母数として（n=994）、政党・候補者に関するフェイクニュースへの接触状況を質問した（事後問37）。フェイクニュースの定義は「明らかに虚偽やデマと思われる情報」（ただしマスメディア等で報道されてから知ったものは除く）である。

表11.1は事後問37の回答（見た、見ていない、わからない）を2値変数（見た、見ていない／わからない）に変換し、フェイクニュース接触率を性別・年齢層別に比較したものである。

表 11.1 性別・年齢層別のフェイクニュース接触率

全体	性別		年齢層別				
	男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
2.3%	2.4%	2.1%	4.0%	2.5%	3.2%	0.0%	1.1% †

χ^2 の行は χ^2 検定の結果 † : p<0.1、* : p<0.05、** : p<0.01、*** : p<0.001

フェイクニュース接触率は2.3%であり、性別・年齢層別で接触率に有意な差は見られなかった。

この接触率は橋元ら（2018）の2017年衆院選調査で報告されている接触率（15.9%）と比べて大幅に低い水準である。2017年調査ではフェイクニュースを「ウソのニュースや事実かどうか疑わしいニュース」と定義していたため、2017年調査と2019年調査の接触率の差は、フェイクニュースの定義の違いによるものではないか。

橋元良明・小笠原盛浩・河井大介・長濱憲（2018）「2017年衆議院選挙における投票行動と情報行動：年齢層別比較を中心に」『東京大学大学院情報学環情報学研究 調査研究編』東京大学大学院情報学環，34，1-59.

【選挙とメディア利用に関するアンケート】（基本属性）

N=1,610

<年齢層・性別の分布>

	18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	合計
男性	31	152	158	154	155	154	804
女性	30	155	156	155	154	156	806
合計	61	307	314	309	309	310	1,610

居住地域	%
北海道	5.28
東北地方	6.02
関東地方	37.14
中部地方	15.96
近畿地方	18.51
中国地方	5.59
四国地方	2.48
九州地方	9.01

婚姻有無	%
未婚	41.49
既婚	58.51

子供有無	%
子供なし	49.01
子供あり	50.99

世帯収入 (n=1,397)	%
200 万未満	7.66
200～400 万未満	21.98
400～600 万未満	23.34
600～800 万未満	14.53
800～1000 万未満	9.02
1000～1200 万未満	5.8
1200～1500 万未満	2.15
1500～2000 万未満	1.5
2000 万円以上	0.43
わからない	13.6

職業	%
公務員	3.79
経営者・役員	1.61
会社員(事務系)	13.35
会社員(技術系)	11.61
会社員(その他)	13.91
自営業	3.91
自由業	1.93
専業主婦(主夫)	18.51
パート・アルバイト	12.73
学生	6.27
その他	2.8
無職	9.57

個人収入 (n=1,397)	%
200 万未満	42.16
200～400 万未満	24.91
400～600 万未満	13.96
600～800 万未満	5.94
800～1000 万未満	3.08
1000～1200 万未満	1.72
1200～1500 万未満	0.36
1500～2000 万未満	0.36
2000 万円以上	0.14
わからない	7.37

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】（事前調査）

※調査期間：2019年7月2日（火）～3日（水）（公示日前）

- 問1 以下のメディアについて、ふだん1日平均どのくらい利用していますか。（半角数値）
 ※利用していない人は、時間、分の欄ともに「0」を入力ください。
 ※「分」の方は最大「59」までにてお考えください。

	ふだん (1日平均)	標準 偏差	N
1. テレビを見る	168.40	137.65	1,584
2. テレビでニュースなどの報道番組を見る	54.98	51.23	1,584
3. 新聞を読む（インターネットは含まない）	10.76	18.03	1,606
4. パソコンやタブレット型端末でインターネットを利用する	109.94	127.34	1,574
5. パソコンやタブレット型端末でインターネットの <u>ニュース</u> を見る	19.02	26.69	1,574
6. スマートフォンや携帯電話でインターネットを利用する	87.50	100.79	1,568
7. スマートフォンや携帯電話でインターネットの <u>ニュース</u> を見る	20.08	25.27	1,568

- 問2 あなたは以下の SNS をどの程度利用していますか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んでください。（それぞれひとつだけ）
 ※ご自身で投稿していなくても閲覧しているだけでも「利用」とお考えください。
 ※アプリのインストールのみで起動していない場合は、利用に含みません。
 ※アカウント有無は不問です。

	利用している					利用してい ない
	1日に 2回以上	1日に 1回程度	週に 数回程度	月に 数回程度	それ 以下	
1. LINE（ライン）※LINE ニュースを除く	42.67	15.65	8.45	3.11	3.66	26.46
2. Facebook（フェイスブック）	7.89	8.82	8.88	5.65	9.44	59.32
3. Twitter（ツイッター）	21.24	9.38	8.26	3.79	7.14	50.19
4. Instagram（インスタグラム）	18.14	7.14	5.78	4.78	5.34	58.82
5. YouTube（ユーチューブ）	21.86	14.72	22.24	13.04	12.24	15.90
6. ニコニコ動画	2.05	2.92	4.29	5.4	14.16	71.18

<問2で「1日に2回以上」を選択したもののみ>

- 問3 前問で SNS を1日に2回以上利用していると答えた方にお聞きします。具体的な利用回数をご記入ください。
 ※ご自身で投稿していなくても閲覧しているだけでも「利用」とお考えください。
 ※アプリのインストールのみで起動していない場合は、利用に含みません。
 ※アカウント有無は不問です。

	回数	標準偏差	n
1. LINE（ライン）※LINE ニュースを除く	9.55	9.91	685
2. Facebook（フェイスブック）	5.70	6.51	127
3. Twitter（ツイッター）	9.10	11.29	342
4. Instagram（インスタグラム）	8.45	8.48	292
5. YouTube（ユーチューブ）	7.28	11.69	352
6. ニコニコ動画	4.79	3.00	33

<問2で「利用していない」を選択しなかったもののみ>

問4 あなたは、以下の SNS で政治に関する投稿やニュースを見ることはありますか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んでください。(それぞれひとつだけ)

	よく見る	たまに見る	あまり見ない	まったく見ない	n
1. LINE (ライン) ※LINE ニュースを除く	15.12	24.66	21.96	38.26	1,184
2. Facebook (フェイスブック)	8.09	19.85	27.94	44.12	655
3. Twitter (ツイッター)	17.96	27.06	23.07	31.92	802
4. Instagram (インスタグラム)	11.92	11.61	21.12	55.35	663
5. YouTube (ユーチューブ)	11.52	16.62	22.75	49.11	1,354
6. ニコニコ動画	3.88	14.01	27.37	54.74	464

問5 あなたは、前回の参議院選挙(2016年7月10日投票)、衆議院選挙(2017年10月22日投票)で、投票しましたか。(それぞれひとつだけ)

	投票した	投票しなかった	選挙権がなかった	覚えていない
1. 2016年7月10日投票の参議院選挙	57.64	21.49	6.58	14.29
2. 2017年10月22日投票の衆議院選挙	59.63	22.42	5.09	12.86

※2016年7月10日投票の参議院選挙は、20歳以下は選挙権がなかったため、「選挙権がなかった」に記録した。

※2017年10月22日投票の衆議院選挙は、18歳は選挙権がなかったため、「選挙権がなかった」に記録した。

問6 政治的立場には**保守的傾向**、**革新的傾向**があるといわれています。それぞれ、保守的を「0」、中立を「5」、革新的を「10」とした場合に、あなたの立場や、下記の政党の立場に近いと思うものをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	保守的					中立					革新的		わからない
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(1)あなたの立場	6.02	2.48	5.28	6.65	6.40	48.01	4.60	4.66	2.55	0.75	1.55	11.06	
(2)自由民主党	18.01	7.33	9.75	9.25	6.71	20.43	4.47	2.73	1.43	0.62	1.30	17.95	
(3)公明党	8.39	4.91	9.50	10.43	8.70	25.09	4.10	2.24	1.30	0.31	0.81	24.22	
(4)立憲民主党	3.66	1.12	2.05	4.47	5.78	23.11	10.62	10.19	6.52	1.80	4.16	26.52	
(5)国民民主党	3.98	1.18	3.54	5.59	6.09	28.45	9.63	5.47	3.73	0.50	1.55	30.31	
(6)日本共産党	6.77	1.61	4.04	4.84	3.98	15.78	4.10	6.96	6.15	4.10	14.97	26.71	
(7)日本維新の会	4.29	2.55	4.72	7.14	6.83	20.56	8.20	10.00	5.90	2.92	5.03	21.86	

問7 政治的立場には**保守傾向**、**リベラル傾向**があるといわれています。それぞれ、保守を「0」、中立を「5」、リベラルを「10」とした場合に、あなたの立場や、下記の政党の立場に近いと思うものをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	保守的					中立					リベラル		わからない
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(1)あなたの立場	5.09	2.17	5.53	6.40	6.96	43.42	4.84	3.98	3.23	0.75	1.74	15.90	
(2)自由民主党	14.97	7.02	9.07	9.07	7.76	17.89	4.47	2.36	1.49	0.62	1.18	24.10	
(3)公明党	7.83	4.53	7.58	10.37	10.62	21.99	4.16	1.99	1.18	0.37	0.99	28.39	
(4)立憲民主党	2.48	1.30	2.24	5.28	6.77	20.25	10.12	8.01	6.65	1.80	5.65	29.44	
(5)国民民主党	3.17	0.93	3.66	5.59	7.89	22.73	10.43	6.65	2.30	1.18	2.61	32.86	
(6)日本共産党	5.09	1.49	3.42	4.72	5.59	14.97	6.58	5.47	5.96	3.98	12.11	30.62	
(7)日本維新の会	3.98	2.17	4.78	6.96	7.14	20.37	9.63	7.83	4.91	1.43	3.54	27.27	

問8 政治に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	どちらかとい えはそう思う	どちらとも いえない	どちらかとい えはそう思わ ない	そう思わない
1. 選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらいしてもしなくてもどちらでもかまわない	11.55	18.14	24.91	19.13	26.27
2. 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	33.29	28.26	24.72	8.57	5.16
3. 私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える	5.53	11.80	30.25	24.04	28.39
4. 政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある	21.80	36.27	23.29	12.80	5.84
5. 国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	44.22	32.17	18.70	3.54	1.37
6. 今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない	43.42	30.25	19.44	5.47	1.43

問9 政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	やや そう思う	いもど いちら えらと えな	うあ 思 えら な	思 わ な い
1. 政治に関心がある	12.24	27.45	27.95	18.01	14.35
2. 現在の国内政治に満足している	1.30	7.52	28.57	29.32	33.29
3. 現在の生活に満足している	4.66	20.99	26.65	24.41	23.29
4. いまの景気は良い	1.12	9.32	24.22	33.29	32.05
5. いまの日本は、努力すれば報われる社会である	2.73	15.09	28.88	28.26	25.03
6. いまの日本には、格差が広がっている	43.17	35.65	15.59	4.10	1.49
7. いまの年金制度は維持できない	50.06	29.07	14.91	4.41	1.55
8. 安倍政権を信頼している	4.53	17.20	30.68	20.12	27.45
9. 安倍内閣を支持している	7.14	16.58	33.54	16.15	26.58
10. 与党には政権担当能力がある	9.19	20.81	41.18	15.71	13.11
11. 野党には政権担当能力がある	1.37	6.34	35.22	24.29	32.80
12. いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている	1.30	6.27	23.42	36.02	32.98

問10 あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)

	支持 している	やや支持 している	どちらでもな い	あまり 支持していない	支持 していない	政党名を知ら ない
1. 自由民主党	7.89	18.14	34.22	11.12	27.27	1.37
2. 公明党	1.43	3.66	32.11	15.28	45.90	1.61
3. 立憲民主党	2.55	8.57	33.98	15.53	34.16	5.22
4. 国民民主党	0.68	4.78	34.91	18.20	35.90	5.53
5. 日本共産党	1.43	5.84	28.63	15.34	46.58	2.17
6. 日本維新の会	3.11	13.66	36.96	15.53	28.88	1.86
7. 社会民主党	0.68	3.54	32.42	16.46	42.24	4.66
8. 希望の党	0.56	2.42	27.76	13.79	39.94	15.53
9. 沖縄社会大衆党	0.99	1.93	15.28	6.02	17.95	57.83
10. れいわ新選組	1.12	2.24	15.34	6.15	20.68	54.47

<前問で、いずれかの政党に対して「支持している」または「やや支持している」の人> (n=793)

問11 あなたが支持している政党のうち、もっとも支持する政党をお知らせください。(ひとつだけ)

1 自由民主党	43.13	6 日本維新の会	18.28
2 公明党	5.17	7 社会民主党	2.02
3 立憲民主党	15.64	8 希望の党	1.01
4 国民民主党	4.04	9 沖縄社会大衆党	1.13
5 日本共産党	6.18	10 れいわ新選組	3.40

問12 あなたは今回の参議院選挙（7月21日投票）で、以下の争点のうち、どれを**重視する**予定ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。（いくつでも）

1. 景気	49.63	9. 北朝鮮拉致	10.37
2. 雇用	27.08	10. 北方領土・対ロシア交渉	8.26
3. 消費税引き上げ	42.67	11. 新たな日米貿易協定	9.75
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	24.72	12. 外交政策全般	15.84
5. 年金	57.08	13. 陸上イージスの配備	4.84
6. 財政再建	27.39	14. 日韓関係	13.60
7. 憲法改正	20.37	15. 原子力発電所の稼働	15.40
8. 沖縄基地	8.26	16. 震災復興	18.63
		17. あてはまるものはない	11.43

<問12で、1～16のいずれかに回答があった人に提示。問12で17の回答者には本問は提示しない>（n=1,426）

問13 あなたが今回の参議院選挙の投票の際、**もっとも重視する**予定の争点をお知らせください。（ひとつだけ）

1. 景気	18.93	9. 北朝鮮拉致	0.63
2. 雇用	5.75	10. 北方領土・対ロシア交渉	0.49
3. 消費税引き上げ	17.32	11. 新たな日米貿易協定	0.70
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	10.17	12. 外交政策全般	2.73
5. 年金	21.95	13. 陸上イージスの配備	0.28
6. 財政再建	8.70	14. 日韓関係	1.61
7. 憲法改正	5.61	15. 原子力発電所の稼働	2.73
8. 沖縄基地	0.91	16. 震災復興	1.47

問14 あなたは下記のことからについてどのようにお考えですか。もっともあてはまるものをお答えください。（それぞれひとつだけ）

	賛成	やや賛成	どちらでもない	やや反対	反対
1. 消費税引き上げ	6.65	13.48	25.71	19.94	34.22
2. 教育の無償化	29.63	28.63	26.52	9.94	5.28
3. 年金支給年齢の引き上げ	5.22	11.06	36.58	22.98	24.16
4. 子育て支援策の拡充	32.92	33.54	24.97	5.09	3.48
5. 社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	33.42	37.33	23.48	4.41	1.37
6. 外国との経済連携協定の締結	11.68	29.57	51.61	4.97	2.17
7. 外国人労働者の受け入れ	9.75	25.78	35.53	16.58	12.36
8. 原子力発電所の稼働	9.44	15.34	39.25	14.47	21.49
9. 憲法を変えること	14.53	19.13	38.32	12.36	15.65
10. 普天間基地の辺野古地区への移転	9.88	10.62	56.71	11.37	11.43

問15 国民が刑事裁判に参加し、被告が有罪かどうか、有罪の場合はどのような刑にするかを、裁判官と一緒に決める日本国内の制度は、何と呼ばれているかご存知ですか。（ひとつだけ）

(1) 司法員制度	(2) 調停員制度	(3) 裁判員制度	(4) 陪審員制度	(5) わからない
1.68	1.30	75.65	6.02	15.34

問16 日本国憲法で、国民の権利であり、義務でもあると規定しているのは、どれだと思いますか。（ひとつだけ）

(1) 選挙で投票	(2) 税金を納めること	(3) 働くこと	(4) 裁判を受けること	(5) わからない
27.70	47.70	13.54	1.86	9.19

問17 参議院議員の任期は何年だと思いますか。（ひとつだけ）

(1) 3年	(2) 4年	(3) 5年	(4) 6年	(5) わからない
15.65	20.93	7.76	42.11	13.54

問18 日本の司法制度についておうかがいします。判決に不服のある人は、上級の裁判所に訴えを起こすことを認められています。日本では現在、最大何回まで裁判が受けられると思いますか。（ひとつだけ） ※集計には不使用

(1) 2回	(2) 3回	(3) 4回	(4) 5回	(5) わからない
15.09	49.44	3.29	1.37	30.81

問19 日本の行政についておうかがいします。内閣は行政について、誰に対して責任を負っていると思いますか。(ひとつだけ)

(1) 国会	(2) 官僚	(3) 最高裁判所	(4) 天皇	(5) わからない
61.43	2.98	4.47	2.61	28.51

問20 参議院議員の定数は何人だと思えますか。(ひとつだけ) ※集計には不使用

(1) 198人	(2) 248人	(3) 298人	(4) 348人	(5) わからない
5.40	26.46	11.80	6.89	49.44

問21 消費税の増税・原発稼働・憲法改正について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思えますか。それぞれ、消極的な立場に近ければ0、積極的な立場に近ければ6、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

[A] 自由民主党は、どこに位置していると思えますか。

	積極的		中立的			消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
(1) 消費税の10%への増税	50.56	15.40	8.45	7.33	1.74	0.50	1.80	14.22
(2) 原発稼働	33.04	15.90	15.47	13.91	2.61	0.75	1.37	16.96
(3) 憲法への自衛隊の明記	43.54	14.60	11.55	9.94	1.49	0.62	0.68	17.58

[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思えますか。

	積極的		中立的			消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
(1) 消費税の10%への増税	3.04	3.29	7.89	18.88	12.36	6.02	20.93	27.58
(2) 原発稼働	1.68	1.93	4.84	18.76	12.73	8.20	23.91	27.95
(3) 憲法への自衛隊の明記	1.55	2.11	5.34	16.77	11.99	7.95	25.53	28.76

問22 普天間基地の移転について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思えますか。それぞれ、辺野古地区への移転反対の立場に近ければ0、辺野古地区への移転推進の立場に近ければ6、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

	辺野古地区への移転推進		中立的			辺野古地区への移転反対		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
[A] 自由民主党は、どこに位置していると思えますか。	52.92	9.32	8.07	8.45	0.75	0.37	1.24	18.88
[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思えますか。	2.61	1.74	5.65	17.27	10.75	6.46	27.39	28.14

問23 ここにあげるのは、各政党が掲げているキャッチコピー・キャッチフレーズです。どの政党のキャッチコピー・キャッチフレーズかご存知ですか。ご存知の場合、その政党名をお答え下さい。

	主 自	公 明	主 立	主 国	産 日	新 日	そ の	な い
	党 由	党 党	党 憲	党 民	党 共	党 維	他	わ
	民	党	民	民	共	会		か
								ら
(1) つくろう、新しい答え。	3.66	1.43	4.72	7.39	0.81	2.17	0.06	79.75
(2) 日本の明日を切り拓く。	18.51	1.99	3.04	2.80	1.37	2.55	0.06	69.69
(3) 小さな声を、聴く力。	1.37	11.86	2.86	3.60	5.65	1.61	0.12	72.92

問24 ここにあげる人物が、どのような政府の役職についているかご存知ですか。ご存知の場合、その職名をお知らせください。

	官 内	財 副	外 務	議 衆	議 参	大 統	大 統	大 統	大 統	国 務	な い
	房 閣	務 総	大 務	長 議	長 議	領 領	領 領	領 領	領 領	連 務	わ
	長 官	理 理	大 務	院 院	院 院	リ カ	フ ラ	ロ シ	事 務	長 務	か
	官	・	大 務				ン ス	ア	総 務		ら
									長		
(1) 大島理森	0.37	0.68	1.61	17.83	3.60	0.12	0.00	0.06	0.43	75.28	
(2) 菅義偉	72.80	0.93	1.43	0.75	0.87	0.37	0.06	0.00	0.12	22.67	
(3) 麻生太郎	1.68	75.09	11.24	0.93	0.56	0.31	0.25	0.00	0.00	9.94	
(4) アントニオ・グテーレス	0.12	0.25	0.50	0.68	0.50	0.81	1.06	1.37	17.33	77.39	
(5) ドナルド・トランプ	0.19	0.31	0.31	0.31	0.50	95.59	0.50	0.06	0.12	2.11	
(6) エマニュエル・マクロン	0.19	0.25	0.37	0.43	0.31	0.25	66.09	1.74	1.12	29.25	

問25 ここからは、それぞれの質問について、あなたが正しいと考える答えをお答えください。
消費税率は、2019年10月から何%に引き上げられる予定ですか？

(1) 8%	(2) 10%	(3) 12%	(4) 15%	(5) 18%	(6) わからない
0.75	96.21	0.50	0.19	0.06	2.30

問26 今年6月28日・29日に、各国首脳が参加し国際会議が開かれた日本国内の都市はどこですか？

(1) 福岡	(2) 大阪	(3) 横浜	(4) 軽井沢	(5) 仙台	(6) わからない
1.43	90.19	1.30	0.37	0.00	6.71

問27 幼児教育・保育が無償化されるのは、何年の何月からの予定ですか？

(1) 2019年9月	(2) 2019年10月	(3) 2020年1月	(4) 2020年4月	(5) 2020年9月	(6) わからない
1.68	21.99	1.55	18.63	0.62	55.53

問28 今年6月に、年金だけでは不足する老後の備えについて報告書案をとりまとめたのは、下記のどの政府機関の審議会ですか？

(1) 財務省	(2) 金融庁	(3) 厚生労働省	(4) 消費者庁	(5) 経済産業省	(6) わからない
25.28	35.22	12.61	1.43	4.66	20.81

問29 防衛省が導入を予定している地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」について、配備候補地となっている都道府県はどこですか？

(1) 北海道	(2) 青森県	(3) 秋田県	(4) 新潟県	(5) 島根県	(6) わからない
2.80	7.64	37.83	4.10	3.79	43.85

<問11で「17.あてはまるものはない」の場合は上記1~4のみ提示。最重視争点は、事前問12で1、5、7、12以外>

問30 あなたは下記の争点について、安倍政権の取り組みをどの程度評価していますか。それぞれお答えください。(ひとつだけ)

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気対策	3.35	19.25	26.65	22.05	21.74	6.96	1,610
2. 年金改革	2.11	5.96	27.02	26.52	31.74	6.65	1,610
3. 憲法改正	4.47	16.58	30.81	16.52	22.42	9.19	1,610
4. 外交政策	8.14	26.89	28.63	14.41	13.73	8.20	1,610
5. 最重視争点	8.01	17.54	17.13	17.82	36.33	3.18	724

<最重視争点>

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気	4.81	24.07	28.89	20.74	16.67	4.81	270
2. 雇用	7.32	23.17	19.51	18.29	29.27	2.44	82
3. 消費税引き上げ	0.81	5.67	14.17	19.43	55.47	4.45	247
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	25.52	40.69	15.17	8.28	6.90	3.45	145
5. 年金	1.60	1.92	21.09	25.88	45.37	4.15	313
6. 財政再建	0.81	12.90	25.00	30.65	30.65	0.00	124
7. 憲法改正	15.00	25.00	13.75	15.00	31.25	0.00	80
8. 沖縄基地	0.00	7.69	0.00	23.08	69.23	0.00	13
9. 北朝鮮拉致	22.22	33.33	33.33	0.00	11.11	0.00	9
10. 北方領土・対ロシア交渉	14.29	14.29	14.29	42.86	14.29	0.00	7
11. 新たな日米貿易協定	10.00	10.00	30.00	20.00	30.00	0.00	6
12. 外交政策全般	30.77	33.33	15.38	17.95	2.56	0.00	39
13. 陸上イージスの配備	25.00	25.00	0.00	0.00	25.00	25.00	4
14. 日韓関係	21.74	21.74	21.74	17.39	13.04	4.35	23
15. 原子力発電所の稼働	0.00	5.13	0.00	7.69	84.62	2.56	39
16. 震災復興	9.52	23.81	38.10	4.76	14.29	9.52	21

問31 世の中には、豊かな人も貧しい人もいます。現在の日本の中で、あなたの生活レベルはこの中の9つのどれに入るとお考えですか。1～9の中からお答えください。(1つだけ)

(1) 上の上	0.12
(2) 上の中	1.12
(3) 上の下	4.29
(4) 中の上	15.22
(5) 中の中	25.84
(6) 中の下	24.22
(7) 下の上	13.29
(8) 下の中	9.75
(9) 下の下	6.15

問32 あなたが最後に在籍、または現在在学中の学校は、次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1 中学校	1.99
2 高校	25.96
3 短大・高専・専門学校	24.53
4 大学	42.92
5 大学院	4.04
6 その他	0.56

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】(事後調査)

※2019年7月21日20時(投票時間終了直後)に実施。

問1 あなたは、今回の参議院選挙(2019年7月21日投票)で、投票しましたか。(ひとつだけ)

1	投票した	68.82
2	投票しなかった	30.81
3	選挙権がなかった	0.37

<回答者：問1で2(投票しなかった人)>(n=496)

問2 今回の参議院選挙(7月21日投票)で、投票しなかった人におうかがいします。あなたが投票しなかった理由のうち、最もあてはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)

1	関心がなかったから	20.77
2	時間がなかったから	21.98
3	選択したい候補者がいなかったから	19.76
4	どの政党・候補者に投票するか判断に迷ったから	6.65
5	面倒だったから	10.28
6	投票しても結果に大きな影響を及ぼすとは思わなかったから	12.90
7	その他(具体的に⇒)	7.66

その他の自由記述

◆本人や家族の体調等

- ・「怪我をして、投票場まで行けなかったから。」(1)、
- ・「発熱」(1)、
- ・「前日に家族が入院しそちらに手を取られた」(1)、
- ・「体調が悪かった」(1)、
- ・「体調不良で投票に行けなかった」(1)、
- ・「介護のため実家にいたから」(1)、
- ・「体調不良でいけなかった」(1)、
- ・「身内が亡くなったから」(1)、
- ・「入院中で行けなかった」(1)、
- ・「産後だったから」(1)

◆住民票の移動

- ・「大学の寮に住んでいるが住民票を移しておらず、帰省する時間はなかったから。」(1)、
- ・「現住所が自分の住んでいるところから離れているから。」(1)、
- ・「遠方へ単身赴任中なので地元に戻れませんでした」(1)、
- ・「本籍から離れた場所に暮らしているから」(1)、
- ・「転居したため」(2)、
- ・「住民票を移していなかったから」(1)、
- ・「転居先で選挙権がなかった」(1)

◆政治情勢等

- ・「政治に失望しているから、馬鹿な国民の変な民主主義にウンザリだ」(1)、
- ・「悪いことをするような政治家には投票しない!」(1)、
- ・「参議院は必要ない。人気投票と同じ」(1)、
- ・「参院の存在意義に疑問がある」(1)、
- ・「選挙に集中できなかったから」(1)、
- ・「参議院はいらん」(1)

◆天候等

- ・「大雨で危険なため外出ができなかった」(1)、
- ・「雨で道が寸断されていた」(1)、
- ・「雨が降っていたから。」(1)、
- ・「雨だったから」(1)、
- ・「天候不良」(1)、

◆その他(忘れていたなど)

- ・「今日投票日だということに気が付いたのが投票締切時間後だった」(1)、
- ・「ハガキを捨ててしまったから」(1)、
- ・「よくわからないから」(1)、
- ・「会場に行けなかった」(1)、
- ・「投票券を紛失した」(1)、
- ・「忘れてた」(2)、
- ・「なし」(1)、
- ・「仕事」(1)

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問3 選挙区選挙は個人名での投票ですが、あなたが、投票した候補者の政党名をお知らせください。(ひとつだけ)
※あなたが投票した候補者を公認している政党名をお答えください。推薦・支持だけの政党は含みません。

1. 自由民主党	36.91	7. 社会民主党	0.81
2. 公明党	4.51	8. れいわ新選組	3.07
3. 立憲民主党	16.43	9. その他の政党【 】	2.71
4. 国民民主党	4.69	10. 無所属	5.32
5. 日本共産党	4.87	11. 政党名は覚えていない	6.86
6. 日本維新の会	10.83	12. 記入していない	2.98

その他の政党自由記述
「NHKから国民を守る会」(24人)、「安楽死を考える会」(2人)、「幸福実現党」(3人)、その他(1人)

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問4 比例代表選挙で、あなたが、投票した政党名をお知らせください。また、個人名で投票した場合でも、その個人が属する政党名をお知らせください。(ひとつだけ)

1. 自由民主党	32.58	7. 社会民主党	1.53
2. 公明党	6.59	8. れいわ新選組	6.86
3. 立憲民主党	16.16	9. その他の政党【 】	3.79
4. 国民民主党	3.97	10. 無所属	1.08
5. 日本共産党	5.05	11. 政党名は覚えていない	4.87
6. 日本維新の会	14.44	12. 記入していない	3.07

※その他の政党のカッコ内は、事後問3(9)で記入した政党を表示。

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問5 政党や候補者に投票するときに、あなたは何を判断の基準にしましたか。もっとも当てはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)

1. 候補者の人柄やイメージ	9.12
2. 政党のイメージ	15.88
3. 争点に関する候補者の主張	11.28
4. 争点に関する政党の主張	19.31
5. 国全体の経済状況	8.57
6. 自分自身の生活や暮らし向き	14.44
7. 所属する企業や団体、組合の推薦	3.34
8. 周りの人の意見や評価	3.52
9. 運動員からの働きかけ	1.9
10. その他	2.53
11. 参考にしたものはない	10.11

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問6 今回の参議院議員の選挙区選挙・比例代表選挙のうち、あなたが投票した候補者・政党を決めたのはいつ頃ですか。あてはまるものをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	5月以前	6月 7月3日 (選挙公示日の前)	7月4日 7月13日 (選挙公示日)	7月14日 7月20日 (投票日の前日)	7月14日 (投票日1週間前)	7月21日 (投票日の当日)
1. 選挙区選挙の候補者の選択時期	13.18	8.12	20.31	35.83	22.56	
2. 比例代表選挙の候補者・政党の選択時期	15.88	8.57	17.78	36.28	21.48	

問7 政治に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	そう思う いえば	どちらかと いえない	どちらとも いえない	そう思わない いえば	どちらかと 思わない	そう 思わない
1. 選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらい投票してもしなくてもどちらでもかまわない	8.63	17.76	24.35	21.55	27.70		
2. 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	24.53	29.01	27.58	12.11	6.77		
3. 私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える	9.07	13.79	36.21	21.74	19.19		
4. 政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある	18.51	36.65	24.10	13.79	6.96		
5. 国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	38.63	33.60	21.80	4.29	1.68		
6. 今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない	37.89	32.11	23.11	5.16	1.74		

問8 政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	そう 思わない
1. 政治に関心がある	13.98	27.33	29.25	17.39	12.05
2. 現在の国内政治に満足している	1.93	9.57	28.45	29.57	30.50
3. 現在の生活に満足している	3.60	20.25	28.32	26.02	21.80
4. いまの景気は良い	1.18	8.88	25.59	33.79	30.56
5. いまの日本は、努力すれば報われる社会である	3.85	15.28	29.69	30.37	20.81
6. いまの日本には、格差が広がっている	40.68	37.52	16.83	3.79	1.18
7. いまの年金制度は維持できない	46.65	29.94	16.77	4.78	1.86
8. 安倍政権を信頼している	5.47	16.40	31.24	19.07	27.83
9. 安倍内閣を支持している	8.01	17.64	30.43	16.09	27.83
10. 与党には政権担当能力がある	9.94	23.23	40.68	14.91	11.24
11. 野党には政権担当能力がある	2.55	6.34	38.32	24.66	28.14
12. いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている	1.61	6.77	28.82	33.79	29.01

問9 あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)

	支持 している	やや支持 している	どちらでもな い	あまり 支持していない	支持 していない	政党名を知 らない
1. 自由民主党	10.68	20.68	31.93	9.44	26.34	0.93
2. 公明党	1.86	5.90	32.17	15.65	43.11	1.30
3. 立憲民主党	4.78	13.29	31.93	13.79	32.17	4.04
4. 国民民主党	1.18	6.89	34.60	18.20	35.16	3.98
5. 日本共産党	2.17	6.96	29.75	15.16	44.41	1.55
6. 日本維新の会	4.60	19.94	36.02	13.66	24.10	1.68
7. 社会民主党	1.12	5.03	32.67	15.84	42.17	3.17
8. 希望の党	0.75	2.36	27.76	17.14	37.83	14.16
9. 沖縄社会大衆党	0.75	1.80	19.01	8.57	20.81	49.07
10. れいわ新選組	2.98	6.46	22.48	12.98	31.80	23.29

<問9で、いずれかの政党に対して「支持している」または「やや支持している」の人> (n=1,025)

問10 あなたが支持している政党のうち、もっとも支持する政党をお知らせください。(ひとつだけ)

1. 自由民主党	41.66	6. 日本維新の会	18.05
2. 公明党	4.98	7. 社会民主党	1.46
3. 立憲民主党	16.2	8. 希望の党	1.17
4. 国民民主党	3.9	9. 沖縄社会大衆党	0.39
5. 日本共産党	4.68	10. れいわ新選組	7.51

問11 消費税の増税・原発稼働・憲法改正について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思いますか。それぞれ、積極的な立場に近ければ6、消極的な立場に近ければ0、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

[A] 自由民主党は、どこに位置していると思いますか。

	積極的		中立的				消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0		
(1) 消費税の10%への増税	56.02	14.29	7.70	8.14	1.37	1.24	2.73	8.51	
(2) 原発稼働	33.23	16.77	16.27	16.09	2.48	1.24	2.42	11.49	
(3) 憲法への自衛隊の明記	46.65	14.04	11.30	11.37	1.99	0.99	1.55	12.11	

[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思いますか。

	積極的		中立的				消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0		
(1) 消費税の10%への増税	3.54	3.79	8.57	22.67	13.98	8.26	18.70	20.50	
(2) 原発稼働	1.93	2.86	6.27	22.92	15.84	8.57	19.94	21.68	
(3) 憲法への自衛隊の明記	1.99	2.55	4.78	20.56	14.29	9.63	23.11	23.11	

問12 普天間基地の移転について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思いますか。それぞれ、辺野古地区への移転推進の立場に近ければ6、辺野古地区への移転反対の立場に近ければ0、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

	辺野古地区への移転推進			中立的		辺野古地区への移転反対		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
[A] 自由民主党は、どこに位置していると思いますか。	52.98	9.88	9.13	9.07	1.74	0.43	0.99	15.78
[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思いますか。	1.74	2.98	6.40	21.55	11.06	7.27	22.98	26.02

問13 ここにあげるのは、今回の参議院選挙（7月21日投票）に際して各政党が掲げていた公約・マニフェストです。どの政党のものかご存知ですか。ご存知の場合、その政党名をお答え下さい。

(1) 公約・マニフェストA：

「暮らしからはじまる経済成長へ」「個人の可能性が芽吹く社会へ」「原発ゼロを実現し新エネ・環境立国へ」「透明性の高い『まっとうな政治』へ」「平和を守る現実的な外交へ」

1. 自由民主党	2. 公明党	3. 立憲民主党	4. 国民民主党	5. 日本共産党	6. 日本維新の会	7. その他	8. わからない

(2) 公約・マニフェストB：

「増税の前に身を切る改革」「次の時代を創る成長戦略」「次の時代を創る教育無償化」「未来への希望の再構築」「震災復興を忘れない」「日本の未来を創る憲法改正」「新たな日本の形を作る統治機構改革」「国民の生命と安全を守るための外交と効果的な安全保障」

1. 自由民主党	2. 公明党	3. 立憲民主党	4. 国民民主党	5. 日本共産党	6. 日本維新の会	7. その他	8. わからない

(3) 公約・マニフェストC：

「力強い外交・防衛で、国益を守る」「強い経済で所得をふやす」「誰もが安心、活躍できる人生100年社会をつくる」「最先端をいく元気な地方をつくる」「災害から命・暮らしを守る」「憲法改正を目指す」

1. 自由民主党	2. 公明党	3. 立憲民主党	4. 国民民主党	5. 日本共産党	6. 日本維新の会	7. その他	8. わからない

問14 ここにあげる人物が、どのような政府の役職についているかご存知ですか。ご存知の場合、その職名をお知らせください。

	長官 内閣 官房	財務 大臣	副 総 理・ 大臣	外務 大臣	長 衆 議 院 議	長 参 議 院 議	大 統 領 ア メ リ カ	大 統 領 フ ラ ン ス	統 領 ロ シ ア 大	総 長 国 連 事 務	い わ か ら な
(1) 河野太郎	1.61	1.18	64.53	2.42	0.62	0.06	0.00	0.12	0.31	29.13	
(2) ウラジーミル・プーチン	0.75	0.25	0.31	0.12	0.56	0.62	1.49	89.32	0.19	6.40	

※(1)外務大臣、(2)ロシア大統領

問15 今年6月28日・29日に、日本国内で各国首脳が参加し開かれた国際会議の名前は？

(1) G 2	(2) G 7	(3) G 8	(4) G 2 0	(5) G 2 5	(6) わからない
0.19	7.52	1.61	85.09	0.31	5.28

問16 ロシアと日本の平和条約交渉に関連して、北方領土の4島に属する島の名前は？

(1) 沖ノ鳥島	(2) 尖閣諸島	(3) 竹島	(4) 樺太	(5) 色丹島	(6) わからない
2.11	8.57	4.16	10.75	64.78	9.63

問17 今年6月に金融庁の審議会がまとめた報告書で、年金だけでは退職後30年間で不足するとされた金額は？

(1)1200万円	(2)1500万円	(3)1800万円	(4)2000万円	(5)2500万円	(6)わからない
0.68	0.43	0.62	87.08	1.43	9.75

問18 憲法改正の議論の対象となっており、日本国が戦力を保持しないことを定めている憲法の条文は？

(1) 第9条	(2) 第12条	(3) 第13条	(4) 第29条	(5) 第96条	(6) わからない
81.74	0.87	0.87	1.55	0.43	14.53

問19 衆参両院のそれぞれで、憲法改正の発議に必要な本会議の議席数は？

(1)4分の1以上	(2)3分の1以上	(3)2分の1以上	(4)3分の2以上	(5)5分の4以上	(6)わからない
1.74	6.65	5.59	64.72	0.25	21.06

問20 あなたは今回の参議院選挙(7月21日投票)で、以下の争点のうち、どれを**重視しましたか**。あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)

1. 景気	34.22	9. 北朝鮮拉致	4.22
2. 雇用	17.83	10. 北方領土・対ロシア交渉	3.48
3. 消費税引き上げ	34.47	11. 新たな日米貿易協定	2.80
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	16.15	12. 外交政策全般	11.37
5. 年金	39.44	13. 陸上イージスの配備	3.04
6. 財政再建	16.40	14. 日韓関係	8.20
7. 憲法改正	21.12	15. 原子力発電所の稼働	11.86
8. 沖縄基地	4.72	16. 震災復興	7.20
	34.22	17. あてはまるものはない	23.29

<問20で、1~16のいずれかに回答があった人> (n=1,235)

問21 あなたが今回の参議院選挙(7月21日投票)で、**もっとも重視した**争点をお知らせください。(ひとつだけ)

1. 景気	18.46	9. 北朝鮮拉致	0.49
2. 雇用	5.02	10. 北方領土・対ロシア交渉	0.24
3. 消費税引き上げ	19.35	11. 新たな日米貿易協定	0.24
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	7.85	12. 外交政策全般	4.78
5. 年金	18.87	13. 陸上イージスの配備	0.24
6. 財政再建	6.48	14. 日韓関係	2.35
7. 憲法改正	10.53	15. 原子力発電所の稼働	3.48
8. 沖縄基地	0.89	16. 震災復興	0.73

問22 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日～7月20日)、以下の争点に関する情報を見たり聞いたりしましたか。それぞれお答えください。また、見たり聞いたりしたことのある争点について、どこで接したのかお答えください。(いくつでも)

	見たり聞いたりした						見たり聞いたりしていない	n
	テレビ	新聞	インターネット・ニュースアプリ(Yahoo!ニュースなど)	SNS	選挙に関連した家族・友人との会話	その他の情報源		
1. 景気対策	57.27	21.74	18.14	5.40	3.42	2.17	29.01	1,610
2. 年金改革	64.78	23.11	20.31	6.65	4.53	2.67	22.17	1,610
3. 憲法改正	60.50	21.30	16.83	5.71	3.85	2.86	27.02	1,610
4. 外交政策	55.65	20.56	18.70	5.96	2.73	2.30	31.93	1,610
5. 最重要争点	67.35	22.39	25.30	10.09	6.67	5.81	14.02	585

※問21で1、5、7、12以外の場合
 <最重要争点>

	見たり聞いたりした							見たり聞いたりしていない	n
	テレビ	新聞	インターネット・ニュースアプリ	SNS	選挙に関連した家族・友人との会話	その他の情報源			
1. 景気	65.79	31.58	27.19	7.46	6.58	2.63	15.79	228	
2. 雇用	53.23	17.74	24.19	9.68	6.45	8.06	25.81	62	
3. 消費税引き上げ	71.97	20.08	22.18	9.62	5.86	3.77	11.72	239	
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	73.20	17.53	25.77	12.37	9.28	7.22	13.40	97	
5. 年金	79.40	27.90	19.31	5.15	3.43	1.72	8.58	233	
6. 財政再建	73.75	33.75	26.25	7.50	3.75	5.00	15.00	80	
7. 憲法改正	79.23	35.38	28.46	6.92	10.00	5.38	7.69	130	
8. 沖縄基地	45.45	18.18	27.27	36.36	18.18	0.00	18.18	11	
9. 北朝鮮拉致	33.33	33.33	33.33	33.33	16.67	0.00	0.00	6	
10. 北方領土・対ロシア交渉	66.67	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	3	
11. 新たな日米貿易協定	66.67	0.00	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	3	
12. 外交政策全般	74.58	38.98	38.98	11.86	5.08	1.69	11.86	59	
13. 陸上イージスの配備	66.67	0.00	0.00	33.33	33.33	0.00	0.00	3	
14. 日韓関係	65.52	31.03	58.62	6.90	13.79	17.24	3.45	29	
15. 原子力発電所の稼働	48.84	25.58	25.58	4.65	2.33	9.30	18.60	43	
16. 震災復興	66.67	33.33	0.00	11.11	0.00	0.00	11.11	9	

問23 あなたは下記の争点について、安倍政権の取り組みをどの程度評価していますか。それぞれお答えください。

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気対策	3.04	19.13	29.38	21.43	19.50	7.52	1,610
2. 年金改革	1.37	7.58	26.27	27.52	30.12	7.14	1,610
3. 憲法改正	4.84	13.11	32.48	16.83	23.98	8.76	1,610
4. 外交政策	8.76	25.96	28.51	15.84	12.73	8.20	1,610
5. 最重視争点	5.98	17.95	19.32	16.75	36.92	3.08	585

<最重視争点>

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気	7.02	25.44	22.22	17.11	15.79	1.75	228
2. 雇用	1.61	12.90	32.89	14.52	45.16	3.23	62
3. 消費税引き上げ	2.93	7.95	22.58	18.41	53.97	2.51	239
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	14.43	34.02	14.23	9.28	7.22	9.28	97
5. 年金	0.86	5.58	25.77	31.76	35.62	2.15	233
6. 財政再建	2.50	25.00	24.03	26.25	21.25	1.25	80
7. 憲法改正	18.46	10.77	23.75	8.46	46.92	1.54	130
8. 沖縄基地	0.00	0.00	13.85	27.27	18.18	0.00	11
9. 北朝鮮拉致	0.00	50.00	54.55	16.67	0.00	0.00	6
10. 北方領土・対ロシア交渉	0.00	66.67	33.33	0.00	0.00	0.00	3
11. 新たな日米貿易協定	0.00	33.33	33.33	0.00	0.00	0.00	3
12. 外交政策全般	30.51	54.24	66.67	3.39	3.39	0.00	59
13. 陸上イージスの配備	0.00	66.67	8.47	33.33	0.00	0.00	3
14. 日韓関係	37.93	0.00	6.90	6.90	10.34	0.00	29
15. 原子力発電所の稼働	0.00	37.93	13.95	16.28	60.47	0.00	43
16. 震災復興	0.00	9.30	22.22	11.11	44.44	0.00	9

問24 あなたは下記のことがらについてどのようにお考えですか。もっともあてはまるものをお答えください。(それぞれひとつだけ)

	賛成	やや 賛成	どちらでも ない	やや 反対	反対
1. 消費税引き上げ	6.96	16.02	24.84	21.49	30.68
2. 教育の無償化	28.51	28.88	27.02	9.94	5.65
3. 年金支給年齢の引き上げ	4.84	12.92	37.58	22.36	22.30
4. 子育て支援策の拡充	30.87	34.04	27.20	4.53	3.35
5. 社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	29.07	37.58	25.16	6.09	2.11
6. 外国との経済連携協定の締結	10.50	32.67	49.01	5.03	2.80
7. 外国人労働者の受け入れ	9.01	25.96	35.09	18.26	11.68
8. 原子力発電所の稼働	9.07	17.70	35.59	15.78	21.86
9. 憲法を変えること	13.48	18.51	36.40	14.22	17.39
10. 普天間基地の辺野古地区への移転	11.30	10.50	53.23	12.48	12.48

問25 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日～7月20日)、以下のメディアで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。(それぞれひとつだけ)

	1 ほぼ毎日	2 週に数回	3 回数 選挙運動 期間中に	4 1回 選挙運動 期間中に	5 見 いた なく
1. テレビ	31.86	25.59	17.52	5.22	19.81
2. 新聞	19.57	11.61	10.56	5.40	52.86
3. 政党・候補者のポスター・パンフレット	10.06	15.71	26.96	11.49	35.78
4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	4.84	14.04	20.68	8.45	51.99
5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	4.22	12.48	25.53	10.19	47.58
6. 政党・候補者のウェブサイト(ブログを含む)	1.86	4.47	8.01	5.03	80.62
7. 政党・候補者が投稿したSNS	2.67	4.41	7.08	3.79	82.05
8. 政党・候補者のメール・メールマガジン	1.12	2.67	4.04	2.55	89.63
9. 政党・候補者のネット広告	1.99	4.78	7.64	3.91	81.68
10. 政党・候補者のネット動画	1.86	3.98	6.71	4.04	83.42
11. 友人・知人が投稿したSNS	2.24	4.29	5.59	3.73	84.16
12. インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ(Yahoo!ニュースなど)	15.03	17.14	14.72	5.16	47.95
13. まとめサイト(NAVERまとめなど)	2.86	8.14	5.40	3.42	80.19
14. 選挙公報	1.37	5.34	12.36	19.01	61.93
15. 選挙に関連した家族との会話	2.67	7.95	19.50	13.85	56.02
16. 選挙に関連した友人との会話	0.99	4.66	9.32	8.45	76.58
17. 政党集会・市民集会	0.81	2.55	3.66	3.91	89.07
18. メディアを問わず世論調査	1.06	6.27	10.87	7.70	74.10
19. 選挙についての検索結果(Googleなどで)	1.86	5.84	10.93	7.45	73.91

<Nはそれぞれ問25で選挙運動期間中に1回以上接触した人>

問26 今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日～7月20日)、選挙に関してあなたが利用した情報源は、どの程度、役に立ちましたか。(それぞれひとつだけ)

	1 役に立 った	2 やや役 に立 った	3 あまり 役に 立た な かった	4 役に 立 た な かった	n
1. テレビ	16.34	49.50	25.33	8.83	1,291
2. 新聞	20.29	51.78	22.66	5.27	759
3. 政党・候補者のポスター・パンフレット	5.80	30.46	42.55	21.18	1,034
4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	5.43	28.98	43.21	22.38	773
5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	4.86	19.31	41.59	34.24	844
6. 政党・候補者のウェブサイト(ブログを含む)	20.19	39.42	27.56	12.82	312
7. 政党・候補者が投稿したSNS	19.72	38.75	29.41	12.11	289
8. 政党・候補者のメール、メールマガジン	14.97	28.74	40.72	15.57	167
9. 政党・候補者のネット広告	10.51	29.49	38.31	21.69	295
10. 政党・候補者のネット動画	17.98	38.20	30.71	13.11	267
11. 友人・知人が投稿したSNS	15.29	36.47	36.47	11.76	255
12. インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ(Yahoo!ニュースなど)	15.51	48.21	25.30	10.98	838
13. まとめサイト(NAVERまとめなど)	10.97	44.20	35.11	9.72	319
14. 選挙公報	14.36	43.23	31.16	11.26	613
15. 選挙に関連した家族との会話	12.43	46.61	29.52	11.44	708
16. 選挙に関連した友人との会話	12.20	44.03	33.42	10.34	377
17. 政党集会・市民集会	9.66	41.48	34.09	14.77	176
18. メディアを問わず世論調査	8.63	40.05	39.09	12.23	417
19. 選挙についての検索結果(Googleなどで)	17.62	48.33	25.71	8.33	420

<Nはそれぞれ問 25 で選挙運動期間中に 1 回以上接触した人>

問27 今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、選挙に関してあなたが利用した情報源は、どの程度、信頼できましたか。（それぞれひとつだけ）

	1 た 信 頼 で き	2 で や や 信 頼 で き た	3 か 頼 で き な か つ た	4 あ ま り 信 頼 で き な か つ た	n
1. テレビ	13.01	54.38	25.41	7.20	1,291
2. 新聞	18.71	57.18	19.37	4.74	759
3. 政党・候補者のポスター・パンフレット	6.29	35.88	41.88	15.96	1,034
4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	7.12	34.93	44.11	13.84	773
5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	5.81	25.83	47.87	20.50	844
6. 政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む）	15.38	41.35	33.97	9.29	312
7. 政党・候補者が投稿した SNS	14.19	43.60	30.45	11.76	289
8. 政党・候補者のメール、メールマガジン	8.98	40.72	38.32	11.98	167
9. 政党・候補者のネット広告	8.81	34.24	43.05	13.90	295
10. 政党・候補者のネット動画	12.73	44.19	31.09	11.99	267
11. 友人・知人が投稿した SNS	14.12	44.71	31.76	9.41	255
12. インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）	10.26	55.85	28.52	5.37	838
13. まとめサイト（NAVER まとめなど）	10.34	45.77	34.48	9.40	319
14. 選挙公報	13.38	52.37	26.43	7.83	613
15. 選挙に関連した家族との会話	15.40	57.49	22.46	4.66	708
16. 選挙に関連した友人との会話	11.41	52.79	29.44	6.37	377
17. 政党集会・市民集会	13.07	45.45	28.98	12.50	176
18. メディアを問わず世論調査	6.95	49.40	37.17	6.47	417
19. 選挙についての検索結果（Googleなどで）	14.52	52.14	29.29	4.05	420

問28 あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**信頼**できますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。（それぞれひとつだけ）

	非常に 信頼できる	ある程度 信頼できる	どちらとも いえない	あまり 信頼できない	まったく 信頼できない
1. テレビ	4.60	45.53	30.06	12.24	7.58
2. 新聞	5.78	45.78	31.86	9.57	7.02
3. インターネットのニュースサイト・ ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）	3.73	31.43	44.16	15.47	5.22
4. SNS上の情報	2.11	11.80	43.17	29.01	13.91

<Nは問 25 (1) で選挙運動期間中に 1 回以上接触した人> (n=1,291)

問29 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、以下のテレビで**選挙に関する情報**を何回くらい見たり聞いたりしましたか。（それぞれひとつだけ）

	1 ほ ぼ 毎 日	2 週 に 数 回	3 数 回 選 挙 中 に 動 期 間 中 に 動	4 1 回 選 挙 中 に 動 期 間 中 に 動	5 い 見 ま て つ た な く 見 た な く
1. NHK の朝のニュース（10時台まで）	11.85	12.78	11.54	4.65	59.18
2. NHK の昼のニュース（11時から15時台まで）	4.18	10.22	9.53	5.58	70.49
3. NHK の夕方のニュース（16時から18時台まで）	5.58	12.32	11.70	6.35	64.06
4. NHK の夜のニュース（19時以降）	10.61	16.19	13.94	7.28	51.98
5. 民放の朝のニュース（10時台まで）	20.06	22.00	12.55	7.05	38.34
6. 民放の昼のニュース（11時から15時台まで）	8.29	14.25	13.71	5.58	58.17
7. 民放の夕方のニュース（16時から18時台まで）	12.94	19.21	15.88	6.58	45.39
8. 民放の夜のニュース（19時以降）	13.79	22.31	19.05	7.75	37.10

<Nは問 25 (2) で選挙運動期間中に1回以上接触した人> (n=759)

問30 あなたが、ふだん読んでいる新聞(紙媒体)について、以下から当てはまるものを教えてください。(いくつでも)
※インターネットのニュースサイト・ニュースアプリは除きます。

1. 読売新聞	25.82	7. 北海道新聞	5.53
2. 朝日新聞	20.95	8. 西日本新聞	2.37
3. 毎日新聞	6.46	9. 中国新聞	3.69
4. 日本経済新聞	14.36	10. 神戸新聞	1.58
5. 中日新聞	9.22	11. 東京新聞	1.98
6. 産経新聞	3.95	12. その他の新聞【 】	20.82
その他：地方紙(126人)、スポーツ紙(7人)、その他(11人)、なし(14人)			

問31 あなたはふだん、新聞を1日に平均、何分くらい読んでいますか。以下の新聞について、それぞれお答えください。

	1日あたり読んでいる時間	標準偏差	n
1. 読売新聞	約 21.73 分	17.78	195
2. 朝日新聞	約 21.72 分	16.73	159
3. 毎日新聞	約 19.73 分	22.58	49
4. 日本経済新聞	約 23.05 分	18.23	107
5. 中日新聞	約 17.01 分	12.18	70
6. 産経新聞	約 21.63 分	14.37	30
7. 北海道新聞	約 21.02 分	20.00	42
8. 西日本新聞	約 16.28 分	8.29	18
9. 神戸新聞	約 21.07 分	16.58	28
10. 中国新聞	約 13.33 分	13.54	12
11. 東京新聞	約 17.33 分	12.52	15
12. その他の新聞	約 15.20 分	13.17	158

問32 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)、以下のSNSで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。(それぞれひとつだけ)
※アカウントの有無は問いません。

	1 ほ ぼ 毎 日	2 週 に 数 回	3 選 挙 運 動 期 間 中 に 数 回	4 選 挙 運 動 期 間 中 に 1 回	5 見 て い な く ま っ た く
1. LINE(ライン) ※LINEニュースを除く	9.32	6.46	4.16	3.48	76.58
2. Facebook(フェイスブック)	3.29	3.79	3.54	2.73	86.65
3. Twitter(ツイッター)	7.08	5.96	7.08	3.42	76.46
4. Instagram(インスタグラム)	3.79	3.60	2.67	2.30	87.64
5. YouTube(ユーチューブ)	6.89	6.71	5.65	4.16	76.58
6. ニコニコ動画	1.37	2.48	1.86	1.80	92.48

<Nは問 25 (12) で選挙期間中に1回以上接触した人> (n=838)

問33 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)、以下のポータルサイト・ニュースサイト・アプリで**選挙に関する情報**を何回くらい見たり聞いたりしましたか。(それぞれひとつだけ)

※同じメディアでポータル・ニュースサイトとアプリの両方がある場合、どちらからの接触でも構いません。

※有料・無料は不問です。また、アカウント有無も不問です。

※他のウェブサイトやアプリ上ではなく、直接そのウェブサイトやアプリに接触した回数を教えてください。

	1 ほぼ 毎日	2 週に 数回	3 数回 選挙 期間 中に	4 1回 選挙 期間 中に	5 見 て い な く ま っ た く
1. Yahoo!ニュース (ヤフーニュース)	29.24	21.12	22.32	7.28	20.05
2. LINE NEWS (ラインニュース)	10.02	12.17	12.89	6.21	58.71
3. SmartNews (スマートニュース)	7.52	10.14	7.04	5.01	70.29
4. Gunosy (グノシー)	3.58	6.09	4.42	4.06	81.86
5. Google ニュース (グーグルニュース)	6.44	11.69	9.67	7.76	64.44
6. msn ニュース (エムエスエヌニュース)・Microsoft ニュース (マイクロソフトニュース)	2.98	5.73	5.49	2.98	82.82
7. NewsPicks (ニューズピックス)	0.95	3.22	4.89	2.98	87.95
8. 朝日新聞デジタル	1.79	4.89	7.16	4.30	81.86
9. 日経電子版	4.06	5.61	6.21	4.77	79.36
10. 読売新聞オンライン	2.15	4.42	6.32	3.46	83.65
11. 毎日新聞ニュース	1.91	4.65	5.61	3.22	84.61
12. 産経ニュース	2.15	3.94	7.28	3.82	82.82

<ウェブサイトのNは問 25(6)、ソーシャルメディアのNは問 25(7)で、それぞれ選挙期間中に1回以上接触した人>

問34 あなたは、今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)に、政党のウェブサイト(ブログを含む)、SNSを見たことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)

	政党のウェブサイト (ブログを含む)	政党が投稿した SNS
n	312	289
1. 自由民主党	34.29	30.10
2. 公明党	10.58	9.69
3. 立憲民主党	23.72	17.65
4. 国民民主党	12.18	11.07
5. 日本共産党	10.26	8.65
6. 日本維新の会	17.63	12.46
7. 社会民主党	3.85	3.11
8. れいわ新選組	10.58	14.19
9. その他の政党	2.24	1.38
10. この中で見たものはない	40.38	41.52

<Nは問 25(6) (ウェブサイト)、または問 25(7) (SNS) で選挙期間中に1回以上接触した人> (n=384)

問35 あなたは、今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)に、候補者のウェブサイト、または SNS を見ましたか。あてはまるものを選択してください。(ひとつだけ)

よく見た	たまに見た	ほとんど見なかった	まったく見なかった
10.68	33.85	28.13	27.34

問36 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、選挙に関連して、SNS上で以下の話題を見たことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）
※ニュースサイトや他の投稿へのリンクを含みます。

1. 政党に関する話題	43.17
2. 党首に関する話題	12.73
3. 候補者に関する話題	24.84
4. 争点に関する話題	20.50
5. 街頭演説や演説会に関する話題	11.18
6. その他の選挙に関する話題	20.87

<Nは問25(6)～(13)、(19)のいずれかに選挙期間中に1回以上接触した人> (n=618)

問37 あなたは今回の衆議院選挙期間中、政党や候補者について、インターネット上でフェイクニュースを見たことがありますか？（フェイクニュースとは、明らかに虚偽やデマと思われる情報のことを指します。マスメディア等で報道されてから知ったものは除きます）。（ひとつだけ）また、(1)と答えた人は、見た具体的なフェイクニュースの内容を教えてください。

1. 見た	2.32	※見た人の具体的なフェイクニュースの内容は割愛
2. 見ていない	68.25	
3. わからない	29.44	

以上

東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究
調査研究編 No.36

発行日 令和2年3月31日

編集・発行 東京大学大学院情報学環

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

製作 株式会社創志企画